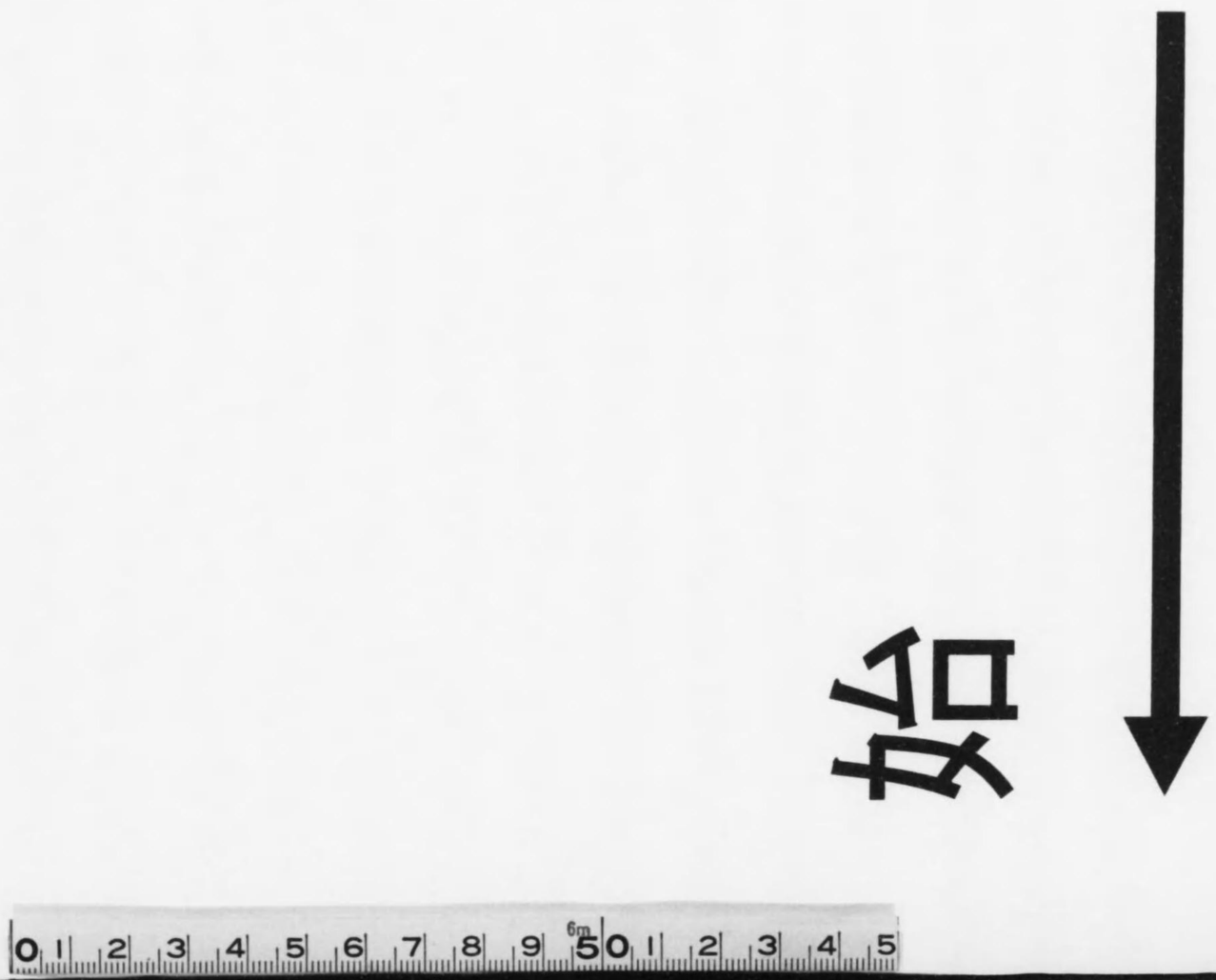


R180. 3-067ウ
1200500766311

サイキ5-14
貴重
永久保存

省務内
10.10.12
(版出通番)

威以香水於如來前
而作是言我今以此竹
園奉上如來及比丘
僧作願衰隨為我納
受作此言已即便捨
水余時世尊哀愍受
之說偈呪願
為人兼布施　斷除悭貪
者人能忍辱　永離於瞋恚
若人修道善　則遠惡趣法
能具此行　速到無為城

若有貧窮　无財可布施
見他脩施時　而生隨喜心
隨喜之福報　與施等无異
余時婆羅門大長者及
餘人民見王奉施如
來僧伽藍皆悉踊躍
生隨喜心余時頻沙
婆羅王施僧伽藍已
心大歡喜頭面礼足

サイ5-14

佛書解説大辭典

大東出版社藏版

事和
198

本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論一文の小册子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に內容解說を施し、且つその所在を明示したものである。

一、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。卽ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮內省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗敎典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より僞經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採錄した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。卽ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其內容解說にあたつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解說をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解說するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類卽ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出來る丈內容そのものについて詳細な

る解説を施した。

一、本書の内容解説の形體はその要點を次の十項目とした。即ち、❶題名、書名、異名略名異名併記。❷卷數。❸存、缺。❹著者又は譯者、生存年代を併記。❺著作年代又は譯出年代。❻内容解説。❼末書(注釋書參考書)。❽寫刊の年月。❾現所藏者、圖書館書庫名。❿發行所名。の十項目である。この十項中前記第一、二類は❽❾❿を省略し、第三類は特に❾の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は❿の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は❼の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解説が❻に於いて執筆され、且つその解説に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解説に於ける十項目の内容について一定の方針を示せば左の通りである。

❶、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本音、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本音の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符(—)を附し、全體としては音便慣讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引(昭和五年刊)に從つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異る點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウキード氏の式に從つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄(大谷大學圖書館昭和六年刊)により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄(赤沼目錄—昭和四年刊)に從ふことにした。

❷、卷數は其典籍の卷數を記したが、丁卷の不同なる場合あるものは一々これを附記した。

❸、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收卷數、全書類は其所載卷號を記した。而して各種藏經及び目錄には左の如く略符號を使用した。茲に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卍——卍字藏經。卍續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。M.——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄(法經等撰)。仁壽錄——衆經目錄(彥悰撰)。靜泰錄——衆經目錄(靜泰撰)。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋敎錄。貞元錄——貞元新定釋敎目錄。佛全——大日本佛敎全書。眞全——眞宗全書。眞大——眞宗大系。日藏——日本大藏經。

❹、著者又は譯者は其人の生存年代を出來る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を渉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に讓るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西曆を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中—線を用ひ「年代—年代」なるは生死年を、「年代—」は生年、「—年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「—年代—」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「?」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸說あるものは其中の一を採用若しくは一說として別出したものがある。

❺、著作年代は著作者しくは譯出の年號を記入した。

❻、内容解説は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典飜譯に關する歷史的說明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

た題名の箇所に於て說明した。例へばクの部「倶舍論」ではその題下に具名「阿毗達磨倶舍論」と記し、詳細なる解說はアの部「阿毗達磨倶舍論」に於てなしたるが如し。

❼、注釋書參考書は典據を出來る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に從つて列擧した。

❽、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

❾、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の兩號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都（東寺）專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮內省圖書寮。寶藏院——高野山寶藏院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下の數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者（書庫）、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

解說の部（拾壹卷）完成に際して

佛書解說大辭典は稿を起す正に十有八年。昭和五年末編輯事務を開始し、昭和七年十二月第壹卷刊行と共に之を公告して豫約會員募集をなし、爾來三ケ年、遂に解說の部拾壹卷を完了し、次卷、第拾貳卷「佛敎經典總論」を以てその完結を見る事となつた。

その間全國圖書館を始め公私一般書庫等より蒐集せる書目論目は實に夥しき數に達し、其を整理して採錄せる書論目八萬餘、總頁數五千に及び、之に對し執筆講師貳百拾名、編輯關係者貳拾餘名、此の大業成就のために終始奉仕的努力を寄せられ、一方經營上幾度か危機に直面しつゝも遂に此の完成を見るに至つた。

今、解說の部成るに當り、此の業績を見、往時を追想し、感慨轉た禁じ得ざるものあり。然も斯樣に規模に於て、體系に於て他にその類を見ざる大辭典の完成を見たる、實に執筆諸家並に編纂關係諸氏の賚であり、又此の業を翼賛せられし會員諸彦の支援の然らしむる所と感謝の念に堪えざる次第である。

尙當初「歐文佛敎文獻目錄 花山信勝學士編」を以て第拾壹卷に當つる豫定の所、同目錄內容は豫想外に尨大なるものとなり、加ふるに解說の部が一卷增册の餘儀なきに至り、更にその目錄刊行に對し、啓明會より補助ありて著者別、內容別の上下兩册に刊行計劃を改め、一應本辭典と引き離して別に刊行するに至つた事については、江湖の諒恕を切に御願ひしたい。

終りに臨み左に解說執筆諸家並編纂關係者の芳名を錄して感謝の辭に代ふる事とする。

昭和十年十月

編纂者　小野玄妙

刊行者　岩野眞雄

佛書解說大辭典解說執筆者並編輯者（五十音順）

大正大學教授　阿川貫徒
大谷大學教授　赤沼智善
穴山孝道
高野山大學教授　天野觀明
世田ケ谷中學校長　安藤文英
井川定慶
生桑完明
文學士　伊藤眞徹　伊藤高順
佛教專門學校教授　飯田順雄
文學士　石井亮薫
西山專門學校教授　石黑觀道
文學士　石塚建雄
佛教專門學校教授　石橋誠道
大谷大學教授　泉芳璟
佛教專門學校教授　稲垣眞我
大谷大學教授　稲津紀三
前大谷大學講師　稲葉圓成
大谷大學教授　稲葉秀賢
前大谷大學々長　稲津昌丸
立正大學教授　稲葉文海
大正大學教授　今岡達雄
日本大學教授　今津洪嶽
大正大學教授　岩崎敲玄

天台宗眞盛寺住職　岩田敎圓
東京帝國大學教授　文學博士　宇井伯壽
前大谷大學教授　上杉慧岳
前大谷大學々長　上杉文秀
高野山大學教授　上田天瑞
大谷大學教授　上村幸次
立正大學教授　馬田行啓
前龍谷大學教授　梅原眞隆
京城佛教專門學校教授　江田俊雄
佛教專門學校教授　惠谷隆戒
駒澤大學教授　衛藤卽應
文學士　遠藤二平
前京都專門學校教授　小田慈舟
文學士　荻生隆三
文學士　大石秀典
前大谷大學教授　大河了悟
駒澤大學教授　大久保堅璃
大谷大學教授　大久保道舟
大谷大學教授　大島泰信
大谷大學教授　大須賀秀道
大谷大學教授　大頭法道
大正大學教授　大野實性
顯眞學苑東京主任　大原性實
大森眞應
高野山大學圖書館司書　大山公淳

法政大學教授　太田悌藏
東方文化研究所研究員文學士　太田慧日
前立正大學教授　岡敎邃
文學士　岡崎正謙
前駒澤大學教授　岡田宜法
大正大學教授　岡田契昌
大谷大學教授　可西大秀
大正大學教授　加藤觀澄
大正大學々長　加藤精神
大谷大學教授　加藤智學
大谷大學教授　柏原祐義
智山專門學校教授　梶芳光運
高野山大學教授　金山穆韶
大正大學圖書館司書　鎌田良賢
文學士　秃諦住
大谷大學々長　河野法雲
大正大學教授　神林隆淨
文學士　紀氏隆眞
佛教專門學校教授　岸信宏
曹洞宗師家　岸澤惟安
唐招提寺管長　北川智海

大正大學教授　久保田量遠
大谷大學教授　日下無倫
龍谷大學教授　雲山龍珠
文學士　桑谷觀宇
佛教專門學校教授　小西存祐
世田ケ谷中學教諭　後藤大用
文學士　郷田惠俊
文學士　近藤祐眞
大正大學教授　近藤隆晃
京城帝國大學教授　佐藤泰舜
佛教專門學校教授　佐藤密雄
大正大學教授　佐藤良智
奈良興福寺　佐伯良謙
坂田光全
立正大學教授　坂本幸男
文學博士　境野黃洋
文學士　櫻井善晃
前大谷大學圖書館司書　櫻部文鏡
大正大學教授　清水谷恭順
文學士　自見直
大正大學教授　文學博士　椎尾辨匡
前東洋大學教授　潮留眞澄
大正大學教授　鹽入亮忠
龍谷大學教授　澁谷亮泰
大谷大學教授　杉紫朗
大谷大學教授　佳田智見
文學士　關哲雄
文學士　關口慈光
文學士　關根靜應

大正大學教授　田島德普
大正大學教授　田島隆純
佛教專門學校教授　田中順照
智山專門學校長　高井觀海
智山專門學校教授　高神覺昇
龍谷大學教授　高木俊一
文部省編纂官補　高倉永輝
大正大學教授　高瀨示嚴
前龍谷大學教授　高千穗徹乘
京都專門學校教授　高見寬應
高見寬恭
駒澤大學教授　立花俊道
文學士　橘純孝
龍谷大學教授　玉置紹晃
佛教專門學校教授　千葉良導
文學士　塚田弘導
佛教專門學校教授　塚本善隆
龍谷大學教授　月輪賢隆
大正大學教授　坪井德光
東北帝國大學助教授　寺沼要脩
時宗々學林學頭　寺崎修一
京都專門學校教授　土宜覺了
文學士　戸松憲千代
京都帝國大學圖書館司書　藤堂祐範
高野山大學教授　拇尾祥雲
東方文化研究所　文學博士　常盤大定
龍谷大學教授　禿氏祐祥

大正大學教授　富田敬純
大谷大學教授　名畑應順
內藤康道
大正大學教授　中里貞隆
東方文化研究所研究員文學士　中田源次郎
中谷在禪
東京帝國大學助教授文學博士　長井眞琴
文學士　成田昌信
大正大學教授　二宮守人
東洋大學教授　西義雄
大谷大學教授　西尾京雄
大谷大學教授　西本龍山
大谷大學教授　野上俊靜
京都帝國大學教授　文學博士　羽溪了諦
京都專門學校教授　長谷寶秀
醍醐傳法學院教授　服部如實
大正大學教授　碓本慈光
奈良藥師寺　橋本凝胤
前高野山大學教授　蓮澤成淳
龍谷大學々長　花田凌雲
文學士　花山信勝
東京帝國大學講師　花山行健
日本大學講師　英秀雲
前百萬遍知恩寺法主　林彦明
前大谷大學教授　林五邦
林眞彦
智山專門學校教授　林岱雲
林得成
駒澤大學教授　林屋友次郎

大正大學教授　原田靈道
文學士　坂東環城
九州帝國大學教授　干潟龍祥
文學士　平等通昭
文學士　平松大眞
文學士　不破幹雄
立正大學教授　布施浩岳
龍谷大學教授　深浦正文
前佛教專門學校々長　福島慈雄
前大正大學々長　福田堯頌
文學士　藤井草宣
大谷大學圖書館司書　藤島昌道
文學士　藤枝晃
東京帝國大學史料編纂官　藤田廣明
文學士　藤田海龍
東京帝國大學助教授　藤原猶雪
大正大學教授　藤本了泰
前大谷大學教授　舟橋水哉
駒澤大學教授　文學博士　逸見梅榮
龍谷大學教授　本田義英
大正大學教授　巽野正順
佛教專門學校教授　前田惠璃
大正大學教授　松田貫了
大谷大學教授　松原泰道
文學士　三好鹿雄
東本願寺宗史編纂所　水谷幸雄
駒澤大學教授　水野弘元
比叡山專修學院教授　道端良秀
東京帝國大學教授　宮本正尊
立正大學教授　望月歡厚
文學博士　望月信亨
大正大學教授　望月信亨
立正大學教授　守田龍僊
佛教專門學校教授　森本眞順
大正大學教授　文學博士　矢吹慶輝
大谷大學教授　安井廣度
眞宗專門學校教授　山上正尊
前駒澤大學教授　山上曹源
大谷大學教授　山口益
山田靈林
山邊習學
前大谷大學教授　山本快龍
智山專門學校教授　山邊仁
龍谷大學教授　湯次了榮
東方文化研究所研究員文學士　結城令聞
文學士　吉田龍英
文學士　和田徹城
文學士　谷掲謙
東洋大學教授　脇・渡邊海旭
前大正大學教授ドクトル・オブ・フイロソフイー　渡邊海旭
文學士　渡邊浩雄
文學士　渡邊最昌
文學士　渡邊俊英
駒澤大學教授　渡邊樣堆

編纂顧問

文學博士　高楠順次郎
ドクトル・オブ・フイロソフイー　渡邊海旭

編纂主任

文學博士　常盤大定
文學博士　境野黃洋
文學博士　椎尾辨匡
大正大學々長　加藤精神
文學博士　宇井伯壽

編輯者

文學士　赤尾光雄
文學士　大光明眞雄
文學士　栗本俊道
田邊道仁
文學士　武田香龍
文學士　塚田弘導
辻森要脩
文學士　成田昌信
文學士　花山行健
文學博士　逸見梅榮
文學士　不破幹雄
文學士　渡邊浩雄
文學士　渡邊俊英
文學士　吉水ちか子

刊行代表者

岩野眞雄

印刷　森島金治郎
製本　兩角倭

メ

馬有惡態經

❶(B) Ma-u-aku-tai-kyō. (支)Ma-yu-o-t'ai-ching. 馬有八態譬人經、馬有八態經、馬有八弊惡態經、馬有八弊經、八態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻馬有人態譬人經の下を見よ。

馬有三相經

❶(B) Ma-u-san-sō-kyō. (支) Ma-yu-tsan-t'ai-ching. (巴) Ma-ssan-ssa-ta-Tsan-t'ai. 義淨有三相經　❷一卷　❸存、大正二・五〇六 No. 1114、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元764思、明北657慶、清657慶、麗759若、天757思、指723若、法744若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻本經は一に書馬有三相經ともいひ、良馬に能走と、有力と、好色端正の三相あることに因んで、正法律に於ける善人にも、亦この三相あることを說いたものである。

本經は雜阿含卷三三の第二經の別譯であつて、別譯雜阿含卷八の第一五經と共に、巴利增支部三・九四—六經に該當し、いづれもその內容を同じうするものである。

❼(參考)　三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第二　(林五邦)

馬有八態經

❶(B) Ma-u-hat-tai-kyō. (支)Ma-yu-pa-t'ai-ching. 馬有八態譬人經、馬有八弊惡態經、八態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹失譯　❺(參考)　出三藏記第三、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四

馬有八態譬人經

❶(B) Ma-u-hat-tai-kyō. (支)Ma-yu-pa-t'ai-ching. 馬有八態譬人經、馬有八弊惡態經、八態經、馬有八弊惡態經、八態經、馬有惡態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻本經は又馬有八態經・馬有八弊惡態經ともいひ、馬に八種の惡態あることに因んで、人にも亦八惡態のあることを說いたものである。

本經は雜阿含卷三三の第七經、並に別譯雜阿含卷八の第一九經、巴利原文の增支部八・一三に該當するものであるが、本經の八惡態とするに反して、他の諸經はいづれも賢馬の八相とし、從つて、本經と全く反對の叙述をなすものである。

❼(參考)　三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第二　(林五邦)

馬有八態譬人經

❶(B) Ma-u-hat-tai-hi-nin-kyō. 現代意譯馬有八態譬人經　❷一卷　❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第六雜阿含經抄　❹高畠寬我譯

馬有八弊惡態經

❶(B) Ma-u-hai-chi-hei-aku-tai-kyō. (支) Ya-yu-pa-pi-o-t'ai-ching. ❷一卷　❸失譯　❹(參考)　出三藏記第三

馬有八弊惡態經

❶(B) Ma-u-hai-chi-hei-aku-tai-kyō. (支)Ma-yu-p'i-pi-o-t'ai-ching. 馬有八態譬人經、馬有八態經、八態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻馬有八態譬人經の下を見よ。

馬有八弊經

❶(B) Ma-u-hachi-hei-kyō. (支) Ma-yu-pa-pi-ching. 馬有八態經、馬有八態經、馬有八弊惡態經、馬有八弊惡態經、八態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻馬有八態譬人經の下を見よ。

馬有惡態經

❶(B) Ma-u-aku-tai-kyō. (支)Ma-yu-o-t'ai-ching. 馬有八態譬人經、馬有八弊惡態經、馬有八弊經、八態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻馬有人態譬人經の下を見よ。

馬有三相經

❶(B) Ma-u-san-sō-kyō. (支) Ma-yu-tsan-t'ai-ching. (巴) Ma-ssan-ssa-ta-Tsan-t'ai. 義淨有三相經　❷一卷　❸存、大正二・五〇六 No. 1114、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元764思、明北657慶、清657慶、麗759若、天757思、指723若、法744若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻馬有人態譬人經の下を見よ。

馬有八態譬人經

❶(B) Ma-u-hat-tai-hi-nin-kyō. (支)Ma-yu-pa-t'ai-ching. 馬有八態譬人經、馬有八弊惡態經、八態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻馬有八態經の下を見よ。

馬有八弊惡態經

❶(B) Ma-u-hai-chi-hei-aku-tai-kyō. (支)Ya-yu-pa-pi-o-t'ai-ching. ❷一卷　❸失譯　❹(參考)　出三藏記第三

馬有八弊經

❶(B) Ma-u-hachi-hei-kyō. (支) Ma-yu-pa-pi-ching. 馬有八態經、馬有八態經、馬有八弊惡態經、馬有八弊惡態經、八態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻馬有八態譬人經の下を見よ。

馬有八弊惡態經

❶(B) Ma-u-hachi-hei-aku-tai-kyō. (支)Ma-yu-pa-pi-o-t'ai-ching. 馬有八態譬人經、馬有八態經、馬有八弊惡態經、馬有八弊惡態經、八態經　❷一卷　❸存、大正二・五〇七 No. 1115、縮辰六、卍一四・三、北7538思、南7738思、元765思、明北6556慶、清656慶、麗759若、天758思、指724若、法745若、至985編、明南641養、No. 622　❹支曜譯　❺後漢中平二以後(A. D. 185—)　❻馬有八態譬人經の下を見よ。

馬王經

❶(B) Ma-ō-kyō. (支) Ma-wang-ching. ❷一卷　❸缺　❹失譯　❺六度集經第六卷の抄出。　❻(參考)　出三藏記第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一六、貞元錄第二六

馬陰藏經

❶(B) Ma-on-zō-kyō. (支)Ma-yin-tsang-ching. ❷一卷　❸僞疑經。　❹(參考)　武周錄第一五

馬陰藏三摩地口決

❶(B) Ma-on-zō-san-ma-ji-ku-ketsu. ❷一帖　❸存　❹印融(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519)記　❺永正五寫　❻(高大、寄・一・六四)

馬陰藏三摩地事

❶(B) Ma-on-zō-san-ma-ji-ni-koto. ❷一紙　❸存　❹德川時代寫　❺(寶龜院)

馬陰藏事

❶(B) Ma-on-zō-no-koto. ❷一帖　❸存　❹印融(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519)記　❺德川中期末寫　❻(金剛三昧院)

馬相

❶(B) Ma-sō. ❷(參考)　本朝台密撰述密部書目

馬鳴

❶(B) Ma-myō. ❷一卷　❸存、大日本佛教全書第三八阿娑縛抄第四　❹永禮(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)

數字略號　❶題名(書名)　❷卷數　❸存缺　❹著者　❺年代　❻內容說明　❼文獻(註釋書參考書)　❽寫本の刊年月　❾所藏處(書庫名)

馬鳴生論疏 ❶(日)Me-myō-shō-ron-sho.(支)Ma-ming-shêng-lun-su. ❷1巻 ❸義寂 ❼(参考) 東域傳燈目錄卷下、奈良朝現在一切經疏目錄25,52

馬鳴生論疏 ❶(日)Me-myō-shō-ron-sho.(支)Ma-ming-shêng-lun-su. ❷四巻 ❼(参考) 奈良朝現在一切經疏目錄25,54

馬鳴傳 ❶(日)Me-myō-den.(支)Ma-ming-chuan. 馬鳴菩薩傳 ❷1巻 ❸存、大正五〇・一八三 No.2046、續藏九、卍二七・二、北1055畫、南1060畫、元1047畫、明北1453法、清1453法、麗1042畫、天1024畫、指1067畫、法1022畫、至1426頃、明南1115籍、No.1460 ❹後秦鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344—413)譯 ❺後秦弘始五—義熙九(A.D.401—413) ⑪馬鳴菩薩傳の下を見よ。

馬鳴菩薩 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu. ❷1帖 ❸存 ❹德川時代寫 ⑨(寶龜院)

馬鳴菩薩儀軌 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-gi-ki. ❷1冊 ❸存 ⑨寫本(寶菩提院)

馬鳴菩薩成就悉地念誦 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-jō-shū-ji-nen-ju. ❷1卷 ❸存、卍續1・三・五 ❹唐不空(神龍元—大曆九A.D.705—774)譯 ⑤大神力絲絡密陀羅尼とその功德・受持法・畫像法・壇法・印契等を說く。 ⑨寫本(京大、藏・一六・一)

馬鳴菩薩像 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-zō. ❸存、大正圖像第一二 ❹建久二寫 ⑨(石山寺)

馬鳴菩薩大神力無比驗法念誦軌儀 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-dai-jin-riki-mu-hi-ken-jō-nen-ju-ki-gi.(支)Ma-ming-p'u-sa-ta-shên-li-wu-pi-yen-fa-nien-sung-kui-i. 馬鳴菩薩念誦儀軌 ❷1卷 ❸存、大正二〇・六七四 No.1166、續藏二・三・二 ❹金剛智(成享二—開元二九A.D.671—741)譯 ⑤唐開元一一—二四(A.D.723—736) ⑥釋尊が菩提樹下に居られた時に、馬鳴菩薩が世尊の許を得て說かれたのが、此の儀軌に於て示されてある所の眞言と及び玉環成就一切所願印とである。若し法に於て疑惑の念を懷き、不信の念を起さば、此の法は成就せず、此の法は唯授一人の秘法にして類に人に授く可きでないと注意してある。此の法を成就すれば、世間第一の鈴樂の財利を得ることが出來、金寶は積んで山岳を爲すに至ると言はれてをる。 (神林隆淨)

馬鳴菩薩傳 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-den.(支)Ma-ming-p'u-sa-chuan. 馬鳴傳 ❷1卷 ❸存、大正五〇・一八三 No.2046、續藏九、卍二七・二、北1055畫、南1060畫、元1047畫、明北1453法、清1453法、麗1042畫、天1024畫、指1067畫、法1022畫、至1426頃、明南1115籍、No.1460 ❹馬鳴菩薩(建元二—義熙九A.D.314—413 一說義熙年中寂)譯 ⑤後秦弘始五—義熙九(A.D.401—413) ⑥佛滅六百年頃に印度に出世せし馬鳴の傳である。馬鳴に關する傳記は本書の外に元魏の吉迦夜等譯「付法藏因緣傳」卷五、陳眞諦譯「婆藪槃豆法師傳」等にも見ゆるが其の記するところ必ずしも一致せず、殊に年代國名等異るものあるが、此等は皆同一人の馬鳴を示してゐる如くである。大乘論師の馬鳴と本書等に記す馬鳴とは必ず同一人なりと斷言し得ないものであらうし、又本書の記載の史的價値もいさゝか疑問であらうが、とにかく馬鳴の傳を見る史料の重要なる一つであらう。 ⑦(参考) 三寶紀第八、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六 ⑨寫本(寶菩提院)

馬鳴菩薩念誦儀軌 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-nen-ju-gi-ki.(支)Ma-ming-p'u-sa-nien-sung-i-kuei. 馬鳴菩薩大神力無比驗法念誦軌儀 ❷1卷 ❸存、大正二〇・六七四 No.1166、續藏二・三・二 ❹金剛智(成享二—開元二九A.D.671—741)譯 ⑤唐開元一一—二四(A.D.723—736) ⑥馬鳴菩薩大神力無比驗法念誦軌儀の下を見よ。

馬鳴菩薩念誦次第 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-nen-ju-shi-dai. ❸存 ⑨寫本(寶龜院)

馬鳴菩薩法 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-hō. ❷1帖 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶菩提院)

馬鳴菩薩論 ❶(日)Me-myō-bo-sa-tsu-ron. 教界文藝馬鳴菩薩論 ❷1卷 ❸存 ❹常盤大定著 ❺明治三八刊 ⑨(谷大、餘洋・一七七×龍大、二九六三・四、研佛)

(正大、一〇三七・二)(帝國、九九・一一七)(京專、(立大、B一四・二六) (支)Ma-ming-lun-su. ❷1卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄25,52

馬鳴論疏 ❶(日)Me-myō-ron-sho. (支)Ma-ming-lun-su. ❷1卷 ❼(參考)

馬嚧經 ❶(日)Me-yu-kyō.(支)Ma-yu-ching. ❷1卷 ❹失譯 ⑤生經第四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

馬邑經 ❶(日)Me-yū-kyō.(支)Ma-i-ching.(E)M.N.39 Mahā-Assapura S. ❸存、中阿含經第四八(大正一・七二四No.99,182)

馬邑經 ❶(日)Me-yū-kyō.(支)Ma-i-ching.(E)M.N.40 Cūla-Assapura S. ❸存、中阿含經第四八(大正一・七二五No.99,183)

碼碯石讖文 ❶(日)Me-nō-se-ki-sam-mon. ❷1首 ❹聖德太子(敏達帝二—推古帝二九A.D.572—621) ❼(參考) 淨土眞宗教典志第一

罵意經 ❶(日)Me-i-kyō.(支)Ma-i-ching. ❷1卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三

罵意經 ❶(日)Me-i-kyō.(支)Ma-i-ching. ❷1卷 ❸存、大正一七・五三〇 No.732、續宿八、卍二四・一〇、北2126無、南624無、元2126無、明北678歟、清678歟、麗2126無、天2011無、指732歟、法2011其、至1042半、明南2011歟、No.652 ❹安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A.D.148—170)

❻本經は一切惡惡の法を雜說し、以て道人の警めとしたるものである。その內容は蛇蚖の五部(亡錢財等)に始まり、或は沒法の六事、或は百の佛寺を造らんよりは一人を活すべしと說き、或は人意を亂す五魔、貪人等不可信の八輩、五鍼、五淨等を述べ、或を持せずしては道を行ずべからずと敎ふ。更に遡んで夢の因緣、畜生の角、鸚鵡脣嘴の赤き因緣、さては怖人は鹿となる等の如き後世の果報、さては地獄苦の善惡果報の別等を說き、最後に人物の空、無所有、一切皆空に歸す、貪すべからずと戒む。

之を要するに本經は練て素朴的に善を勸め惡を罰せんとするもので、かゝる敎訓を雜然と並べてあり、結構、內容、律に似てゐる。

❼(参考) 三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二 (山本快龍)

めひらきそむる魂 ❶(日)Me-hi-ra-ki-so-mu-ru-tamashi. ❷1冊 ❸存 ❹渡邊蘇吉著 ❺昭和二刊 ⑨(谷大、宗洋・七六七)

名賢信向錄 ❶(日)Mei-ken-shin-kō-roku.(支)Ming-hsien-hsin-hsiang-lu. ❷二卷 ❸存 ❹澹雲 ❺光緒二二刊 ⑨(龍大、研眞)

名士禪 ❶(日)Mei-shi-zen. ❷1卷 ❸存 ❹小川烱村、倉光空鳴共編 ❺明治四三刊 ⑨(駒大)

名士の釋尊觀 ❶(日)Mei-shi-no-shaka-zon-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹清水弘道編 ❺明治四四刊 ⑨(谷大、餘洋・二九九×京專)

名所事 ❶(日)Mei-sho-no-koto. 名所事三國 ❷1卷 ❸存、大日本佛敎全書第四一阿愛縛抄第七 ❹承澄(元久二—弘安五A.D.1205—1282)

名僧集說 ❶(日)Mei-sō-shū-setsu. ❷1卷 ❸存 ❼(參考)

名僧書 ❶(日)Mei-sō-sho. ❷1卷 ❸存 ⑨寫本(龍大、二〇六五・二)

名僧傳 ❶(日)Mei-sō-den.(支)Ming-seng-chuan. ❷三十卷 ❹梁寶唱(一—天監一五A.D.516—) ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、奈良朝現在一切經疏目錄25,54

名僧傳 ❶(日)Mei-sō-den. ❷1冊 ❸存 ❹道明作 ⑨寫本(金剛三昧院)

名僧傳抄 ❶(日)Mei-sō-den-sho. ❷1卷 ❸存、卍續二Q・七・一 ❹寶唱撰、宗性抄 ❺梁天監一三(A.D.514) ⑥支那年間、笠置寺の宗性が梁寶唱撰名僧傳三十卷(或は三十一卷と云ふ)の目錄、要文、說處等を抄出せしものが本書である。彼寶唱は僧祐の出三藏記集に諸高僧の傳の收められてゐるを見て大いに感動し、以て名僧傳を撰するに至りしものゝ如く、而してそは梁天監九年より始めて同十三年(A.D.514)に至つて成就してゐる。然るに此後間もなく慧皎の高僧傳が世に行はれて、後人多く此を用ひた爲め、寶唱の名僧傳は流布若おからず、遂に散逸するに至つたものであるが、なほ支那に於ても隋唐時代までは存せし如くである。我國にも早くより傳へられ、宗性の見し名僧傳は東大寺東南院經藏に藏せられしもので、此に依つて彼が本書即名僧傳抄を編せしことは其の末文に見ゆ。

內容を云へば、先づ名僧傳の目次を擧げて次に諸高僧の傳を收めてゐる。(一)求那跋陀(名僧傳卷三所收)。(二)道安(同卷六)。(三)曇翼(同卷六)。(四)竺法義(同卷八)。(五)僧行(同卷一〇)。(六)法邁(同卷一一)。(七)道恒(同卷一二)。次に三乘漸解實相事、無神我事の論あり。(八)覺世(同卷一五)。(九)曇斌。(一〇)曇濟(同卷一六)。次に禮法事の論あり。(一二)佛馱跋陀。(一三)曇摩密多。(一四)僧伽羅多略(同卷一九)。(一五)道溫。(一六)僧印。(一七)慧覺(同卷二〇)。(一八)納衣。(一九)慧通(同卷二一)。(二〇)道汪(同卷二二)。(二一)惠永。(二二)惠精。(二三)竺法純。(二四)惠慶。(二五)惠果(同卷二三)。(二六)慧海。(二七)道法。(二八)僧業(同卷二四)。(二九)法惠(同卷二五)。(三〇)僧表。(三一)智脫。(三二)寶雲。(三三)法盛(同卷二六)。(三四)僧供。(三五)道橋。(三六)曇斌(同卷二七)。(三七)法群(同卷二八)。

最後に名僧傳說處を附してゐる。蓋、本書は支那佛敎の初期の相貌の一面を示すもので、巫高僧傳を讀む時併用すべきものである。

❶寫本(京大、藏・一九メ・一) (野上俊靜)

名僧の戸籍調べ附佛敎とは何ぞや ❶(日)Mei-sō-no-ko-seki-shi-ra-be-tsukuri-tsuki-bukkyō-to-wa-nan-zo-ya. ❷1冊 ❸存 ❹大橋戒俊著 ❺大正一〇刊 ⑨東京三松堂書店

名僧の人生觀 ❶(日)Mei-sō-no-jin-sei-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹人生哲學研究會編 ❺大正一四刊 ⑨東京越山堂

名藍志 ❶(日)Mei-ran-shi. ❷1卷 ❸存 ⑨寫本(京大、藏・二〇メ・一)

名藍略記 ❶(日)Mei-ran-ryak-ki. 支那扶桑名藍略記 ❷2卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

明暗雙々記 ❶(日)Mei-an-sō-sō-ki. ❸存、澤庵廣錄之內 ❹澤庵宗彭(天正元—正保二A.D.1573—1645) ❺明治三九刊 ⑨(帝國、一一六・二七一)

明暗の五十年 ❶(日)Mei-an-no-go-jū-ne-n. ❷1冊 ❸存 ❹吉澤日晃著 ❺昭和七刊 ⑨東京宗門時報社

明算阿闍梨受法年代 ❶(日)Mei-san-a-ja-ri-ju-hō-nen-dai. ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶龜院)

明算阿闍梨傳 ❶(日)Mei-san-a-ja-ri-den. ❷1卷 ❸存 ❺天明六寫 ⑨(寶龜院)

明算院祕訣 ❶(日)Mei-san-in-hi-ketsu. ❸存 ⑨寫本(金剛三昧院)

明算流口訣大事 ❶(日)Mei-san-ryū-kō-ketsu-dai-ji. ❷1帖 ❸存 ❹瓶尊記 ❺德川時代寫 ⑨(寶龜院)

明算流諸方大事目錄 ❶(日)Mei-san-ryū-sho-hō-dai-ji-moku-roku. 明算流大事目錄 ❷1帖 ❸存

⑮重に「師主私記」之也、宥豫にあり。引攝院相承・智証院相承・大乗院信日相承・心南院仁然相承の大事に就きて記す。
⑨寶暦三及一一寫(金剛三昧院)德川時代寫(寶龜院)

明算流大事 ❶(日) Mei-san-ryū-dai-ji. ❷一軸 ❸存 ❹延享五寫(寶龜院)寫本(金剛三昧院)

明算流大事口訣 ❶(日) Mei-san-ryū-dai-ji-kū-ketsu. ❷一冊 ❸存 ❹淨盤(寛永一六—元祿一五 A.D. 1639—1702)
⑮中院流院家相承十二通印信につきて古來の諸師の口決をとりて記す。
⑨延享二寫(寶龜院)寫本(金剛三昧院)

明算流大事私記 ❶(日) Mei-san-ryū-dai-ji-shi-ki. ❷一冊 ❸存 ❹宥智(永正一六—永祿一二? A.D. 1519—1569)
⑨是利末期寫(寶龜院) 寶暦二寫(金剛三昧院)德川末期寫(金剛三昧院)

明算流大事目錄 ❶(日) Mei-san-ryū-dai-ji-mo-ku-roku. 明算流諸方大事目錄 ❷一帖 ❸存 ⑮明算流諸方大事目錄の下を見よ。 ❺德川時代寫 ⑨(寶龜院)

明算流傳受聖教目次 ❶(日) Mei-san-ryū den-ju-shō-kyō mokū-ji. 南山中院流聖教目次 ❷一冊 ❸存 ❹明道記 ❺文政五寫 ⑨(金剛三昧院)

明治維新以降皇室と本派本願寺との關係を摘要 ❶(日) Mei-ji-i-shin-i-kō-kō-shitsu-to-hom-pa-hon-wan-ji-to-no-kan-kei-narabini-tekiyō. ❷一卷 ❸存 ❹鈴學寮編 ❺大正一四聆寫 ⑨(龍大、一九四・六四)

明治維新神佛分離史料 ❶(日) Mei-ji-i-shin-shin-butsu-bun-ri shi-ryō. ❷三卷 ❸存 ❹村上專精(嘉永四—昭和四 A.D. 1851—1929)、鷲尾順敬、辻善之助共編 ❺昭和三刊 ⑩東京東方書院

明治維新前後史料拔書 ❶(日) Mei-ji-i-shin-zen-go-shi-ryō-nuki-gaki. ❷一冊 ❸存 ⑨寫本(龍大)

明治往生傳 ❶(日) Mei-ji-ō-jō-den. ❷三卷 ❸存 ❹乘水良筌著 ❺明治一五、一六刊 ⑨(正大、一〇三六・七三—七四)

明治三十九年夏期講習會講義錄 ❶(日) Mei-ji-sa-n-jū-kū-nen-na-tsu-kō-kō shū kō-ki-roku. ❷一卷 ❸存 ❹日蓮宗大學林同窓會編 ❺明治三九刊 ⑨(立大、B〇九・二一—二二・八九)

明治十年內務省布達全書 ❶(日) Mei-ji-jū-nen-nai-mu-shō-fu-tatsu-zen-sho. ❷一卷 ❸存 ⑨(龍大、二〇九四・六九)

明治初期東本願寺雜記 ❶(日) Mei-ji-shō-ki-higa-shi-hon-wan-ji-zatsu-ki. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(谷大、宗大・三一三六)

明治諸宗綱要 ❶(日) Mei-ji-shō-shū-kō-yō. ❷一卷 ❸存 ❹吉谷覺壽(天保一三—大正三 A.D. 1842—1914)著 ❺明治二三刊 ⑩京都法藏館

明治小部集 ❶(日) Mei-ji-shō-bu-shū. ❷一卷 ❸存 ❹松島善謙(文化三—明治一九 A.D. 1806—1886)等著 ⑨寫本(龍大、一〇三・四八)

明治辛未殉教繪史 ❶(日) Mei-ji-shin-mi-jun-kyō-e-shi. 殉教繪史 ❷一冊 ❸存 ❹田中長嶺著 ❺明治四四刊 ⑨(龍大、一九二・八)(谷大、宗津・二七七)

明治新事實因緣集 ❶(日) Mei-ji-shin-ji-jitsu-in en-shū. ❷二卷 ❸存 ❹大島文蓬著 ❺明治二二刊 ⑨(谷大、宗小・四七)

明治新撰正法山宗派圖續編 ❶(日) Mei-ji-shin-sen-shō-hō-zan-shū-ha-zu-zo-ku-hen. ❷三卷 ❸存 ❹釋佛海編 ❺明治四二刊 ⑨(駒大)

明治新令僧侶必携 ❶(日) Mei-ji-shin-rei-sō-ryo-hik-kei. ❷一卷 ❸存 ❹田內雲晁編 ❺明一三刊 ⑨(龍大、二〇九四・六七)

明治說教因緣五百題 ❶(日) Mei-ji-set-kyō-in-en-go-hyaku-dai. ❷二卷 ❸存 ❹國母社編 ❺明治三一刊 ⑨(谷大、宗津・四七)

明治增補賢首諸乘法數 ❶(日) Mei-ji-zō-ho-ken-ju-shō-jō-hō-sū. ❷二卷 ❸存 ❹行保編、旭雄補 ❺明治二八刊 ⑨(谷大、宗小・六)

明治天皇御詔書說教 ❶(日) Mei-ji-ten-nō-gyo-shō-sho-setsu-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹東源佛教青年協會編 ❺大正元刊 ⑩東京誠進堂

明治佛教文藝十二傑 ❶(日) Mei-ji-bukk-yō-bun-gei-jū-ni-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹來馬琢道著 ❺明治三六刊 ⑨(龍大、二九六五・一二)

明治妙好人傳 ❶(日) Mei-ji myō-kō-nin-den. ❷二卷 ❸存 ❹若原親輝著 ❺明治一七刊 ⑨(龍大、一九六九・一九)

明州雪竇山資聖寺第六祖明覺大師塔銘 ❶(日) Mei-shū-setsu-chō-san-shi-shi-ji-dai-roku-so-myō-kaku-dai-shi-tō-mei. (支) Ming-chou-hsüeh-tou-shan-tzu-shêng-ssu-ti-liu-tsu-ming-chüeh-ta-shih-ta-ming. ❸存、明覺禪師語錄(大正四七・七一二No. 1996)之內 ❹宋呂夏卿撰 ⑮明覺禪師語錄の下參照。

明匠口決抄 ❶(日) Mei-shō-ku-ketsu-shō. ❷一卷 ❸存 ❹亮祖記 ❺享保四寫 ⑨(南溪藏)

明匠事 ❶(日) Mei-shō-ji-kata. 阿彥縛三國明匠略記、三國明匠略記、明匠等略傳、明匠略記 ❷三卷 ❸存、大日本佛教全書第四一阿彥縛抄第七、群書類從第四 ❹永證(元久二—弘安五 A.D. 1205—1282)記 ❺建治元(A.D. 1275) ⑮阿彥縛三國明匠略記の下を見よ。 ⑦(參考) 本朝台組撰述密部書目

明匠略傳 ❶(日) Mei-shō-ryaku-den. 阿彥縛三國明匠略記、三國明匠略記、明匠等略傳、明匠略記、明匠事 ❷三卷

❸存、大日本佛教全書第四一阿彥縛抄第七、群書類從第四 ❹永證(元久二—弘安五 A.D. 1205—1282)記 ❺建治元(A.D. 1275) ⑮阿彥縛三國明匠略記の下を見よ。

明德元年四月鹿苑院准后相國寺八講記 ❶(日) Mei-toku-gwan-nen-shi-wa-tsu-ka-sō-in-ju-kō-sō-koku-ji-hach-kō-ki. 和久良牛の御法 ❷一卷 ❸存、群書類從第一六釋家部 ⑮和久良牛の御法の下を見よ。

明峰假名法語 ❶(日) Mei-hō-kana-hō-go. ❸存、禪門法語集卷中 ❹素哲(弘安四—觀應元 A.D. 1281—1350)
⑮曹洞宗太祖總持寺開山常濟大師瑩山紹瑾禪師の法嗣にして、後醍醐天皇の歸依を受け、能登の永光寺二世に遷住して四衆を接化し、觀應元年三月二十八日(A.D. 1350)壽七十、臘五十八を以て示寂された明峰素哲禪師の法語である。
其の說示する大要は、坐禪は本是れ大安樂の法門なりとの高調道元禪師の菩勸坐禪儀の聖旨を揭げ、乃無んで鳥の如く魚行いて魚の如しと坐禪箴に示された不思量不染污の淵旨を示し、太祖常濟大師の慈誡である三根坐禪の說を詳述し、諸法萬行みな坐中に收まるが故に、須臾刹那も坐禪すれば自ら心佛顯れて行住坐臥見聞覺知ゆ妙用に非ずと云ふことなきが故に、坐禪に精進すべしと說示されたものである。 (大久保堅瑞)

明峰素哲禪師御傳記附永慶寺概要 ❶(日) Mei-hō-so-tetsu-zen-ji-den-ki-fu-eikei-ji-gai-yō. ❷一卷 ❸存 ❹吉住善嚴著 ❺昭和二刊 ⑨(駒大)

明曆年度本山建立記 ❶(日) Mei-reki-nen-do-hon-zan-kon-ryū-ki. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(谷大、宗大・三三七六)

明朗百話 ❶(日) Mei-rō-hyaku wa. ❷一卷 ❸存 ❹遠藤秀善編 ❺大正一一刊 ⑨(龍大、一〇五一・四一)

明和元甲申結冬制雲水名簿 ❶(日) Mei-wa-gan-kō-shin-ket-tō-sei-un-sui-mei-bo. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(龍大、研史)

明和年中越後法論記 ❶(日) Mei-wa-nen-chū-e-go-hō-ron-ki. ❷二卷 ❸存 ❹慧琳(正德五—寶政元 A.D. 1715—1788)、隨慧(—天明二 A.D. 1782)共編 ⑨寫本(龍大、一七二・六)

明和法論次第 ❶(日) Mei-wa-hō-ron-shi-dai. ❷一卷 ❸存、眞宗全書第五〇 ❹仰誓(享保六—寶政六 A.D. 1721—1774)
⑮眞宗史上に於ける明和法論の顚末を詳細に記錄したものである。本書は學林系を代表したもので、智暹が先師法靈を一益建解の邪義者と稱し、明和二年淨土眞宗本尊義を著して眞宗の本尊は大經阿彌陀佛の尊像なりといひ、觀經の座觀住立の佛をとるものを宗意に晴しとし先師夢の說を詳疏せしに初まり、學林系の天俊、僧鶴等との間に於ける論爭を詳述したものであつて、明和法論史を寫はんとするものゝ好資料である。對論記二卷參照。 (木下靖夫)

迷悟抄 ❶(日) Mei-go-shō. ❷一卷 ❸存 ❹信證(應德三—康治元 A.D. 1086—1142)述 ⑮即身成佛・五大觀・密嚴淨土依正觀法の三項ありて問答釋述す。

迷悟抄 ❶(日) Mei-go-shō. ❷一卷 ❸存、眞言宗安心全書第一、岡文東方佛教叢書第一輯第一 ❹覺濟(安貞元—乾元二 A.D. 1227—1363)述 ❺文永九(A.D. 1272)
⑮この書は京都醍醐三寶院座主覺濟が文永九年賀茂氏の女某の請に應じて、眞言宗の宗意安心に就てその概要を述べたもので、その文は極く平易にして、而も國文問答體である。
先づ最初には成佛に就て顯教の三劫成佛と密教の即身成佛との問答であり、次に法報應の三身に就て問答解釋し、次には念佛宗と眞言密教との對辨に就て問答し、次に眞言の宗意とする即心成佛を述ぶるに當りて六大無碍常瑜伽、四種曼荼各不離、三密加持速疾顯、重々帝網名即身、法然具足薩般若、心數心王過剎塵、各具五智無際智、圓鏡力故實覺智の即身成佛義の中の二頌八句を引用し、これを平易に布演解釋し、次に如實知自心の句を解釋し、次に十界平等自他不二の文を解釋し、最後に女人在家の人達は如何に眞言密教の教義を實修實行すべきやに就て問答解釋してゐる。從つて本書の意圖は在家の人の問法に對してこれを平易に說述したもので學究的なものではない。 (坂田光全)

迷悟問答 ❶(日) Mei-go-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❹源海記 ❺永祿三(A.D. 1560) ⑨寫本(日光天海藏)

迷悟問答集 ❶(日) Mei-go-mon-dō-shū. ❷一卷 ❸存 ❹寬永二〇刊 ⑨(京大、一・二五メ・一、日大未・四五五)(谷大、宗大・二八四七〇)哲、ヒ・七・左・二五)

茗話代睡 ❶(日) Mei-wa-dai-sui. ❷一卷 ❸存 ❹南溪(天明三—明治六 A.D. 1783—1873) ⑨明治二四刊(龍大、研眞)寫本(谷大、宗大・二三九〇)(龍大、一五〇二・一七四)

冥樞會要 ❶(日) Mei-sū-e-yō. (支) Ming-shu-hui-yao. ❷三卷 ❸存 ❹宋祖心晦堂(天聖三—元祐三 A.D. 1025—1100)編 ⑦(參考) 禪籍志卷下 ❺嘉慶元刊 ⑨(京大、藏・一七メ・一〇)(駒大)

冥樞會要考 ❶(日) Mei-sū-e yō. kō. ❷三卷 ❸存 ⑨寫本(駒大)

冥想法講話 ❶(日) Mei-sō-hō-kō-sō. 精神修養冥想法講話 ❷一卷 ❸存 ❹木原通世著 ❺明治四〇刊 ⑨(帝國、一八・七七九)

冥想論附坐禪論 ❶(日) Mei-sō-ron-tekitari-za-zen-ron. ❷一卷 ❸存 ❹加藤咄堂著 ❺明治三八刊 ⑩東京東亞堂

冥道 ❶(日) Mei-dō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四〇阿彥縛抄第六 ❹永證(元久二—弘安五 A.D. 1205—1282)

冥道供 ❶(日) Mei-dō-kū. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四〇阿彥縛抄第六 ❹永證(元久二—弘安五 A.D. 1205—1282)

数字略號 ❶題名(書名) ❷巻数 ❸存欠 ❹著者 ❺年代 ❻内容説明 ❼主旨(註釋書参考書) ❽月年の刊行 ❾所蔵(書庫) ❿現所蔵 ⓫目録(名所書) ⓬目録所在

冥道供次第 ❶(日)Meidō-kū-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶龜院)

冥道供別 ❶(日)Meidō-kū-betsu. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四〇回向部 ❹永禄(元亀二—弘安五 A.D. 1205—1242)

冥道無遮齋法 ❶(日) Meidō-mahasai-hō. (支)Ming-tao-wu-che-chai-fa ❷一卷 ❼(參考) 傳教大師將來越州錄

冥府記事 ❶(日)Meifu-kiji. ❸存、叢書斜本第二六 ❹(帝國、一〇四・二三一)

冥報記 ❶(日)Meihō-ki. (支)Ming-pao-chi. ❷三卷 ❸存、大正五一・七八七 No. 1892、卍續二乙・二三・一 ❹唐臨撰

❺唐永徽年中(A.D. 650—655)

❻巻首に見ゆる序に依れば、著者唐臨は佛教の因果說は、萬人の信奉すべき理法にして、他の教に見ざる獨特のものであると主張する。即ち、儒教にも因果論的思想を說くが、そは現世のみに重點を置いて考察したものであり、之に反して佛教の因果說には現報、生報、後報の三者あつて、過去現在未來に亘る三世の理法である。一切の法は皆この中に攝せらるべきものであるとする。而して此の如き佛教の因果應報の說を實驗的事實に徴して證せんとして、古今幾多の人物に於て見聞せしところを記述せしもの即ち本書である。内容目次左の如し。

〔巻上〕 釋信行。釋慧如。釋僧徵。釋行尼。釋道懸。釋道奕。釋智苑。探銀沙人。冀州擒奴。梁時一密士。殿悲。

〔巻中〕 崔彥武。宿太山廟客僧。蕭瑀。韋伸珪。孫寶。張亮。盧文順。桂仁藩。孫迺瓊。魏大胥。李大安。董璋。蘇長之妾。李文本。元大寶。鄭師縉。豆盧氏。李山龍。

〔巻下〕 王將軍。崔浩。梁元帝。則武帝。仕人梁。李寬。姜略。冀州小兒。京兆郡獄卒。河南人婦。十士瑜父。殷安仁。趙大亡女。潘果。王五戒。康抱。姓韋。馬孟逐。孔僧。實勢。王琦(附宋行實)。韋慶植亡女。張法義。釋智感。

凡そ過去長き間支那に於て特定の學匠の間に組織傳承され佛教々義と一般支那人士の間に信奉され宗教としての佛教とは必ずしも同一のものではない。而して一般社會に普及せし佛教思想として尤も重要なるものゝ一つが因果應報、輪廻轉生の信仰である。本書はかゝる社會的支那佛教の一面を物語る史料にして、法苑珠林、太平廣記等に盛に引用されてゐる。

❼(參考) 東域傳燈目錄巻下 ❹明治二五刊(京大、一・二一ノ・二、一・二六ノ・一×龍大、二九六四・六一×帝國、四〇二・二九)明治三三淺嘉版(谷大、別・一五二)寫本(京大、藏・二四ヨ・四—五×龍大、二九六四・六〇)(正大、一〇五・一〇二) (野上俊靜)

冥報記校訛 ❶(日) Meihō-ki-kōkwa. ❷三卷 ❸存 ❹道忠 ❹寫本(京大、藏・二四ヨ・六)

冥報記輯書 ❶(日) Meihō-ki-shō-shū. ❷七卷 ❸存、卍續二乙・二三・一

❹佐々木宏德編

❺序文等見たないから此書編纂の始末は詳細を缺くが、佛教の因果應報に關する史實を人を中心として述べたものにして、前記の冥報記に見えざるものを集錄したものであり、殆ど全部唐道世撰法苑珠林、宋李昉等奉勅撰太平廣記より引載せしものである。

〔巻一〕 晉居士周閎。晉王鎮惡。宋沙門僧規。宋司馬文宣。宋王胡。宋李且。宋鄭鮮之。隋寶室寺法藏。隋釋慧雲。

〔巻二〕 隋皇甫兄弟。隋趙文若。唐傅撿。唐謝弘敏妻許氏。唐趙文信。唐劉弼。唐李壽。唐賈道美。唐方山岡。

〔巻三〕 隋杜伏生。唐賀悅。唐任義方。唐姜篤生。唐王千石。唐邢文宗。唐杜通達。唐陸孝政。唐成陽婦人姜氏。唐傳奕。唐定州人。

〔巻四〕 唐李知禮。唐薛孤訓。唐陳懷素。唐楊節操。唐鎮丘李氏。唐冀州疏令。唐徐王任。唐僧義孚。

〔巻五〕 唐李義琰。唐清禪寺金像。唐李思一。唐杜智椿。唐齊士望。唐訓美經。唐盧元禮。唐僧玄高。唐裴則男。唐石壁寺僧。唐陽武縛女朱氏。

〔巻六〕 唐路伯達。唐韋知。唐王懷智。唐夏侯均。唐王會師。唐劉摩兒。唐館陶主簿周。唐李虎觀。唐信都元方。唐封元則。

〔巻七〕 唐李信。唐孫壽。唐童子寺佛像。唐尼修行(附任五娘)。唐姚明解。唐謝氏。唐齊陰縣經驗。唐漁陽縣佛像。唐倪氏妻息甫氏。唐司馬喬轉。

右の内容目次で明かなる如く六朝より唐代までの事蹟であつて、從つて此の時代の佛教の一面を物語るものであり、尠大なる法苑珠林、太平廣記よりも簡單に見得る便のあるのが本書の特色であらう。

❹寫本(京大、藏・二四ヨ・四) (野上俊靜)

銘槃舜 ❶(日) Meiban-gō. ❷一卷 ❸存 ❹亮恕(寛永一七—元禄八 A.D. 1640—1695)作 ❹正本(妙法院)

銘心鈔 ❶(日)Meishin-shō. 決答疑問銘心鈔 ❷二卷 ❸存、傳燈綱要巻下、淨土宗全書第一〇 ❹了譽聖冏(層應四—應永二七 A.D. 1341—1420)述 ❺決答疑問銘心鈔の下を見よ。 ❼(參考) 淨土正依經論書籍目錄

銘文義概 ❶(日) Meibun-gigai. ❷一卷、❸存 ❹覆義(寶曆四—文政二 A.D. 1754—1819) ❼(參考) 眞宗全書刊行豫定書目

鳴鶴鈔 ❶(日)Meikaku-shō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

鳴鼓篇 ❶(日) Meiko-hen. ❷一卷 ❸存 ❹忠親 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

鳴沙餘韻 ❶(日)Meisha-yo-in. ❷一帙 ❸存 ❹矢吹慶輝編

❺矢吹慶輝博士が多年苦心の結果、大英博物館所藏スタイン氏蒐集燉煌出土古寫本數千點より、佛教に關する古文獻を選出して未曾有古逸の佛典約一百數十點を正篇とし、稀覯古珍の墨寶若くは餘德の文獻四十點を篇外として、その現存の全巻或は重要部を玻璃版に複製されたもので、その詳細は鳴沙餘韻解說を參照されたし。

❺昭和五刊(玻璃版) ❹東京岩波書店

鳴鐘經 ❶(日) Meishu-kyō. (支) Ming-chung-ching. ❷一卷 ❹疑僞經。

❼(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八

鳴鐘雜錄 ❶(日) Meishō-zatsu-roku. ❷一卷 ❸存 ❹大淑 ❺享和二刊 ❹(正大、一一八八・一三四)

鳴鐘教考 ❶(日)Meishō-kō. ❷一卷 ❸存 ❹深澤(寛延二—文化一四 A.D. 1749—1817) ❹寫本(谷大、宗大・二五一六)

鳴鐘法 ❶(日) Meishō-hō. ❷一紙 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

鳴道集 ❶(日)Meidō-shū. (支)Ming-tao-chi. ❸存 ❹金萬松行秀(大定元—宗元 A.D. 1161—1246) ❼(參考) 經籍目錄

鳴道集說 ❶(日)Meidō-shū-setsu. ❷一卷 ❸存 ❹金李之純著、宗松道統譯 ❺明治二八刊 ❹(龍大、二八一三・五〇)(京大、藏・二四メ・一)×帝國、一・一八四)

滅惡趣法 ❶(日) Metsu-aku-shu-ho-gatsu-nen-ju-shi-dai. ❸存 ❹寫本(寶龜院)

滅惡趣菩薩念誦次第 ❶(日)Metsu-aku-shu-bo-satsu-nen-ju-shi-dai. ❸存 ❹寫本(寶龜院)

滅惡趣法 ❶(日) Metsu-aku-shu-hō. ❷一帖 ❸存 ❹平安朝時代寫(寶善提院)

德川時代寫(寶善提院)

滅怪經 ❶(日)Metsu-kwai-kyō. (支) Mieh-kuai-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯

❼(參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

滅引導抄 ❶(日)Metsu-in-dō-shō. ❷一帖 ❸存 ❺德川初期刊 ❹(金剛三昧院)

滅罪地取口訣 ❶(日)Metsu-zai-shu-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❺元和九寫 ❹(寶龜院)

滅罪所作 ❶(日)Metsu-zai-sho-sa. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶善提院)

滅罪抄拔書 ❶(日) Metsu-zai-shō-nuki-gaki. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶龜院)

滅罪得福佛名經 ❶(日) Metsu-zai-toku-fuku-butsu-myō-kyō. (支)Mieh-tsui-te-fu-fo-ming-ching. 滅罪得福經 ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第四、第七、內典錄第一、第三、武周錄第一一、開元錄第一、第一四、貞元錄第二、第二四

滅七部莊嚴成佛經 ❶(日) Metsu-shichi-bu-shō-gon-jō-butsu-kyō. (支)Mieh-chi-fo-chuang-yen-ch'eng-fo-ching. ❷一卷 ❹疑僞經。 ❼(參考) 法經錄第二、仁壽錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

滅十方冥經 ❶(日) Metsu-jip-pō-myō-kyō. (支)Mieh-shih-fang-ming-ching. (梵) Daśadigandhakāraviddhvaṃsana (藏傳×藏) byhags-pa phyogs-bcuḥi mun-ba rnam-par sel-ba shes-byg-ba theg-pa chen-poḥi mdo 十方冥經 ❷一卷 ❸存、大正一四・一〇五 No. 435、館黃四、卍續一二・六、北4792羊、南4363羊、元275羊、明北511經、清511經、麗471盡、天426羊、指415謝、法457盡、至450恵、明南426紙、No. 315 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A.D. 265—313)

❺(類本) 漢になし。西藏譯は大谷甘珠爾錄No. 235(東北デリゲ錄No. 260)にあり、符合する。

〔内容〕 佛、迦葉羅衞に在り、釋種の幼童子面善悅が頻問憂鬱せるを見て、十方に十佛あることを敎へ、一心歸命せば心中担然、冥闇あることなく恐懼あることなしと敎へたまふものである。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四 (櫻部文鏡)

滅除五逆經 ❶(日) Metsu-jo-go-gyaku-kyō. (支)Mieh-chu-wu-ni-ching. 滅除五逆罪大陀羅尼經 ❷一卷 ❸存、大正二一・九一五 No. 1289、館成一二、卍一五・五、北1247鞍、南1251鞍、元1215鞍、明北556臨、清556臨、麗1232高、天1231鞍、法1253鞍、至745薄、明南556夙、No. 391 ❹宋法賢(一成平四 A.D. 1001)譯

滅除五逆罪大陀羅尼經 ❶(日) Metsu-jo-go-gyaku-zai-dai-da-ra-ni-kyō. (支) Mieh-chu-wu-ni-tsui-ta-to-lo-ni-ching. 滅除五逆經 ❷一卷 ❸存、大正二一・九一五 No. 1289、館成一二、卍一五・五、北1247鞍、南1251鞍、元1215鞍、明北556臨、清556臨、麗1232高、天1231鞍、法1253鞍、至745薄、明南556夙、No. 391 ❹宋法賢(一成平四 A.D. 1001)譯

❺世尊が、阿難に對して說示されたもので、この陀羅尼を誦すれば、衆生の爲した五逆の重罪を悉く消滅して、往生淨土を期することを得、又此の陀羅尼を聞くものは、千佛の加持を得るに等しいと言はれてある。 (神林隆淨)

滅度無極經 ❶(日) Metsu-do-mugoku-kyō. (支)Mieh-to-wu-chi-ching. ❷一卷 ❼(參考) 靜泰錄第三

滅沒日算考 ❶(日)Metsu-motsu-nissan-kō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

面向不背如意寶珠緣起 ❶(日) Men-kō-fu-hai-nyo-i-hō-ju-en-gi. ❷一帖 ❸存 ❺明應二寫 ❹(寶龜院)

面山和尚逸錄 ❶(日) Men-zan-oshō-itsu-roku. 永福面山和尚逸錄 ❷十二冊 ❸存 ❼(參考) 譯籍目錄

面山和尚歌稿 ❶(日) Men-zan-oshō-ka-kō. ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D. 1683—1769) ❼(參考) 譯籍目錄

面山和尚經行記 ❶(日)Men-zan-oshō-kin-shin-ki. 經行軌 ❷一冊 ❸存、禪學寶典之內 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D. 1683—1769) ❺明治四三刊 ❹京都貝葉書院

面山和尚結夏語錄 ❶(日) Men-zan-o-shō-ketsu-go-roku. 永福面山和尚結夏語錄、永福結夏語錄 ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D. 1683—

1768)詩、慧玄編 ❺寛延四刊 ❽(駒大)

面山和尚結夏錄事考 ❶(日)Men-zan-o-shō-ken-ka-roku-ji-kō. 永福面山和尚結夏錄事考 ❷一卷 ❼(參考) 禪籍目錄

面山和尚廣錄 ❶(日) Men-zan-o-shō-kō-roku. 永福面山廣錄、永福面山和尚廣錄、面山廣錄 ❷二十六卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D.1683—1769)語、慧燕編 ❺永福面山廣錄の下を見よ。 ❻安永六刊 ❽(駒大)

面山和尚年譜 ❶(日) Men-zan-o-shō-nen-pu. 永福開山面山和尚年譜 ❷一卷 ❸存 ❹眼象編 ❺安永六刊 ❽(駒大)

面山和尚菩說 ❶(日) Men-zan-o-shō-fu-setsu. 建康面山和尚菩說、建康面山和尚菩說 ❷一卷 ❸存、大正八二・七二一 No.2324 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D.1683—1769)語、本猛、禪胡共編 ❺建康菩說の下を見よ。 ❻明和二刊 ❽(駒大)

面山考正涅槃講式 ❶(日) Men-zan-kō-shō-ne-han-kō-shiki. 涅槃講式 ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D.1683—1769)校 ❼(參考) 禪籍目錄

面山考說辨文 ❶(日)Men-zan-kō-setsu-ben-mon. ❷一卷 ❸存、永福面山廣錄第二四 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D.1683—1769)語、眼象編 ❺永福面山和尚廣錄第二十四卷を分出刊行せるもの。 ❻刊本(駒大) ❽京都貝葉書院

面山詩集 ❶(日) Men-zan-shi-shū. ❷五卷 ❸存、永福面山廣錄第一一—一五 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D.1683—1769)、慧燕編 ❺面山和尚廣錄第十一卷乃至第十五卷を分出刊行せるもの。 ❻刊本(駒大) ❽京都貝葉書院

面山佛事乘炬集 ❶(日) Men-zan-butsu-ji-jō-ko-shū. ❷一卷 ❸存、永福面山廣錄第八—九 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A.D.1683—1769)語、良釣等編 ❺安永二刊 ❽(駒大)

面授口決 ❶(日)Men-ju-ku-ketsu. 仁忠和尚八節問答記、八節問答記 ❷一卷 ❸存、傳教大師全集第五(新) ❹仁忠問・叡澄(神護景雲元—弘仁一三 A.D.767—822)答 ❺弘仁一一(A.D.820) ❻「仁忠和尚八節問答記」或は「八節問答記」と稱す。奥書に依れば、比叡山の試年分止觀業得度者仁忠が、其の師叡澄(問を呈してその答宜口訣を受け、一字一言と雖も更に添削を加へずして、弘仁十一年に記したるもの」とぞ。問答八條あり、初めの七條は佩園道場の本佛の藥師如來に就て、終りの一條には本佛最深の祕法として超過愛染法、及び法識證來法の二節要法を、併せて八條九件を記せり。傳教大師の眞撰に非ざるべし。 (鹽入亮忠)

面授口訣 ❶(日)Men-ju-ku-ketsu. 面授口訣三寶院 ❷一軸 ❸存 ❺足利時代寫 ❽(寶龜院)

面授章辨 ❶(日) Men-ju-shō-ben. ❷一卷 ❸存 ❹道珣萬仞(元祿一一—安永元以後 A.D.1688—1774—) ❼(參考) 禪籍目錄

面授祕符 ❶(日)Men-ju-hi-fu. ❷一軸 ❸存 ❹見心 ❽足利中期寫(金剛三昧院)寫本(高大、寄・一・六四)

面授祕符 ❶(日)Men-ju-hi-fu. 面授記符宥範流口傳 ❷一軸 ❸存 ❺元祿六寫 ❽(金剛三昧院)

面上傍人辨 ❶(日)Men-jō-bō-nin-ben. ❸存、傳燈綱要卷下 ❹寶戴(慶安三—享保六 A.D.1650—1721)

面上傍人辨裏書 ❶(日)Men-jō-bō-nin-ben-ura-gaki. ❸存、傳燈綱要卷下 ❹祭譚(一正德頃 A.D.1711—1716—)

面然餓鬼經 ❶(日) Men-nen-ga-ki-kyō.(支)Mien-jan-e-kuei-ching. 敎面然餓鬼陀羅尼神呪經 ❷一卷 ❸存、大正二一・四六五 No.1314、舘成八、卍一二・八、北630羊、南423羊、元657羊、明北255念、清255念、麗457羨、天668羊、指446羨、法446羨、至646女、明南165行、Nj.639 ❹唐實叉難陀(永徽三—景雲元 A.D.652—710)譯 ❻救面然餓鬼陀羅尼神呪經の下を見よ。

モ

母漢集 ❶(日) Mo-kei-shū. ❷一卷 ❸存 ❹智覺問、本純答 ❽寫本(谷大、餘大・四六七)

母子作僧尼意亂經 ❶(日)Mo-shi-sa-sō ni-i-ran-kyō.(支)Mu-tzu-tso-seng-ni-i-luan-ching. 母子作比丘僧比丘尼意亂經、學人意亂經 ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❻有一阿含經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記節四、法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第三、第四

茂源和尚遺稿 ❶(日) Mo-gen-o-shō-i-kō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

茂源錄 ❶(日)Mo-gen-roku. ❷四卷 ❸存 ❹茂源紹柏 ❼(參考) 禪籍目錄

茂竹和尚法語 ❶(日)Mo-chiku-o-shō-hō-go. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

茂林寺語錄 ❶(日) Mo-rin-ji-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❽寫本(駒大)

最上三十三觀音順禮始由來物語 ❶(日)Mo-gami-san-jū-san-kwann-on-jun-rei-hajime-yu-rai-mono-gatari. ❷一冊 ❸存 ❺昭和七刊 ❽山形明山堂

喪儀略 ❶(日)Mo-gi-ryaku. 增訂喪儀略 ❷一卷 ❸存 ❽(京專)

燃ゆる聖悅 ❶(日) Mo-yu-ru-sei-etsu. ❷一卷 ❸存 ❹蓮沼文能編 ❺大正一一刊 ❽東京甲陽堂

藻鹽集 ❶(日)Mo-shio-shū. ❷一冊 ❸存 ❹白隱慧鶴(貞享二—明和五 A.D.1685—1768) ❺寶曆九刊 ❽(京大、一・二五七・二)

藻原抄本裏書古文書 ❶(日) Mo-hara-shō-hon-ura-gaki-ko-bun-jo. ❸存、日蓮宗々學全書金綱集坤卷 ❻日向の著「金綱集」(其の項を見よ)に數本ある中の藻原抄本の裏面に、身延東之坊日靜と想定すべき者が元亨建武の頃京都より波木井氏に送れる消息數通あり、中に波木井氏の一族が南朝に屬し足利氏のため京都六條河原に於て斬首せられた史實を傳へて居る。其他史料たるべき古文書數通をも含んでゐる。明治十九年九月內閣修史局の奥書あり。金綱集の內容とは無關係であるが、史料として宗學全書に掲載したものである。 (馬田行啓)

藻原寺略緣起 ❶(日)Mo-hara-dera-ryaku-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❹日偉逐 ❺大正四刊 ❽(立大、A〇六・一一二)

亡師雜論文集 ❶(日)Mō-shi-zatsu-ron-bun-shū. ❷一冊 ❸存 ❽寫本(智、く・八・右・三四)

亡者引導意得 ❶(日) Mō-ja-in-dō-ki-toku-e. ❷一卷 ❸存 ❽寫本(正大、一五五二・一九二)

亡者曳覆書樣 ❶(日) Mō-ja-hi-fu-kaki-yō. ❷一卷 ❸存 ❽寫本(谷大、餘卷・一四〇)

亡前失後嘆 ❶(日) Mō-zen-shitsu-go-tan. ❷二卷 ❸存 ❹三靈の說を述ぶ。 ❽寫本(龍大、一七五・九〇)

毛芥遺稿 ❶(日)Mō-kai-i-kō. ❷一卷 ❸存、眞宗全書第七三 ❹英順(文政元—明治一六 A.D.1818—1883)

❺英順、字は秋堂、毛芥と號す。美濃大垣誓願寺に住せり。故南條文雄博士は師の三男なり。本書は師の詩集にして明治四十三年、その二十七回忌に當り、南條博士により編輯刊行せられたるものなり。 (關哲雄)

妄盡還源觀 ❶(日)Mō-jin-gen-kwan.(支)Wang-chin-huan-yüan-kuan. 修華嚴奥旨妄盡還源觀、華嚴還源觀、還源觀、華嚴奥旨妄盡還源觀 ❷一卷 ❸存、大正四五・六三七 No.1579、舘陽三、卍三四・一〇、明北1562鈔、清1629毛、明南1581青、Nj.1583 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元 A.D.627—712)述 ❻修華嚴奥旨妄盡還源觀の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❺慶安三刊 ❽(谷大、餘大・一三六三)(京大、一・二四ヰ・一)(高大、寄・一・一六)(正大、一二四・二九、三一)(智、ま・四・左・二〇)(京專)

妄盡還源觀癸亥錄 ❶(日) Mō-jin-gen-kwan-ki-gai-roku. 華嚴奥旨妄盡還源觀癸亥錄 ❷三卷 ❸存 ❹芳英(寶曆一三—文政一一 A.D.1763—1828)述 ❽寫本(京大、日大未・二〇四)(谷大、餘大・二九六八)

妄盡還源觀玄談 ❶(日) Mō-jin-gen-kwan-gen-dan. ❷一冊 ❸存 ❹信教經歷述 ❺文政三寫 ❽(京大、日大未・二〇三)(京專)

妄盡還源觀玄談 ❶(日) Mō-jin-gen-kwan-gen-dan. ❷一卷 ❸存、海印懸譚之內 ❹明道(寶曆一三 A.D.1763—)

妄盡還源觀玄談 ❶(日) Mō-jin-gen-kwan-gen-dan. ❷一卷 ❸存、圓通和尚全集第二 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A.D.1828—1907)述

妄盡還源觀玄談並錄 ❶(日) Mō-jin-gen-gen-kwan-gen-dan-narabini-roku. ❷一冊 ❸存 ❽寫本(高大、寄・一・一六)

妄盡還源觀講義 ❶(日)Mō-jin-gen-kwan-kō-gi. 華嚴奥旨妄盡還源觀講義 ❷一卷 ❸存 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A.D.1828—1907)述 ❺明治三四刊 ❽(谷大、餘洋・八七)(京專)

妄盡還源觀私記 ❶(日)Mō-jin-gen-gen-kwan-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹龍天 ❽寫本(谷大、餘大・一〇四八)

妄盡還源觀精義 ❶(日)Mō-jin-gen-gen-kwan-sei-gi. 華嚴奥旨妄盡還源觀精義 ❷一卷 ❸存、照遍和尚全集第二 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A.D.1828—1907)述

妄盡還源觀大意 ❶(日)Mō-jin-gen-kwan-tai-i. ❷一帖 ❸存 ❺明治二一寫 ❽(高大、寄・一・一六)

妄盡還源觀大意要辨 ❶(日) Mō-jin-gen-gen-kwan-tai-i-yō-ben. ❷一卷

❸存 ❹雲巷記 ❺寫本(京専)

妄盡還源觀分科 ❶(日) Mō-jin-wan-wan-kwan-bun-kwa. ❷一冊 ❸存 ❹天明四寫 ❺(谷大、餘大・四〇九五)

妄盡還源觀辨意 ❶(日) Mō-jin-wan-wan-kwan-ben-i. ❷一冊 ❸存 ❹信敎經歷逃 ❺文政三寫 ❻(京大、日大来・二〇三)

妄盡還源觀圓貫 ❶(日) Mō-jin-wan-wan-kwan-yen-ga. ❷二卷 ❸存 ❹大安 ❺大正七寫 ❻(谷大、餘大・四〇九二)

盲安杖 ❶(日)Mō-an-jō. ❷一卷 ❸存、禪門法語集卷上、法のしをり之内 ❹鈴木正三(天正七—明暦元 A.D. 1579—1655) ❺慶安、承應年間(A.D. 1648—1654) ❻是れ心盲にして道を迷る能はざる者の爲の杖たらしめやうとして書かれたもの。第一に生死を知りて樂ある事、第二に己れを顧みて己れをしるべき事、第三に物ごとに他の心に至るべき事、第四に信有りて忠孝を勤むべき事、第五に分限を見分けて其の性々を知るべき事、第六にとゞまる所をはなれて德有る事、第七に己れを忘れて己れを守るべき事、第八に立あがりて獨りつゝしむべき事、第九に心をほろぼして心をそだつべき事、第十に小利を捨て大利にいたるべき事を叙してゐる。冠頭に安永七年秋に記せる堪庵の序をゝ載せ、我の惡のあきらめ難きにあらず、人の惡はよく知る。故に明師道をたゞし、あまねく道調に目をひらかん事を願ひて、心をつくして書あつめけることの業繁からず、緣ある心の目ぞみを助けて、安きに導かんとて盲安杖といふにやあらん」と叙してゐる。 ❼永應四刊(京大、一・二五セ・二二) 享保一二刊(龍大、二〇三・三五) (後藤大用)

盲引盲編 ❶(日)Mō-in-bō-hen. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(駒大)

猛施經 ❶(日)Mō-se-kyō. (支)Meng-shih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉竺法護(—泰始二—建興元 A.D. 265—313?)譯 ❷(參考) 仁壽錄第五、歸泰錄第五、武周錄第二十、開元錄第一四、貞元錄第二四

蒙庵集 ❶(日) Mō-an-shū. ❷一卷 ❸存 ❹蒙庵撰 ❷(參考) 朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

蒙菴思嶽禪師語要 ❶(日)Mō-an-shi-gō-kō-zen-ji-go-yō. (支)Meng-an-sēu-yü-ch'an-shih-yü-yao. ❷一卷 ❸存、卍續二・二四・一 ❹宋蒙菴思嶽語 ❺宋代に於ける看話禪の巨匠大慧宗呈禪師に繼ぎ南岳下十七世の法燈を福州雲山及び福州東禪寺に揭げて四衆を接化した蒙菴思嶽禪師の上堂示衆の語要である。東禪の座語に云ふ「諸佛浩浩法門。捲出一切。衆生害害心地。應用無差。擔中誰恰證迷。誰得誰失。得失既絕。迷悟一如。長劍倚天。不用群魔膽落。明珠照夜。何須智鑑高懸。」と能く生佛一如、迷悟不二の法門を道破して居る。 (大久保堅瑞)

蒙菴百首 ❶(日)Mō-an-hyaku-shu. ❷一卷 ❸存 ❹春莊稿 ❷(參考) 日本禪林撰述書目 ❼寫本(駒大)

蒙記 ❶(日)Mō-ki. ❷同珍(弘仁五—寫平三 A.D. 814—891)撰 ❷(參考) 本朝台嶽撰述經部書目、山家眼德撰述篇目集卷上

蒙古經文 ❶(日) Mō-ko-kyō-mon. ❷二十六枚 ❸存 ❹寫本(京大、佛敎、A・一・五)

蒙古退治旗曼荼羅之記 ❶(日) Mō-ko-tai-ji-hata-man-da-ra-no-ki. ❷一卷 ❸存 ❹深見要言著 ❺文化一三刊 ❻(立大、A〇六・四二)(龍大、二六九九・二八)

蒙古文佛典 ❶(日)Mō-ko-bum-butten. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(京大、一・二三・貴)

蒙古文妙法蓮華經 ❶(日) Mō-ko-bana-myō-hō-ren-ge-kyō. ❷七卷 ❸存 ❹寫本(京大、一・二三・別)

蒙散 ❶(日)Mō-san. ❷四卷 ❸存 ❹金剛定院問、光台院答 ❺仁和御流請雩法の口決。 ❻實永六寫(金剛三昧院)文化二寫(谷大、餘大・二四五〇)

蒙山和上法語略錄 ❶(日)Mō-zan-wa-jō-hō-go-ryaku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(京大、藏・二四カ・四) ❺蒙山和尚六道菩說 ❶(日)Mō-zan-wa-shō-roku-dō-fu-setsu. ❷一卷 ❸存 ❹慶安二刊 ❺(龍大、二六七九・七九)

蒙山對客 ❶(日) Mō-zan-tai-kaku. ❷一冊 ❸存、護法集之內 ❹鴛菴玄光(寛永七—元祿一一 A.D. 1630—1698) ❺元祿五刊 ❻(駒大)(哲、あ・二・中・二二)

蒙山智明和尚行道記 ❶(日)Mō-zan-chi-mei-o-shō-gyō-dō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹(參考) 禪籍目錄

蒙山法語 ❶(日)Mō-zan-hō-go. (支)Meng-shan-fa-yü. ❸存、禪門提要卷上之內 ❹蒙山 ❺隆熙二刊 ❻(駒大)

暴象經 ❶(日)Mō-shō-kyō. (支)P'ao-hsiang-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹出曜經第五卷の抄出。 ❷(參考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六

申狀 ❶(日) Mōshi-jō. ❷一篇 ❸存、日蓮宗宗學全書第一八上聖部之內 ❹傳、日向(建長五—正和三 A.D. 1253—1314) ❺嘉曆四(A.D. 1329) ❻日向の著と稱するが、嘉曆四年を正しとすれば日向入寂後となる、日向の著を正しとせば、嘉曆四年は誤となる。

初めに、「日蓮聖人遺弟日向申」とあり、前文の次に「謂申一卷、立正安國論」と記し、次下に「立正安國論」の旨趣を復演し各宗と蹤迹を決するため公場の對決を請願したもので、提出先は恐らく鎌倉幕府であつたらうと思ふ。 (馬田行啓)

申渡假帳 ❶(日)Mōshi-watashi-kari-chō. ❷一卷 ❸存 ❹慶應四寫 ❻(龍大、別置)

木菴安永禪師語要 ❶(日) Mokuan-an-ei-zen-ji-go-yō. (支) Mu-an-an-yung-ch'an-shih-yü-yao. ❷一卷 ❸存、

卍續二・二四・一 ❹宋木菴安永語

❺福州西禪寺嶺庵開堂禪師の法嗣、南岳下十七世木庵安永禪師の語要である。木庵、諱は安永、號木庵、福建福州閩縣の吳氏に生れ、乾元、黃檗、西禪、洋嶼菴、雪峯、鼓山等に住して演法したものである。本書には其の西禪、洋嶼菴、雪峯、鼓山等に於ける陞座上堂語、秉拂並に贊偈等を收めたものである。法嗣には瞎庵恰明禪師を打出した。上堂語に云ふ「機輪轉處。千眼頓開。如何曉會。不見睦州和尚示衆云。諸人未得箇入頭。須得箇入頭。既得箇入頭。不得辜負老僧。悲歷說話。面皮厚多少。木庵則不然。諸人未得箇入頭。須得箇入頭。」と其の家風を窺ふことが出來る。 (大久保堅瑞)

木菴和尚廣錄 ❶(日) Moku-an-ō-shō-kō-roku. 木菴全錄 ❷三十卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A.D. 1611—1684)語 ❷(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

木菴和尚瑞聖禪師語錄 ❶(日) Moku-an-ō-shō-zui-shō-zen-ji-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A. D. 1611—1684)語、道新編 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴和尚續錄 ❶(日) Moku-an-ō-shō-zoku-roku. ❷二卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A.D. 1611—1684)語、道仟編 ❺刊本(駒大)

木菴和尚年譜 ❶(日) Moku-an-ō-shō-nen-pu. 黃檗木菴禪師年譜、木菴禪師年譜 ❷一卷 ❸存 ❹悅山道宗(—寶永六 A. D. 1709)編 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴性瑫老人稀齡賀集 ❶(日) Moku-an-shō-tō-rō-jin-ki-rei-ga-shū. ❷一卷 ❸存 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴全錄 ❶(日) Moku-an-zen-roku. 木菴和尚廣錄 ❷三十卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A. D. 1611—1684)語 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴禪師誓語附行實 ❶(日)Moku-an-zen-ji-sei-go-tsuketari-gyō-jitsu. ❷一卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A.D. 1611—1684)語、道珠編 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴禪師語錄 ❶(日)Moku-an-zen-ji-go-roku. ❷十八卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A.D. 1611—1684)語、智定等編 ❺刊本(龍大、三六七四・二九)(駒大)

木菴禪師語錄 ❶(日)Moku-an-zen-ji-go-roku. ❷二卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A. D. 1611—1684)語、道智編 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴禪師語錄序跋 ❶(日) Moku-an-zen-ji-go-roku-jo-batsu. 黃檗木菴禪師語錄序跋 ❷一卷 ❸存 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴禪師東來語錄 ❶(日) Moku-an-zen-ji-tō-rai-go-roku. 木菴東來集 ❷七卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A.D. 1611—1684)語、定珠等編 ❺刊本(京大、一・二五セ・四)

木菴禪師年譜 ❶(日)Moku-an-zen-ji-nen-pu. 黃檗木菴禪師年譜、木菴和尚年譜 ❷一卷 ❸存、木菴禪師語錄之附錄 ❹悅山道宗(—寶永六 A.D. 1709)編 ❺刊本(龍大、二九八二・一七)(駒大)

木菴禪師福濟寺又錄 ❶(日)Moku-an-zen-ji-fuku-sai-ji-u-roku. ❷一卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A.D. 1611—1684)語、興頂編 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴禪師萬福寺語錄 ❶(日)Moku-an-zen-ji-man-puku-ji-go-roku. 黃檗木菴禪師萬福寺語錄 ❷一卷 ❸存 ❹木菴性瑫(慶長一六—貞享元 A.D. 1611—1684)語、道和編 ❷(參考) 禪籍目錄

木菴老和尚末後事實 ❶(日)Moku-an-rō-wa-shō-matsu-go-ji-jitsu. ❷一卷 ❸存 ❹鐵山智定等編 ❺貞享元刊 ❻(駒大)

木菴六十壽章 ❶(日)Moku-an-roku-jū-ju-shō. 黃檗木菴六十壽章 ❷一卷 ❸存 ❹刊本(駒大)

木繪二像開眼之事 ❶(日) Moku-e-ni-ga-kai-gen-no-koto. 法華骨目肝心鈔、草木成佛鈔 ❷一卷 ❸存、日蓮上人全集第五、日蓮聖人御遺文五二五、高祖遺文錄九卷九 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永元(A.D. 1264)或は文永一一、弘安五 ❻木繪二像の開眼は法華經に限る、餘經を以て開眼するも生身の佛とならざるべきを說ける抄である。初に生身の佛と木繪の像との區別勝劣を論じて木繪の像は三十一相を表し得べきも梵音聲の一相を缺き、又心法無ければ劣れりとなし。次に木繪二像の前に法華經を安置すれば、眞說法と佛意佛智を具足すれば盡く具足し、且つ草木成佛の相なりと說き、次に天台の一念三千の法門こそこれ佛智にして眞の草木成佛なるを示し。次に天台の學者皆これを失ひ、華嚴、眞言に與同して家珍を盜まれたるを知らざるを笑ひ。次に華嚴、眞言を以て開眼供養するは、還て無間地獄に墮する邪義なりと斷じ。終に法華經を以てするものは、生身得忍、卽身成佛の利益あるを誨へらる。

❷(參考) 錄內啓蒙三三 ioH、錄內扶老一三四、錄內拾遺七八、御書鈔二三一八、四條金吾釋迦佛供養事(日蓮聖人御遺文一四四五) ❹正本(下總正中山寶藏)、草案本(身延久遠寺)

木魚說 ❶(日)Moku-gyo-setsu. ❷一卷 ❸存 ❹道空 ❺寫本(谷大、餘大・二〇七〇)

木槵經 ❶(日)Moku-men-kyō. (支) Mu-huan-ching. ❷一卷 ❸存、鳩摩一五、至德元、三十結第子第一七 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774)譯 ❺二三字句の相違はあるが、大體に於て大正藏經第十七、七二六頁にある木槵子經と大差はない。 (神林隆淨)

木槵經抄 ❶(日)Moku-gyō-kyō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹俊芿亮法(元和八—延寶八 A.D. 1622—1680)述 ❺刊本(谷大、餘

大、二六五七）

木槵子經 ❶(日)Moku-gen-shi-kyō. (支)Mu-huan-tzŭ-ching. ❷一卷 ❸存、大正一七・七二六 No. 786、縮宿八、卍一五・一、北522學、南523學、元524學、明北750當、清525當、麗522竟、天523學、指522竟、法522竟、至1101和、明南525當、Nj. 755 ❺東晉代（A. D. 317—420）失譯 ❻佛陀が王舍城の耆闍崛山に居られた時に毗舍離國の王が、佛陀の所に使を遣はして、衆苦を解脫する方法を問はしめられた時に佛陀は木槵子、一百八個を貫いて、數珠を作り、常に之を所持して、佛・法・僧の三寶の名を唱へながら木槵子を度し、十・二十・百—百千萬に至り、若しくは二十萬遍を滿ずれば、身心不亂にして、命終の時には第三焰天に生ずることを得、若復一百萬遍を滿ずれば、百八の結業を斷除することを得とあり、その後、佛陀は宮中に至り、王に告げて背莎斗（Sāti）比丘は三寶の名を誦じて十歲を經るや、斯陀含果を得、漸次に精行して、今は普香世界にあつて、辟支佛と成つて居ると說かれたことが記してある。❼〔參考〕法經錄第三、武周錄第一一、開元錄第三、貞元錄第五　（神林隆淨）

木根觀音大士記 ❶(日)Mok-kon-kwan-on-dai-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹木菴性瑫（慶長一六—貞享元 A. D. 1611—1684）等 ❼〔參考〕禪籍目錄

木食上人跡目相續覺書 ❶(日)Moku-jiki-shō-nin-ato-me-sō-zoku-oboe-gaki. ❸存 ❽德川時代寫 ❾（寶藏院）

木叉紀 ❶(日)Moku-sha-ki. (支)Mu-ch'a-chi. 十誦律木叉記 ❷一卷 ❹一相述 ❼〔參考〕新編諸宗教藏總錄第二

木叉紀 ❶(日)Moku-sha-ki. (支)Mu-ch'a-chi. 十誦律木叉記 ❷一卷 ❹慈藏述 ❼〔參考〕新編諸宗教藏總錄第二

木叉記 ❶(日)Moku-sha-ki. (支)Mu-ch'a-chi. 四分律木叉記 ❷一卷 ❹圓勝述 ❼〔參考〕新編諸宗教藏總錄第二

木叉義瑣章 ❶(日)Moku-sha-gi-sa-shō. ❷一卷 ❹凝然（仁治元—元亨元 A. D. 1240—1321） ❼〔參考〕諸宗章疏錄第二

木叉疏 ❶(日)Moku-sha-sho. (支)Mu-ch'a-su. 四分律木叉疏 ❷一卷 ❹一相述 ❼〔參考〕新編諸宗教藏總錄第二、奈良朝現在一切經疏目錄2276

木積喩經 ❶(日)Moku-shaku-yu-gyō. 現代意譯木積喩經 ❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第四卷一阿含經抄之內 ❹赤沼智善譯

木杵喩經 ❶(日)Moku-shō-yu-kyō. (支)Mu-ch'u-yü-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻雜阿含經第四十七卷の抄出。❼〔參考〕出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六

木槍刺脚因緣經 ❶(日)Moku-sō-shi-kaku-in-en-gyō. (支)Mu-ch'iang-tz'ŭ-chiao-yin-yüan-ching. 木槍刺脚因緣經 ❷一卷 ❹失譯 ❻興起行經の抄出。❼〔參考〕出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

木像畫像由緣 ❶(日)Moku-zō-e-zō-yu-en. ❷一卷 ❸存 ❾寫本（龍大、一九六一・九九）

木蛇集 ❶(日)Moku-da-shū. 鐵菴集 ❸存、續群書類從第一二 ❹江西龍派（永和元—文安三 A. D. 1375—1446） ❻鐵菴集の下を見よ。

木杯餘滴 ❶(日)Moku-hai-yo-teki. ❷一卷 ❸存 ❹一凍 ❼〔參考〕禪籍目錄

木母花實 ❶(日)Moku-mo-kwa-jitsu. ❷一册 ❸存 ❾寫本（哲、ま・四・左・一）

木母寺鎭守梅若權現緣起 ❶(日)Moku-mo-ji-chin-ju-ume-waka-gon-gen-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❺寬政一一寫 ❾（正大、一〇三三・三一）

木母集 ❶(日)Moku-mo-shū. ❷一卷 ❸存 ❽寬文一一刊（正大、一一七五・四八）天和二刊（駒大）（谷大、餘大・一七二三）元祿四刊（谷大、餘大・二五二七）（哲、ま・五・中・一六）

木母堂全集 ❶(日)Moku-mo-dō-zen-shū. ❷一册 ❸存 ❹土宜法龍述、宮崎恐海編 ❺大正一三刊 ❾（京大、一・二六そ・二）（高大、一・三〇）

木木口 ❶(日)Moku-mok-ku. ❷一帖 ❻松橋流の祕口訣を記す。

目安集 ❶(日)Moku-an-shū. ❷三卷 ❸存 ❹善朝（—永正享祿頃 A. D. 1504—1531—）口 ❽承應二刊（高大、寄・一・四八）延寶二刊（高大、寄・一・四八）（京專）（龍大、二六六四・三二）慶安五刊（正大、一四二・一一九）

目佉經 ❶(日)Moku-gya-kyō. (支)Mu-ch'ü-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼〔參考〕出三藏記第三、法經錄第一、仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二、開元錄第二、第一四、貞元錄第二四

目標教義としての本門戒壇 ❶(日)Moku-hyō-kyō-gi-to-shite-no-hom-mon-kai-dan. ❷一卷 ❸存 ❺昭和六刊 ❿東京天業民報社

目連因緣經 ❶(日)Moku-ren-in-en-gyō. (支)Mu-lien-yin-yüan-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼〔參考〕出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

目連經 ❶(日)Moku-ren-gyō. (支)Mu-lien-ching. ❷一卷 ❻疑僞經。❼〔參考〕開元錄第一八、貞元錄第二八

目連見衆生身毛如箭經 ❶(日)Moku-ren-ken-shu-jō-shin-mō-nyo-sen-gyō. (支)Mu-lien-chien-chung-shêng-shên-mao-ju-chien-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻雜阿含經第十九卷の抄出。❼〔參考〕出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

目連見大身衆生然鐵纏身經 ❶(日)Moku-ren-ken-dai-shin-shu-jō-nen-tetsu-ten-shin-gyō. (支)Mu-lien-chien-ta-shên-chung-shêng-jan-t'ieh-ch'an-shên-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻雜阿含經第十

九卷の抄出。❼〔參考〕出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

目連五百問戒律中輕重事經釋 ❶(日)Moku-ren-go-hyaku-mon-kai-ritsu-chū-kyō-jū-ji-kyō-shaku. (支)Mu-lien-wu-pai-wên-chieh-lü-chung-ch'ing-chung-shih-ching-shih. 五百問經釋 ❷二卷 ❸存、卍續一・九五・三 ❹永海述 ❺明天啓七（A. D. 1627）

❻二卷の五百問事經の釋。撰號は「明慈忠寺傳講毗尼比丘永海述」とあり。三科に分つ。初釋題目、二明譯人、三釋本文である。釋題について名體宗用敎の五重玄義を用ふること、及び釋義に於て天台に依つた所がある。末尾に著者の勸持を說く二偈があり、卷頭にその自序があつて、此經を末世持律の要樞とし、「近雖叡解流通、義類隱略」といひ、此作ある所以、刊行の由來を記す。　（大野法道）

目連五百問經雜套 ❶(日)Moku-ren-go-hyaku-mon-gyō-zat-tō. 目連問戒律中五百輕重事經雜套 ❷二卷 ❸存 ❹守篤本純（—明和六 A. D. 1769）述 ❾寫本（谷大、餘大・一八九七）

目連五百問經略解 ❶(日)Moku-ren-go-hyaku-mon-gyō-ryaku-ge. (支)Mu-lien-wu-pai-wên-ching-liao-chieh. 目連問戒律中五百輕重事經略解、五百問經略解 ❷二卷 ❸存、卍續一・七一・一 ❹性祇述 ❺明崇禎七（A. D. 1634）

❻二卷の五百問事經の釋。撰號は「明姑蘇報國寺弘戒沙門性祇述」とあり。二科に分つ。初釋題、二釋文である。經の一々の問答について、例せば佛事品の第一を佛物可移問といふ如く立名するを特色とする。卷頭に著者の自序ありて、此經を初心入道の樞機、末運修行の關鍵とし、佛の觀宜に非ずと疑ふ者あるを誡め、之に依つて威儀を儼護すべきを說き、「近有幾家疏註、文繁頗足而亦未盡其詳」と此著ある所以を掲げ、又釋題の下に時流の大言壯語を誡めて、「開口便言、我修大乘頓敎、超佛越祖、悟道在心、不在戒相、何用如是繁瑣、反拘手身耶。……此卽執理行廢事行、不達理事無礙者之過也」といふ。卷尾に較讐と音釋を附す。　（大野法道）

目連降龍王經 ❶(日)Moku-ren-gō-ryū-ō-gyō. (支)Mu-lien-chiang-lung-wang-ching. 目連降龍經、降龍王經 ❷一卷 ❸缺 ❹宋求那跋陀羅（太元一九—泰始四 A. D. 394—468）譯 ❻第二譯。❼〔參考〕出三藏記第四、開元錄第一五、貞元錄第二四

目連十一通 ❶(日)Moku-ren-jū-ichi-tsū. ❷一册 ❸存 ❾（哲、え・三・右・一九）

目連所問經 ❶(日)Moku-ren-sho-mon-gyō. (支)Mu-lien-so-wên-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼〔參考〕出三藏記第四、法經錄第三、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

目連所問經 ❶(日)Moku-ren-sho-mon-gyō. (支)Mu-lien-so-wên-ching. ❷一卷 ❸存、大正二四・九一一 No. 1468、縮冪一〇、卍一五・三、北1143輯、南1140輯、元1143輯、明北813則、清813則、麗1140經、天1137輯、法1357高、至1370志、明南811則、Nj. 817 ❹法天譯 ❺宋開寶六（A. D. 973—）

❻違犯して慚愧なく、律を犯して地獄に墮在する歲年を、目連が問へるに對し佛が答されたるもの。六項に分る。第一行非法行は四天王天の五百年、人間歲數九百萬歲、第二不依說法は忉利天の千歲、第三行波逸提は夜摩天の二千歲、第四犯吐羅鉢底は兜率陀天の四千歲、第五犯僧伽婆尸沙法は化樂天の八千歲、第六犯波羅夷法は他化自在天の一萬六千歲で、夫々人間の歲數を擧げる。目連の問辭を「而得其福」又は「得多福利」と譯したるはその意を失つてゐる。

本經は犯戒罪報輕重經の異本といふべきものである。彼經の內容が擴大されて本經と成つたといふよりも、彼れに無かつた六項の問辭を設けたこと、及び彼の偈を除去したことが異點の大なるものだからである。本書は祥符年間、追加として大藏に編入し至元錄に至つて小乘律に收錄し、明藏等には宋元續入部に入れ、縮刷藏經は小乘律部に入れ大正藏經は犯戒罪報輕重經の次に編入した。❼〔參考〕淨土依憑經論章疏目錄　（大野法道）

目連所問經 ❶(日)Moku-ren-sho-mon-gyō. 現代意譯目連所問經 ❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第九律部 ❹豐崎達人譯

目連上淨居天經 ❶(日)Moku-ren-jō-jō-go-ten-gyō. (支)Mu-lien-shang-ching-chü-t'ien-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉竺法護（—泰始二—建興元 A. D. 266—313—）譯 ❼〔參考〕仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二、開元錄第一四、貞元錄第二四

目連說餓鬼因緣經 ❶(日)Moku-ren-setsu-ga-ki-in-en-gyō. (支)Mu-lien-shuo-ê-kuei-yin-yüan-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼〔參考〕武周錄第一一

目連弟布施望即報經 ❶(日)Moku-ren-tei-fu-se-mō-soku-hō-kyō. (支)Mu-lien-ti-pu-shih-wang-chi-pao-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻出曜經第十六卷の抄出。❼〔參考〕出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

目連問戒律中五百輕重事 ❶(日)Moku-ren-mon-kai-ritsu-chū-go-hyaku-kyō-jū-ji. (支)Mu-lien-wên-chieh-lü-chung-wu-pai-ch'ing-chung-shih. 五百問事經 ❷一卷 ❸存、大正二四・九七二（No. 1483）、麗936人 ❺東晉代（A. D. 317—420）失譯

❻末世の比丘が律を犯したる罪報の輕重について、目連の問に答へたるもの。十八品に分る。（一）五篇事品。（二）佛事品。（三）法事品。（四）結界法品。（五）歲坐事品。（六）度

人事品(七)受戒事品。(八)受施事品。(九)疾病事品。(十)比丘死亡事品。(十一)三衣事品。(十二)鉢事品。(十三)雜事品。(十四)三自歸事品。(十五)五戒事品。(十六)十戒事品。(十七)沙彌品。(十八)說坐竟懺悔文である。第一の五篇事品は、衆學戒、波羅提々舍尼、波夜提、偷蘭遮、僧伽婆尸沙、波羅夷を犯す時、泥犂中に在る年數を、各天と人との歳にて擧げるが、第二品已下は全く形相が異つて、種々の品名に關はれる事項、例せば第十品に、問、師徒父母兄弟の死したるに哭することを得るや否や。答、得ず。一たび犯を擧ぐるも墮を犯す、正に小小泣涙すべきのみ」と言ふ如き問答體になつてゐる。すべて三百六十七問ある。

本書は開元錄卷十三に始めて小乘律部に編入されたもので、失譯、今附東晉錄、拾遺編入」といふ。何に依て東晉失譯とするか不明である。蓋し歷代三寶紀など之を擧げてゐないからそれより後世のものであらう。更に此の經の第一品は犯戒報無輕重經(安世高譯とあるは誤)と同じもので、彼に「若比丘比丘尼」とあるを、此は「末世比丘」と改め、墮獄年數が少し異るだけである。故に彼經に第二品已後を附加して此經が成つたもので、その中には支那での問題と認むべきものもある。又答說に出すものは廣律と矛盾する所もある。開元錄の犯戒報無輕重經の下に「出目連問毘尼經」と註してゐるが、此經の全形が本來のものとは思はれない。舶來藏經目錄には本書を小乘律の後に附疑似雜錄經と標して擧ぐ。

❷(注釋) 釋二卷(卍續一・九五・三) 明・永海。略解二卷(卍續一・七一・一)明・性祇。(參考) 開元錄第一三、第二〇、貞元錄第二三、第三〇 (大野法道)

目連問戒律中五百輕重事經

❶(日)Moku-ren-mon-kai-ritsu-chū-gohyaku-kyō-jō-ji-kyō. (支)Mu-lien-wen-chieh-lü-chung-wu-pai-chieng-chung-shih-chieng. 五百問事經 ❷二卷別本 ❸存、大正二四・九八三No.1463、舶來一〇、卍一九・七、北1563藏、清1148藏、元939來、指921入、法921入、至1931藏、明南1325藏、N.1145 ❺東晉代(A.D.317—420)失譯 ❻目連問戒律中五百輕重事の異本である。輕重事の第十八歳坐竟懺悔文を、此經は第十八としないから品を擧げれば縁山三大藏總目錄卷中の言ふ如く十七品である。問答は二百二十問あつて、輕重事の三百六十七問の所々が省略されてゐる。二卷に分けたのは明藏からであつて、それ已前はすべて一卷であつた。 ❾貞享元刊(龍大、二二九・三) 光緒二刊(京大、藏・二四モ・一) (大野法道)

目連問戒律中五百輕重事經略解

❶(日)Moku-ren-mon-kai-ritsu-chū-gohyaku-kyō-jō-ji-kyō-ryaku-ge. (支)Mu-lien-wen-chieh-lü-chung-wu-pai-chieng-chung-shih-chieng-lüeh-chieh. 目連五百問經略解、五百問經略解 ❷二卷 ❸存、卍續一・七一・一 ❹性祇述 ❺明崇禎七(A.D.1634) ❻目連五百問經略解の下を見よ。 ❾寫本(京大、藏・四モ・一)

目連問經 ❶(日)Moku-ren-mon-gyō. (支)Mu-lien-wen-ching. 犯戒報輕重經、犯戒報輕重經、犯戒報應輕重經、犯報經 ❷一卷 ❸存、大正二四・九一〇No.1467、舶來一〇、卍一七・三、北2511來、南2415來、元911來、明北1107初、清1107初、麗939入、天922來、指923入、法924入、至1945藏、明南1351比、N.1112 ❹安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A.D.149—170) ❻犯戒報輕重經の下を見よ。

目六 ❶(日)Moku-roku. ❷一冊 ❸存 ❺天龍二寫 ❾(谷大、餘丙・六一)

目六 ❶(日) Moku-roku. ❷一軸 ❸存 ❹本願律師作 ❺正中二寫 ❾(金剛三昧院)

目錄集 ❶(日)Moku-roku-shū. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、一〇三・四九)

沐像法 ❶(日) Moku-zō-hō. ❷一冊 ❸存 ❹寬龍譯 ❺寬延三寫 ❾(高大、寄・一・六五)

沐浴作法 ❶(日)Moku-yoku-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❾南北朝時代寫(寶壽院)

沐浴作法 並諸作法 ❶(日) Mokuyoku-sa-hō-narabini-sho-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶壽院)

沐浴佛像作法 ❶(日) Moku-yoku-butsu-zō-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶壽院)

默菴集 ❶(日)Mo-ku-an-shū. ❷一卷 ❸存 ❹默庵最誦語、臥月數洋編 ❺大正一五寫 ❾(駒大)

默雲稿 ❶(日) Mo-ku-un-kō. ❷一卷 ❸存 ❹天隱龍澤(龍水二九—明應九A.D.1432—1500)撰 ❼(參考) 扶桑禪林書目、日本禪林撰述書目、大日本佛教全書續刊豫定書目

默雲詩稿 ❶(日) Moku-un-shi-kō. ❷一卷 ❸存、續群書類從第一三 ❹天隱龍澤(龍水二九—明應九A.D.1432—1500)撰 ❺五山文學者天隱龍澤が詠じた絶句のみを五百數十首を撰出集錄したものである。著者の名は龍澤、字は天隱、默雲は其の別號である。播州揖西郡千本村の人で龍水二十九年に生る。七歳で上京叔寶洲衆の室に投じて童役となり後薙髮して建仁寺に屬した。長じて法を天柱和尚に嗣げ更に轉じて洛北の眞如寺に住した。文明十四年三月十六日建仁寺二百十八世に嗣業して大昌院に住し、後にまた轉じて南禪寺二百三十一世に陞住、明應九年九月二十三日壽七十九を以て示寂した。著書は本書の外に梨竹眞如集と稱する語錄と外に文集二卷がある。 (高倉永輝)

默雲小補疏稿 ❶(日)Moku-un-shō-hō-shō-kō. ❷一卷 ❸存 ❹天隱龍澤(龍水二九—明應九A.D.1432—1500) ❼(參考) 禪籍目錄

默應和尚遺稿 ❶(日)Moku-ō-wa-shō-i-kō. ❷一卷 ❸存 ❹藍山文龍等編 ❺明治四二刊 ❾(駒大)

默坐消遣集 ❶(日) Moku-za-shō-kem-shū. ❷一卷 ❸存 ❹赤松光映(文化

六—明治一八A.D.1823—1885)著 ❺慶應四刊 ❾(金台院)(觀山、吉祥)

默山和尚年譜 ❶(日)Moku-san-ō-shō-nen-pu. ❷一卷 ❸存 ❹春江撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

默子素淵和尚語錄 ❶(日) Moku-shi-so-ga-o-shō-go-roku. 默子和尚語錄 ❷一卷 ❸存 ❹默子素淵語 ❺寬延二刊 ❾(京大、日大未、五二七)(駒大)

默室長要禪師錄 ❶(日)Moku-shitsu-chō-yō-zen-ji-roku. ❷一卷 ❸存、瑞岡珍牛禪師附錄 ❹默室良要語 ❺大正一〇刊 ❾大阪法華寺

默照銘拈古 ❶(日)Moku-shō-mei-nen-ko. ❷一卷 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六A.D.1683—1769) ❻面山廣錄第十七分出刊行せるもの。 ❾刊本(駒大)

默照銘聞解 ❶(日)Moku-shō-mei-bun-ge. 宏智古佛默照銘聞解 ❷一卷 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六A.D.1683—1769)、慧觀編 ❺明和六刊 ❾(駒大)

默仙禪師南國巡禮記 ❶(日)Moku-sen-zen-ji-nan-ku-jun-rei-ki. ❷一卷 ❸存 ❹來馬琢道編 ❺大正五刊 ❾(谷大、餘洋・四三五)(駒大)

默仙禪話 ❶(日)Moku-sen-zen-wa. ❷一卷 ❸存 ❹日置默仙語 ❺大正一〇刊 ❾東京禪話叢書刊行會

默宣和尚談話記 ❶(日)Moku-sen-o-shō-dan-wa-ki. ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

默餘草 ❶(日) Moku-yo-sō. ❷一卷 ❸存 ❹無隱元享作、雄鶴編 ❼(參考) 禪籍目錄

默雷禪話 ❶(日)Moku-rai-zen-wa. ❷一卷 ❸存 ❹武田默雷語、中外日報社編 ❺明治四〇刊 ❾(谷大、餘洋、三七九)(正大、一七八・二)(龍大、二六七九・八〇)(駒大)(帝國、三二四・二九)

鵰之草莖 ❶(日)Mon-no-kusa-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹傳、謹如(應永二二—明應八A.D.1415—1499) ❺天明二寫 ❾(龍大、一一三・五九、研眞)

勿言 ❶(日)Motsu-gen. 賢遶私記 ❷一卷 ❸存 ❹賢遶記 ❺康和元寫 ❾(無動寺)

勿字解 ❶(日)Motsu-ji-ge. ❷一卷 ❸存 ❹湛慧(延寶五—寶延元A.D.1677—1748) ❺文化八刊 ❾(正大、一〇九・二二二、二八七)(高大、寄・一・一三)

沒絃琴 ❶(日) Motsu-gen-kin. ❸存 ❹月溪洞水(享保一三—享和三A.D.1728—1803) ❼(參考) 禪籍目錄

沒絃琴 ❶(日)Motsu-gen-kin. ❷一卷 ❸存 ❹高泉性潡(寬永一〇—元祿八A.D.1633—1695) ❼(參考)禪籍目錄

沒後作法 ❶(日) Motsu-go-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶壽院)

沒後遺誡文 ❶(日) Motsu-go-yui-kai-bun. ❸存、法然上人全集第五 ❹源空(長承二—建暦二A.D.1133—1212) ❻建久八年秋上人大患に罹らせられたる聖春、選擇集を撰述せられたのであるが、尚上人沒後の感懷より此年四月八日に葬家迅善の事と房分資具等を詳ふべからざるの事との二ケ條の遺誡を認められたものである。漢語燈錄第十、圓光大師行狀翼贊第三十九、四十五等參照。 (塚田弘導)

沒駄鈔 ❶(日)Motsu-da-shō. ❷源運(天永三—治承四A.D.1112—1180) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

沒駄胃地決斷 ❶(日)Motsu-da-bō-ji-ketsu-dan. ❸存 ❹榮性(明和五—天保八A.D.1768—1837) ❺寬政六刊 ❾(龍大、研佛)

沒滅私考 ❶(日)Motsu-metsu-shi-kō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶壽院)

物庵禪話 ❶(日)Mots-an-zen-wa. ❷一卷 ❸存 ❹近重眞澄著 ❾明治四〇刊(京大、一・二五モ・五)明治四四刊(京大、一・二五モ・三)、谷大、餘大・二〇八〇)(駒大)

物外和尚逸傳 ❶(日)Motsu-gwai-o-shō-itsu-den. ❷一卷 ❸存 ❹高田道見—大正一二A.D.1923)著 ❺明治三八刊 ❾東京佛教館

物外和尚大圓鏡 ❶(日) Mots-gwai-o-shō-dai-en-kyō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

物外和尚俳句集 ❶(日) Motsu-gwai-o-shō-hai-ku-shū. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

物初和尚語錄 ❶(日) Mots-sho-o-shō-go-roku. (支) Wu-chu-ho-shang-yü-lu. 物初大觀禪師語錄、物初觀和尚語錄 ❷一卷 ❸存、卍續二・二六・一 ❹宋物初大觀、宗紹編、性潛等編

物初大觀禪師語錄 ❶(日) Motsu-sho-tai-kan-zen-ji-go-roku. (支) Wu-chu-ta-kuan-ch'an-shih-yü-lu. 物初和尚語錄、物初觀和尚語錄 ❷一卷 ❸存、卍續二・二六・一 ❹宋物初大觀語、德潛等編 ❻杭州淨慈北磵の敬叟居簡禪師の法嗣、南岳下十八世物初大觀禪師の六會語要を門人德潛等が編錄したものである。

物初禪師、諱は大觀、字物初、浙江寧波府鄞縣橫溪の陳氏に生れ、居簡禪師に得法したものである。其の語要は南宋理宗帝淳祐元年七月(A.D.1241)臨安府法相禪院上堂語より始り、安吉州顯慈禪寺語錄、紹興府象田興教禪院語錄、慶元府智門禪寺語錄、慶元府大慈名山教忠報國禪寺語錄、及び南宋理宗帝景定四年十一月十日(A.D.1263)入寺した慶元府阿育王山廣利禪寺語錄の六會の上堂示衆の語要に、小參、法語頌古、佛祖讚、偈頌、及び小佛事の香語を收めたものである。 (大久保堅瑞)

物初賸話 ❶(日)Mots-sho-jō-go. ❷五卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

物堂和尚偈頌 ❶(日)Motsu-dō-shō-gō-ju. ❷一卷 ❸存 ❹物堂 ❼(參考) 禪籍目錄

物不遷正量論 ❶(日)Motsu-fu-sen-shō-ryō-ron. (支) Wu-pu-ch'ien-cheng-lun-yü-cheng. ❷一卷 ❸存、卍續二・二四 ❹明道衡述

❻本書は明の五臺山僧子寫沙門鎮澄が清涼國師の後をうけて肇師の物不遷論を論駁したるに對し、慧日永明寺の道衡がそれ等觀

國師や澄禪師の論駁は謬說であるとして、肇師の物不遷論の眞意を闡明にせんとして成つたものである。觀國師や澄禪師が論駁したと云ふのは、肇師の物不遷の義は小乘有見の常情に濫同するものであつて大乘性空の妙理に背くとするものであり、これに對して道衡はそれ等の物不遷の義は肇師の物不遷に非ずとし、從つて物各性住卽ち性空を以て肇師不遷の眞意として、物不遷論に對する誤謬の理解を正さんとしたものである。　（秋芳光運）

物不遷正量論 ❶(日)Motsu-fu-sen-shō-ryō-ron. (支) Wu-pu-ch'ien-chêng-liang-lun. ❷二卷 ❸存、卍續二・二・四 ❹明僴澄著 ❻淸涼國師が僧肇の物不遷論を小乘に濫同すと論駁した後をうけて同じ意見の下に物不遷論を論駁するのである。卽ち物不遷の義を以て小乘有見に濫同すると爲し、肇師の立場から論駁を加へたものである。これに對しては更に辯駁も加へられたのであらう、下卷に數人の駁書を揭げ、これに亦論駁を加へてゐる。❾刊本(龍大、二六四二・九)(京大、藏・二四フ・一二)(高大、寄・一・二四)　（秋芳光運）

物不遷論辯解 ❶(日)Motsu-fu-sen-ron-ben-ge. (支) Wu-pu-ch'ien-lun-pien-chieh. ❷一卷 ❸存、卍續二・二・四 ❹明眞界解 ❻本書は僧肇の物不遷論に對する註釋であるが、更に表題に辯解と云ふ如く、淸涼國師や鎭澄禪師に依つて物不遷論が論駁せられ、これに對日永明寺の道衡が辯駁を加へたが、本書はこの道衡の解釋をその儘處々に採用し、誤られた解釋に對して辯解せんとしてゐるものである。❺承應四刊 ❾(龍大、二六四二・一一)　（秋芳光運）

物語記 ❶(日)Mono-gatari-ki. ❷一帖 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三A. D. 1345—1416) ❺寬延四寫 ❾(寶龜院)

物語草子十二種 ❶(日)Mono-gatari-zō-shi-jū-ni-shu. ❸存、國文東方佛敎叢書第一輯第九文藝部上 ❻あを葉の笛物語、つくも神、硯破、幻夢物語、常盤嫗物語、大佛供養物語、西行物語、善教房物語、三人法師、暮露々々のさうし、佛鬼軍、山家一休の十二種の物語を輯む。

求めよ與へられん ❶(日)Moto-me-yo-ata-e-ra-re-n. ❷一冊 ❸存 ❹釋宗演(—大正八A. D. 1919)述、高橋北堂編 ❺昭和二刊 ❿東京中央出版社

紅葉 ❶(日)Momi-ji. ❹澄豪(正元元—觀應元A. D. 1259—1350)撰 ❼(參考)本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷下

紅葉赤山影嚮祕密記 ❶(日)Momi-ji-seki-zan-yō-kō-hi-mitsu-ki. 紅葉惣錄、故有要 ❷一卷 ❸存 ❹澄豪(正元元—觀應元A. D. 1259—1350)記 ❾寫本(眞如藏)

紅葉山東照宮獻供奉幣式 ❶(日)Momi-ji-yama-tō-shō-gū-ken-ku-hō-hei-shiki. ❷一卷 ❸存、慈眼大師全集卷上

紅葉錄 ❶(日)Momi-ji-roku. ❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目

桃園院盛化門院恭禮門院御年忌留 ❶(日)Momo-zono-in-sei-kwa-mon-in-kyō-rei-mon-in-go-nen-ki-no-todome. ❷一卷 ❸存 ❺寬政七寫 ❾(帝室、一〇九・七〇)

森川家系圖 ❶(日)Mori-kawa-ke-kei-zu. 新集森川家系圖 ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第一七 ❹長谷寶秀編 ❻森川家は上月安範(慈雲尊者の父)の第三男義陣を初代とし現主淸氏は第九代に當り、今東京大久保百人町に住す。この系圖は森川家所藏の系圖、過去帖、由緒書等に依つて編してゐる。　（高見寬恭）

森川氏過去帳 ❶(日)Mori-kawa-shi-kwa-ko-chō. ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第一七 ❹慈雲飲光(享保三—文化元A. D. 1718—1804)編 ❻この過去帖は序及跋並に靈名約五十は尊者の直筆にして外に二十餘靈名は後人の加筆である。❾自筆本(東京森川家)　（高見寬恭）

森廿五日講御消息信順鈔 ❶(日)Mori-ni-jū-go-nichi-kō-go-shō-soku-shin-jun-shō. ❷一卷 ❸存 ❺明治一八寫 ❾(龍大、硏眞)

文覺四十五箇條附官符 ❶(日)Mon-gaku-shi-jū-go-ka-jō-tsuketari-kwan-pu. 神護寺舊記 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第一一九寺誌叢書第三、史籍集覽第一二 ❹文覺 ❺元曆二(A. D. 1185)正月 ❻本書は京都高雄山神護寺の舊記で、定置四十五箇條及び寬喜、天長年間の太政官符を揭げてゐる。當山は弘法大師の遺蹟として夙に有名であるが、年を經て衰頹毀廢したのを文覺上人に依つて中興されたものである。文覺は、佛法の興隆は偏におほやけの御心と僧徒の心とによるべき事を思ひ、身を挺して當寺の再興を後白河法皇に奏請し遂に其意を貫徹したのである。此處に於て末代迄佛法興隆し、寺運退轉せざる樣、大いに發達の僧徒を誡訓したものが卽ち此の定置四十五箇條の起請文である。文覺は俗姓を遠藤盛遠といひ、性勇悍にして武藝に長じ、致仕して院の武者所となる。十八歲の時誤つて源渡の妻袈裟を殺害し、翻然悔悟して出家したもので、此事は古來文學や劇に依つて人口に膾炙する所である。文覺嘗て當山再興奏上の砌、罪を得て伊豆に流されたが、偶々彼地で賴朝と相識り、後彼の禮遇を受けた。當山再興も亦彼の力に據る所大である。晚年其威勢に乘じて朝廷の廢立を謀り、露顯して佐渡に流され（正治元A. D. 1199）、配所にて死す。時に年八十。❾原本(高雄山神護寺—國寶)　（不破幹雄）

文覺上人 ❶(日)Mon-gaku shō-nin. 達夜說敎文覺上人 ❷一卷 ❸存 ❹參葵道人著 ❺明治二八刊 ❾(立大、B一六・七四)

文覺上人行狀記 ❶(日)Mon-gaku-shō-nin-gyō-jō-ki. 說敎因緣文覺上人行狀記 ❷五卷 ❸存 ❹南溟 ❾寫本(谷大、餘大・一九九三)

文覺上人行略抄 ❶(日)Mon-gaku-shō-nin-gyō-ryaku-shō. ❷五卷 ❸存 ❹南溟 ❺寶曆二刊 ❾(谷大、餘大・一二六五)

文覺禪師坐禪論附解題原文 ❶(日)Mon-gaku-zen-ji-za-zen-ron-tsuketari-kai-dai-gen-bun. ❸存、國譯禪宗叢書第九

文軌師章 ❶(日)Mon-ki-shi-shō. (支) Wên-kuei-shih-chang. ❷一卷 ❼〔參考〕奈良朝現在一切經疏目錄2757

文義憶持鈔 ❶(日)Mon-gi-oku-ji-shō. ❷二卷 ❹道範(元曆元—建長四A. D. 1184—1252) ❼〔參考〕諸宗章疏錄第三

文義綱目 ❶(日)Mon-gi-kō-moku. ❷一卷 ❹明道述

文義集 ❶(日)Mon-gi-shū. ❷一卷 ❸存 ❹亮辨集 ❾寫本(日光藏)

文義要 ❶(日)Mon-gi-yō. 三論玄疏文義要 ❷十卷 ❸存、大正七〇・一九九No. 2299、大日本佛敎全書第七五 ❹珍海(—仁平二A. D. 1152)述 ❺天永之頃—保延二(A. D. 1131—1136) ❻三論玄疏文義要の下を見よ。

文義要決問答 ❶(日)Mon-gi-yō-ketsu-mon-dō. (支)Wên-i-yao-chüeh-wên-ta. 華嚴經文義要決問答、華嚴經文義要決 ❷四卷 ❸存、卍續一・一二・四 ❹新羅表員述 ❻華嚴經文義要決問答の下を見よ。

文句 ❶(日)Mon-gu. (支)Wên-chü. 妙法蓮華經文句、法華文句、法華經文句 ❷二十卷或十卷 ❸存、大正三四・一No. 1718、縮調一、北1438龍、明北1529定寧、淸1491賀肥、天1428俊乂、至1607敎、明南1521更驅、Nj. 1536 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A. D. 538—597)說 ❻妙法蓮華經文句の下を見よ。

文句格言 ❶(日)Mon-gu-kaku-gon. (支)Wên-chü-ko-yen. 法華經文句格言、法華文句格言 ❷三卷 ❸存、卍續一・四六・四 ❹宋善月(紹興一九—淳祐元A. D. 1149—1241) ❻法華經文句格言の下を見よ。❺承應二刊 ❾(正大、一一四二・九八)(晢、ゐ・八・左・八)(高大、寄・一・一五)(立大、A一一・八七—八九)(京大、藏・七モ・一)(叡山、天海)

文句覺要鈔 ❶(日)Mon-gu-kaku-yō-shō. ❷十二卷或十卷 ❸存 ❹承詮述 ❺文永八寫 ❾(眞如藏)

文句記 ❶(日)Mon-gu-ki. (支)Wên-chü-chi. 法華文句記、法華經文句記、妙法蓮華經文句記、法華文句疏、妙法蓮華經文句疏記 ❷三十卷 ❸存、大正三四・一五一 No. 1719、縮調二一—三、卍三二・一—四、北1439國橫、明北1530晉至更、淸1492經至功、天1431寔至晉、至1608素、明南1523趙魏、Nj. 1537 ❹唐湛然(景雲二—建中三A. D. 711—782)述 ❻法華文句記の下を見よ。❾刊本(晢、ゐ、六・中・二五、ゐ・六・左・一)

文句記講義 ❶(日)Mon-gu-ki-kō-gi. 法華文句記講義 ❷十五卷 ❸存、法華經三大部講義之內 ❹慧澄癡空(安永九—文久二A. D. 1780—1862)述 ❺嘉永五刊 ❾(立大、A一一・一三一)(晢、の・一・左・二二、の・二・右・一)

文句記講錄 ❶(日)Mon-gu-ki-kō-roku. 法華文句記講錄 ❷二十五冊 ❸存 ❾刊本(晢、ゐ・八・中・一)

文句記述解 ❶(日)Mon-gu-ki-jutsu-ge. 法華文句記述解 ❷一冊 ❸存 ❹乾龍日乘述、存道日勇校正 ❾刊本(晢、の・一・中・二六)

文句記箋難 ❶(日)Mon-gu-ki-sen-nan. (支)Wên-chü-chi-chien-nan. 法華經文句記箋難、法華文句記箋難、文句箋難 ❷四卷 ❸存、卍續一・四六・三 ❹有嚴(—建中靖國元A. D. 1101)箋 ❺宋元豐元(A. D. 1078) ❻法華經文句記箋難の下を見よ。

文句記攬剛 ❶(日)Mon-gu-ki-ran-gō. 法華文句記攬剛 ❷九卷 ❸存 ❹乾龍日乘述、存道日勇校 ❺寶曆九刊 ❾刊本(晢、ゐ・八・左・五一)

文句口傳略頌 ❶(日)Mon-gu-ku-den-ryaku-ju. ❷一卷 ❸存 ❹疊超(天曆九—長曆元A. D. 955—1037) ❾寫本(叡山、慈眼)

文句科解 ❶(日)Mon-gu-kwa-ge. 法華文句科解 ❷二十三冊 ❸存 ❾刊本(晢、ゐ・五・左・一)

文句見聞 ❶(日)Mon-gu-ken-mon. 法華文句見聞 ❷十九卷 ❸存、法華三大部見聞之內 ❹明導照源(—應安元A. D. 1368)述、顯幸記 ❻法華三大部見聞の下參照。❾寬永一九寫(叡山、別當)寫本(叡山、毘門)

文句見聞 ❶(日)Mon-gu-ken-mon. ❷一卷 ❸存 ❹尊契述 ❻文句序の注なり。❺享祿四寫 ❾(叡山文庫)

文句見聞 ❶(日)Mon-gu-ken-mon. ❷三卷 ❸存 ❺萬治二刊 ❾(叡山、壽量)

文句講述 ❶(日)Mon-gu-kō-jutsu. 法華文句講述 ❷二卷 ❸存、法華經三大部講述之內 ❹守脫大寶(文化元—明治一七A. D. 1804—1884)述 ❾寫本(立大、A一一・一三四)

文句參解 ❶(日)Mon-gu-san-ge. 法華文句參解 ❷四卷 ❸存 ❹辨成述 ❾刊本(晢、の・中・一・一八)

文句私記 ❶(日)Mon-gu-shi-ki. 法華疏私記、法華文句疏私記、法華文句私記二法華三大部私記之內 ❷十卷 ❸存、大日本佛敎全書第二一—二二 ❹證眞(—文治頃A. D. 1185—1189—)述 ❻法華疏私記の下を見よ。❾刊本(晢、ゐ・七・中・八)

文句私見聞 ❶(日)Mon-gu-shi-ken-mon. 法華文句見聞 ❷二卷 ❸存 ❹善海述 ❾寫本(眞如藏)

文句私志記 ❶(日)Mon-gu-shi-shi-ki. (支)Wên-chü-ssŭ-chih-chi. 妙經文句私志記、法華文句私志記 ❷十四卷 ❸存、卍續一・四五・四—四六・二 ❹唐智雲述 ❻妙經文句私志記の下を見よ。❾承應四

刊(叡山、別當)刊本(叡山、天海)(晉、ゐ・八・左・二一)

文句私志諸品要義 ❶(日)Mon-gu-shi-shi-sho-hon-yō-gi. (支)Wen-chu-si-chih-chu-p'in-yao-i. 妙經文句私志諸品要義、法華文句私志諸品要義、石鼓寺題雜記、法華文句諸品要義、法華諸品要義 ❷二卷 ❸存、卍續一・四九・四 ❹虎智雲述 ❺妙經文句私志諸品要義の下を見よ。 ❾刊本(晉、ゐ・八・左・一六)(叡山、論景)

文句述聞 ❶(日)Mon-gu-jutsu-mon. 法華文句述聞 ❷二十五卷 ❸存、法華三大部見聞之内 ❹明寂照源一(應安元A.D.1368)述、顯率記 ❺法華三大部見聞の下を參照。 ❾寛永一九寫(叡山、別當)寫本(叡山、昆門)

文句隨聞記 ❶(日)Mon-gu-zui-mon-ki. 法華文句隨聞記 ❷十三卷 ❸存 ❹日蓮(元龜三—寛永一九 A.D.1572—1642) ❾寛永一〇刊(晉、ゐ・七・左・一一)(叡山、天海)明暦二寫(叡山、天海)

文句箋難 ❶(日)Mon-gu-sen-nan. (支)Wen-chu-chien-nan. 法華經文句記箋難、法華文句記箋難、文句記箋難 ❷四卷 ❸存、卍續一・四六・三 ❹有厳一建中靖國元A.D.1101)箋 ❺宋元豐元(A.D.1078)述 ❻法華經文句記箋難の下を見よ。 ❼(參考)諸宗章疏錄第二

文句章談 ❶(日)Mon-gu-sho-dan. ❷十四卷 ❸存 ❹慈舜(—明應頃 A.D.1492—1500—) ❼(參考)天台宗全書刊行豫定書目

文句大綱見聞 ❶(日)Mon-gu-tai-kō-ken-mon. 文句略大綱私見聞、法華文句略大綱私見聞 ❷七卷 ❸存、大日本佛教全書第一八 ❹豊舜(—明應頃 A.D.1492—1500—)述 ❺文句略大綱私見聞の下を見よ。 ❻萬治二刊 ❾(高大、寄・一・一五)

文句抜萃 ❶(日)Mon-gu-bas-sui. ❷一卷 ❸存 ❹富田海晉抜萃 ❾(立大、D一・五)

文句標條 ❶(日)Mon-gu-hyō-jō. 法華文句標條 ❷一卷 ❸存 ❾刊本(叡山、慈眼)

文句輔正記 ❶(日)Mon-gu-fu-shō-ki. (支)Wen-chu-yao-chieh. 法華經文句輔正記、法華文句輔正記、法華天台文句輔正記、輔正記 ❷十卷 ❸存、卍續一・四五・一—二 ❹虎道湛述 ❺法華經文句輔正記の下を見よ。 ❾刊本(晉、ゐ・七・左・一)

文句無師 ❶(日)Mon-gu-mu-shi. 法華文句無師 ❷二十五卷 ❸存 ❹日琎、日詮、日諦述 ❺元祿二一刊 ❾(正大、一一七五・八四)

文句要決 ❶(日)Mon-gu-yō-ketsu. (支)Wen-chu-yao-chieh. ❷十卷 ❹湛道(—貞元元A.D.785—)述 ❼(參考)諸宗章疏錄第二

文句略頌 ❶(日)Mon-gu-ryaku-ju. 法華文句略頌 ❷一卷 ❸存 ❹圓珍(弘仁五—寛平三A.D.814—891) ❼(參考)諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目 ❾寫本(叡山、密厳)

文句略大綱私 ❶(日)Mon-gu-ryaku-tai-kō-shi. 法華文句略大綱私 ❷三卷 ❸存 ❹賢海述 ❾寫本(西教寺)

文句略大綱私見聞 Mon-gu-ryaku-tai-kō-shi-ken-mon. 文句大綱見聞 ❷七卷 ❸存、大日本佛教全書第一八 ❹豊舜(—明應頃 A.D.1451—1514) ❺本書は常陸國那珂郡月山寺の學僧豊舜が明應年間(A.D.1492—1500)同寺大衆の請によって三大部大綱見聞又は三大部見聞と名けた。講巻は十六巻。止觀大綱見聞三巻。玄義大綱見聞六巻。文句大綱見聞七巻がそれである。本書は室町末期の關東天台學風特に惠心流を主とした惠心禮那兩流混合思想を明瞭に示し、往々時代風俗を物語り(佛全一八ノ一三二)又は三種神器・神道を論じ(同上二二五等)北叡山の建立由來等屢々論述し、論義・修義の口傳等を略述してゐる。文句の大綱を講述したといふが法華經の大綱を述べ、そして二十八品の各品の終りに必ず塔中の一心三觀と因緣生の一心三觀を經文に附して說いてゐる如きは法華經を止觀法門に收めて天台宗旨を明さんと試みたもの。然し根本思想は本覺法門に立ち本迹一致の思想を採用しながら常に本門の深義を語つてゐる。慈舜談の「止觀見聞」は高觀が改訂したから文章が立派であるが本書は講演筆錄のままを寫傳したらしく室町時代の文體は頗る濃厚に表されてゐるが極めて讀みにくい缺點がある。本書は先づ三大部大綱事。二、文句二字委事。三、文句於爾前迹本觀心四重委事。四、文句二字調點事。等々二十四條は四要品・四種釋一經三段・四種變に就いて法華一經の大綱を述べ、次に序品の下、三十七條に分けて文を釋す(一卷影)次に二卷では方便品の下、五十三條に分け、その中三十四條以下の二十條は十門料簡を釋す。次に譬喩品の下、十七條。信解品の下、九條。藥草喩品の下、十六條。授記品の下、十一條。化城喩品の下、十五條に分けて細釋。次に三卷では五百品の下、十三條。人記品の下、八條。法師品の下、十八條。寶塔品の下、十九條。 次に四卷では提婆品の下、二十三條。勸持品の下、七條。安樂行品の下、十四條。 次に五卷では涌出品の下、十二條。壽量品の下、二十八條。次に六卷では分別品の下、十六條。隨喜功德品の下、七條。法師功德品の下、十三條。不輕品の下、十條。神力品の下、八條。囑累品の下、十二條。藥王品の下、十六條。次に七卷では妙音品の下、十一條。菩門品の下、二十九條。陀羅尼品の下、八條。觀王品の下、六條。 菩賢品の下、十三條に分つて細釋して終る。

❺萬治二刊 ❾(正大、一一四二・九七)(田島惟晋)

文句例講問答 ❶(日)Mon-gu-tō-kō-mon-dō. 法華文句例講問答 ❷五卷 ❸存 ❺寶永六寫 ❾(叡山、華藏)

文顯集 ❶(日)Mon-ken-shū. ❹圓仁(延暦一三—貞觀六A.D.794—864) ❼(參考)山家祖德撰述篇目集卷上、密乘撰述目

文句章句言句集 ❶(日)Mon-ji-shō-gon-mon-shū. 文章言句集 ❷一卷 ❸存 ❹能瑜 ❾寫本(叡山、華藏)

文字聲韻音訓篇 ❶(日)Mon-ji-shō-in-on-kun-hen. 法華經文字聲類韻音訓篇集、法華經音訓 ❷三卷 ❸存 ❹快倫述 ❺寛永一三刊 ❾(帝國、一八九・八二)

文字禪 ❶(日)Mon-ji-zen. (支)Wen-tzu-ch'an. 筠谿集、石門文字禪 ❷二卷 ❸存 ❹宋慧洪覺範(熙寧四—建炎二A.D.1071—1132) ❼(參考)禪籍目錄

文字禪 ❶(日)Mon-ji-zen. ❷一卷 ❸存 ❹加藤咄堂著 ❾(駒大)

文字般若 ❶(日)Mon-ji-han-nya. ❸存、況齊叢書第三二之内 ❹岡本保孝(寛政九—明治一一 A.D.1797—1878)著 ❾(帝國、一八九・二四五)

文釋集 ❶(日)Mon-shyaku-shū. ❸存 ❾古寫本(龍大、別置)

文殊 ❶(日)Mon-ju. ❷一帖 ❸存 ❺南北朝時代寫 ❾(寶善提院)

文殊 ❶(日)Mon-ju. ❷九帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

文殊 ❶(日)Mon-ju. 文殊石山 ❷一帖 ❸存 ❹道快(—至德頃 A.D.1384—1386—) ❺南北朝末期寫 ❾(寶善提院)

文殊一印記 ❶(日)Mon-ju-ichi-in-ki. ❷一通 ❸存 ❹智光房記 ❺長久二寫 ❾(如來藏)

文殊一字 ❶(日)Mon-ju-ichi-ji. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三八阿彌陀經第四 ❹承澄(元永二—弘安五A.D.1206—1282)

文殊一字呪義 ❶(日)Mon-ju-ichi-ji-ju-gi. ❷一卷 ❹安然(承和八—延喜年間 A.D.841—901—) ❼(參考)諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

文殊一字陀羅尼法 ❶(日)Mon-ju-ichi-ji-da-ra-ni-hō. (支)Wen-shu-i-tuo-lo-ni-fa. 大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼經、文殊師利根本一字陀羅尼經、大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼法、文殊根本一字陀羅尼法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七八〇 No. 1187、鳩摩羅什(—三一・一、北涼426功、南齊479功、元308功、明北1425能、清1723能、麗1365男、天1325功、楷居25男、法524男、至676因、明南1634必、N.3333 ❹寶思惟(—開元九A.D.721)譯 ❺唐長安二(A.D.702)

❻大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼經の下を見よ。

文殊一百八名梵讃 ❶(日)Mon-ju-ji-pyaku-hachi-myō-bon-san. (支)Wen-shu-i-pai-pa-ming-fan-tsan. 文殊師利一百八名梵讃 ❷一卷 ❸存、大正二〇・九三八 No. 1197、鳩摩羅什(—三一・一、北1385千、南1201千、元1105千、明北1065言、清1065言、麗1136月、天1181千、法1309歳、至1526匠、明南660深、N.1073 ❹法天譯 ❺宋開寶六以後(A.D.973—)

文殊因緣經 ❶(日)Mon-ju-in-en-kyō. 曼殊室利菩薩吉祥第四 ❹承澄(元永二—弘安五A.D.1206—1282)

文殊一字呪義 ❶(日)Mon-ju-ichi-ji-ju-gi. ❷一卷 ❹安然(承和八—延喜年間 A.D.841—901—) ❼(參考)諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

文殊一字陀羅尼法 ❶(日)Mon-ju-ichi-ji-da-ra-ni-hō. (支)Wen-shu-i-tuo-lo-ni-fa. 大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼經、文殊師利根本一字陀羅尼經、大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七八〇 No. 1187、鳩摩羅什(—三一・一、北2380効、南2148効、元2308効、明北2525能、清2323能、麗2365男、天2325効、楷居25男、法524男、至676因、明南2634必、N.3333 ❹寶思惟(—開元九A.D.721)譯 ❺唐長安二(A.D.702)

❻大方廣菩薩藏文殊師利根本一字陀羅尼經の下を見よ。

文殊一百八名梵讃 ❶(日)Mon-ju-ji-pyaku-hachi-myō-bon-san. (支)Wen-shu-i-pai-pa-ming-fan-tsan. 文殊師利一百八名梵讃 ❷一卷 ❸存、大正二〇・九三八 No. 1197、鳩摩羅什(—三一・一、北1385千、南1201千、元1105千、明北1065言、清1065言、麗1136月、天1181千、法1309歳、至1526匠、明南660深、N.1073 ❹法天譯 ❺宋開寶六以後(A.D.973—)

❻文殊師利一百八名梵讃の下を見よ。

文殊因緣經 ❶(日)Mon-ju-in-en-kyō. 曼殊室利菩薩吉祥第四 ❹承澄(元永二—弘安五A.D.1206—1282)

文殊院重修碑 ❶(日)Mon-ju-in-jū-shū-hi. ❸存 ❹全富獻撰、釋玭然書 ❼(參考)朝鮮佛教總書刊行豫定書目

文殊院圖像 ❶(日)Mon-ju-in-zu-zō. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶善提院)

文殊應化 ❶(日)Mon-ju-ō-ge. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四、大日本佛教全集第一二八天台震旦第四編第二 ❹大淑(—寛政一一 A.D.1799)

❻武藏國騎西龍華院大淑が「文殊靈驗集」(享保元年A.D.1716刊)三卷を寛政十一年十月既望に纂刊した。本書は實にこの文殊靈驗集第三卷十二話の「江州園城寺沙門圓珍十三」の條を抄錄したもの。而してこの圓珍傳は「新錄」の文を收めたのである。「新錄」なる書は文殊靈驗集の說話によると大淑が國宇の諸書や口碑や耳傳等を筆錄して題した書目である。本書にのみ見られる傳說は圓珍三歳の時に空海が圓珍の生家で圓珍を見て曰く。この兒は凡に非らず謂首(文殊)の應化なりといつたといふ記事である。他の記事は大體天台宗延暦寺座主圓珍傳(三美清行撰)。元亨釋書によつて抄出したものである。 (田島惟晋)

文殊伽陀 ❶(日)Mon-ju-kya-da. (支)Wen-shu-chieh-t'o. 曼殊室利菩薩吉祥伽陀、吉祥伽陀、曼殊伽陀 ❷一卷 ❸存、大正二一・九三八 No. 1195、鳩摩羅什(—三一・一、北1324功、南1293功、元1236功、明北1325能、清1323能、麗1365男、天1325功、楷居25男、法524男、至676因、明南1634必、N.3333 ❹寶思惟(—開元九A.D.721)譯 ❺宋法賢(—成平四 A.D.1001)譯

❻曼殊室利菩薩吉祥伽陀の下を見よ。

文殊儀軌 ❶(日)Mon-ju-gi-ki. (支)Wen-shu-i-kuei. 大方廣菩薩藏文殊師利根本儀軌經、文殊師利根本儀軌經、大方廣文殊儀軌經 ❷二十卷 ❸存、大正二〇・八三五 No. 1191、鳩摩羅什(—三一・一、北1737戸封、南1135戸封、元1147戸封、明北1051若、清1051若、麗1145府羅、天1135戸封、法1252冠、至676厳與、明南2634則、N.1056 ❹天息災譯 ❺宋太平興國五—成平三(A.D.980—1000)

❻大方廣菩薩藏文殊師利根本儀軌經の下を見よ。

文殊經金翅鳥王品 ❶(日)Mon-ju-kyō-kon-ji-chō-ō-bon. (支)Wen-shu-ching-chin-chi-niao-wang-p'in. 文殊師利菩薩根本大教王經金翅鳥王品、金翅鳥王品 ❷一卷 ❸存、大正二一・三二五 No. 1376、鳩摩羅什(—三一・一、北1049止、清1049止、麗1372費、法1160封、至676濃、明南1049取、三十帖策子第二二、N.1054 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774)譯 ❺文殊師利菩薩根本大教王經金翅鳥王品の下を見よ。

文殊經稱揚記 ❶(日)Mon-ju-kyō-shō-yō-ki. 文殊般涅槃經稱揚記、文殊涅槃經稱揚記 ❷一冊 ❸存 ❹性亮(―貞享頃? A. D. 1684―1687―)撰 ❽元祿一二刊 ❾(高大、寄・一・二三)

文殊行經 ❶(日)Mon-ju-gyō-kyō. (支)Wên-shu-hsing-ching. 文殊尸利行經 ❷一卷 ❸存、大正一四・五一二 No. 471、縮宙二、卍一〇・七、北524女、南576女、元577女、明北522良、清523良、麗528傷、天573女、指247傷、法529傷、至341得、明南528効、Nj. 297 ❹闍那崛多譯 ❺隋開皇六(A. D. 586) ❻文殊尸利行經の下を見よ。

文殊供養法 ❶(日)Mon-ju-ku-yō-hō. (支)Wên-shu-kung-yang-fa. 金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩供養儀軌、文殊五字念誦法、文殊師利菩薩儀軌供養、金剛頂瑜伽經文殊師利菩薩儀軌供養法、金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩儀軌供養法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七一六 No. 1175、縮閏一二、卍二七・一、明北1431鍾、清1431鍾、麗1389敦、法1179八、至819流、明南1315優、Nj. 1428 ❹唐不空(神龍元―大曆九 A. D. 705―774)譯 ❻金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩供養儀軌の下を見よ。

文殊觀經 ❶(日)Mon-ju-kwan-gyō. (支)Wên-shu-kuan-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第一、仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二、開元錄第五、第一四、貞元錄第八、第二四

文殊悔過經 ❶(日)Mon-ju-ke-kwa-kyō. (支)Wên-shu-hui-kuo-ching. 文殊師利五體悔過經、文殊五體悔過經、文殊師利悔過經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四四一 No. 459、縮列二、卍一七・二、北530作、南563作、元557作、明北1086定、清1086定、麗545念、天532作、指513念、法530念、至1202儀、明南1247從、Nj. 1091 ❹竺法護譯 ❺西晉太始二―建興元(A. D. 266―313)

❻佛が耆闍崛山中に在した時、文殊師利菩薩が此處に遊び、衆生のために經法を開演する。時に會中の新學發意の菩薩等が罪福の緣を將護する能はず、狐疑に蔽はれ、猶豫して自ら決しないのを見て、齊光照燿菩薩が進んで、文殊に無罪の事、悔過の義を問ふ。文殊は自分が前世に犯した種々の過惡を一々告白して、往を改め、來を修さんと誓ひ、更に悔過し已つて、時で無上正眞道の意を發したことを語る。斯くて諸菩薩にも悔過し、發心し、佛慧を勸助して、眞諦が失はれなければ、其處に諸佛の法は逮得され、佛の國土は嚴淨されると敎へる。文殊が此の悔過品を說くのを聞いて、五百の菩薩は皆無生法忍を得、齊光照燿菩薩は三昧の定を得、佛は遙かに文殊を讚嘆せられ、阿難や諸天人民も歡喜作禮して退く。❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四 ❽萬曆四〇刊(高大、寄・一・二三)刊本(哲、む・五・左・一一)(正大、一一八三・一九) (江田俊雄)

文殊悔過經 ❶(日)Mon-ju-ke-kwa-kyō. (支)Wên-shu-hui-kuo-ching. 文殊懺悔經 ❷一卷 ❸缺 ❹姚秦鳩摩羅什譯(建元二―義熙九 A. D. 344―413 一說義熙年中寂) ❻第二譯。❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

文殊現寶藏經 ❶(日)Mon-ju-gen-hō-zō-kyō. (支)Wên-shu-hsien-pao-ts'ang-ching. 文殊師利現寶藏經、文殊師利寶藏經、寶藏經 ❷二卷 ❸存、大正一四・四五二 No. 461、縮宇一〇、卍九・九、北151蓋、南151蓋、元147蓋、明北164恭、清164恭、麗150方、天152蓋、指141方、法149方、至139豈、明南171敢、Nj. 168 ❹竺法護(―泰始二―建興元 A. D. 266―313―)譯 ❺西晉太始六(A. D. 270) ❻文殊師利現寶藏經の下を見よ。❽寬文一二刊 ❾(高大、寄・一・二三)

文殊五字 ❶(日)Mon-ju-go-ji. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三八圓密禪抄第四 ❹永澄(元久二―弘安五 A. D. 1205―1282)

文殊五字功能 ❶(日)Mon-ju-go-ji-ku-nō. ❷一帖 ❸存 ❺鎌倉時代寫 ❾(寶菩提院)

文殊五字呪法 ❶(日)Mon-ju-go-ji-ju-hō. (支)Wên-shu-wu-tzŭ-chou-fa. 金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩法、金剛頂瑜伽文殊師利菩薩經、文殊法一品、五字呪法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七〇五 No. 1171、縮閏一二、卍二七・二、北1352璜、南1361尹、元1350尹、明北1440隷、清1440隷、麗1306尹、天1340尹、法1153戸、至801盛、明南1149無、三十帖策子第三〇、Nj. 1447 ❹唐不空(神龍元―大曆九 A. D. 705―774)譯 ❻金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩法の下を見よ。

文殊五字心陀羅尼品 ❶(日)Mon-ju-go-ji-shin-da-ra-ni-hon. (支)Wên-shu-wu-tzŭ-hsin-t'o-lo-ni-p'in. 金剛頂經曼殊室利菩薩五字心陀羅尼品 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七一〇 No. 1173、縮閏一三、卍一二・八、北467羊、南481羊、元475羊、明北523念、清523念、麗472詣、天473羊、指407讚、法455羔、至654父、明南473,475行、Nj. 537 ❹金剛智(咸亨二―開元二九 A. D. 671―741)譯 ❺唐開元一八(A. D. 730) ❻金剛頂經曼殊室利菩薩五字心陀羅尼品の下を見よ。

文殊五字眞言勝相 ❶(日)Mon-ju-go-ji-shin-gon-shō-sō. (支)Wên-shu-wu-tzŭ-chên-yen-shêng-hsiang. 金剛頂超勝三界經說文殊五字眞言勝相、文殊師利菩薩秘密心眞言、金剛頂超勝三界經說文殊師利菩薩秘密心眞言 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七〇九 No. 1172、縮閏一二、卍二七・二、明北1439隷、清1439隷、麗1376徵、法1178八、至813川、明南1324優、Nj. 1446 ❹唐不空(神龍元―大曆九 A. D. 705―774)譯 ❻金剛頂超勝三界經說文殊五字眞言勝相の下を見よ。

❺文永八寫 ❾(寶壽院)

文殊五字念誦法 ❶(日)Mon-ju-go-ji-nen-ju-hō. (支)Wên-shu-wu-tzŭ-nien-sung-fa. 金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩供養儀軌、金剛頂瑜伽經文殊師利菩薩儀軌供養法、金剛頂瑜伽經文殊師利菩薩儀軌供養法、文殊師利菩薩儀軌供養、文殊供養法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七一六 No. 1175、縮閏一二、卍二七・一、明北1431鍾、清1431鍾、麗1389敦、法1179八、至819流、明南1315優、Nj. 1428 ❹唐不空(神龍元―大曆九 A. D. 705―774)譯 ❻金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩供養儀軌の下を見よ。

文殊五字瑜伽法 ❶(日)Mon-ju-go-ji-yu-ga-hō. (支)Wên-shu-wu-tzŭ-yü-ch'ieh-fa. 曼殊室利童子菩薩五字瑜伽法、曼殊室利童子五字瑜伽法、曼殊童子五字瑜伽法、大聖曼殊室利童子五字瑜伽法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七二三 No. 1176、縮閏一二、卍二六・一〇、明北1390杜、清1390杜、麗1391敎、法1138軻、至738咲、明南1302學、Nj. 1397 ❹唐不空(神龍元―大曆九 A. D. 705―774)譯 ❻曼殊室利童子菩薩五字瑜伽法の下を見よ。

文殊五十萬遍次第 ❶(日)Mon-ju-go-jū-man-ben-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹心覺(永久五―治承四 A. D. 1117―1180) ❺足利時代寫 ❾(寶龜院)(金剛三昧院)

文殊五體悔過經 ❶(日)Mon-ju-go-tai-ke-kwa-kyō. (支)Wên-shu-wu-t'i-hui-kuo-ching. 文殊悔過經、文殊師利悔過經、文殊師利五體悔過經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四四一 No. 459、縮列二、卍一七・二、北530作、南563作、元557作、明北1086定、清1086定、麗545念、天532作、指513念、法530念、至1202儀、明南1247從、Nj. 1091 ❹竺法護譯 ❺西晉太始二―建興元(A. D. 266―313) ❻文殊悔過經の下を見よ。

文殊五落叉作法 ❶(日)Mon-ju-go-raku-sha-sa-hō. ❷一通 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶菩提院)

文殊講式 ❶(日)Mon-ju-kō-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹明惠高辨(承安三―貞永元 A. D. 1173―1232 一說承安二生) ❺足利初期寫(金剛三昧院) 足利中期寫(高大、寄・一・四九)(谷大、餘卷・九)

文殊講式 ❶(日)Mon-ju-kō-shiki. 文殊講式七段 ❷一軸 ❸存 ❺德川初期寫 ❾(金剛三昧院)

文殊降魔破字頌 ❶(日)Mon-ju-gō-ma-ha-ji-ju. ❷一紙 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

文殊根本一字陀羅尼法 ❶(日)Mon-ju-kom-pon-ichi-ji-da-ra-ni-hō. (支)Wên-shu-kên-pên-i-tzŭ-t'o-lo-ni-fa. 大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼經、文殊師利根本一字陀羅尼經、文殊一字陀羅尼法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七八〇 No. 1181、縮閏一三、卍一一・一、北300能、南313効、元308効、明北329能、清329能、麗300男、天303効、指285男、法324男、至534四、明南304必、Nj. 333 ❹寶思惟(―開元九 A. D. 721)譯 ❺唐長安二(A. D. 702) ❻大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼經の下を見よ。

文殊讚並伽陀 ❶(日)Mon-ju-san-narabini-ka-da. ❷一卷 ❸存 ❹良佑記

文殊讚法身禮 ❶(日)Mon-ju-san-hos-shin-rai. (支)Wên-shu-tsan-fa-shên-li. 大聖文殊師利菩薩讚佛法身禮、大聖文殊師利菩薩讚佛法身讚、文殊法身禮 ❷一卷 ❸存、大正二〇・九三六 No. 1195、縮閏一五、卍二七・二、北1401武、南1405衡、元1393衡、明北1448隷、清1448隷、麗1325宅、天1376衡、法1180八、至794如、明南1175寬、三十帖策子第二〇、Nj. 1455 ❹不空(神龍元―大曆九 A. D. 705―774)譯 ❺唐永泰元(A. D. 765)四月 ❻大聖文殊師利菩薩讚佛法身禮の下を見よ。

文殊讚法身禮註釋 ❶(日)Mon-ju-san-hos-shin-rai-chū-shaku. ❷一卷 ❹空海(寶龜五―承和二 A. D. 774―835) ❾寫本(寶壽院)

❻諸宗章疏錄第三に云く「按、入ニ法敎錄一、法身三密觀圖當レ此、但無ニ方圓一、總錄皆ニ別部一、非也。又分ニ文殊讚與ニ法身禮經文一、亦非也」云云。法身三密觀圖なれば現存す。

文殊尸利行經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-gyō-kyō. (支)Wên-shu-shih-li-hsing-ching. (梵藏)文殊師利巡行經參照。文殊行經 ❷一卷 ❸存、大正一四・五一二 No. 471、縮宙二、卍一〇・七、北524女、南576女、元577女、明北522良、清523良、麗528傷、天573女、指247傷、法529傷、至341得、明南528効、Nj. 297 ❹闍那崛多譯 ❺隋開皇六(A. D. 586)

❻本書は重翻されたものにして、隋の彥悰の衆經目錄第二には

文殊師利巡行經 一卷 後魏(西魏元氏)世留支譯

文殊尸利行經 一卷 大隋開皇年崛多譯

右二經同本異譯

とあり、隋以降の各經錄皆悉く此の說に從ふが、內典錄・開元錄・貞元錄は本書翻譯の年月及び筆受等を詳記してゐる。今開元錄第七の文を抄記すれば、

文殊尸利行經一卷

第二出。與ニ文殊巡行經一同本。開皇六年三月出四月訖。沙門僧曇筆受。沙門彥琮製レ序。見ニ長房錄一。

とある。これに依つて本書の譯出年月が知られるのである。崛多は先きに周(宇文氏)明帝時代に長安へ到り四天王寺に住し翻經に從事したが、周武帝の廢佛の難に遇ひ突厥へ去つた。然るに隋興つて佛法また興起するに及んで勅を以て崛多を招ずるや、再び渡來し、開皇五年から同二十年壽七十八で歿するまで譯經に從事した。隋代の譯出は開元錄第七によれば三十九部一百九十二卷の多きに及んでゐる。そして譯出年代を見るに開皇五年十二月は一部、同六年は五部あり二月・四月・六月・七月の四ケ月間だけ翻經、同七年は二・五・八月の間に四部譯訖。八・九・十の三ケ年間は譯訖がな

く、十一年には四部譯出。この中、佛本行集經六十卷は七年から十一年まで五ヶ年の歳月を費したもの。十二年は譯訖なく、十三年は一部だけ譯訖。十四年には三部。十五年は八部。十六年は一部。其他は譯訖の年代不明。上記によれば本書は毗多再渡の第二年に譯出したものである。

本書所說の空思想は般若經典に現るるものと相似し龍樹が中觀論で論述してゐる空觀と類同するものと考へる。八不中道說は出されてゐないが煩惱菩提の超絕を述べ、三世不可得を論じ、如來を否定し去つて空を力說するが如きは全く般若畢竟空思想に立脚したものと思ふ。但し本書に明す空は絕待的空であつて空の存在性を許さない。有無の非でも非々でもない。故に有無の執着を離脫した自在を指して空と名づけたものといへる。毗多は法華經の重譯をなし、寶積・金光明經・般舟三昧及び陀羅尼經典を譯してゐるから彼の學系は法華・寶積・陀羅尼呪藏等を兼學せるものであることが知られる。彼と同時代に渡來した菩提留支と譯文上互に其見解を異にした結果、留支と譯場を別にしたと傳說されてゐるが、これ留支が天親學系に屬するのに毗多は法華及び呪藏等を兼學する學系であつたからであらう。從つて本書には留支と毗多との兩譯が出來たのであらう。同本異譯ではあるが天親學派の空論と法華・寶積・金光明・呪藏兼學の空論とには自ら空の意義の相違が文底に含蓄されるのである。學者幸ひに兩譯の異同を研精せられむことを。

本經の所說を略述すれば、文殊尸利童眞菩薩が入定して、定中から諸比丘の房を巡行した。この時に舍利弗の坐禪入定してゐるのを見た。後に佛前に諸比丘と共に集會して、文殊と舍利弗との二人が互に問難して、阿羅漢の證悟する空の義理に就て顯示する所があつた。爾の時、五百の比丘は文殊の說を聞き、この義を受けるに忍び難く座に會座を起つて衆の中から出でた。文殊は舍利弗の疑問に答へて更に空義の法要を說いた。五百の比丘は再び還つて來て、この說を聞き、四百人の比丘は阿羅漢果を證したが、一百の比丘は文殊を毀骨して座を去ると直ちに彼等は大呼喚地獄に墮ちた。舍利弗復これを問ふたので、佛これに答へていふ。此の百比丘はこの法要の聞不聞とに關らず墮獄必定の機であつた。若し此の法要を聞かなければ、彼等は獄にあること一劫の永い間苦を受くべきであつた。然るに今この法要を聞いたので暫く地獄に墮ちたが忽ちに獄を出で兜率天に生れ、未來世に彌勒菩薩が成佛する時には、初會に列つて羅漢果を證することを得る人々である。此によつて是の法要を聞かなければ、四禪四定を修して果を得ても、生死を解脫することは出來ない。設令〈聞いて疑惑し毀骨しても猶ほ聞かない者よりは勝れてゐると。この點を聽いて大衆皆信受奉行した。以上が本經の大要である。

❼(參考) 三寶紀第一二、內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇 (田島德音)

文殊尸利行經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-gyō-kyō. 國譯文殊尸利行經 ❷一卷 ❸存、國譯一切經經集部第一四 ❹田島德音譯

文殊支利普超三昧經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-fu-chō-sam-mai-kyō. (支)Wen-shu-chih-li-p'u-ch'ao-san-mei-ching. (梵)Ajitasatru-kaukṛtya-vinodana(藏傳)(藏)Hphags-pa ma-skyes-dgrahi bgyod-pa bsal-ba shes-bya-ba theg-pa chen-poihi mdo. 普超三昧經、普超經、阿闍世王經 ❷三卷或四卷 ❸存、大正一五・四〇六、Zo. 227、館字八、卍一〇・二、北1521惟、南1125惟、元1520惟、明北1126豊、清178豊、龍176恭、天1126惟、指1162恭、法175恭、至225效、明南172豊、N. 1262 ❹竺法護譯 ❺西晉太康七(A. D. 286)

❻本經の內容は正士品第一、化佛品第二、車鉢品第三、幼童品第四、無著我品第五、總持品第六、三藏品第七、不退轉輪品第八、變動品第九、快疑品第十、心本淨品第十一、月首受決品第十二、屬累品第十三の十三品に分れ、先づ正士品に於ては文殊及二十五菩薩が、互に諸過慧乘に就て意見を述べ、次いで化佛品に於て、文殊は分身を化して佛世尊を現じ、菩薩行の說明をなし、空觀の立場から、菩薩行は無執着なりとか、所學無きは則ち菩薩の學なりとか、以て空觀の理論を說く。こゝに於て轉じて車鉢品に入り、鉢の喩を說く。卽佛自から、鉢を落す時、鉢は地下に落下して、照曜世界に達す。佛弟子等、命を受けて鉢を求むれども得ず。遂に文殊自ら出馬して鉢を求む。時に文殊の身を說明すること、華嚴の佛身觀に相似たるものがある。文殊の照曜世界に到るや、思界との間に互に光明を交換し、互に能く洞見する狀を說く。文殊鉢を持して歸るや、更に飮食供養を說き、此品終る。次いで幼童品に入り、三童の古事を說きて、離聞の救はるべきを說き、其の理由として、無吾我品に於て般若の空論を高調す。こゝに於て、阿闍世王は佛を供養せんと準備にかゝるが總持品なれば、再び本品に於ては總持の理論的說明をなし、遂に又、空觀の立場より總持諸法の說明を與へてゐる。是が初夜の說法である。次いで中夜の說法に移り、三藏品は卽ち是であつて、こゝに說明される三乘は一寸風變りである。卽ち、菩薩藏を高調して二乘並に佛覺の乘を是に統歸せんとするのである。それは本品中にある次の如き例で知れる。

菩薩に三藏あり、離聞・緣覺・菩薩なり。菩薩法に依つて三たる離聞・緣覺・無上正眞道を生ず。

菩薩は說法して衆生を敎化し、三乘たる離聞・緣覺・無上正覺に處せしむ。

右の例は凡てではないが、是だけでも一寸變つてゐる事は分るう。次は後夜の說法で、卽ち不退轉輪品である。こゝにも、又、不退轉輪の說明あれど、結局は空觀で結び、變動品に移る。此品は既に朝の出來事で、先づ、文殊と迦葉との問答に始まり、文殊は大衆を率ゐて、阿闍世王殿に供養を

受くる爲に赴く。時に大王は大衆供養の用意なく非常に心配すれども、文殊の神通に依つて宮殿を擴張し、飮食を增設す、寔終つて、諸の菩薩は鉢を空中に投げる。然るに鉢は空中にかゝりて落ちず。こゝに於て、大王の爲に空を說いて疑を除かんとす。次いで、快疑品に入り、文殊は空觀を高調して、大王の疑を解く。斯くして大王は文殊の言に依り、其の衣を諸の菩薩に順次に施さんとすれど、皆委を消して受けず。遂に又、文殊に依つて空觀を聞き、法忍を得。斯くして心本淨品に入り、子が母を殺す喩、及び、文殊の化作せる化子が化父母を殺す喩を說き、以て、過去心・當來心・現在心の空なるを力說し、母を殺すとも、佛前に悔いて修行すれば沙門となるを許すと述べ、是より記別に移る。先づ阿闍世王並に其の弟子と三萬二千の天子との記を說いて、月首受決品に入り、始めに阿闍世王の太子月首の八歲なるに受決し、又佛、自から、曾て錠光佛の許にて決を得たりと述べ、轉じて舍利供養、塔供養を說き、五種法師の行を力說し、且つ又經並に持經者を佛陀なりと說いて、屬累品に移り、先づ、彌勒菩薩に付屬し、次いで、帝釋天と阿難尊者に付屬し、阿難尊者は、末世弘法を誓つて此經は了つてゐる。

要するに、本經は全般的に言へば、般若系の立場から、諸大乘經の善い所を採り來り、般若の空を高調せんとした一種の試みと思はれる。背景を史實に取れるは、作者苦心の存する所なもんも、最後に到つて彌勒菩薩に付屬せるに當り、餘りに末世的で、感心出來ない。然し、阿闍世王を問題にして受記する當りは、法華經以上に出やうとした苦心の跡なるを認めねばなるまい。

最後に、本經中に現れたる譯例を二三抽出して參考に供しやう。先づ、五蘊を譯して、

色像、痛痒、思想、生死、識、

となし、又は色痛想行識とも譯してゐる。

尙、如來の十號が丁寧に形容詞樣に譯されてゐることも注意すべきであらう。卽ち如來至眞等正覺明行成は善逝世間解無上士道法御天人師爲り、佛衆祇爲り。

其他、細い譯語は未だ澤山あるが略すことにする。 (布施浩岳)

文殊支利普超三昧經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-fu-chō-sam-mai-kyō. 國譯文殊支利普超三昧經 ❷布施浩岳譯第二 ❸存、國譯一切經經集部第二 ❹布施浩岳譯 ❺(寶龜院) ❻(寶龜院)

文殊四郎傳記 ❶(日) Mon-ju-shi-ra-den-ki. ❷一軸 ❸存 ❹德川時代寫

文殊次第 ❶(日)Mon-ju-shi-dai. ❷一卷 ❸觀賢(仁壽三—延長三 A. D. 853—925) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

文殊指南圖讚 ❶(日) Mon-ju-shi-nan-zu-san. (支) Wen-shu-chih-nan-tu-tsan. 佛國禪師文殊指南圖讚 ❷一卷 ❸存、大正四五・七九三、Zo. 1621、卍撰二・八・五 ❹宋惟白(一—崇寧二 A. D. 1103—)述 ❺華嚴經入法界品所說の、善財童子南遊求法を圖顯し、且つ之に讚を加へたものである。卷頭に中書居士張商英の序あり、序中に云へる「意詩文簡」は、以て本書の全貌を現してゐる。

善財童子は云ふまでもなく、福城の長者の五百童子中の一人である。當時福城の東なる莊嚴輪沒羅林中に住せし文殊師利の所に詣でゝ發心し、その指南に從つて漸次南行し、五十三知識に參じて法界に證入せしものである。五十三知識は『華嚴經』によるものにして、『經』は五十四人を列ね、初めの文殊を加へて五十五人なれ共、通常文殊を除き、又德生童子と有德童女とは同一會上の問答なれば、之を德生童子の一人に攝め、以て五十三人とするのであるが、本『圖讚』では、最初の文殊師利菩薩は加算し、第五十二番の知識たる文殊菩薩を除いてゐる。卽ち一に文殊師利菩薩(Mañjuśrī)、二に德雲比丘(Meghaśrī)、三に海雲比丘(Sāgaramegha)、四に善住比丘(Suprātiṣṭhita)、五に彌加長者(megha)、六に解脫長者(Mukta)、七に海幢比丘(Sāgaradhvaja)、八に休捨優婆夷(Asi)、九に毗目瞿沙仙(Bhīṣmottaramuṇḍhoṣa)、十に勝熱婆羅門(Jayoṣmāyata)、十一に慈童女(Maitrayaṇī)、十二に善見比丘(Sudarśana)、十三に自在童子(Indriyeśvara)、十四に具足優婆夷(Prabhūta)、十五に明智居士(Vidyā)、十六に寶髻長者(Ratnacūḍa)、十七に普眼長者(Samantanetra)、十八に無厭足王(Anāla)、十九に大光王(Mahāprabha)、二十に不動優婆夷(Acala)、二十一に遍行外道(Sarvagāmin)、二十二に優鉢羅華長者(Utpalabhūtigāndhika)、二十三に船師優婆施羅(Vairocana)、二十四に無上勝長者(Jayottama)、二十五に師子頻申比丘尼(Siṃhavikrīḍitā)、二十六に婆須密女(Vāsumitrā)、二十七に瞿波羅長居士(Vaiśhilī)、二十八に觀自在菩薩(Avalokiteśvara)、二十九に正趣菩薩(Ananyagāmin)、三十に大天神(Mahādeva)、三十一に安住地神(Sthāvarā)、三十二に婆珊婆演底主夜神(Vāsantī)、三十三に普德淨光夜神(Samantagambhīrāvimalaprabha)、三十四に喜目觀察衆生主夜神(Pramuditanayanajagadvirocanā)、三十五に普救衆生妙德主夜神(Samantānāmatrātrāṇojapāri)、三十六に寂靜音海主夜神(Praśāntarutagarjavat)、三十七に守護一切城主夜神(Sarvanagarakṣāsaṃbhavatejaśrī)、三十八に開敷木主夜神(Sarvavṛkṣapraphullanāmukhāmsāvāsā)、三十九に大願精神力救護衆生主夜神(Sarvajagadrakṣāpraṇidhānavīryapramāṇa)、四十に妙德圓滿主夜神(Satyojomaṇḍalaratiśrī)、四十一に種種眞波女(Gopā)、四十二に佛母摩耶聖后(Māyā)、四十三に天主光天女(Surendrabha)、四十四に童子師福友(Viśvāmitra)、四十五に善知衆藝童子(Śilpābhijña)、四十六に賢勝優婆夷(Bhadrottamā)、四十七に堅固解脫長者(Mukhāsāra)、四十八に妙月長者(Sucandra)、四十九に無勝軍長者(Ajitasena)、五十に最寂靜婆羅門(Śivarāgra)、五十一に

德生童子有德童女(Śrīsaddhāva)、五十二に彌勒菩薩(Maitreya)、五十三に善賢菩薩(Samantabhadra)であつて、最後に彌陀の像を出して以て五十四圖を成してゐる。五十三知識の譯名は本經のそれと異るもの少々あり、今は『圖讃』に從つた。

❷(參考) 華嚴宗經論章疏目錄 ❹建長三寫(小野玄妙) 明和四刊(京大、一・二六モ・一×立大、A五〇・九四) (三好觀雄)

文殊指南圖讃 ❶(日) Mon-ju-shi-nan-zu-san. 宋栗拳子本文殊指南圖讃 ❷一卷 ❸存、古石庵叢書第一帙第六册之內 ❹刊本(谷大、外大・一一九三)

文殊師利一百八名梵讃 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-ip-pyaku-hachi-myō-bosan. (支)Wen-shu-shih-li-i pai-pa-ming-fan-tsan. (梵) Mañjuśrībhiṃśatināmaka (藏傳×藏) Hphags-pa-ḥjam-dpal-gyi mtshan brgya-rtsa-brgyad-pa shes-bya-ba. 文殊一百八名梵讃 ❷一卷 ❸存、大正二〇・九三八No.1187、尼一六・一〇、北1186千、南1291千、元1195千、明北1052言、清1052言、麗1185身、天1181千、法1362虞、至1362区、明南652深、Nj.1073 ❹法天譯 ❺宋開寶六(A.D.973—)

❻始めに、之を誦せば所願滿足、罪障消除、怖畏を受護すべき旨を述ぶる序偈あり、本文は梵讃十九節より成る。この梵讃の漢譯は元代の西藏人釋智慧譯の聖妙吉祥眞實名經の卷末に他の讃咒と共に附載せられてゐるが、何れも獨立の一本として取扱はるゝを至當とするものである。A.Wm Stael-Holstein 男は法天の音譯と前揭西藏本(これは音寫のためく翻譯であり、大谷甘珠爾錄では No.542、東北デリゲ錄では No.542)とを對照してこの讃の梵語還元を Bibliotheca Buddhica XV. の中に發表し、わが榊亮三郎博士も更に智慧の漢譯をも引證しつゝ梵語還元して藝文大正四年二月・六月號に揭げられた。而して智慧譯は諸種の點より考へて西藏本より漢譯したものと思はれる。法天音寫のものと少異がある。因に智慧に就ては東亞研究第六卷第四號石橋純太郎氏の論文を見よ。 (櫛部文鏡)

文殊師利經疏 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-kyō-sho. (支) Wen-shu-shih-li-ching-su. ❷三卷 ❹唐潛眞(開元六—貞元四 A.D.718—788)述 ❼(參考) 御請來目錄、東域傳燈目錄卷上、諸宗章疏錄第三

文殊師利悔過經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-kē-kwa-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-hui-kuo-ching. 文殊師利五體悔過經、文殊五體悔過經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四四一No.459、續列二、卍一七・二、北5562作、南622作、元557作、明北1056定、清1056定、麗545念、法5249念、至1292僞、明南1247從、Nj.1061 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A.D.266—313) ❻文殊悔過經の下を見よ。

文殊師利現寶藏經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-gen-hō-zō-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-hsien-pao-tsang-ching. (梵藏)大方廣寶篋經參照。文殊師利寶藏經、寶藏經、文殊現寶藏經 ❷二卷 ❸存、大正一四・四五二No.461、續字一〇、卍九・九、北551蓋、南151蓋、元147蓋、明北162悲、清162悲、麗162方、天1162蓋、指1441方、法1469方、至1362虞、明南171取、Nj.1162 ❹竺法護譯 ❺西晉太始六(A.D.270)

❻本經は出三藏記卷三(大正五五ノ一九上)によると涼土譯出となつてゐるから、長安や洛陽で譯されたのではない。西域に近い涼州に於て西晉の竺法護が太始六年(晉武帝泰始 A.D.270) 十月に譯出したのが初出。二卷からなつてゐる。然るに內典錄は二卷と三卷三十三紙とを兩處に別出してゐるが恐く三は二の誤りであらう。此經の同本譯異は靜泰錄に本經と失譯の大方廣寶篋經とを擧げ、內典錄には文殊師利現寶藏經二卷西晉安法欽譯を出し、又同名の經を西晉支法度譯として法護譯と大同小異であるといふ。これによつてみると本經には西晉に安法欽譯と竺法護譯と支法度譯との三本があつたことになるが、譯經は法護譯が實際にあつたものと考へられる。他の二本は果して譯經の事實があつたのか疑はしい。

本經は文殊と佛弟子須菩提・舍利弗・阿難・大迦葉・富樓那・尼乾子等と菩薩の大道に就いて問答し、眞の佛敎は無我・無起・三解脫等なることを說いて如來の寶藏を開說してゐる。特に佛敎に關して四十五種の佛敎を說き、菩薩に三十二の德鎧を述ぶるが如き、又は文殊が夏安居に於て安居せずして城中に入り婬女等を化度せるが如き、又像法末法の佛敎を豫言せるが如き、此等は皆本經の成立時代及當時の敎團事情を物語れる記錄なりと認むべし。要するに本經は文殊を中心とせる西域地方の佛敎の一面をみる上に藝術經等と共に注意すべき重要なる經典である。

❼(參考) 出三藏記第二、內典錄第二、三寶紀第六、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四

文殊師利現寶藏經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-gen-hō-zō-kyō. 國譯文殊師利現寶藏經 ❷二卷 ❸存、國譯一切經經集部第一二 ❹田島德音譯

文殊師利現寶藏經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-gen-hō-zō-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-hsien-pao-tsang-ching. ❷二卷 ❸缺 ❹西晉安法欽譯 ❺第二譯。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

文殊師利現寶藏經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-gen-hō-zō-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-hsien-pao-tsang-ching. ❷二卷 ❸缺 ❹西晉支法度譯 ❺第三譯。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

文殊師利五體悔過經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-kē-tai-kē-kwa-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-wu-ti-hui-kuo-ching. 文殊悔過經、文殊師利悔過經、文殊五體悔過經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四四一No.459、續列二、卍一七・二、北5562作、南563作、元557作、明北1056定、清1056定、麗545念、天556作、指513念、法5249念、至1292僞、明南1247從、Nj.1061 ❹竺法護譯 ❺西晉太始二—建興元(A.D.266—313)

❻文殊悔過經の下を見よ。

文殊師利根本一字陀羅尼經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-kon-pon-ichi-ji-da-ra-ni-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-ken-pen-i-tzu-to-lo-ni-ching. 大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼經、文殊一字陀羅尼法、文殊根本一字陀羅尼法、大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼法、文殊師利根本一字陀羅尼法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七八〇No.1187、續列一三、卍一一・一、北1366効、南1215効、元936効、明北2229能、清2229能、麗1366男、天936効、指1265男、法1324男、至1324因、明南924愛、Nj.1223 ❹寶思惟(—開元九 A.D.721)譯 ❺唐長安二(A.D.702)

❻大方廣菩薩藏經中文殊師利根本一字陀羅尼經の下を見よ。

❼寫本(寶壽院)

文殊師利根本儀軌經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-kon-pon-gi-kē-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-ken-pen-i-kui-ching. 大方廣菩薩藏文殊師利根本儀軌經、文殊儀軌、大方廣文殊儀軌經 ❷二十卷 ❸存、大正二〇・八三五No.1191、續成九、卍一六・九、北1135戶封、南1135戶封、元1147戶封、明北1051若、清1051若、麗1145府羅、天1135戶封、法1323冠、至1323鼓與、明南928則、Nj.1056 ❹天息災(—成平三 A.D.1000)譯 ❺宋太平興國五—成平三(A.D.980—1000)

❻大方廣菩薩藏文殊師利根本儀軌經の下を見よ。

文殊師利權變三昧經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-gon-hen-sam-mai-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-ch'uan-pien-san-mei-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第一、仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第二二

文殊師利示現寶藏經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-ji-gen-hō-zō-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-shih-hsien-pao-tsang-ching. ❷二卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三

文殊師利呪法藏經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-ju-hō-zō-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-chou-fa-tsang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹唐菩提流志(太建四—開元一五 A.D.572—727)譯 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

文殊師利授記經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-ju-ki-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-shou-chi-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻悲華經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一、開元錄第一六、貞元錄第二六

文殊師利授記經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-ju-ki-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-shou-chi-ching. (梵) Mañjuśrī-buddha-kṣetra-guṇa-vyūhālaṃkāra-sūtra(引用): (藏)Hphags-pa ḥjam-dpal gyi ańs-kyas-kyi shiń-gi yon-tan bkod-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo 文殊師利授記會 ❷三卷 ❸存、大寶積經第五八—六〇(大正一一・三三六No.310, 15) ❹寶叉難陀(永徽三—景雲元 A.D.652—710)譯 ❺唐證聖元—長安四(A.D.695—704)

❻(異譯) 西晉竺法護譯文殊師利佛土嚴淨經二卷、唐不空譯大聖文殊師利菩薩佛剎功德莊嚴經三卷、(西藏譯)は Śrīdrabodhi, Jñānmitra, Ye-śes-sde の共譯とす。(大意) 文殊の行と本願及び其の成佛に就て說ける經。空系思想が淨土思想に隔會せるものとして注意すべき經である。(梗概) ○序分。(一)通序(耆闍崛山說)。(二)別序。(一)佛阿闍世王宮に詣らんとして入城したまふや足跡より蓮華生じ、中に化菩薩ありて讃佛偈を說く。(二)城民喜び迎へ樂を奏するに、樂音中又讃佛偈あり。(三)長者子權過咎(普譯、業惡)佛所に詣る。○正宗分。○第一段。(一)權過咎授記。(1)權過咎、得無上道嚴淨佛剎の法を問ふ。(2)佛、一切衆生に大悲を行はんが故に膨志樂を以て菩提心を發すべしと說き、(3)權過咎等得益し、(4)佛放光微笑し給ふや阿難其所以を問ひ、(5)權過咎が六萬二千阿僧祇劫の後、寂靜調伏音聲佛(普譯、寂化音)となるべしと授記したまふ。その世界は不動如來(阿閦)の妙喜世界(妙樂)の如しといへるもの、本經の思想系統上注意すべし。(二)敎化阿闍世。(以上三本一致)。○第二段。(一)鄔波集會。(1)佛衆歸山。(2)文殊、彌勒、勇猛菩薩の三菩薩を始め阿闍世王及び市民等詣佛(此項普譯に欠)。(3)舍利弗請問。(4)佛入定放光して十方世界を照す。(5)光に應じて十方世界の諸佛、其代表菩薩を釋迦牟尼佛の許に發遣す。普譯は略說し、本經と不空譯は四方佛界の佛名佛土菩薩等に就て細說す。(二)彌勒問偈。(1)彌勒問偈。(本經及び不空譯上卷終)。(2)彌勒說座。(3)菩薩行法(舍利弗を對告として說かる)。(1)所願滿足四法。發膨志樂・悲愍衆生・發起精進・承善知識。(2)嚴淨佛剎一法。於一切處樂出家。十德を畢ぐ。(3)二法。二乘を捨てゝ佛乘に依る、又十德あり。(4)三法。尊重住阿蘭若・無所染著行法施・安住淨戒律儀。之により住戒に十無畏・說法・住定に各十功德を得とす。(5)四法。言行一致・常自謙下・遠離慳嫉・歡喜他利。各項に四種の利益あり。(6)五法。問法・値佛・淨智進行・知有因及出離・不起知想。(以上、三本大同にして細目中に各一二の相違を有す)。(7)六法。六度。二本は忍・進・定の三度に各十功德を畢げ、普譯は之を略して全文觸る箇なり。(8)七法。六度を修めて分別計著せざると、諸佛を念じて相に執はれざるとなり。(9)八法。不樂涅槃・施莊嚴具・其心廣大・尊敬法師・不行邪命・平等惠施・自不矜高・不他凌蔑(異譯二本少異あり)。(10)九法。具身・語・意律儀。減食・眠・瞋。不行欺誑・爲堅固友・不輕慢善知識。(11)十法。五趣に大悲を起して怖畏を生ぜず、常精進・我が佛剎中の衆生に衣服飲食・壽命無量・無疲我心・趣向菩提を得しむ。(不空譯、佛寫中に脫文せるものゝ如し)。(12)供養佛塔。(13)不求自樂・喜他得樂(二本少異、普譯文案)。(14)積取十善業道(二異本は善語と三業の二項に分てり)。(15)勸趣無上菩提。(16)願喜他利。(17)不惱他過。(18)樂法不惓。(19)廻

向善根。(20)見失念衆令得正念。(21)珠膊大願・住不放逸・如說修行の三法成就。(四)會衆得益(以上三本大同少異)。○第三段。(一)文殊證悟。師子勇猛雷音菩薩(不空譯同、普譯師子步雷音)、文殊師利に設問してその悟境を明かにす。(1)得道。道に趣と不趣なく、衆生と菩提と心と此三法共に不可得なる故に衆生の化すべきなく法の轉ずべきものなきを明す。(普譯上卷終)。(2)發心。無生法中發心して菩提に向ふの理あるなく、平等法中染と淨、取と捨等の差別あることなければ、發心といひ行道といふべきものなし。(三本一致)。(二)文殊本生。師子勇猛雷音の問に依り、佛、文殊の發心本生を說き給ふ。過去世東方無生世界(不空譯同、普譯快成)に雷音如來(不空譯同、普譯雷音響)といへる佛出世し、時に菩覆(不空譯虛空、普譯安按)といへる轉輪聖王あり、發心して道を求む。これ文殊の前身の初發心にして、次で無生法忍を得、十地を具足し、如來の十力と佛地の諸法を悉く圓滿するも未だ昔て成佛の想を起さず、その彼に勸發せられて發心したるものの今既に成佛して般涅槃せるもの無量なるも、彼自身は悉くその諸佛を供養しつゝ未だ成佛せざるなりと。(三本一致、本經及不空譯中卷終)。(三)文殊行道。再び師子勇猛雷音の問に依りて文殊その行道を明す。(1)上來菩提。諸法これ本來不滅不減にして圓滿を成ず、故に佛法中に更に圓滿すべきものなく、圓滿すべきものなき故に證すべきものなし。(2)下化衆生。衆生所有なく心法不可得なり、何ぞ以て化すべき。無得即ち得、得に非ず、不得に非ざる、これを得とすと。(三本一致)。(四)文殊淨土。(1)師子勇猛雷音、何等の淨土を求むるやと問ひ、文殊、菩提は不可得にして求むべからず、求むるところあれば染着あり、染着あれば出離なし、何ぞ淨土の求むべきものあらんやと答ふ。(2)佛命によりて文殊其本願を說く。(五)文殊本願。(1)總願。無碍の天眼を以て十方を觀じ、其一切諸佛をして成佛せしむるに非ざれば正覺を得じ。この下文殊の天眼に就て注釋せり。(2)諸佛刹を合して一佛刹とし、約寶もて莊嚴せん(普譯欠)。(3)菩提樹放光願(普譯少異)。(4)不起。道場・前身過・滿十方・說法願。(5)無女人及聲聞緣覺・皆菩薩衆願。この下、文殊成佛して普見如來(普譯普現)と號すと佛說く。(6)餓食飢滿、この下、二本は阿彌陀佛の法喜を食とするに比せるも普譯には缺けり、後世の竄入のみ。(7)衣服隨念願。(8)資具充足願(普譯欠)。(9)無八難等願。この下、文殊の佛刹を隨願積集清淨圓滿(普譯離塵垢心、不空譯如願圓滿積集離塵清淨)といふとせり。(10)佛刹莊嚴願。(11)隨願見珠花香願。(12)以自身光照願。(13)華開合別晝夜、無寒暑老病死願。(14)自然音樂願。(15)隨念見佛得解願。この下、南無文殊師利童眞菩薩、南無普見如來といふ稱名の功德を讚ふ。稱名思想上注意すべき文章とす(無量壽經自體には未だ具體的ならず)。(16)集諸佛土莊嚴願。(以上三本一致)。○第四段。(一)四菩薩來至。(1)文殊の淨土珠膊にして彌陀の淨土も遙かに及ばず。(2)東方住最上願世界(不空譯願住高踊、普譯超立願)に普光常多功德海王如來(不空譯同、普譯普照常明德海王)あり、その佛刹文殊の佛刹に等しく、又彼佛に光明輪・智上・諸根寂靜(不空譯寂根)・願慧(普譯、光蓋・慧上・寂根・意願)の四菩薩あり、その願文殊に同じく佛刹又同じかるべしと。(3)佛、神通を以て會衆に彼佛土を見せしむ。(4)會衆歡喜し佛爲に授記す。(5)四菩薩來會す。(6)佛、四菩薩を請して神通をおさむ(以上三本一致)。(二)一相法門。文殊、諸法如幻にして此中得なく住なしと說き、諸菩薩に云何か一相法門を說くとなすか(普譯一切敎演經法)を問ふ。彌勒(不空譯は智上とし、普譯は彌勒の前に四菩薩の答を畢ぐ、この方然るべし)・師子勇猛雷音・樂見(普譯愛見、不空譯喜見)・無碍尋(普譯同、不空譯無盡尋)・美思(普譯善心念、不空譯美思惟)・妙離塵(普譯離塵垢、不空譯妙塵)・妙離塵(普譯海底、不空譯妙塵)・月上(普譯十上月童眞、不空譯月上童眞)・離愛菩(普譯清淨愛眞、不空譯離一切愛垢)・無所緣(不空譯同、普譯普現)・淨三輪(普譯三品淨、不空譯三輪清淨)・成就行(不空譯同、普譯在所吉)・深行(二異譯同)の十四菩薩(普譯十八菩薩)の答辯あり、會衆得益す。維摩經の入不二法門品の構想に類す、思想又同じ。(以上三本大同)。(三)文殊の佛壽及菩薩數。(1)文殊、師子勇猛雷音の問に答へて、如法中所證なく菩薩も假名のみと說く。(2)佛、文殊の佛壽及菩薩衆が阿彌陀のそれに遙かに勝るとて微塵喩を說く。○流通分。(一)彌勒、文殊の大智行を歎ず。(二)佛、文殊の虛空行を歎ず。(三)諸天護持を誓ふ。(四)持經功德。(五)彌勒付囑。此經を(1)諸佛遊戲(不空譯同、普譯欠)。(2)諸願究竟(普譯娛樂所願殊特、不空譯不思議願)。(3)文殊師利功德莊嚴佛土(普譯文殊師利佛土功勳嚴淨、不空譯佛刹功德莊嚴)。(4)令發菩提心菩薩歡喜(普譯其發道心志懷悅豫、不空譯發菩提心令歡喜)。(5)文殊師利授記(二異本共欠)と名くとす。(6)會衆供養。(7)文殊入定。(8)會衆信受奉行。(美濃光順)

文殊師利巡行經

❶(日)Mon-ju-shi-ri-jun-gyō-kyō.(支)Wên-shu-shih-li-hsün-hsing-ching.(梵)Mañjuśrīvihāra (蔵傳)(蔵)Ḥphags-pa ḥjam-dpal gnas-pa ches-brya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. 文殊巡行經 ❷一卷 ❸存、大正一四・五一〇No.470、舊宮二、卍一〇・七、北583女、南527女、元576女、明北585良、清585良、聚585傷、天585女、指585傷、法585傷、至340傷、明南587勉、Nj.986 ❹菩提流支譯 ❺元魏永平元—天平二(A.D.508—535) ❻(類本) 隋の闍那崛多譯文殊尸利行經と同本異譯。西蔵本は大谷甘珠爾錄No.263(東北錄では No.134)に出ず。

〔內容〕 佛、耆闍崛山に在り、文殊師利、諸比丘の處を巡行し、舍利弗の坐禪せるを見、互に相問難して阿羅漢の義を顯示する。五百の比丘文殊の所說はわれらが梵行と異なるとて座を起つて去る。文殊更に舍利弗の問に答へて法要を說き、五百比丘還來し、其中四百は盡結得脫し一百は墮獄する。時に世尊この百比丘は此法を聞けるが故に墮獄すとも一劫にして人中に生れ、彌勒成佛の時、初會に於て羅漢果を得べしと此法の勝德を說く、舍利弗と文殊と法界及び眞如の不滅減を語り、世尊重ねて頌を說きたまふもの本經の大要である。

❼(參考) 三寶紀第九、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九 (樺部文鏡)

文殊師利所說般若波羅蜜經

❶(日)Mon-ju-shi-ri-sho-setsu-han-nya-ha-ra-mitsu-kyō.(支)Wên-shu-shih-li-shuo-pan-jo-po-lo-mi-ching.(梵蔵)大般若波羅蜜多經第七會參照。文殊說般若經 ❷一卷 ❸存、大正八・七三二No.232、舊月九、卍五・六、北二翔、南二翔、元16翔、明北16翔、清16翔、聖16翔、天16翔、指10翔、法二翔、至二翔、明南16翔、Nj.113 ❹僧伽婆羅譯 ❺梁天監五—普通元(A.D.506—520)

❻原梵本は梁の扶南國の沙門曼陀羅(Mandra—梁に弘爵又は爵離といふ)の賚らしたものである。初、曼の來支するや、未だ善く梁言を習はなかつた。爲に勅して同じく扶南國の沙門僧伽婆羅(Saṅghapāla—梁に僧養の至衆鎧といふ)と共に譯業に從ふことにせしめられた。その結果の一が卽ち今曼陀羅仙譯として傳はる文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經二卷に他ならぬ。然るに曼の沒後、曼の齎らす所の諸の梵本は漸ね僧伽婆羅が引受けて譯したが、その間一こそ今の文殊師利所說般若波羅蜜經一卷だつたといふ。便ち僧伽婆羅は梁の天監五年(A.D.506)以後、梁都に於て譯業に從事したが、後僧伽婆羅は元來、阿毘曇心論の學者で、譯を海南に垂れたと傳へられる(內典錄四—大正55,p.456a)開元錄四、貞元錄九には何れもたゞ偏學「對法」といふ)。爲に今の譯中にもその影響が著しく顯はれ、例せば、曼譯や梵譯等には「諸法」といふ所を僧伽婆羅の譯では「五陰十二處十八界」等といふなど、總じて阿毘曇一流の類瑣學術臭は極めて濃且つ厚たるものがある。右記の如く、曼譯を第一傳、これを第二傳、而して更に梵譯大般若第七會曼殊室利分を第三傳として、後譯には前後實に三傳三存である。 梵本も只梁本が現存し、「聖七百頌と名づくる般若波羅蜜多經」(Āryasaptaśatikā nāma Prajñāpāramitā sūtra)と稱し、蔵譯も北京、ナルタン、デルゲ等各版各々傳本あり、「聖般若波羅蜜多七百頌大乘經」(Ḥphags-pa ses-rab-kyi pha-rol-tu phyin-pa bdun-brgya-pa——大谷目錄No.737; Ḥphags-pa ses-rab-kyi pha-rol-tu phyin-pa bdun-brgya-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo——東北目錄 No.24)と名づけてゐる。曼陀羅仙譯本の下に詳解しておいたから、すべてはその下に讀る。

❽黃檗版(正大、一一二・一二)×淺井模塡)

文殊師利所說不思議佛境界經

❶(日)Mon-ju-shi-ri-sho-setsu-fu-shi-gi-butsu-kyō.(支)Wên-shu-shih-li-shuo-pu-ssū-i-fo-ching.(梵)Mañjuśrī-buddha-viṣaya-acintya-nirdeśa-sūtra.(蔵)Ḥjam-dpal-gyi-ḥjug-pa-ḥi-yul-gyi-bsam-gyis-mi-khyab-pa-ḥi-mdo-sde-ḥi-ṭīkā.(支)Wên-shu-shih-li-shuo-pu-ssū-i-fo-ching-chieh-ching.(梵蔵)美德天子會參照。文殊說不思議佛境界經 ❷二卷 ❸存、大正一二・一〇八No.340、舊地一一、卍六・四、北443袋、南45袋、元41袋、明北443袋、清443袋、聚44衣、天45袋、指35衣、法45衣、至111國、明南41袋、Nj.46 ❹菩提流志(太建四—開元一五A.D.572—727)譯 ❺唐長壽二(A.D.693)

❻本經は大寶積經第三十五會である。美德天子會と同本異譯で、共に唐の菩提流志の譯にかゝるものである。開元錄第九には、文殊師利所說不思議佛境界經二卷を出して、長壽二年(A.D.693、唐の中宗、嗣聖一〇年に當る)に周の東寺に於て譯出したもので、是が第一譯であるといひ、更に同第十一には、大寶積經第三十五の美德天子會の項では、菩提流志新譯とし、流志が先に譯した經と同本異譯なる旨を記してゐる。同一の譯者の手に成つたといふ右二本を對照すると、全同では無いから、東寺に於て譯した經の外、大寶積經を編んだ際、更に改譯したものと云はねばならぬ。

經は題號の示すが如く、佛境界の不思議なるを、文殊師利が說いたもので、內容は大體次の如きものである。卽ち舍衛城の給孤獨園で、佛の問により、佛の境界は、六根六境を超えた、無所入のものであり、思量の境に非ざるも、而も一切衆生の煩惱の中に於て求むべく、正しく衆生の煩惱を了知すれば、是れ佛の境界であつて、諸煩惱の自性は、卽ち佛境界の自性であり、凡夫の三毒を起す處、これ佛所住の平等の法で、凡夫は空・無相・無願の法に於て、煩惱を起すが、この三毒の性も實は平等であることを知るを正住とし、正道に住するから正住とすと見るが如きは、有爲を離れざるものであつて、聖人は有爲・無爲、聖法・非聖法の二元を超えたことが遂べられる。

次で文殊と須菩提との間に、境界の得・否に就ての問答があり、文殊は決定して一切の諸地(三乘の)に住すること、既に正住に入りたるも、而も亦入りたるに非ざることを述べて、菩薩の行に及び、世間法は卽ち五蘊であり、この五蘊が、本空なるを了知するが出離であることを示してゐる。

次に須菩提が、諸比丘に對して、何の得る所かあり、何をか證となすと問ふた機會に、佛は慢に就て說き、かゝる義を聞かん者は、彌勒の世に、大乘の意を發して地位に在るべきを說かれる。

時に舊勝天子が、空率天に於ても、かかる說法のあらんことを請ふので、文殊は、神通を以て、直にかの天の在るが如くに化作すると、佛がその通力の無量なるを讚へ、重ねて會中の無量衆生をして、菩利を得しむるやう、その通力を發揮せんことを

求められる(卷上)。

文殊の通力を現前に見て、惡魔もこの法に歸依し、菩提心を起して護法の呪を說くと、文殊は聖率天に行かんことを善勝天子に告げ、無量の諸天と共に、かの天に至り、一切の善法を成就するを得る爲の行として、持戒・修禪・般若・神通・智・調伏・不放逸などを說き、更に不放逸も、三種の樂を得、三種の垢を除き、六波羅蜜の一一にある三の障と三の成滿とを得、また菩薩の三十七菩提分もこの不放逸で得ることを述べ、不放逸の菩薩は、畢竟の寂靜に入るべきを說へる。

次で善勝天子は、菩薩道の修行に就て尋ねるので、是に就ての文殊の詳說があり、一切功德光明といふ世界を見度いと申し出ると、神通もて普賢如來のかの世界を見せしめ、その世界より來れる諸菩薩大衆の爲に、更に說法して、天宮より沒し、かの世界の菩薩衆と共に佛所に至る。佛は文殊等が神通を變化したのは衆生成熟の爲であつて、已に深理を得、永く佛事を施作して、此の界に生れたることなどを說かれ、付屬があつて終つてゐる。

經は佛の境界を示すのに、隱顯・表裏の法を用ひてゐる。先づ文殊をして、佛の境界を說かしめられたことは、表面から是を規定したもので、たとひその說き方が積極的でないにしても、佛の境界を顯說したものと云はねばならぬ。經の後半は、是に反して、文殊の神通を用ひ、その上で種々の說法のあることは、その限りに於て、文殊の威力を示すものではあるが、經の前半に對照して考へると、單に文殊の神通を示すものではなくて、文殊の神通によつて、裏面から佛の境界を說いたものと見ねばならない。蓋し文殊は佛に對して、「我れ如來の平等無自性の境界をば得たり」と云ひ、語を繼いで、「佛の境界にして所得あらば、我れ亦、諸佛の境界を得たり」と述ぶるところ、既に佛地を證すべくして、然も尙所願あつて、之を取らざることを云ふものであり、「我れ恒に一切諸法の、體と相と平等なるを覺す、是の故に、我を三藐三佛陀とは爲す」と說き、「我れ決定して一切の諸地に住す」と自ら述ぶるのみならず、經の末尾に、「文殊師利は已に無量阿僧祇劫に於て、佛事を施作し、衆生の爲の故に世間に生れ、此の神通變化の事をば現じたり」と佛の演べられた所を以てしても、身を菩薩に現じつゝも、實は佛境界に在ることを知るべきであり、從つて文殊所現の神通、所說の敎法は、則ち佛の神通說法と簡ぶ所がないわけであつて、經の後半に隱の義有りと云ふ所以、亦ここに存するのである。

若し更に一歩を進むれば、文殊と佛との問答の如きは、形式上問答の體をなすと雖も、その內容より云へば、佛が文殊をして說かしめられたものであつて、文殊の詞を直に佛の詞とし、佛の問を文殊の云ふ所とするも、何の障りもなく、寧ろその方が却つて自然にさへ見える。文殊をして是を語らしめたことは、佛の方便に非ずんば、卽ち文殊既に佛位に入るべきの證佐とならう。かくの如き菩薩の現ずる所、說く所が佛の境界に非ず、佛地に在る者の所說に非ざる理由は無い。文殊師利所說佛不思議境界經の題號、實に顯はし得て妙といふべきである。

兩して文殊の說く所(殊に經の初に於ては、染淨を分たず、凡聖を隔てず、煩惱卽佛、三毒卽平等とし、三乘を以て佛の方便と見るなど、諸他の大乘諸經の、好んで取り扱へる所の諸問題に觸れつゝも、兩も夫等を凡て「佛境界」を以て攝したる如き觀あるは、自ら本經の思想的地位を暗示するものと見ることが出來る。

❷(參考) 開元錄第九、貞元錄第一四

(運澤成淳)

文殊師利所說不思議佛境界經

❶(B) Man-ju-shi-ri-shu-fa-pu-sse-i-fo-chi-pu-sse-kyō-gai-kyō. 國譯文殊師利所說不思議佛境界經 ❷二卷 ❸存、國譯一切經寶積部第七 ❹運澤成淳譯

文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經

❶(B) Man-ju-shi-ri-shō-ma-ka-pa-ra-mi-tu-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-pi-shuo-mo-ho-pan-po-lo-mi-ching. 文殊說摩訶般若經、文殊師利般若波羅蜜經、文殊師利說般若波羅蜜經、文殊般若波羅蜜經 ❷二卷 ❸存、大正八・七二六、No.232、縮月九、卍五・六、北10翔、南17翔、元18翔、明北18翔、清18翔、麗11羽、天17翔、指10羽、法10羽、至10羽、明南18翔、No.21 ❹曼陀羅仙譯 ❺梁天監二(A.D.503)

❻(一)梵の「聖七百頌と名づくる般若波羅蜜多經」(Arya Saptaśatikā nāma Prajñāpāramitā sūtra— これは未だ具藥本のみで傳はり、刊行本は無い。)(二)西藏の「聖般若波羅蜜多七百頌大乘經」(各大目錄 No.124: Hphags-pa ŝes-rab-kyi pha-rol-tu phyin-pa bdun-brgya-pa; 東北目錄 No.94: Hphags-pa ŝes-rab-kyi pha-rol-tu phyin-pa bdun-brgya-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi-mdo— 北京版、デルゲ版、ナルタン版等各々所傳を有する)、(三)梁僧伽婆羅譯文殊師利所說般若波羅蜜經一卷(大正No.232)、(四)唐玄奘譯大般若波羅蜜多經(大正No.220)第七會曼殊室利分(卷574—5)等の同本異傳である。大正No.232その八、般若部四に攝め、又、大寶積經第四十六會文殊說般若會にそのまま攝する。

譯者曼陀羅(Mandra)仙は梁に弘扇又は翻譯といひ、扶南國の人である。大に梵本の經を齎らして來支し、梁の武帝の天監二年(A.D.503)癸未に譯する所が卽ち今の文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經二卷である。(內典錄四—大正55, p.425c; 開元錄六—同上, p.525b; 貞元錄九—同上, p.755c; 祐錄一三—同上, p.95c)。この時、曼陀羅仙はまだ梁に來て間もなく(同年來支す)、因より梁言を善くしなかつた。僧伽婆羅(Saṅghapāla)と共に譯せしめた。かくて諸經錄(上出諸目錄參照)は「故所出經文句理質」などいふが、何うして、僧伽婆羅譯の拙劣繁瑣などに比ぶべきでもない(僧伽婆羅譯、文殊師利所說般若波羅蜜經の下卷照)。古くは梵にも Mañjuśrīprajñāpāramitā(?) などいつた爲に、現護譯には多く文殊師利所說般若波羅蜜經等といふのかも知れないが、今の梵、藏二本にはすべて「聖七百頌般若波羅蜜多經」等とすること注目すべし。

經の全體を二大分すべく、各末尾に流通分を有する。漢譯に二卷に作るのはそれを岐目とするものである。兩も已に各流通分もあるのであるから、或はそのまゝ初分成り、次で同じく後分が追加累積的に附け加へられて全體の成立とはなつたものではなからうか。兩して內容に從つて更に細分すれば、その前半分は十五、後半分は十四の各段に分割すべし。主內容は勿論般若皆空、一相無相の說明で、論式が大部諸般若ほど丁寧、懇切、かくて反復的ではなく、同時にまた金剛經等に見る如き卒直簡明にも走らず、要するに程よく中庸を得てゐる所に大に特色を認められる。恐らくは兩經典の中間的產物ででもあつたであらう。就中、空の字を出來るだけ出さないで、兩も結果に於ては如何にも印象强く空の意義を知らしめ得る考想、設備は編者の手腕の甚だ巧妙なのを思はせる。また空の說明に「自性離」とか、單なる「離」とかいふ字を盛に用ひることも特に目立つ本經としての一特徵である。さて、以上の全局的內容及び特異點以外に、また個別的のそれとして中論の八不の偈を想起せしめる幾多の記述あることもまづ見逃し得ぬ。卽ち劈頭、如來又は眞如を說明して、無動、無作、無所分別、無異分別、非卽方處、非離方處、非有、非無、非常、非斷、乃至、無生、無滅、無去、無來といふを初め、類句、準說が經中に繰返し認められる。無論、中論の八不は直接には環珞經佛母品中二諦に關して八不を記する。それに負ふといふは三論玄義の作者嘉祥大師の已に指摘せる所であるが、(Ibid, p.6b)、もし測つていへば、また、今の經の諸の所說乃至は今の經同準の勝天王般若その他に於ける準文を整理、踏襲してそこに至れるものでなかつたことを謹が斷乎言切り得る所であらう。兩もそれに次では、經中、女人(玄奘譯「無緣慮」、曼陀羅仙譯「無相」、僧伽婆羅譯「無緣」)が舍利弗、彌勒等と並むで、空觀の理解と註說とをのべる事實のあるのも亦正しく注目に價する。蓋し佛世以來、佛敎に於る女人の地位については極めて愍めにもまた哀れなものがあつて、それは大部諸般若、法華、大集、阿彌陀等の諸經にもすべて波及し、有名な變成男子思想となつてゐる。然るにかゝる間に於て、今の經が獨り、舍利弗や彌勒等に準じ、女人にともかくも空義の立派な理解を表白させてゐる所は、斷然として刮目に價するといふを憚るまい。是の如きは、尙これを全印度哲學史的に擴充しても、奧義書(Upaniṣad)以來の事實であるもまた著眼するに足るであらう(那伽般若及び相應諸經にも同じく似た記事があるから、參照のこと)。かくて以上彼此、要言する所、丁度、衆の手頃なことといひ、本經は寔に空觀に關する一敎科書として好適なものといふべく、或はそれは金剛經などの比でもないかも知れぬことをこゝに敬へて注意しておきたい。

❷(參考) 三寶紀第一一、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九

❸黃檗版(正大、一一二一・一二)×淺達模堆)

文殊師利所報法言稱經

❶(B) Man-ju-shi-ri-shō-hō-hō-gon-shō-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-pao-fa-yen-ch'eng-ching. 須眞天子經、問四事經、斷諸法狐疑法經、諸佛法善入方便陀羅尼經、持經、須眞天子所問經 ❷四卷 ❸存、大正一五・九六、No.586、縮宙二、卍二一・四、北374改、南325改、元562改、明北325短、清325短、麗373必、天342改、指344必、法325必、至325長、明南377四、No.293 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A.D.265—313) ❻須眞天子經の下を見よ。

文殊師利淨律經

❶(B) Man-ju-shi-ri-jō-ritsu-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-ching-lü-ching. (藏)清淨毘尼方廣經參照。淨律經、文殊淨律經、淨經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四四八 No.460、縮列二、卍一七・一、北541作、南554作、元546作、明北1079言、清1079言、麗544念、天547作、指546念、法546念、至1194儀、明南1195從、No.1024 ❹竺法護譯 ❺西晉太康一〇(A.D.289)

❻本經の同本異譯あることは、隋の法經錄、唐の靜泰錄、內典錄以下の各經錄に皆記してゐる。今法經錄卷五(大正五五ノ一三九頁)によつてみると、

大乘毘尼藏錄　第三

(1)文殊師利淨律經一卷　晉世　竺法護譯
(2)清淨毘尼方廣經一卷　晉世　竺法護譯
(3)寂調音所問經一卷　(宋)　沙門法海譯
　右三或經同本異譯

とある。靜泰錄第二(大正五五ノ一九三頁)には(1)は十三紙、(2)は十七紙、(3)は十八紙と經の紙數まで數へてゐる。開元錄の說によれば四譯ありといふ。初出は法護譯。第二出は經題卷數は法護と同一であるが、譯者を西晉の竺道眞としてゐる。第三出は(1)經題卷數が同じで姚秦鳩摩羅什譯とし、第四出は(3)と同一で劉宋法海譯としてゐる。そして四譯一闕とするのが開元錄の說である。法經錄等の疑しいのは(1)と(2)とを同一譯者とすることである。異譯說を述べる開元錄の說が正しいやうに考へられる。現に清淨毘尼方廣經は羅什譯として大正藏(二四ノ一〇七五頁)に揭げてある。因みに寂調音所問經も大正藏(二四ノ一〇八一頁)にある。この二經を律部に收めながら本經を經集部に載錄したのは大正藏編者の千慮の一失で、本經も大乘律部とすべきである。

次に本經の譯者と譯出年代及び譯場は各經錄が共通してゐるから疑ふことはないが、出三藏記卷七の文によると西國より渡來せる寂志なる者が本經を唱誦して傳へたのであるが、忘失した爲めに本經の後に何數品を脫してゐるといふことが記されてゐる。この文によつて法護譯の闕脫は認められるが、然らば後に譯出した羅什や法海譯

に脱逸を補充されてゐなければならないのである。果して什譯にも海譯にも本經の忘失が補はれてゐる。（國譯一切經律部十二參照）

本經の内容は清淨毘尼方廣經と同一といつてよい。但一つ注意すべきは有名なる碧巖錄第一則の聖諦第一義は從來僧肇の肇論の文に暗示されたものであると云はれてゐたが、余の推考によれば肇論は恐く本經の眞諦品第一及び聖諦品第二に示唆されゐるのではあるまいか。更に强調すれば碧巖の第一則は本經を換骨奪胎したのではあるまいか。達磨と武帝との問答は恐く本經から資料を得たとも考へられる。且く記して後考を待つ。

❼（參考）出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四

文殊師利淨律經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-jō-ritsu-kyō. 國譯文殊師利淨律經 ❷一卷 ❸存、國譯一切經經集部第一四 ❹田島德音譯 （田島德音）

文殊師利神通力經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-jin-tō-riki-kyō.(支)Wen-shu-shih-li-shen-t'ung-li-ching. 大莊嚴法門經、勝金色光明德女經、勝金花明德女經 ❷二卷 ❸存、大正一七・八二五 No.816、紺宙一、卍一〇・二、北126奏、南160奏、元1155奏、明北1851號、清1581號、麗1824朔、天1183奏、指1724朔、法1284朔、至926良、明南1265基、Nj.185 ❹那連提耶舍譯 ❺隋開皇二—五(A.D.582—585) ❻大莊嚴法門經の下を見よ。

文殊師利神力經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-jin-riki-kyō.(支)Wen-shu-shih-li-shen-li-ching. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 武周錄第一二

文殊師利說般若波羅蜜經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-setsu-han-nya-ha-ra-mitsu-kyō.(支)Wen-shu-shih-li-shuo-pan-jo-po-lo-mi-ching. 文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經、文殊師利般若經、文殊師利般若波羅蜜經 ❷二卷或一卷 ❸存、大正八・七二六 No.232、續月九、卍五・六、北108翔、南173翔、元126翔、明北126翔、清126翔、麗114羽、天117翔、指103羽、法103羽、明南126翔、Nj.121 ❹曇摩蜜多譯 ❺梁天監二(A.D.502) ❻文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經の下を見よ。

文殊師利大教王金翅鳥王品 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-dai-kyō-ō-kon-ji-chō-ō-bon. (支)Wen-shu-shih-li-ta-chiao-wang-chin-ch'ih-niao-wang-p'in. ❷存、三十帖策子第二二 ❸この法は咒と祕能を降伏するのが目的であつたが、而も其の法の應用として、專に世間の福望を成就することに適用され、即て其の本旨を失墜して居るかの如き觀を呈して居る。その眞言印契等は、金翅鳥王が說くことになつてゐる。眞言は二首擧げられてあり、印に三種あり、召龍印と調伏天上人間諸龍印と金翅鳥王通光印（一名鷲怖諸龍印）とである。此の法は未來末法の時に於て、佛法を護持し、國王及び國界を擁護し、以て諸の有情をして、安樂を得しむる爲に修する法であるから、法を授くるに當り、其の人を嚴撰す可きこと、又金翅鳥王の像の造り方、並に其の曼荼羅が明してある。又蛇を使用して、諸の意願を滿足し得る種々の法が說かれてある。（神林隆淨）

文殊師利八字三昧經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-hachi-ji-sam-mai-kyō.(支)Wen-shu-shih-li-pa-tzū-san-mei-ching. 文殊師利法寶藏陀羅尼經、文殊法藏經、文殊陀羅尼經、寶藏陀羅尼經、文殊師利菩薩八字三昧法、文殊師利菩薩八字三昧經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七九一 No.1162、續餘五、卍二・四、北223藪、南146藪、元146藪、明北144羊、清144羊、麗132謝、天146藪、指134謝、法103謝、至822賓、明南222曾、Nj.448 ❹唐菩提流志(太建四—開元一五 A.D.572—727)譯 ❺平安朝時代寫 ❻（寶菩提院）

文殊師利般涅槃經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-hatsu-ne-han-gyō. (支) Wen-shu-shih-li-pan-nieh-p'an-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第一

文殊師利般涅槃經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-hatsu-ne-han-gyō. (支) Wen-shu-shih-li-pan-nieh-p'an-ching. 文殊般涅槃經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四八〇 No.457、續黃五、卍二・六、北473羊、南457羊、元452羊、明北504紙、清504紙、麗477紙、天479羊、指432紙、法461紙、至421悲、明南126紙、Nj.325 ❹齊道猛譯 ❺西晉太康初—永嘉末(A.D.280—312) ❻本經は出三藏記卷四(大正五五ノ二二頁)法經錄第一(大正五五ノ一二一頁)は共に失譯とし、內典錄第二(大正五五ノ二三六頁)歷代三寶紀第六(大正四九ノ六五頁)には西晉眞道猛譯と記してある。慨ふに僧祐が失譯と推定したのが正鵠を得たものであらう。

本經の說相は佛、舍衞國祇園に在し、後夜に定に入り、光明を放つ、この光明は祇園を遍く照し、文殊の房を照す。光明は化して七重の臺となる五百の化佛は一々臺上にあり。又文殊の房の前に五百の七寶の蓮華化生せり。蓮花より光明を放つて佛の精舍を照し、廻つて文殊の房を照す。此の神變によつて阿難は衆を集む。時に佛出定して口より光明を放つ文殊も亦佛の精舍に來りて禮佛せり。時に波陀婆羅、佛に文殊は當來に般涅槃したまへしと問ふ。此の問によつて本經の題目が揭げらる。佛この問に對して文殊は舍衞國の梵德婆羅門の家に生れ、佛弟子となり、首楞嚴定を得たり。佛入涅槃の後四百五十年にして雪山に入り、五百の仙人のために經を說き、五百の化佛、五百の化菩薩を示したまふ。文殊は是の如き威神力を有するが故に未來世の衆生は文殊の像を念ぜよ。念ずる者は罪閑を求むるならば阿羅漢を得、方等を信ずる者は不退轉を得るであらう。福德も正覺も得られるであらう。文殊のために香山の中の金剛山頂に七寶の塔を起て像を供養する

たらば苦空無我無相の法が聞かれるであらうと、文殊を觀想する方法と種々の供養の方法とが說かれたものである。これを要するに涼州地方に於ける文殊信仰の所產になつた經典であるといふべきであらう。

❼（參考）內典錄第二、三寶紀第六 （田島德音）

文殊師利般涅槃經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-hatsu-ne-han-gyō. 國譯文殊師利般涅槃經 ❷一卷 ❸存、國譯一切經經集部第一五 ❹田島德音譯

文殊師利般若波羅蜜經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-han-nya-ha-ra-mitsu-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-pan-jo-po-lo-mi-ching. 文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經、文殊師利說般若波羅蜜經、文殊說摩訶般若經、文殊般若波羅蜜經 ❷二卷或一卷 ❸存、大正八・七二六 No.232、續月九、卍五・六、北108翔、南173翔、元126翔、明北126翔、清126翔、麗114羽、天117翔、指103羽、法103羽、至103羽、明南126翔、Nj.121 ❹曇摩蜜多譯 ❺梁天監二(A.D.502) ❻文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經の下を見よ。

文殊師利菩薩會 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-fu-mon-e. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-mên-hui. (梵)Samanta-mukha-pariva-arta (藏譯) (梵) bhagas-pa kun-nas-sgoḥi leḥa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo ❸存、大寶積經第二九(大正一一・一五八 No.310(10) ❹菩提流志(太建四—開元一五 A.D.572—727)譯 ❺唐景龍二—開元元(A.D.708—713)

❻(異譯) 西晉竺法護譯菩門品經一卷、(西藏譯)は Jnanamitra, Sarendrabodhi 及び Ye-śes-sde の共譯とす。(大意) 三昧思想を高潮する經にして觀音菩門品に先驅する文學たる點に於て重視すべきものあり、般若の本淨思想より法華の實相思想に移る過程にありと考へられる。(梗概) ○通序(說處菩薩崛山)。○別序(廻淨行世界の菩薩如來に勸發せられて、九萬二千菩薩を率ゐて彼土の無垢藏菩薩來至し、佛に菩入不思議法門(異譯、菩門品又は菩門品等不可思議清淨品)を聽受せんとす。○正宗分。○第一段。(一)文殊師利、この法門を昔て菩燈佛より聞きて無量三昧を發得したりとて、佛にこの三昧を說きたまはんことを請ふ。(二)佛、色相乃至無爲の二十八三昧を得るもの此の三昧を發得すとして、以下別說す。(1)色相三昧(色如來沐等と觀ず)。(2)解相三昧(解如谷響等と知る)。(3)香相三昧(但有假名字其實不可取)。(4)味相(皆從諸緣生其性無所有)。(5)觸相(上と同趣)。(6)意界(不在於內外亦不可聚集)。(7)女相(四大假爲女其中無所有)。(8)男相。(9)童男相。(10)童女相(各女相と同趣)。(11)天相。(12)龍相。(13)夜叉相。(14)乾闥婆相。(15)阿修羅相。(16)迦樓羅相。(17)緊那羅相。(18)摩睺羅伽相。(19)地獄相。(20)畜生相。(21)閻魔羅界(以上十一三昧は業力所感又虛妄心の所生にして實なく假名に過ぎずと知る同趣のもの、而して男相以下十五相が觀音菩門の三十三變身に關聯するところあるを注意すべし)。(22)貪相(貪法典佛法平等即涅槃)。(23)瞋相。(24)癡相。(25)不善(以上三、貪相と同趣)。(26)善法(心行各差別而皆同一行)。(27)有爲(一切皆寂滅)。(28)無爲(於中無所著亦復無出離)。(三)會衆得益。○第二段。(一)文殊再請。(二)佛、(1)無邊難垢。(2)可長面。(3)出娑光。(4)出離。(5)無得光。(6)無妄失。(7)雷音。(8)寶樂。(9)寂無聚。(10)專一境離思功德。(11)解一切衆生語言。(12)起一切陀羅尼王。(13)一切辯才莊嚴。(14)積集一切善法の十四三昧を略說したまふ。○流通分。(一)持經功德。(二)如來密意。(三)付囑阿難。(四)信受奉行。

（美濃晃順）

文殊師利佛土嚴淨經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-butsu-do-gon-jō-kyō.(支)Wen-shu-shih-li-fo-t'u-yen-ching. (梵藏) 文殊師利授記經參照。文殊佛土嚴淨經、嚴淨佛土經、佛土嚴淨經 ❷二卷 ❸存、大正一一・八九〇 No.315、續地一〇、卍六・三、北232服、南152服、元152服、明北152服、清152服、麗222乃、天222服、指222乃、法152乃、至52位、明南152服、Nj.31 ❹竺法護譯 ❺西晉太熙元(A.D.290)

❻(類本) 不空譯の大聖文殊師利菩薩佛刹功德莊嚴經と共に、大寶積經第十五、文殊師利授記會(實叉難陀譯)の同本異譯で、本經は他二本より文少しく簡單である。西藏本は大谷甘珠爾錄 No.760(15)(東北錄では No.30)に在り、不空譯に最も親しい。（內容）本經典第二卷二七四頁不空譯本所說の項をみよ。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四 ❽寬文一二刊 ❾(高大、寄・櫻部文鏡)

文殊師利菩薩儀軌供養 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsu-gi-ki-ku-yō. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-i-kuei-kung-yang. 金剛頂瑜伽文殊師利菩薩供養儀軌、金剛頂瑜伽經文殊師利菩薩儀軌供養法、金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩儀軌供養法、文殊供養法、文殊五字念誦法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七一六 No.1176、續問一二、卍二七・一、明北1421鐘、清1421鐘、麗1359敎、法1179八、至219波、明南1215優、Nj.1428 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774)譯 ❺金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩供養儀軌の下を見よ。

文殊師利菩薩及諸仙所說吉凶時日善惡宿曜經 ❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsu-kyō-shu-sen-sho-setsu-kichi-kyō-ji-nichi-zen-aku-shuku-yō-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-p'u-sa-chi-chu-hsien-so-shuo-chi-hsiung-shih-jih-shan-e-hsin-yao-ching. 文殊諸仙說吉凶時日經、宿曜經 ❷二卷 ❸存、大正二一・三八七 No.1299、續問一四、卍二六・八、明北1349赤、清1349赤、麗1305執、明南1295優、Nj.1356 ❹不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774)譯 ❺唐乾元二(A.D.759)

❻七曜・二十八宮・二十七宿の關係に依り、人の生誕の日に依り、一生涯の運命を卜知し、若しくは日々の吉凶を占察する方法を示し

たもので、印度の羅婆(Gautama)仙が案出した暦法を基本とし、支那の暦法と調和して明したものである。

〔上卷〕 定宿直品第一(三八七、a)。日宿直所生品第二(三八八、c)。三九紀宿品第三(三九一、a)。七曜直日品第四(三九一、c)。祕密雜占品第五(三九二、b)。黑白月分品第六(三九二、c)。日名善惡品第七(三九三、a)

〔下卷〕 (一)西國毎一月、分爲白黑兩分(三九三、c)。(二)擇日(同前)。(三)擇時(三九四、a)。(四)白黑月所宜吉凶暦(三九四、a)。(五)二十七宿十二宮圖(三九四、c)。(六)月名(三九四、c。三八八、a)。(七)狄求人、所屬宿(三九五、b)。(八)宿直(三九五、b)。(九)二十七宿所爲吉凶暦(同前)。(一〇)行動禁閉法(三九七、a)。(一一)裁縫衣裳服著用宿法(三九七、b)。(一二)三九紀要法(三九七、c)。七曜直日暦品第八(三九八、a)。(一一)七曜名稱(同前)。(一二)七曜當直(三九八、b)。(一三)七曜占(三九八、c)。(一四)七曜直日、與二十七宿合、吉凶日暦(三九九、b)。(一五)太白所在吉凶法(同前)　以上

支那では二十八宿を樹て、印度の羅婆仙の暦法は二十七宿を説くことになつてゐる。(三九四、c 細註)両して印度では月を黑白の二つに分ち、新月から滿月に至る十五日間を白月とし、十六日から三十日に至る間、即ち滿月から黑月に至るまでを黑月と呼んでゐる。(三九三、c)両して月と二十七宿との位置に依つて、吉凶禍福を占ふことが行はれ、密教に於て、息災、增益、降伏等の法を修する時には、此の宿曜經に依つて、其の吉日を撰定して行ふことになつてゐる。尙此の古樂星宿法は吳の支謙譯の摩登伽經にも示されてある。又星座の觀察には、太白星(即ち金星)が目標となつてゐるが、此の星の位置は、日に依つて異る。即ち一日、十一日、二十一日には太白は、常に東方にありとし、五日、十五日、二十五日には、太白は常に西方にありと言はれて居る(三九九、c)。両して此の金曜(太白星)の直日に、月と輝宿と合するを露日と稱し、此の七曜日を都て大吉日と爲し、金曜の直日が、月と張宿と合する時の七曜日を、合剛峯日と稱し、降伏法を修するに適すると爲し、金曜の直日に、月が全宿と合する時の七曜日を、羅刹日と稱して惡日と爲してある(三九八、b)。

次に支那では建寅を歲の初と爲して居るのに對して、印度では建卯を以て歲の初と爲して居る。印度では白月十五日の夜、太陰所在の宿を以て、月の名と爲してあるが、建卯の位は、角宿に當る所から、之れを角月と呼ぶ。唐の二月に相當する(三八八、a)。又二十七宿の星座の形は、一行撰の「七曜星辰別行法」に示してある(二一、四五三—)。

❷(參考)　貞元錄第一五　❹鎌倉時代寫(寶善提院)延寶九刊(正大、一一六〇・三一—三二)　(神林隆淨)

文殊師利菩薩及諸仙所說吉凶時日善惡宿曜經　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-ryō-sho-sen-sho-ri-bo-satsa-kyō-ji-nichi-zen-aku-shukka-yō-kyō. 國譯文殊師利菩薩及諸仙所說吉凶時日善惡宿曜經　❸存、國譯密教經軌部第一　❹塚本賢曉譯

文殊師利菩薩經　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-ching. ❷一卷　❸缺　❹西晉竺法護(一泰始二—建興元 A.D. 265—313—)譯　❷(參考)　開元錄第一四、貞元錄第二四

文殊師利菩薩根本大教王經金翅鳥王品　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsu-kon-pon-dai-kyō-ō-kyō-kon-ji-chō-ō-hon. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-kên-pên-ta-chiao-wang-ching-chin-chih-niao-wang-p'in. (梵) Garuḍa-pataḍa-parivarta (刊) 金翅鳥王經　❷一卷　❸存、大正二一・三二五 No. 1276、縮開一四、卍一六・九、明北1046止、清1046止、麗1278欠、明南1046取、三十帖策子第二六、No. 1054　❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774)譯

❺唐天寶五—大曆九(A.D. 745—774)

❻この金翅鳥王法は、在家法であつて、出家の法ではない。金翅鳥王が釋尊の許を得て說いたと言はれて居る陀羅尼に神祕力あり、如法に壇場を構へ、金翅鳥王の曼荼羅を設けて、修法すれば、世俗のあらゆる願望を成就し得ると說いてある。最後に此の法は、未來末法の時に、國王及び國界を擁護する必要ある時に、父母に孝順にして、國王に對して忠敬であり、和上を尊上する人に對してのみ授く可き法であると言はれてある。

❼(參考)　貞元錄第一五　❹文和二寫(寶壽院)德川時代寫(寶善提院)　(神林隆淨)

文殊師利菩薩讚佛法身禮　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsu-sam-butsu-hon-shin-rai. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-tsan-fo-fa-shên-li. 大聖文殊師利菩薩讚佛法身禮、大聖文殊師利讚法身禮、文殊讚法身禮、文殊法身禮、文殊讚佛禮　❷一卷　❸存、大正二〇・九三六 No. 1185、縮開一五、卍二七・二、北1401武、南1405衡、元1263衡、明北1445謙、清1445謙、麗1245宅、天1252衡、法1128八、至794如、明南1175竟、三十帖策子第二〇、No. 1455　❹不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774)譯　❺唐永泰元(A.D. 765)　❻大聖文殊師利菩薩讚佛法身禮の下を見よ。　❼寫本(寶壽院)

文殊師利菩薩十事行經　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-jū-ji-gyō-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-shih-hsing-ching. 月燈三昧經　❷一卷　❸存、大正一五・六二三 No. 641、縮玄一〇、卍一〇・四、北1284養、南1365養、元191養、明北1286惠、清1286惠、麗1284鞠、天197養、楷1286鞠、法1280鞠、至922良、明南1285惠、No. 192　❹劉宋先公譯　❻月燈三昧經の下を見よ。

文殊師利菩薩十事行經　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-jū-ji-gyō-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-shih-shih-hsing-ching. 月燈三昧經　❷一卷　❸存、大正一五・六二三 No. 641、縮玄一〇、卍一

〇・四、麗1285鞠　❹劉宋先公譯　❻月燈三昧經の下を見よ。

文殊師利菩薩所說宿曜經　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-sho-setsu-shukka-yō-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-so-shuo-hsiu-yao-ching. ❷一卷　❸存　❻宿曜經の異本。　❺天保一三寫　❹(谷大、餘大・三七七二)

文殊師利菩薩八字三昧經　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-hachi-ji-sam-mai-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-pa-tza-san-mei-ching. 文殊師利法寶藏陀羅尼經、文殊法藏經、文殊陀羅尼經、文殊師利八字三昧經、寶藏陀羅尼經、文殊師利菩薩八字三昧法　❷一卷　❸存、大正二〇・七九一 No. 1185A、縮餘五、卍一二・四、北423盡、南445盡、元440盡、明北444羊、清444羊、麗452讚、天440盡、指454讚、法407讚、至622資、明南452登、No. 448　❹菩提流志(太建四—開元一五 A.D. 572—727)譯　❺唐景龍四(A.D. 710)　❻文殊師利法寶藏陀羅尼經の下を見よ。　❼文和二寫　❹(寶壽院)

文殊師利菩薩八字三昧法　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-hachi-ji-sam-mai-hō. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-pa-tza-san-mei-fa. 文殊師利法寶藏陀羅尼經、文殊法藏經、法寶藏陀羅尼經、文殊陀羅尼經、文殊師利菩薩八字三昧經、文殊師利八字三昧經　❷一卷　❸存、大正二〇・七九一 No. 1185A、縮餘五、卍一二・四、北423盡、南445盡、元440盡、明北444羊、清444羊、麗452讚、天440盡、指454讚、法407讚、至622資、明南452登、No. 448　❹菩提流志(太建四—開元一五 A.D. 572—727)譯　❺唐景龍四(A.D. 710)　❻文殊師利法寶藏陀羅尼經の下を見よ。　❼文和二寫　❹(寶壽院)

文殊師利菩薩祕密心眞言　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-hi mitsu-shin-shin-gon. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-pi-mi-hsin-chên-yen. 金剛頂超勝三界經說文殊五字眞言勝相、文殊五字眞言勝相、金剛頂超勝三界經說文殊師利菩薩祕密心眞言、文殊菩薩祕密心眞言　❷一卷　❸存、大正二〇・七〇九 No. 1172、縮開一二、卍二七・二、明北1435謙、清1435謙、麗1276發、法1178八、至913川、明南1234優、No. 1446　❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774)譯　❻金剛頂超勝三界經說文殊五字眞言勝相の下を見よ。

文殊師利菩薩佛利功德莊嚴經　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-bus-setsu-ku-doku-shō-gon-kyō. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-fo-chi'-kung-tê-chuang-yên-ching. 大聖文殊師利菩薩佛利功德莊嚴經、文殊菩薩佛利莊嚴經　❷三卷　❸存、大正一一・九〇二 No. 310、縮開一二、卍續一・三・五、麗1267阜　❹不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774)譯　❻唐大曆六(A.D. 771)　❻大聖文殊師利菩薩佛利功德莊嚴經の下を見よ。

文殊師利菩薩法　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-hō.　❷一帖　❸存　❹德川時代寫　❹(寶壽院)

文殊師利菩薩無相十禮　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsa-mu-sō-jū-rai. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-wu-hsiang-shih-li.　❷一卷　❸存、大正八五・一二九六 No. 2544

❻本書は燉煌出土古寫本にしてペリオ氏の蒐集に係る。佛蘭西國民圖書館藏。清涼山中大聖文殊師利菩薩。端坐政看心。心亦不可得。至心歸命敬禮と稱し、(一)汎如法身佛、無a色無a形像、無a根無a住處、不生不滅故。(二)敬a禮無數劫、不來亦不去、不取亦不捨、遠a離六入故。(三)出過於三界、等如虛空、諸惑不染故、(四)於諸威儀中、去來及睡悟、常在a三昧故。(五)去來悉平等、已住a於平等、不壞平等故。(六)入a諸無相定、見a諸法寂靜、離a諸因緣故。(七)諸佛虛空相、虛空亦無相、離a諸因緣故。(八)虛空無a中邊、諸佛身亦然、心同a虛空故。(九)佛常在a世間、而不a染勞法、不分別世間故。(十)諸法由a如幻、如幻不可得、離a諸幻法故。これ文殊師利菩薩の十相で以下一切平等禮、無禮無不禮、一禮遍含識、同歸實相體と誌し、これより歸命懺悔至心懺悔して法身如來を至心に勸請し、隨喜し廻向し、悲智二照現前行ならしめるのである。以下三歸文や晨朝、日中などの無常偈——これは善導大師六時禮讚のそれと多少文字や偈文を異にしてゐるが——を列れて、日沒無常偈のところ此日已過命、即隨減如少の二偈で餘は缺けてゐる。

❹燉煌本(佛蘭西國民圖書館P・2212)　(成田昌信)

文殊師利菩薩問菩提經論　❶(日) Mon-ju-shi-ri-bo-satsu-mon-bo-dai-kyō-ron. (支) Wen-shu-shih-li-p'u-sa-wên-p'u-ti-ching-lun. (梵) Gayā-śrṣṇa-sūtra-ṭīkā (歸譯) (藏) Ḥphags-pa gya-yamgoḥi ri shes-bya-baḥi mdoḥi rnam-par-bṣad-pa. 文殊師利問菩提心經論、伽耶頂經論、伽耶山頂經論　❷二卷　❸存、大正二六・三二八 No. 1511、縮著一一、卍二一・八、北265虛、南272虛、元278虛、明北1184弗、清1184弗、麗267摩、天276虛、指282摩、法1553摩、至1257都、明南1184弗、No. 1191　❹天親菩薩造、菩提流支(—永平元—大統元 A.D. 508—535—)譯　❺元魏天平二(A.D. 535)

❻本論は文殊師利菩薩問菩提經を註釋したものであるが、この經は一名伽耶山頂經とも名づけられ、本論の譯者菩提流支(Bodhiruci)は又伽耶山頂經一卷をも譯してゐる。伽耶山頂經の異譯は菩提流支より百年も以前既に羅什三藏によつて文殊師利問菩提經一卷として譯出されてゐるし(A.D. 402—412)、後には佛說象頭精舍經一卷として陪の昆尼多流支(Vinītaruci)によつて(A.D. 563)、又唐の菩提流志(Bodhiruci, Dharmaruci)によつて大乘伽耶山頂經一卷として譯されてゐる(A.D. 693)。斯くの如く諸譯があり、經名が種種存する爲に本論にも伽耶山頂經論等の別名がある。既に世親菩薩によつて註釋せられ、支那に數回譯せられてゐることから、この經は極めて重要視せられてゐたらしい。この經には

菩提に關して理論的說明を施してゐる。

さて本論に移るに、先づ論初に序文として二頌があり、次に經を釋するに、(一)序分、(二)所應聞弟子成就分、(三)三昧分、(四)能觀淸淨分、(五)所觀法分、(六)起分、(七)說分、(八)菩薩功德勢力分、(九)菩薩行差別分の九分となす旨を述べ、以下一段づゝの經文を擧げては、論曰としてこれを論釋してゐる。前述の如く經自身が理論的に出來てゐるが、論釋に於ては更にこの經說を個條列擧的に組織し說明してゐる。例へば第二所應聞弟子成就分で無學者の八種の德を經說によつて說いてゐる。卽ち、

一、所作畢竟(應作已作)。二、畢竟過於應作已作(所作已辦)。三、遠離三昧障(業拾重擔)。四、拾離所受重擔(逮得己利)。五、證涅槃(盡諸有結)。六、過三界(正智心得解脫)。七、依不顚倒受教修行(一切心得自在已到彼岸)。八、如實修行四如意足(皆是阿羅漢)。

右の如く括弧內の經典の文句を個條的に組織し說明してゐる。同樣に第四能觀淸淨分では得一切智慧者の十七種を擧げ、第五所觀法分では菩提を證する人、證する智、所證の菩提の三法を述ぶるに、先づ證する人として、その身體は證する能はざる八說を、識心も證せざる六理由を擧め、所證の菩提に關しても、それは唯だ名字のみで世俗によつて菩提を說く理由二十三種を經文によつて區分してゐるといふ風である。而してその論釋はあくまで經文に依據してゐるので經說を出で離れて他方面へ廣く釋することは無い。故に本論の內容に就ては經自身に於けると同樣であるから略する。本論中の引用經文は同じく菩提流支譯の伽耶山頂經の經文と全く一致してゐる。

❼(參考) 三寶紀第九、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九 ❽貢奮(正大、一一九六・六七) (水野弘元)

文殊師利菩薩靈驗集 ❶(日)Monju-shi-ri-bo-satsu-rei-gen-shū. 文殊靈驗集 ❷三卷 ❸存 ❹大寂纂 ❺享和元刊 ❻(正大、一〇三三・七七)

文殊師利菩薩六字呪功能法經 ❶(日)Monju-shi-ri-bo-satsu-roku-ji-jū-ku-nō-hō-kyō. (支)Wén-shū-shih-li-pu-sa-liu-tzu-chou-kung-néng-fa-ching. 六字功能法經、文殊師利菩薩六字呪法、六字呪經、六字呪法、文殊六字呪法經、六字呪功能法經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七七八No.1179、縮帙三、卍續一・三・三 ❹雜密部。文殊六字法を內容としたものである。略名は文殊六字呪法經とも六字呪功能法經とも冒ふ。經の末尾に文殊師利薩埵六字呪法の題名がある。菩提流支譯の六字神呪經と同本である。又陀羅尼集經卷六文殊師利菩薩法とも同本異譯である。文殊菩薩の閻婆迦陀鄔摩の六字呪の功德と、畫像法と、呪法とを說明したものである。

❺應保元寫 ❻(谷大、縮大・三七六九) (久野芳隆)

文殊師利法寶藏陀羅尼經 ❶(日)Monju-shi-ri-hō-bō-zō-da-ra-ni-kyō. (支)Wén-shū-shih-li-fa-pao-tsang-to-lo-ni-ching. 文殊師利菩薩八字三昧法、文殊法藏經、法寶藏陀羅尼經、文殊陀羅尼經、文殊師利菩薩八字三昧經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七九一 No.1185A、縮帙五、卍續一・二・四、北433盡、南446盡、元440盡、明北444羊、淸444羊、麗429寶、天440盡、指404讃、法407讃、至625資、明南425登、N.448 ❹菩提流志(太建四—開元一五 A.D.572—727) ❺唐景龍四(A.D.710) ❻本經は雜密經に屬し、文殊八字法がその內容である。注意すべきは文殊の所在地を支那(大振國)の五臺山(五頂)と指定しておることである。陀羅尼の功德を說く次に賢劫智雷音王如來等八如來及び月光菩薩等十菩薩の陀羅尼を擧げ、八字陀羅尼卽ち、Om', ah, vi, ra, hūṃ, khaṃ, ca, rah とその功德を說く。次に畫像法、曼荼羅造境法、沙羅王佛等の十一佛、大精進印(內縛、二大指を並べ立てゝ少しく屈す)、十種果報等を說く。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一四 ❽(久野芳隆)

文殊師利寶藏經 ❶(日)Monju-shi-ri-hō-zō-kyō. (支)Wén-shū-shih-li-pao-tsang-ching. 文殊師利現寶藏經、文殊現寶藏經、寶藏經 ❷二卷 ❸存、大正一四・四五二No.461、縮字一〇、卍九・九、北1521蓋、南1521蓋、元1471蓋、明北1643恭、淸1543恭、麗138方、天1528蓋、指141方、法142方、至1532登、明南1771歌、N.168 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A.D.265—313) ❻文殊師利現寶藏經の下を見よ。

文殊師利寶藏陀羅尼經 ❶(日)Monju-shi-ri-hō-zō-da-ra-ni-kyō. (支)Wén-shū-shih-li-pao-tsang-to-lo-ni-ching. 文殊師利菩薩八字三昧經 ❷一卷別本 ❸存、大正二〇・七九八 No.1185B、縮帙五、卍續一・二・四、北433盡、南446盡、元440盡、明北444羊、淸444羊、天440盡、指404讃、法407讃、至625資、明南425登、N.448 ❹菩提流志(太建四—開元一五 A.D.572—727)譯 ❺文殊師利法寶藏陀羅尼經と內容は大同少異である。故に解說は省略する。

(久野芳隆)

文殊師利發願記 ❶(日)Monju-shi-ri-hotsu-gwan-ki. ❷(參考) 東域傳燈目錄卷上

文殊師利發願經 ❶(日)Monju-shi-ri-hotsu-gwan-kyō (支)Wén-shū-shih-li-fa-yüan-ching. (梵藏)菩賢菩薩行願讚 ❷一卷 ❸存、大正一〇・八七八No.296、縮天一一、卍二六・六、北1030歌、南1046歌、元1042歌、明北1329歌、淸1329歌、麗1036歌、指989歌、法1017歌、至1430登、明南1124箱、N.1296 ❹佛陀跋陀羅(竹半三—元嘉六A.D.359—429)譯 ❺東晉元熙二(A.D.420) ❻菩賢の行願を達成せんことを發願せる百七十六偈の願文にして、文學的にも思想的にも、菩賢行願讚を母胎とするものである。思想及び實踐的信條は、菩賢の行願による、一卽一切的な見佛、供養、懺悔、隨喜、勸請、回向、莊嚴、廣生等にして、華嚴系に屬するも、最後の結願に「願我命終時、面見阿彌陀佛、往生安樂國、生彼佛國已、成

道諸太願、阿彌陀如來、現前授我記、能淨菩賢行、滿足文殊願、盡未來際劫、究竟菩薩行」といへるもの、阿彌陀佛信仰の影響を受くることの甚大なることが注意せられる。本經、經題に於て文殊師利が發願せるかに見ゆるも、實は名を逸したる此願文の作者が「菩賢の行、文殊の願」なるものを發起したるものとなすべく、從つて、本來は或る僧の願文であつて經といはるべき性質のものではないやうである。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第七、內典錄第三、譯經圖紀第二、開元錄第三、貞元錄第五、淨土依憑經論章疏目錄 (美濃晃順)

文殊師利發願儀 ❶(日)Monju-shi-ri-hotsu-gwan-gi. (支)Wén-shū-shih-li-fa-yüan-chieh. ❷一卷 ❸缺 ❹(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五

文殊師利發願儀經 ❶(日)Monju-shi-ri-hotsu-gwan-gi-kyō. (支)Wén-shū-shih-li-fa-yüan-chieh-ching. 文殊師利發願經 ❷一卷 ❸存、大正一〇・八七八No.295、縮天一一、卍二六・六、北1029歌、南1045歌、元1041歌、明北1328歌、淸1328歌、麗1035歌、指988歌、法1016歌、至1429登、明南1123箱、N.1295 ❹佛陀跋陀羅(竹半三—元嘉六A.D.359—429)譯 ❺東晉元熙二(A.D.420)

文殊師利問經 ❶(日)Monju-shi-ri-mon-kyō. (支)Wén-shū-shih-li-wèn-ching. 文殊問經 ❷二卷 ❸存、大正一四・四九二No.465、縮列一、卍二二・二、北414盡、南435盡、元421盡、明北432染、淸432盡、麗413盡、天421盡、指323盡、法405盡、至419盡、明南430染、N.413 ❹竺法護譯 ❺東晉元熙二(A.D.420) ❻文殊師利菩薩の發問に應じて、佛が種々の問題に答へられたもの、全十七品より成る。卷上は十四品、卷下は三品を含む。

(序品第一)佛が王舍城耆闍崛山に住し、文殊等の菩薩を始め、千三百五十人の阿羅漢や比丘衆と俱に居られる。(菩薩戒品第二)文殊が世間の菩薩戒を問ひ、佛は沙彌の十戒や食肉の心得等を說かれる。(不可思議品第三)佛は涅槃に入らないこと、心意識のないこと、佛身は不生不滅の不可思議身なること、衆生が此の佛に歸依すれば、三惡道の苦なきことを說かれる。(無我品第四)外道は我を計するも、我なきことは磁石と鐵屑の相引くことの互に無我なるによるが如くである。(涅槃品第五)涅槃の意義を說いて、不生不滅、生死無く、生死の過患もなき空とせられる。(般若波羅蜜品第六)一切の佛、一切の法の般若の修行より出づるをいふ。(有餘氣品第七)二乘の有する煩惱二十四種を示す。(來去品第八)來去の相なきを擧行處と說く。(中道品第九)諸法の無二無三を中道と名く。(世間戒品第十)大乘に相應するための三歸十戒を說く。(出世間戒品第十一)犯戒の相、七衆(波羅夷・僧伽婆尸沙・偸蘭遮・波夜提・突吉羅・僧殘伽陀尼)を擧げる。(上出世間戒品第十二)無垢、無所著無漏等を說く。(菩薩受戒品第十三)發菩提心を說く。(字母品第十四)文殊問經字母品の項を見よ)(分部品第十五)佛は文殊に題記して滅後の佛法は先づ摩訶僧祇(大衆)と曇昆婆(上座)の根本二部に分裂し、更に是等より十八部が分派して、二十部が大乘般若波羅蜜より流出することを說かれる。之は十八部論の初品と略ど一致する。(雜問品第十六)文殊が未來に外道が興するであらうと思はれる種々の邪難を設けて、佛の解釋を求める。(囑累品第十七)佛が此の經を受持すれば、功德無量なりと歎へ、阿難の質問によつて經名を定め、更に在家の過患、出家の功德を明し、次に佛の十號を念ずる者は佛を見ること、三寶に歸依し、五戒を受け、十善道を守ること、治病、消惡に供養花呪法を爲すべきことを明される。

❼(參考) 三寶紀第一一、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九 (江田俊雄)

文殊師利問菩薩署經 ❶(日)Monju-shi-ri-mon-bo-satsu-sho-kyō. (支)Wén-shū-shih-li-wèn-p'u-sa-shu-ching. 文殊問菩薩署經、問署經、文殊師利問署經、署經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四三五No.466、縮宙八、卍一三・四、北432悲、南431悲、元437悲、明北1068率、淸1068率、麗419鞍、天438悲、法418鞍、明南425詩、N.112 ❹支婁迦讖譯 ❺後漢建和元—中平三(A.D.147—186)

❻此の經は其の經名は文殊師利が菩薩に署を問ふ經典となつてゐるが、實際は文殊は登場せず、塔かることのあるべきを豫想して、佛が舍利弗・目連・摩訶迦葉・迦旃延・須菩提・阿那律・阿難・奈吒和羅等の諸菩薩に恒薩阿鞞署卽ち如來署なる法に就て、種々に說明し、更に五百の梁羅門が代る〳〵佛前に出でゝ質問するに對し、此の恒薩阿鞞署の當に聞くべく、當に學すべき妙法なる所以を反覆解說し、其の瑞應をも述べられるといふ結構になつてゐる。

佛が舍利弗に語つた恒薩阿鞞署の四事とは一に發意、二に阿惟越致、三に樹下に坐すること、四に佛法の具足である。其の說明によれば、發意とは菩提心で、之は一切十方の衆生の爲めに功德を作す。其の所以は皆をして僧那僧涅(四弘誓を誓願すること)を得せしむるからである。次に阿惟越致(不退轉の努力)は一切の作爲努力はな

すも、爲めにする希望はなく、是の地の安穩地、堅固地ならんことのみを求めて、是を佛法の基界となすことであり、樹下に坐するとは瞑想靜思して空しく坐を起たず、起つときは成道の時であり、斯くて長るゝことなき力を養ふことであり、最後に佛法を具足するとは恒薩阿羅漢阿羅三耶三佛陀即ち如來の無上正覺を具足成就することである。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一 ❽(正大、一一二一・一六)

(江田俊雄)

文殊師利問菩提經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-mon-bo-dai-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-wen-p'u-t'i-ching. (梵藏)象頭精舍經參照。文殊問菩提經、菩提經、伽耶山頂經、菩提無行經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四八一No.464、縮宙二、卍一〇・六、北1555號、南2435號、元1577號、明北1511男、清1514男、麗1512敬、天1428號、法2126敬、至200必、明南1518男、No.1456 ❹鳩摩羅什譯 ❺姚秦弘始四—一四(A.D.402—412) ❻貞元錄第十二(大正五五ノ五九六頁)によると本經は第一譯、伽耶山頂經は第二譯、象頭精舍經は第三譯、大乘伽耶山頂經は第四譯、右四經は同本異譯であるといふ。內典錄第六(大正五五ノ二九三頁)は大乘伽耶山頂經を除いた他の三經を同本別出とし、法經錄は本經と伽耶山頂經とを二經同本異譯としてゐる。これによつて知られるように第一譯は羅什譯、第二譯は曇摩蜜多譯、第三譯は隋昆尼多流支譯、第四譯は唐菩提流志譯である。經錄に異譯の數に相違はあつても譯出年代と經錄とが並行してゐるものであるから疑ふべき點はない。

本經は文殊が佛に對して發心を問ひ、佛、無發心是れ發心なりと答ふ。次に文殊に對して諸天子が菩薩道、菩薩の略道、菩薩の義、菩薩の智を問ふ。文殊此の問ひに對して一々答へて菩薩道を說明し菩薩の意義を各方面から明瞭ならしめたものが本經である。

❼(參考) 譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六

(田島德音)

文殊師利問菩提經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-mon-bo-dai-kyō. 國譯文殊師利菩提經 ❷一卷 ❸存、國譯一切經經集部第一五 ❹田島德音譯

文殊師利問菩提心經論 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-mon-bo-dai-shin-kyō-ron. (支)Wen-shu-shih-li-wen-p'u-t'i-hsin-ching-lun. 文殊師利菩薩問菩提經論、伽耶頂經論、伽耶山頂經論、文殊師利問菩提經論 ❷二卷 ❸存、大正二六・三二八No.1521、縮著一一、卍二一・八、北955虛、南2729虛、元2372虛、明北1126弗、清1124弗、麗957麗、天2576虛、指5624麗、法2526麗、至1125都、明南1124雕、No.1191 ❹天親菩薩造、菩提流支(一永平元—大統元 A.D.508—525)譯 ❺元魏天平二(A.D.535) ❻文殊師利菩薩問菩提經論の下を見よ。

文殊師利耶曼德迦呪法 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-ya-man-tok-ka-ju-hō. (支)Wen-shu-shih-li-ya-man-to-chia-fa. 文殊師利耶曼德迦呪法 ❷一卷 ❸存、大正二一・九三No.1218 ❹釋寂が王舍城の竹林に居られて、文殊菩薩に對して、往昔に於て燃燈佛に值ふて、將來は佛陀に成り、釋迦牟尼佛と稱するなどの事を語つて居られた時に、大金剛藥叉將、即ち夜曼德迦(Yamāntaka)王が現はれ、佛滅度の後、佛法が將に滅せんとする時、佛法を護らんが爲に、一切の惡人を止め、佛法を壞せんとする者を治罰せんが爲に、この嗔怒王呪法を說くことに成つた。この時、佛は默然として、變化三昧に入り、文殊師利童子も、亦默して居られたが、この大威德明王が、この嗔怒王呪法を說かるるや、大地は六種震動し、諸惡人惡鬼等は、悉く恐怖を生じて、法王に歸依したと說き、次に夜曼德迦の大呪が示されてあり、又此の呪を誦じて行はる可き種々の呪法が明されてある。これ亦在家僧人の修す可きものではない。

(神林隆淨)

文殊師利耶曼德迦法 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-ya-man-tok-ka-hō. (支)Wen-shu-shih-li-ya-man-to-chia-fa. 文殊師利耶曼德迦呪法 ❷一卷 ❸存、大正二一・九三No.1218

文殊師利與離意女論議經 ❶(日)Mon-ju-shi-ri-yo-ri-i-nyo-ron-gi-kyō. (支)Wen-shu-shih-li-yü-li-i-nü-lun-i-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉竺法眞譯 ❺貞元錄二四に本經に細註して云く「以維摩經、今撿諸佛要集下卷有離意女論議事撿抄後經也云云。

❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

文殊集 ❶(日)Mon-ju-shū. ❷一卷或二卷 ❸源信(天慶五—寬仁元 A.D.942—1017) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述篇目集卷下

文殊宿曜經 ❶(日)Mon-ju-shuku-yō-kyō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三七回向經抄第三 ❹承燈(元久二—弘安五 A.D.1205—1282)

文殊巡行經 ❶(日)Mon-ju-jun-gyō-kyō. (支)Wen-shu hsun-hsing-ching. 文殊師利巡行經 ❷一卷 ❸存、大正一四・五一〇No.470、縮字二、卍一〇・七、北1521女、南1519女、元1576女、明北1523良、清1522良、麗1525傷、天1578女、指2426傷、法1526傷、至1126得、明南1527幼、No.1236 ❹元魏菩提流支(一永平元—大統元 A.D.508—525)譯

文殊所說最勝名義經 ❶(日)Mon-ju-sho-setsu-sai-shō-myō-gi-kyō. (支)Wen-shu-shuo-tui-sheng-ming-i-ching. (梵藏)最勝妙吉祥根本智最上秘密名義三摩地分參照。文殊說名義經 ❷二卷 ❸存、大正二〇・八一四No.1186、縮成一三、卍二六・九、明北1525群、清1525群、明南1521優、No.1250 ❹金總持等譯 ❺宋大觀中(A.D.1107—1110) ❻(稱本) 禁本あり、前項參照項目の下(本辭典四卷三二頁)を見よ。西藏本は大谷甘

殊經錄 No.56 に東北錄 No.564 に出づ。後譯では聖妙吉祥眞實名經、最勝妙吉祥根本智最上秘密一切名義三摩地分、文殊菩薩最勝讚實名義經の三異譯があり、文に各々多少の出沒がある。

〔內容〕 經の前半は儀形、後半は長行になつてゐるが、先づ金剛寧菩薩金剛手菩薩を讚ずる文あり、次で金剛手菩薩の請問に應じて釋迦佛が諸秘密の名義を說き、金剛寧金剛手爾菩薩も文殊所說諸佛秘密最勝名義を顯示し、佛の授記を得る。 (櫻部文俊)

文殊諸仙說吉凶時日善惡宿曜經 ❶(日)Mon-ju-sho-sen-setsu-kiki-kyō-ji-nichi-zen-aku-shuku-yō-kyō. (支)Wen-shu-shu-chu-hsien-shuo-chi-hsiung-shih-jih-shan-e-hsin-yao-ching. 文殊師利菩薩及諸仙所說吉內時日善惡宿曜經、文殊諸仙說吉內時日經 ❷二卷 ❸存、大正二一・三八七No.1299、縮閏一四、卍二六・八、明北1349亦、清1349亦、麗1350執、至457諸、明南1350優、No.1256 ❹不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774)譯 ❺唐乾元二(A.D.759) ❻文殊師利菩薩及諸仙所說吉內時日善惡宿曜經の下を見よ。

文殊請問要行論 ❶(日)Mon-ju-shō-mon-yō-gyō-ron. (支)Wen-shu-ching-wen-yao-hsing-lun. ❷一卷 ❸辰傷經。

❼(參考) 內典錄第一〇

文殊請問論 ❶(日)Mon-ju-shō-mon-ron. (支)Wen-shu-ching-wen-lun. ❷一卷 ❸辰傷經。❼(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八

文殊淨律經 ❶(日)Mon-ju-jō-ritsu-kyō. (支)Wen-shu-ching-ti-lüeh-ching. 文殊師利淨律論、淨律經、淨經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四四八No.460、縮列二、卍一七・一、北241作、南524作、元524作、明北1579言、清1579言、麗544念、天247作、指503念、法2624念、至1124儀、明南1125儀、No.1064 ❹竺法護(一泰始二—建興元 A.D.266—313)譯 ❺西晉太康一〇(A.D.289) ❻文殊師利淨律經の下を見よ。

文殊說般若會 ❶(日)Mon-ju-setsu-han-nya-kai. (支)Wen-shu-shuo-pan-jo-hui. 文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經、文殊說摩訶般若經、文殊師利般若波羅蜜經、文殊師利所說般若波羅蜜經、文殊般若波羅蜜經 ❷二卷 ❸存、大寶積經第一一五—一一六(大正一一・六四〇No.310(46)) ❹曇陀羅仙譯 ❺梁天監二(A.D.503) ❻文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經の下を見よ。

文殊說般若經 ❶(日)Mon-ju-setsu-han-nya-kyō. (支)Wen-shu-shuo-pan-jo-ching. 文殊師利所說般若波羅蜜經 ❷一卷 ❸存、大正八・七三二No.232、縮月九、卍五・六、北二期、南二期、元二期、明北二期、清二期、麗二期、天二期、指二期、法二期、至二期、明南二期、No.232 ❹竺法護(一泰始二—建興元 A.D.266—313)譯 ❺西晉太康一〇(A.D.289) ❻文殊師利淨律經の下を見よ。

文殊說般若會 ❶(日)Mon-ju-setsu-han-nya-kai. (支)Wen-shu-shuo-pan-jo-hui. 文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經、文殊說摩訶般若經、文殊師利般若波羅蜜經、文殊般若波羅蜜經 ❷二卷 ❸存、大寶積經第一一五—一一六(大正一一・六四〇No.310(46)) ❹曇陀羅仙譯 ❺梁天監二(A.D.503) ❻文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經の下を見よ。

文殊說般若經疏 ❶(日)Mon-ju-setsu-han-nya-kyō-sho. (支)Wen-shu-shuo-pan-jo-ching-su. 文殊般若經疏 ❷二卷或一卷 ❸宋智藏(太平興國元—雍熙元 A.D.976—1012)述 ❼(參考)新編諸宗教藏總錄第一

文殊說不思議佛境界經 ❶(日)Mon-ju-set-u-fu-shi-gi-bukyō-gai-kyō. (支)Wen-shu-shuo-pu-sse-i-fo-ching-chieh-ching. 文殊師利所說不思議佛境界經 ❷二卷 ❸存、大正一二・一〇八No.346、縮地二一、卍六・四、北44衣、南44衣、元44衣、明北44衣、清44衣、麗44衣、天46衣、指33衣、法44衣、至114國、明南44衣、No.346 ❹菩提流志(太建四—開元一五 A.D.572—727) ❺唐長壽二(A.D.693) ❻文殊師利所說不思議佛境界經の下を見よ。

文殊說名義經 ❶(日)Mon-ju-setsu-myō-gi-kyō. (支)Wen-shu-shuo-ming-i-ching. 文殊所說最勝名義經 ❷二卷 ❸存、大正二〇・八一四No.1186、縮成一三、卍二六・九、明北1525群、清1525群、明南1521優、No.1250 ❹金總持等譯 ❺宋大觀年中(A.D.1107—1110) ❻文殊所說最勝名義經の下を見よ。

文殊大教王經 ❶(日)Mon-ju-dai-kyō-ō-kyō. (支)Wen-shu-ta-chiao-wang-ching. 大乘瑜伽金剛性海曼殊室利千臂千鉢大教王經、千臂千鉢大教王經、千鉢經、大乘瑜伽曼殊室利千臂千鉢經 ❷十卷 ❸存、大正二〇・七二四No.1177A、縮成一三、卍一六・八、明北1522皆、清1522皆、麗1525溪、明南1044皆、No.1044 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774)譯 ❺大乘瑜伽金剛性海曼殊室利千臂千鉢大教王經の下を見よ。

文殊堂供養 ❶(日)Mon-ju-dō-kuyō. ❷一紙 ❸存、傳教大師全集附錄(新) 別卷(舊) ❺延曆十二年正月一日、比叡山の文殊堂の供養に於ける、檀主寂滅禪師以下行賀、常騰、勝鷹、美味、賢慢、義眞等、六高僧の配役を記せるものにして、「九院佛閣集」中の一章である。 (靈入亮圭)

文殊涅槃經稱揚記 ❶(日)Mon-ju-ne-han-gyō-shō-yō-ki. 文殊般涅槃經稱揚記、文殊經稱揚記 ❷二卷 ❸存 ❹玄心性亮撰 ❼(參考) 大日本佛教全書撥刊豫定書目

文殊八字 ❶(日)Mon-ju-hachi-ji. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三八阿娑縛抄四 ❹承覺(元久二—弘安五 A.D.1205—1282)

文殊八字儀軌 ❶(日)Mon-ju-hachi-ji-gi-ki. (支)Wen-shu-pa-tzu-i-kuei. 大聖妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼荼羅次第儀軌法、妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼行曼荼羅次第儀軌法、八字文殊軌、大聖文殊祕密陀羅尼修行次第 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七八四No.1184、縮餘一、卍撥一・二・五 ❹唐菩提嚕使、淨智金剛共譯 ❺大聖妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼荼羅次第儀軌法の下を見よ。

❾永保三寫(寶菩提院・寬治頃寫(寶壽院)寫本(京大、藏・一六八・一)×寶壽院)

文殊八字次第 ❶(日)Mon-ju-hachi

-ji-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(叡山、叡知)

文殊八字私記 ❶(B)Mon-ju-hatsu-ji-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹池上記 ❺寫本(西敎寺)

文殊般涅槃經 ❶(B)Mon-ju-hatsu-ne-han-kyō.(支)Wén-shu-pan-niè-p'an-ching. 文殊師利般涅槃經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四八〇No.467、縮黃五、卍二二・六、北423羊、南453羊、元421羊、明北564雜、清524雜、麗477盡、天479羊、指1336盡、法461盡、至421德、明南450雜、Nj.505 ❹眞道眞譯 ❺西晉太康初—永嘉末(A.D.280—312) ❻文殊師利般涅槃經の下を見よ。

文殊般涅槃經稱揚記 ❶(B)Mon-ju-hatsu-ne-han-kyō-shō-yō-ki. 文殊經稱揚記、文殊涅槃經稱揚記 ❷二卷 ❸存 ❹玄心性亮撰 ❺元祿一二刊 ❻京大、日大未・一二四×正大、一一七九・一〇八)

文殊般若經疏 ❶(B)Mon-ju-hanya-kyō-sho. (支)Wén-shu-pan-jo-ching-shu. 文殊說般若經疏 ❷一卷或二卷 ❹宋智圓 (太平興國元—乾興元 A.D.976—1022)遠 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

文殊般若波羅蜜經 ❶(B)Mon-ju-hanya-ha-ra-mitsu-kyō.(支)Wén-shu-pan-jo-po-lo-mi-ching. 文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經、文殊說摩訶般若經、文殊師利說般若波羅蜜經 ❷二卷或一卷 ❸存、大正八・七二六No.232、縮月九・卍五・六、北10翔、南17翔、元15翔、明北15翔、清15翔、麗12翔、天17翔、指10翔、法15翔、至10翔、明南17翔、Nj.21 ❹曇陀羅仙譯 ❺梁天監二(A.D.503) ❻文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經の下を見よ。

文殊表白 ❶(B)Mon-ju-hyō-byaku. ❷一帖 ❸存 ❹天文二三寫 ❺(寶龜院)

文殊佛利功德經 ❶(B) Mon-ju-butsu-setsu-fu-dokku-kyō.(支)Wén-shu-fo-ch'i-kung-tê-ching. 大聖文殊師利菩薩佛剎功德莊嚴經、文殊菩薩佛剎莊嚴經、諸佛遊戲經、佛剎功德莊嚴經、文殊菩薩佛剎功德莊嚴經、發菩提心令觀喜經 ❷三卷 ❸存、大正一一・九〇二No.319、縮閏一二、卍續一・三・五、麗1353阜 ❹不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774) ❺唐大曆元(A.D.771) ❻大聖文殊師利菩薩佛剎功德莊嚴經の下を見よ。 ❼(正大、一一六〇・三五)

文殊佛土嚴淨經 ❶(B) Mon-ju-butsu-do-gon-jō-kyō.(支)Wén-shu-fo-tu-yen-ching. 文殊師利佛土嚴淨經、佛土嚴淨經 ❷二卷 ❸存、大正一九・八九〇No.317、縮地一〇、卍六・三、北232服、南152服、元152服、明北152服、清152服、麗212乃、天232服、指152乃、法152乃、至152位、明南152服、Nj.21 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A.D.265—313) ❻文殊師利佛土嚴淨經の下を見よ。

文殊菩薩供養法 ❶(B)Mon-ju-bosatsu-ku-yō-hō. (支) Wén-shu-p'u-sa-kung-yang-fa. 金剛頂瑜伽經文殊師利菩薩儀軌供養法、金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩儀軌供養法、文殊師利菩薩儀軌供養、文殊供養法、文殊五字念誦法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七一六No.1175、縮閏一二、卍二七・一、明北1421鐸、清1421鐸、麗1259教、法1179八、至519流、明南1215鐸、Nj.1438 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774) ❻金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩供養儀軌の下を見よ。

文殊菩薩獻佛陀羅尼 ❶(B)Mon-ju-bo-satsu-kem-butsu-da-ra-ni. (支)Wén-shu-p'u-sa-hsien-fo-t'o-lo-ni. 文殊菩薩獻佛陀羅尼名烏蘇吒、滅鉢欲却我慢、文殊滅鉢慢我慢陀羅尼 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七七八No.1176、縮閏一二、卍續一・二・五、三十帖策子第二六 ❹唐代失譯 ❺文和二寫 ❻(宮壽院)

文殊菩薩獻佛陀羅尼名烏蘇吒 ❶(B)Mon-ju-bo-satsu-kem-butsu-da-ra-nai-mysō-u-so-ta. (支) Wén-shu-p'u-sa-hsien-fo-t'o-lo-ni-mieh-yu-wo-su-t'o. 文殊菩薩獻佛陀羅尼名烏蘇吒、滅鉢欲却我慢、文殊滅鉢慢我慢陀羅尼 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七七八No.1176、縮閏一二、卍續一・二・五、三十帖策子第二六 ❹唐代失譯 ❺聖海請來のもの、文殊法の一である。鉢欲を滅し、我慢を除く陀羅尼を說くといふのである。七佛八菩薩所說大陀羅尼神呪經卷二及び陀羅尼雜集卷二に收められてある。彼と對照すべきである。 (久野芳隆)

文殊菩薩五十萬遍私記 ❶(B) Mon-ju-bo-satsu go-ju-man-hen-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

文殊菩薩五十萬遍略作法 ❶(B) Mon-ju-bo-satsu go-ju-man-hen-ryaku-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶龜院)

文殊菩薩最勝眞實名義經 ❶(B) Mon-ju-bo-satsu-sai-shō-shin-jitsu-myō-gi-kyō. (支)Wén-shu-p'u-sa-tsui-shêng-chên-shih-ming-i-ching. (梵)(藏) 最勝妙吉祥根本智最上祕密一切名義三摩地分の下を見よ。 ❷一卷 ❸存、大正二〇・八二〇No.1189、縮成一三、元1411約 ❹元沙囉巴(—延祐元 A.D.1314)譯 ❺梵藏漢諸類本については最勝妙吉祥根本智最上祕密一切名義三摩地分の下及び文殊所說最勝名義經の項を見よ。本經の內容を經の末文に從つて記せば、先づ序分二十四頌あり、金剛手の願說に應じて釋尊被を讚稱しつゝ文殊智慧の名義を說くことを示す。次に幻化網究竟三頌、金剛善提心八十六名を讚する二十四頌、淸淨法界智百八名讚二十四頌三句、大圓鏡智七十一名讚十頌、妙觀察智二百七十五名讚四十二頌、成所作智九十五名讚十五頌、五智結讚各一頌あり、以下初輪乃至五輪功德を說き結び、終に流通分頌句あり。 (櫻部文鏡)

文殊菩薩像 ❶(B)Mon-ju-bo-satsu-zō. ❷一紙 ❸存、大正圖像第一二 ❹(東京美術學校×武藤金太)

文殊菩薩像 ❶(B)Mon-ju-bo-satsu-zō. ❷一軸 ❸存 ❹(龍大、別置)

文殊菩薩祕密心眞言 ❶(B)Mon-ju-mono-dai-jō-shi. (支) Wén-shu-wên-ching-tsa-mu-p'in-ti-shih-ssê. 文殊問字母品、字母品 ❷一卷 ❸存、大正一四・五〇九No.462、縮閏一五、卍一五・八、北1357惠、南1391阿、元1256阿、明北570清、清570清、麗1355衡、天1371阿、法1168槐、至422詩、明南1013不、Nj.975 ❹不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774)譯 ❺唐天寶五—大曆九(A.D.746—774) ❻之は梁の僧伽婆羅譯(A.D.518)の文殊師利問經の字母品第十四の別譯である。內容は所謂悉曇五十字門を示したものである。即ち梵字の字母五十字(母音十六字、子音三十四字)の各々に佛教々理を含む祕義を與へて、字母の意義をなしたものである。是等の字母の中に一切諸法が入つてゐると見られる點より之を陀羅尼(總持)字とも呼んでゐる。諸經の中、斯かる梵字字母を說くものが頗る多く、此の五十字門の一類(瑜伽金剛頂經釋字品、大般涅槃經文字品、大品般若經第五、光讚般若經第七、舊華嚴經第五十七、新華嚴經第七十六等)がある。本譯に於ては最後の第五十字が乞灑(ksa)となつてゐるに對し、梁譯は攘(ṇa)となり、伊跋・羅・婆・囉・伽・他・拾・沙の八字を出してゐるのは四十二字門の影響であらう。 ❼(參考) 貞元錄第一五、寫寫請來法門等目錄 ❺文和三寫 ❻(宮壽院×江田俊雄)

文殊問字母品 ❶(B) Mon-ju-mon-ji-mo-hon. (支) Wén-shu-wên-tzû-mu-p'in. 文殊問經字母品第一四、字母品 ❷

-ju-bo-satsu-hi-mitsu-shin-shin-gon. (支) Wén-shu-p'u-sa-pi-mi-hsin-chên-yen. 金剛頂超勝三界經說文殊五字眞言勝相、金剛頂超勝三界經說文殊師利菩薩祕密心眞言、文殊師利菩薩祕密心眞言 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七〇九No.1174、縮閏一二、卍二七・二、明北1422諫、清1422諫、麗1276廣、法1172八、至512川、明南1224優、Nj.1446 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774) ❻金剛頂超勝三界經說文殊五字眞言勝相の下を見よ。

文殊菩薩佛剎莊嚴經 ❶(B)Mon-ju-bo-satsu-butsu-setsu-shō-gon-kyō. (支) Wén-shu-p'u-sa-fo-ch'a-chuang-yen-ching. 大聖文殊師利菩薩佛剎功德莊嚴經、文殊佛剎莊嚴經、諸佛遊戲經、不思議願經、佛剎功德莊嚴經、發菩提心令歡喜經 ❷三卷 ❸存、大正一一・九〇二No.319、縮閏一二、卍續一・三・五、麗1353阜 ❹不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774) ❺唐大曆元(A.D.771) ❻大聖文殊師利菩薩佛剎功德莊嚴經の下を見よ。

文殊法 ❶(B)Mon-ju-hō. ❷二帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

文殊法一品 ❶(B) Mon-ju-hō-ippan. (支)Wén-shu-fa-i-p'in. 金剛頂瑜伽文殊師利菩薩法、金剛頂瑜伽文殊師利菩薩經、文殊五字呪法 五字呪法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七〇五No.1171、縮閏一七、卍二七・二、北1335洪、南1393阿、元1352尹、明北1440諫、清1440諫、麗1356尹、天1340尹、法1162戶、至501盛、明南1149無、三十帖策子第三〇、Nj.1447 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774)譯 ❻金剛頂經瑜伽文殊師利菩薩法の下を見よ。

文殊法身禮 ❶(B)Mon-ju-hosshin-rai.(支)Wén-shu-fa-shên-li. 大聖文殊師利菩薩法身禮、大聖文殊師利說法身禮、文殊師利菩薩說佛法身禮、文殊說法身禮 ❷一卷 ❸存、大正一一・九三六No.1155、縮閏一五、卍二七・二、北1401武、南1405衡、元1363衡、明北1448諫、清1448諫、麗1356宅、天1326衡、法1180八、至794知、明南1176竟、三十帖策子第二〇、Nj.1455 ❹不空(神龍元—大曆九 A.D.705—774)譯 ❺唐永泰元(A.D.765) ❻大聖文殊師利菩薩讚佛法身禮の下を見よ。

文殊法藏經 ❶(B) Mon-ju-hō-zō-kyō. (支)Wén-shu-fa-tsang-ching. 文殊師利法寶藏陀羅尼經、文殊師利菩薩八字三昧法、法寶藏陀羅尼經、文殊陀羅尼經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七九一No.1185A、縮餘五、卍二二・四、北423恭、南445恭、元440恭、明北444羊、清444羊、麗436讚、天440恭、指404讚、法467讚、至525貴、明南436景、Nj.448 ❹菩提流志(太建四—開元一五 A.D.572—727)譯 ❺唐登龍四(A.D.710) ❻文殊師利法寶藏陀羅尼經の下を見よ。

文殊發願經 ❶(B) Mon-ju-hotsu-gan-kyō. (支)Wén-shu-fa-yüan-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 武周錄第一一

文殊本願經 ❶(B) Mon-ju-hon-gan-kyō. (支)Wén-shu-pên-yüan-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第一

文殊問經字母品第十四 ❶(B) Mon-ju-mon-ji-mo-hon-dai-jō-shi. (支) Wén-shu-wên-ching-tsa-mu-p'in-ti-shih-ssê. 文殊問字母品、字母品 ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一四、貞元錄第八、第二四

文殊曼荼羅 ❶(B)Mon-ju-man-da-ra. ❷一紙 ❸存、大正圖像第六 ❹(東寺觀智院×欽王護國寺)

文殊滅淫慾我慢陀羅尼 ❶(B) Mon-ju-metsu-in-yoku-ga-man-da-ra-ni. (支) Wén-shu-mieh-yin-yü-wo-man-t'o-lo-ni. 文殊菩薩獻佛陀羅尼名烏蘇吒、文殊菩薩獻佛陀羅尼、滅鉢欲却我慢 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七七八 Nj.1177、縮閏一二、卍續一・二・五、三十帖策子第二六 ❹唐代失譯 ❺文殊菩薩獻佛陀羅尼名烏蘇吒の下を見よ。

文殊滅婬欲法 ❶(B)Mon-ju-metsu-in-yoku-hō. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第三八阿闍縛抄第四 ❹承澄(元久二—弘安五 A.D.1205—1282)

文殊問經 ❶(B) Mon-ju-mon-kyō. (支)Wén-shu-wên-ching. 文殊師利問經 ❷二卷 ❸存、大正一一四・四九二No.459、縮列八、卍二二・二、北414龍、南455龍、元421龍、明北455染、清455染、麗412衆、天421龍、指353衆、法465染、至419衆、明南420染、Nj.442 ❹僧伽婆羅(和平四—普通五 A.D.459—524)譯 ❺梁天監一七(A.D.518) ❻文殊師利問經の下を見よ。

文殊問經 ❶(B) Mon-ju-mon-kyō. (支)Wén-shu-wên-ching. ❷二卷 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第一

文殊問字母品 ❶(B) Mon-ju-mon-ji. (支)Wén-shu-wên-tzû-mu-p'in. 文殊問經字母品第一四、字母品 ❷

一卷 ❸存、大正一四・五〇九 No. 469、縮閏一五、卍一五・九、北1327感、南1391阿、元1330阿、明北970清、清970清、麗1335衡、天1371阿、法1105槐、至478詩、明南1012不、Nj. 975 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯

文殊問菩薩署經 ❶(日) Mon-ju-mon-bo-satsu-sho-kyō. (支) Wên-shu-wên-p'u-sa-shu-ching. 文殊師利問菩薩署經、文殊師利問署經、問署經、署經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四三五 No. 458、縮宙八、卍一三・四、北432悲、南431悲、元437悲、明北108卑、清107卑、麗419罪、天433悲、法423罪、明南425詩、Nj. 112 ❹支婁迦讖譯 ❺後漢建和元—中平三(A. D. 147—186) ❻文殊師利問菩薩署經の下を見よ。

文殊問菩提經 ❶(日)Mon-ju-mon-bo-dai-kyō. (支) Wên-shu-wên-p'u-t'i-ching. 文殊師利問菩提經、菩提經、伽耶山頂經、菩提無行經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四八一 No. 464、縮宙二、卍一〇・六、北433毀、南433毀、元433毀、明北432男、清432男、麗433敢、天433毀、指433敢、法431男、至300必、明南433男、Nj. 238 ❹姚秦鳩摩羅什(建元二一—義熙九 A. D. 384—413 一說義熙年中寂)譯 ❻文殊師利問菩提經の下を見よ。

文殊略集 ❶(日)Mon-ju-ryaku-shū. ❷一卷 ❹源信(天慶五—寬仁元 A. D. 942—1017) ❼(參考) 山家祖德撰述篇目集卷下

文殊樓決 ❶(日)Mon-ju-ru-ketsu. 宗要深義集 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三三、惠心僧都全集第三 ❹源信(天慶五—寬仁元 A. D. 942—1017) ❻本書は天台の宗要の骨目を八十八條に亘り說明せる算題にして、惠心僧都全集には此の外御廟決、枕雙紙、妙行心要集等をあぐるも何れも同類のものである。宗要の深義を質問せるに對し大聖文殊尊が解答せる問答體をなし、宗要深義集とも云はれ又文殊樓決とも稱せられる。如來の說教を末代に弘めんため文殊尊前に祈請し日々決擇を蒙りし所を書きし事を奥書は物語つて居り、叡山にあつて祕重せられし法門たりしを知る。文中傳教大師の諸經開題及び心要三十卷なる所說に中心を置く所なるも此等の著書に就ては何等知られたる所なし。源信の撰とは後代よりの假托と思はれる。今算題を出せば次の如し。

四教實理、衆但對帶、住上壽命、住上利鈍、四果四佛、二乘成佛、諸佛五時、自受法界、爾前久遠、通教歎主、二種相即、法華授記、通教乾慧、通教劫數、三教地位、應身八相、三佛出時、三藏供佛、補處住天、初分二十空、諸佛說涅槃、二教勝劣、提謂五時、人天感佛、法華二乘記、十界互具、爾前分身、一生入位、棄上釋迦、十界性實、自受用有戲、二智發心、三周證入、無性有情、定性二乘、藏三不退、通三不退、別三不退、住果緣覺、二佛並出、爾前惡記、俱知常住、三種四教、草木成佛、新成顯本、有餘實報、說報儀式、三惑同異、三惑同斷、三土三道、自受用所居、三因佛性、二界增減、不定毒發、四教證據、地上發假、六根外境、五時證據、四依供佛、四教八相、九識證據、一生妙覺、別圓斷惑、名別義通、通教相即、住果解闡、生身應用、大悲闡提、元品能治、超前三果、超中二果、證後超一果、羅漢退不、三藏猶惑、大悲受苦、人天感佛、塵沙證據、後番五味、四信五品、有教無人、爾前斷惑、通教出假、通教被接、決定業轉、別教生身、二乘心々、前後自受用、諸部圓教。

❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目 ❾寫本(叡山、華藏)(叡山、實藏坊) (義逢最昌)

文殊靈驗集 ❶(日)Mon-ju-rei-gen-shū. 文殊師利菩薩靈驗集 ❷三卷 ❸存 ❹大寂纂 ❺享和元刊 ❾(高大、寄・一・二四)(帝國、二三二・一九一)(哲、こ・七・左・五)

文殊六字 ❶(日)Mon-ju-roku-ji. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三八阿娑縛抄第四 ❹承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)

文殊六字次第 ❶(日)Mon-ju-roku-ji-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹陽救撰 ❺承曆四寫 ❾(如來藏)

文殊和讚註解智田鈔 ❶(日)Mon-ju-wa-san-chū-ge-chi-den-shō. ❷1卷 ❸存 ❹信曉(安永三—安政五 A. D. 1774—1858) ❾刊本(谷大、宗大・一七一九)

文集 ❶(日)Mon-jū. ❷一卷 ❸存 ❹玄智(享保一九—寬政六 A. D. 1734—1794) ❼(參考)眞宗全書刊行豫定書目

文書類及文書類附 ❶(日) Mon-jo-rui-oyobi-mon-jo-rui-tsuketari. ❸存 ❾(龍大、一九二・一三)

文章言句集 ❶(日) Mon-shō-gon-ku-shū. 諸流名目仕、文字章句言句集 ❷一卷 ❸存 ❹館瓊抄 ❺延文三寫 ❾(眞如藏)

文心解 ❶(日) Mon-shin-ge. (支) Wên-hsin-chieh. 十不二門文心解、十不二門心解、法華玄義十不二門文心解 ❷二卷 ❸存、卍續二・五・一 ❹宋仁岳(淳化三—治平元 A. D. 992—1064)述 ❻十不二門文心解の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

文心解要文 ❶(日)Mon-shin-ge-yō-mon. 十不二門文心解要文 ❷一冊 ❸存 ❾刊本(哲、ま・一・右・一一)

文泉抄 ❶(日)Mon-sen-shō. 陽開雜々記 ❷一卷 ❹朗澄撰

文陀竭王經 ❶(日)Mon-da-katsu-ō-gyō. (支)Wên-t'o-chieh-wang-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三

文陀竭王經 ❶(日)Mon-da-katsu-ō-gyō. (支)Wên-t'o-chieh-wang-ching. ❷一卷 ❸存、大正一・八二四 No. 40、縮昃八、卍一四・二、北577止、南591止、元583止、明北590畏、清590畏、麗688容、天577止、指639容、法590容、至913登、明南580漏、Nj. 604 ❹曇無讖譯 ❺北涼玄始三(或元?)甲寅—一五(一三?)丙寅(A. D. 414—426) ❻佛が舍衞國の祇樹給孤獨園に在せし時、世間人には五欲(所思)を厭ふもの少く、厭

足を知らざる者が多い、とて、阿難に文陀竭(Muddhāvasitta)王本生話を說き給ふ。卽ち、この王は轉輪王(遮迦越王)と作り、更に四州を統御し、進んで忉利天上に帝釋に代つて治めんとして、忽ち、墮り天下に在り、病床に臥して、こゝに初めて五欲の厭くことなく、佛道を成じて厭足するを證る。

本經に相當する經については「頂生王故事經」の項、及び Divyāvadāna, 210—225, Thera-gāthā 486—7等を參照せよ。

❼(參考) 三寶紀第九、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六 (西尾京雄)

文段經 ❶(日)Mon-dan-gyō. 法華文段經、遠師文段經 ❷十冊 ❸存 ❹日遠(元龜三—寬永一九 A. D. 1572—1642) ❻法華文句を分段せるもの。 ❺昭和三刊 ❿大阪日蓮宗教院

文底祕沈鈔 ❶(日)Mon-tei-hi-chin-shō. ❷一卷 ❸存、日蓮宗宗學全書日蓮正宗部之內 ❹日寬(寬文五—享保一一 A. D. 1665—1726) ❺享保一〇(A. D. 1725) ❻日蓮正宗(大石寺派)中興の日寬が六十一歲の著『六卷抄』の第二に收めらる。

第一本門本尊篇、第二本門戒壇篇、第三本門題目篇の三篇に分れ、日蓮の創唱にかゝる「本門の三大祕法」につき、日蓮正宗の立場から簡明に獨特の解釋を施してある重要の論策。「文底祕沈」とは、日蓮が「開目鈔」に「一念三千の法門は本門壽量品の文の底に沈めたり」とあるによつたもので、本門の三大祕法の論釋たる旨を示したものである。 (馬田行啓)

文底祕沈草案 ❶(日) Mon-tei-hi-chin-sō-an. ❸存 ❹日底述 ❾原本(野村智秀)寫本(立大、DO・一七八)

文如御直諭 ❶(日)Mon-nyo-go-jiki-yu. 寬政三年文如御直諭 ❸存、小部雜集之內 ❾寫本(龍大、一〇三・五〇)

文如樣御得度之記 ❶(日) Mon-nyo-sama-go-toku-do-no-ki. ❷一卷 ❸存 ❺寶曆四寫 ❾(龍大、別置)

文如上人御書 ❶(日)Mon-nyo-shō-nin-go-sho. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、一一二九・二三、研眞)

文如上人御消息集 ❶(日) Mon-nyo-shō-nin-go-shō-soku-shū. ❷六冊 ❸存 ❾寫本(龍大、一一二九・二四)

文如上人法語 ❶(日)Mon-nyo-shō-nin-hō-go. 信入院殿文如上人法語 ❷一卷 ❸存 ❹文如(延享元—寬政一一 A. D. 1744—1799) ❾寫本(龍大、別置)

文配 ❶(日)Mon-pai. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大、餘大・一九五七)

文謬釋謬等集 ❶(日) Mon-myō-shaku-myō-tō-shū. ❷一卷 ❹寂澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822) ❼(參考) 山家祖德撰述篇目集卷上

文々梵々讚 ❶(日)Mon-mon-bon-bon-san. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶菩提院)

文類聚鈔 ❶(日)Mon-rui-ju-shō. 淨土文類聚鈔、略文類、略本 ❷一卷 ❸存、大正八三・六四四 No. 2647、眞宗聖典宗祖撰述部、眞宗聖教大全卷上、眞宗聖典全書漢文之部、假名聖教二四部 ❹親鸞(承安三—弘長二 A. D. 1173—1262)述 ❻淨土文類聚鈔の下を見よ。 ❼(參考) 淨土眞宗聖教目錄 ❾慶長七刊(龍大、別置)、寬永一三刊(龍大、一一一・三二)天保一四刊(龍大、研眞)天保一五刊(龍大、研眞)嘉永七刊(龍大、一一一・三六)明治一九刊(帝國、六五・一八四)(哲、外・一・左・一〇)(京大、日大未・六六八)(龍大、研眞)

文類聚鈔 ❶(日)Mon-rui-ju-shō. 大正校異文類聚鈔 ❷一卷 ❸存 ❹住田智見校 ❺大正三刊 ❾(龍大、研眞)

文類聚鈔 ❶(日)Mon-rui-ju-shō. 科註文類聚鈔 ❷一卷 ❸存 ❹河崎顯了註 ❺明治四二刊 ❾(龍大、一一三二・二)

文類聚鈔 ❶(日)Mon-rui-ju-shō. 冠註文類聚鈔 ❷一卷 ❸存 ❾(龍大、一二三二・一)

文類聚鈔伊蒿記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-i-kō-ki. 淨土文類聚鈔伊蒿記、略文類伊蒿記 ❷五卷 ❸存 ❹慧琳(正德五—寬政元 A. D. 1715—1789)述 ❾寫本(谷大、宗大・一六六〇)

文類聚鈔乙未記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-itsu-mi-ki. 淨土文類聚鈔乙未記 ❷五卷或三卷 ❸存 ❹細川千巖(天保五—明治三〇 A. D. 1834—1897)述 ❾寫本(谷大、宗大・一六七二)

文類聚鈔引文 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-in-mon. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ki. 淨土文類聚鈔記 ❷三卷 ❸存 ❹大康 ❾寫本(龍大、一一三二・四)

文類聚鈔義贊 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-gi-san. 淨土文類聚鈔義贊 ❷五卷或三卷 ❸存 ❹慧海(寬政一〇—安政元 A. D. 1798—1854)述 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❺明和八刊 ❾(龍大、一一三二・七)

文類聚鈔聞書 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹灌纓 ❾寫本(龍大、一一三二・五—六、研眞)

文類聚鈔聞書 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kiki-gaki. 淨土文類聚鈔聞書 ❷六卷 ❸存 ❹松島善讓(文化三—明治一九 A. D. 1806—1886)述 ❺明治一七刊 ❾(帝國、七二・六一)(龍大、研眞)

文類聚鈔慶哉錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kyō-sai-roku. 淨土文類聚鈔慶哉錄 ❷四卷 ❸存、眞宗全書第三六 ❹靈榮泰巖(正德元—寶曆一三 A. D. 1711—1763)述 ❺寬延元(A. D. 1748) ❻淨土文類聚鈔慶哉錄の下を見よ。 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❾寫本(龍大、一一三二・九)

文類聚鈔口義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ku-gi. 淨土文類聚鈔口義 ❷六卷 ❸存 ❹宣明(寬延二—文政四 A. D. 1749—1821)述 ❾寫本(谷大、宗大・一八)

文類聚鈔管解 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kwan-ge. 淨土文類聚鈔管解 ❷五卷

❸存 ❹惠空(正保元—享保六A. D. 1644—1721)述 ❽享保一七寫 ❾(谷大、宗丙・五)

文類聚鈔管見 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kwan-ken. 淨土文類聚鈔管見 ❷一卷 ❸存 ❹服部範嶺(—大正一四 A. D. 1925)述 ❽大正八刊 ❾(龍大、研眞)

文類聚鈔偈聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ge-chō-ki. ❷二卷 ❸存 ❹道還述 ❾寫本(龍大)

文類聚鈔肩窺錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ken-ki-roku. 淨土文類聚鈔肩窺錄 ❷四卷 ❸存 ❹柔遠(寛保二—寛政一〇 A. D. 1742—1798)述 ❾寫本(龍大、一二三二・八)

文類聚鈔擧燭篇 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ko-soku-hen. 淨土文類聚鈔擧燭篇 ❷五卷 ❸存 ❹道隱(寛保元—文化一〇 A. D. 1741—1813)述 ❾寫本(龍大、一二三二・二〇)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義、淨土文類聚鈔講錄 ❷十卷 ❸存 ❹深勵(寛延二—文化一四 A. D. 1749—1817)述 ❽明治二一刊 ❾(龍大、一二三二・一四)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷四卷 ❸存 ❹靈旺(安永四—嘉永四 A. D. 1775—1851)述 ❺弘化元(A. D. 1844) ❾寫本(谷大、宗大・一九)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷一卷 ❸存 ❹僧龍(安永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ❾寫本(谷大、宗大・八四四)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷一卷 ❸存 ❹法住(—明治七 A. D. 1874)述 ❽明治三九刊 ❾(龍大、一二三二・一五)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷三卷 ❸存 ❹龍溫(寛政一二—明治一八 A. D. 1800—1885)述 ❾寫本(谷大、宗大・二一八三) 大正三寫(谷大、宗大・二五四七)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷二卷 ❸存 ❹谷口義敎(—明治四二 A. D. 1909)述 ❽明治三五刊 ❾(龍大、一二三二・二五)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷二卷 ❸存 ❹蓮弘鎧(—明治四五 A. D. 1912)述 ❾寫本(谷大、宗大・一六六五)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷一卷 ❸存、眞宗通信講義之内 ❹吉谷覺壽(天保一三—大正三 A. D. 1843—1914)述 ❽明治四二刊 ❾(龍大、研眞)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷二卷 ❸存 ❹福田義本述 ❾寫本(谷大、宗大・一六六六)

文類聚鈔講義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-gi. 淨土文類聚鈔講義 ❷一卷 ❸存 ❹服部恋明(—大正八 A. D. 1919)述 ❽大正八刊 ❾(龍大、一二三二・一七)

文類聚鈔講貫 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-kwan. 淨土文類聚鈔講貫 ❷一卷或二卷 ❸存 ❹隨惠(—天明二A. D. 1782)述 ❽明治四〇寫 ❾(谷大、宗大・一〇一七)

文類聚鈔講讃 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-san. 淨土文類聚鈔講讃 ❷五卷 ❸存 ❹惠然(元祿六—明和元A. D. 1693—1764)述 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二 ❾寫本(龍大、一二三二・一八)

文類聚鈔講述 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-ju'tsu. 淨土文類聚鈔講述 ❷一卷 ❸存 ❹烏塊默雷(天保九—明治四四A. D. 1838—1911)述 ❾寫本(龍大、一二三二・一九)

文類聚鈔講判 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-han. 淨土文類聚鈔講判 ❷五卷 ❸存 ❹南條神興(文化一一—明治二〇 A. D. 1814—1887)述 ❽明治二八刊 ❾(龍大、一二三二・二一)

文類聚鈔講林 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-rin. 淨土文類聚鈔講林 ❷二卷或三卷或六卷 ❸存 ❹智澗(—文化三A. D. 1806)述 ❾寫本(龍大、一二三二・二二)

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷三卷 ❸存 ❹知空(寛永一一—享保三A. D. 1634—1718)述 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二 ❾寫本(龍大、一二三二・二九)

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷二卷 ❹慧空(正保元—享保六A. D. 1644—1721)述 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷五卷 ❸存 ❹僧樸(享保四—寶曆一二A. D. 1719—1762)述 ❼(參考) 眞宗全書刊行豫定書目

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷一卷 ❸存 ❹慧雲(享保一五—天明二A. D. 1730—1782)述 ❾寫本(谷大、宗大・三〇六五)

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷四卷 ❸存 ❹慧琳(正德五—寛政元A. D. 1715—1789)述 ❽明治二五刊 ❾(龍大、研眞)

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷二卷 ❸存 ❹綱厳(—文化七 A. D. 1810—)述 ❾寫本(龍大、一二三二・二八)

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷三卷 ❸存 ❹細川千巖(天保五—明治三〇A. D. 1834—1897)述 ❽明治二八刊 ❾(龍大、一二三二・二四)

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷一卷 ❸存 ❹豐満春洞(—昭和六 A. D. 1931)述 ❺明治四〇(A. D. 1907) ❽明治四〇刊 ❾(龍大、一二三二・二七)

文類聚鈔講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-roku. 淨土文類聚鈔講錄 ❷一卷 ❸存 ❹是山惠覺述 ❽明治二七刊(龍大、研眞)明治三七刊(龍大、一二三二・二六)

文類聚鈔講話 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-wa. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、一二三二・三〇)

文類聚鈔講話 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-kō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹眞宗京都中學編 ❿京都法藏館

文類聚鈔三一問答隨聞記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-san-ichi-mon-dō-zui-mon-ki. 淨土文類聚鈔三一問答隨聞記 ❷二卷 ❸存 ❹大瀛(寶曆九—文化元A. D. 1759—1804)述 ❾寫本(龍大、一二三二・七四)

文類聚鈔三一問答聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-san-ichi-mon-dō-chō-ki. 淨土文類聚鈔三一問答聽記 ❷一卷 ❸存 ❹覺宏(—慶應頃 A. D. 1865—1867—)述 ❾寫本(龍大、一二三二・七六、研眞)

文類聚鈔三一問答備忘錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-san-ichi-mon-dō-bi-mō-roku. 三一問答備忘錄、淨土文類聚鈔三一問答備忘錄 ❸存、十四部雜纂之內 ❾寫本(龍大、一〇三・七)

文類聚鈔三心一心御問答隨聞記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-san-jin-is-shin-go-mon-dō-zui-mon-ki. 淨土文類聚鈔三心一心御問答隨聞記 ❷一卷 ❸存 發願房 ❾寫本(龍大、一二三二・七七)

文類聚鈔鑽堅錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-san-ken-roku. 淨土文類聚鈔鑽堅錄 ❷二卷 ❸存 ❹環中(—享保元A. D. 1716—)述 ❾寫本(龍大、一二三二・三一)

文類聚鈔鑽仰篇 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-san-gō-hen. 淨土文類聚鈔鑽仰篇 ❷五卷 ❸存 ❹僧鎔(享保八—天明三A. D. 1723—1783)述 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔鑽仰篇 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-san-gō-hen. 淨土文類聚鈔鑽仰篇 ❷一册 ❸存 ❹能淨(—寛政頃A. D. 1789—1800—)述 ❾寫本(龍大、一二三二・三三)

文類聚鈔鑽仰錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-san-gō-roku. 淨土文類聚鈔鑽仰錄 ❷四卷 ❸存 ❾寫本(龍大、一二三二・三二)

文類聚鈔私記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-shi-ki. 淨土文類聚鈔私記 ❷七卷或三卷 ❸存 ❹道海(—寛文元 A. D. 1661—)述 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二 ❽貞享三刊 ❾(龍大、一二三二・三四)

文類聚鈔私科解 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-shi-kwa-ge. 淨土文類聚鈔私科 ❷一卷 ❸存 ❹惠空(正保元—享保六A. D. 1644—1721)述 ❾寫本(龍大、一二三二・七八)

文類聚鈔試解 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-shi-ge. 淨土文類聚鈔試解 ❷三卷 ❸存 ❹圓智(—寛文頃 A. D. 1661—1672—)述 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二 ❽寛文三刊(龍大、一二三二・三五)寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔直解 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-jiki-ge. 淨土文類聚鈔直解 ❷六卷或十卷 ❸存 ❹了海(—延寶二 A. D. 1674)述 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二 ❽寛文八刊 ❾(龍大、一二三二・四三)

文類聚鈔首書 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-shu-sho. ❷二卷 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二

文類聚鈔樹心錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ju-shin-roku. 淨土文類聚鈔樹心錄 ❷一卷 ❸存 ❹智洞(元祿三—明和五 A. D. 1690—1768)述 ❾寫本(龍大、一二三二・三七)

文類聚鈔辛丑記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-shin-chū-ki. 淨土文類聚鈔辛丑記 ❷一卷 ❸存 ❹僧朗(明和六—嘉永四 A. D. 1769—1851)述 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔辛卯記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-shin-bō-ki. 淨土文類聚鈔辛卯記 ❷四卷 ❸存 ❹稻葉道敎(—明治二七 A. D. 1894)述 ❾寫本(谷大、宗大・一六六八)

文類聚鈔辛未記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-shin-mi-ki. 淨土文類聚鈔辛未記 ❷三卷 ❸存 ❹宣明(寛延二—文政四 A. D. 1749—1821)述 ❾寫本(谷大、宗大・二八五)

文類聚鈔壬辰錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-jin-shin-roku. 略文類壬辰錄、淨土文類聚鈔壬辰錄、淨土文類聚鈔壬辰記 ❷五卷 ❸存、眞宗大系第一八 ❹法海(明和五—天保五 A. D. 1768—1834)述 ❻略文類壬辰錄の下を見よ。

文類聚鈔樞要 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-sū-yō. 淨土文類聚鈔樞要 ❷一卷 ❸存 ❹靈旺(安永四—嘉永四 A. D. 1775—1851)述 ❽天保七寫 ❾(谷大、宗大・三六三)

文類聚鈔隨聞 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-zui-mon. 淨土文類聚鈔隨聞 ❷三卷 ❸存 ❹印持(—明治三 A. D. 1870)述 ❾寫本(龍大、一二三二・三九)

文類聚鈔隨聞記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-zui-mon-ki. 淨土文類聚鈔隨聞記 ❷四卷 ❸存 ❹大含(安永二—嘉永三 A. D. 1773—1850)述 ❽天保二寫 ❾(谷大、宗大・三六六)

文類聚鈔節義 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-setsu-gi. 淨土文類聚鈔節義 ❷二卷 ❸存 ❹松島善譲(文化三—明治一九 A. D. 1806—1886)述 ❽嘉永三刊 ❾(龍大、一二三二・四一)

文類聚鈔箋述 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-sen-jutsu. 淨土文類聚鈔箋述 ❷二卷 ❸存 ❹僧鎔(享保八—天明三 A. D. 1723—1783)述 ❾寫本(龍大、一二三二・四〇)

文類聚鈔闡曜記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-sen-yō-ki. 淨土文類聚鈔闡曜記 ❷四卷 ❸存、眞宗全書第三六 ❹圓澄(貞享二—享保一一 A. D. 1685—1726)述 ❻本書は其の撰號に美濃國稱名寺沙門釋演澄述とあつて、大谷派第二代講師圓澄師の著である。此の眞宗全書所收本は、稱名寺所藏本に依つて刊行せるものにて、其の卷末附記によれば、初め「淨土文類聚鈔略註」として寶永六七年の頃(二十五六歲)起稿せられたるを、後に享保二年(三十三歲)二月に更に修治を加へて今の題號を安ぜしものである。師は享年僅に四十二、短命なりし

も其の著二十五部あり、本書の如き先づ凡例七條を掲げて其の用意を示し、本文を解するに、自由に流麗の漢文を編使して、宗義の深奥を闡耀せり。當時一派の宗學草創の時代たるに係らず、著者の才華英發、其の立義の却つて今に參考すべきものがある。而立前後の著述として、實に驚嘆に値する。

❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

(大須賀秀道)

文類聚鈔柴信記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-shō-shin-ki. 淨土文類聚鈔柴信記 ❷五卷 ❸存、眞宗全書第三八 ❹大瀛・寶曆九—文化元 A. D. 1759—1804)述 ❺淨土文類聚鈔柴信記の下を見よ。 ❾寫本(龍大、一二三二・四二)

文類聚鈔叢林解 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-sō-rin-ge. 淨土文類聚鈔叢林解 ❷五卷 ❸存 ❹慧空(正保元—享保六 A. D. 1644—1721)述 ❾寫本(谷大、宗大・一七)

文類聚鈔大意 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-tai-i. ❷一卷 ❸存、假名聖教八十八部 ❺本書の內容略々假名聖教、法要所收の教行信證大意と同じ、但し巻頭の前に、みなひとのまことののりをしらぬゆへ、ふぜとこゝろをつくしてキすれ」の和歌あつて、更に有此書者先倒存疊所馬鈴或略或同者也顯露不可披露之一身之爲疊恰計者也瓦礫元年十月二十日(七十五歳)とあれば、蓮如上人書寫本中の一本と見るべし。 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔蹄涔記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-tei-shin-ki. 淨土文類聚鈔蹄涔記 ❷四卷 ❸存 ❹法霖(元祿六—寶保元 A. D. 1693—1741)述 ❼(參考)淨土眞宗教典志第二 ❺享保二一刊 ❾(立大、A四〇・六一)(龍大、一二三二・五一)(智、C・五・左・五)

文類聚鈔蹄涔記講記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-tei-shin-ki-kō-ki. 淨土文類聚鈔蹄涔記講錄、文類聚鈔蹄涔記講話 ❷四卷或五卷六卷 ❸存 ❹僧樸(享保四—寶曆一二 A. D. 1719—1762)述 ❾寫本(龍大、一二三二・五六)

文類聚鈔蹄涔記講錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-tei-shin-ki-kō-roku. 淨土文類聚鈔蹄涔記講錄、文類聚鈔蹄涔記講記、文類聚鈔蹄涔記講話 ❷五卷 ❸存 ❹僧樸(享保四—寶曆一二 A. D. 1719—1762)述 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔蹄涔記正誤 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-tei-shin-ki-sei-go. 淨土文類聚鈔蹄涔記正誤 ❷一卷 ❸存 ❹僧樸(享保四—寶曆一二 A. D. 1719—1762)說、門人錄 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❾寫本(龍大、一二三二・五七、研眞)

文類聚鈔嘆慶錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-tan-kyō-roku. 淨土文類聚鈔嘆慶錄 ❷四卷 ❸存 ❹仰賢(享保六—寬政六 A. D. 1721—1794)述 ❺天明五寫 ❾(龍大、別置)

文類聚鈔聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-ki. 淨土文類聚鈔聽記 ❷一卷 ❸存 ❹義譽(明和八—文政五 A. D. 1771—1823)述 ❾寫本(龍大)文政四刊(龍大、一二三二・四四)

文類聚鈔聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-ki. 淨土文類聚鈔聽記 ❷一卷 ❸存 ❹性海(明和二—天保九 A. D. 1765—1838)述 ❾寫本(龍大)

文類聚鈔聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-ki. 淨土文類聚鈔聽記 ❷三卷 ❸存 ❹玄貫(明和五—天保一二 A. D. 1768—1841)述 ❾寫本(龍大、一二三二・四六)

文類聚鈔聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-ki. 淨土文類聚鈔聽記 ❷二卷 ❸存 ❹聞生(寬政四—安政六 A. D. 1792—1859)述 ❾寫本(龍大、一二三二・四五)

文類聚鈔聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-ki. 淨土文類聚鈔聽記 ❷二卷 ❸存 ❹行明(—文久二 A. D. 1862)述 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-ki. 淨土文類聚鈔聽記 ❷三卷 ❸存 ❹安藝泰晨(享和二—明治元 A. D. 1802—1868?)述 ❾寫本(龍大、一二三二・四八)

文類聚鈔聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-ki. 淨土文類聚鈔聽記 ❷二卷 ❸存 ❹力精(文化一四—明治一二 A. D. 1817—1879)述 ❾寫本(龍大、一二三二・四七)

文類聚鈔聽記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-ki. 淨土文類聚鈔聽記 ❷一卷 ❸存 ❹隆英(文化七—明治二六 A. D. 1810—1893)述 ❺明治一九刊 ❾(龍大、一二三二・四九)

文類聚鈔聽聞 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-mon. 淨土文類聚鈔聽聞 ❷一卷 ❸存 ❹柔遠(宜保二—寬政一〇 A. D. 1742—1798)述 ❾寫本(龍大、一二三二・五〇)

文類聚鈔聽錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-chō-roku. 淨土文類聚鈔聽錄 ❷三卷 ❸存 ❹柔遠(宜保二—寬政一〇 A. D. 1742—1798)述 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔天保錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ten-pō-roku. 淨土文類聚鈔天保錄 ❷三卷 ❸存 ❹興隆(寶曆九—天保一三 A. D. 1759—1842)述 ❾寫本(龍大、一二三二・五八)

文類聚鈔延書 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-nobe-gaki. ❷一卷 ❼(參考)淨土眞宗教典志第二

文類聚鈔非己錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-hi-ko-roku. 淨土文類聚鈔非己錄 ❷二卷 ❸存 ❹東陽圓月(文政元—明治三五 A. D. 1818—1902)述 ❺明治二八刊 ❾(龍大、一二三二・六〇)

文類聚鈔筆記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-hik-ki. 淨土文類聚鈔筆記 ❷三卷 ❸存 ❹南溟(天明三—明治六 A. D. 1783—1873)述 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔百二十題決擇記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-hyaku-ni-jū-dai-ketsu-chaku-ki. 淨土文類聚鈔百二十題決擇記 ❷二卷 ❸存 ❹村上專精(嘉永四—昭和四 A. D. 1851—1929)著 ❺大正四刊

❿京都法藏館

文類聚鈔百六十題決擇記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-hyaku-roku-jū-dai-ketsu-chaku-ki. 淨土文類聚鈔百六十題決擇記 ❷二卷 ❸存 ❹稻葉敦山述 ❺明治三九刊 ❾(龍大、一五〇・一〇六)

文類聚鈔分科 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-bun-kwa. 淨土文類聚鈔分科 ❷一卷 ❸存 ❹慧空泰晨(正德元—寶曆一三 A. D. 1711—1763) ❾寫本(龍大、一二三二・七九)

文類聚鈔分科 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-bun-kwa. 淨土文類聚鈔分科 ❷一卷 ❸存 ❹慧見(—文化一三 A. D. 1816) ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔法鑑 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-hō-kan. 淨土文類聚鈔法鑑 ❷六卷 ❸存、眞宗全書第三八 ❹道隱(寬保元—文化一〇 A. D. 1741—1813)述 ❺淨土文類聚鈔法鑑の下を見よ。 ❾寫本(龍大、一二三二・六一)

文類聚鈔報恩錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-hō-on-roku. 淨土文類聚鈔報恩錄 ❷四卷 ❸存 ❹北天(享保一九—文化元 A. D. 1734—1804)述 ❾寫本(龍大、一二三二・六三)

文類聚鈔明用決 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-myō-yō-ketsu. 淨土文類聚鈔明用決 ❷一卷 ❸存 ❹月珠(—安政三 A. D. 1856)述 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔問答料簡章 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-mon-dō-ryō-ken-shō. 淨土文類聚鈔問答料簡章 ❷一卷 ❸存 ❹道隱述 ❾寫本(龍大)

文類聚鈔聞記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-mon-ki. 淨土文類聚鈔聞記 ❷一卷 ❸存 ❹了祥(天明八—天保一三 A. D. 1788—1842)述 ❺明治四四寫 ❾(谷大、宗大・一四二六)

文類聚鈔聞記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-mon-ki. 淨土文類聚鈔聞記 ❷一卷 ❸存 ❹玉曉 ❾寫本(龍大、一二三二・六四)

文類聚鈔吉浦筵 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-yoshi-ura-en. 淨土文類聚鈔吉浦筵 ❷二卷 ❸存 ❹僧叡(寶曆三—文政八 A. D. 1753—1825)說文政九、年六五寫) ❾寫本(龍大、一二三二・六五)

文類聚鈔略記 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ryaku-ki. 淨土文類聚鈔略記 ❷一卷 ❸存 ❹圓智(—寬文頃 A. D. 1661—1674—) ❾寫本(龍大、一二三二・六六)

文類聚鈔略解 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ryaku-kai. 淨土文類聚鈔略解 ❷一卷 ❸存 ❹慧海(寬政一〇—安政元 A. D. 1798—1854)述 ❺明治三六刊 ❾(龍大、一二三二・六七)(帝國、一八七・二三九)

文類聚鈔略解 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ryaku-kai. 淨土文類聚鈔略解 ❷一卷 ❸存 ❹是山惠覺著 ❺大正一〇刊 ❾(龍大、一二三二・六八)

文類聚鈔略解 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ryaku-kai. 淨土文類聚鈔略解 ❷一卷 ❸存 ❹和多田專心著 ❺明治二七刊 ❾(谷大、宗洋・一二二)

文類聚鈔類書 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-rui-jo. 淨土文類聚鈔類書 ❷三卷 ❸存 ❹道晃(文化一一—明治一六 A. D. 1814—1883) ❾寫本(龍大、一二三二・七一)

文類聚鈔蠹海刪補 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-sō-kai-sam-po. 淨土文類聚鈔蠹刪補 ❷五卷 ❸存 ❹慧琳(正德五—寬政元 A. D. 1715—1789)述 ❾自筆本(谷大、宗丙・三五)

文類聚鈔錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-roku. 淨土文類聚鈔錄 ❷二卷 ❸存 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-roku. 淨土文類聚鈔錄 ❷一卷 ❸存 ❹道振(安永二—文政七 A. D. 1773—1824)述 ❺文化一四刊 ❾(龍大、一二三二・七三)

文類聚鈔錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-roku. 淨土文類聚鈔錄 ❷二卷 ❸存 ❹興隆(寶曆九—天保一三 A. D. 1759—1842)述 ❾寫本(龍大、研眞)

文類聚鈔錄 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-roku. 淨土文類聚鈔錄 ❷一卷 ❸存 ❹奥村至道(—大正三 A. D. 1914)述 ❾寫本(龍大、一二三二・七二)

文類聚鈔論草 ❶(日) Mon-rui-ju-shō-ron-sō. 淨土文類聚鈔論草 ❷一卷 ❸存 ❹南條神興(文化一一—明治二〇 A. D. 1814—1887)述 ❺明治三一刊 ❾(龍大、研眞)

文類述聞 ❶(日) Mon-rui-jutsu-mon. ❷六卷 ❸存 ❹僧叡(寶曆三—文政八 A. D. 1753—1825)說文政九、年六五寫)述、是山惠覺編 ❾明治三一刊(帝國、一〇八・一八四)寫本(正大、一六四・一二)

文類正信偈 ❶(日) Mon-rui-shō-shin-ge. 念佛正信偈、文類偈、文類 ❷一卷 ❸存、淨土文類聚鈔(天正八三・六四四 No. 2517)之內 ❹親鸞(永安三—弘長二 A. D. 1173—1263)

❺親鸞聖人の著淨土文類聚鈔の中に出づる六十行の偈文のことにて、教行信證の中に出せる六十行の正信偈に節ぶして、文類正信偈又は略して文類偈ともいふ。而して教行信證では六卷中第二の行卷末尾に偈文を出せるに、文類聚鈔では四法を總說せる後に偈文が出されて、廣略二本偈文の安處を異にしてゐる。又廣本では正信念佛偈と名づけ、略本では念佛正信偈と名づけてあり、其他偈文六十行に於て、廣本では歸命無量壽如來南無不可思議光と冒頭嘆佛に二句とせるを、略本では西方不可思議尊の一句となせる如き、全體に偈文の具略出沒が存し、或學者はこれに二十種の相違を掲げて、其の趣旨を說明してゐる。兩者共に佛前勤行に讚偈として用ひられるが、普通勤行に寺院も在家も常用せるは政行信證に出づる正信偈にして、寺院に於ける特殊の法要に文類正信偈が用ひられることとなつてゐる。

(大須賀秀道)

文類正信偈講義 ❶(日) Mon-rui-shō-shin-ge-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹深勵(寬延二—文化一四 A. D. 1749—1817)述 ❺明治二三刊 ❾(龍大、研眞)、帝國、一〇・

一八七）

門叢芳叔禪師語錄 ❶(日) Mon-gan-hō-shuku-zen-ji-go-roku. ❸存 ❼〔參考〕 禪籍目錄

門主御入壇記 ❶(日)Mon-shu-nyū-dan-ki. ❷一卷 ❸存 ❺文政元寫 ❾(正大、一三九・二四)

門跡傳 ❶(日)Mon-zeki-den. ❷二卷 ❸存

❻日光、青蓮院、曼殊院、妙法院、梶井、聖護院、圓滿院、實相院、照高院、毘沙門堂、仁和寺、大覺寺、勸修寺、三寶院、隨心院、安井、一乘院、大乘院、知恩院、以上歴代の門跡傳であるがその所生及び寂年等を漢文にて略記したるものである。本書もと何人の手に成りしか詳かでない。弘化二年清原宣明の序を附して再刻す。

❺弘化二刊 ❾(高大、寄・一・二一、一・二一)(哲、ら・二・左・二六)(京大、一・二一モ・一)(谷大、餘大・八八)(京専)(龍大、二九六五・二七—二八)(金剛三昧院)(帝室、一一一・五二)(帝國、一二七・二九)

門跡祕傳抄 ❶(日)Mon-zeki-hi-den-shō. 門跡祕傳抄惠光院流 ❷五卷 ❸存 ❾寫本(眞如藏)

門窟抄 ❶(日)Mon-zō-shō. ❼〔參考〕 淨土眞宗聖教目錄

門徒古事 ❶(日)Mon-to-ko-ji. 日蓮記、蓮記 ❷一卷 ❸存、日蓮宗宗學全書顯本法華宗部第一 ❹日運(—應永三二或三三 A. D. 1425or1426) ❺應永三二(A. D. 1425)

❻顯本法華宗(舊稱妙滿寺派)祖日什の門下刑部阿闍梨日運が同門の日仁と共に記するところ。(或は日仁より傳聞せるところを併せ記せるか。)

什師の生國及び生立より筆を起して、日什が顯本法華宗(舊稱妙滿寺派)を別立する前後の事情、什門歸伏の狀況、朝廷(宗旨奏聞の顛末、並に其に起因する債鑵の狀等を詳細に記錄せるものにて、該派初期の歴史は勿論廣く日蓮宗中古の歴史を知る資料である。別に項目を立てず事件の順を逐ふて記述せり。

❾寫本(京大、日大未・五四五)　(鳥田行啓)

門裏主人公 ❶(日)Mon-ri-shu-jin-kō. ❷一冊 ❸存 ❼〔參考〕禪籍目錄

門葉記 ❶(日)Mon-yō-ki. ❷百八十四卷 ❸存、大正圖像第一一・四一七—一二・六八一 ❹尊圓親王(永仁六—延文元 A. D. 1298—1356)編

❻本書は入木道に於て有名な大乘院宮尊圓親王が青蓮院御門跡法祖行玄大僧正から尊道親王までの歴代の御修法現行の御記、其他門跡領、雜事等を御撰び記錄遊ばされたものであるが、歳々に僧綱・兒・坊官等の加筆が施されてゐる。大體天永年中から應永年中に至る(A. D. 1110—1427)約三百年に渉る記錄を編輯したものである。尊圓親王編に係る門葉記は百三十卷であつたが、後世散逸し明治八年の改めによれば門主行狀一卷と外に四卷(胎・金・護摩私記・勧書寫)が闕失した。然し文化年間に青蓮院准后宮尊眞親王の令旨によつて悉く新寫した。執筆者は安倍肥後守季隆である。此時原本は卷軸であつたが綴本の形に寫し、更に缺逸した部分を增補して門葉記八十八冊。同補五十冊。都合百三十八冊に作つた。大正藏經は此寫本を底本にして印行したものである。猶此外に法義に關するもの論表紙二十八冊も附加された。補缺は文化年中以前にも行はれた。正保二年(A. D. 1645)に尊純親王が修補の際に補添された(門葉記目錄—大正圖像一二ノ三ノ六九〇)。又尊純親王修補の中の一文には「門葉記三百餘卷」とあるが、これは恐らく官符や目錄・狀案の類を一通宛一卷と數へたものであらう。本書は青蓮院門跡の記錄を蒐輯することが主目的であつたので廣く天台宗全體を知り難い缺點はあるが、開創以來時代の變遷と共に古記錄や傳承等が甚しく散失し、且つ傳承の雜亂愈烈しく今に於て、これを集記しないならば將來如何になるかを憂ひて尊圓親王は祖師行玄大僧正以降の青蓮院門跡の記錄を忠實に集記されたのである。本書は極めて愼重な態度を以て諸記錄類を集めてゐるから史料として充分に信用されるもののみである。南北朝期に至つては口傳や俗説が盛に流行せんとしてゐたのに、本書は此等の神秘奇怪の傳説を採用せずに各時代の第一史料を其儘全部採錄してゐる。これは尊圓親王の御見識の如何に高かつたかを如實に示されたものであると拜察する。本書は日本佛教全體でも、天台宗全部でもなく單に青蓮院門跡一寺だけの記錄集であり採錄年代も大約三百年間に過ぎないが、この時代の青蓮院は特に鎌倉時代以降の青蓮院は事實上天台宗を統括してゐたとも認められる程に實際勢力が盛んであつた。從つて本書は院政末期・平家・源氏・北條・南北朝初期に渉る國史上最も政治の紛亂期に於ける天台宗の實情を如實に記錄に殘して置かれた文獻として最高の價値があるものである。本書編纂並に修補の事が華頂要略卷壹(天台宗全書)に藤原爲善撰の自敍にも略記してある。華頂要略は實に本書の增補ともいふべく、この二書は併せて讀むべきものである。本書は其記述が多方面に及んでゐるから内容の詳細は一々これに記することを略し、日次を錄するに留めて置く。(一)熾盛光法—行玄大僧正から尊道親王までの記錄と弘安五年熾盛光供支度案。(二)七佛藥師法—行玄から尊道親王まで。(三)普賢延命法—同上。(四)安鎭法。—行玄から尊道親王まで。大法であるためか闕けてゐる所が處々にある。安鎭法補として安鎭不動法。同上。(五)五壇法—應永五年記が記されてある。康和以來の勸賞記。永久以來の勸例。(六)佛眼法—吉水和尚(慈鎭)から尊道親王まで。佛眼法補として私記、延慶二、應安三年記。次第。支度。表白。唱禮。私記。澄助・實助・尊純親王。(七)長日如意輪法—行玄から尊道親王まで。譲持僧補任。これは他には記されてゐない補任で珍らしいものである。長日如意輪法補として永德二年譲持僧勸例、寶治元、正元元年記。二間夜居之事。同夜居之事。(八)尊勝陀羅尼供養記—行玄から慈順まで。(九)冥道供—行玄か

ら尊道親王まで。冥道供事實。冥道供次第。冥道供私記。(十)如法經—如法經濫觴類聚記。同雜事。供養如法經式。慈鎭から尊道親王まで。(十一)勸行—山上山下諸堂行事。大懺法院起請。天台勸學講緣起。舍利報恩會記。新禮拜講記。長日勸行事。毎月佛事等二十項。(十二)入室出家受戒記—七宮・慈鎭以下二十名。受戒記補として後十樂院准后等八名と出家次第。八幡善法寺得度。受戒次第。出家作法。授菩薩戒。授菩薩戒儀。菩薩戒羯磨文。十善戒略作法。戒集。自誓戒。(十三)法會—大乘布薩。曼荼羅供。東寺曼供。御經供養。(十四)灌頂—七宮から尊道親王まで。結緣灌頂。一身阿闍梨。(十五)門主行狀—行玄・七宮・慈鎭・良快・慈源・道覺・最守・尊助・慈禪・道玄・慈實・慈助・慈玄・良助・慈深・慈道・尊圓・尊道。(十六)寺院—山上と洛陽との寺院指圖十八葉・山上の東塔・無動寺・西塔・横川(これは缺く)洛陽三條白川坊・吉水坊・十樂院等十二ケ寺。(十七)勸記—大成就院修正記・懺法院修二月等十一種。(十八)雜決—寺領目錄(青蓮院・十樂院・崇德院御影堂・普三品遺領・妙香院・尊長法印遺領)御門跡領總目錄。門跡系圖(青蓮院・梨下・妙法院・淨土寺・本覺院・妙香院・東陽房・曼殊院・毘沙門堂・靈山・眞聖坊・岡崎。已上は山務歴の門跡也)この系圖は中々詳密に割註が附いてゐるから僧傳研究に便宜が多い。姉小路宮初度院參等。雜決補として御出次第・口宣・宣命・宣旨案・本性寺座主並日吉別當次第・崇德院御影堂並門主讓狀等記・長吏拜堂・雜々・撰題記・無動寺檢校次第・三昧院檢校次第。(十九)勸行法—大法小法・御修法驗々・文殊法等七種・勸行法補として北斗法・四天王法等八種。(二十)山務行玄から道圓親王まで。拜堂祕記・山務補として應永二十七年山務記等五種。(二十一)門葉記目錄—本紙卷數目錄、橅本(文化年中新寫本のこと)冊數目錄。終りに附記が添へてある。

❼〔參考〕 本朝台祖撰述密部書目 ❾寫本(青蓮院)　(田島德音)

門流法濁決疑集 ❶(日)Mon-ryū-hō-daku-ketsu-gi-shū. ❷一卷 ❸存、萬代龜鏡錄第七 ❹日奧 ❾寫本(正大、一八四・七三)

門論述記 ❶(日)Mon-ron-juk-ki. (支)Mên-lun-shu-chi. 因明正理門論述記、因明入正理門論述記、因明述記神泰抄 ❷一卷 ❸存、大正四四・七七No. 1839、卍續一・八六・四 ❹唐神泰(—永徽頃 A. D. 650—655—)述

❻因明正理門論述記の下を見よ。❼〔參考〕奈良朝現在一切經疏目錄2408

問決 ❶(日)Mon-ketsu. ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第一〇 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804)

❻この一書は「神祇」について和漢古今の文獻に徵して問答體に叙述したるものである。

❾自筆本(高貴寺)　(高見寛應)

問講案 ❶(日)Mon-kō-an. ❷二帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶菩提院)

問講表白 ❶(日) Mon-kō-hyō-byaku. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

問四事經 ❶(日) Mon-shi-ji-kyō. (支)Wên-ssŭ-shih-ching. 須眞天子經、文殊師利所報法言稱經、斷諸法狐疑法經、諸佛法普入方便慧分別娼明持經、須眞天子所問經 ❷四卷 ❸存、大正一五・九六No. 588、縮宙二、卍一一・四、北374改、南385改、元382改、明北380短、清380短、麗373必、天382改、指344必、法386必、至382異、明南377四、Nj. 393 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A. D. 266—313) ❻須眞天子經の下を見よ。

問地獄事經 ❶(日)Mon-ji-goku-ji-kyō. (支)Wên-ti-yü-shih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹後漢康巨譯 ❼〔參考〕 開元錄第一五、貞元錄第二五

問者講師 ❶(日)Mon-ja-kō-shi. 六大佛形初日御締問者講師 ❷一冊 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶菩提院)

問者集 ❶(日)Mon-ja-shū. ❷一冊 ❸存 ❺寛永七寫 ❾(寶菩提院)

問所明種經 ❶(日) Mon-sho-myō-shu-kyō. (支)Wên-so-ming-chung-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼〔參考〕出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

問署經 ❶(日) Mon-sho-kyō. (支)Wên-shu-ching. 文殊師利問菩薩署經、文殊問菩薩署經、署經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四三五No. 458、縮宙八、卍一三・四、北432患、南431患、元437患、明北108岸、清108岸、麗419服、天437患、法413服、明南425詩、Nj. 112 ❹支婁迦讖譯 ❺後漢建和元—中平三(A. D. 147—186) ❻文殊師利問菩薩署經の下を見よ。

問對雜記 ❶(日)Mon-tai-zak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹南條文雄(嘉永二—昭和二 A. D. 1849—1927)著 ❺明治一五刊 ❾(帝國、二五・六)

問對略記附教義略答 ❶(日) Mon-tai-ryak-ki-tsuketari-kyō-gi-ryaku-tō. ❷一卷 ❸存 ❹千河岸貫一編 ❺明治一〇刊 ❾(龍大、一三〇・五五)

問題讀立等 ❶(日) Mon-dai-i-ryū-tō. ❷一括 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

問題集 ❶(日) Mon-dai-shū. 論問題集 ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶菩提院)

問題十說 ❶(日) Mon-dai-jis-setsu. 菩提心教爲基本問題十說 ❷一卷 ❸存 ❹釋玄朗 ❺明治一〇刊 ❾(駒大)

問答 ❶(日)Mon-dō. ❷一卷 ❹護命(天平勝寶二—承和元 A. D. 750—834) ❼〔參考〕 東域傳燈目錄卷下

問答 ❶(日)Mon-dō. ❷一卷 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891) ❼〔參考〕本朝台祖撰述密部書目

問答肝要鈔 ❶(日)Mon-dō-kan-yō-shō. ❷三帖 ❸存、日蓮宗宗學全書第一八上聖部 ❹日辨(正應二—應安七 A. D.

1325—1374) ❸正中二(A. D. 1325)
❹この書もと十帖、浄土・真言・禅・律・華厳・法相・三論・天台五下雑の諸部に分れおりしが如きも、現存するものは法相・三論・雑の三帖に過ぎず、諸宗との對論の用意に注せるものである。
一、法相宗帖　三時五性並二乗成不事・頓悟善薩授記事・車数事・歸依天台事
二、三論宗帖　般若法華勝劣事付諸法・経不経事・用ニ天台・雑経並歸依事
三、雑　この部に於ては、折伏の態度、女人成佛、傳教の本意、本宇の折伏は大師なる旨、霊神拾國等を記し、最後に元亨二年日蓮の身延日蓮〈法門不審について教を乞へる條例を記す。
❹正本(京都本法寺)　(望月歓厚)

問答記錄 ❶(B)Mon-dō-ki-roku. ❷一卷 ❸存 ❹慶俊 ❺原本(堀慈琳)

寫本(立大、DO・二九三)

問答教書 ❶(B) Mon-dō-kyō-sho. ❷一冊 ❸存 ❹石川隆道著 ❺昭和七刊 ❻浅賀天堂同事會

問答講草 ❶(B) Mon-dō-kō-sō. ❷一帖 ❸存 ❺文永四寫 ❻(高大、寄・一・六三)

問答講論議 ❶(B) Mon-dō-kō-ron-gi. ❷一冊 ❸存 ❺嘉元三寫 ❻(寶壽院)

問答書 ❶(B) Mon-dō-sho. ❷三卷 ❸存 ❹豪盛口 ❺寫本(妙法院)

問答書 ❶(B)Mon-dō-sho. ❷三卷 ❸存 ❹悲畏(永祿八—寛永七A. D. 1565—1630) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三、眞言宗全書刊行豫定書目

問答抄 ❶(B) Mon-dō-shō. 不審抄 ❷一帖 ❸存 ❹叡信問、眞乗答

問答抄 ❶(B)Mon-dō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹隆嘉 ❺寫本(龍大、二〇九九・一三七)〈谷大、宗大・二一〇四)

問答抄 ❶(B)Mon-dō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹日乾 ❺自筆本(立大、DO・一七)

問答抄裂邪網 ❶(B)Mon-dō-shō-retsu-ja-mō. ❷一卷 ❸存 ❹相千 ❺隆嘉の問答抄を斥したもの。 ❻寫本(谷大、宗大・二一〇四)

問答抄裂網 ❶(B)Mon-dō-shō-retsu-mō. ❷一卷 ❸存 ❹大盛 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

問答證義集 ❶(B)Mon-dō-shō-ni-sho. ❷十卷 ❸存 ❺慶安三刊 ❻(哲・ま・一・右・二一)〈龍大、二六五五・五七)(叡山、昆門)

問答通義 ❶(B)Mon-dō-tō-gi. ❸存 ❻寫本(龍大、一五〇二・二二一)

問答筆記 ❶(B)Mon-dō-hik-ki. ❷一卷 ❸存 ❺養鷹(明和六—天保一二A. D. 1769—1841) ❻寫本(龍大、一〇五一・四三)

問答要義 ❶(B)Mon-dō-yō-gi. ❷一卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄 2734

問答類聚抄 ❶(B)Mon-dō-rui-ju-shō. ❷二十卷 ❸存 ❹亮玄撰 ❺寛永四寫 ❻(妙法院)

問道錄續錄 ❶(B) Mon-dō-roku-zoku-roku. (支)Wen-tao-lu-hsü-lu. ❸存 ❹清碩撰聖 ❼(參考) 禪籍目錄

問難十二條辨 ❶(B)Mon-nan-jū-ni-jō-ben. ❷一卷 ❸存 ❹義尋(文化二—明治一四A. D. 1805—1881)述
❺維新當時の形勢に應じて僧徒が勤王報國の行を企て十二の問目を出して威力院師に辨逐を求めた時の聽講錄である。十二とは、仁法二教、神佛本迹、佛法國益、神明歸佛、佛讃國家、生死差違、三世因果、須彌有無、洋教新舊、二法一體、葬式益無益、法事強勤の諸條である。
❻寫本(櫻部)

問忍功德經 ❶(B)Mon-nin-kō-dokkū-kyō.(支)Wen-jen-kung-te-ching. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 法經錄第五、仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二

問方一重集 ❶(B)Mon-hō-ichi-jū-shū. ❷一冊 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶書提院)

問法華玄讃 ❶(B) Mon-hok-ke-gen-zan. (支)Wen-fa-hua-hsüan-tsan. ❷一卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄 2143

問要 ❶(B)Mon-yō. ❷一卷 ❸存 ❹日乾 ❺日筆本(立大、DO・一六)

問要 ❶(B)Mon-yō. ❷五卷 ❸存 ❻寫本(叡山、慈眼)

問要堅林 ❶(B) Mon-yō-ken-rin. ❷一卷 ❸存 ❹琛舜記 ❻寫本(生源寺)

問要私記 ❶(B)Mon-yō-shi-ki. ❷十卷 ❸存 ❺春雪記 ❻寫本(日光藏)

問要私聞書鈔 ❶(B) Mon-yō-shi-kiki-nō-ki-shō. 雜々抄 ❷七卷 ❸存 ❻寫本(谷大、鈴大・二三四九)

問要集 ❶(B)Mon-yō-shū. ❷一卷 ❸存 ❺永應元寫 ❻(叡山、華藏)

問要生身應用私 ❶(B) Mon-yō-shō-shin-ō-yō-shi. ❷一卷 ❸存 ❹賢海口

問要抄 ❶(B) Mon-yō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹舜海撰 ❻寫本(妙法院)

問要抄 ❶(B) Mo-n-yō-shō. 眞海十帖 ❷十卷 ❸存 ❹眞海撰 ❻寫本(生源寺)

問要抄 ❶(B)Mon-yō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹春賢作 ❻寫本(妙法院)

問要抄 ❶(B)Mon-yō-shō. ❷五卷 ❸存 ❹什慶記 ❻寫本(日光藏)

問要抄 ❶(B)Mon-yō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹琛舜談 ❻寫本(妙法院)

問要抄私 ❶(B) Mon-yō-shō-shi. ❷十四卷 ❸存 ❹発燈記 ❺慶長一六寫 ❻(妙法院)

問要眞抄 ❶(B)Mon-yō-shin-shō. ❷一卷 ❸存 ❹墨御談 ❻寫本(妙法院)

問話 ❶(B) Mon-wa. ❷一冊 ❸存 ❻(京大、印哲・ス四・二八)

聞惠抄 ❶(B)M-n-e-shō. ❷二冊 ❸存 ❹宥快(真和元—應永二三A. D. 1345—1416)作 ❺文明一七寫 ❻(金剛三昧院)

聞持記 ❶(B)Mon-ji-ki. (支)Wen-chi-chi. 河彌陀經聞持記、河彌陀經義疏

聞持記、或度阿彌陀經疏、阿彌陀經或度疏 ❷三卷 ❸存、卍續一・三三・二、浄土宗全書第五 ❹或度述 ❺阿彌陀經聞持記の下を見よ。 ❼(參考) 浄土眞宗教典志第三

聞持記引證 ❶(B) Mon-ji-ki-in-sho. 阿彌陀經聞持記引證 ❷二卷 ❹峻諦(寛文四—享保六A. D. 1664—1721)作 ❼(參考) 浄土眞宗教典志第三

聞持條不審 ❶(B) Mon-ji-jō-fu-shin. ❷一帖 ❸存 ❺弘安四寫 ❻(寶書提院)

聞證和尚行狀記 ❶(B) Mon-shō-o-shō-gyō-gō ki. ❷一卷 ❸存、浄土宗全書第一七 ❹珂然(寛文九—延享二A. D. 1669—1745)
❺本書は、德川時代中葉の學僧聞證上人の略行にして寛永十一年出世以來、其の出家の動機、袋中の資呈說、琢で空山等への就學、更に餘乘殊に唯識性相の學に通達せること、生國京都より奥州關東の諸禮林に其の蘊奥を講授せること、及び法相三論唯識等の餘乘に併せて幾多の宗乘に關する著述等の目錄を擧げてゐる。思ふに關西に於ける名越流派の活動は、大澤圓通寺第十世良迦の門下道綾、如來寺第十三世良要の門下、以八、袋中等の諸師に始る。而して其の意を繼いで德川初期より中期に活動したものは、袋中門下の人々であつて殊に東關は其の隨一であり、其の東關門下中の隨一は實に此の和尚なり、彼の著略述法相義は實に後世禮林に於て、唯識を學ぶ者の指針となりしものと云はる。珂然の序あり。
❻元祿秋(龍大、二〇三・二七)刊本(京大、一・二一・七・二)

聞城十二因緣經 ❶(B)Mon-jō-jū-ni-in-en-gyō. (支) Wen-ch'eng-shi-erh-yin-yuan-ching. 聞多樹下思惟十二因緣經、樹下思惟十二因緣經 ❷一卷 ❸存、大正一六・八二六No. 712、館宵七、卍一〇・七、北925女、南577女、元925女、明北274良、清157良、麗570傷、天574女、指946傷、法946傷、至342傷、明南952効、N. 1276 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253) ❻聞多樹下思惟十二因緣經の下を見よ。

聞城十二因緣經 ❶(B)Mon-jō-jū-ni-in-en-gyō. (支) Wen-ch'eng-shi-erh-yin-yuan-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹後漢支曜譯 ❺第二譯。 ❼(參考) 開元錄第一四

聞城譬經 ❶(B) Mon-jō-hi-kyō. (支)Wen-ch'eng-pi-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三

聞信義集 ❶(B)Mon-shin-gi-shū. ❷一卷 ❸存 ❺大正七寫 ❻(谷大、宗大・二九三〇)

聞信鈔 ❶(B)Mon-shin-shō. ❷一卷 ❸存、異義集第一六、假名聖教(惠空筆寫)八十八部、眞宗小部聖教、眞宗假名法典卷中、眞宗聖教大全附錄之內 ❹琛、實如(長祿二—大永五A. D. 1458—1525)
❺眞宗本願寺の中興蓮如上人の「御文」に擬へた一通の消息にて、斯く題號を附すは、彌陀如來の本願を聞信すべきを勸むるに外ならない。著者に就ては惠空の「假名聖教目錄」には未詳とし、慧琳の「浄土眞宗書目」之に從ふ。されど先啓の「浄土眞宗聖教目錄」玄智の「眞宗教典志」には蓮如上人の眞子本願寺第九世實如上人の作とし、先啓は實曆六年に「小部集要」—實如上人小部集—として編輯し、玄智之を踏襲し安永二年に「眞宗小部聖教」と改題開印し、更に天保十四年に書肆の再刊する所である。人身を受け且つ佛法に遇ふことの難きに之れを信順するは宿善の厚きに由るを謝すべく、今生に一大事の心得なくば再び成佛の期なかるべきゆへ、速かに安心決定した後に世間の譽を心掛くべきを論し。信心とはなにのやうもなく、一心一向に彌陀をたのみ今度の後生をたすけたまへと深く思ひいること、彌陀はよくしろしめし心光攝護し捨てざるが其のいはれであり、このゆへに無問に墮つべきを不退の位に住し極樂往生し無上佛果を證すべきゆへ、如何なる苦勞のなかからも佛恩報謝の稱名をすべきことを敎へ。殊に信行不離に就て法然親鸞兩聖人の語を引き、「御文」二帖目第三通の結語に準らへ信心謝恩の旨を示したのである。
❼(參考)浄土眞宗聖教目錄、浄土眞宗教典志第一 ❹明和九及天保一四刊(龍大、研眞)寫本(谷大、宗甲・一七)(龍大、研眞)

(山上正登)

聞善生信廻惡經 ❶(B) Mon-zen-shō-shin-e-aku-kyō. (支)Wen-shan-sheng-hsin-hui-e-ching. ❷一卷 ❸疑僞經。❼(參考) 武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

聞大師御書日記 ❶(B) Mon-dai-shi-go-sho-nik-ki. 長元六年前唐院曼陀羅供記 ❷一卷 ❸存 ❹觀寂記 ❻寫本(曼珠院)

聞法隨記 ❶(B)M-n-pō-zui-ki. ❷一卷 ❸存 ❹淨儀 ❻刊本(龍大)

聞法の用意 ❶(B) Mon-pō-no-yō-i. ❷一冊 ❸存 ❹蜂屋賢喜代著 ❺大正一四刊 ❻(谷大、宗洋・六六〇)

聞名歎喜讃 ❶(B)Mo-n-myō-kwan-sa-n. ❷一卷 ❸存 ❹任誓(?) ❻寫本(谷大、宗大・二四三〇)

聞名集 ❶(B)M-n-myō-shō. ❷一卷 ❸存 ❺享祿三寫 ❻(叡山、天海)

聞名集 ❶(B)Mon-myō-shō. ❷三卷 ❸存 ❹良濱 ❼(參考) 天台宗全書刊行豫定書目

聞名集 ❶(B)Mon-myō-shō. 大綱法門集 ❷三卷 ❸存 ❹朝圓記 ❻寫本(眞知藏)

ヤ

八重葎 ❶(日)Ya-e-mugura. ❷二卷 ❸存、白隱慧鶴(貞享二—明和五A.D.1685—1768)述 ❻寶曆九(A.D.1759)
⑮上卷には孝道の大義を說き、佛陀在世當時の因緣を記し、高塚四娘孝記を附してゐる。下卷には九州何某侯殿下の左右に侍る者に贈れる法語にして、延命十句觀靈驗記を附載してゐる。
⑨寶曆九刊(京大、一・二五シ・二)

八重山老大和上法話 ❶(日)Ya-e-zan-rō-dai-wa-jō-hō-wa. 諦忍律師法語 ❷一卷 ❸存 ❹諦忍妙龍(寶永二—天明六A.D.1705—1786)述、諦光編 ❺天明五刊 ⑨(京大、一・二六タ・五、一・二六ヤ・一)

八百屋於七墳墓記 ❶(日)Ya-o-ya-o-shichi-fun-bo-ki. ❸存、叢書料本第二四之內 ❹綠蕚(—天保頃 A.D.1830—1844—)記 ❺弘化四刊 ⑨(帝國、一〇四・二三一)

八尾地藏通夜物語 ❶(日)Ya-o-ji-zō-tsū-ya-mono-gatari. ❷五卷 ❸存 ❹一樂子 ❺明治八刊 ⑨(谷大、餘大・二六六九)(帝國、京・六七)

八坂法觀寺太子講略式 ❶(日)Ya-saka-hō-kwan-ji-tai-shi-kō-ryaku-shiki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書綴刊豫定書目

也足外集 ❶(日)Ya-soku-gai-shū. 千畝和尙也足外集 ❷三卷 ❸存 ❹千畝 ❼(參考) 禪籍目錄

也懶偶語 ❶(日)Ya-rai-gū-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹也懶性圭 ❼(參考) 禪籍目錄

也懶禪師語錄 ❶(日)Ya-rai-zen-ji-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹也懶性圭語、道銳編 ❼(參考) 禪籍目錄

矢田地藏緣起 ❶(日)Ya-da-ji-ji-en-gi. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二 ❹食尊寺家隆 ❺大和國生駒郡矢田村法相宗矢田寺の本尊地藏菩薩の緣起なり。上下二卷の繪入假名本なるも本書には繪を略す。內容は當寺の中興滿米上人及び同國宇智郡櫻井郷の武者所康成に因んだ短篇の說話で、何れも當寺地藏尊の靈驗利生を說けるものなり。上卷は萬延元年、下卷は安政二年の書寫にかゝる。
(不破幹雄)

矢田地藏尊略緣起 ❶(日)Ya-da-ji-zō-son-ryaku-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❹金剛山矢田寺編 ⑨刊本(谷大、餘大・四二二〇)

矢田地藏菩薩講式 ❶(日)Ya-da-ji-zō-bo-satsu-kō-shiki. ❷一卷 ❸存、論林拾葉第一一之內 ❹小野英(延曆二一—仁壽二A.D.80?—852) ⑨寫本(谷大、外大・一四五八)

夜船閑話 ❶(日)Ya-sen-kan-wa. ❷一卷 ❸存、禪門法語集卷下、白隱和尙全集、白隱法語集、白隱廣錄第一、禪林法語集之內 ❹白隱慧鶴(貞享二—明和五A.D.1685—1768) ❺寶曆七(A.D.1757)
⑮本書は白隱和尙が白河の白圓子に就て聞いた內觀の祕訣を、和文體にて平易に說いたもので、古來禪病を救ふに効益ある法語として知られてゐる。先づ白圓を訪ねるに至つた因緣、白圓の行跡を詳述し、次に內觀の要祕、養生の祕訣、臍輪氣海丹田に關し述べてゐる。而して始に窮之菴主飢凍の序を揭ぐ。一節に曰く「寶曆丁丑の春、長安の書肆松月堂何某とかや聞えし、遠く草書を裁して吾が臨林近侍の左右に寄せて曰はく、伏して承る老師の古紙堆中、夜船閑話とかや云へる草稿あり。書中多く氣を鍊り精を愛ひ、人の養衛をして充たしめ、專ら長生久壽の祕訣を選む。所謂神仙鍊丹の至要なりと、是の故に世の好事の君子是れを思ふこと冥草の紫雲の如し」とある。以て其の內容を知るべきである。
❼(注釋) 夜船閑話氷釋一卷、虛白道人
⑨寶曆七刊(京大、一・二五ヤ・一—二)明治一九刊(帝國、一〇九・一三二)(立大、A五〇・一〇六)(龍大、二六七九・八二)
(後藤大用)

夜船閑話 ❶(日)Ya-sen-kan-wa. 評註夜船閑話 ❷一卷 ❸存 ❹白隱慧鶴(貞享二—明和五 A.D.1685—1768)、無谷逸仙註 ❺明治四五刊 ⑨東京寶永館

夜船閑話と白圓仙人 ❶(日)Ya-sen-kan-wa-to-hake-yō-sen-nin. ❸存、夜船閑話氷釋附錄 ❹虛白道人 ❺大正四刊 ⑨東京弘學館

夜船閑話氷釋 ❶(日)Ya-sen-kan-wa-hyō-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹虛白道人 ❺明治四四刊 ⑨(正大、一七五・三八) ⑨東京弘學館

夜摩天宮會&其解說 ❶(日)Ya-ma-ten-gū-e-kaisetsu-sono-kai-setsu. ❷一册 ❸存、日本文化經典第一之內 ❹佐々木月樵(明治八—昭和元 A.D.1875—1925)著 ❺大正一〇刊 ⑨京都丁字屋書店

夜話記 ❶(日)Ya-wa-ki. ❷一卷 ❸存 ❹宗峰妙超(弘安五—建武四 A.D.1282—1337) ❼(參考)禪籍目錄

耶祇經 ❶(日)Ya-gi-kyō. (支) Ya-chi-ching. ❷一卷 ❺失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第三

耶祇經 ❶(日)Ya-gi-kyō. (支) Ya-chi-ching. ❷一卷 ❸存、大正一四・八二九No.549、續官七、卍一五・一、北554寬、南557寬、元562寬、明北766雷、清766雷、麗560無、天554寬、指765無、法921無、至1028上、明南757孝、No.771 ❹汎集京師(—大明八A.D.461)譯 ❺劉宋孝建二(A.D.457—)
⑮耶祇と云ふ婆羅門の富者が佛教に歸依して五戒を受けたが、持齋七日後危困へ行つてみると五戒が保たれさうにないので、又佛に其戒を還してしまつた。すると忽ち鬼神が現はれて耶祇の頭を破り舌を拔く等、五戒を破りたる罪を行つた爲めに、其苦痛に耐え兼ねて再び佛に願ひて五戒を行することになつたと云ふのである。耶祇の名は

因有名詞となつてゐるが、ヨーガを意味するのであらう。一見本邪經類の一說話のやうな原始的な經典ではあるが、外道仏人への說法としては耳に入り易い經である。
❼(參考) 三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第八
(和田秋城)

耶山集 ❶(日)Ya-zan-shū. 慧林和尙耶山集 ❷一卷 ❸存 ❹慧林性機(慶長一四—天和元A.D.1609—1681)述、道興編 ❼(參考) 禪籍目錄

耶輸多羅法 ❶(日)Ya-shu-da-ra-hō. ❷一卷 ❹榮海(弘安元—貞和三A.D.1278—1347)撰

耶蘇一代辨妄記 ❶(日)Ya-so-ichi-dai-ben-mō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹日鳥象二著 ⑨刊本(龍大、二八一四・四二)

耶蘇教辨難 ❶(日)Ya-so-kyō-ben-nan. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(龍大、一六五・一六)

耶蘇終末記 ❶(日) Ya-so-shū-matsu-ki. ❷一卷 ❸存 ❺慶應四刊 ⑨(龍大、二八一四・四五)

屋堅ま萬禮開眼 ❶(日) Ya-ku-narabi-ma-rei-kai-gen. ❷一紙 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶龜院)

屋堅札 ❶(日)Ya-ku-fuda. 屋堅札小野 ❷一裝 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶龜院)

病める人へ ❶(日) Ya-me-ru-hito-e ❷一册 ❸存 ❹蜂屋賢喜代著 ❺昭和四刊 ⑨(谷大、宗津、八二七)

埜雲隨筆 ❶(日) Ya-un-zui-hitsu. ❷二卷 ❸存 ❹道明述 ⑨享保一三刊(京大、一・二六ヤ・三)刊本(谷大、餘大・三二九九)(舊、ヒ・四・左・一八)

野雲自警 ❶(日)Ya-un-ji-kyō. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(京大、藏・二四ヵ・四)

野雲集 ❶(日)Ya-un-shū. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮野雲述 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

野戒論闡幽記 ❶(日) Ya-kai-ron-senn-yū-ki. ❷二卷 ❸存 ❹圓耳眞流(正慎元A.D.1711—) ❼(參考) 天台宗全書刊行豫定書目

野客問話 ❶(日)Ya-kaku-mon-wa. ❷六卷 ❸存 ❹南溟述 ⑮客問に擬して眞宗信徒の心得數條を記したもの。 ❺寶保三刊 ⑨(龍大、一〇五五・一四七)

野勸 ❶(日)Ya-kwan. ❷一册 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三A.D.1345—1416)日 ❺文龜二寫 ⑨(金剛三昧院)

野雞經 ❶(日)Ya-kei-kyō. (支)Ye-chi-ching. ❷一卷 ❹失譯 ⑮生經第一卷又、鳥劫沙歷、金剛童子。
⑨永仁三寫(寶菩提院)天保一一寫(高大、一・六四)寫本(京大、日大未・三四六ノ一)

野決鈔小卷等 ❶(日)Ya-ketsu-shō-ko-maki-to. ❷四十七軸 ❸存 ❺鎌倉—南北朝時代寫 ⑨(寶菩提院)

野月印可事 ❶(日) Ya-getsu-in-ka-no-koto. ❷一軸 ❸存 ❹風濟記 ⑮寶光院像正一流傳受。 ⑨寫本(高大、寄・一・六四)

野月口決 ❶(日)Ya-getsu-ku-ketsu. ❷一卷 ❹眞瑜(嘉祿二—嘉元二A.D.1226—1304) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

野月鈔 ❶(日)Ya-getsu-shō. 野月新鈔、祕鈔 ❷八十一卷或九十卷或九十七卷 ❸存 ❹守覺法親王(久安六—建仁二A.D.1150—1202)集
⑮「ヤグワツショウ」と稱すべしと傳ふれども、現今多く「ヤゲツショウ」と稱す。淨方尊法の口決を稱むる澤見鈔に對して名づく。野月新鈔とも稱す。又野鈔を野月本鈔と名づくるに對して、又祕鈔と稱することあり。此の書製作の來由に就きては諸說區々なり。(一)北院御室守覺法親王小野方法流を覺鴻院勝賢より相承し、その相傳の諸尊法の口決を稱め、野月鈔と名づく。野は小野、月は勝賢の勝の偏字、小野勝賢の口決鈔てふ意なり。(二)勝賢諸尊法を記して野月鈔と名づけ、守覺法親王に授け來るといふ。(三)第一說の鈔物は野鈔にして野月鈔に非ず、野月鈔は守覺法親王の稱め給ひし祕鈔を醍醐に寫し取りしかば、御室不共の本となさむが爲に行樣便宜のやうに詳書せしめ給へるものを稱す。(四)土巨流傳授目錄には十七卷本の祕鈔を以て野月といへり。祕鈔の下參照。
⑨鎌倉時代寫及足利時代寫(寶菩提院)足利時代寫九十七卷本(寶龜院)寫本(京大、日大未・三四六ノ一)(高大、寄・一・六六)

野月鈔傳授日記 ❶(日) Ya-getsu-shō-den-ju-nik-ki. 祕鈔傳授日記 ❷一帖 ❸存 ❹眞瑜(嘉祿二—嘉元二A.D.

1329—1334)記 ❺徳川初期写 ❹(高大、寄・一・六四)

野月新鈔 ❶(B)Ya-getsu-shin-shō. 野月鈔、録鈔 ❷八十一巻 ❸存 ❹守覚法親王(久安六—建仁二 A.D.1150—1202)集 ❻野月鈔の下を見よ。

野月傳受記 ❶(B)Ya-getsu-den-ju-ki. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代写 ❹(資善提院)

野狐烏經 ❶(B)Ya-ko-u-kyō.(又) Ya-ko-u-u-chō. ❷一巻 ❼(参考)仁寿録第三

野狐涎 ❶(B)Ya-kō-ren. ❼(参考)日本禅林僧寶傳目、禅籍目録

野狐禪 ❶(B)Ya-kō-zen. ❷一冊 ❸存 ❹道重貞澄著 ❺昭和四刊 ❹京都人文書院

野狐大事 ❶(B)Ya-kō-dai-ji. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代写 ❹(資善提院)

野狐放祕傳 ❶(B)Ya-kō-hō-hi-den. ❷一帖 ❸存 ❹圓性記 ❺永禄五(A.D.1562)八月

野護口決 ❶(B)Yagō-kū-ketsu. 護摩口決、野護鈔、甲鈔 ❷一帖 ❸存、大正七九・八九 No.2232 ❹恵深(建久三—弘長三 A.D.1192—1263)口、観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❺弘長元(A.D.1261)

野護口訣抄 ❶(B)Yagō-kū-ketsu-shō. ❷一巻 ❸存 ❺鎌倉時代写 ❹(資善院)

野金口決 ❶(B)Ya-kon-kū-ketsu. 野金口決、野金口決鈔 ❷一巻 ❸存、大正七九・七二 No.2250 ❹恵深(建久三—弘長三 A.D.1192—1263)口、観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❺弘長元(A.D.1261)

野金口決鈔 ❶(B)Ya-kon-kū-ketsu-shō. 野金口決、野金鈔 ❷一巻 ❸存、大正七九・七二 No.2250 ❹恵深(建久三—弘長三 A.D.1192—1263)口、観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❻観瑜僧正は弘長元年六月、三十六歳にして醍醐寺に住し、報恩院恵深僧正に御事して一流を受く、十八道、金胎、護摩の四度次第を受くるや、其の口説を筆録して野道、野金、野胎、野護鈔とす、彼の我舜の口傳鈔を播鈔と名づくるに對して此の瑜公の記を甲鈔と稱し、幸心一流にありては特にこの甲鈔を大切とす。今こゝに野金口決鈔略して野金鈔と稱するは其の題一にして小野方金剛界次第の口決鈔にして、恵深口、観瑜記、其の奥書に「弘長元年暮秋中旬於醍醐寺報恩院奉傳受金剛界云云金剛佛子観瑜三十六。加一覧畢、委細珍重可秘末資之龜鑑際、金剛佛子恵深」これに依りて瑜公三十六歳の記にして幸心元祖恵深の一見を加へ玉ふ口決なるを知ることが出来る。瑜公には、尚この外に、金剛界發恵鈔三巻の名著がある。❹古写本(谷大、餘甲・八六)延慶四写(高大、寄・一・六四)永正六及一七写(金剛三昧院)元禄二写(正大、写本、資善院)(高井観海)

野金鈔 ❶(B)Ya-kon-shō. 野金口決、野金口決鈔 ❷一巻 ❸存、大正七九・七二 No.2250 ❹恵深(建久三—弘長三 A.D.1192—1263)口、観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❺弘長元(A.D.1261) ❻古写本(谷大、餘甲・八六)延慶四写(高大、寄・一・六四)永正六及一七写(金剛三昧院)元禄二写(正大、写本、資善院)(高井観海)

野金發惠鈔 ❶(B)Ya-kon-hō-e-shō. 金界發惠鈔 ❷三巻 ❸存、大正七九・九八 No.2253 ❹観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❻金界發惠鈔の下を見よ。 ❼(参考) 諸宗章疏録第三

野根教相和會論 ❶(B) Ya-ne-kō-wa-e-ron ❷一冊 ❸存 ❹大了述 ❺明治一二刊 ❹(高大、寄・一・五七×哲、け・五・左・一三)

野山記 ❶(B)Ya-san-ki. ❷一巻 ❸存 ❹信堅(正元元—元亨二 A.D.1259—1322)記 ❼(参考) 諸宗章疏録第三 ❼(参考) 諸宗章疏録第三

野山名靈集 ❶(B)Ya-san-myō-rei-shū. ❷五巻 ❸存 ❹泰鎮 ❻開創以来高野山に關する処での事蹟を和文にて叙述したるもので、高野山の概略を知るには恰好の書である。巻頭には獲賞無の序、巻末に著者の跋語を附す。❺寶暦二刊 ❹(正大、一四一・四五×谷大、餘大・一八五五×龍大、二九七四・一九×京大、一・二二ヤ・一×京専)(高大、寄・一・五五×帝國、一二八・二〇五)

野州出流山勝道上人行狀 ❶(B)Yashū-shutsu-ryū-zan-shō-dō-jō-shō. ❷一冊 ❸存 ❺明和五写 ❹(資善提院)

野鈔 ❶(B)Ya-shō. 野決私注、野月本鈔、本鈔 ❷二十三巻(正篇十八巻、異尊五巻) ❸存 ❹守覚法親王(久安六—建仁二 A.D.1150—1202)集 ❻醍醐山の聖賢累年の記述を北院御家守覚法親王に献じ、且つ載する所の密法を傳授す。親王之を類聚し調巻して野鈔と名づく。小野方鈔物の義にして澤鈔に對する稱なり。原名は野法私注と云ひ、野月本鈔又は本鈔とも名づく。是れ野月鈔を野月新鈔と名づくるに對す。一説に之を野月鈔と名づくる説あり。秘鈔、野決鈔、野月鈔等參照。❹写本(高大、寄・一・六六)足利時代写(資善提院)(資善院)

野聖乞食桃水 ❶(B)Yasei-kotsu-tō-sui. ❷一冊 ❸存 ❹宮崎安右衛門著 ❺大正六刊 ❹東京春秋社

野聖桃水 ❶(B)Yasei-tō-sui. ❷一冊 ❸存 ❹宮崎安右衛門著 ❺大正一〇刊 ❹京都丁子屋書店

野胎口決 ❶(B)Ya-tai-kū-ketsu. 野胎口決鈔、野胎鈔 ❷二巻 ❸存、大正七九・七九 No.2251 ❹観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❹写本(高大、寄・一・六二)

野胎口決鈔 ❶(B)Ya-tai-kū-ketsu-shō. 野胎口決、野胎鈔 ❷二巻 ❸存、大正七九・七九 No.2252 ❹観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❻本書は彼の野金口決鈔に對して野胎口決鈔と名づく、略して野胎鈔と云ふ。小野ノ胎蔵界次第の口決にして、同じく報恩院流元祖恵深口、観瑜記より、其の奥書に「弘長元年十月上旬、於醍醐寺報恩院、授細日蓮第五日五筒日之間、奉傳受胎蔵之次、逸日隨筆畢、未再治本也云云、瑜公は尚胎蔵法に胎蔵入理鈔三巻の名著がある。瑜公は世寿七十九、其の著書百有餘部四百五十有餘巻あり、野金、野胎等は其の隙一にして三十六歳の筆録である。❹康應元写(高大、寄・一・六四)應永七写(資善提院)足利時代写(資善院)正保二写(高大、寄・一・六二、六四)写本(正大、一四八・八二)(高井観海)

野胎鈔 ❶(B)Ya-tai-shō. 野胎口決鈔、野胎口決 ❷二巻或一巻 ❸存、大正七九・七九 No.2251 ❹観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❼(参考)諸宗章疏録第三

野胎入理鈔 ❶(B)Ya-tai-nyū-ri-shō. 胎蔵入理鈔 ❷三巻 ❸存、大正七九・一四五 No.2254 ❹観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❻胎蔵入理鈔の下を見よ。 ❼(参考) 諸宗章疏録第三

野澤血脈 ❶(B)Ya-taku-ketsu-myaku. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代写 ❹(資善院)

野澤血脈拾 ❶(B)Ya-taku-ketsu-chi-myaku-jū. ❷一巻 ❸存 ❹深能 ❹頁延四写(谷大、餘大・一四七三)写本(京専)

野澤血脈次第 ❶(B)Ya-taku-ketsu-chi-myaku-shi-dai. ❷一巻 ❸存 ❹写本(京専)

野澤三十六流印信類聚 ❶(B)Ya-taku-san-jū-roku-ryū-in-shin-rui-ju. 三十六流印信類聚 ❷一巻 ❸存 ❹舜政 ❹写本(京専)(金剛三昧院)

野澤資記 ❶(B)Ya-taku-shi-ki. ❷一巻 ❸存 ❹写本(京専)

野澤書籍目録 ❶(B) Ya-taku-sho-jaku-moku-roku. ❷一巻 ❸存 ❺享保一七写 ❹(谷大、餘大・三〇九八)

野澤諸流聖教目録 ❶(B)Ya-taku-sho-ryū-shō-kyō-moku-roku. ❷一巻 ❸存 ❹親鸞 ❼(参考) 眞言宗全書刊行豫定書目

野澤鈔 ❶(B) Ya-taku-shō. ❷十二巻 ❸存 ❹守覚法親王(久安六—建仁二 A.D.1150—1202) ❼(参考) 眞言宗全書刊行豫定書目

野澤先德略名 ❶(B) Ya-taku-sen-toku-ryaku-mei. ❷一冊 ❸存 ❺文政五写 ❹(高大、寄・一・七二)

野澤前祖紹文 ❶(B) Ya-taku-zen-so-shō-mon. ❷一軸 ❸存 ❹壽海 ❺元文三写 ❹(高大、寄・一・五五)

野澤大血脈 ❶(B)Ya-taku-dai-ketsu-chi-myaku. ❷一巻 ❸存 ❹具爽(建暦元—正應四 A.D.1211—1291) ❺文化七写 ❹(高大、寄・一・五五)

野澤通用式 ❶(B) Ya-taku-tō-yō-shiki. ❷三巻 ❸存 ❹傳法灌頂三昧耶戒作法・胎蔵界傳法灌頂作法・金剛界傳法灌頂作法各一巻を指して野澤通用式と云ふ。

野澤之各六流 ❶(B)Ya-taku-no-kaku-roku-ryū. ❷一帖 ❸存 ❺徳川時代写 ❹(資善院)

野澤目録 ❶(B)Ya-taku-moku-roku. ❷一巻 ❸存 ❹守覚法親王(久安六—建仁二 A.D.1150—1202)撰 ❼(参考) 眞言宗全書刊行豫定書目

野澤略血脈 ❶(B) Ya-taku-ryaku-ketsu-myaku. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代写 ❹(資善院)

野澤略頌名目 ❶(B)Ya-taku-ryaku-ju-myō-moku. ❷一冊 ❸存 ❹覚済(安貞元—嘉元元 A.D.1227—1303) ❺元治元写 ❹(高大、寄・一・六〇)

野澤流派略記 ❶(B) Ya-taku-ryū-ha-ryak-ki. ❷一巻 ❸存 ❹呆寂(德治元—貞治元 A.D.1326—1362)草、賢賢(正慶二—應永五 A.D.1332—1398)補 ❻東密小野廣澤諸流の分派血脈等を記述す。 ❺寛保三写 ❹(谷大、餘小・一一二)

野澤兩方流派肇祖記 ❶(B) Ya-taku-ryō-hō-ryū-ha-chō-ki. ❷一帖 ❸存 ❺徳川時代写 ❹(資善院)

野澤兩流血脈 ❶(B) Ya-taku-ryō-ryū-ketsu-myaku. ❷一巻 ❸存 ❹義意(延久四—久安元以後 A.D.1072—1145—) ❼(参考)眞言宗全書刊行豫定書目

野澤兩流名目 ❶(B) Ya-taku-ryō-ryū-myō-moku. ❷一帖 ❸存 ❺徳川時代写 ❹(資善院)

野頂聚記 ❶(B)Yachō-ju-ki. ❷一帖 ❸存 ❺徳川初期写 ❹(資善提院)

野道護摩 ❶(B) Ya-dō-go-ma. ❷一巻 ❸存 ❹写本(正大、一四八・一三五)

野峰三階雲泥錄 ❶(B)Yahō-san-gai-un-dei-roku. ❷一冊 ❸存 ❺徳川時代写 ❹(資善院)

野峰十八景詩歌 ❶(B)Yahō-jū-hak-kei-shi-ka. 高野十八景詩 ❷一帖 ❸存 ❹寂本(寛永八—元禄一四 A.D.1631—1701) ❺貞享元(A.D.1684) ❻高野山中の十八景を詠じたる詩集。 ❺貞享五写 ❹(資善院)

野峰松韻 ❶(B)Yahō-shō-in. 弘法大師和讃略解野峰松韻 ❷二巻 ❸存 ❹佐伯慈明(文化一三—明治一一 A.D.1816—1878)述 ❹明治一一刊(高大、一・五六×京専)明治一五刊(谷大、餘大・四五〇五)

野峰名德傳 ❶(B)Yahō-mei-ten-den. ❷二巻 ❸存、大日本佛教全書第一〇六 ❹寂本(寛永八—元禄一四 A.D.1631—1701) ❻この書は高野山寶光院の學僧雲石堂寂本によりて撰せられたものである。雲長、無染、薫親、峯禪等の六十八人の高僧の傳記とされに附隨して六人の名前を挙げ上下二巻とした所謂七十餘名の傳記集である。寂本師が本書を撰するに到つた動機に就ては本書の序文に左の如くに述べてゐる。「高野山は弘法大師が弘仁帝に表請して精藍を草創してより今に八百餘歳を歴、その間に於ける移徙の人相積ること幾千萬人ぞや、その中偉德高行の人も亦稀からず。然るにその土地偏僻、朝市に遥絶たるを以て世の歴刊を去るの徒迹を滅して此處に入り、

長元年十月上旬、於醍醐寺報恩院、授細日蓮第五日五筒日之間、奉傳受胎蔵之次、逸日隨筆畢、未再治本也云云、瑜公は尚胎蔵法に胎蔵入理鈔三巻の名著がある。瑜公は世寿七十九、其の著書百有餘部四百五十有餘巻あり、野金、野胎等は其の隙一にして三十六歳の筆録である。❹康應元写(高大、寄・一・六四)應永七写(資善提院)足利時代写(資善院)正保二写(高大、寄・一・六二、六四)写本(正大、一四八・八二)(高井観海)

野胎鈔 ❶(B)Ya-tai-shō. 野胎口決鈔、野胎口決 ❷二巻或一巻 ❸存、大正七九・七九 No.2251 ❹観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❼(参考)諸宗章疏録第三

野胎入理鈔 ❶(B)Ya-tai-nyū-ri-shō. 胎蔵入理鈔 ❷三巻 ❸存、大正七九・一四五 No.2254 ❹観瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❻胎蔵入理鈔の下を見よ。 ❼(参考) 諸宗章疏録第三

野澤血脈 ❶(B)Ya-taku-ketsu-myaku. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代写 ❹(資善院)

野澤血脈拾 ❶(B)Ya-taku-ketsu-chi-myaku-jū. ❷一巻 ❸存 ❹深能 ❹頁延四写(谷大、餘大・一四七三)写本(京専)

野澤血脈次第 ❶(B)Ya-taku-ketsu-chi-myaku-shi-dai. ❷一巻 ❸存 ❹写本(京専)

野澤三十六流印信類聚 ❶(B)Ya-taku-san-jū-roku-ryū-in-shin-rui-ju. 三十六流印信類聚 ❷一巻 ❸存 ❹舜政 ❹写本(京専)(金剛三昧院)

野澤資記 ❶(B)Ya-taku-shi-ki. ❷一巻 ❸存 ❹写本(京専)

野澤書籍目録 ❶(B) Ya-taku-shoja-moku-roku. ❷一巻 ❸存 ❺享保一七写 ❹(谷大、餘大・三〇九八)

野澤諸流聖教目録 ❶(B)Ya-taku-sho-ryū-shō-kyō-moku-roku. ❷一巻 ❸存 ❹親鸞 ❼(参考) 眞言宗全書刊行豫定書目

野澤鈔 ❶(B) Ya-taku-shō. ❷十二巻 ❸存 ❹守覚法親王(久安六—建仁二 A.D.1150—1202) ❼(参考) 眞言宗全書刊行豫定書目

野澤先德略名 ❶(B) Ya-taku-sen-toku-ryaku-mei. ❷一冊 ❸存 ❺文政五写 ❹(高大、寄・一・七二)

野澤前祖紹文 ❶(B) Ya-taku-zen-so-shō-mon. ❷一軸 ❸存 ❹壽海 ❺元文三写 ❹(高大、寄・一・五五)

野澤大血脈 ❶(B)Ya-taku-dai-ketsu-chi-myaku. ❷一巻 ❸存 ❹具爽(建暦元—正應四 A.D.1211—1291) ❺文化七写 ❹(高大、寄・一・五五)

野澤通用式 ❶(B) Ya-taku-tō-yō-shiki. ❷三巻 ❸存 ❹傳法灌頂三昧耶戒作法・胎蔵界傳法灌頂作法・金剛界傳法灌頂作法各一巻を指して野澤通用式と云ふ。

野澤之各六流 ❶(B)Ya-taku-no-kaku-roku-ryū. ❷一帖 ❸存 ❺徳川時代写 ❹(資善院)

野澤目録 ❶(B)Ya-taku-moku-roku. ❷一巻 ❸存 ❹守覚法親王(久安六—建仁二 A.D.1150—1202)撰 ❼(参考) 眞言宗全書刊行豫定書目

野澤略血脈 ❶(B) Ya-taku-ryaku-ketsu-myaku. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代写 ❹(資善院)

野澤略頌名目 ❶(B)Ya-taku-ryaku-ju-myō-moku. ❷一冊 ❸存 ❹覚済(安貞元—嘉元元 A.D.1227—1303) ❺元治元写 ❹(高大、寄・一・六〇)

野澤流派略記 ❶(B) Ya-taku-ryū-ha-ryak-ki. ❷一巻 ❸存 ❹呆寂(德治元—貞治元 A.D.1326—1362)草、賢賢(正慶二—應永五 A.D.1332—1398)補 ❻東密小野廣澤諸流の分派血脈等を記述す。 ❺寛保三写 ❹(谷大、餘小・一一二)

野澤兩方流派肇祖記 ❶(B) Ya-taku-ryō-hō-ryū-ha-chō-ki. ❷一帖 ❸存 ❺徳川時代写 ❹(資善院)

野澤兩流血脈 ❶(B) Ya-taku-ryō-ryū-ketsu-myaku. ❷一巻 ❸存 ❹義意(延久四—久安元以後 A.D.1072—1145—) ❼(参考)眞言宗全書刊行豫定書目

野澤兩流名目 ❶(B) Ya-taku-ryō-ryū-myō-moku. ❷一帖 ❸存 ❺徳川時代写 ❹(資善院)

野頂聚記 ❶(B)Yachō-ju-ki. ❷一帖 ❸存 ❺徳川初期写 ❹(資善提院)

野道護摩 ❶(B) Ya-dō-go-ma. ❷一巻 ❸存 ❹写本(正大、一四八・一三五)

野峰三階雲泥錄 ❶(B)Yahō-san-gai-un-dei-roku. ❷一冊 ❸存 ❺徳川時代写 ❹(資善院)

野峰十八景詩歌 ❶(B)Yahō-jū-hak-kei-shi-ka. 高野十八景詩 ❷一帖 ❸存 ❹寂本(寛永八—元禄一四 A.D.1631—1701) ❺貞享元(A.D.1684) ❻高野山中の十八景を詠じたる詩集。 ❺貞享五写 ❹(資善院)

野峰松韻 ❶(B)Yahō-shō-in. 弘法大師和讃略解野峰松韻 ❷二巻 ❸存 ❹佐伯慈明(文化一三—明治一一 A.D.1816—1878)述 ❹明治一一刊(高大、一・五六×京専)明治一五刊(谷大、餘大・四五〇五)

野峰名德傳 ❶(B)Yahō-mei-ten-den. ❷二巻 ❸存、大日本佛教全書第一〇六 ❹寂本(寛永八—元禄一四 A.D.1631—1701) ❻この書は高野山寶光院の學僧雲石堂寂本によりて撰せられたものである。雲長、無染、薫親、峯禪等の六十八人の高僧の傳記とされに附隨して六人の名前を挙げ上下二巻とした所謂七十餘名の傳記集である。寂本師が本書を撰するに到つた動機に就ては本書の序文に左の如くに述べてゐる。「高野山は弘法大師が弘仁帝に表請して精藍を草創してより今に八百餘歳を歴、その間に於ける移徙の人相積ること幾千萬人ぞや、その中偉德高行の人も亦稀からず。然るにその土地偏僻、朝市に遥絶たるを以て世の歴刊を去るの徒迹を滅して此處に入り、

隱約の眞となり、玉石俱に埋り、德花鄣ることなく、かの師譲の元亨釋書に出す處も係かに經驗、林賢等の三餘人なれば當に之を證驗になせしが、然るに後年、智山泊如僧正、予に語つて曰く、佛國禪師、東國高僧傳を撰す、其の中、野山の名僧一人だも載せず、これ埋壁沈珠の嘆に等しきものである。故之れを錄出して佛國に請ふて彼の傳に入れば赤焉らずや」と此の勸進に由て幸に論揚を以て編を披陳す云云等と遂べてゐる。依つて本書の塊位并に著者の意圖察知すべし。

❺貞享四刊 ❻(京大、一・二一ヤ・一)(高大、寄・一・五五)(京專) (坂田光全)

野峰略記 ❶(B)Ya-hō-ryaku-ki. ❷二卷 ❸存 ❹證仁 ❺寫本(谷大、餘大・二二六○)(帝國、一九六・六六)

彌源太殿御返事 ❶(B)Ya-gen-ta-dono-gō-hen-ji. ❷存、日蓮聖人御書文之內 ❸日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❹文永一一(A. D. 1274)三月

彌源太入道殿御返事 ❶(B)Ya-gen-ta-nyū-dō-dono-gō-hen-ji. ❷存、日蓮聖人御書文之內 ❸日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❹文永一一(A. D. 1274)九月

やまかつ羅 ❶(B) Ya-ma-ka-tsu-ra. ❷十四枚 ❸存 ❹若山如關遙 ❺享和三刊 ❻(帝國、二二九・一四○)

厄神明王像 ❶(B) Yaku-jin-myō-ō-zō. ❷一紙 ❸存、大正圖像第一二 ❹愛染、不動合體の尊像。 ❺(武藤金太)

亦賊念佛往生記 ❶(B)Yaku-zoku-nen-butsu-ō-jō-ki. ❷一卷 ❸存、雜集錄之內 ❹證忍妙眞(寶永二—天明六 A. D. 1705—1786) ❺刊本(谷大、餘大・一二五二)(龍大、研史)

約菴德久禪師略傳 ❶(B) Yaku-an-toku-kyū-zen-ji-ryaku-den. 約菴久禪師略傳 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹約菴德久の略傳にして、高山禪師を大慈山に葬讃したること、海を隔えて南詢し宗匠を歷扣したる等を記載してゐる。 (後藤大用)

約翁和尚語錄 ❶(B)Yaku-ō-wa-shō-go-roku. 佛燈國師約翁和尚語錄、佛燈大光國師語錄、佛燈錄 ❷一卷 ❸存 ❹無住約翁(—元應二 A. D. 1320)語 ❺(參考)禪籍目錄

約心觀佛 ❶(B) Yaku-shin-kwan-butsu. ❷一卷 ❸存 ❹智周記 ❺寫本(舊知藏)

益意經 ❶(B)Yaku-i-kyō. (支)I-ching. ❷二卷 ❸失譯 ❹(參考) 出三藏記第四

益意經 ❶(B)Yaku-i-kyō. (支)I-ching. ❷二卷 ❸延僧經。 ❹(參考) 出三藏記第五、法經錄第二、仁壽錄第四、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

益意經 ❶(B)Yaku-i-kyō. (支)I-ching. ❷三卷 ❸缺 ❹東晉康道和譯 ❺第二譯。 ❻(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

益算經 ❶(B)Yaku san-gyō. (支)I-san-ching. ❷一卷 ❸存、雜集 (參考) 武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八、益長個現在一切經疏目錄1204

益算神符經 ❶(B) Yaku-san-jin-pu-kyō. (支)I-suan-shen-fu-ching. ❷一卷 ❸疑僞經。 ❹(參考) 武周錄第一五

譯書返破 ❶(B)Yaku-sho-hen-pa. ❷三卷 ❸存 ❹寫本(正大、一五七・七三)

譯場列位 ❶(B)Yaku-ji-retsu-i. ❸存、佛題叢書之內、佛書譯家考之內 ❹愛鶴撰定(文化一二—明治二四 A. D. 1814—1891) ❺文久三刊(帝國、一四八・三六)刊本(谷大、長保・三○二)

譯註叡山大師傳 ❶(B)Yaku-chū-ei-zan-dai-shi-den. ❷一卷 ❸存 ❹御遠忌局 ❺刊本(叡山、延曆)

藥王 ❶(B)Yaku-ō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三八阿彌陀抄第四 ❹永徳(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)

藥王菩薩經 ❶(B)Yaku-ō-bo-satsu-kyō. (支)Yao-wang-p'u-sa-ch'ing. ❷一卷 ❸妙法蓮華第七卷の抄出。 ❹(參考) 開元錄第一六、貞元錄第二六

藥王菩薩行用 ❶(B) Yaku-ō-bo-satsu-gyō-yō. ❷一卷 ❸存 ❹良儀記 ❺永正元寫 ❻(曼殊院)

藥王菩薩陀羅尼句義釋 ❶(B) Yaku-ō-bo-satsu-da-ra-ni ku-gi-shaku. ❷一冊 ❸存 ❹叡林撰 ❺寫本(京大、日大宋・八○)

藥王菩薩念誦次第 ❶(B)Yaku-ō-bo-satsu-nen-ju-shi-dai. ❸存 ❹寫本 (寶龜院)

藥王菩薩法 ❶(B) Yaku-ō-bo-satsu-hō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶菩提院)

藥王法 ❶(B)Yaku-ō-hō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶菩提院)

藥王品得意鈔 ❶(B)Yaku-ō-bon-toku-i-shō. ❷一卷 ❸存、日蓮聖人全集第七、日蓮聖人御書文五三四、高祖書文錄九一八 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永二(A. D. 1265)

❻法華經藥王品の十喻を說きてこの經の諸經に超勝せるを明し、後段に難陀龍女の女人はたゞこの經に依つてのみ往生成佛すべしと說かれてゐる。

本書は南條時光の室に遣されたといはる。末後の幾紙かは散逸して傳はらざるものゝやうである。 ❼(參考) 錄內啓蒙三四三二、錄內扶老一三二八、御書鈔二三四六等 ❽眞讃本(房州保田妙本寺) (望月歐厚)

藥王藥上經 ❶(B)Yaku-ō-yaku-jō-kyō. (支)Yao-wang-yao-shang-ching. 觀藥王藥上二菩薩經、觀藥王藥上菩薩經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・六六〇No. 1161、縮四一〇、卍一〇・八、北126得、南325得、元326得、明北321知、清321知、麗325改、天325得、指351改、法374改、至325改、明南325得、Nj. 395 ❹黃良耶舍譯 ❺劉宋元嘉元—一九(A. D. 424—443) ❻觀藥王藥上二菩薩經の下を見よ。

藥王藥上菩薩觀經 ❶(B)Yaku-ō-yaku-jō-bo-satsu-kwan-gyō. (支) Yao-

wang-yao-shang-p'u-sa-kuan-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹後漢安世高(—建和二—建寧三 A. D. 148—170—)譯 ❺第一譯。 ❻(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

藥經 ❶(B)Yaku-kyō. (支)Yao-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

藥師 ❶(B)Yaku-shi. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四五疊譯鈔第一 ❹疊譯(康治二—建暦二以後 A. D. 1142—1219—)

藥師 ❶(B)Yaku-shi. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三六阿彌陀抄第二 ❹承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)

藥師 ❶(B)Yaku-shi. ❷三帖 ❸存 ❺一本の奥に「建長六年四月二十日寒書寫了。同二十三日寒傳受了。求法沙門梨瑜」とあり。 ❻建長六寫 ❼(寶菩提院)

藥師記 ❶(B)Yaku-shi-ki. ❷一卷 ❸眞澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822) ❺本朝台風撰述密部書目に云く「開山。帖云。墨地中行法次第不可新作。之。傳教大師御藥師私記。是也。藥師私記。此中アサハ云云。有二料簡一。爾ルニ帖ニ所云者恐指二此一卷記一也。三卷本是慈覺所記ナル(ヘシ)私義也」云々。

藥師記 ❶(B)Yaku-shi-ki. ❷三卷 ❸圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864) ❹本朝台風撰述密部書目に云く「一卷行法次第。一卷印相。一卷眞言。或目云。聖昭院禁覺記云。三卷藥師記ヲ傳教ノゾト云說アリ。爾レドモ行靈院昭云慈覺大師記。或目云。藥師私記(批云慈覺大師傳高丈夫受學。)浸僧正云。藥師初行依ニ墨地大法一可ニ行ヲ之歟。可ニ用ニ此私記一。故云々。

藥師記 ❶(B)Yaku-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹慧玄記 ❺寫本(曼殊院)

藥師記初行 ❶(B)Yaku-shi-ki-sho-gyō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(叡山、吉祥)

藥師儀軌 ❶(B)Yaku-shi-gi-ki. 藥師如來儀軌 ❸存、日本大藏經第四一天台宗顯教章疏第一、傳教大師全集第四(新) ❹眞澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)

藥師儀軌 ❶(B) Yaku-shi-gi-ki. (支)Yao-shih-i-kuei. 修藥師儀軌布壇法 ❷一卷 ❸存、大正一九・六四No. 925 ❹唐阿旧扎仕補譯 ❺修藥師儀軌布壇法の下を見よ。 ❻刊本(龍大、二一八・三七)

藥師儀軌一具 ❶(B)Yaku-shi-gi-ki-ichi-gu. (支)Yao-shih-i-kuei-i-chü. 藥師儀軌 ❷一卷 ❸存、大正一九・三〇No. 921C、卍續二・九・四 ❹失譯 ❺藥師如來を胎藏法の次第に組み入れたもので、儀軌と言ふよりは、寧ろ念誦法に近いものである。修法の次第としては、決して測ふたものではないが、之を整理すれば、直に修法次第と成るものである。可なり長い佛讚の梵文が記載されてあり、中にも眞言宗の常用である佛讚の文が、此の所に存して居ることは、注意す可きことである。尙卷末に、本書が傳教大師請來となって居ることも、留意す可きである。 ❻寫本(京大、藏・一六・ヤ・二)大正一二宮(叡山、延曆) (神林隆淨)

藥師經依 ❶(B) Yaku-shi-kyō-i. (支)Yao-shih-ching-i. 藥師本願經依 ❷一卷 ❸大乘基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—683)述 ❹(參考) 諸宗章疏錄第二

藥師經義玄鈔 ❶(B)Yaku-shi-kyō-gi-gen-shō. (支)Yao-shih-ching-i-hsüan-ch'ao. ❷四卷 ❸缺 ❹圓鏡述 ❺(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

藥師經義疏 ❶(B) Yaku-shi-kyō-gi-sho. 藥師瑠璃光如來本願功德經義疏、藥師本願經義疏 ❷三卷 ❸存、日本大藏經第五方等部章疏第三 ❹實觀述 ❺藥師瑠璃光如來本願功德經義疏の下を見よ。 ❻(參考) 山家目德撰述寫目集卷下 ❼元文五刊 ❽(高大、寄・一・二三)(叡山、菩潤)(哲、ゐ・三・右・一)

藥師經見聞 ❶(B) Yaku-shi-kyō-ken-mon. ❷一卷 ❸存 ❹傳祐記 ❺寫本(菊四)

藥師經古迹 ❶(B) Yaku-shi-kyō-ko-seki. (支)Yao-shih-ching-ku-chi. 本願藥師經古迹、藥師本願經古迹記、藥師本願經古迹記、藥師古迹 ❷二卷 ❸存、大正三八・二五七No. 1770、卍續一・三五・二 ❹新羅太賢(—景德王一二 A. D. 742—)述 ❺本願藥師經古迹の下を見よ。

藥師經古迹記 ❶(B)Yaku-shi-kyō-ko-seki-ki. (支)Yao-shih-ching-ku-chi. 本願藥師經古迹、藥師經古迹、藥師本願經古迹記、藥師古迹、藥師本願經古迹記、藥師古迹、藥師本願經古迹 ❷二卷 ❸存、大正三八・二五七No. 1770、卍續一・三五・二 ❹新羅太賢(—景德王一二 A. D. 742—)述 ❺本願藥師經古迹の下を見よ。 ❻(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

藥師經纂解 ❶(B) Yaku-shi-kyō-sen-ge. 本願藥師經纂解、藥師本願經纂解 ❷四卷 ❸存、日本大藏經第五方等部章疏第三 ❹亮法(元和八—延寶八 A. D. 1622—1680)述

❺本書は「科釣り慢慢」として有名な豐山第十一世亮法僧正の著書である。亮法師は幼少の頃より藥師佛を信念し、常に此の經を讀誦して居た、長谷在學の日、この經の鈔解二卷を作りて箱底に藏したりしが、一日慧琳の音義を見て發明する所あり、こゝに於てか鈔解二卷を添削し、參照するに太賢の古迹記、善珠の藥師經鈔を以てし、玆に藥師經纂解四卷を成すに至つたことは序文に依りて明らかである。本經を釋すに其の分科巧妙にして前後の脈絡をよくし、經文の意趣を充分に發揮して居る。現在亮法師の著書四十二部八十七卷ありと傳へられて居るが、この亮法師の特色は祖本經典を分科し、これを建意的に註解し、獨自の學風を成す豐山の代表的學將である。藥師經纂解は蓋し其の一である。寛文十二年に上梓したものと思ふ。

❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❽寛文一〇刊

(正大、一一七八・二九、三一・三八)(高大、寄・一・二三)寬文一二刊(正大、一一七八・四一)(高大、寄・一・二三)(哲、ゐ・一・左・一二)(京專)
(高井觀海)

藥師經纂解講要 ❶(日)Yaku-shi-kyō-san-ge-kō-yō. ❷五卷 ❹淨慧(寬永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)

藥師經直解 ❶(日)Yaku-shi-kyō-jiki-ge. (支)Yao-shih-ching-chih-chieh. 藥師本願經直解、藥師本願功德經直解、藥師瑠璃光如來本願功德經直解 ❷一卷 ❸存、卍續一・三五・二 ❹淸靈耀(—康熙二二 A. D. 1683—)述
❻本書先づ藥師瑠璃光如來本願功德經の分科圖を示し、一經の大綱を一目の下に知らしめ、而して釋の首めに總題として「首題乃一經之綱要衆義指歸。不レ可レ不ニ簡易示一。不レ可レ不ニ深長思一。」云々に筆を起し、一經の名・體・宗・用・教相等を說くこと縷々として居る。二に文を分つて、(一)序分。(二)正宗分。(三)流通分となし、一々經の本文を出して釋して居る。附錄に梵文神呪三種を掲載す。
❾刊本(哲、ゐ・中・三・一四)

藥師經集異鈔 ❶(日)Yaku-shi-kyō-shū-i-shō. (支)Yao-shih-ching-chi-i-ch'ao. ❷一卷 ❹神雄述 ❼〔參考〕 新編諸宗教藏總錄第一

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. 藥師本願經疏、藥師疏 ❷一卷 ❹神太述 ❼〔參考〕 東域傳燈目錄卷上

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. 藥師疏、藥師本願疏 ❷一卷 ❹唐神泰述 ❼〔參考〕 東域傳燈目錄卷上

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. 藥師本願經疏 ❷一卷 ❹唐靖邁述 ❼〔參考〕 新編諸宗教藏總錄第一、諸宗章疏錄第一、注進法相宗章疏、奈良朝現在一切經疏目錄1028, 1029

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. 藥師本願經疏、藥師疏 ❷一卷 ❹唐道倫述 ❼〔參考〕新編諸宗教藏總錄第一、注進法相宗章疏

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. 藥師本願經疏、藥師疏 ❷一卷 ❹大乘基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—682)述 ❼〔參考〕 注進法相宗章疏

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. ❷一卷 ❹新羅憬興(—開耀元 A. D. 681—)述 ❼〔參考〕 新編諸宗教藏總錄第一、注進法相宗章疏

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. ❷四卷 ❼〔參考〕 東域傳燈目錄卷上

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. ❷一卷 ❹智開述 ❼〔參考〕 新編諸宗教藏總錄第一

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. ❷一卷 ❸存、大正八五・三〇六 No. 2766
❻本疏は藥師經の本文を引いて解說せるもの。されど所引の本文は達摩笈多譯、玄奘譯、義淨譯と一致せず。上掲三譯以外の譯に對する疏なるを知る。然も首尾共に缺く。從つて著者不明。
内容は文殊の請問(上掲の三譯に於ては曼殊)に初まり、藥師如來の十二の大願の中、最後の第十二願の解說の半にて終る。十二願を(一)上求佛果、(二)功德智慧、(三)自行化他、(四)慈悲體、(五)制大魔化外道、(六)慈悲境の六要に要約して、夫夫の願に就て解說す。
❾燉煌本(大英博物館S. 2512)(田中順照)

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. (支)Yao-shih-ching-su. ❷一卷 ❸存、大正八五・三一〇 No. 2767 ❹慧觀 ❺唐永淳元頃(A. D. 682)
❻本疏は達摩笈多譯藥師經を註解せるものにして首尾共に缺く。内容は藥師如來の十二願を說き終つてその佛土の淸淨を說く本文の註釋より初まる。全體を大分して三分科となせるものの如く、このことは最後に「第三依教奉行分」とあるより知られる。而して第二を六に分科す。「第一第二第三分科缺」第四答問、第五大將解衞、第六慶喜淸持。第四答問の中、除障文を更に五に分つ。(一)治多貪、(二)治破戒、(三)治斬惡、(四)治難障、(五)治不定。次に五答攝生時節として更に六に分科す。卽ち(一)妙往利物、(二)如來遂成、(三)師資辨益、(四)救脫調生、(五)示病救方、(六)令延惡壽。若し五答攝生時節の五を第五と解すれば大將解衞は第六となり、第六慶喜淸持は第七となりて七分科となる。
註解するに當つて引用する所は、主として涅槃經、智度論、瑜伽論、雜集論、俱舍論等である。前述の分科を表示すれば左の如し。

第一　缺
第二
- (一)……缺
- (二)……缺
- (三)……缺
- (四)……答問　除障文
  - (一)治多貪
  - (二)治破戒
  - (三)治斬惡
  - (四)治難障
  - (五)治不定
- (五)ア答攝生時節
  - (一)妙德利物
  - (二)如來遂成
  - (三)師資辨益
  - (四)救脫調生
  - (五)示病救方
  - (六)令延惡壽
- (五)……大將解衞
  - (一)明大將
  - (二)明擁護
  - (三)明讚勸
- (六)……慶喜淸持
  - (一)阿難問名
  - (二)如來解答

第三……依教奉行分

❾燉煌本(大英博物館S. 2551)(田中順照)

藥師經疏 ❶(日)Yaku-shi-kyō-sho. 本願藥師經抄、藥師瑠璃光如來本願功德經鈔、藥師經鈔、藥師本願經贊 ❷一卷或二卷 ❸存、日本大藏經第五方等部章疏第三 ❹善珠(神龜元—延曆一六 A. D. 724—797)述 ❻本願藥師經抄の下を見よ。 ❼〔參考〕 注進法相宗章疏

藥師經鈔 ❶(日)Yaku-shi-kyō-shō. 本願藥師經抄、藥師本願經鈔、藥師瑠璃光如來本願功德經鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第五方等部章疏第三 ❹善珠(神龜元—延曆一六 A. D. 724—797)述 ❻本願藥師經抄の下を見よ。 ❾刊本(哲、ゐ・三・右・一二)

藥師經註 ❶(日)Yaku-shi-kyō-chū. 藥師本願經註 ❷一卷 ❹了傳述 ❺慶安四刊 ❾(正大、一一七八・三二)(京專)

藥師經燈焰 ❶(日)Yaku-shi-kyō-tō-en. (支)Yao-shih-ching-têng-yen. 藥師燈焰、閱經十二種之內 ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・二 ❹淨挺述 ❺淸康熙六—九(A. D. 1667—1670) ❻閱經十二種の下を見よ。

藥師經略記 ❶(日)Yaku-shi-kyō-ryak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹信嚴撰 ❺大治四寫 ❾(曼殊院)

藥師口傳 ❶(日)Yaku-shi-ku-den. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

藥師供次第 ❶(日)Yaku-shi-ku-shi-dai. ❹賴瑜(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1226—1304) ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第三

藥師古迹 ❶(日)Yaku-shi-ko-shaku. (支)Yao-shih-ku-chi. 本願藥師經古迹、藥師經古迹、藥師經古迹記、藥師本願經古迹、藥師本願經古迹記 ❷二卷 ❸存、大正三八・二五七 No. 1770、卍續一・三五・二 ❹新羅太賢(—景德王一二 A. D. 753—)述 ❻本願藥師經古迹の下を見よ。 ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第二

藥師護法 ❶(日)Yaku-shi-go-hō. ❷一帖 ❸存 ❹隆勝草 ❾寫本(高大、寄・一・六六)

藥師護摩 ❶(日)Yaku-shi-go-ma. 藥師護摩次第 ❷一帖 ❸存 ❹道瑜(應永二九—明應二以後 A. D. 1422—1493—) ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第三

藥師護摩 ❶(日)Yaku-shi-go-ma. ❷一帖 ❸存 ❾寫本(金剛三昧院)

藥師護摩次第 ❶(日)Yaku-shi-go-ma-shi-dai. 藥師護摩 ❷一帖 ❸存 ❹道瑜(應永二九—明應二以後 A. D. 1422—1493—)記 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

藥師護摩私記 ❶(日)Yaku-shi-go-ma-shi-ki. ❷一册 ❸存 ❾元文四寫及德川時代寫(寶菩提院)

藥師講伽陀 ❶(日)Yaku-shi-kō-ka-da. ❷七帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

藥師講式 ❶(日)Yaku-shi-kō-shiki. ❷一軸 ❸存 ❹貞慶(久壽二—建保元 A. D. 1155—1213)作 ❺文保三寫 ❾(高大、寄・一・四九)

藥師講式 ❶(日)Yaku-shi-kō-shiki. 藥師講式五段 ❷一軸 ❸存 ❾足利末期寫(金剛三昧院)寫本(高大、寄・一・四九)

藥師三昧行法 ❶(日)Yaku-shi-san-mai-gyō-hō. (支)Yao-shih-san-mei-hsing-fa. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・二・一 ❹明受登集
❻諸佛の化門には各その施を異にするものあり、西方の彌陀は、堪忍の苦を拔き淨蓮の樂を與へんため攝門を以てし、中央の釋迦は、娑婆の穢を轉じて同居の淨たらしめんとして攝折二門を以てし、而して東方の藥師は、淨瑠璃の樂を與へんとして先づ堪忍界の苦を拔かん爲め折門を以てする。折と攝と異ると雖も同じく慈悲より出づるのである。今この「藥師三昧行法」は、藥師如來の誓願にすがつて離苦得樂するの行法を明すもの。冒頭に序あり、康熙三年立多の日に、著者台山後學受登が無畏堂に於て記する所にして、生前共に藥師懺法を修せし仁菴義禪師は今秋示寂せしを以て、その志を繼いで集むるものであると云つてゐる。
内容は項目を逐つて左に略述す。
定名第一—藥師三昧と云ふ名目の說明で、『普賢觀』並に『金光明經』を引いて、「諸佛甚深行處」なりとし、又『大品』に依つて首楞嚴三昧の異名なりとも云つてゐる。而してこの三昧を得ん爲めには四法あり、卽ち聞、信解、供養讀誦受持書寫演說、思惟修習であると云つてゐる。
勸修第二—長壽富饒官位男女等、願ふ所に隨つて一切皆遂げ、已盡の命をも助くるを得るもの卽ち藥師三昧である。故に苟くも所願あるものは、藥師の形像を造立して、敷座安處し、燒香散華し、誦經持呪し、其義を思惟して本三昧を修すべく、然らざれば無量の重寶を失ふものだと、勸誡するのである。
方法第三—藥師如來を供養するの方法を示すもので、先づ形像を造立し、敷座安處、種々の寶香幡蓋を以て莊嚴し、七日七夜齋戒して、慈悲心を起し、歌讚禮敬、誦持經呪、佛像を右繞して其の義を思惟せよと云ひ、これを(一)嚴道場、(二)淨三業、(三)修供養、(四)請三寶諸天、(五)讚歎、(六)禮敬、(七)發願持呪、(八)懺悔、(九)行道旋繞、(十)思惟義處に分科して詳しく行法を說く。
釋疑第四—この經は卽ち數福消災の要法であり、明心作佛の祕典である。然るにこれを忘るゝ者多くして西方の彌陀に賴ること専ら、釋迦すら僅かに數語を以てこれを說くに過ぎないのは何故なるやとの疑を設け、それは各機の信と不信に依つて進む所を決すべきであると答へて疑を決し、最後天台の十論に對して、天溪比丘受登自らの四釋を以て天下に與ふるを述べ、以て自ら持する所の大なるを示してゐる。西方往生に對して述ぶる所、全篇を通じて伺はれるのは、以て當時淨土門盛んにして、西方往生思想の廣き流行を物語るものと見られやう。
(三好鹿雄)

藥師私記 ❶(日)Yaku-shi-shi-ki. ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—864) ❻本朝台祖撰述密部書目に云く「慈覺。批云。慈覺大師傳高太夫受學。澄僧正云。藥師初行依悉地大法可之歟。可用此私記哉」云々。

藥師寺緣起 ❶(日)Yaku-shi-ji-en-gi. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第一一八寺誌叢書第二、群書類從第一六、新校群書類從第一九 ❹澄禪

數字略號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容解說 ❼末書(註釋書參考書) ❽刊行の年月 ❾現所藏者(書寫者名) ❿發行所名

❻本書は藥師寺緣起にして、藥師寺は創建以來十數回の兵燹に罹り、緣起古文書の大部分は燒失して傳らず。唯古記及び醍醐本諸寺緣起集が最も古き記錄なるも、今の此書は現存單本緣起としては最古のものと云ふべし。內容は大和高市郡に於ける草創より本書製作に至る即ち元弘三年に至る間の變遷を各種史料より編纂せるものである。

（橋本凝胤）

藥師寺緣起詞書 ❶(日) Yaku-shi-ji-en-gi-shi-sho. 大和國添下郡右京藥師寺緣起、假名緣起 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四

❻本書は假名まじりの藥師寺緣起繪卷の詞書のみを集めたるものにして、古きものは霧損したればその失はれんことを恐れて、安井門跡道恕法親王に書寫を請ひ、又繪は西岸寺古圓に畫かしめたるものにして、今はその詞のみを裝めたるものである。內容は藥師寺草創の發端より、金堂講堂兩本尊造顯の次第、平城貴都と移建、及び藥師寺の教學、佛是石の碑來等詳細なる緣起である。

（橋本凝胤）

藥師寺大鏡 ❶(日) Yaku-shi-ji-dai-kagami. ❸存 ❹東京美術學校編 ❺大正二—昭和二刊 ❻(立大、D七一・一〇〇)(能大、別置)

藥師寺金石記 ❶(日) Yaku-shi-ji-kin-seki-ki. 平城右京藥師寺金石記 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二 ❹平與清(天明三—弘化四 A. D. 1783—1847)輯

❻本書は奈良西之京藥師寺所藏の金石文の著名なるものを列記せるものである。內容は初め藥師寺草創の緣起を錄到せる國寶建造物東塔の銘文を出し、次に佛是石の前面兩橫面背面の銘文を出し、次に光明皇后御製と稱する佛是石歌碑の和歌を出せるものである。

（橋本凝胤）

藥師寺黑草紙 ❶(日) Yaku-shi-ji-kuro-zo-shi. 黑草紙 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二、續々群書類從第一一宗教部 ❻黑草紙の下を見よ。

藥師寺古記拔萃 ❶(日) Yaku-shi-ji-ko-ki-bas-sui. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四 ❹行遍 ❺文化四(A. D. 1807)

❻本書は藥師寺諸堂の緣起古記錄を拔萃して考證せるものである。內容は文化四年幕府の御下問により上書せるものにして、東塔金堂講堂等の建立變遷の緣由を、史料に依つて列記せるものにして、德川末期に於ける堂塔現存の狀況を知りうる最も好資料である。

（橋本凝胤）

藥師寺考 ❶(日) Yaku-shi-ji-kō. ❸存、況齋叢書第四二之內 ❹岡本保孝(寬政九—明治一一 A. D. 1797—1878)著 ❺刊本(帝國、一八九・二四三)

藥師寺金堂及講堂諸佛像考證 ❶(日) Yaku-shi-ji-kon-dō-oyo-shi-kō-dō-shō-butsu-zō-kō-shō. ❸存、黑川眞頼全集第三

藥師寺志 ❶(日) Yaku-shi-ji-shi. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四

❻本書は藥師寺緣起中に於て最も詳細を極めたるものにして、比較的後世の編纂に屬し、特に戰國以後の變遷を明にし、又古老の傳として諸種の傳說を實證せるありて取る處多し。

（橋本凝胤）

藥師寺新黑草紙 ❶(日) Yaku-shi-ji-shin-kuro-zo-shi. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二、續々群書類從第一一宗教部

❻本書は藥師寺年中行事記にして、先に黑草紙一卷ありて文永十年より、寬永十二年に終り新黑草紙はその後を受けて享保八年に至る年中行事を記せるものである。內容は例月勤行すべき行法法會を記し、次に月々の特殊行事を記し、次に法式一般と先規を記し、最後に官職を記せるものにして、年中行事記と稱すべきものである。

（橋本凝胤）

藥師寺唐院記 ❶(日) Yaku-shi-ji-tō-in-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二

❻本書は藥師寺大唐院の緣起を記せるもの。大唐院は入唐歸朝僧の安住地にして、或明和尙の建立したまへる處なり。或明入唐求法し一切經を書寫請來せる後、歸朝後三會講師となれる等を詳記せるものである。

（橋本凝胤）

藥師寺塔擦銘釋 ❶(日) Yaku-shi-ji-tō-satsu-mei-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹日下部勝采 ❺寫本(谷大、餘大・一二九九)

藥師寺濫觴私考 ❶(日) Yaku-shi-ji-ran-shō-shi-kō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二 ❹高範

❻本書は藥師寺草創以來の本尊・教學・宗旨・行事・伽藍・地割・傳說等の歷史變遷を闡明せるものである。內容は初めに本書著作の所以を明にする序文あり、次に濫觴記に入りて草創の緣起を記し、次に本尊並に寺域の區劃を記し、次に行事・宗旨・教學及び諸堂建立次第と變遷を記し、次に寺領・傳說等を記せるものである。

❺延寶八寫 ❻原本(藥師寺) (橋本凝胤)

藥師七佛供養儀軌如意王經 ❶(日) Yaku-shi-shichi-butsu-ku-yō-gi-kiyo-i-o-gyō. (支) Yao-shi-ju-chi-fo-kung-yang-i-kuei-ju-i-wang-ching. ❷一卷 ❸存、大正一九・四八 No. 987 ❹西藏菩智拉金剛述瞿喇嘛造、清工布查布(一乾隆七 A. D. 1419—)譯

❻藥師如來に關する支那の譯經としては恐らく最新のものであり、その內容は供養、讚佛等、有ゆる行事が記されてあり、思想の中心は義淨譯の『七佛如來本願功德經』から出で、その扶助として『華嚴經』中の「普賢行願品」の意味が表はれて居る。此等二經の名稱は、明に指し示されては居るが、內容としては、何他の資料から取り入れてある所も、決して少くはない。併し直接には元の沙囉巴譯の『藥師琉璃光王七佛本願功德經念誦儀供養法』と關係し、間接には、唐の義淨譯の『藥師琉璃光七佛本願功德經』(大正藏、一四・四〇九)に關係してある。次

に此經の眞言の漢字音譯は、全然新しい態形であり、見慣れない文字が使用されてあつて、其だ讀みにくいのである。その中の一首は、沙囉巴譯の『藥師念誦儀軌』の眞言と一致するのもある。

〔本經の內容〕 歸敬序(四八、c)、行者の用意(四八、c)、請請文(四八、c)、八奇或を持することを誓願す(四九、c)、歸依三寶(五〇、a)、發菩提心(五〇、a)、加持壇字(五〇、a)、加持房舍壇宇(五〇、b)、加持座位(五〇、b)、加持供物(五〇、c)、七佛等の名を擧げて所請す(五一、a)、八大如來と八大獅子寶座(五一、c)、發願文(五一、c)、頂禮諸佛(五二、c)、頂禮七佛(五四、a)、頂禮釋迦牟尼佛(五七、c)、發願往生(五八、a)、頂禮三寶(五八、b)、七藥師如來と本願功德經(五八、c)、文殊と救脫菩薩(五八、c)、琉璃法王(五九、a)、藥師如來と國界擁護(五九、a)、頂禮金剛手菩薩(五九、b)、修法の準備(五九、c)、此の經の讀誦の功德(六〇、a)、十二藥叉大將(六〇、a)、藥師如來の名號受持の功德(六〇、b)、頂禮諸佛諸尊(六一、a)、その功德(六二、a)、懺悔文(六二、a)、奉施文(六二、b)、廻向偈(六二、b)、吉祥偈(六二、c)以上

（神林隆淨）

藥師七佛本願功德經 ❶(日) Yaku-shi-shichi-butsu-hon-gwan-ku-doku-kyō. (支) Yao-shih-chi-fo-pen-yüan-kung-te-ching. 藥師琉璃光七佛本願功德經 ❷二卷 ❸存、大正一四・四〇九 No. 451、續餘五、卍九・九、北179惟、南156惟、元165惟、明北165惟、洛165惟、麗179恭、天1414草、續167恭、法175恭、至957效、明南156惟・Zp. 172 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐神龍三(A. D. 707) ❻藥師琉璃光七佛本願功德經の下を見よ。

藥師七佛本願功德經 ❶(日) Yaku-shi-shichi-butsu-hon-gwan-ku-doku-kyō. (支) Yao-shih-chi-fo-pen-yüan-kung-te-ching. 藥師琉璃光王七佛本願功德經念誦儀軌、藥師琉璃光七佛本願功德經 ❷二卷 ❸存、大正一九・三三 No. 925、續成一二、卍續一・三・四、元1434約 ❹元沙囉巴(開慶元—延祐元 A. D. 1259—1314)譯

❻藥師琉璃光王七佛本願功德經念誦儀軌の下を見よ。

藥師修行法要決 ❶(日) Yaku-shi-shu-gyō-hō-yō-ketsu. ❷二卷 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

藥師十二神將圖 ❶(日) Yaku-shi-jū-ni-shin-shō-zu. ❷二卷 ❸存、大正圖像第七

❻藥師十二神將に種々の形式があるが、それ等の圖像を集めたもの、即ち醍醐寺本は上卷に十二支の動物數匹を足下に踏める像、下卷には十二支動物を頭上に戴ける像、首は全く動物形で人面の無い像、動物に跨り乘れる像、古大夫金岳筆と稱せられ十二支の衆徵を全く缺ける像を畫いてある。仁和寺本は動物面のもの子丑二像、動物に乘れる像、古大夫金岳筆が殘つて居るので、その前は缺失して居る

大正大藏經圖像部第七には、醍醐寺本下卷を四一九頁以下に載せてあるが、その中Nos. 1—12は動物を戴けるもの、Nos. 13—32は首が全く動物形のもの、Nos. 33—36は動物に坐乘せるものであつて、Nos. 37—45はNos. 1—12の擴大、Nos. 46—62はNos. 13—32の擴大であるから、Nos. 63—72はNos. 37—45の擴大でなければならぬ。然るにNos. 37—45の擴大はなくて、Nos. 33—45と同一の圖像をNos. 63—72として重出してある。これは編者の過誤である。又Nos. 46—62が奇數番號のものは整刷、偶數番號のものは橫扁になつて居て、閱覽するに甚だ不便である。

❾高峯三寫(醍醐寺)仁安三寫(仁和寺)

（吉祥眞雄）

藥師初行次第 ❶(日) Yaku-shi-sho-gyō-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹宣政五寫 ❺(叡山、淨土)

藥師疏 ❶(日) Yaku-shi-sho. (支) Yao-shih-su. 藥師經疏、藥師本願經疏 ❷一卷 ❹唐道倫述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

藥師疏 ❶(日) Yaku-shi-sho. (支) Yao-shih-su. 藥師經疏、藥師本願經疏、藥師如來本願經疏 ❷一卷 ❹大乘基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—682)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

藥師疏 ❶(日) Yaku-shi-sho. (支) Yao-shih-su. 藥師經疏 ❷一卷 ❹唐神泰述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

藥師疏 ❶(日) Yaku-shi-sho. (支) Yao-shih-su. 藥師經疏、藥師本願經疏 ❷一卷 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述目錄卷上

藥師眞言梵字釋 ❶(日) Yaku-shi-shin-gom-bon-ji-shaku. ❷一卷 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—) ❼(參考) 本朝台祖撰述害部書目

藥師眞言梵本不同 ❶(日) Yaku-shi-shin-gom-bon-fu-dō. ❷一卷 ❹安然、承和八—延喜年間 A. D. 841—901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述害部書目、害乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

藥師水磯壇據 ❶(日) Yaku-shi-sui-gai-dan-yo. ❷一卷 ❹相實記

藥師疏 ❶(日) Yaku-shi-sho. (支) Yao-shih-su. 藥師經疏、藥師本願經疏 ❷一卷 ❹禪太述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

藥師抄 ❶(日) Yaku-shi-sho. ❷一卷 ❸存 ❹中道房記 ❾寫本(曼殊院)

藥師抄 ❶(日) Yaku-shi-sho. ❷一卷 ❸存 ❺承和二寫 ❾(曼殊院)

藥師消災儀軌 ❶(日) Yaku-shi-sho-sai-gi-ki. (支) Yao-shih-hsiao-tsai-i-kuei. 藥師瑠璃光如來消災除難念誦儀軌、藥師如來消除儀軌 ❷一卷 ❹不空(開元一五 A. D. 632—727)譯 ❺唐開元一五 A. D. 632—727)譯

❻藥師琉璃光如來消災除難念誦儀軌の下を見よ。

藥師眞言梵字決 ❶(日) Yaku-shi-shin-gom-bon-ji-ketsu. ❷一卷 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、害乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

藥師眞言梵字決 ❶(日) Yaku-shi-shin-gom-bon-ji-ketsu. ❷一卷 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述害部書目、害乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

藥師眞言梵本不同 ❶(日) Yaku-shi-shin-gom-bon-fu-dō. ❷一卷 ❹安然、承和八—延喜年間 A. D. 841—901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述害部書目、害乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

藥師水磯壇據 ❶(日) Yaku-shi-sui-gai-dan-yo. ❷一卷 ❹相實記

❺保延三（A. D. 1137）

藥師千燈儀式 ❶（日）Yaku-shi-sen-tō-gi-shiki. ❹寛澄（神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822） ❻本朝台祖撰述密部書目に云く「依ニ集經ニ作玉フ。藥師照源記ニ出」云々。

藥師燈焔 ❶（日）Yaku-shi-tō-en. （支）Yao-shih-têng-yen. 藥師經燈焔 ❷一巻 ❸存、卍續一・五九・二閱經十二種之内 ❹淨挺述 ❺清康熙六—九（A. D. 1667—1670） ❻閱經十二種の下を見よ。

藥師堂供養記 ❶（日）Yaku-shi-dō-ku-yō-ki. ❷一巻 ❸存、群書類從第一六、新校群書類從第一八釋家部 ❻萬壽元年（A. D. 1024）六月二十六日、法成寺藥師堂の供養記である。太后の行啓があり、關白以下諸公卿參列して盛儀を極む。本書は當日參列した公卿某が親く見聞する所を記したものである。諸寺塔供養記（史籍集覽第一二）には賞平記の名で收められてゐる。倘ほ小右記、日本紀略、百錬鈔、扶桑略記、今昔物語等にもこの供養のことが見えてゐる。 （不破幹雄）

藥師如來儀軌 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-gi-ki. 藥師儀軌 ❷一巻 ❸存、日本大藏經第四一天台宗顯教章疏第一、傳教大師全集第四（新舊共） ❹寛澄（神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822） ❻本書は傳教大師將來本とも又は寛澄撰ともいふが恐らく日本で誰人かゞ十八道若しくは蘇悉地法によつて撰述したものであらう。但し阿娑縛抄藥師（佛全三六ノ三八一）に「傳教大師御私記三卷爲ニ規模ニ云云」とあるがこれも信じ難い。本書は儀軌と題してあるが儀軌ではない。私記といふべきものである。又阿娑縛抄（佛全三六ノ三八八）には「藥師法一巻。内題云ニ藥師儀軌一具ニ」と標して八家祕錄等を參照し結局僞作ならんと疑つてゐる。 （田島徳音）

藥師如來儀軌念誦法 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-gi-ki-nen-ju-hō. 藥師如來念誦法 ❷一巻 ❸存、日本大藏經第四一天台宗顯教章疏第一、傳教大師全集（舊）第三、（新）第四 ❹寛澄（神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822） ❻本書は世に流布してゐる藥師供と共通してゐる點が多い。阿娑縛抄（佛全三六ノ三八八）には「藥師如來念誦法一巻。不與。是恭叡大師將來也。〇出ニ自ニ集經第二ニ」と記し、更に私云として將來錄にないものだと疑つてゐる。恐らく後人の僞作と云つて然るべしと思ふ。 （田島徳音）

藥師如來供養法私記 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-ku-yō-hō-shi-ki. ❷一巻 ❸存 ❾寫本（叡山、香調）

藥師如來觀行儀軌法 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-kwan-gyō-gi-ki-hō. （支）Yao-shih-ju-lai-kuan-hsing-i-kuei-fa. ❷一巻 ❸存、大正一九・二二 No. 923、縮餘三、卍續一・三・三 ❹金剛智（咸亨二—開元二九 A. D. 671—741）譯 ❺唐開元一一—二四（A. D. 723—736） ❻この儀軌法は藥師如來に對する觀行を密教の行法に適用したもので、之れに依つて行法が實修されるやうにまで運ばれて居る。併し行法次第としては、倚物足らない點がある。左に其の内容を列記すれば、先づ三禮、次に懺悔、受戒菩提心、次に承事眞言七遍（二二、c）、大輪印言（二三、a）、淨三業（二三、a）、普禮（二三、a）、懺悔・隨喜・勸請・廻向（二三、b）、佛部三昧耶（二三、c）、蓮華部三昧耶（二三、c）、金剛部三昧耶（二四、a）、啓白（二四、a）、金剛被甲護身印言（二四、a）、祈請加護（二四、b）、軍荼利辟除毘那夜迦法（二四、b）、馬頭護身結界法（二四、b）、結地界金剛橛印（二四、c）、結金剛墻印言（二四、c）、大虚空藏菩薩印言（二五、a）、結如來拳印言（二五、a）、結寶車輅印言（二五、b）、藥師瑠璃光佛印言（二五、b）、七佛藥師の名（二五、b）、一切如來心結蓮印言（二五、b）、日光等諸菩薩名（二五、c）、一切藥叉法印呪（二五、c）、十二夜叉名（二五、c）、馬頭觀音自在菩薩の印言（二六、a）、金剛網印言（二六、a）、金剛火院界印言（二六、a）、閼伽香水印言（二六、a）、結華座印言（二六、b）、塗香眞言（二六、c）、獻花眞言（二六、c）、燒香眞言（二七、a）、飲食眞言（二七、a）、燈明眞言（二七、b）、廣大不空摩尼供養印言（二七、b）、閼伽偈（二七、c）、佛部淨珠眞言（二八、a）、佛部持珠眞言（二八、a）、千轉念珠眞言（二八、a）、念誦（二八、a）、結定印（二八b）以上 （神林隆淨）

藥師如來講式 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-kō-shiki. ❷一巻 ❸存、大正八四・八七五 No. 2729、日本大藏經第四一天台宗顯教章疏、傳教大師全集（舊）第三、（新）第四 ❹寛澄（神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822）作 ❻本書は藥師如來本願功德經の説によつて講式體の文に作り、且つ經の文字を句の冠首と句末とに一字宛置いた所謂沓冠文體に作つたもの。先づ惣禮。次に法用。次に如來唄。次に敬白。次に第一奉レ讃ニ衆病悉除本願ニ第二奉レ讃ニ十二神將護持ニ第三奉レ讃ニ願生西方誓ニと次に廻向との次第になつてゐるが、これは講式に共通する次第で異つた所はない。但沓冠文體は餘り多く用ひられない形式である。この形式が果して傳教大師の頃行れたらうか疑ひなきを得ない。恐らく中世期に於いて和歌等に用ひられた影響によつて叡山の誰人かゞ作つたものであらう。撰者を「傳教大師御作」等と記してゐることは僞作らしく考へられる。 （田島徳音）

藥師如來懺願儀 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-san-gwan-gi. ❷一巻 ❸存 ❹尭維記 ❺安永一〇寫 ❾（般舟院）

藥師如來修行法要決 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-shu-gyō-hō-yō-ketsu. ❷二巻 ❹安然（承和八—延喜年間 A. D. 841—901—） ❼（參考）密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

藥師如來修行要法 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-shu-gyō-yō-hō. ❷二巻 ❹安然（承和八—延喜年間 A. D. 841—901—）

❼（參考）本朝台祖撰述密部書目

藥師如來消災儀軌 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-shō-sai-gi-ki. （支）Yao-shih-ju-lai-hsiao-tsai-i-kuei. 藥師瑠璃光如來消災除難念誦儀軌、藥師消災儀軌 ❷一巻 ❸存、大正一九・二〇 No. 922、縮餘一、卍續一・三・一 ❹唐一行（弘道元—開元一五 A. D. 683—727）撰 ❻藥師瑠璃光如來消災除難念誦儀軌の下を見よ。 ❺寶永五寫 ❾（寶龜院）

藥師如來瑞應塵露章 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-zui-ō-jin-ro-shō. 瑞應塵露集 ❷六巻 ❸存 ❹超海通性（—享保一五 A. D. 1730—） ❺享保一八刊 ❾（龍大、二〇九九・四一）（高大、寄・一、二四）（哲、て・七・左・一〇）（谷大、餘大・三四六二）

藥師如來瑞應傳 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-zui-ō-den. ❷五巻 ❸存 ❹超海通性（—享保一五 A. D. 1730—） ❺享保一二刊 ❾（谷大、餘大・二八五三）（正大、一〇三三・三三）（高大、寄・一・二四）（京大、日大未・四五四）（龍大、二九六四・六二）

藥師如來念誦儀軌 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-nen-ju-gi-ki. （支）Yao-shih-ju-lai-nien-sung-i-kuei. 藥師念誦儀軌 ❷一巻 ❸存、大正一九・二九 No. 924A、縮餘三、卍續一・三・三 ❹唐不空（神龍元—大暦九 A. D. 705—774）譯 ❺天寶五—大暦九（A. D. 746—774） ❻佛世尊が、維耶離（Vaiśālī）の樂音樹下に於て、大菩薩・比丘衆・十二神王等の爲に、此の法は説かれたもので、其の結願神呪の功德は、極て廣大なるものであり、其功德の廣大なることは、卷末に示されてある。倘此の儀軌に於て、閼伽印、乃至發遣の印まで明してある。藥師法を修する人に取つては、本儀軌は簡畫にして、要を得てゐるから、之に依て次第を作ることが便利である。 （神林隆淨）

藥師如來念誦儀軌 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-nen-ju-gi-ki. （支）Yao-shih-ju-lai-nien-sung-i-kuei. ❷一巻 ❸存、大正一九・三〇 No. 924B、縮餘一、卍續一・三・一 ❹唐不空（神龍元—大暦九 A. D. 705—774）譯 ❻この儀軌は至て簡短にして、修法用とはならない。先づ結願神呪の説處を明し、次に結願神呪と、その功德とが示してある。此の神呪には身中の過去生死一切の重罪を拔除し、三塗を經歴することなく、九横死を離れ、且つ衆害を超越する功德が具へられてあると説いてある。 （神林隆淨） ❺平安朝時代寫及康元二寫及元文五寫 ❾（寶菩提院）

藥師如來念誦次第 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-nen-ju-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺徳川時代寫 ❾（寶龜院）

藥師如來念誦法 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-nen-ju-hō. 藥師如來儀軌念誦法 ❷一巻 ❸存、日本大藏經第四一天台密教章疏第一、傳教大師全集第三（舊）、第四（新） ❹寛澄（神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822） ❻藥師如來儀軌念誦法の下を見よ。

藥師如來法 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-hō. ❷一帖 ❸存 ❺徳川時代寫 ❾（寶龜院）

藥師如來本行殊勝隨願即得陀羅尼經 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-hon-gyō-shu-shō-zui-gwan-soku-toku-da-ra-ni-kyō. （支）Yao-shih-ju-lai-pên-hsing-shu-shêng-sui-yüan-chi-tê-t'o-lo-ni-ching. ❸存 ❻本經は藥師如來の本願並にその功德を説示せる經典にして、藥師如來は東方の化主と云ふこと。並に醫藥を以て與拔すと云ふことゝに依り、稍く古代の我邦に尊ばれ、盛に流布信仰を見た譯である。即ち大寺名刹の金堂若くは講堂の本尊は、十中の六七までが藥師佛なるにて知られる。而して其經典たる本經には四譯ありとせられて居る。

一、宋孝武時鹿野寺沙門慧簡譯

二、佛説藥師如來本願經 一巻 隋達摩笈多譯

三、藥師瑠璃光如來本願功德經 一巻 唐玄奘譯

四、藥師琉璃光七佛本願功德經 二巻 唐義淨譯

以上四譯の中、初譯は失本にして、後三譯は縮藏、卍藏、大正藏に編入せらる。後三譯中盛に行はるゝは玄奘譯なり。然るにこれに就て左の傳説あり。云く奘譯は元たゞ願文のみにして密呪なかりしが、義淨譯出づるに及んで密呪あり。依て後人義淨所譯の神呪、及び呪前の數語、並に呪後の乃至菩提等の四百餘字を玄奘譯の本の内に置く、乃ち願文密呪用備す。今の世に行はるゝ玄奘譯の經本これなりと云々。

そは兎も角として、今標題に掲げし所の藥師如來本行殊勝隨願即得陀羅尼經は、前揭四譯の經とは別譯の經にして、之を加ふれば五譯となる譯である。延文二年の寫經が大正十一年九月に興福寺東金堂天井裏から發見された。長さ二寸餘の紙に藥師印佛像を押捺し、その佛像と佛像との間に次第に經文が寫されてゐる。體裁の上から云つても珍本である。經文は之を現流の三譯に對校するに、薄伽とか曼殊室利とか有情とか殑伽とか云ふような言詞が用ひられて居るから、無論新譯である。但し譯者が欠けて分らない。又この經は密呪並に十二神將の章も欠けて居るから、平生玄奘譯の經を讀誦せるものゝ眼には、何となく物足りないような氣もするけれども、而かし又彼の藥師悔過の作法に、光中演説隨願即得大陀羅尼と云ふ言葉を見るが如きは、古來本經が南都に盛に弘通せられたればこそ、その經題が悔過の作法中に組入れられたるものなるべく思惟せられて、今その經本の發見を特に意有く感ずるものである。 （佐伯良謙） ❾寫本（興福寺）

藥師如來本願經 ❶（日）Yaku-shi-nyo-rai-hon-gwan-gyō. （支）Yao-shih-ju-lai-pên-yüan-ching. （梵藏）藥師琉璃光七佛本願功德經及藥師琉璃光如來本願功德經參照。藥師如來本願功德經、藥師本願經 ❷一巻 ❸存、大正一四・四〇一 No. 449、縮黄四、卍九・九、北177帙、南185帙、元184

惟、明北162惟、清165惟、麗177恭、天1412阜、指165恭、法172恭、至256效、明南157惟、Nj.170 ❹達摩笈多、法行、明則、長順、海馭等共譯 ❺隋大業一一(A.D.615) ❻本經は佛の毗舍離國、樂音樹下に於ける說法に始まる。曼殊室利法王子、佛に諸佛の名號とその珠瓔の本願とを請問し、以て衆生をして業障を消除せしめ、正法壞する時の諸衆生を攝受せんと願ふ。世尊これに對して、東方十恒河沙等の佛土の外に淨琉璃と名づくる世界あり、その土の佛を藥師琉璃光如來と名づくと說き、藥師如來、もと菩薩行を行ぜられし時の十二の大願を明す。次にその佛土は一向淸淨たることを說き、無量の菩薩の最上首として日光、月光の二菩薩あるを說く。次に衆の佛の名號を聞くことによりて三惡道の苦を脫し、人道に生じて菩薩行を滿足し得るを明し、又、西方極樂の阿彌陀如來の所に生ぜんと願ふ者、藥師如來の名號を聞く事によりて八菩薩に迎へられ西方極樂に化生し得るを明す。曼殊室利これに對して、藥師如來の名號を信心の美男子・善女人に流布せしめ、又この經を流布せしめ、この經の流布する所、四天王をして守護せしめんと誓ふ。世尊これに對して、藥師如來の供養の方法とその功德とを說く。次に世尊は阿難に對して、所說の功德を信受するや否やと問ひ、阿難これに對して疑惑無しと答ふ。時に救脫菩薩、死相現前せる病者の爲に藥師如來に歸依し如法に供養することによりて、病者の癒ゆる事得るを明す。阿難これに對して如何に藥師如來を供養すべきかを問ひ、救脫これに答ふ。次に救脫、阿難に對して灌頂刹利王が一切衆生に於て慈悲心を起し、藥師如來を供養することによりて七難を脫れ得るを說き、更に九橫死を明す。次に會座にありし十二夜叉大將、世尊に、この經を流布し藥師如來の名號を持し又供養するものを衛護して一切の苦難を脫せしめんと誓ひ、世尊諸の夜叉を讚じ玉ふ。最後に世尊、阿難に對して本經を付屬し玉ふ。以上が本經所說の大要である。

本經に四譯(藥師經贊、藥師經贊附、藥師經義疏等の說、もし大正大藏經第八十五卷、Nj.453藥師經疏所引を加ふれば、五譯となる。)ある中、大正大藏經所收の笈多譯、玄奘譯、義淨譯を比較する時、笈多譯は玄奘譯に比し古形を存し、義淨譯は玄奘譯に比し其しき痕跡の跡を見る。

❼(注釋) 藥師經疏一卷(大正八五、Nj.1767) (參考) 內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇、淨土依憑經論章疏目錄 ❽光武九刊 ❾(谷大、餘大・三六三六、三八七四×龍大、硏佛)

(田中順照)

藥師如來本願經 ❶(B)Yaku-shi-nyo-rai-hon-gwan-kyō. (支) Yao-shih-ju-lai-pên-yüan-ching. 藥師琉璃光如來本願功德經、藥師如來本願經、藥師如來本願功德經、藥師如來本願經、本願藥師經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四〇四No.450、節閑五、卍九・九、北178惟、南159惟、元135惟、明北167惟、清167惟、麗178恭、天1413阜、指166恭、法174恭、至256效、明南158惟、Nj.171 ❹玄奘(仁壽二—麟德元A.D.652—664)譯 ❺永徽元(A.D.650) ❻藥師琉璃光如來本願功德經の下を見よ。

藥師如來利益鈔 ❶(B)Yaku-shi-nyo-rai-ri-yaku-shō. 藥師利益抄 ❷三冊 ❸存 ❹刊本(智・て・八・右・七)

藥師八大菩薩像 ❶(B)Yaku-shi-ha-hi-da-i-bo-satsu-zō. ❷一軸 ❸存、大正圖像第二二 ❹(中村雅眞)

藥師祕事 ❶(B)Yaku-shi-hi-ji. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(資善提院)

藥師表白 ❶(B)Yaku-shi-hyō-byakku. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

藥師法 ❶(B)Yaku-shi-hō. 藥師如來儀軌念誦法、藥師如來念誦法 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四一天台宗諸教章疏第一、傳敎大師全集第四 ❹寶龜(神護景雲元—弘仁一三A.D.767—822) ❺藥師如來儀軌念誦法の下を見よ。 ❻(參考) 本朝台眼撰述密部書目、密乘撰述目錄、山家眼色撰述篇目集卷上 ❼平安朝末期寫及正和二寫(資善提院)足利時代寫(資龜院×資善提院)德川時代寫(資善提院)文久三寫(高大、寄・一・六六)

藥師法 ❶(B)Yaku-shi-hō. ❷一卷 ❸存 ❹敦愛記 ❺寶德四(A.D.1452) ❻正本(妙法院)

藥師法 ❶(B)Yaku-shi-hō. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第四五覺鼎鈔 ❹覺鼎(康治二—建暦二以後A.D.1143—1212—)

藥師法護摩次第 ❶(B)Yaku-shi-hō-go-ma-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺文明一六寫 ❻(寶龜院)

藥師本願經 ❶(B) Yaku-shi-hon-gwan-kyō. (支)Yao-shih-pên-yüan-ching. 藥師如來本願經、藥師如來本願功德經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四〇一No.449、節

第四・卍九・九、北177惟、南159惟、元135惟、明北166惟、清166惟、麗177恭、天1412阜、指165恭、法172恭、至256效、明南157惟、Nj.170 ❹達摩笈多(一武德二—A.D.619)譯 ❺隋大業一一(A.D.615) ❻藥師如來本願經の下を見よ。

藥師本願經 ❶(B) Yaku-shi-hon-gwan-gyō. (支)Yao-shih-pên-yüan-ching. 藥師琉璃光如來本願功德經、藥師如來本願功德經、藥師如來本願經、藥師如來本願功德經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四〇四No.450、節閑五、卍九・九、北178惟、南159惟、元135惟、明北167惟、清167惟、麗178恭、天1413阜、指166恭、法174恭、至256效、明南158惟、Nj.171 ❹唐玄奘(仁壽二—麟德元A.D.652—664)譯 ❺永徽元(A.D.650) ❻藥師琉璃光如來本願功德經の下を見よ。 ❼平安朝時代刊 ❽(高大、寄・一・二三)

藥師本願經依 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-gyō-e. (支) Yao-shih-pên-yüan-ching-i. 藥師經依 ❷一卷 ❸大乘基(貞觀六—永淳元A.D.632—682)譯 ❹東域傳燈目錄卷上

藥師本願經義疏 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-gyō-gi-sho. 藥師經義疏 ❷三卷 ❸存 ❹實觀述 ❺元文五刊 ❻(龍大、二四一七・一六六×谷大、餘大・二二九五)

藥師本願經古迹 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-gyō-ko-shaku. (支)Yao-shih-pên-yüan-ching-ku-chi. 本願藥師經古迹、藥師經古迹記、藥師古迹、藥師經古迹 ❷一卷或二卷 ❸存、大正三八・二五七 No.1770、卍續一・三五・二 ❹新羅太賢(一景德王一二A.D.742—)述 ❺東域傳燈目錄卷上 ❻延寶三刊 ❼(餘大、研佛)

藥師本願經古迹記 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-gyō-ko-shaku-ki. (支) Yao-shih-pên-yüan-ching-ku-chi-chi. 本願藥師經古迹、藥師經古迹記、藥師古迹、藥師本願經古迹 ❷二卷 ❸存、大正三八・二五七 No.1770、卍續一・三五・二 ❹新羅太賢(一景德王一二A.D.742—)述 ❺東域傳燈目錄卷上 ❻延寶三刊 ❼(餘大、研佛)

藥師本願經贊 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-gyō-san. 本願藥師經抄、藥師瑠璃光如來本願功德經鈔、藥師經鈔、藥師經疏 ❷一卷或二卷 ❸存、日本大藏經第五方等部章疏第三 ❹善珠(神龜元—延曆一六A.D.724—797)述 ❺本願藥師經抄の下を見よ。 ❻寫本(谷大、餘大・一九五五)

藥師本願經纂解 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-gyō-san-ge. 藥師經纂解、本願藥師經纂解 ❷四卷 ❸存、日本大藏經第五方等部章疏第三 ❹俊彥亮法(元和八—延寶八A.D.1622—1680) ❺藥師經纂解の下を見よ。 ❻宣文一〇刊 ❼(龍大、二四一七・一六九×谷大、餘大・二二八六)

藥師本願經直解 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-gyō-jiki-ge. (支)Yao-shih-pên-yüan-kung-tê-ching-chieh. 藥師經直解、藥師本願經直解、藥師瑠璃光如來本願功德經直解 ❷一卷 ❸存、卍續一・三五・二 ❹清靈曜(一康熙二二A.D.1683—)述 ❺藥師經直解の下を見よ。 ❻刊本(京大、藏・一四ヤ・一)

藥師本願疏 ❶(B) Yaku-shi-hon-gwan-sho. (支)Yao-shih-pên-yüan-su. 藥師經疏、藥師疏 ❷一卷 ❸禪泰述 ❹(參考) 東域傳燈目錄卷上

藥師利益抄 ❶(B)Yaku-shi-riyaku-shō. 藥師如來利益鈔 ❷三冊 ❸存 ❺元祿八刊 ❻(高大、寄・一・二四)

藥師本願經註 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-gyō-chū. 藥師經註 ❷一卷 ❸存 ❹了海述 ❺慶安四刊 ❻(谷大、餘大・二五二二)

藥師本願功德經 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-ku-doku-kyō. (支)Yao-shih-pên-yüan-kung-tê-ching. 藥師琉璃光如來本願功德經、藥師如來本願功德經、藥師如來本願經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四〇四 No.450、節閑五、卍九・九、北178惟、南159惟、元135惟、明北167惟、清167惟、麗178恭、天1413阜、指166恭、法174恭、至256效、明南158惟、Nj.171 ❹玄奘(仁壽二—麟德元A.D.652—664)譯 ❺永徽元(A.D.650) ❻藥師琉璃光如來本願功德經の下を見よ。

藥師本願功德經直解 ❶(B)Yaku-shi-hon-gwan-ku-doku-kyō-jiki-ge. (支) Yao-shih-pên-yüan-kung-tê-ching-chih-chieh. 藥師經直解、藥師本願經直解、藥師瑠璃光如來本願功德經直解 ❷一卷 ❸存、卍續一・三五・二 ❹清靈曜(一康熙二二A.D.1683—)述 ❺藥師經直解の下を見よ。 ❻刊本(京大、藏・一四ヤ・一)

藥師本願疏 ❶(B) Yaku-shi-hon-gwan-sho. (支)Yao-shih-pên-yüan-su. 藥師經疏、藥師疏 ❷一卷 ❸禪泰述 ❹(參考) 東域傳燈目錄卷上

藥師利益抄 ❶(B)Yaku-shi-riyaku-shō. 藥師如來利益鈔 ❷三冊 ❸存 ❺元祿八刊 ❻(高大、寄・一・二四)

藥師琉璃光王七佛本願功德經念誦儀軌

❶(日)Yaku-shi-ru-ri-kō-shichi-butsu-hon-gwan-ku-doku-kyō-nen-ju-gi-ki. (支)Yao-shih-liu-li-kuang-wang-chi-fo-pên-yüan-kung-tê-ching-nien-sung-i-kuei. ❷二卷 ❸存、大正一九・三三No.925、縮成一二、卍板一・三・四、元1434約 ❹菩提流志造、元沙囉巴(開慶元—延祐元A.D.1259—1314)譯

❺本儀軌は善名稱吉祥王如來乃至藥師琉璃光王如來の七佛と、次に本師釋迦牟尼佛を始め、金剛手菩薩、大梵天王、天主帝釋、四天王等の他を讃歎し、伽陀護永不退轉陀羅尼、大慈悲心呪、所求滿足陀羅尼等が說かれてある。かく陀羅尼は說かれて居るが、印契が更に示されて無いから、此の經の原文の出來る當時には、尙未だ印契が出來なかつた時代ではあるまいかと思はれる。

七佛本願功德經並に善賢行願の事も記されてあるから、此等のものが行はれて居つた後に、始めて此の儀軌が作られたのである。本儀軌卷上に「昔ゲ利ゼ當來後五百歲、像法轉時」とあるから、佛涅槃の後五百年頃に、此の經が世に出たのであらうと想はせられるが、事實は尙後世であらう。この儀軌が工布查布譯の「藥師七佛供養儀軌如意王經」(大正藏一九・四八)に密接なる關係を持つことは、之を對比する者の直に氣付く所である。

(神林隆淨)

藥師琉璃光王七佛本願功德經念誦儀軌供養法

❶(日)Yaku-shi-ru-ri-kō-shichi-butsu-hon-gwan-ku-doku-kyō-kuyō-hō. (支)Yao-shih-liu-li-kuang-wang-chi-fo-pên-yüan-kung-tê-ching-chi-kung-yang-fa. ❷一卷 ❸存、大正一九・四一No.926、縮成一二、卍板一・三・四、元1435約 ❹元沙囉巴(開慶元—延祐元A.D.1259—1314)譯

❺この法は略んと全部頌文から成り、七佛を先づ讚し後に釋迦牟尼・曼殊室利・救脫菩薩・執金剛等の諸尊を讚歎し、次に四天王・諸藥叉等を讚してある。多くは是れ讚歎文にして、儀軌として見得る所は幾程もない。

(神林隆淨)

藥師琉璃光經

❶(日)Yaku-shi-ru-ri-kō-kyō. (支)Yao-shih-liu-li-kuang-ching. 灌頂拔除過罪生死得度經 ❷一卷 ❸失譯 ❹大灌頂經第十二卷の抄出。 ❼(參考) 法經錄第一、開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

藥師琉璃光七佛本願功德經

❶(日)Yaku-shi-ru-ri-kō-shichi-butsu-hon-gwan-ku-doku-kyō. (支)Yao-shih-liu-li-kuang-chi-fo-pên-yüan-kung-tê-ching. (梵)Saptatathāgata-pūrva-praṇidhāna-viśeṣa-vistara (藏博)(藏)bdun-bcu-rtogs-pa-bcom-ldan-bdas-sman-gyi-bla-bai-ḍūryahi-ḥod-kyi sṅon gyi smon-lam gyi khyad-par rgyas pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. 藥師本願功德經、藥師如來本願功德經、藥師如來本願經、藥師本願經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四〇四No.450、縮印五、卍九・九、北175帙、南126帙、元165帙、明北167帙、清167帙、麗172悲、天1413草、指166悲、法174悲、至353效、明南159帙、Nj.171 ❹玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❺唐永徽元(A.D.650)

❻(同本異譯に就て) 本經の譯出經四譯若しくは五譯あり。(藥師經義疏說)實觀の義疏は四譯說をとり、一は宋孝武帝の大明元年(A.D.457)丁酉、沙門釋慧簡が林陵(江蘇、江寧縣)の鹿野寺に於て譯し、藥師瑠璃光經と名づけ、亦は灌頂拔除過罪生死得度經といふ。大灌頂經(大正二一・四九五頁)に出づ、僧祐錄には慧簡が經によつて抄して撰せるものとなす。費長房紀には疑して云く、祐錄には注として疑となせども房勘ふるに梁羅門今梵本あり。神冒ル しく異るのみ。南山(道宣)亦云く未だ廣く尋ねざる者は多く疑偽となす云々、二は大業十一年(隋煬帝A.D.615)南印度羅囉國—此れ開元貞元の二錄に據る。內典錄無經圖紀は非に北天竺烏場國と云ふは非なり—沙門達摩笈多、隋に法密といひ、又は法藏といふ。幷に翻經沙門法行・明則・長須・海馭等と東都(洛陽)洛水南上林園翻經館に於て重譯。京師(長安)大慈恩寺翻經院に於て譯す。藥師如來本願經と名づく。三は唐三藏玄奘、乃ち今の本なり。若し內典錄及周刊定錄に據れば貞觀の年に譯すとし、開元貞元二錄によれば永徽元年五月五日譯。沙門慧立筆受とせり。而して秋篠(善珠著藥師經鈔上)は貞觀二年譯といふ。秋篠の說を長谷の亮汰破す。亮汰の破は當らず。若し秋篠を破せんとならば貞觀二十二年に慈恩寺は方に成る。二年には未だ造られず、豈に彼の寺に於て譯さんや。四は沙門義淨、和帝(唐中宗)の神龍三年(A.D.707)この年九月晉龍と改元)丁未に及んで帝召して內に入れしめ、幷に翻經沙門と同じく、九旬夏を度り、(中略)更に翻譯せしむ。佛光內寺に於て藥師瑠璃光七佛本願功德經二卷を譯す。帝法筵に御し手自ら筆受せらる。秋篠鈔によるに上卷は總して東方七佛淨土を明し、下卷は別して瑠璃光佛の淨土及び本願功德を明す。多く幷の唐本と同じ。前後の本を勘ふるに文辭雜樣、或繁或約、之を傳ふるの徒、多く疑慮を生ず。たゞ幷法師譯のみは史を去り野を去り、繁に非ず約に非ず故に今に其譯本を擇びとる。又九卷灌頂經とは晉の時の 元帝の世(A.D.317—325)に帛尸利蜜多の傳ずる所なり。また灌頂隨願往生十方淨土經一卷あり。是れは漢(後漢靈帝)の光和平中(A.D.178—179)支讖の翻譯。また佛說灌頂梵天神策經一卷。灌頂招魂經一卷あり。右二經は疑偽錄にあり。實觀の義疏によるに九卷灌頂經とは第一灌頂七萬二十神王護比丘呪經。第二灌頂十二萬神王護比丘呪經。第三灌頂三歸五戒帶佩護身呪經。第四灌頂百結神王護身呪經。第五灌頂宮宅神王守護左右呪經。第六灌頂塚墓因緣四方神呪經。第七灌頂伏魔封印大神呪經。第八灌頂摩尼羅寶大神呪經。第九灌頂召五方龍王攝疫毒神呪經なり。十二卷灌頂經はこれに第十佛說灌頂梵天神策經。第十一佛說灌頂拔除過罪生死得度經。第十二佛說灌頂隨願往生十方淨土經。帛尸利蜜多羅の後に後人が增加せるものなり。而して十二卷灌頂經は開元錄に記さるゝを以て此開元時代頃に集成されたるものと認むべきか。

〔本經の疑偽說〕 藥師經は早く附祐が出三藏記卷五新集偽撰雜錄第三に「灌頂經一卷、一名藥師琉璃光經、或名灌頂拔除過罪生死得度經、右一部宋孝武帝大明元年林陵鹿野寺比丘慧簡依經抄撰」と記して疑偽經とせり。慧簡の抄撰と東晉帛尸利蜜多羅譯佛說大灌頂神呪經第十二拔除過罪生死得度經とが同一なるが故に本經も亦疑偽經とせらる。實觀は內容よりみて疑偽に非ずとすれどもその論據正しからず。たゞ疑偽經なりとせば何地方の製作なるか。義淨、玄奘が譯せることは印度の南方にも或は又西域、或は北印度地方にも傳はれるに非ざるなきか。思ふに救命思想による製作なること明瞭なるが故に西域地方に於て本經が作られたるか。可考。

〔本經の內容〕 佛、毘舍離國廣嚴城樂音樹下に住し說法せられた。その時に文殊菩薩は諸佛の名號とその大願功德とを演說して、聞者をして業障を淸除せしめ、像法の時の有情を利樂せしめたまへと請問した。世尊之れを許された。(以上序分) 佛、文殊に告げたまはく。東方此から去ること十殘伽沙の佛土に淨琉璃世界あり藥師琉璃光如來在す。佛本菩薩道を行じた時に十二の大願を發し有情を利樂した(本願利益—十二大願章—を明す)。次に藥師の佛國及機類を舉げ、佛土は彌陀の極樂と同じといひ。眷屬には日光月光を上首として無數の菩薩ありといふ(眷屬章)。次に種種の功德を明して佛名を稱ふることによりて戒波羅蜜の益を得(惡度章)、次に惡辱波羅蜜の益を得(惡度章)、次に精進波羅蜜(精進度章)、禪定智慧(定慧章)を得、次に文殊は菩薩して像法時代に藥師の名號を稱聞せしめん、經を受持せしめん。その處には四天王守護し、諸惱畏障難を除かんといふ(文殊章)。次に佛は阿難に此經を信ずるやと問ふ。阿難答へて疑はずと雖ひ(阿難章)、次に一會の中に救脫菩薩あり、佛に問ふ。初めに病相、二は死相、死相に於て臨終と臨罪の瑛魔王と俱生神と交涉を明し、三に死者の苦患を脫するために藥師供養を說き續命神幡、七層の燈明、四十九日の供養を明し(救脫章)、また阿羅

七佛本願功德經念誦儀軌の下を見よ。 ❻古寫本(帝國、亥・二一九)

藥師琉璃光如來本願功德經

❶(日) Yaku-shi-ru-ri-kō-nyo-rai-hon-gwan-ku-doku-kyō. (支)Yao-shih-liu-li-kuang-ju-lai-pên-yüan-kung-tê-ching. (梵) Bhaiṣajya-guru-vaiḍūry-prabhāsa-pūrva-praṇidhāna-viśeṣa-vistara (藏博)(藏)bcu-bdun-rtogs-pa-bcom-ldan-bdas-sman-gyi-bla-bai-ḍūryahi-ḥod-kyi sṅon gyi smon-lam gyi khyad-par rgyas pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. 藥師本願功德經、藥師如來本願經、藥師本願功德經、藥師如來本願經 ❷一卷 ❸存、大正一四・四〇四No.450、縮印五、卍九・九、北175帙、南126帙、元165帙、明北167帙、清167帙、麗172悲、天1413草、指166悲、法174悲、至353效、明南159帙、Nj.171 ❹玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❺唐永徽元(A.D.650)

❻(同本異譯に就て) 本經の譯出經四譯若しくは五譯あり。(藥師經義疏說)實觀の義疏は四譯說をとり、一は宋孝武帝の大明元年(A.D.457)丁酉、沙門釋慧簡が林陵(江蘇、江寧縣)の鹿野寺に於て譯し、藥師瑠璃光經と名づけ、亦は灌頂拔除過罪生死得度經といふ。大灌頂經(大正二一・四九五頁)に出づ、僧祐錄には慧簡が經によつて抄して撰せるものとなす。費長房紀には疑して云く、祐錄には注として疑となせども房勘ふるに梁羅門今梵本あり。神冒ル しく異るのみ。南山(道宣)亦云く未だ廣く尋ねざる者は多く疑偽となす云々、二は大業十一年(隋煬帝A.D.615)南印度羅囉國—此れ開元貞元の二錄に據る。內典錄無經圖紀は非に北天竺烏場國と云ふは非なり—沙門達摩笈多、隋に法密といひ、又は法藏といふ。幷に翻經沙門法行・明則・長須・海馭等と東都(洛陽)洛水南上林園翻經館に於て重譯。京師(長安)大慈恩寺翻經院に於て譯す。藥師如來本願經と名づく。三は唐三藏玄奘、乃ち今の本なり。若し內典錄及周刊定錄に據れば貞觀の年に譯すとし、開元貞元二錄によれば永徽元年五月五日譯。沙門慧立筆受とせり。而して秋篠(善珠著藥師經鈔上)は貞觀二年譯といふ。秋篠の說を長谷の亮汰破す。亮汰の破は當らず。若し秋篠を破せんとならば貞觀二十二年に慈恩寺は方に成る。二年には未だ造られず、豈に彼の寺に於て譯さんや。四は沙門義淨、和帝(唐中宗)の神龍三年(A.D.707)この年九月晉龍と改元)丁未に及んで帝召して內に入れしめ、幷に翻經沙門と同じく、九旬夏を度り、(中略)更に翻譯せしむ。佛光內寺に於て藥師瑠璃光七佛本願功德經二卷を譯す。帝法筵に御し手自ら筆受せらる。秋篠鈔によるに上卷は總して東方七佛淨土を明し、下卷は別して瑠璃光佛の淨土及び本願功德を明す。多く幷の唐本と同じ。前後の本を勘ふるに文辭雜樣、或繁或約、之を傳ふるの徒、多く疑慮を生ず。たゞ幷法師譯のみは史を去り野を去り、繁に非ず約に非ず故に今に其譯本を擇びとる。又九卷灌頂經とは晉の時の 元帝の世(A.D.317—325)に帛尸利蜜多の傳ずる所なり。また灌頂隨願往生十方淨土經一卷あり。是れは漢(後漢靈帝)の光和平中(A.D.178—179)支讖の翻譯。また佛說灌頂梵天神策經一卷。灌頂招魂經一卷あり。右二經は疑偽錄にあり。實觀の義疏によるに九卷灌頂經とは第一灌頂七萬二十神王護比丘呪經。第二灌頂十二萬神王護比丘呪經。第三灌頂三歸五戒帶佩護身呪經。第四灌頂百結神王護身呪經。第五灌頂宮宅神王守護左右呪經。第六灌頂塚墓因緣四方神呪經。第七灌頂伏魔封印大神呪經。第八灌頂摩尼羅寶大神呪經。第九灌頂召五方龍王攝疫毒神呪經なり。十二卷灌頂經はこれに第十佛說灌頂梵天神策經。第十一佛說灌頂拔除過罪生死得度經。第十二佛說灌頂隨願往生十方淨土經。帛尸利蜜多羅の後に後人が增加せるものなり。而して十二卷灌頂經は開元錄に記さるゝを以て此開元時代頃に集成されたるものと認むべきか。

〔本經の疑偽說〕 藥師經は早く附祐が出三藏記卷五新集偽撰雜錄第三に「灌頂經一卷、一名藥師琉璃光經、或名灌頂拔除過罪生死得度經、右一部宋孝武帝大明元年林陵鹿野寺比丘慧簡依經抄撰」と記して疑偽經とせり。慧簡の抄撰と東晉帛尸利蜜多羅譯佛說大灌頂神呪經第十二拔除過罪生死得度經とが同一なるが故に本經も亦疑偽經とせらる。實觀は內容よりみて疑偽に非ずとすれどもその論據正しからず。たゞ疑偽經なりとせば何地方の製作なるか。義淨、玄奘が譯せることは印度の南方にも或は又西域、或は北印度地方にも傳はれるに非ざるなきか。思ふに救命思想による製作なること明瞭なるが故に西域地方に於て本經が作られたるか。可考。

〔本經の內容〕 佛、毘舍離國廣嚴城樂音樹下に住し說法せられた。その時に文殊菩薩は諸佛の名號とその大願功德とを演說して、聞者をして業障を淸除せしめ、像法の時の有情を利樂せしめたまへと請問した。世尊之れを許された。(以上序分) 佛、文殊に告げたまはく。東方此から去ること十殘伽沙の佛土に淨琉璃世界あり藥師琉璃光如來在す。佛本菩薩道を行じた時に十二の大願を發し有情を利樂した(本願利益—十二大願章—を明す)。次に藥師の佛國及機類を舉げ、佛土は彌陀の極樂と同じといひ。眷屬には日光月光を上首として無數の菩薩ありといふ(眷屬章)。次に種種の功德を明して佛名を稱ふることによりて戒波羅蜜の益を得(惡度章)、次に惡辱波羅蜜の益を得(惡度章)、次に精進波羅蜜(精進度章)、禪定智慧(定慧章)を得、次に文殊は菩薩して像法時代に藥師の名號を稱聞せしめん、經を受持せしめん。その處には四天王守護し、諸惱畏障難を除かんといふ(文殊章)。次に佛は阿難に此經を信ずるやと問ふ。阿難答へて疑はずと雖ひ(阿難章)、次に一會の中に救脫菩薩あり、佛に問ふ。初めに病相、二は死相、死相に於て臨終と臨罪の瑛魔王と俱生神と交涉を明し、三に死者の苦患を脫するために藥師供養を說き續命神幡、七層の燈明、四十九日の供養を明し(救脫章)、また阿羅

に對し帝王の治國の七難を除し七福を生ずるために供佛を說く。次に阿難と救脫との問答となりて九種の橫死あるが皆供佛によつて脫るといひ(救脫章)、次に會中の十二神將が佛に白して誓つて藥師の佛名を護持せんと發起し神呪を以て藥師佛名を聞持する者を益せんと誓ふ(神將章)。以上が經意の大略である。玄奘譯には神呪と八菩薩の名を脫してゐる。後人が大灌頂經卷十二から本經に八菩薩名を添入し、義淨譯から神呪を添入したのである。

❼(注釋) 古逸二卷(大正三八、No.1770)太賢。證圓二卷(卍續一・五九・二)淨挺。直解一卷(卍續一・三五・二)靈耀。疏一卷靖邁。疏一卷道倫。疏一卷惟興。疏二卷智開。集異鈔一卷神雄。義玄鈔四卷・科一卷圓鑑。疏一卷祿太。疏一卷基。疏一卷神泰。疏一卷義榮。鈔(贊、疏)二卷或一卷(日藏第五)善珠。義疏三卷(日藏第五)實叡。纂所四卷(日藏第五)亮法。纂所講要五卷淨藝。注一卷。

〔參考〕 內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第八、貞元錄第一一、淨土依憑經論章疏目錄 ❹寫本(高大、寄・一・二三)坡瑞版(谷大、別・二)刊本(寶壽院) (田島德音)

藥師琉璃光如來本願功德經

❶(B) Yaku-shi-ru-ri-kō-nyo-rai-hon-wan-ku-doku-kyō. 國譯藥師琉璃光如來本願功德經 ❷一卷 ❸存、國譯密教經軌集部第一 ❹田島德音譯

藥師琉璃光如來本願功德經直解 ❶(B) Yaku-shi-ru-ri-kō-nyo-rai-hon-wan-ku-doku-kyō-jiki-go. (支) Yao-shih-liu-li-kuang-ju-lai-pen-yüan-kung-te-ching-chih-chieh. 藥師經直解、藥師本願經直解、藥師本願功德經直解 ❷一卷 ❸存、卍續一・三五・二 ❹清雲蝶(一康熙二二、A.D.1682—)述 ❺藥師經直解の下を見よ。 ❹刊本(正大、一一七八・二三)

藥師琉璃光如來本願功德經鈔 ❶(B) Yaku-shi-ru-ri-kō-nyo-rai-hon-wan-ku-doku-kyō-sho. 本願藥師經鈔、藥師經鈔、藥師本願經鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第五方等部章疏第三 ❹善珠(神龜元—延曆一六、A.D.724—797)述 ❺本願藥師經鈔の下を見よ。 ❹明曆元刊 ❹(正大、一一七八・二二)

藥師瑠璃光如來消災除難念誦儀軌 ❶(B) Yaku-shi-ru-ri-kō-nyo-rai-shō-sai-jo-nan-nen-ju-gi-ki. (支) Yao-shih-liu-li-kuang-ju-lai-hsiao-tsai-chu-nan-nien-sung-i-kui. 藥師消災儀軌、藥師瑠璃光如來消災除難 ❷一卷 ❸存、大正一九・二〇No.917、續藏一・卍續一・三・一 ❹唐一行(弘道元—開元一五、A.D.683—727)撰 ❺藥師如來を本尊とする修法は、悉して消災除難が主要な目的と成つてゐる。而して此の法には息災・增益・降伏の三種の中では、息災法に屬するものであるが、此の法を行ずる者は、阿闍梨に付て、持明灌頂を先づ以て受けて居ることが肝要である。本書に於ては修法の目的を明し、次に行者の用意として持明灌頂を受く可きこと、壇場を作るに當り、先づ場所を擇定し、壇場の作り方、次に修法の順序が示されてゐる。此の修法の順序に依て、法が修せられる具合に成つており、直に修法次第と成るから、此の種の儀軌としては、極めて實用的に作られたものである。

❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❹寫本(寶壽院) (神林隆淨)

藥師瑠璃光如來本願功德經

❶(B) Yaku-shi-ru-ri-kō-nyo-rai-hon-wan-ku-doku-kyō. 和譯藥師瑠璃光如來本願功德經 ❷一卷 ❸存 ❹大乘法製編 ❺明治二五刊 ❹(正大、一一七八・四四)(高大、寄・一・二三) ❹東京森江書店

藥師瑠璃光如來本願功德經義疏 ❶(B) Yaku-shi-ru-ri-kō-nyo-rai-hon-wan-ku-doku-kyō-gi-sho. 藥師本願功德經義疏 ❷三卷 ❸存、日本大藏經第五方等部章疏 ❹寶叡(一元祿寶永頃、A.D.1688—1710—) ❹本書は寬永寺の沙門實叡師は特に天台の立場より藥師經を講述したものである。寬永寺宮法親王の令旨を奉じ、此の經を講演するに太賢の古述記、宋楊氏の節註、明末鼓山の直解、善珠の記鈔、儒胤の略記、亮法の纂解等を參照し、其の長を採り短を捨て、これに私見を加へて註解したものである。故に藥師經疏の集成とも見ることが出來る。しかし其の講述は天台に偏して居るのが、この義疏の長所であつて本同學に短所である。講演後三十年の研究を積み元文三年序を添へて上梓したことは序文に依りて明かである。

❺元文五刊 ❹(谷大、餘大・二二九五) (高井觀海)

藥師靈場記 ❶(B) Yaku-shi-rei-ba-ki. ❷二卷 ❸存 ❹高野一榮記 ❺貞享二刊 ❹(帝國、二一二・三六)

藥字鈔 ❶(B) Yaku-ji-sho. ❷一卷 ❸存、大正圖像一一・三三一No.2309 ❹諸種の香類について記した書。石山寺本香藥字鈔卷下(香抄第三)と內容同一である。案ずるに香藥字鈔は石山本の三卷のみでなく尙ほ數卷あつたものであらう。香藥字鈔の上中下三卷は何れも香類に關する記述のみで、藥種に及んでゐない。又本書に藥字鈔とあるは恐く香の字を脫したのであらう。

❺永萬二寫 ❹(京大) (小田慈舟)

藥種抄 ❶(B) Yaku-shu-sho. ❷一卷 ❸存、大正圖像一一・一七七No.2309 ❹曼憲(延久四—久安元以後、A.D.1072—1145—)筆 ❹人參・茯苓・黃精・甘草・遠志・枸杞・天門冬の七種の藥草について記した書。何れも產地による異種數種を圖示し、諸書を引用して、その形狀・性能等を述べてゐる。此七種は何れも害數に五藥等に用ひるものである。

❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❹寫本(石山寺)

藥種鈔 ❶(B) Yaku-shu-sho. ❷一帖 ❹興然(保安元—建仁三、A.D.1120—1203) (小田慈舟)

❼(參考) 諸宗章疏錄第三

藥呪經 ❶(B) Yaku-ju-kyō. (支) Yao-chou-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹東晉竺曇無蘭(一太元六—二〇、A.D.381—395—)譯

❼(參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第二四、貞元錄第二四

藥抄 ❶(B) Yaku-sho. ❷一卷 ❸存、大正圖像第一一・四一一No.2315 ❹人參・茯苓・黃精・甘草・遠志・枸杞・天門冬・訶梨勒・地黃・烏頭・昌蒲・鬼臼・赤箭・射干・巴豆・相思子の十六種の藥種につき、形態、功能、採取期等を簡單に記した書。卷末に眞僞決し難き物、我國にて得難き物等數種の名を列挙してゐる。此等の藥種は害數に五藥として用ひ、或は護摩等に用ひる。 (小田慈舟)

❹寫本(大通寺)

藥證不定念定行事 ❶(B) Yaku-shō-fu-jō-nen-jō-gyō-ji. ❷一卷 ❹叢證(神護景雲元—弘仁一三、A.D.767—822) ❼(參考) 本朝台圖傳逸密部書目、山家圖德傳逸篇目集卷上

藥草經 ❶(B) Yaku-sō-kyō. (支) Yao-tsao-ching. ❷一卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 出三藏記第五、法經錄第二、仁壽錄第四、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

藥草喩經 ❶(B) Yaku-sō-yu-kyō. (支) Yao-tsao-yü-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第二二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

安井御流傳授奧書等 ❶(B) Yasu-i-go-ryū-den-ju-oku-gaki-tō. ❷一帖 ❸存 ❹足利時代寫 ❹(寶龜院)

安井御流傳授目錄 ❶(B) Yasu-i-go-ryū-den-ju-moku-roku. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❹(寶龜院)

安井法務東寺拜堂日記 ❶(B) Yasu-i-hō-mu-tō-ji-hai-dō-nik-ki. ❷一冊 ❸存 ❹寬保三寫 ❹(寶菩提院)

安井門跡次第 ❶(B) Yasu-i-mon-seki-shi-dai. ❷一卷 ❸存、續群書類從第四、史籍集覽第一二 ❹安井門跡とは一名蓮華光院門跡ともいひ、眞言宗の舊緣家門跡の一である。初め山城國葛野郡安井村に在つて後白河院の皇女殷富門院亮子內親王の御所であつたのを高倉宮以仁王の王子大僧正道尊に讓り給ひ門跡寺院となつたものである。道尊は法を仁和寺の守覺法親王に受け安貞二年八月五日御壽五十五を以て入寂せられ西院又は安井宮と稱せられた。其後相續き第八宮僧正覺法に至り明德元年入寂の後一時中絕したが、德川四代將軍家綱の時東福門院の御願により大僧正性演を以て延寶元年京都東山下河原に再興せられた。併し其後明治維新に至り廢寺となり現今では殘存しない。本書は此の門跡の繼承次第及び歷代住持の略歷並に門跡再興の由來を記述したもので第十世道恕を以て終つてゐる。道恕は貞享元年に安井門跡となり元祿五年三月二十日に大僧正に任ぜられたが、本書には未だ其の僧位が載せられてゐないから此の著作年代は恐らく元祿の初め頃であらう。尙本書の末編には第三世大僧正道風の說文が添へられてゐる。 ❹刊本(谷大、外律・四七六・九〇五×龍大) (高倉永修)

安井流印信 ❶(B) Yasu-i-ryū-in-jin. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(寶龜院×金剛三昧院)

安範以後系圖 ❶(B) Yasu-nori-i-go-kei-zu. ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第一七 ❹記者不詳 ❹慈雲尊者の父安範以後義信に至る七代間の系圖である。 ❹古寫本(小林正盛) (高見寬恵)

與宿谷光則書 ❶(B) Yado-ya-mitsu-nori-ni-atau-ra-shō. ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮/貞應元—弘安五、A.D.1222—1282 ❺文永五(A.D.1268) (龍口法難の一原因をなす「十一通御書」の一。宿屋左衛門光則に與へて、「立正安國論」の豫言が的中しつゝある今日、大に諫法を禁ずべしと說き、尙ほ十一ケ所(同樣の書信を發送せる旨を記してある。 (馬田行啓)

宿屋入道許御狀 ❶(B) Yado-ya-nyū-dō-Ho-kyo-mō-jō. ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮/貞應元—弘安五、A.D.1222—1282 ❺文永五(A.D.1268) ❹「立正安國論」獻上の時、伸介者となつた宿屋入道光則に與へて、「安國論」の趣旨を早く徹底せしむべきを勸告した短篇の書信。

萩柑子 ❶(B) Yaba-kan-shi. ❷一卷 ❸存、自證廣錄第一 ❹自證慧鶴(貞享二—明和五、A.D.1685—1768) ❺寶曆一〇(A.D.1760) (馬田行啓)

❹岡城大使證君の侍側なる富鄕賢媒の需に應じ、見道の指南にも成らしめやうとて書かれたる一篇の法語である。自心の外に淨土なく、自性の外に佛なきの旨、三世古今の諸祖にして見性せざる者なき事、在家出家を問はず永劫不退の大願を立つべき事等を說いてゐる。 (後藤大用)

山姥 ❶(B) Yama-uba. ❷一卷 ❸存、一休和尙全集之內 ❹宗純一休(應永元—文明一三、A.D.1394—1481) ❺文明頃(A.D.1469—) (後藤大用)

❹謠曲にして山姥に喻(佛敎の大意、禪の要諦を說けるもの。文章華麗にして古來愛誦するもの極めて多い。

山姥五十首 ❶(B) Yama-uba-gō-jū-shu. 山姥五十首和歌 ❷一卷 ❸存、國文東方佛敎叢書第一輯第八歌頌部、禪門法語全集卷一 ❹澤庵宗彭(天正元—正保二、A.D.1573—1645) ❺寬永頃(A.D.1624—1643) (後藤大用)

❹禪門の要義を諷詠したもの。一洞空谷の屋、無生雪、眞如の月、法性の嶺、上求菩提等の題下に五十首を綴めたものである。

山越阿彌陀如來を繞る不思議の出來事 ❶(B) Yama-goe-a-mi-da-nyo-rai-o-Me-gu-ru-fu-shi-gi-no-de-ki-

yaku. ❷一冊 ❸存 ❹大倉修馬著 ❺昭和四刊 ❻(高大、一・二六)

山崎錢原寶寺略緣起 ❶(日)Yama-zaki-zeni-hara-takara-dera-ryaku-en-gi. ❷七枚 ❸存 ❹寫本(帝國・二三一・二二六)

山科安祥寺誌 ❶(日)Yana-shina-an-shō-ji-shi. ❷一冊 ❸存 ❹三田遵城編 ❺昭和四刊 ❻(谷大、高大、一・二二)(京專)

山科安祥寺由來 ❶(日)Yama-shina-an-shō-ji-yui-rai. ❷一軸 ❸存 ❹寫永一二寫 ❻(寶善提院)

山科安祥寺略誌 ❶(日)Yama-shina-an-shō-ji-ryaku-shi. ❷一紙 ❸存 ❹安祥寺編 ❻刊本(高大、一・二二)

山科異法義回心狀並御下知 ❶(日)Yama-shina-i-hō-gi-e-shin-jō-narabini-go-chi. ❷一卷 ❸存 ❹文化四年山科閑栖寺賢說及其一類の異法義に關するもの。 ❺明治四三寫 ❻(谷大、宗大・一二九三)

山科異法義御調並御糺 ❶(日)Yama-shina-i-hō-gi-on-shirabe-narabini-on-tadashi. ❷一卷 ❸存 ❹義陶(元文五—文政四A.D.1740—1821)述 ❺明治四三寫 ❻(谷大、宗大・一二九二)

山科異法義御教誡 ❶(日)Yama-shina-i-hō-gi-go-kyō-kai. ❷一卷 ❸存 ❹義陶(元文五—文政四A.D.1740—1821)述 ❺前項と同年同事件に關するもの。 ❺明治四三寫 ❻(谷大、宗大・一二九三、二四九九)

山科大阪遣難禦寇記 ❶(日)Yama-shina-ō-saka-e-nan-gyo-kō-ki. ❺浮土眞宗教典志第二に細註して云く「除德太平記七(十六)八(八右)榮要記七」云々。

山科舊跡諍論記錄 ❶(日)Yama-shina-kyū-seki-sō-ron-ki-roku. ❷一卷 ❸存 ❺享保一八寫 ❻(龍大、別置)

山科御廟板圖繪圖 ❶(日)Yama-shina-go-byō-ita-zukei-e-zu. ❷一紙 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

山科御廟設計圖 ❶(日)Yama-shina-go-byō-set-kei-zu. ❷三紙 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

山科御坊石橋一件之圖 ❶(日)Yama-shina-go-bō-shi-hashi-ichi-ken-no-zu. ❷一紙 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

山科御坊事並其時代事 ❶(日)Yama-shina-go-bō-no-koto-narabini-sono-ji-dai-no-koto. ❷一卷 ❸存 ❹實悟(明應元—天正一一A.D.1492—1583)記 ❺大正六寫 ❻(谷大、宗大・二八四五)

山科興正寺花恩院代々 ❶(日)Yama-shina-kō-shō-ji-ka-on-in-dai-dai. ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

山科敷地並古屋敷御領分敷地圖 ❶(日)Yama-shina-shiki-chi-narabini-furu-ya-shiki-go-ryō-bun-shiki-chi-no-zu. ❷一紙 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

山科實錄 ❶(日)Yama-shina-jitsu-roku. 眞宗懷古鈔、眞宗懷古錄、蓮如上人御建立眞宗懷古鈔 ❷三卷 ❸存、眞宗全書第六九、國文東方佛教叢書第二輯第六 ❹惠忍述 ❺眞宗懷古鈔の下を見よ。 ❻安永八刊 ❼(帝國、二二〇・一七五×龍大、一九六二・二四)

山科創寺募緣疏 ❶(日)Yama-shina-sō-ji-bo-en-sho. ❷一卷 ❸空性述 ❺元龜二(A.D.1569)八月 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

山科連署記 ❶(日)Yama-shina-renso-ki. ❷二卷 ❸存、眞宗聖典全書和文部、眞宗聖教大全卷下、眞宗法要拾遺第五、眞宗假名法典卷下、蓮如上人全書、帖外眞宗法要之內 ❻蓮如上人の言行及びそれに關係ある事項を記錄せるもの、蓮如上人御一代記聞書と同類の書である。記すところすべて百七箇條ある。其中初めの九箇條は宗祖親鸞聖人の御往生に筆を起し、本願寺の興起、歷代宗主たる如信、覺如、善如、綽如、巧如、存如に關する事より、蓮如、實如のそれに及んで居る。第十條已下は蓮如上人に常隨せる弟子空善が上人の言行を記錄した空善日記の一本と大體同じものであつて、それに明應八己未三月二十八日の日附と、弟子慶聞已下八人の連署が加へられてあるもの。山科連署記の名はこれからつけられたものであらう。これに就て玄智の教典志第一には「本山の眞像、文永九年勅に由つて造ると言ひ、或は正源明義鈔を以て存覺師の造となすが如き、疑なきにあらず」と評してあり、清水孝氏の蓮如上人行實の附錄には詳細に批判が施されてある。蓋し、第九條までは天正三年蓮淨記の蓮如上人御若年砌の事に相當するものに前後の記事を附加したものであり、又最後の日附、連署も、其三月二十八日は蓮如上人沒後三日であるに本文の記は三七日御中陰滿了に及んで居る如き、其他の點で信ずべからざるものであることを示して居る。

此書は明和四年眞宗法要(帖外)として、本尊色紙文、橫川法語、敬白文、光明名號因緣と共に出版され、空善日記の他の一本と對照して、其中間脫する所の四十八箇條を一卷とし、附錄として添へられてある、又明治三十三年刊行の眞宗法要拾遺、其の他に收められて屢々出版された。

❼(參考) 淨土眞宗教典志第一、第二(杉紫朗)

山科連判記 ❶(日)Yama-shina-ren-pan-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、宗大・三二一四)

山階寺西堂經目錄 ❶(日)Yama-shina-dera-sai-dō-kyō-moku-roku. ❷一卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄(936)

山城近江播磨丹波淨土眞宗本末開基帳 ❶(日)Yama-shiro-ō-mi-hori-ma-tan-ba-ju-do-shin-shū-hon-mata-kai-ki-chō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

山城州葛野郡楓野大堰郷廣隆寺來由記 ❶(日)Yama-shiro-no-kuni-kado-no-gori-kaede-no-i-no-ō-ō-kō-ryū-ji-rai-yu-ki. 廣隆寺來由記 ❷一卷

❸存、大日本佛教全書第一一九寺辺叢書第三、群書類從第一五、新校群書類從第一八釋家部 ❹濟承 ❻廣隆寺來由記の下を見よ。

山城國御下寺開基之帳 ❶(日)Yama-shiro-no-kuni-go-ka-ki-no-chō. ❷一卷 ❸存 ❺元祿五寫 ❻(龍大、別置)

山城國山崎寶寺古圖 ❶(日)Yama-shiro-no-kuni-yama-zaki-takara-dera-ko-zu. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(帝室、一〇五・八〇)

山城國山崎寶積寺緣起 ❶(日)Yama-shiro-no-kuni-yama-zaki-hō-ji-en-gi. ❷一冊 ❸存 ❺寬文四寫 ❻(寶善提院)

山田光敎寺伺書 ❶(日)Yama-da-kō-kyō-ji-u-kyō-sai-sho. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

山田光敎寺願書 ❶(日)Yama-da-kō-kyō-ji-ga-san-sho. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

山田寺鐘銘 ❶(日)Yama-da-dera-shō-mei. ❷一軸 ❸存 ❺慶安二寫 ❻(寶善提院)

山寺名勝志 ❶(日)Yama-de-ra-mei-shō-shi. 山形立石寺志 ❷一卷 ❸存 ❹伊達榮次著 ❺明治四一刊 ❻(谷大、餘洋・四〇二)

山伏帳 ❶(日)Yama-bushi-chō. ❷一卷(卷下) ❸存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三 ❹上下二卷或は上中下三卷あつたものであらうが、今では下卷のみ存してゐる。前半の已前途練官・已前途宿老新熊野別當任補・衆使・經=所司夏一執行等三職、之仁・經=夏一執行等三職、之仁・直任執行・夏二一職・所司一職・加入山伏・御幸山伏・桂松先達・一品經供奉・春山臥不動勤仕之仁・毎人來次第など、入峯修行の人名及び驗門に於ける職名等を列記してゐる。後半には永安元年晦山伏被=入次第・以下五十項に亘つて諸師入峯の次第を記錄し、驗門研究上好史料たるを失はぬ。

(服部如實)

山伏道葬送行列次第 ❶(日)Yama-bushi-dō-sō-sō-gyō-retsu-shi-dai. 修驗引導集 ❷一卷 ❸存 ❻刊本(京大、一・二六一・二)

山伏道路法則 ❶(日)Yama-bushi-dō-ro-hō-soku. ❷一卷 ❸存 ❺寬永元寫 ❻(龍大、二六六九・一〇)

山伏二字義 ❶(日)Yama-bushi-ni-ji-gi. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三 ❹宥謹註 ❻修驗道組織行者以後所傳の祕記數百餘章の隨一「二字義」を採り、之に注解を加へた書。即ち山伏の二字について無所住の原理、即身成佛の祕義を闡揚したもので、山の字の割に三因佛性、三身、三部、三諦等を配し、伏の字の割に法性と無明とを當てゝ解釋し、教理といふ鄙つたものゝない修驗道に一つの組織立つた教理を構成してゐる。水戸藩の直參大先達筑前守、即傳の祕訣と本書とを我家の明月夜光と云つて稱賞した書で、修驗道章疏中の尊重すべき權威たるを失はぬ。正保二年に上梓、世に行はれてゐる。

❺寬文一三刊 ❼(龍大、二六六九・九×正大、一四八三・三×(哲、け・三・左・一四)

(服部如實)

山伏便蒙 ❶(日)Yama-bushi-ben-mō. ❷一冊 ❸存 ❻刊本(哲、け・四・左・三六)

山伏問答記 ❶(日)Yama-bushi-mon-tō-ki. 甲州小室山伏問答記 ❷二卷 ❸存 ❹善智問、日運(貞應元—弘安五A.D.1222—1282)答 ❻刊本(谷大、餘大・三一三(並大、A.〇五・一)

山伏問答集 ❶(日)Yama-bushi-mon-tō-shū. ❷一冊 ❸存 ❻寫本(京大、日大未・七三八)

山本口訣 ❶(日)Yama-mo-to-kuke-tsu. ❷一軸 ❸存 ❺世川時代寫 ❻(寶善提院)

山分 ❶(日)Yama-wake. 二河白道鈔、山分鈔 ❷一卷 ❸存 ❹月感(慶長五—延寶二A.D.1600—1674)作 ❻八項に亘りて眞宗法義を說く。第七項に二河譬の圖畫を挿入して說明す。尙ほ山分大槃鈔の下を見よ。 ❺寬文六刊 ❼(龍大、一〇五一・四四×谷大、宗大・二三九九)

山分鈔 ❶(日)Yama-wake-shō. 山分、二河白道鈔抄 ❷一卷 ❸存 ❹月感(慶長五—延寶二A.D.1600—1674)作 ❻寬文四(A.D.1663)四月 ❻次項の下を見よ。 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

山分大槃鈔 ❶(日)Yama-wake-dai-ban-shō. 大槃鈔 ❷八卷 ❸存 ❹月感(慶長五—延寶二A.D.1600—1674)作、龍海註 ❺正德二(A.D.1712)註 ❻淨土眞宗教典志第二に云く「山分鈔一卷。寬文甲辰四月、延壽寺月感龍海智光院講作。述=往生安心行業=。正德二年門人龍海作=註八卷=。名=大槃鈔=。會=本文於註間=。本末合行曰=山分大槃鈔=。由=玉葉集秋歌・取=分=入法山・自=凡至=深賞=妙果霜葉=之意=以山分=命=題=。世傳月感所計頗違=正旨=。未=考=」云々。 ❺正德六刊 ❼(谷大、宗大・一〇八八×龍大、一〇五一・四五)

大和飯貝本善寺二幅繪 ❶(日)Yama-to-i-i-gai-hon-zen-ji-ni-fuku-e. ❷二幅 ❸存 ❻親鸞聖人の繪傳にして、永正十一年六月の寫、實如の奬書あり。御傳鈔の下參照。 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

大和今井稱念寺由緣 ❶(日)Yama-to-ima-i-shō-nen-ji-yui-en. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

大和葛城寶山記 ❶(日)Yama-to-katsura-gi-hō-zan-ki. 金剛寶山記、神祇寶山記 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書 ❻神道と葛城山とに關連して論じた書。初めに神祇と題し、天御中主尊・高皇產靈皇帝・伊弉諾・伊弉冊二尊・大日靈貴尊・天津彥

火々瓊々杵尊・高城上下・坐神祇・一言主神等について神佛相關して述べ、奥書には行基の撰とあるも、恐らく後人の行基に假したものであらう。終に天平十七年四月一日、興福仁宗記の金剛山緣起を引用してゐる。 ❾寫本(高大、寄・一・二三) (服部如實)

大和光慶寺第七世唯宗自撰二十條 ❶(日) Yamato-kō-kei-ji-dai-shichi-sei-yui-shū-ji-shin-nij-jō. ❷二卷 ❸存、眞宗全書第六二 ❹義明述 ❺本書は念佛行者の、たしなむべきこと二十ケ條をあげたものである。 (關 哲雄)

大和三敎論 ❶(日) Yamato-san-kyō-ron. ❷七卷或三卷、四卷 ❸存 ❹武田夫著述、定玄校 ❺寶曆一二刊(龍大、研佛)天明六刊(正大、一〇九一・五九、六一、六三)、寛政二刊(龍大、二八一三・五一×正大、一〇九一・六五)

大和三敎論後編 ❶(日) Yamato-san-kyō-ron-kō-hen. ❷四卷 ❸存 ❹武田大著述、定玄校 ❺天明六刊 ❻(正大、一〇九一・六〇)

大和增賀碑 ❶(日) Yamato-zō-ga-hi. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

大和橋寺勸進帳 ❶(日) Yamato-hashidera-kwan-jin-chō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

大和國生馬山行基菩薩御遺骨出現事 ❶(日) Yamato-no-kuni-ikoma-san-gyō-kō-bo-satsu-go-i-kotsu-shutsu-gen-no-koto. 行基菩薩御遺骨出現記、行基菩薩御遺骨出現事 ❷一卷 ❸存、續群書類從第八傳部 ❹某寶(建治元—貞治元A. D. 1275—1362)記 ❺正平七(A. D. 1352) ❻行基菩薩御遺骨出現記の下を見よ。

大和國添下郡右京藥師寺緣起詞書 ❶(日) Yamato-tō-shi-gō-u-kyō-yaku-shi-ji-gu-ki-shi-shō. 緣起繪傳 ❷四卷 ❸存、大日本佛敎全書第一二〇寺誌叢書第四 ❹道慈觀王(寛文八—享保一八A. D. 1668—1733) ❺本書は藥師寺緣起繪卷四卷の緣起と繪の交錯せる中、緣起文のみを拔粹集錄せるものにして、藥師寺創草の緣起を記せるものである。國に繪緣起の繪は古嗣の筆になり、緣起文は道慈觀王の筆である。(橋本凝胤)

大和國奈良鄕興福寺伽藍記 ❶(日) Yamato-tō-nara-gō-kō-fuku-ji-gar-an-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第一一九寺誌叢書第三 ❹藥師堂證圓 ❺永曆三(A. D. 1679) ❻本書は、興福寺諸堂の緣起を、極めて簡單に記載せる一小篇なるが、奥書に准ずるに、永曆三年藥師堂證圓が書寫奉納の旨を記したれば、興福寺緣起書に關する、古き隨一の書として貴重すべきである。書寫主卽ち著者と思はゝ藥師堂證圓は、傳記未詳である。 (佐伯良謙)

大和庄手裏抄 ❶(日) Yamato-shō-te ura-shō. 大和庄目安 ❷一卷 ❸存 ❾復藏撰 ❾寫本(妙法院)

倭傳燈錄 ❶(日) Yamato-den-tōroku. ❸存 ❹藏山順空(天福元—延慶元A. D. 1233—1308) ❼(參考)釋籍目錄

倭のひかり ❶(日) Yamato-no-hi-kari. 法隆寺寶物圖錄倭のひかり ❷三卷 ❸存 ❹千早定朝編 ❺明治二八刊 ❾(帝國、一一一・二六三)

倭話連聲集 ❶(日) Yawa-rengō-jū-shū. ❷一卷 ❸存 ❹盛典(寛文三—寛保二以後A. D. 1663—1742—) ❺元文二刊 ❾(正大、一〇六・四三)

闇夜能月 ❶(日) Yami-yo-no-tsuki. 地藏繪樂因果實有論 ❷二卷 ❸存 ❹森田奚意 ❺安政元刊 ❾谷大、宗大・二三四八)

ユ

由經 ❶(日) Yu-kyō. (支) Yu-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、開元錄第四、第一五、貞元錄第六

由迷能記 ❶(日) Yu-me-no-ki. 白雲和尙夢の記、夢の記 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第九五、禪門法語全集第六 ❹白雲恵曉(貞應二—永仁五 A. D. 1223—1297) ❻白雲和尙夢の記の下を見よ。

由良開山法燈國師塔銘 ❶(日) Yu-ra-kai-san-hō-tō-koku-shi-tō-mei. ❷一卷 ❸存 ❹雲林士啓撰 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

由良開山法燈國師法語 ❶(日) Yu-ra-kai-san-hō-tō-koku-shi-go. 法燈國師法語、法燈法語、由良法語 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第九六、禪林叢書第二 ❹心地覺心(永元元—永仁六 A. D. 1297—1298) ❺永元元—永仁六 A. D. 1297—1298)逝 ❻無門關の著者として有名である宋の無門慧開禪師の法嗣として、南岳下十九世の法統を繼ぎ、紀州日高郡由良の興國寺を開創された法燈國師心地覺心禪師が、人生の無常なるを感ぜしめて菩提心を發ぜしめ、坐禪によつて自心を悟らしめ、所謂見性成佛せしめんが爲に學人の示された假名法語である。卽ち大安樂の行にして諸行の中の最勝行なるが故に坐禪をすゝめ、萬行の本なるが故に自心悟を得せしめ、諸の功德を增長し、諸の善根を長養するものなるが故に眞實の信樂を和證して、勝行たる坐禪に精進し、見性成佛の證行を圓滿せしめんとて經論の要文をさぐり懇切に其の深旨を說示されたものである。其の要項は左の十一件である。(一)無常之事。(二)衆生順例之事。(三)身始終之事。(四)衆生父母兄弟之事。(五)貪戒功德之事。(六)雖受人身難逢佛敎事。(七)自他心同事。(八)一切衆生佛性之事。(九)諸敎中宗門勝事。(十)公案之事。(十一)坐禪之事。 ❺正保二刊 ❾(京大、日大宋・四七二×龍大、二六七四・五九) (久保堅璋)

由良法語 ❶(日) Yu-ra-hō-go. 由良開山法燈國師法語、法燈國師法語、法燈法語 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第九六、禪林叢書第二 ❹心地覺心(永元元—永仁六 A. D. 1297—1298)

庾伽三摩斯經 ❶(日) Yu-gya-sam-ma-shi-kyō. (支) Yu-chieh-san-mo-ssu-ching. 迦摩多羅禪經 ❷一卷 ❸缺 ❹後漢代失譯 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

庾伽三摩斯經 ❶(日) Yu-gya-sam-ma-shi-kyō. (支) Yu-chieh-san-mo-ssu-ching. 迦摩多羅禪法經、迦摩多羅禪經撰禪經要集 ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第三、三寶紀第四、第七、內典錄第一、第二、第三、武周錄第一二、開元錄第一、貞元錄第二

湯原客中成佛法語 ❶(日) Yu-hara-kyaku-chū-jō-butsu-go-mi. ❷一卷 ❸存 ❹如國庵主人述 ❾(京專)

湯山聯句 ❶(日) Yu-yama-ren-ku. ❷一卷 ❸存 ❹周麟景徐(永享一二—永正一五A. D. 1440—1518)、妙永壽春(—明應頃A. D. 1499—1500—) ❷(參考)釋籍目錄

湯山聯句抄 ❶(日) Yu-yama-ren-ku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹智朗一韓(—文龜頃A. D. 1501—1503—) ❼(參考) 釋籍目錄

喩巖錄 ❶(日) Yu-shin roku. ❷二卷 ❸存 ❹靈空光謙(永應元—元文四 A. D. 1652—1739)述 ❺寶永三刊 ❾(龍大、二六五九・四九×谷大・餘大、一一二二)、京大、日大宋・二七七×貞・え・六・中・五×叡山・盛眼)

喩巖錄續補 ❶(日) Yu-shin-roku-zoku-ho. ❸存 ❹靈空光謙(永應元—元文四 A. D. 1652—1739)述 ❺寶永三刊 ❾(龍大、二六五九・四九)

楡岾寺事蹟 ❶(日) Yu-ki-ji-ji-seki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 朝鮮佛敎叢書刊行豫定書目

瑜伽醫迦訖沙羅烏瑟尼沙斫訖羅眞言安怛羅儀則一字頂輪王瑜伽經 ❶(日) Yu-ga-i-ka-kis-sha-ra-u-shi-ni-sa-sha-shaku-kitsa-ra-shin-gon-an-ta-ro-i-tsa-i-tta-ting-lun-wang-yu-chieh-ching. 一字頂輪王瑜伽觀行儀軌、一字頂輪王瑜伽經、觀行儀軌、瑜伽醫伽訖沙羅烏瑟尼沙斫訖羅眞言安怛羅儀則一字頂輪王瑜伽經 ❷一卷 ❸存、大正一九・三一三 No. 955、縮刷六、卍二六・六、北1434又、南1439曲、元1407曲、明北1324既、清1324既、麗1346毫、天1409曲、法1195槐、至6728、明南1167竟、三十帖策子第五・N. 1231 ❹不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶一二(A. D. 753) ❻一字頂輪王瑜伽觀行儀軌の下を見よ。

瑜伽醫迦訖沙羅烏瑟尼沙斫訖羅眞言安怛陀那儀則一字頂輪王瑜伽 ❶(日) Yu-ga-i-ka-kis-sha-ra-u-shi-ni-sa-sa-shaku-kitsa-ra-shin-gon-an-ta-da-na-gi-soku-chi-jō-chō-rin-ō-yu-ga. (支) Yu-chieh-i-chia-chi-sha-lo-wu-sê-ni-shu-shih-chi-lo-chên-yen-an-ta-na-i-tsê-i-tta-ting-lun-wang-yu-chieh. 一字頂輪王瑜伽觀行儀軌、一字頂輪王瑜伽經、觀行儀軌、瑜伽醫伽訖沙羅烏瑟尼沙斫訖羅眞言安怛羅儀則一字頂輪王瑜伽經 ❷一卷 ❸存、大正一九・三一三 No. 955、縮刷六、卍二六・六、北1434又、南1439曲、元1407曲、明北1324既、清1324既、麗1346毫、天1409曲、法1195槐、至6728、明南1167竟、三十帖策子第五、N. 1231 ❹不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶一二(A. D. 753) ❻一字頂輪王瑜伽觀行儀軌の下を見よ。

瑜伽羽足 ❶(日) Yu-ga-u-soku. (支) Yu-chieh-yu-tu. 瑜伽論羽足鈔 ❷五卷 ❹純太(太一作泰)述 ❼(參考) 東域傳燈

目錄卷下、諸宗章疏錄第二

瑜伽焰口施食儀 ❶(日)Yu-ga-en-ko-se-jiki-gi. (支)Yü-ch'ieh-yen-k'ou-shih-shih-i. 瑜伽集要焰口施食儀、焰口施食儀 ❷一卷 ❸存、大正二一・四七三No. 1320、縮成一三、卍二七・三、明北1460律、清1460律、明南1032唱、Nj. 1467 ❻瑜伽集要焰口施食儀の下を見よ。 ❽清代寫 ❾(帝國、二三一・八八)

瑜伽焰口施食科儀 ❶(日)Yu-ga-en-ku-se-jiki-kwa-gi. (支)Yü-ch'ieh-yen-k'ou-shih-shih-k'o-i. ❷一卷 ❸存 ❽明代刊 ❾(谷大、龍大・四一六)

瑜伽焰口施食要集 ❶(日)Yu-ga-en-ku-se-jiki-yō-shū. (支)Yü-ch'ieh-yen-k'ou-shih-shih-yao-chi. ❷一卷 ❸存 ❽同治八刊 ❾(龍大、三一八・三八)

瑜伽焰口註集纂要儀軌 ❶(日)Yu-ga-en-ku-chū-shū-san-yō-gi-ki. (支)Yü-ch'ieh-yen-k'ou-chu-chi-tsuan-yao-i-kuei. ❷二卷 ❸存、卍續二・九・五 ❹清寂暹纂 ❺康熙一四(A. D. 1675)七月 ❻本書は各項に細註を施し、其の典據等を明指し、印契の如きも圖を以て示してあるから、初學者に取り縞めて便利であり、その他、鐵圍山、妙宮殿、心月輪、破地獄等の圖が示されてあるから、愈々以て參考に資するに足る。

〔卷上〕 雲來集(四六九、左、下)。香雲蓋(同)。登寶座(四七〇、右、上)。淨法界眞言(四七〇、右、下)。點淨眞言(四七〇、左、上)。加持花米眞言(四七〇、左、下)。加持鈴杵眞言(四七〇、左、下)。降魔偈(四七一、右、上)。十二因緣呪(四七一、右、下)。上師三寶眞言(四七一、左、上)。自性偈(四七一、左、下)。淨地偈(四七二、右、上)。音樂呪(四七二、右、下)。緣起支(四七二、右、下)。鐵圍山(四七二、左、下)。奉獻呪(四七三、左、下)。五供養(四七四、右、上)。音樂呪(四七四、右、下)。寶讚眞言(四七四、左、上)。遣魔眞言(四七四、左、下)眞樂呪印(四七五、右、上)。五供養(四七五、右、下)音樂呪(四七五、左、上)。十二因緣呪(四七五、左、下)。曼拏囉偈(四七五、左、下)。三歸依讚(四七六、右、下)。三寶聖衆垂加護(四七六、左、上)。奉請三寶(四七七、右、下)。

〔卷下〕 啓白(四七八、右、上)。五供養(四七八、右、下)。運心供養印(四七八、左、上)。獻佛印(四七八、左、下)。變空印(四七九、右、上)。奉食印(四七九、右、下)。奉食偈(四七九、左、上)。三寶讚(四七九、左、上)。觀音禪定(四七九、左、下)。觀音禪定呪(四八〇、右、下)。破地獄印(四八一、右、下)。奉請地藏菩薩(四八二、右、下)。蓮池海會佛菩薩(四八三、左、下)。召罪印(四八四、右、上)。摧罪印(四八四、右、下)。破定業印(四八四、左、上)。懺悔滅罪印(四八四、左、下)。施甘露印(四八五、右、上)。開咽喉印(四八五、右、下)。五佛印(四八五、左)。三寶印(四八六、左、下)。發菩提心印(四八七、右、上)。三昧耶戒(四八七、右、上)無量威德自在光明如來印(四八七、左、下)。乳海印言(四八八、左、上)。施餓鬼眞言(四八八、左、下)。普供養印(四八九、右、下)。普賢呪(四八九、左、上)。六字大明眞言(四九〇、右、下)。六趣偈(四九〇、左、下)。發願迴向偈(四九〇、左、下)。最上三寶(四九〇、左、下)。吉祥偈(四九〇、左、下)。圓滿奉送印(四九一、右、下)。金剛薩埵百字呪(四九一、左、上)。薜荔多文(四九一、左、下)以上。金剛頂經の大意(四九五、右、下)。廣・中・略の三本の別あり(四九五、左、上)。十萬頌の中本は海に沒す(四九五、左、下)。以上

卷末に亙唐大和八年、歲在二甲寅一仲秋月二十日、淨住寺、梵字傳教沙門海雲集とある。

尙此の外に金剛界の血脈と胎藏界の血脈と胎金兩界の血脈とが附記してある。
(神林隆淨)

瑜伽燄口 ❶(日)Yu-ga-en-ku. (支)Yü-ch'ieh-yen-k'ou. ❷一卷 ❸存 ❽同治七刊 ❾(帝國、二三〇・八三)

瑜伽音義 ❶(日)Yu-ga-on-gi. 瑜伽論音義、相應論音義 ❷四卷 ❹信行(一寶龜頃? A. D. 770—780—)述 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第二

瑜伽戒本 ❶(日)Yu-ga-kai-hon. (支)Yü-ch'ieh-chieh-pên. 菩薩戒本、菩薩戒經、菩薩戒本經、達摩戒本 ❷一卷 ❸存、大正二四・一一一〇No. 1501、縮列二、卍一七・二、北526念、南550念、元543念、明北1063篤、清1093篤、麗540克、宋543念、指499克、法525克、至1188母、明南1231職、Nj. 1008 ❹彌勒菩薩造、唐玄奘(仁壽二—麟德元 A. D. 602—664)譯 ❺唐貞觀二三(A. D. 649) ❻菩薩戒本の下を見よ。 ❽明治一五刊 ❾(京專)(帝國、一七一・二)(內閣)

瑜伽戒本口訣 ❶(日)Yu-ga-kai-hon-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第六 ❹慈雲飮光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804) ❻この口訣は貪求利敬讚毀戒、性慳財法不施戒、長養瞋恚不捨戒、愛樂像似正法戒の四重戒と不供養讚三寶戒等の四十四輕戒とにつき、一戒毎に懇切に犯、不犯の二途に亙りて說示されてゐる。梵地、瑜伽共に八重を制せるも、根本四重は七衆戒同制の故に略して說かず、今の四重は後四重で梵網經の後四重と全同である。 ❽嘉永五寫 ❾(京都神光院) (高見寬應)

瑜伽戒本箋解 ❶(日)Yu-ga-kai-hon-sen-ge. 菩薩戒經箋解 ❷三卷 ❸存、日本大藏經第二一大乘律章疏錄 ❹行性述 ❺延寶八(A. D. 1680)七月 ❻菩薩戒經箋解の下を見よ。 ❽延寶九刊 ❾(高大、寄・一・二三)(京專)(龍大、研佛)

瑜伽戒本箋解勸文 ❶(日)Yu-ga-kai-hon-sen-ge-kam-mon. 菩薩戒經箋解勸文 ❷三卷 ❸存 ❹玄道述 ❽貞享三刊 ❾(龍大、研佛)(哲、む・八・左・二五)(京專)

瑜伽戒本補要鈔 ❶(日)Yu-ga-kai-hon-fu-yō-shō. ❷一冊 ❸存 ❹義春述 ❻彌勒菩薩說、玄奘譯の菩薩戒本(大正二四・一一一〇No. 1501)の注釋書である。 ❽慶安五寫 ❾(京大、日大未・一三五)

瑜伽開題 ❶(日)Yu-ga-kai-dai. ❷二卷 ❼〔參考〕東域傳燈目錄卷下

瑜伽學世界觀 ❶(日)Yu-ga-gaku-se-kai-kwan. (支)Yü-ch'ieh-hsüeh-shih-chieh-kuan. ❷一卷 ❸存 ❹王與楫等編 ❽民國一八刊 ❾(京大、佛教・G四・三五)(高大、一・二六)(谷大、餘小・一十四) ❿中華民國大學精舍

瑜伽記 ❶(日)Yu-ga-ki. (支)Yü-ch'ieh-chi. 瑜伽釋論記 ❷三十六卷 ❹新羅憬興(—開耀元 A. D. 681—)述 ❻諸宗章疏錄第二に云く「此疏未レ遑レ得レ之。只有二景鈔一。按準二此註及僧錄一、景法師與二憬興一別也」云々。遁麟の梵網戒本疏日珠鈔(大正六二No. 2247)に憬興師瑜伽鈔第十六として援引のものあり、可考。 ❼〔參考〕注進法相宗章疏

瑜伽記 ❶(日)Yu-ga-ki. ❷四卷 ❹圓珍(弘仁五—寬平三 A. D. 814—891)撰 ❼〔參考〕山家祖德撰述篇目集卷上

瑜伽義決 ❶(日)Yu-ga-gi-ketsu. (支)Yü-ch'ieh-i-chüeh. 瑜伽論義抉 ❷一卷 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第二

瑜伽義林 ❶(日)Yu-ga-gi-rin. (支)Yü-ch'ieh-i-lin. ❷五卷 ❹義榮述 ❼〔參考〕東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二、奈良朝現在一切經疏目錄1932

瑜伽經 ❶(日)Yu-ga-kyō. (支)Yü-ch'ieh-ching. 瑜伽大教王經 ❷五卷 ❸存、大正一八・五五九No. 890、縮成四、卍一六・四、北1125傘、南1241傘、元1125傘、明北1017流、清1017流、麗1125高、天1231傘、法1345殺、至921力、明南915興、Nj. 1023 ❹宋法賢(—咸平四 A. D. 1001)譯 ❻瑜伽大教王經の下を見よ。

瑜伽經悉曇推輪 ❶(日)Yu-ga-kyō-shit-tan-sui-rin. 悉曇推輪 ❷1卷 ❸存 ❹等叡(延享二—文化一三 A. D. 1745—1816)述 ❾寫本(帝國、一二四・二一〇)

瑜伽口決 ❶(日)Yu-ga-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹慶算記 ❾寫本(無動寺)

瑜伽口決 ❶(日)Yu-ga-ku-ketsu. 瑜伽口決法曼流 ❷一卷 ❸存 ❹義瑜記 ❽享保一九寫 ❾(明德院)

瑜伽供養次第法 ❶(日)Yu-ga-ku-yō-shi-dai-hō. (支)Yü-ch'ieh-kung-yang-tz'ŭ-ti-fa. ❷一卷 ❹唐金剛智(咸亨二—開元二九 A. D. 671—741) ❼〔參考〕諸宗章疏錄第三

瑜伽供養次第法 ❶(日)Yu-ga-ku-yō-shi-dai-hō. ❷一帖(後缺) ❸存 ❽南北朝時代寫 ❾(寶菩提院)

瑜伽供養次第法傳來儀 ❶(日)Yu-ga-ku-yō-shi-dai-hō-den-rai-gi. ❷一卷 ❹圓珍(弘仁五—寬平三 A. D. 814—891)撰 ❼〔參考〕山家祖德撰述篇目集卷上

瑜伽科註 ❶(日)Yu-ga-kwa-chū. ❷一冊 ❸存 ❽刊本(哲、む・六・右・一七)

瑜伽課誦 ❶(日)Yu-ga-kwa-ju. ❷三卷 ❸存 ❹運體(寬文三—享保一一 A. D. 1663—1726)撰

瑜伽觀行軌儀 ❶(日)Yu-ga-kwan-gyō-ki-gi. (支)Yü-ch'ieh-kuan-hsing-kuei-i. 聖觀自在菩薩心眞言瑜伽觀行儀軌、聖觀自在儀軌、觀音瑜伽觀行儀軌、大聖觀自在菩薩心眞言瑜伽觀行儀軌、觀自在心眞言觀行儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二〇・四No. 1031、縮閏一〇、卍二七・一、北1430又、南1495曲、元1490曲、明北1405爲、清1405蕩、麗1353奄、天1405曲、法1198八、至839息、明南1178寬、Nj. 1415 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻聖觀自在菩薩心眞言瑜伽觀行儀軌の下を見よ。

瑜伽觀自在王如來修行法 ❶(日)Yu-ga-kwan-ji-zai-ō-nyo-rai-shu-gyō-hō. (支)Yü-ch'ieh-kuan-tzŭ-tsai-wang-ju-lai-hsiu-hsing-fa. 金剛頂經瑜伽觀自在王如來修行法、觀自在王修行法 ❷一卷 ❸存、大正一九・七五No. 932、縮閏五、卍二七・一、明北1423鐘、清1423鐘、麗1394執、法1154戸、至802盛、明南1214優、Nj. 1420 ❹金剛智(咸亨二—開元二九 A. D. 671—741)譯 ❺開元一一—二四(A. D. 723—736) ❻金剛頂經瑜伽觀自在王如來修行法の下を見よ。

瑜伽決擇補闕鈔 ❶(日)Yu-ga-ke-chaku-fu-ketsu-shō. (支)Yü-ch'ieh-chüeh-chai-pu-ch'üeh-ch'ao. 瑜伽論決擇補闕鈔 ❷五卷 ❹道峰述 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第二

瑜伽決擇分抄 ❶(日)Yu-ga-ke-chaku-bun-shō. (支)Yü-ch'ieh-chüeh-ch'ai-fen-ch'ao ❼〔參考〕奈良朝現在一切經疏目錄2307

瑜伽護摩儀軌 ❶(日)Yu-ga-go-ma-gi-ki. (支)Yü-ch'ieh-hu-mo-i-kuei. 金剛頂瑜伽護摩儀軌、金剛頂護摩儀軌、瑜伽軌 ❷一卷 ❸存、大正一八・九二〇No. 909、縮閏三 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻金剛頂瑜伽護摩儀軌の下を見よ。 ❾寫本(正大、一一六一・二六)

瑜伽護摩儀軌鈔 ❶(日)Yu-ga-go-ma-gi-ki-shō. ❷四卷 ❸存 ❹亮汰(元和八—延寶八 A. D. 1622—1680) ❽元祿四刊 ❾(正大、一一六一・二四)

瑜伽降三世極深法門 ❶(日)Yu-ga-gō-san-ze-goku-jin-hō-mon. (支)Yü-ch'ieh-hsiang-san-shih-chi-shên-fa-mên. 金剛頂瑜伽降三世成就極深密門 ❷一卷 ❸存、大正二一・三九No. 1209、縮閏一三、卍二六・一〇、明北1382杜、清1382杜、麗1406登、至816川、明南1188學、Nj. 1389 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻金剛頂瑜伽降三世成就極深密門の下を見よ。

瑜伽金剛頂經釋字母品 ❶(日)Yu-ga-kon-gō-chō-kyō-shaku-ji-mo-hon. (支)Yü-ch'ieh-chin-kang-ting-ching-shih-tzŭ-mu-p'in. 金剛頂經釋字母品 ❷一卷 ❸存、大正一八・三三八No. 880、縮閏一五、卍一六・九、明北1047止、清1047止、麗1395督、明南1033取、Nj. 1053 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺天寶五—大曆九(A. D. 746—774) ❻梵字五十字母が擧げられてある。その中で三十四字は體文であり、殘り十六字は摩多である。大日經第二には二十八字母が示

されてあるだけである。字母としては此の五十字母が最も數の多いもので、現今一般に行はれて居る梵字の字母は四十六字である。

❼(參考) 貞元錄第一五 ❺南北朝初期(?)寫 ❾(寶菩提院) (神林隆淨)

瑜伽雜集 ❶(日)Yu-ga-zas-shū. ❷三卷 ❸存 ❹眞超集 ❾寫本(無動寺)

瑜伽三密祕識記 ❶(日)Yu-ga-san-mitsu-hi-shiki-ki. 六體三密練歸鈔 ❷一帖 ❸存 ❹道範(元曆元―建長四A. D. 1184―1252)述 ❾文政六寫(寶龜院)文政七寫(高大、1・五七)

瑜伽纂要 ❶(日)Yu-ga-san-yō. (支)Yü-ch'ieh-tsuan-yao. ❷三卷 ❹新羅太賢(―景德王一一[A. D. 752―])述 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

瑜伽指事 ❶(日)Yu-ga-shi-ji. ❷一卷 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

瑜伽師地論 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron. (支)Yü-ch'ieh-shih-ti-lun. (梵) Yogācāra-bhūmi (藏傳)(藏) rnal-ḥbyor spyod-paḥi sa 瑜伽論 ❷百卷 ❸存、大正三〇・二七九No. 1579・縮来一一五、卍二〇・五―九、北876習至慶、明北1164貌至氣、淸1164貌至氣、麗577堂至善、天580習至慶、南580習至慶、指838堂至善、法583堂至善、至1397本至濟、明南1392階至靜、Nj. 1170 ❹彌勒菩薩說、玄弉(仁壽二―麟德元A. D. 602―664)譯 ❺唐貞觀二〇―二二(A. D. 646―648) ❻此論壹部百卷は唯正宗分のみにして、序分もなく流通分もない。其の正宗分の組織は大段五分より成つてゐる。今瑜伽論釋。同略纂。同記。等に據りて之を圖示すれば左の如くである。

卷數	五分	綱要
自第一卷 至第五十卷	第一 本地分	略に廣に十七地の義を分別す。
自第五十一卷 至第八十卷	第二 攝決擇分	十七地中の深隱なる要義を略攝し決擇す。
自第八十一卷 至第八十二卷	第三 攝釋分	諸經の中の儀則を略攝し解釋す。
自第八十三卷 至第八十四卷	第四 攝異門分	經中の諸法の名義差別を略攝す。
自第八十五卷 至第百卷	第五 攝事分	三藏中の衆要の事義を略攝す。

此中、本地分五十卷に明す所の十七地と其の綱要とは左圖の如くである。

卷數	十七地	綱要
自第一卷	一、五識身相應地	前五識を明す。
至第三卷	二、意地	第六、第七、第八、の三識を明す。
自第四卷 至第十卷	三、有尋有伺地	欲界と初禪との有漏無漏の諸法を釋す。
	四、無尋唯伺地	靜慮中間の有漏無漏の諸法を釋す。
	五、無尋無伺地	第二靜慮以上の有漏無漏の諸法を釋す。
自第十一卷	六、三摩呬多地	勝定地を釋す。
至第十三卷 自第十三卷	七、非三摩呬多地	上に翻じて釋す。
	八、有心地	二無心定と無想生とを除きたる餘の地を釋す。
	九、無心地	二無心定と無想生とを釋す。
至第十五卷	十、聞所成地	聽聞より生ずる所の文義を解する慧等を釋す。
自第十六卷 至第十九卷	十一、思所成地	思慮より生ずる所の法相を解する慧等を釋す。
第二十卷	十二、修所成地	修定より生ずる所の理事を解する慧等を釋す。
自第二十一卷 至第三十四卷	十三、聲聞地	聲聞の種姓と發心、修行、得果とを釋す。
自第三十五卷	十四、獨覺地	獨覺の種姓と發心、修行、得果とを釋す。
	十五、菩薩地	菩薩の種姓と發心、修行、得果とを釋す。
至第五十卷	十六、有餘依地	有餘涅槃を釋す。
	十七、無餘依地	無餘涅槃を釋す。

又本地分十七地の次第前後を略纂の意に依て略釋せば左表の如く初に三乘の境を觀し、次に三乘の行を起し、後に三乘の果を證する次第である。

初に三乘所觀の境を明す。

第一、五識身相應地
第二、意地
―境の體を明す。一切皆識を以て體性と爲すが故なり。易知と難知とを以て前後とす。

第三、有尋有伺地
第四、無尋唯伺地
第五、無尋無伺地
―境の相を明す。境相に麁細の異りあるが故に。麁細を三品に分つて三地の前後を定む。

第六、三摩呬多地
第七、非三摩呬多地
第八、有心地
第九、無心地
―境の位を明す。定の俱不俱と、心の有無となり。前の二は定と散とにして勝劣を以て前後とし、後の二は心の有無にして顯と隱とを以て前後とす。

次に三乘の行位を明す。

第十、聞所成地
第十一、思所成地
―三乘の通行なり。三乘皆能く三慧を修行するが故なり。是れ方便行なり。
第十二、修所成地―所學行なり。

第十三、聲聞地
第十四、獨覺地
第十五、菩薩地
―三乘の別行なり。機に應じ法に隨ひ各各自乘を成ずるが故なり。根本行なり。所成行なり。

後に三乘の果を明す。

第十六、有餘依地
第十七、無餘依地
―二乘は因亡し果喪するに依つて果に二門を立て、前後とす。佛身は菩提涅槃を分つて兩異と成し以て前後とす。

此論は右に圖示せるが如く廣く三乘の境行果を明してあるが、期する所は菩薩をして自利利他の行に於て皆善巧を得、佛果を修成して、利樂窮まることなからしめんが爲であるから、菩薩藏と聲聞藏と明してあつても唯菩薩藏に攝むべく、亦具に戒定慧等を說いてあつても、三藏の中には唯論藏に攝むべきである。尙委しくは國譯一切經、瑜伽部一の解題を見よ。

〔瑜伽論の異譯〕 此論の異譯せられたるもの尠からずと雖も、何れも分譯にして全譯せられたるものなし。左に年代順に列擧して本論と對照す。

名稱	譯者	譯出年時	瑜伽論對校
菩薩地持經 十卷	曇無讖	A. D. 414―426	自第三十五卷―至第五十卷前半
菩薩戒本 一卷	同上	同上	自第四十卷後半―至第四十一卷
菩薩善戒經 九卷	求那跋摩	A. D. 431	同=地持經。
優婆塞五戒威儀經 一卷	同上	同上	同=菩薩戒本。
決定藏論 三卷	眞諦	A. D. 557―569	自第五十一卷―至第五十四卷
菩薩戒本 一卷	玄弉	A. D. 649	同=曇無讖譯戒本。
菩薩戒羯磨分 一卷	同上	同上	同上
王法正理論 一卷	同上	同上	第六十一卷
佛爲優塡王說王法政論經 一卷	不空	A. D. 746―774	同上

以上は現存せる異譯であるが、尙此の外に梁眞諦譯「十七地論」五卷ありしと云ふ。倫記第一上に「傳へ聞く梁の武帝の時、眞諦、太淸四年歲次庚午十月、富春令、陸元哲の宅に往いて擇慶等二十の名德の爲に十七地論を翻じ始めて五卷を得たり」とある。かく眞諦は太淸四年(A. D. 550)を以て『十七地論』の題目にて翻譯したるも、難に遇ふて綴めたらしいが、其の時に譯して得た五卷も今は傳はらない。誠に惜むべきことである。

❼(注釋) 釋一卷(大正三〇No. 1580)最勝子菩薩等造、玄奘譯。記二十四卷(四十八卷)(大正四二No. 1828)遁倫。略纂十六卷(大正四三No. 1829)窺基。記七卷(大正六五No. 2259)增賀。分門記五卷或六卷(大正八五No. 2801)法成。手記四卷(殘缺)(大正八五No. 2802)法成。卻章頌一卷(卍續一・七五・三)窺基。疏四十卷智周。疏四十卷淸素。科十四卷澄淨。中科一卷澄淨。大科一卷澄淨。心鏡記四卷惠澤。戒地品記四卷志隱。科一卷志隱。大科一卷志隱。鈔三卷志隱。疏二十卷惠景。文述一卷惠景。疏十卷神泰。劫波羅義章一卷神泰。疏十七卷玄一。疏十卷憬興。記三十六卷憬興。疏十二卷勝莊。疏三十五卷境法師。鈔十卷(六卷)本立。羽足鈔五卷緣太。古迹記四卷太賢。纂要三卷太賢。疏二十五卷眞空。疏十三卷文備。疏中實四卷元曉。疏十卷惠述。義林五卷義榮。文集二十卷(十卷)淳法。義決一卷。決擇補闕抄五卷道峯。文義夾第二卷。料簡一卷行達。音義四卷信行。略頌二卷眞興。指事一卷。釋論記一卷。述讚二卷。問題二卷。科文一卷叡尊。本義抄二卷實叡。舟拇一卷敎群。條目三卷融道。劫章頌疏一卷通智。劫章頌抄一卷宥快。

〔參考〕 內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第八、貞元錄第一一 ❺天和二刊 ❾(谷大、餘大・一四九六)(龍大、研佛)(正大、一一九六・一―二)(高大、寄・一・二四)(加藤精神)

瑜伽師地論 ❶(日)Yu-ga-shi-ji-ron. 國譯瑜伽師地論 ❷百卷 ❸存、國譯一切經瑜伽部第一―六 ❹加藤精神譯

瑜伽師地論 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron. 國譯瑜伽師地論 ❸存、國譯大藏經論部第六―九 ❹佐伯定胤譯

瑜伽師地論開釋分門記 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-kai-shaku-bun-mon-ki. (支) Yü-ch'ieh-shih-ti-lun-k'ai-shih-fên-mên-chi. 瑜伽師地論分門記、瑜伽論分門記 ❷六卷 ❸存、大正八五・八〇四No. 2801 ❹唐法成撰、智慧山記 ❻瑜伽師地論分門記の下を見よ。

瑜伽師地論記 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-ki. (支) Yü-ch'ieh-shih-ti-lun-chi. 瑜伽論記、瑜伽論疏、瑜伽倫記 ❷二十四卷或四十八卷 ❸存、大正四二・三一一No. 1828、卍續一・七五・四―七六・四 ❹唐遁倫述 ❻瑜伽論記の下を見よ。❺享保一二刊 ❾(谷大、餘大・三一四)(龍大、二四三四・一五八)

瑜伽師地論記 ❶(日)Yu-ga-shi-ji-ron-ki. 瑜伽論問答、瑜伽師地論增賀記 ❷七卷 ❸存、大正六五・二六九No. 2259 ❹增賀(延喜一七―長保五A. D. 917―1003)述 ❻瑜伽論問答の下を見よ。❾寫本(谷大、餘大・一八五八)(京大、日大来・一五一)

瑜伽師地論管窺鈔 ❶(日)Yu-ga-shi-ji-ron-kwan-ki-shō. ❷二卷 ❸存 ❺明治二一寫 ❾(高大、寄・一・二四)

瑜伽師地論劫章頌 ❶(日)Yu-ga-shi-ji-ron-kō-shō-ju. (支) Yü-ch'ieh-shih-

-ti-jun-chiri-chang-sung. 瑜伽論勧章頌、勧章頌 ❷一卷 ❸存、卍機一・七五・三 ❹唐窺基(貞観六—永淳元 A.D.632—682) 述 ❺瑜伽論勧章頌の下を見よ。 ❻刊本(谷大、鈴大・一〇七四)

瑜伽師地論釋 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron shaku. (支) Yu-chieh-shih-ti-lun-shih. 瑜伽論釋 ❷一卷 ❸存、大正三〇・八八三No. 1822、續往七、卍二二・一、北277非、南263非、元263非、明北1124退、清1124退、麗262壁、天321非、指542壁、法257壁、普1826換、明南1222心、無著論集之内、Nj. 1201 ❹菩勝子等造玄奘譯、 ❺唐永徽元(A.D. 650)

❻ 本釋は菩勝子等の講義筆録にして、唐高宗永徽元年二月一日(A.D. 650)三藏法師玄奘、大慈恩寺翻經院に於て詔を奉じて譯し、師法師の筆授である。菩勝子は梵名は辰那弗多羅(Cinaputra)と云ひ、佛滅後一千一百年(A.D. 650頃)に北印度の境、鉢伐多國に出世す。護法の門下にして唯識十大論師の一人である。『西域記』第十一によれば、同國城側の一大乗伽藍に於て「瑜伽師地論」を釋して此の書を造りたりといふ。その内容は頭首に歸敬の序あり。次いで本文に於て、「瑜伽」一部の大綱を釋するに、一、所爲。二、所因。三、名義。四、宗要。五、藏攝。六、釋文の六門に別ち、更に釋文に於て、「瑜伽」十七地の名義を逐次略釋せり。是れ「瑜伽」の註疏中、最古のものにして、後来の疏家何れも是れを繼承し依用してゐる。『倫記』一之上に曰く「三藏の言に依るに、釋論を略して譯すれば五百卷なるべく、繁して譯すれば八百許りあるべし」云云。又「增明記」一に曰く「眞空法師、三藏の言を傳ふ。『瑜伽釋論』若し具に譯すれば應に五百卷なるべし。若し本釋を合して總して具に譯すれば應に六百卷許りなるべし」と。兩說孰か異ありと雖も、原本の廣卷なりし事は略ぼ推知すべきである。本地分中五識身相應地之一」と題せるもの正しく六百卷の第壱卷なることを示したものである。安永九年版「瑜伽師地論釋」寶月の序は「增明記」に依ると雖も、尚も永徽九年譯とあるは元年の寫誤である。

❼(參考) 譯經圖紀第四、開元錄第八、貞元錄第一一 ❽安永九刊(正大、一一九六・六—七)×谷大、鈴大・一六三×龍大、研佛)(高大、寄・一・二四、貞壁版(正大、一一九六・五)

瑜伽師地論釋 (加藤精神) 校點瑜伽師地論釋 ❷一卷 ❸存 ❹宣朗(寛延二—文政四 A.D. 1749—1821)校點 ❺寫本(龍大、研佛)

瑜伽師地論釋記 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-shaku-ki. ❷四卷 ❸存 ❹寫本(谷大、鈴大・一八八四)

瑜伽師地論釋空拳錄 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-shaku-ko-ken-roku. ❷二卷 ❸存 ❹麗州 ❺寫本(龍大、二四三四・一五七)

瑜伽師地論釋講記 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-shaku-ko-ki. 瑜伽師地論釋講義 ❷一卷 ❸存 ❹法寶(安永四—嘉永三 A.D. 1775—1850)述 ❺寫本(谷大、鈴大・一九七八、四二六九)

瑜伽師地論釋講義 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-shaku-ko-gi. ❷二卷 ❸存 ❹慧雲(—慶應二 A.D. 1865)述 ❺慶應二寫 ❻(谷大、鈴大・二八〇三)

瑜伽師地論釋探幽抄 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-shaku-tan-yo-hi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、鈴大・三〇四〇)

瑜伽師地論釋聽記 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-shaku-chō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹法寶(安永四—嘉永三 A.D. 1775—1850) ❺寫本(谷大、鈴大・二三二三)

瑜伽師地論舟揖 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-shō-shū. 開藏知津舟揖 ❷一卷 ❸存 ❹宇歷谷教森集 ❺明治二三刊 ❻(谷大、鈴洋・四八)

瑜伽師地論叙 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-jo. (支) Yu-chieh-shih-lun-hsü. ❷二卷 ❸存 ❹民國六刊 ❺(龍大、研佛)

瑜伽師地論條目 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-jō-mokū. ❷三卷 ❸存 ❹麗道 ❺瓦政三寫 ❻(谷大、鈴大・一八八〇)

瑜伽師地論條目 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-jō-mokū. ❷二冊 ❸存 ❹寫本(谷大、鈴大・四八一〇)

瑜伽師地論增賀記 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-zō-ga-ki. 瑜伽論問答、瑜伽師地論記 ❷七卷 ❸存、大正六五・二六九No. 1833 ❹增賀(延喜一七—長保五 A.D. 917—1003)述 ❺瑜伽論問答の下を見よ。 ❻寫本(龍大、二四三四・一六〇)

瑜伽師地論拔 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-batsu. ❷三卷 ❸存 ❹寫本(正大、一一九六・三)

瑜伽師地論分科 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-bun-kwa. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、鈴大・二九〇八×正大、一一九六・四)

瑜伽師地論分門記 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-bun-mon-ki. (支) Yu-chieh-shih-ti-lun-fen-mên-chi. ❷五卷 ❸存、大正八五・八〇四No. 2801 ❹唐法成述、談迦慧隠聽記

❺本書は瑜伽論の本文を文科にて分科したもので、正藏第八十五卷古逸部に收めてある懷煙發刻の古寫本である。第一卷には「瑜伽師地論釋分門記」と題し、次行に「五識身相應地等前十二地同卷」と記してあるが、此卷の初には菩勝子等の「瑜伽師地論釋」を分科し、次に瑜伽論十七地中の五識身相應地より修所成地に至るまでの十二地の本文を分科してゐる。次卷には「瑜伽師地論本地分中聲聞地分門記」と題して聲聞地と獨覺地との分科を合せて一卷としてゐる。次は「菩薩地第十五分門記(第一缺)第二第三卷にて初持瑜伽處十八品を分科し、次は「瑜伽師地論決擇分分門記第二」として菩薩巧差別より意地決擇の究竟までを分科してゐる。計五卷だけある。又正藏には此の次に「瑜伽論第三十一手記」乃至第三十四手記の四卷を攝めてゐる。是は瑜伽論の本文を簡潔に解釋したもので、談迦慧隠聽記と伝つてゐる。然るに昭和五年九月發行、大谷學報「西藏研究號」に掲載せられた「懷煙本

瑜伽論分門記に就いて」と題する論語義譯氏の論文に依れば(正藏には缺略せられてゐるが)ペリオ目錄の寫眞版には「瑜伽論第二十四卷分門記初」に「大慈恩寺法師法成述」とあり。又第二十七八卷には「國大德三藏法成述談迦慧隠聽記」とあれば、此の分門記は大慈恩寺(即ち今の西藏)の三藏法師法成の講述せしものを、談迦慧隠なる門弟子が聽くに隨つて記したものなること、略んど疑ふの餘地はないやうである。但し談訪氏は談迦慧隠を二人としてゐるが、或は一人であるか。又慧隠と讀むのが正しいか、何れも後哲の研究に待つべきものである。

❿環煙本(佛蘭西國民圖書館T・2205)×大英博物館O・3208) (加藤精神)

瑜伽師地論本義鈔 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-hon-gi-shō. ❷二卷 ❸存 ❹實觀(文化九—明治一四 A.D. 1812—1881) ❺寫本(龍大、二四三四・一六一)

瑜伽師地論略纂 ❶(日) Yu-ga-shi-ji-ron-ryaku-san. (支) Yu-chieh-shih-ti-lun-liao-tsuan. 瑜伽論略纂、瑜伽論論略纂、略纂、瑜伽論鈔 ❷十六卷 ❸存、大正四三・一No. 1763、卍續一・七五・一—三 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元 A.D. 632—682)述

❺本書は彌勒菩薩所說瑜伽師地論百卷玄奘譯を慈恩大師が略釋せるものにして、古來瑜伽論は智度論と相並んで、大乘佛教の二大雙璧と云はれ、佛教教學の源底を盡したる佛教大辭典とも稱すべく、部帙浩瀚にして、注疏の大成せしものなく、又此が研究せる者少なく、古來經本とせられしものなるを、慈恩大師は本論を要約して、其の要領を得せしめんため注疏し給へるものである。内容は第一卷の初めに歸敬序ありて本論一部を六門を以て分別し、第一に所爲を叙し、第二に所因を彰し、第三に宗趣を明し、第四に藏攝を顯し、第五に題目を解し、第六に本文を釋するに至り、本論第一卷第一本事分の五識身相應地及び意地を釋し、第二卷には本論第三卷の意地第四卷第五卷の有尋有伺等地を釋し、第三卷には本論第六・七・八卷の有尋有伺地を釋し第四卷には本論第九・十卷の有尋有伺地を釋し、第五卷には本論第十一・十二卷の三摩呾多地を釋し、第六卷には本論第十三卷の非三摩呾多地有心無心二地及び第十四、十五卷の聞所成地を釋し、第七卷には本論第十六・十七・十八・十九卷の思所成地、及び第二十卷の修所成地・聲聞地を釋し、第八卷には本論第二十一卷初瑜伽處段の種姓地・趣入地、及び第二十二・二十三・二十四・二十五卷の出離地、第二十六・二十七・二十八・二十九卷の第二瑜伽處、第三十・三十一・三十二卷の第三瑜伽處を釋し、第九卷には本論第三十三・三十四卷の第四瑜伽處、並に獨覺地を釋し、第十卷に本論、第三十五・三十六卷菩薩地の初持瑜伽處中の種子品・發心品・自他利品・眞實義品を釋し、第十一卷に本論第三十七卷の成力品・成熟品、三十八卷の菩提品・力種姓品、第三十九卷の施品、第四十・四十一・四十二卷の戒品・忍品・精進品、四十三卷の靜慮品・慧品・攝事品、第四十四卷の信樂近無垢品を釋し、第十二卷に本論第四十四・四十五・四十六卷の菩提分品・菩薩功德品、及び第四十七卷の第二持陀羅法瑜伽處の菩薩相品・分品・增上意樂品・住品、及び第三持究竟瑜伽處の生品・攝受品、第四十九卷の地品・行品・建立品、第五十卷の持次第瑜伽處の發正等菩提心品、及び有餘依地・無餘依地を釋し、第十三卷には本論第五十一・五十二・五十三卷の第二攝決擇分の五識身相應地・意地を釋し、第十四卷には本論第五十四・五十五卷の五識身相應意地を釋し、第十五卷に本論第五十六・五十七卷の五識身相應意地、及び第五十八・五十九・六十卷の有尋有伺等三地を釋し、第十六卷には本論第六十一卷の有尋有伺等三地、第六十二・六十三卷の三摩呾多地、第六十四卷の聞所成慧地、第六十五・六十六卷の思所成慧地を釋し、以後は次第に注疏せられたるも散佚せしものゝ如く、攝釋分・攝異門分・攝事分の三段の注解は現存せず即ち瑜伽大論一部百卷の廣範なるを要約し決擇して後學の至便とし給へるものである。

❹古寫本(谷大、鈴甲・五九)南都版(谷大、鈴丙・一)文政七刊(谷大、鈴大・三一五)寫本(正大、一一九六・一〇—一一×龍大、二四三四・一六二×京大、藏・一三ュ・六) (橋本凝胤)

瑜伽釋 ❶(日) Yu-ga-shaku. (支) Yu-chieh-shih. ❷一卷 ❸(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2208

瑜伽釋論記 ❶(日) Yu-ga-shaku-ron-ki. (支) Yu-chieh-shih-lun-chi. 瑜伽記 ❷三十六卷 ❸新羅瑤興(—開耀元 A.D. 681—)述 ❹瑜伽記の下を見よ。 ❺(參考) 東域傳燈目錄卷下

瑜伽釋論記 ❶(日) Yu-ga-shaku-ron-ki. ❷一卷 ❸(參考) 東域傳燈目錄卷下

瑜伽修習毘盧遮那三摩地法 ❶(日) Yu-ga-shū-jū-bi-ra-sha-na-sanma-ji-hō. (支) Yu-chieh-hsiu-hsi-pi-lu-che-na-san-mo-ti-fa. 金剛頂經瑜伽修習毘盧遮那三摩地法、毘盧遮那三摩地法 ❷一卷 ❸存、大正一八・三二七No. 876、續開二、卍二七・一、北1341題、南1246伊、元1340伊、明北1432鍾、清1429鍾、麗1254礎、天1296伊、法1146戶、至799盛、明南1146無、三十帖策子第二一、Nj. 1437 ❹唐金剛智(成亨二—開元二九 A.D. 671—741)譯 ❺金剛頂經瑜伽修習毘盧遮那三摩地法の下を見よ。

瑜伽集要焰口施食起教阿難陀緣由 ❶(日) Yu-ga-shū-yō-en-kō-se-ki-ki-kyō-ō-nan-da-en-yu. (支) Yu-chieh-chi-yao-yen-k'ou-shih-shih-chi-chiao-e-nan-t'o-yüan-yu. 施食儀起教緣由、瑜伽集要焰口施食儀 ❷一卷 ❸存、大正二一・四七二No. 1319、續成一三、卍二七・二、明北1469潘、清1469潘、明南1623潘、Nj. 1467 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774)譯 ❺天寶五—大曆九(A.D. 746—774)

❻食尊が迦毘羅城（Kapilavastu）の尼倶律那（Nyagrodha）の僧伽藍に居られた時、阿難は靜處に獨居して、所受の法を念じて居つた。深夜三更の時に、一餓鬼が現はれ、その名を娑口と呼ぶ。その形は醜陋、身體は枯瘦にして、口中に火を燃し、咽は針鋒の如く、頭髪は亂れ、牙爪長利、甚だ怖畏す可きものが有つた。この餓鬼が阿難の面前に進み出て言ふには、汝は今から三日の後に、命終して、餓鬼の中に生ずべし」と、この事を聽いた阿難は、大に怖を感じ、餓鬼に問ふて言ふには、若し我れ餓鬼の中に生じたならば、其の苦を受くるに忍びず、如何にしてかその苦を免れ得るやと、餓鬼答へて、汝、來日晨朝、若し能く百千那由他、恒河沙數の餓鬼に飲食を布施し、並に餘の無量の婆羅門仙、國羅所司、堂造冥官、及び諸の鬼神、久遠の先亡等に、飲食を多量に施し、並に我等の爲に三寶を供養するならば汝は壽命を增すことを得、我等は其の功德に依て、餓鬼の苦を離れて、天上界に生ずることを得る」と言つた。阿難は此の言を聽き、且つ其の餓鬼の醜狀を見て大に驚怖し、身毛皆竪つを覺えた。晨朝世尊の所に至り、昨夜有りし事の始終を物語り、佛陀に其の廣大なる供養の飾し難い旨を述べて、云何んが能く無量の飲食の充足するを例ずべきやと言つた。その時、佛は阿難を顧て言はるるには「汝今怖るる勿れ、我れ念ふに、過去無量劫中に、曾て婆羅門で有つた時に、觀世音菩薩の所に於て、陀羅尼を受得した。それを名づけて無量威德自在光明如來陀羅尼法と曰ふ。汝若し常く此の陀羅尼を誦じて、加持すること七遍すれば、能く一食を變じて、種々の甘露の飲食と成し、即ち百千俱胝那由他、恒河沙數の一切の餓鬼、婆羅門仙、その他異類の鬼神に上妙の飲食を施し、皆是の如く等の衆を飽滿することを得せしめ、是の如く等の衆は、一一各々摩伽陀國の所用の鉢を得、此の食と此の水との量は、法界に同じく、盡くることなく、之を受くる者は、皆悉く聖果を得、苦身を解脫することを得、汝今此の陀羅尼法を受持すれば、その功力に依て、汝は福德と壽命とを增長することを得、餓鬼は天に生じ、淨土に生じ、人天の身を受け、能く施主をして、障を轉じ、災を消し、年を延べ、壽を增し、現世には勝福を招き、當來世には、菩提を證し、廣大の心を發して、苦く有情や、積劫以來の多生の父母、列宿天曹、國司地府、娑婆鬼界、蜫蠕蠢動、一切の含靈の爲に、普く無遮施を設けて、廣大に供養せよ（中略）阿難よ、若し施食の法を受持せんと欲せば、須らく瑜伽甚深の三昧阿闍梨の法に依るべし」とあり、以下無上菩提心を發し、三昧耶戒を受け、大曼拏羅に入つて、灌頂を得たために、この妙法を授與すべしと言つて、密教的作法が說き示されてある。（神林隆淨）

珠伽集要焰口施食儀 ❶(B) Yu-ga-shō-yō-ka-ku-se-jiki-gi. (支) Yu-ch'ieh-chi-yao-yu-k'ou-shih-shih-i. 焰口施食儀、瑜伽焰口施食儀 ❷一卷 ❸存、大正二一・四七三No. 1322、續成二三、卍二七・二、明北1462函、明南1052函、N. 1457

❹この書は譯者の名もなく、又記著者の名も示してない。而して其の內容は、施餓鬼作法者に取りては必讀す可き良書であつて、その眞言には梵字で記されてあり、印契の圖が示されてあり、又運心供養とか入觀普定とかの類には、細註を施して委曲說明が加へられてある。その內容を列記すれば

1、作法の準備（四七三、c）。 2、大輪明王呪（四七四、a）。 3、轉法輪菩薩の印言（四七四、b）。 4、請佛の名號（四七四、b）。 5、回向（四七五、a）。 6、運心供養（四七五、c）。 7、三寶施食（四七五、c）。 8、入觀普定（四七六、b）。 9、破地獄印言（四七六、c）。 10、召請餓鬼の印言（四七七、a）。 11、召罪の印言（四七七、b）。 12、懺罪の印言（四七七、b）。 13、定業の印言（四七七、c）。 14、懺悔滅罪の印言（四七七、c）。 15、施甘露の印言（四七八、a）。 16、開喉咽の印言（四七八、a）。 17、如來吉祥名號（四七八、a）。 18、發菩提心の印言（四七九、b）。 19、三昧耶戒印言（四七九、c）。 20、無量威德自在光明如來印言（四八〇、a）。 21、乳海眞言（四八〇、a）。 22、菩供養の印言（四八〇、b）。 23、奉送の印言（四八〇、c）。 24、曼勝陀羅尼（四八〇、c）。 25、六趣偈（四八二、a）。 26、發願回向偈（四八二、b）。 27、吉祥偈（四八三、a）。 28、金剛薩埵百字呪（四八三、a）。以上

右の外に十類孤魂文が附記されてある。これも面然鬼王即ち焰口餓鬼に關するものであつて、矢張施餓鬼の法會に使用する祭文の類である。

珠伽集要救阿難陀羅尼焰口軌儀經 ❶(B) Yu-ga-a-nan-da-ra-ni-n-ku-ki-gi-kyō. (支) Yu-ch'ieh-chi-yao-chia-p-nan-t'o-lo-ni-yen-k'ou-kui-ch'ing. 焰口軌儀經 ❷一卷 ❸存、大正二一・四六八 N. 1317、續成八、卍一五・一〇、明北925函、清925函、明南1046函、N. 925 ❹唐不空（神龍元—大曆九 A. D. 705—774）譯 ❺大寶五—大曆九（A. D. 746—774）

❻本書は施餓鬼の起原と作法とが明してある。その起原の分は『瑜伽集要焰口施食起教阿難陀緣由』（大正二一・四七二）と殆んど全同である。次に作法の部に於いて、1、破地獄の印言（四七〇、b）。2、召請餓鬼の印言（四七〇、b）。3、召罪の印言（四七〇、b）。4、懺罪の印言（四七〇、b）。5、定業の印言（四七〇、c）。6、懺悔滅罪の印言（四七〇、c）。7、五如來の印言（四七一、a）。9、發菩提心の印言（四七一、b）。10、三昧耶戒の印言（四七一、b）。11、無量威德自在光明如來の印言（四七一、b）。12、菩供養の印言（四七一、c）。13、奉送の印言（四七一、a）等が明してある。（神林隆淨）

珠伽集要施食儀軌 ❶(B) Yu-ga-shō-yō-se-jiki-gi. (支) Yu-ch'ieh-chi-yao-shih-shih-i-kuei. 修設瑜伽集要施食壇儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二一・四七三No. 1323、續成二三、卍二七・二、明北1462函、明南1052函、N. 1457

❹この書は譯者の名もなく、又記著者の名も示してない。而して其の內容は、施餓鬼作法者に取りては必讀す可き良書であつて、その眞言には梵字で記されてあり、印契の圖が示されてあり、又運心供養とか入觀普定とかの類には、細註を施して委曲說明が加へられてある。その內容を列記すれば

1、作法の準備（四七三、c）。 2、大輪明王呪（四七四、a）。 3、轉法輪菩薩の印言（四七四、b）。 4、請佛の名號（四七四、b）。 5、回向（四七五、a）。 6、運心供養（四七五、c）。 7、三寶施食（四七五、c）。 8、入觀普定（四七六、b）。 9、破地獄印言（四七六、c）。 10、召請餓鬼の印言（四七七、a）。 11、召罪の印言（四七七、b）。 12、懺罪の印言（四七七、b）。 13、定業の印言（四七七、c）。 14、懺悔滅罪の印言（四七七、c）。 15、施甘露の印言（四七八、a）。 16、開喉咽の印言（四七八、a）。 17、如來吉祥名號（四七八、a）。 18、發菩提心の印言（四七九、b）。 19、三昧耶戒印言（四七九、c）。 20、無量威德自在光明如來印言（四八〇、a）。 21、乳海眞言（四八〇、a）。 22、菩供養の印言（四八〇、b）。 23、奉送の印言（四八〇、c）。 24、曼勝陀羅尼（四八〇、c）。 25、六趣偈（四八二、a）。 26、發願回向偈（四八二、b）。 27、吉祥偈（四八三、a）。 28、金剛薩埵百字呪（四八三、a）。以上

右の外に十類孤魂文が附記されてある。これも面然鬼王即ち焰口餓鬼に關するものであつて、矢張施餓鬼の法會に使用する祭文の類である。

三、年八一寂、重訂 ❹修瑜伽集要施食壇儀の下を見よ。

珠伽述贊 ❶(B) Yu-ga-jut-san. (支) Yu-ch'ieh-shu-tsan. ❷二卷 ❸(參考) 東域傳燈目錄卷下

珠伽疏 ❶(B) Yu-ga-sho. (支) Yu-ch'ieh-su. ❷十卷 ❸惠進述 ❹(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

珠伽疏 ❶(B) Yu-ga-sho. (支) Yu-ch'ieh-su. ❷十二卷 ❸唐勝莊（—長安三—先天二 A. D. 703—713—）述 ❹(參考) 諸宗章疏錄第二

珠伽疏 ❶(B) Yu-ga-sho. (支) Yu-ch'ieh-su. 瑜伽論疏 ❷四十卷 ❸存 ❹庶智周（儀鳳三—開元二一 A. D. 678—733）述 ❺諸宗章疏錄第二に云く「未了。出入儀錄」。至元勅回錄入る正錄」云々。

珠伽疏 ❶(B) Yu-ga-sho. (支) Yu-ch'ieh-su. ❷三十五卷 ❸境法師 ❹(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄22329

珠伽抄 ❶(B) Yu-ga-shō. ❷九卷 ❸圓珍（弘仁五—寶平三 A. D. 814—861）述 ❹本朝台密撰述密部書目に云く「或目云瑜伽論略記三卷」云々。 ❺(參考) 山家目錄撰述篇目錄卷上

珠伽抄 ❶(B) Yu-ga-shō. ❷逸實玖巳講作 ❸(參考) 本朝台密撰述密部書目

珠伽抄 ❶(B) Yu-ga-shō. (支) Yu-ch'ieh-ch'ao. ❷五卷 ❸新羅元曉（貞平王三九 A. D. 617—）述 ❹(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2252

珠伽總持釋門說菩提心觀行修行義 ❶(B) Yu-ga-sō-ji-shiku-mon-setsu-bo-dai-shin-kwan-gyō-shu-gyō-gi. (支) Yu-ch'ieh-tsung-ch'ih-shih-mien-shuo-p'u-t'i-hsin-kuan-hsing-hsiu-ch'ih-i. 金剛頂瑜伽中發阿耨多羅三藐三菩提心論、金剛頂發菩提心論、瑜伽總持釋門說菩提心觀行修行義、發菩提心論、菩提心論 ❷一卷 ❸存、大正三二・五七二No. 1665、續四一、卍二六・一、明北1212函、清1212函、麗1265帙、法1157戶、至1375帳、明南1451帙、三十帖策子第一九、十卷章、N. 1319 ❹唐不空（神龍元—大曆九 A. D. 705—774）譯 ❺金剛頂瑜伽中發阿耨多羅三藐三菩提心論の下を見よ。

珠伽大教王經 ❶(B) Yu-ga-dai-kyō-ō-kyō. (支) Yu-ch'ieh-ta-chiao-wang-ching. (梵) Mahā-yoga-mahā-tant a-rāja (藏譯) (藏) rgyud-kyi rgyal-po chen-po sgyu-hphrul dra-ba shes-bya-ba. 瑜伽經 ❷五卷 ❸存、大正一八・五五九No. 868、續成四、卍一六・四、北1225函、南1241函、元1235函、明北617函、清1617函、麗1225高、天1221函、法1242帙、至621力、明南915帙、N. 1042 ❹宋法賢（—成平四 A. D. 1001）譯

❺金剛頂瑜伽經は概して東法相應の法として目されて居るのであるが、中にも此の法の如きは、その代表的のものとも見做し得るものである。但し明法の阿闍梨に就て受法することは、密行の通規と成つて居るから、自由討究は固く禁ぜられて居るのである。その內容は、

〔卷第一〕 序品第一（五五九、b）、曼荼羅品第二（五六〇、b）、眞言品第三（五六二、c）。〔卷第二〕 三摩地品第四（五六四、a）。〔卷第三〕 眞言大智變化品第五（五六八、c）。〔卷第四〕 印相大供養儀品第六（五七四、b）、觀想菩提心大智品第七（五七七、a）。〔卷第五〕 相應方便成就品第八（五七八、b）、護摩品第九（五八〇、b）、鬼果品第十（五八二、a）。以上

次に各品の內容を略述すれば、

〔序品第一〕 遍照如來が淨光天の大樓閣中にありて、大智變化三摩地に入り、後に此の三昧から出でて、金剛手菩薩等に對して觀想法・持誦法等を說き示されることが明してある。

〔曼拏羅品第二〕 弟子を金剛界曼拏羅に引入することが明されてある。

〔眞言品第三〕 五佛その他の諸尊の眞言が記されてある。

〔三摩地品第四〕 阿闍梨が五佛その他の諸尊の三摩地身を觀ずることを示す。

〔眞言大智變化品第五〕 大日如來が大威德明王等の諸大忿怒王の三昧に入ることが說かれてある。

〔印相大供養儀品第六〕 五佛その他の諸尊の印相を明す。

〔觀想菩提心大智品第七〕 菩提心の實義を諸佛が說示せられることに成つてある。五佛並に慈氏菩薩等が菩提心の眞實義を述べて居る。

〔相應方便成就品第八〕 息災・增益・敬愛・降伏の四法が明され、兼ねて肆除法・降雨法・除魔驚怖法等が說かれてある。

〔護摩品第九〕 息災・增益・敬愛の三法に通

ずる護摩法が明されてある。

（鳴嚢品第七） 大日如来が四佛並に菩薩に對して、上記の諸法を說き已て、故等は此の妙法を無信者及び輕法愚痴の者に傳へてはならない。若し此等のものに傳へるならば、法は成就せず三昧を破るだけでなく、身壞命終しては大地獄に墮す。若又人有つて、此の妙法に依らずして精進し勤修しても、此の人は斷じて一切の煩惱を除くことは出來ないだけでなく、その修法は決して成就しない。之れに反して若し人此の數中に於いて一法一行をも修すれば、速に三摩地に入つて煩惱を斷じ佛果を現證し得ると說いてある。 （神林隆淨）

瑜伽大教王經 ❶(B) Yu-ga-dai-kyō-ō-kyō. (支)Yu-chieh-ta-chiao-wang-ching. 無二平等最上瑜伽大教王經、無二平等經、最上瑜伽大教王經 ❷六卷 ❸存、大正一八・五一四No.920、舊成四、卍一六・六、北1305執、南1312經、元1202經、明北1025詞、清1023詞、麗1460詞、天1292經、至652論、明南562歌、Nj.1030 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A.D.980—) ❻無二平等最上瑜伽大教王經の下を見よ。

瑜伽探要抄 ❶(B)Yu-ga-tann-yō-sho. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・二四)

瑜伽傳燈鈔 ❶(B) Yu-ga-den-tō-sho. ❷十卷 ❸存 ❹足利時代寫(寶龜院)寫本(谷大、長保・二三八)

瑜伽傳燈錄略系譜 ❶(B)Yu-ga-den-tō-roku-ryaku-kei-fu. ❷二冊 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

瑜伽念誦儀軌 ❶(B)Yu-ga-nen-ji-gi-kei. (支)Yu-chieh-nien-nien-i-kuei. 菩賢金剛薩埵略瑜伽念誦儀軌、菩賢薩埵儀軌、菩賢金剛薩埵祕密念誦儀軌、菩賢金剛薩埵念誦儀、菩賢金剛薩埵瑜伽念誦儀、菩賢金剛薩埵瑜伽念誦法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五三一No.1124、舊同九、卍二七・二、北1326阿、南1326阿、元379阿、明北1435詩、清1435詩、麗1343衡、天1370阿、法1172八、至857不、明南1157無、三十帖策子第一、Nj.1442 ❹唐不空(神龍元—大曆九A.D.705—774)譯 ❺菩賢金剛薩埵略瑜伽念誦儀軌の下を見よ。

瑜伽念珠經註 ❶(B) Yu-ga-nen-ju-kyō-chū. ❷一卷 ❸存 ❹刊本(京專)

瑜伽菩薩地疏 ❶(B) Yu-ga-bo-satsu-ji-sho. (支) Yu-chieh-p'u-sa-ti-shu. ❷七卷 ❹竟法師 ❺(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§210

瑜伽菩薩地疏 ❶(B) Yu-ga-bo-satsu-ji-sho. (支) Yu-chieh-p'u-sa-ti-shu. ❷五卷 ❹眞空師 ❺(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§211

瑜伽菩薩地抄 ❶(B) Yu-ga-bo-satsu-ji-shō. (支)Yu-chieh-p'u-sa-ti-ch'ao. ❷四卷 ❸(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§213

瑜伽菩提心論口義記 ❶(B) Yu-ga-bo-dai-shin-ron-ku-gi-ki. (支) Yu-chieh-p'u-t'i-hsin-lun-ko-i-chi. ❷二卷 ❸存 ❹玉弘順述 ❺刊本(正大、一一九六・一一七)

瑜伽法鏡經 ❶(B) Yu-ga-hō-kyō-gyō. (支)Yu-chieh-fa-ching-ching. ❷二卷 ❸闕經經。 ❺(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八

瑜伽發願 ❶(B)Yu-ga-hō-gan-mon. ❷一卷 ❹宏俊(神護景雲元—弘仁一三A.D.767—822)撰 ❺山家眞德撰述當日集卷上に云く「天正錄云願恐誤a題字、歟」云々。

❼(參考) 本朝古經撰述書部書目

瑜伽瑜祇經 ❶(B) Yu-ga-yu-gi-kyō. (支)Yu-chieh-yü-chi-ching. 金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經、瑜祇經 ❷二卷 ❸存、大正一八・二五三No.867、舊開二、卍一六・七、明北1024取、清1024取、至782如、明南1025滅、三十帖策子第五、Nj.1029 ❹金剛智(成亨二—開元二九A.D.671—741)譯 ❺金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經の下を見よ。 ❻刊本(高大、寄・一・三六)

瑜伽瑜祇理灌頂私記 ❶(B)Yu-ga-yu-gi-ri-kan-chō-shi-ki. 瑜伽瑜祇理灌頂私記三寶院 ❷一軸 ❸存 ❹玄海(文永四—眞和三A.D.1267—1347) ❺足利時代寫(寶龜院)寫(正五寫(金剛三昧院)

瑜伽要決 ❶(B) Yu-ga-yō-ketsu. (支)Yu-chieh-yao-hsüeh. ❷一卷 ❸(參考) 惠運禪師將來教法目錄

瑜伽略纂 ❶(B)Yu-ga-ryaku-san. (支) Yu-chieh-lüeh-tsuan. 瑜伽師地論略纂、瑜伽論略纂、略纂、瑜伽論鈔 ❷十六卷 ❸存、大正四三・一No.1828、卍續一・七五・一—三 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A.D.632—682)述 ❺瑜伽師地論略纂の下を見よ。 ❻寫本(晉、く・五・中・一四)

瑜伽聊簡 ❶(B)Yu-ga-ryō-kan. (支)Yu-chieh-liao-chien. 瑜伽料簡 ❷一卷 ❹新羅行達述 ❺(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§201

瑜伽料簡 ❶(B)Yu-ga-ryō-kan. (支)Yu-chieh-liao-chien. 瑜伽聊簡 ❷一卷 ❹新羅行達述 ❺(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

瑜伽蓮華部念誦法 ❶(B)Yu-ga-ren-ge-bu-nen-ju-hō. (支)Yu-chieh-lien-hua-pu-nien-sung-fa. 蓮華部念誦法 ❷一卷 ❸存、大正二〇・六No.1002、舊開二〇、卍二七・一、北1417又、南1422鱗、清1422鱗、麗1751元1418鱗、明北1422鱗、清1422鱗、麗1751毫、天1462鱗、法1128八、至2211不、明南1216優、Nj.1429 ❹不空(神龍元—大曆九A.D.705—774)譯 ❺唐天寶五—大曆九(A.D.746—774)

❻この念誦法は、その名稱の示す如くに

「金剛頂蓮華部心念誦儀軌」(大正藏二一・二九九)の略法念誦とも見做す可きもので、瑜伽蓮華部念誦法として、具備して居るものではない。併し已述の阿闍梨には、却て斯の如き略念誦法が修行の場合は便利である。又見方に依ては、此の念誦法が一段と發達して、金剛頂蓮華部心念誦儀軌と成つたと言ふことも出來ると思ふ。

❼(參考) 貞元錄第一五 ❽文永八寫(寶龜院)、延享四寫(寶善提院)文和二寫(寶龜院)

（神林隆淨）

瑜伽論 ❶(B)Yu-ga-ron. (支) Yu-chieh-lun. 瑜伽師地論 ❷百卷 ❸存、大正三〇・二七九No.1579、舊來一—五、卍二〇・五—九、北1576智至慶、南562智至慶、元526智至慶、明北1124貌至氣、清1124貌至氣、麗571空至善、天526智至慶、指2529空至善、法526空至善、至1297菲至洛、明南1192節至靜、Nj.1170 ❹彌勒菩薩造、玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❺唐貞觀二〇—二二(A.D.646—648) ❻瑜伽師地論の下を見よ。 ❽刊本(晉、く・五・右・一五、中・一)

瑜伽論羽足鈔 ❶(B)Yu-ga-ron-u-soku-shō. (支)Yu-chieh-lun-yü-tsu-ch'ao. 瑜伽羽足 ❷五卷 ❹麻太(太一作泰)遠 ❺(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

瑜伽論音義 ❶(B) Yu-ga-ron-on-gi. 瑜伽音義、相應論音義 ❷四卷 ❹信行(—寶龜頃? A.D.770—780—) ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏

瑜伽論戒地品義記 ❶(B)Yu-ga-ron-kai-ji-hon-gi-ki. (支)Yu-chieh-lun-chieh-ti-p'in-i-chi. ❷三卷 ❹志禮述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

瑜伽論記 ❶(B)Yu-ga-ron-ki. (支) Yu-chieh-lun-chi. 瑜伽論記、道倫記、瑜伽論疏、瑜伽師地論記、瑜伽論倫記 ❷二十四卷或四十八卷 ❸存、大正四二・三一一No.1828、卍續一・七五・四—七六・四 ❹道倫集撰(道倫。一說には道倫の誤寫ならんと云ふ) ❺是れは朝鮮の學僧、釋道倫の撰集なるが故に『瑜伽倫記』ともいふ。『瑜伽』百卷周備の註疏にして現に續藏經中にあり。第一卷の首に於て論編を發すに六門を以て分別す。一に所爲を叙し、二に所因を彰し、三に宗要を明し、四に藏橋を顯し、五に題目を解し、六に本文を釋すと。此の六門分別はかの最勝子の『瑜伽師地論釋』及び慈恩大師の『略纂』を繼承せるものであつて、前五門の所述は殆んど全同である。

❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第一、注進法相宗章疏 ❾享保一二刊・京大、一・二四ヨ・一)(正大、一一九六・一三)享保一八刊(京大、藏・一三ュ・七)(高大、寄・一・二四)(正大、一一九六・一二)(加藤精神)

瑜伽論記條箇 ❶(B) Yu-ga-ron-ki-jō-ka. ❷一冊 ❸存 ❹刊本(晉、さ・三・右・一九)

瑜伽論記條目 ❶(B) Yu-ga-ron-ki-jō-moku. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(晉、さ・四・中・七)

• **瑜伽論義演** ❶(B) Yu-ga-ron-gi-en. (支)Yu-chieh-lun-i-yen. 瑜伽師地論義演 ❷四十卷或四十一卷 ❹唐法寶述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三、至元錄第一〇

瑜伽論義決 ❶(B) Yu-ga-ron-gi-ketsu. 瑜伽論義決 ❷一卷 ❸(參考) 東域傳燈目錄卷下

瑜伽論科 ❶(B)Yu-ga-ron-ka. (支)Yu-chieh-lun-k'o. ❷一卷大科一卷 ❹志隱述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

瑜伽論科 ❶(B)Yu-ga-ron-kwa. (支)Yu-chieh-lun-k'o. ❷十四卷、中科一卷、大科一卷 ❹澄淨述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

瑜伽論科圖 ❶(B)Yu-ga-ron-kwa-zu. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(晉、さ・四・中・八)

瑜伽論科文 ❶(B)Yu-ga-ron-kwa-mon. ❷一卷 ❸存 ❹容禁(建仁元—正應三A.D.1201—1290)撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

瑜伽論決擇補闕抄 ❶(B) Yu-ga-ron-ketsu-chaku-fu-ketsu-shō. (支) Yu-chieh-lun-chüeh-chai-pu-ch'üeh-ch'ao. 瑜伽決擇補闕鈔 ❷五卷 ❹道峯述 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

瑜伽論古迹記 ❶(B) Yu-ga-ron-ko-shaku-ki. (支) Yu-ch'ieh-lun-ku-chi-chi. ❷四卷 ❹新羅太賢(—景德王一二A.D.752—)述 ❺菩薩藏阿毘達磨古迹の下參照。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

瑜伽論劫章頌 ❶(B) Yu-ga-ron-kō-shō-ju. (支)Yu-ch'ieh-lun-chieh-chang-sung. 劫章頌、瑜伽師地論劫章頌 ❷一卷 ❸存、卍續一・七五・三 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A.D.632—682)述 ❺本書は瑜伽師地論百卷中の劫に關する概念を頌文を以て纏めたるものにして、三十六頌を以て三千世界須彌四州の劫の變轉を明示せるものである。

❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

（橋本凝胤）

瑜伽論劫波羅義章 ❶(B) Yu-ga-ron-kō-ha-ra-gi-shō. (支)Yu-ch'ieh-lun-chieh-po-lo-i-chang. 劫波羅義章 ❷一卷 ❹神泰述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

瑜伽論釋 ❶(B)Yu-ga-ron-shaku. (支) Yu-ch'ieh-lun-shih. 瑜伽師地論釋 ❷一卷 ❸存、大正三〇・八八三No.1580、舊往七、卍二二・一、北577菲、南503菲、元526菲、明北1194退、清1194退、麗526壁、天524菲、指2528壁、法527壁、至1229嬾、明南1222心、Nj.1201 ❹最勝子等造、玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❺唐永徽元(A.D.650) ❻瑜伽師地論釋の下を見よ。 ❽刊本(晉、く・五・右・一五)

瑜伽論釋文集 ❶(B) Yu-ga-ron-shaku-mon-ju. (支) Yu-ch'ieh-lun-shih-wen-chi. 瑜伽論集 ❷三十卷或十卷 ❹浮玉述 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏

瑜伽論手記 ❶(B) Yu-ga-ron-shu

-ki. (支)Yū-ch'ieh-lun-shou-chi. 唯識論受十二手記 ❹四卷 ❺外 大正八・No. 2802 ❻法苑受〃 唯識類記

❼この書は法苑受十二手記と同じく唯識論受十二手を主題として唯識論の本文を手引きとして解釈したものであるが、前後に数段の序説を加えて、大正新脩大蔵経の中に入れられたものである。内容は巻一巻二は唯識論の中の巻第十一巻第十二巻の巻第十三巻第十四巻の巻第十五巻第十六巻の巻第十七巻第十八巻の巻第十九巻第二十巻の巻第二十一巻の巻第二十二巻の巻第二十三巻の巻第二十四巻の巻第二十五巻の巻第二十六巻の巻第二十七巻の巻第二十八巻の巻第二十九巻の巻第三十巻の巻第三十一巻の巻第三十二巻の巻第三十三巻の巻第三十四巻の巻第三十五巻の巻第三十六巻の巻第三十七巻の巻第三十八巻の巻第三十九巻の巻第四十巻の巻第四十一巻の巻第四十二巻の巻第四十三巻の巻第四十四巻の巻第四十五巻の巻第四十六巻の巻第四十七巻の巻第四十八巻の巻第四十九巻の巻第五十巻の巻第五十一巻の巻第五十二巻の巻第五十三巻の巻第五十四巻の巻第五十五巻の巻第五十六巻の巻第五十七巻の巻第五十八巻の巻第五十九巻の巻第六十巻の巻第六十一巻の巻第六十二巻の巻第六十三巻の巻第六十四巻の巻第六十五巻の巻第六十六巻の巻第六十七巻の巻第六十八巻の巻第六十九巻の巻第七十巻の巻第七十一巻の巻第七十二巻の巻第七十三巻の巻第七十四巻の巻第七十五巻の巻第七十六巻の巻第七十七巻の巻第七十八巻の巻第七十九巻の巻第八十巻の巻第八十一巻の巻第八十二巻の巻第八十三巻の巻第八十四巻の巻第八十五巻の巻第八十六巻の巻第八十七巻の巻第八十八巻の巻第八十九巻の巻第九十巻の巻第九十一巻の巻第九十二巻の巻第九十三巻の巻第九十四巻の巻第九十五巻の巻第九十六巻の巻第九十七巻の巻第九十八巻の巻第九十九巻の巻第百巻の巻第百一巻の巻第百二巻の巻第百三巻の巻第百四巻の巻第百五巻の巻第百六巻の巻第百七巻の巻第百八巻の巻第百九巻の巻第百十巻の巻第百十一巻の巻第百十二巻の巻第百十三巻の巻第百十四巻の巻第百十五巻の巻第百十六巻の巻第百十七巻の巻第百十八巻の巻第百十九巻の巻第百二十巻の巻第百二十一巻の巻第百二十二巻の巻第百二十三巻の巻第百二十四巻の巻第百二十五巻の巻第百二十六巻の巻第百二十七巻の巻第百二十八巻の巻第百二十九巻の巻第百三十巻の巻第百三十一巻の巻第百三十二巻の巻第百三十三巻の巻第百三十四巻の巻第百三十五巻の巻第百三十六巻の巻第百三十七巻の巻第百三十八巻の巻第百三十九巻の巻第百四十巻の巻第百四十一巻の巻第百四十二巻の巻第百四十三巻の巻第百四十四巻の巻第百四十五巻の巻第百四十六巻の巻第百四十七巻の巻第百四十八巻の巻第百四十九巻の巻第百五十巻の巻第百五十一巻の巻第百五十二巻の巻第百五十三巻の巻第百五十四巻の巻第百五十五巻の巻第百五十六巻の巻第百五十七巻の巻第百五十八巻の巻第百五十九巻の巻第百六十巻の巻第百六十一巻の巻第百六十二巻の巻第百六十三巻の巻第百六十四巻の巻第百六十五巻の巻第百六十六巻の巻第百六十七巻の巻第百六十八巻の巻第百六十九巻の巻第百七十巻の巻第百七十一巻の巻第百七十二巻の巻第百七十三巻の巻第百七十四巻の巻第百七十五巻の巻第百七十六巻の巻第百七十七巻の巻第百七十八巻の巻第百七十九巻の巻第百八十巻の巻第百八十一巻の巻第百八十二巻の巻第百八十三巻の巻第百八十四巻の巻第百八十五巻の巻第百八十六巻の巻第百八十七巻の巻第百八十八巻の巻第百八十九巻の巻第百九十巻の巻第百九十一巻の巻第百九十二巻の巻第百九十三巻の巻第百九十四巻の巻第百九十五巻の巻第百九十六巻の巻第百九十七巻の巻第百九十八巻の巻第百九十九巻の巻第二百巻の巻第二百一巻の巻第二百二巻の巻第二百三巻の巻第二百四巻の巻第二百五巻の巻第二百六巻の巻第二百七巻の巻第二百八巻の巻第二百九巻の巻第二百十巻の巻第二百十一巻の巻第二百十二巻の巻第二百十三巻の巻第二百十四巻の巻第二百十五巻の巻第二百十六巻の巻第二百十七巻の巻第二百十八巻の巻第二百十九巻の巻第二百二十巻の巻第二百二十一巻の巻第二百二十二巻の巻第二百二十三巻の巻第二百二十四巻の巻第二百二十五巻の巻第二百二十六巻の巻第二百二十七巻の巻第二百二十八巻の巻第二百二十九巻の巻第二百三十巻の巻第二百三十一巻の巻第二百三十二巻の巻第二百三十三巻の巻第二百三十四巻の巻第二百三十五巻の巻第二百三十六巻の巻第二百三十七巻の巻第二百三十八巻の巻第二百三十九巻の巻第二百四十巻の巻第二百四十一巻の巻第二百四十二巻の巻第二百四十三巻の巻第二百四十四巻の巻第二百四十五巻の巻第二百四十六巻の巻第二百四十七巻の巻第二百四十八巻の巻第二百四十九巻の巻第二百五十巻の巻第二百五十一巻の巻第二百五十二巻の巻第二百五十三巻の巻第二百五十四巻の巻第二百五十五巻の巻第二百五十六巻の巻第二百五十七巻の巻第二百五十八巻の巻第二百五十九巻の巻第二百六十巻の巻第二百六十一巻の巻第二百六十二巻の巻第二百六十三巻の巻第二百六十四巻の巻第二百六十五巻の巻第二百六十六巻の巻第二百六十七巻の巻第二百六十八巻の巻第二百六十九巻の巻第二百七十巻の巻第二百七十一巻の巻第二百七十二巻の巻第二百七十三巻の巻第二百七十四巻の巻第二百七十五巻の巻第二百七十六巻の巻第二百七十七巻の巻第二百七十八巻の巻第二百七十九巻の巻第二百八十巻の巻第二百八十一巻の巻第二百八十二巻の巻第二百八十三巻の巻第二百八十四巻の巻第二百八十五巻の巻第二百八十六巻の巻第二百八十七巻の巻第二百八十八巻の巻第二百八十九巻の巻第二百九十巻の巻第二百九十一巻の巻第二百九十二巻の巻第二百九十三巻の巻第二百九十四巻の巻第二百九十五巻の巻第二百九十六巻の巻第二百九十七巻の巻第二百九十八巻の巻第二百九十九巻の巻第三百巻の巻第三百一巻の巻第三百二巻の巻第三百三巻の巻第三百四巻の巻第三百五巻の巻第三百六巻の巻第三百七巻の巻第三百八巻の巻第三百九巻の巻第三百十巻の巻第三百十一巻の巻第三百十二巻の巻第三百十三巻の巻第三百十四巻の巻第三百十五巻の巻第三百十六巻の巻第三百十七巻の巻第三百十八巻の巻第三百十九巻の巻第三百二十巻の巻第三百二十一巻の巻第三百二十二巻の巻第三百二十三巻の巻第三百二十四巻の巻第三百二十五巻の巻第三百二十六巻の巻第三百二十七巻の巻第三百二十八巻の巻第三百二十九巻の巻第三百三十巻の巻第三百三十一巻の巻第三百三十二巻の巻第三百三十三巻の巻第三百三十四巻の巻第三百三十五巻の巻第三百三十六巻の巻第三百三十七巻の巻第三百三十八巻の巻第三百三十九巻の巻第三百四十巻の巻第三百四十一巻の巻第三百四十二巻の巻第三百四十三巻の巻第三百四十四巻の巻第三百四十五巻の巻第三百四十六巻の巻第三百四十七巻の巻第三百四十八巻の巻第三百四十九巻の巻第三百五十巻の巻第三百五十一巻の巻第三百五十二巻の巻第三百五十三巻の巻第三百五十四巻の巻第三百五十五巻の巻第三百五十六巻の巻第三百五十七巻の巻第三百五十八巻の巻第三百五十九巻の巻第三百六十巻の巻第三百六十一巻の巻第三百六十二巻の巻第三百六十三巻の巻第三百六十四巻の巻第三百六十五巻の巻第三百六十六巻の巻第三百六十七巻の巻第三百六十八巻の巻第三百六十九巻の巻第三百七十巻の巻第三百七十一巻の巻第三百七十二巻の巻第三百七十三巻の巻第三百七十四巻の巻第三百七十五巻の巻第三百七十六巻の巻第三百七十七巻の巻第三百七十八巻の巻第三百七十九巻の巻第三百八十巻の巻第三百八十一巻の巻第三百八十二巻の巻第三百八十三巻の巻第三百八十四巻の巻第三百八十五巻の巻第三百八十六巻の巻第三百八十七巻の巻第三百八十八巻の巻第三百八十九巻の巻第三百九十巻の巻第三百九十一巻の巻第三百九十二巻の巻第三百九十三巻の巻第三百九十四巻の巻第三百九十五巻の巻第三百九十六巻の巻第三百九十七巻の巻第三百九十八巻の巻第三百九十九巻の巻第四百巻の巻第四百一巻の巻第四百二巻の巻第四百三巻の巻第四百四巻の巻第四百五巻の巻第四百六巻の巻第四百七巻の巻第四百八巻の巻第四百九巻の巻第四百十巻の巻第四百十一巻の巻第四百十二巻の巻第四百十三巻の巻第四百十四巻の巻第四百十五巻の巻第四百十六巻の巻第四百十七巻の巻第四百十八巻の巻第四百十九巻の巻第四百二十巻の巻第四百二十一巻の巻第四百二十二巻の巻第四百二十三巻の巻第四百二十四巻の巻第四百二十五巻の巻第四百二十六巻の巻第四百二十七巻の巻第四百二十八巻の巻第四百二十九巻の巻第四百三十巻の巻第四百三十一巻の巻第四百三十二巻の巻第四百三十三巻の巻第四百三十四巻の巻第四百三十五巻の巻第四百三十六巻の巻第四百三十七巻の巻第四百三十八巻の巻第四百三十九巻の巻第四百四十巻の巻第四百四十一巻の巻第四百四十二巻の巻第四百四十三巻の巻第四百四十四巻の巻第四百四十五巻の巻第四百四十六巻の巻第四百四十七巻の巻第四百四十八巻の巻第四百四十九巻の巻第四百五十巻の巻第四百五十一巻の巻第四百五十二巻の巻第四百五十三巻の巻第四百五十四巻の巻第四百五十五巻の巻第四百五十六巻の巻第四百五十七巻の巻第四百五十八巻の巻第四百五十九巻の巻第四百六十巻の巻第四百六十一巻の巻第四百六十二巻の巻第四百六十三巻の巻第四百六十四巻の巻第四百六十五巻の巻第四百六十六巻の巻第四百六十七巻の巻第四百六十八巻の巻第四百六十九巻の巻第四百七十巻の巻第四百七十一巻の巻第四百七十二巻の巻第四百七十三巻の巻第四百七十四巻の巻第四百七十五巻の巻第四百七十六巻の巻第四百七十七巻の巻第四百七十八巻の巻第四百七十九巻の巻第四百八十巻の巻第四百八十一巻の巻第四百八十二巻の巻第四百八十三巻の巻第四百八十四巻の巻第四百八十五巻の巻第四百八十六巻の巻第四百八十七巻の巻第四百八十八巻の巻第四百八十九巻の巻第四百九十巻の巻第四百九十一巻の巻第四百九十二巻の巻第四百九十三巻の巻第四百九十四巻の巻第四百九十五巻の巻第四百九十六巻の巻第四百九十七巻の巻第四百九十八巻の巻第四百九十九巻の巻第五百巻の巻第五百一巻の巻第五百二巻の巻第五百三巻の巻第五百四巻の巻第五百五巻の巻第五百六巻の巻第五百七巻の巻第五百八巻の巻第五百九巻の巻第五百十巻の巻第五百十一巻の巻第五百十二巻の巻第五百十三巻の巻第五百十四巻の巻第五百十五巻の巻第五百十六巻の巻第五百十七巻の巻第五百十八巻の巻第五百十九巻の巻第五百二十巻の巻第五百二十一巻の巻第五百二十二巻の巻第五百二十三巻の巻第五百二十四巻の巻第五百二十五巻の巻第五百二十六巻の巻第五百二十七巻の巻第五百二十八巻の巻第五百二十九巻の巻第五百三十巻の巻第五百三十一巻の巻第五百三十二巻の巻第五百三十三巻の巻第五百三十四巻の巻第五百三十五巻の巻第五百三十六巻の巻第五百三十七巻の巻第五百三十八巻の巻第五百三十九巻の巻第五百四十巻の巻第五百四十一巻の巻第五百四十二巻の巻第五百四十三巻の巻第五百四十四巻の巻第五百四十五巻の巻第五百四十六巻の巻第五百四十七巻の巻第五百四十八巻の巻第五百四十九巻の巻第五百五十巻の巻第五百五十一巻の巻第五百五十二巻の巻第五百五十三巻の巻第五百五十四巻の巻第五百五十五巻の巻第五百五十六巻の巻第五百五十七巻の巻第五百五十八巻の巻第五百五十九巻の巻第五百六十巻の巻第五百六十一巻の巻第五百六十二巻の巻第五百六十三巻の巻第五百六十四巻の巻第五百六十五巻の巻第五百六十六巻の巻第五百六十七巻の巻第五百六十八巻の巻第五百六十九巻の巻第五百七十巻の巻第五百七十一巻の巻第五百七十二巻の巻第五百七十三巻の巻第五百七十四巻の巻第五百七十五巻の巻第五百七十六巻の巻第五百七十七巻の巻第五百七十八巻の巻第五百七十九巻の巻第五百八十巻の巻第五百八十一巻の巻第五百八十二巻の巻第五百八十三巻の巻第五百八十四巻の巻第五百八十五巻の巻第五百八十六巻の巻第五百八十七巻の巻第五百八十八巻の巻第五百八十九巻の巻第五百九十巻の巻第五百九十一巻の巻第五百九十二巻の巻第五百九十三巻の巻第五百九十四巻の巻第五百九十五巻の巻第五百九十六巻の巻第五百九十七巻の巻第五百九十八巻の巻第五百九十九巻の巻第六百巻の巻第六百一巻の巻第六百二巻の巻第六百三巻の巻第六百四巻の巻第六百五巻の巻第六百六巻の巻第六百七巻の巻第六百八巻の巻第六百九巻の巻第六百十巻の巻第六百十一巻の巻第六百十二巻の巻第六百十三巻の巻第六百十四巻の巻第六百十五巻の巻第六百十六巻の巻第六百十七巻の巻第六百十八巻の巻第六百十九巻の巻第六百二十巻の巻第六百二十一巻の巻第六百二十二巻の巻第六百二十三巻の巻第六百二十四巻の巻第六百二十五巻の巻第六百二十六巻の巻第六百二十七巻の巻第六百二十八巻の巻第六百二十九巻の巻第六百三十巻の巻第六百三十一巻の巻第六百三十二巻の巻第六百三十三巻の巻第六百三十四巻の巻第六百三十五巻の巻第六百三十六巻の巻第六百三十七巻の巻第六百三十八巻の巻第六百三十九巻の巻第六百四十巻の巻第六百四十一巻の巻第六百四十二巻の巻第六百四十三巻の巻第六百四十四巻の巻第六百四十五巻の巻第六百四十六巻の巻第六百四十七巻の巻第六百四十八巻の巻第六百四十九巻の巻第六百五十巻の巻第六百五十一巻の巻第六百五十二巻の巻第六百五十三巻の巻第六百五十四巻の巻第六百五十五巻の巻第六百五十六巻の巻第六百五十七巻の巻第六百五十八巻の巻第六百五十九巻の巻第六百六十巻の巻第六百六十一巻の巻第六百六十二巻の巻第六百六十三巻の巻第六百六十四巻の巻第六百六十五巻の巻第六百六十六巻の巻第六百六十七巻の巻第六百六十八巻の巻第六百六十九巻の巻第六百七十巻の巻第六百七十一巻の巻第六百七十二巻の巻第六百七十三巻の巻第六百七十四巻の巻第六百七十五巻の巻第六百七十六巻の巻第六百七十七巻の巻第六百七十八巻の巻第六百七十九巻の巻第六百八十巻の巻第六百八十一巻の巻第六百八十二巻の巻第六百八十三巻の巻第六百八十四巻の巻第六百八十五巻の巻第六百八十六巻の巻第六百八十七巻の巻第六百八十八巻の巻第六百八十九巻の巻第六百九十巻の巻第六百九十一巻の巻第六百九十二巻の巻第六百九十三巻の巻第六百九十四巻の巻第六百九十五巻の巻第六百九十六巻の巻第六百九十七巻の巻第六百九十八巻の巻第六百九十九巻の巻第七百巻の巻第七百一巻の巻第七百二巻の巻第七百三巻の巻第七百四巻の巻第七百五巻の巻第七百六巻の巻第七百七巻の巻第七百八巻の巻第七百九巻の巻第七百十巻の巻第七百十一巻の巻第七百十二巻の巻第七百十三巻の巻第七百十四巻の巻第七百十五巻の巻第七百十六巻の巻第七百十七巻の巻第七百十八巻の巻第七百十九巻の巻第七百二十巻の巻第七百二十一巻の巻第七百二十二巻の巻第七百二十三巻の巻第七百二十四巻の巻第七百二十五巻の巻第七百二十六巻の巻第七百二十七巻の巻第七百二十八巻の巻第七百二十九巻の巻第七百三十巻の巻第七百三十一巻の巻第七百三十二巻の巻第七百三十三巻の巻第七百三十四巻の巻第七百三十五巻の巻第七百三十六巻の巻第七百三十七巻の巻第七百三十八巻の巻第七百三十九巻の巻第七百四十巻の巻第七百四十一巻の巻第七百四十二巻の巻第七百四十三巻の巻第七百四十四巻の巻第七百四十五巻の巻第七百四十六巻の巻第七百四十七巻の巻第七百四十八巻の巻第七百四十九巻の巻第七百五十巻の巻第七百五十一巻の巻第七百五十二巻の巻第七百五十三巻の巻第七百五十四巻の巻第七百五十五巻の巻第七百五十六巻の巻第七百五十七巻の巻第七百五十八巻の巻第七百五十九巻の巻第七百六十巻の巻第七百六十一巻の巻第七百六十二巻の巻第七百六十三巻の巻第七百六十四巻の巻第七百六十五巻の巻第七百六十六巻の巻第七百六十七巻の巻第七百六十八巻の巻第七百六十九巻の巻第七百七十巻の巻第七百七十一巻の巻第七百七十二巻の巻第七百七十三巻の巻第七百七十四巻の巻第七百七十五巻の巻第七百七十六巻の巻第七百七十七巻の巻第七百七十八巻の巻第七百七十九巻の巻第七百八十巻の巻第七百八十一巻の巻第七百八十二巻の巻第七百八十三巻の巻第七百八十四巻の巻第七百八十五巻の巻第七百八十六巻の巻第七百八十七巻の巻第七百八十八巻の巻第七百八十九巻の巻第七百九十巻の巻第七百九十一巻の巻第七百九十二巻の巻第七百九十三巻の巻第七百九十四巻の巻第七百九十五巻の巻第七百九十六巻の巻第七百九十七巻の巻第七百九十八巻の巻第七百九十九巻の巻第八百巻の巻第八百一巻の巻第八百二巻の巻第八百三巻の巻第八百四巻の巻第八百五巻の巻第八百六巻の巻第八百七巻の巻第八百八巻の巻第八百九巻の巻第八百十巻の巻第八百十一巻の巻第八百十二巻の巻第八百十三巻の巻第八百十四巻の巻第八百十五巻の巻第八百十六巻の巻第八百十七巻の巻第八百十八巻の巻第八百十九巻の巻第八百二十巻の巻第八百二十一巻の巻第八百二十二巻の巻第八百二十三巻の巻第八百二十四巻の巻第八百二十五巻の巻第八百二十六巻の巻第八百二十七巻の巻第八百二十八巻の巻第八百二十九巻の巻第八百三十巻の巻第八百三十一巻の巻第八百三十二巻の巻第八百三十三巻の巻第八百三十四巻の巻第八百三十五巻の巻第八百三十六巻の巻第八百三十七巻の巻第八百三十八巻の巻第八百三十九巻の巻第八百四十巻の巻第八百四十一巻の巻第八百四十二巻の巻第八百四十三巻の巻第八百四十四巻の巻第八百四十五巻の巻第八百四十六巻の巻第八百四十七巻の巻第八百四十八巻の巻第八百四十九巻の巻第八百五十巻の巻第八百五十一巻の巻第八百五十二巻の巻第八百五十三巻の巻第八百五十四巻の巻第八百五十五巻の巻第八百五十六巻の巻第八百五十七巻の巻第八百五十八巻の巻第八百五十九巻の巻第八百六十巻の巻第八百六十一巻の巻第八百六十二巻の巻第八百六十三巻の巻第八百六十四巻の巻第八百六十五巻の巻第八百六十六巻の巻第八百六十七巻の巻第八百六十八巻の巻第八百六十九巻の巻第八百七十巻の巻第八百七十一巻の巻第八百七十二巻の巻第八百七十三巻の巻第八百七十四巻の巻第八百七十五巻の巻第八百七十六巻の巻第八百七十七巻の巻第八百七十八巻の巻第八百七十九巻の巻第八百八十巻の巻第八百八十一巻の巻第八百八十二巻の巻第八百八十三巻の巻第八百八十四巻の巻第八百八十五巻の巻第八百八十六巻の巻第八百八十七巻の巻第八百八十八巻の巻第八百八十九巻の巻第八百九十巻の巻第八百九十一巻の巻第八百九十二巻の巻第八百九十三巻の巻第八百九十四巻の巻第八百九十五巻の巻第八百九十六巻の巻第八百九十七巻の巻第八百九十八巻の巻第八百九十九巻の巻第九百巻の巻第九百一巻の巻第九百二巻の巻第九百三巻の巻第九百四巻の巻第九百五巻の巻第九百六巻の巻第九百七巻の巻第九百八巻の巻第九百九巻の巻第九百十巻の巻第九百十一巻の巻第九百十二巻の巻第九百十三巻の巻第九百十四巻の巻第九百十五巻の巻第九百十六巻の巻第九百十七巻の巻第九百十八巻の巻第九百十九巻の巻第九百二十巻の巻第九百二十一巻の巻第九百二十二巻の巻第九百二十三巻の巻第九百二十四巻の巻第九百二十五巻の巻第九百二十六巻の巻第九百二十七巻の巻第九百二十八巻の巻第九百二十九巻の巻第九百三十巻の巻第九百三十一巻の巻第九百三十二巻の巻第九百三十三巻の巻第九百三十四巻の巻第九百三十五巻の巻第九百三十六巻の巻第九百三十七巻の巻第九百三十八巻の巻第九百三十九巻の巻第九百四十巻の巻第九百四十一巻の巻第九百四十二巻の巻第九百四十三巻の巻第九百四十四巻の巻第九百四十五巻の巻第九百四十六巻の巻第九百四十七巻の巻第九百四十八巻の巻第九百四十九巻の巻第九百五十巻の巻第九百五十一巻の巻第九百五十二巻の巻第九百五十三巻の巻第九百五十四巻の巻第九百五十五巻の巻第九百五十六巻の巻第九百五十七巻の巻第九百五十八巻の巻第九百五十九巻の巻第九百六十巻の巻第九百六十一巻の巻第九百六十二巻の巻第九百六十三巻の巻第九百六十四巻の巻第九百六十五巻の巻第九百六十六巻の巻第九百六十七巻の巻第九百六十八巻の巻第九百六十九巻の巻第九百七十巻の巻第九百七十一巻の巻第九百七十二巻の巻第九百七十三巻の巻第九百七十四巻の巻第九百七十五巻の巻第九百七十六巻の巻第九百七十七巻の巻第九百七十八巻の巻第九百七十九巻の巻第九百八十巻の巻第九百八十一巻の巻第九百八十二巻の巻第九百八十三巻の巻第九百八十四巻の巻第九百八十五巻の巻第九百八十六巻の巻第九百八十七巻の巻第九百八十八巻の巻第九百八十九巻の巻第九百九十巻の巻第九百九十一巻の巻第九百九十二巻の巻第九百九十三巻の巻第九百九十四巻の巻第九百九十五巻の巻第九百九十六巻の巻第九百九十七巻の巻第九百九十八巻の巻第九百九十九巻の巻第百巻の巻第百一巻の巻第百二巻の巻第百三巻の巻第百四巻の巻第百五巻の巻第百六巻の巻第百七巻の巻第百八巻の巻第百九巻の巻第百十巻の巻第百十一巻の巻第百十二巻の巻第百十三巻の巻第百十四巻の巻第百十五巻の巻第百十六巻の巻第百十七巻の巻第百十八巻の巻第百十九巻の巻第百二十巻の巻第百二十一巻の巻第百二十二巻の巻第百二十三巻の巻第百二十四巻の巻第百二十五巻の巻第百二十六巻の巻第百二十七巻の巻第百二十八巻の巻第百二十九巻の巻第百三十巻の巻第百三十一巻の巻第百三十二巻の巻第百三十三巻の巻第百三十四巻の巻第百三十五巻の巻第百三十六巻の巻第百三十七巻の巻第百三十八巻の巻第百三十九巻の巻第百四十巻の巻第百四十一巻の巻第百四十二巻の巻第百四十三巻の巻第百四十四巻の巻第百四十五巻の巻第百四十六巻の巻第百四十七巻の巻第百四十八巻の巻第百四十九巻の巻第百五十巻の巻第百五十一巻の巻第百五十二巻の巻第百五十三巻の巻第百五十四巻の巻第百五十五巻の巻第百五十六巻の巻第百五十七巻の巻第百五十八巻の巻第百五十九巻の巻第百六十巻の巻第百六十一巻の巻第百六十二巻の巻第百六十三巻の巻第百六十四巻の巻第百六十五巻の巻第百六十六巻の巻第百六十七巻の巻第百六十八巻の巻第百六十九巻の巻第百七十巻の巻第百七十一巻の巻第百七十二巻の巻第百七十三巻の巻第百七十四巻の巻第百七十五巻の巻第百七十六巻の巻第百七十七巻の巻第百七十八巻の巻第百七十九巻の巻第百八十巻の巻第百八十一巻の巻第百八十二巻の巻第百八十三巻の巻第百八十四巻の巻第百八十五巻の巻第百八十六巻の巻第百八十七巻の巻第百八十八巻の巻第百八十九巻の巻第百九十巻の巻第百九十一巻の巻第百九十二巻の巻第百九十三巻の巻第百九十四巻の巻第百九十五巻の巻第百九十六巻の巻第百九十七巻の巻第百九十八巻の巻第百九十九巻の巻第二百巻の巻第二百一巻の巻第二百二巻の巻第二百三巻の巻第二百四巻の巻第二百五巻の巻第二百六巻の巻第二百七巻の巻第二百八巻の巻第二百九巻の巻第二百十巻の巻第二百十一巻の巻第二百十二巻の巻第二百十三巻の巻第二百十四巻の巻第二百十五巻の巻第二百十六巻の巻第二百十七巻の巻第二百十八巻の巻第二百十九巻の巻第二百二十巻の巻第二百二十一巻の巻第二百二十二巻の巻第二百二十三巻の巻第二百二十四巻の巻第二百二十五巻の巻第二百二十六巻の巻第二百二十七巻の巻第二百二十八巻の巻第二百二十九巻の巻第二百三十巻の巻第二百三十一巻の巻第二百三十二巻の巻第二百三十三巻の巻第二百三十四巻の巻第二百三十五巻の巻第二百三十六巻の巻第二百三十七巻の巻第二百三十八巻の巻第二百三十九巻の巻第二百四十巻の巻第二百四十一巻の巻第二百四十二巻の巻第二百四十三巻の巻第二百四十四巻の巻第二百四十五巻の巻第二百四十六巻の巻第二百四十七巻の巻第二百四十八巻の巻第二百四十九巻の巻第二百五十巻の巻第二百五十一巻の巻第二百五十二巻の巻第二百五十三巻の巻第二百五十四巻の巻第二百五十五巻の巻第二百五十六巻の巻第二百五十七巻の巻第二百五十八巻の巻第二百五十九巻の巻第二百六十巻の巻第二百六十一巻の巻第二百六十二巻の巻第二百六十三巻の巻第二百六十四巻の巻第二百六十五巻の巻第二百六十六巻の巻第二百六十七巻の巻第二百六十八巻の巻第二百六十九巻の巻第二百七十巻の巻第二百七十一巻の巻第二百七十二巻の巻第二百七十三巻の巻第二百七十四巻の巻第二百七十五巻の巻第二百七十六巻の巻第二百七十七巻の巻第二百七十八巻の巻第二百七十九巻の巻第二百八十巻の巻第二百八十一巻の巻第二百八十二巻の巻第二百八十三巻の巻第二百八十四巻の巻第二百八十五巻の巻第二百八十六巻の巻第二百八十七巻の巻第二百八十八巻の巻第二百八十九巻の巻第二百九十巻の巻第二百九十一巻の巻第二百九十二巻の巻第二百九十三巻の巻第二百九十四巻の巻第二百九十五巻の巻第二百九十六巻の巻第二百九十七巻の巻第二百九十八巻の巻第二百九十九巻の巻第三百巻の巻第三百一巻の巻第三百二巻の巻第三百三巻の巻第三百四巻の巻第三百五巻の巻第三百六巻の巻第三百七巻の巻第三百八巻の巻第三百九巻の巻第三百十巻の巻第三百十一巻の巻第三百十二巻の巻第三百十三巻の巻第三百十四巻の巻第三百十五巻の巻第三百十六巻の巻第三百十七巻の巻第三百十八巻の巻第三百十九巻の巻第三百二十巻の巻第三百二十一巻の巻第三百二十二巻の巻第三百二十三巻の巻第三百二十四巻の巻第三百二十五巻の巻第三百二十六巻の巻第三百二十七巻の巻第三百二十八巻の巻第三百二十九巻の巻第三百三十巻の巻第三百三十一巻の巻第三百三十二巻の巻第三百三十三巻の巻第三百三十四巻の巻第三百三十五巻の巻第三百三十六巻の巻第三百三十七巻の巻第三百三十八巻の巻第三百三十九巻の巻第三百四十巻の巻第三百四十一巻の巻第三百四十二巻の巻第三百四十三巻の巻第三百四十四巻の巻第三百四十五巻の巻第三百四十六巻の巻第三百四十七巻の巻第三百四十八巻の巻第三百四十九巻の巻第三百五十巻の巻第三百五十一巻の巻第三百五十二巻の巻第三百五十三巻の巻第三百五十四巻の巻第三百五十五巻の巻第三百五十六巻の巻第三百五十七巻の巻第三百五十八巻の巻第三百五十九巻の巻第三百六十巻の巻第三百六十一巻の巻第三百六十二巻の巻第三百六十三巻の巻第三百六十四巻の巻第三百六十五巻の巻第三百六十六巻の巻第三百六十七巻の巻第三百六十八巻の巻第三百六十九巻の巻第三百七十巻の巻第三百七十一巻の巻第三百七十二巻の巻第三百七十三巻の巻第三百七十四巻の巻第三百七十五巻の巻第三百七十六巻の巻第三百七十七巻の巻第三百七十八巻の巻第三百七十九巻の巻第三百八十巻の巻第三百八十一巻の巻第三百八十二巻の巻第三百八十三巻の巻第三百八十四巻の巻第三百八十五巻の巻第三百八十六巻の巻第三百八十七巻の巻第三百八十八巻の巻第三百八十九巻の巻第三百九十巻の巻第三百九十一巻の巻第三百九十二巻の巻第三百九十三巻の巻第三百九十四巻の巻第三百九十五巻の巻第三百九十六巻の巻第三百九十七巻の巻第三百九十八巻の巻第三百九十九巻の巻第四百巻の巻第四百一巻の巻第四百二巻の巻第四百三巻の巻第四百四巻の巻第四百五巻の巻第四百六巻の巻第四百七巻の巻第四百八巻の巻第四百九巻の巻第四百十巻の巻第四百十一巻の巻第四百十二巻の巻第四百十三巻の巻第四百十四巻の巻第四百十五巻の巻第四百十六巻の巻第四百十七巻の巻第四百十八巻の巻第四百十九巻の巻第四百二十巻の巻第四百二十一巻の巻第四百二十二巻の巻第四百二十三巻の巻第四百二十四巻の巻第四百二十五巻の巻第四百二十六巻の巻第四百二十七巻の巻第四百二十八巻の巻第四百二十九巻の巻第四百三十巻の巻第四百三十一巻の巻第四百三十二巻の巻第四百三十三巻の巻第四百三十四巻の巻第四百三十五巻の巻第四百三十六巻の巻第四百三十七巻の巻第四百三十八巻の巻第四百三十九巻の巻第四百四十巻の巻第四百四十一巻の巻第四百四十二巻の巻第四百四十三巻の巻第四百四十四巻の巻第四百四十五巻の巻第四百四十六巻の巻第四百四十七巻の巻第四百四十八巻の巻第四百四十九巻の巻第四百五十巻の巻第四百五十一巻の巻第四百五十二巻の巻第四百五十三巻の巻第四百五十四巻の巻第四百五十五巻の巻第四百五十六巻の巻第四百五十七巻の巻第四百五十八巻の巻第四百五十九巻の巻第四百六十巻の巻第四百六十一巻の巻第四百六十二巻の巻第四百六十三巻の巻第四百六十四巻の巻第四百六十五巻の巻第四百六十六巻の巻第四百六十七巻の巻第四百六十八巻の巻第四百六十九巻の巻第四百七十巻の巻第四百七十一巻の巻第四百七十二巻の巻第四百七十三巻の巻第四百七十四巻の巻第四百七十五巻の巻第四百七十六巻の巻第四百七十七巻の巻第四百七十八巻の巻第四百七十九巻の巻第四百八十巻の巻第四百八十一巻の巻第四百八十二巻の巻第四百八十三巻の巻第四百八十四巻の巻第四百八十五巻の巻第四百八十六巻の巻第四百八十七巻の巻第四百八十八巻の巻第四百八十九巻の巻第四百九十巻の巻第四百九十一巻の巻第四百九十二巻の巻第四百九十三巻の巻第四百九十四巻の巻第四百九十五巻の巻第四百九十六巻の巻第四百九十七巻の巻第四百九十八巻の巻第四百九十九巻の巻第五百巻の巻第五百一巻の巻第五百二巻の巻第五百三巻の巻第五百四巻の巻第五百五巻の巻第五百六巻の巻第五百七巻の巻第五百八巻の巻第五百九巻の巻第五百十巻の巻第五百十一巻の巻第五百十二巻の巻第五百十三巻の巻第五百十四巻の巻第五百十五巻の巻第五百十六巻の巻第五百十七巻の巻第五百十八巻の巻第五百十九巻の巻第五百二十巻の巻第五百二十一巻の巻第五百二十二巻の巻第五百二十三巻の巻第五百二十四巻の巻第五百二十五巻の巻第五百二十六巻の巻第五百二十七巻の巻第五百二十八巻の巻第五百二十九巻の巻第五百三十巻の巻第五百三十一巻の巻第五百三十二巻の巻第五百三十三巻の巻第五百三十四巻の巻第五百三十五巻の巻第五百三十六巻の巻第五百三十七巻の巻第五百三十八巻の巻第五百三十九巻の巻第五百四十巻の巻第五百四十一巻の巻第五百四十二巻の巻第五百四十三巻の巻第五百四十四巻の巻第五百四十五巻の巻第五百四十六巻の巻第五百四十七巻の巻第五百四十八巻の巻第五百四十九巻の巻第五百五十巻の巻第五百五十一巻の巻第五百五十二巻の巻第五百五十三巻の巻第五百五十四巻の巻第五百五十五巻の巻第五百五十六巻の巻第五百五十七巻の巻第五百五十八巻の巻第五百五十九巻の巻第五百六十巻の巻第五百六十一巻の巻第五百六十二巻の巻第五百六十三巻の巻第五百六十四巻の巻第五百六十五巻の巻第五百六十六巻の巻第五百六十七巻の巻第五百六十八巻の巻第五百六十九巻の巻第五百七十巻の巻第五百七十一巻の巻第五百七十二巻の巻第五百七十三巻の巻第五百七十四巻の巻第五百七十五巻の巻第五百七十六巻の巻第五百七十七巻の巻第五百七十八巻の巻第五百七十九巻の巻第五百八十巻の巻第五百八十一巻の巻第五百八十二巻の巻第五百八十三巻の巻第五百八十四巻の巻第五百八十五巻の巻第五百八十六巻の巻第五百八十七巻の巻第五百八十八巻の巻第五百八十九巻の巻第五百九十巻の巻第五百九十一巻の巻第五百九十二巻の巻第五百九十三巻の巻第五百九十四巻の巻第五百九十五巻の巻第五百九十六巻の巻第五百九十七巻の巻第五百九十八巻の巻第五百九十九巻の巻第六百巻の巻第六百一巻の巻第六百二巻の巻第六百三巻の巻第六百四巻の巻第六百五巻の巻第六百六巻の巻第六百七巻の巻第六百八巻の巻第六百九巻の巻第六百十巻の巻第六百十一巻の巻第六百十二巻の巻第六百十三巻の巻第六百十四巻の巻第六百十五巻の巻第六百十六巻の巻第六百十七巻の巻第六百十八巻の巻第六百十九巻の巻第六百二十巻の巻第六百二十一巻の巻第六百二十二巻の巻第六百二十三巻の巻第六百二十四巻の巻第六百二十五巻の巻第六百二十六巻の巻第六百二十七巻の巻第六百二十八巻の巻第六百二十九巻の巻第六百三十巻の巻第六百三十一巻の巻第六百三十二巻の巻第六百三十三巻の巻第六百三十四巻の巻第六百三十五巻の巻第六百三十六巻の巻第六百三十七巻

瑜祇經口決 ❶(B) Yu-gi-kyō-kuketsu. ❷八卷 ❸存 ❹光宗(一正和頃A. D.1312—1316—)記 ❺慶長二寫 ❻(南溪藏)

瑜祇經口決 ❶(B) Yu-gi-kyō-kuketsu. ❷五卷 ❸存 ❹道範(元暦元—建長四A. D.1184—1252) ❺仁治二(A. D. 1241) ❻寫本(寶壽院)

瑜祇經口決鈔 ❶(B) Yu-gi-kyō-kuketsu-shō. ❷五冊 ❸存 ❹寫本(哲、く・一・右・一九)

瑜祇經口訣 ❶(B) Yu-gi-kyō-kuketsu. 瑜祇經見聞 ❷三卷 ❸存 ❹傳法和尚(正元元—貞和六A. D.1259—1350)撰 ❺寫本(南溪藏)

瑜祇經口傳 ❶(B) Yu-gi-kyō-kuden. 瑜祇經傳授口傳、瑜祇秘密口傳抄 ❷三卷 ❸存 ❹道範(元暦元—建長四A. D.1184—1252)記 ❺貞應三(A. D. 1224)

瑜祇經灌頂儀式 ❶(B) Yu-gi-kyō-kwan-jō-gi-shiki. ❷一冊 ❸存 ❹足利中期寫 ❺(金剛三昧院)

瑜祇經灌頂執行記 ❶(B) Yu-gi-kyō-kwan-jō-shi-kyō-ki. ❸存 ❹俊圭師 ❺慶長二〇寫 ❻(金剛三昧院)

瑜祇經見聞 ❶(B) Yu-gi-kyō-kenmon. 瑜祇經口訣 ❷三卷或一卷 ❸存 ❹圓爾辨圓(建仁二—弘安三A. D.1202—1280)述 ❺寫本(京大、日大・未・七二)

瑜祇經御遺告重聞書 ❶(B) Yu-gi-kyō-go-yui-go-kiki-gaki. ❷二卷 ❸金剛峰樓閣瑜伽瑜祇經修行法の下を見よ。

瑜祇經次第 ❶(B) Yu-gi-kyō-shidai. ❷三帖 ❸存 ❹康治二寫 ❺(寶菩提院)

瑜祇經私記 ❶(B) Yu-gi-kyō-shi-ki. ❷一冊 ❸存 ❹姉崎記 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

瑜祇經私記 ❶(B) Yu-gi-kyō-shi-ki. ❷一冊 ❸存 ❹快雲(一—永享五A. D. 1433)記 ❺享保二寫 ❻(金剛三昧院)

瑜祇經私記 ❶(B) Yu-gi-kyō-shi-ki. ❷七卷或八卷 ❸存 ❹義寂(延寶二寫保二A. D.1674—1742)述 ❺寫保二(A. D. 1742) ❻(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經釋 ❶(B) Yu-gi-kyō-shaku. ❷和瑜(永暦二—寿元二A. D. 1295—1304)述 ❻(參考) 諸宗章疏錄第三

瑜祇經手印 ❶(B) Yu-gi-kyō-shu-in. 瑜祇經行私記、瑜祇經總行記、瑜祇總行記、瑜祇行法抄、瑜祇口傳 ❷一卷 ❸存、大正六・一・五〇四No. 2225、日本大藏經第一七密教部章疏下第二 ❹眞寂(仁和二—延長五A. D. 886—937)撰 ❺瑜祇總行私記の下を見よ。

瑜祇經修行法 ❶(B) Yu-gi-kyō-shu-gyō-hō. 金剛峰樓閣瑜伽瑜祇經修行法、瑜祇經修行法記、瑜祇經行法次第、瑜祇行法記 ❷三卷 ❸存、大正六・一・四八五No. 2225、日本大藏經第一七密教部章疏下第二 ❹安然(永和八—延喜年間A. D. 861—931—)述 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

瑜祇經拾古鈔 ❶(B) Yu-gi-kyō-shū-kō-shō. ❷三卷 ❸存、日本大藏經第一七密經部章疏第二 ❹祖瑜(嘉暦二—嘉元二A. D. 1327—1334)述 ❺瑜祇經は兩部不二の深旨を說ける秘經として尊重せられ、東台二密に亘りて異說あり、台密寺門は一經皆大藏金剛三昧を說くと云ひ、台密山門は一經悉く佛眼の三昧を說くと云ひ、東密の傳は愛染金剛薩埵の三昧を說くと云ふ。當經の末註東台二密に幾多あり、此の瑜祇經拾古鈔三卷は上卷重書に、先年之比於醍醐寺草之、今於根來寺加點畢と云ひ、下卷奥書に弘安七年三月中旬記之畢、報—(生年五十九)、同十年十二月二十三日於紀伊洲根來寺加點畢、金剛資、報—(生年六十三)、と云ふ。これに依りて觀れば弘安七年三月中旬、醍醐寺に於て、これを草し、同十年根來寺に於て加點したやうである。初めに題目を釋し、次に經文を釋すに先匠の著作口說を引き、詳細に所說して居る。瑜祇經末書中優秀なるものである。

❻足利時代及永正八及文明一四寫(寶龜院) 萬治元刊(谷大、微大・三一一三〇・一三二)、立大、A二〇・一二七〇、貴、お・八・法・二六〇、京專)

瑜祇經拾要記 ❶(B) Yu-gi-kyō-shū-yō-ki. ❷五卷 ❸存 ❹隆瑜(安永二—嘉永三A. D.1773—1850)述 ❺天保六(高井觀海)

瑜祇經疏 ❶(B) Yu-gi-kyō-sho. (支) Yu-zhi-jing-shu. 金剛峰樓閣一切瑜伽瑜祇經修行法、瑜祇經修行法、瑜祇經行法記、瑜祇經行法次第、瑜祇行法記 ❷三卷 ❸存、大正六・一・四八五No. 2225、日本大藏經第一七密教部章疏第二、天台宗叢書第四 ❹安然(永和八—延喜年間A. D. 861—931—)述 ❺金剛峰樓閣瑜伽瑜祇經修行法の下を見よ。 ❻(參考) 本朝台密撰述密部書目 ❼南北朝時代及足利初期寫(高大、寄・一・三六)天明四刊(龍大、二四一八・五三)

瑜祇經疏抄目錄 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō-sho-mokuroku. ❷一帖 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・五〇)

瑜祇經抄 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō. ❷三卷 ❸存 ❹澄豪(正元元—貞和六A. D. 1259—1350) ❺(參考) 天台宗全書刊行豫定書目

瑜祇經抄 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹勝遍(永萬元—貞應二A. D. 1165—1223)撰 ❺(參考) 大日本佛教全書敍刊豫定書目、舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經抄 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō. ❷一帖 ❸存 ❹南北朝及鎌倉時代寫? ❺(寶菩提院)

瑜祇經鈔 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō. ❷二卷 ❸存 ❹行遍(長和元—文永元A. D. 1012—1264) ❺(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

(A. D. 1253)六月

瑜祇經疏 ❶(B) Yu-gi-kyō-sho. (支) Yu-zhi-jing-shu. 金剛峰樓閣一切瑜伽瑜祇經修行法、瑜祇經修行法、瑜祇經行法記、瑜祇經行法次第、瑜祇行法記 ❷三卷 ❸存、大正六・一・四八五No. 2225、日本大藏經第一七密教部章疏第二、天台宗叢書第四 ❹安然(永和八—延喜年間A. D. 861—931—)述 ❺金剛峰樓閣瑜伽瑜祇經修行法の下を見よ。 ❻(參考) 本朝台密撰述密部書目 ❼南北朝時代及足利初期寫(高大、寄・一・三六)天明四刊(龍大、二四一八・五三)

瑜祇經疏抄目錄 ❶(B) Yu-gi-kyō-sho-sho-mokuroku. ❷一帖 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・五〇)

瑜祇經抄 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō. ❷三卷 ❸存 ❹澄豪(正元元—貞和六A. D. 1259—1350) ❺(參考) 天台宗全書刊行豫定書目

瑜祇經抄 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹勝遍(永萬元—貞應二A. D. 1165—1223)撰 ❺(參考) 大日本佛教全書敍刊豫定書目、舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經抄 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō. ❷一帖 ❸存 ❹南北朝及鎌倉時代寫? ❺(寶菩提院)

瑜祇經鈔 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō. ❷二卷 ❸存 ❹行遍(長和元—文永元A. D. 1012—1264) ❺(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經抄在自身大事 ❶(B) Yu-gi-kyō-shō-zai-shin-dai-ji. ❷一軸 ❸存 ❹足利時代寫 ❺(寶龜院)

瑜祇經深祕訣 ❶(B) Yu-gi-kyō-jin-pi-ketsu. ❷二卷 ❸存 ❹淨藏(寛永一六—元祿一五A. D. 1639—1702) ❼(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經數息觀 ❶(B) Yu-gi-kyō-sui soku-kwan. ❷一冊 ❸存 ❹道範(元暦元—建長四A. D.1184—1252)口 ❺正中二寫(寶菩提院)、鎌倉時代寫(寶龜院)、寛文二寫(高大、寄・一・六九)

瑜祇經總行記 ❶(B) Yu-gi-kyō-sō-gyō-ki. 瑜祇總行私記、瑜祇口傳、瑜祇經手印、瑜祇行法抄、瑜祇總行記 ❷一卷 ❸存、大正六・一・四八五No. 2225、日本大藏經第一七密教部章疏下第二 ❹眞寂(仁和二—延長五A. D.886—925)撰 ❺瑜祇總行私記の下を見よ。

瑜祇經大事 ❶(B) Yu-gi-kyō-daiji. ❷一帖 ❸存

瑜祇經傳受聞書 ❶(B) Yu-gi-kyō-den-ju-kiki-gaki. ❷二卷 ❸存 ❹某寶(德治元—貞治元A. D. 1306—1362) ❼(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經傳授聞書 ❶(B) Yu-gi-kyō-den-ju-kiki-gaki. ❷五卷 ❹親賢(弘安二—元德二A. D. 1279—1330)述

瑜祇經傳授祕訣 ❶(B) Yu-gi-kyō-den-ju-hi-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹寶敏 ❼(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經傳授要路 ❶(B) Yu-gi-kyō-den-ju-yō-ro. ❷一卷 ❸存、五部祕經傳授要路(無題和尚全集第二)之四 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇A. D. 1828—1907)述 ❺刊本(谷大、微大・三三六〇)

瑜祇經・ず鈔 ❶(B) Yu-gi-kyō-hanshō. ❷一冊 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

瑜祇經祕決 ❶(B) Yu-gi-kyō-hi-ketsu. ❷二卷 ❸存 ❹實運(長治二—永勝元A. D. 1105—1160)述 ❼(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經祕傳鈔 ❶(B) Yu-gi-kyō-hi-den-shō. ❷五卷 ❸存 ❹祐寶(天文五—慶長一七A. D. 1536—1612)述 ❼(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經寶鑑鈔 ❶(B) Yu-gi-kyō-hō-kan-shō. ❷五卷 ❸存 ❹淨意述 ❼(參考) 舊言宗全書刊行豫定書目

瑜祇經品々次第 ❶(B) Yu-gi-kyō-hom-bun-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❹源運(天永三—治承四A. D. 1112—1180)記 ❺伊川中期寫 ❻(金剛三昧院)

瑜祇經羅誰王品極祕鈔 ❶(B) Yu-gi-kyō-ra-sa-ō-bon-goku-hi-shō. ❷一卷 ❸存 ❹鎮俊撰 ❼(參考) 大日本佛教全書敍刊豫定書目

瑜祇經理供養私次第 ❶(B) Yu-gi-kyō-ri-ku-yō-shi-shi-dai. ❷一軸 ❸存 ❹足利時代寫 ❺(寶龜院)

瑜祇經立印行儀等 ❶(B) Yu-gi-kyō-ryū-in-gyō-gi-tō. ❷四帖 ❸存 ❹鎌倉時代寫 ❺(寶菩提院)

瑜祇行軌第十 ❶(B) Yu-gi-kyō-ki-dai-jū. ❷二卷 ❸存 ❹平安朝末期寫或鎌倉初期寫 ❺(寶菩提院)

瑜祇行法記 ❶(B) Yu-gi-kyō-gyō-hō-ki. 金剛峰樓閣瑜伽瑜祇經修行法、瑜祇經行法次第、瑜祇經行法記、瑜祇經修行法、瑜祇經行法次第、瑜祇經行法記、瑜祇經疏 ❷三卷或一卷 ❸存、大正六・一・四八五No. 2225、日本大藏經第一七密教部章疏下第二、天台宗叢書第四 ❹安然(永和八—延喜年間A. D. 861—931—)述 ❺金剛峰樓閣瑜伽瑜祇經修行法の下を見よ。 ❻(參考) 本朝台密撰述密部書目

瑜祇行法抄 ❶(B) Yu-gi-kyō-gyō-hō-shō. 瑜祇總行私記、瑜祇經總行記、瑜祇經手印、瑜祇口傳 ❷二卷 ❸存、大正六・一・五〇四No. 2225、日本大藏經第一七密教部章疏下第二 ❹眞寂(仁和二—延長五A. D.886—925)撰 ❺瑜祇總行私記の下を見よ。

瑜祇切文 ❶(B) Yu-gi-kiri-bumi. ❷一軸 ❸存 ❹永正九寫 ❺(高大、寄・一・三六)

瑜祇切文事 ❶(B) Yu-gi-kiri-bumi-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶菩提院)

瑜祇切文事私口決 ❶(B) Yu-gi-kiri-bumi-no-koto-shi-ku-ketsu. ❸存 ❹甲蟲(永享七—永正一六A. D. 1435—1519)口 ❺寫本(金剛三昧院)

瑜祇切文祕決 ❶(B) Yu-gi-kiri-bumi-hi-ketsu. ❷二卷 ❸存 ❹尭海記 ❺安永五寫 ❻(明德院)

瑜祇口 ❶(B) Yu-gi-ku. ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・三六)

瑜祇口決 ❶(B) Yu-gi-ku-ketsu. 瑜祇經義述 ❷七卷 ❸存、日本大藏經第一七密經部章疏下第二 ❹宥範(文永七—文和元A. D. 1270—1352)述 ❺瑜祇經義述の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

瑜祇口決 ❶(B) Yu-gi-ku-ketsu. ❷六帖 ❸三輪蓮道(—弘長頃? A. D. 1261—1263—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

瑜祇口決 ❶(B) Yu-gi-ku-ketsu. ❷三帖 ❸三輪蓮道(—弘長頃? A. D. 1261—1263—)

❹諸宗章疏錄第三に前項瑜祇口決六帖と本書を並記し本書の下に細註して云く「上二部出二題聞鈔一」云々。

瑜祇口決序品三印大事 ❶(B) Yu-gi-ku-ketsu-jo-hon-san-in-dai-ji. ❷一帖 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・三六)

瑜祇口傳 ❶(B) Yu-gi-ku-den. 瑜祇口傳中院 ❷存 ❹實性院口、永過記 ❺寫本(金剛三昧院)

瑜祇口傳灌頂私記聞書等 ❶(B) Yu-gi-ku-den-kwan-jō-shi-ki-kiki-gaki. ❸存 ❹天明六寫 ❺(寶龜院)

瑜祇供養法 ❶(B) Yu-gi-ku-yō-hō. 瑜祇供養法三寶院 ❷一帖 ❸存 ❹寫本(金剛三昧院)

瑜祇灌頂 ❶(B) Yu-gi-kwan-jō. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶菩提院)(寶龜院)

瑜祇灌頂印信 ❶(B) Yu-gi-kwan-jō-in-jin. ❷一裏 ❸存 ❹寫本(高大、

數字欄 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸著 ❹版 ❺存 ❻著者 ❼著作年代 ❽内容説明 ❾注記(註釋書等參考書) ❿刊年の刊寫 ⓫現所(現在所藏者) ⓬(名所)(書名) ⓭巻所行

ゆ・1・ゆ〇)

法華経演義聞書 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-kiki-gaki. ❷1巻 ❸仮 ❹聞書記 ❺室町時代 ❻(奈良市)

法華経演義口決 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-ketsu. 僧侶鎌田口伝奈王丸 ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義口決 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-ketsu. 天武鎌田口伝 ❷1帖 ❸仮 ❺南北朝時代 ❻奈良 1巻(A. D. 1362)

法華経演義口訣抄 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-ketsu-shō. ❷1冊 ❸仮 ❺室町時代 ❻(京都市)

法華経演義供養法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-yō-hō. ❷1巻 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義現本次第 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-kom-pon-shi-dai. ❷1帖 ❸仮 ❺天暦元—寛永(A. D. 951—1646)頃

法華経演義作法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-sa-hō. ❷1巻 ❸仮 ❺室町時代 ❻(京都市)

法華経演義私 ❶(日)Yu-gi-kwan-jō-shi. ❷1巻 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻天竺 1冊 ❼(奈良市)

法華経演義私記 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shi-ki. 僧侶鎌田伝奈王丸 ❷1帖 ❸仮 ❺南北朝時代 ❻(京都市)

法華経演義口 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-bu. 僧侶鎌田伝中道覚 ❷1冊 ❸仮 ❺室町時代 ❻(奈良市)

法華経作法 ❶(日)Yu-gi-sa-hō. ❷1帖 ❸仮 ❺室町時代 ❻(京都市)

法華経演義私口決 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shi-ku-ketsu. ❸仮 ❺日蓮(文永十一—永正 1 年)A. D. 1435—1519)口 ❻(奈良市)

法華経演義秘伝私文案 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shi-gyō-shi-shi-dai. 僧侶鎌田秘伝私文案中道覚 ❸仮 ❺春屋 ❻文保元 1巻 ❼(奈良市)

法華経演義口決 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-ketsu. 天武鎌田口伝 ❸仮 ❺文和 1巻(A. D. 1362)

法華経演義式行儀 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shiki-gyō-gi. 僧侶鎌田式行儀奈王丸 ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義曼荼羅 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shiki-man-da-ra. ❷1帖 ❸仮 ❺室町時代 ❻(奈良市)

法華経演義修行法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shu-gyō-hō. ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉(文永"弘・1・日)

法華経演義作法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-sho-sa-hō. ❷1帖 ❸仮 ❺室町—鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義正所用 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shō-sho-yō. ❷1帖 ❸仮 ❺天暦頃 ❻室町時代 ❻(京都市)

法華経演義伝受問答記 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-den-ju-sai-mon-ki. ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-bu. 僧侶鎌田伝中道覚 ❷四帖 ❸仮 ❺文保 1〇巻 ❻(奈良市)

法華経作法 ❶(日)Yu-gi-sa-hō. ❷1巻 ❸仮 ❺室町時代 ❻(京都市)

法華経演義私口決 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shi-ku-ketsu. ❸仮 ❺日蓮(文永十一—永正 1 年)A. D. 1435—1519)口 ❻(奈良市)

法華経演義秘伝私文案 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shi-gyō-shi-shi-dai. 僧侶鎌田秘伝私文案中道覚 ❸仮 ❺春屋 ❻文保元 1巻 ❼(奈良市)

法華経演義式行儀 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shiki-gyō-gi. 僧侶鎌田式行儀奈王丸 ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義曼荼羅 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shiki-man-da-ra. ❷1帖 ❸仮 ❺室町時代 ❻(奈良市)

法華経演義修行法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shu-gyō-hō. ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉(文永"弘・1・日)

法華経演義作法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-sho-sa-hō. ❷1帖 ❸仮 ❺室町—鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義正所用 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shō-sho-yō. ❷1帖 ❸仮 ❺天暦頃 ❻室町時代 ❻(京都市)

法華経演義伝受問答記 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-den-ju-sai-mon-ki. ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-bu. 僧侶鎌田伝中道覚 ❷四帖 ❸仮 ❺文保 1〇巻 ❻(奈良市)

法華経式 ❶(日)Yu-gi-ryaku-shiki. ❷1巻 ❸仮 ❺平安時代 ❻(京都市)

法華経演義聞書 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-kiki-gaki. ❷1巻 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(奈良市)

法華経演義口決 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-ketsu. 僧侶鎌田口伝奈王丸 ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義口決 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-ketsu. 天武鎌田口伝 ❸仮 ❺南北朝時代 ❻奈良 1巻(A. D. 1362)

法華経演義口訣抄 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-ketsu-shō. ❷1巻 ❸仮 ❺室町時代 ❻(京都市)

法華経演義供養法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-ku-yō-hō. ❷1巻 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義現本次第 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-kom-pon-shi-dai. ❷1帖 ❸仮 ❺天暦元—寛永(A. D. 951—1646)頃

法華経演義作法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-sa-hō. ❷1巻 ❸仮 ❺室町時代 ❻(京都市)

法華経演義私 ❶(日)Yu-gi-kwan-jō-shi. ❷1巻 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻天竺 1冊 ❼(奈良市)

法華経演義私記 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shi-ki. 僧侶鎌田伝奈王丸 ❷1帖 ❸仮 ❺南北朝時代 ❻(京都市)

法華経演義口 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-bu. 僧侶鎌田伝中道覚 ❷四帖 ❸仮 ❺文保 1〇巻 ❻(奈良市)

法華経作法 ❶(日)Yu-gi-sa-hō. ❷1巻 ❸仮 ❺室町時代 ❻(京都市)

法華経演義私口決 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shi-ku-ketsu. ❸仮 ❺日蓮(文永十一—永正 1 年)A. D. 1435—1519)口 ❻(奈良市)

法華経演義秘伝私文案 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shi-gyō-shi-shi-dai. 僧侶鎌田秘伝私文案中道覚 ❸仮 ❺春屋 ❻文保元 1巻 ❼(奈良市)

法華経演義式行儀 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shiki-gyō-gi. 僧侶鎌田式行儀奈王丸 ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義曼荼羅 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shiki-man-da-ra. ❷1帖 ❸仮 ❺室町時代 ❻(奈良市)

法華経演義修行法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shu-gyō-hō. ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉(文永"弘・1・日)

法華経演義作法 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-sho-sa-hō. ❷1帖 ❸仮 ❺室町—鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義正所用 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-shō-sho-yō. ❷1帖 ❸仮 ❺天暦頃 ❻室町時代 ❻(京都市)

法華経演義伝受問答記 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-den-ju-sai-mon-ki. ❷1帖 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経演義 ❶(日) Yu-gi-kwan-jō-bu. 僧侶鎌田伝中道覚 ❷四帖 ❸仮 ❺文保 1〇巻 ❻(奈良市)

法華経式 ❶(日)Yu-gi-ryaku-shiki. ❷1巻 ❸仮 ❺平安時代 ❻(京都市)

法華経演義入一心口決 ❶(日)Yu-gi-sa-hō. ❷1巻 ❸仮 ❺室町時代 ❻(奈良市)

法華経演義入一心口決 ❶(日)Yu-gi-ton-go-sam-mitsu-zan-nyū-is-shin-ku-ketsu. ❷1巻 ❸仮 ❺鎌倉時代 ❻(京都市)

法華経名義 ❶(日)Yu-gi-nai-go. ❷1巻 ❸仮(弘安元—弘和 1 年)A. D. 1278—1348)頃

法華経名件業演頂 ❶(日) Yu-gi-nai-sa-gō-kwan-jō. ❷1巻 ❸仮 ❺鎌倉(弘安 1〇—建文 1)A. D. 1287—1357)頃 ❻室町末期頃 ❻(奈良市)

法華経名件業演頂私口決 ❶(日) Yu-gi-nai-sa-gō-kwan-jō-shi-ku-ketsu. ❸仮 ❺日蓮(文永十一—永正 1 年)A. D. 1435—1519) ❻(奈良市)

法華経名件業演頂式 ❶(日) Yu-gi-nai-sa-gō-kwan-jō-shiki. ❷1帖 ❸仮 ❺(奈良市)

法華経三十三三昧耶形 ❶(日) Yu-gi-ni-jū-ni-sam-ma-ya-gyō. ❷1冊 ❸仮 ❺(文天"弘・1・日)

法華経演義印中 ❶(日)Yu-gi-hi-ketsu-im-mo. ❷1巻 ❸仮 ❺室町時代 ❻(奈良市)

法華経演義 ❶(日)Yu-gi-hi-shaku. ❷1巻(弘安—寛永 A. D. 1184—1252)頃 ❻(参考) 鎌倉時代頃

法華経演義口決記 ❶(日) Yu-gi-hi-mitsu-ku-ketsu-ki. ❷1巻 ❸仮 ❺(奈良市)

法華経演義口伝抄 ❶(日) Yu-gi-hi-mitsu-ku-den-shō. 僧侶鎌倉口伝 ❷1巻 ❸仮 ❺鎌倉(弘安—寛永 A. D. 1184—1252)頃 ❻室町時代 ❻(京都市)

法華経演義現本聞記 ❶(日) Yu-gi-hi-mitsu-kom-pon-kei-in. ❷1巻 ❸仮 ❺ 春屋 ❻(奈良市)

法華経演義内作業聞書 ❶(日) Yu-gi-hi-mitsu-nai-sa-gō-kiki-gaki. ❷1巻 ❸仮 ❺(奈良市)

法華経演義 ❶(日)Yu-gi-hi-yō-ketsu. ❷十1巻 ❸仮 ❺鎌倉(弘安 1〇—建文 1) A. D. 1287—1357)頃 ❻建文 1) (A. D. 1357)

❹鎌倉末期 1 冊 ❷巻 ❸仮 ❺建文 1)年 ❻鎌倉時代 ❼ 春屋 ❽ 春屋 ❾ 春屋 ❿ 春屋 ⓫ 春屋 ⓬ 春屋 ⓭ 春屋 ⓮ 春屋 ⓯ 春屋 ⓰ 春屋 ⓱ 春屋 ⓲ 春屋 ⓳ 春屋 ⓴ 春屋 ㉑ 春屋 ㉒ 春屋 ㉓ 春屋 ㉔ 春屋 ㉕ 春屋 ㉖ 春屋 ㉗ 春屋 ㉘ 春屋 ㉙ 春屋 ㉚ 春屋 ㉛ 春屋 ㉜ 春屋 ㉝ 春屋 ㉞ 春屋 ㉟ 春屋 ㊱ 春屋 ㊲ 春屋 ㊳ 春屋 ㊴ 春屋 ㊵ 春屋 ㊶ 春屋 ㊷ 春屋 ㊸ 春屋 ㊹ 春屋 ㊺ 春屋 ㊻ 春屋 ㊼ 春屋 ㊽ 春屋 ㊾ 春屋 ㊿ 春屋 (1) 春屋 (2) 春屋 (3) 春屋 (4) 春屋 (5) 春屋 (6) 春屋 (7) 春屋 (8) 春屋 (9) 春屋 (10) 春屋 (11) 春屋 (12) 春屋 (13) 春屋 (14) 春屋 (15) 春屋 (16) 春屋 (17) 春屋 (18) 春屋 (19) 春屋 (20) 春屋

〔参考〕 ｜〝性宗教の文献の者〟｜〝唯識思想に関係する文献の者〟。
〔参考〕 ｜〝唯識思想の文献の者〟。
〔参考〕 ｜〝天台教学の文献の者〟。
〔参考〕 ｜〝華厳教学の文献の者〟。｜〝華厳教学の文献の者〟。
❹貞享 ｜ 八年(安天〝貞享・｜｜十八天〕〔貞享〕〔安天〝八〇天・｜｜｜一｜｜〕)天皇崩御年号(安天〝日本天・天天天〕)〔安天〕

唯識瑜伽経 ❶(日) Yu-na-ya-kyō. (支)Yū-na-yeh-ching. 唯識瑜伽経典の略称。 ❷｜巻 ❸仏〝天王｜・八｜｜No. 30〝新天八〝卍｜天・天〝 ❹1204頃〝 ❺1220頃〝 ❻1214頃〝 ❼865頃〝 ❽865頃〝 ❾1209頃〝 ❿1201頃〝 ⓫1324頃〝 ⓬1169頃〝 ⓭880頃〝Nj. 870 ❹天台宗(一宗十宗 A. D. 1001)書 ❺唯識瑜伽経典の略称。

唯識瑜伽論略纂 ❶(日) Yu-ga-ju-gi-hi-kan-shō. ❷｜巻 ❸唯識瑜伽論の簡略な文に関する研究を記す。

唯識瑜伽論略纂 ❶(日) Yu-gi-kan-yō-hi-ketsu. 唯識瑜伽論略纂の正方 ❷｜巻 ❸仏

唯識瑜伽論略纂問答決 ❶(日)Yu-gi-sū-tran-im-myō-hi-ketsu. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(天皇崩天一鎌倉天皇 A. D. 1184—1252)記 ❺唯識瑜伽論略纂の問答を記す。

唯識瑜伽論略纂問答抄 ❶(日) Yu-gi-sū-tran-ku-den. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉天(A. D. 1218) ❺唯識瑜伽論略纂の問答を抄録した。

唯識瑜伽論略纂問答抄 ❶(日) Yu-gi-sū-tran-ku-den. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(天皇崩天(A. D. 1309) ❺唯識瑜伽論略纂の問答を抄録した。

唯識瑜伽論略纂問答決 ❶(日) Yu-gi-sū-tran-hi-ketsu ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(天皇崩天｜｜一天皇崩天A. D. 1105—1160)撰

唯識瑜伽論略纂問答抄 ❶(日)Yui-sho-gaki. 唯識瑜伽論略纂問答抄 ❷｜巻 ❸仏 ❹室町(室町)

唯識瑜伽論略纂問答抄 ❶(日) Yui-sho-gaki. ❷｜巻 ❸仏 ❹室町(室町)撰

唯識瑜伽論略纂問答抄記 ❶(日)Yui-sho-ji-se-dai-kō-sō-an. ❷四巻 ❸仏 ❹室町(室天〝天皇)

唯識瑜伽論略纂問答抄録 ❶(日)Yui-an-o-shō-go-roku. (支)Wei-an-ho-shang-yü-lu. 唯識瑜伽論略纂問答抄録 ❷｜巻 ❸仏 ❹明(明天〝永天〝)撰 ❺唯識｜｜用 ❻(支天〝)

唯識 ❶(日) Yui-itsu. ❷四巻 ❸仏 ❹法相宗の別称 ❺天皇天八用 ❻(支天〝ＢＯ九・八｜｜) ❼天皇天日本天皇崩皇

唯識論 ❶(日) Yui-itsu-shō. ❷六巻 ❸唯識論(天皇崩天一鎌倉天皇崩 A. D. 1323—1356—)撰 ❹唯識瑜伽論略纂の略称。

唯識論 ❶(日) Yui-itsu-shin-tō. ❷八巻 ❸仏 ❹室町天(室町)撰

唯識論 ❶(日) Yui-itsu-shin-tō. ❷四巻 ❸仏 ❺室町(室町)撰

唯識論 ❶(日) Yui-itsu-shin-tō. ❷｜巻 ❸仏 ❹室町(室町)撰

唯識論 ❶(日)Yui-itsu-shin-tō-ori-kami. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(室町)撰 ❺(参考)

唯識論口傳天系 ❶(日)Yui-itsu-shin-tō-ku-den-shi-dai. ❷八巻 ❸仏 ❹鎌倉(室町)撰 ❺(参考)〔(参考)〕

唯識論口傳天系 ❶(日)Yui-itsu-shin-tō-ku-den-shi-dai. 唯｜唯識口傳天系 ❷｜巻 ❸仏 ❹吉田兼俱(室町) ❺鎌倉(室町)撰 ❻(参考)〔(参考)〕

唯識論口傳天系 ❶(日)Yui-itsu-shin-tō-ku-den-shi-dai. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(室町)撰 鎌倉天皇崩(室町)撰 ❺(参考)〔(参考)〕

唯識論切紙 ❶(日)Yui-itsu-shin-tō-tetsu-jō. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(室町)撰 ❺(参考)

唯識論研究記 ❶(日) Yui-itsu-shin-tō-den-ju-ki. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉天皇崩撰 ❺(参考)〔(参考)〕

唯識論秘訣 ❶(日)Yui-itsu-shin-tō-hi-ketsu. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(室町)撰 ❺(参考)

唯識論名法要集 ❶(日)Yui itsu-shin-tō-myō-hō-yō-shū. ❷｜巻 ❸仏 ❹孝覚 ❺鎌倉天皇 ❻(参考)〔(参考)〕

唯識論名法要集奈良法花経 ❶(日) Yui-itsu-shin-tō-myō-hō-yō-shū-narabini-hi-fu-yō. ❷｜巻 ❸仏 ❹室町(室町) ❺(参考)〔(参考)〕

唯識論天系 ❶(日)Yui-itsu-sen-gū-shi-dai. 唯｜唯識論天系 ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(室町)撰 ❺(参考)〔(参考)〕

唯識論問答 ❶(日)Yu-itsu-ryō-bu-shin-tō-kem-mon-ki. ❷四巻 ❸仏 ❹鎌倉(室町)撰 ❺天皇｜四巻 ❻(参考)〔(参考)〕

唯識論一道大乗法華合四巻問答抄

記等 ❶(日) Yui-c-is-shu-dai-shō-hos-shin-shi-sō-dō-ji-gu-ki-tō. ❷｜巻 ❸仏 ❹室町(室町) ❺(参考)

唯識論抄 ❶(日) Yui-ji-shō. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉 ❺天皇｜｜巻 ❻(参考)〔(参考)〕

唯識論因明義記 ❶(日)Yui-shiki-im-myō-zak-ki. ❷｜巻 ❸仏 ❹室町天(室天〝鎌倉・｜天天〕

唯識論疏抄 ❶(日) Yui-shiki-u-soku. 唯識論疏抄 ❷四巻 ❸手稿本 ❹[illegible]｜に対し「疏」[illegible]・[illegible]「疏」[illegible]。

唯識論音等口傳抄 ❶(日)Yui-shiki-c-kasu-ga-on-ji-ku. ❷｜巻 ❸仏 ❹鎌倉(室町)｜一天皇崩 A. D. 1038—1112)口撰 ❺鎌倉天皇崩撰 ❻(参考)〔(参考)〕

唯識論論義要 ❶(日) Yui-shiki-c-go-ma-shū. ❷｜巻 ❸仏 ❹室町天(室町)撰 ❺(参考)〔(参考)〕

唯識論秘訣 ❶(日) Yui-shiki-em-pi. (支) Wei-shih-yen-pi. 唯識論秘訣〝唯識論秘訣〝唯識 ❷十巻第十四巻 ❸仏〝天皇崩皇｜・八｜｜ No. 1833〝卍新｜・十八・｜｜ ❹[illegible]

678—731)撰 ❺唯識論の略称。 ❻(参考) 唯識論疏抄｜

❼同天(〝〝・｜｜・右・十)

唯識論秘訣抄 ❶(日) Yui-shiki-em-pi-shaku. (支)Wei-shih-yen-pi-shih. 唯識論秘訣抄 ❷天皇之巻｜｜巻〝卍新｜・十八・天 ❸仏 ❹鎌倉(室町) ❺唯識論秘訣の下を以て。 ❻(参考) 唯識論秘訣抄

唯識論鈔 ❶(日)Yui-shiki-ō-shō. 唯識論鈔 ❷天皇 ❸(参考) 唯識論疏抄｜｜

唯識論開題 ❶(日)Yui-shiki-kai-dai. (支)Wei-shih-k'ai-t'i. 唯識論開題 ❷｜巻 ❸天皇崩撰 ❹(参考) 唯識論疏抄

唯識論開題 ❶(日) Yui-shiki-kai-ho-tsu. (支)Wei-s ih-k'ai-fa. 唯識論開題〝唯識論開題〝唯識論開題〝

れを觀逸し闡明せしかなれども、尙ほ慈恩としては、その宗義に基き、獨自の創設的意志を充分に發揮完了することが出來なかつたのであらふ。これ恐らくは本章の出現する所以である。卽ち本章の五重唯識とか（境教理行果の五種）又は六門の唯識（所執の唯識、有漏の唯識等の六門）とかは、是れ何れも慈恩琢磨の寶玉であつて、印度に於ても未だ曾て見ない所である。この五重、五種、六門の唯識といふことは、つまり古來諸經論所說の唯識と云ふことが、必ずしも一定の方式ではなく、その觀點に各種各樣なるものあるを看取し、終にかくは要約せられたものであらふ。そして其の中最初の五重唯識が最有名である。尙ほ五重唯識のことに就ては、唯識五重問答抄の下にも辯じて置いた。

上は義林章に付てのことであるが、今本書は、眞興僧都が、この慈恩一家の奧旨たる本書をば、全篇に通じてかくも平明に、而かも深遠の教理を遺憾なく發揮說明し與れられしことは、慈恩學派の末學の爲めに、如何ばかりの功績であつたか、實に感謝に堪へない次第である。そこで解說上人の知きも、特に本書に對しては、甚深の敬意を表して居られる。

本書行文の平明親切なるは、無論これ著者眞興の衷情の發露なるも、而しこの平易的漢文の書き方は、これ時代的文學の風潮であつて、由來漢文の弊は難澁に陷り易いからして、我が王朝中期頃には、日本化された平易な漢文が流行された。卽ち本書より古き東大寺觀理僧都の因明四種相違私記、並に本書同著の眞興の因明四種相違私記等、皆同樣の書き振である。何れも時代文學の風潮を徵すべき一左券と云ふべきである。

著者眞興は、平安朝中期に於ける斯界の明星にして、學は因內二明を包ね、識は顯密兩宗に通ず。而して只これ文字談論のみの人に非ず。實に宗教玄奧の神祕に參ぜられし明匠である。一代の傳記に就ては、僧綱補任、三會定一記、日本紀略、元亨釋書、本朝高僧傳等に見えてある、參照すべきである。然るに其入寂の年次等諸書多少の相違があつて一定しない。今諸書を綜合するに、眞興は貞元元年壓義四十三。長保五年講師七十。寬弘元年入滅七十一。而して入寂の日は十月十四日と云ふのが正しいようである。そして其入寂は上天せられたと云ふのである。遺跡現に兒島勸學寺側に在り。又一代の著書に就ては、本書唯識義私記以外に、因相違私記等の二十一部を數へることが出來る。佛書研究第五十九號に目錄して置いた。參照せられ度い。

（佐伯良謙）

唯識義章 ❶(日)Yui-shiki-gi-shō. 唯識義私記、唯識章私記、見島私記、六卷（龍大・二六七×正大・一一九二・三二七×京專）私記、唯識義私記、唯識章私記、二六二四・六四×高大、寄・一・一三）（京大、一・二四ュ・五×寬治二寫（高大、寄・一・一三）寫本（谷大、餘大・二三九三）

唯識義精 ❶(日)Yui-shiki-gi-sei. 成唯識論義精 ❷一卷 ❸行賀（天平元—延曆二二 A.D. 782—803）述 ❼（參考） 諸宗章疏錄第二

唯識義燈增明記 ❶(日)Yui-shiki-gi-tō-zō-myō-ki. 成唯識論了義燈增明記、了義燈增明記、義燈增明記、增明記 ❷四卷 ❸存、大正六五・三二七 No. 2261、日本大藏經第二九唯識論章疏第二 ❹善珠（神龜元—延曆一六 A.D. 724—797）述 ❺成唯識論了義燈增明記の下を見よ。 ❻寫本（正大、一一九二・八〇、八二×高大、寄・一・一三×谷大、餘大・四八二七）

唯識義翼 ❶(日)Yui-shiki-gi-yoku. (支)Wei-shih-i-i. 成唯識論義翼 ❷七卷 ❸缺 ❹崇俊撰、法清釋 ❼（參考） 諸宗章疏錄第二

唯識義林小島私記條目 ❶(日) Yui-shiki-gi-rin-kō-jima-shi-ki-jō-mokku. ❷一卷 ❸存 ❹深慧 ❾文政四寫（谷大、餘大・一八九〇）寫本（龍大、二六二四・四四）

唯識義林章 ❶(日)Yui-shiki-gi-rin-shō. 唯識義林章 ❷二卷 ❸存 ❹虎寬基（貞觀六—永淳元 A.D. 632—682）述、龍雲堂性分科 ❾刊本（正大、一一九二・一三〇—一三一×假・く・七・有・三×高大、寄・一・一三）（龍大、二六二四・二×谷大、餘大・七六九）

唯識義林章玄論消釋異同 ❶(日) Yui-shiki-gi-rin-jō-gen-ron-shō-shaku-i-dō. ❷一卷 ❸存 ❹憲瑜 ❾寫本（谷大、餘大・四二〇〇）

唯識義林章私記 ❶(日)Yui-shiki-gi-rin-jō-shō-ki. 唯識義林章私記、唯識章私記、唯識義章、見島私記、六卷私記 ❷六卷或十二卷 ❸存、大正七一・二九八 No. 2319、日本大藏經第三三法相宗章疏第一、大日本佛教全書第八一 ❹眞興（永平四—寬弘元 A.D. 924—1001）述 ❺唯識義私記の下を見よ。 ❻明暦四刊 ❾（高大、寄・一・一三）

唯識愚案記 ❶(日)Yui-shiki-gu-an-ki. ❷一卷 ❸存 ❹加藤法城（—明治二四 A.D. 1891） ❾寫本（京大、一・二四ュ・六）

唯識空觀 ❶(日)Yui-shiki-kū-kwan. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第三三法相宗章疏第二信願上人小章集之內、大日本佛教全書第八〇 ❹存 ❹良遍（建久五—建長四 A.D. 1194—1252）

❺本書は、良遍僧都が、唯識觀は結局空觀にして、その空とは、先づ境を空じて自心を留め（これは專ら依地を觀ず、初二の勝義に當る）次に心境を空じて空相を留め（これは專ら通計を觀ず、第三の勝義に當る）後に空を空じて卽ち心の分別を空ず（これは專ら圓成を觀ず、第四の勝義に當る）るの旨を提示せられしものにして、誠に簡明にして善く要旨を盡して居る。師が常に唯識は學解

に滿足せず、進んで觀心の證底を期せねばならぬことを提唱し居られし態度を偲ぶべき遺芳の隨一である。

（佐伯良謙）

唯識觀大綱 ❶(日) Yui-shiki-kwan-tai-kō. (支)Wei-shih-kuan-ta-kang. ❷一卷 ❸存 ❹太虛 ❾民國一一刊 ❾（谷大、餘大・三七九九）

唯識觀事 ❶(日)Yui-shiki-kwan-no-koto. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第三三法相宗章疏第二信願上人小章集之內、觀念發心肝要集第一之內 ❹良遍（建久五—建長四 A.D. 1194—1252）

❺本書は、良遍僧都が、常に唯識を單に一個の學說として取扱はず、眞に悟道體得すべき宗教なることを提示せられし遺芳の隨一にして、上人の態度信仰は、誠にこの一小篇中にも躍如たるものがある。

本書は、著者が冒頭に標示せるが如く、解脫上人の勸誘同法記、閑寂隱に依つて出來たのであるが、而しこれは思想體系の依處を云ふので、あつて、決して本書は彼れの註釋書と云ふのではない。又本書並にその他の良遍著書には、すべて誠意が籠り、及び提唱が圓熟して居るから、そこに何となく親み易く犯し難く、一種の雅有味が漂ふて居るのが特色である。

本書の內容は、善くその消化されたる唯識學に發足し、そして之を學術として取扱はず、觀解的、悟道的、宗教的に導かんとするに在るのであつて、眞に斯道の達人なることを首肯せしむるものがある。

本書の記事に關聯して附言すべきは、本書には坐禪のことを、單に先づ身を調へ、次に息を調へ、次に心を調へ、然る後も觀に入るなり、其調法は練習の人に依ふて委しく之を尋問すべし云云（原漢文）とのみ云つてある。これに就て別に上人の著書に唯識觀と題して座儀をも委しく書いたものがある。如何なる故かそれが信願上人小章集に漏れて居る。恐らくは偶然失したのであらう。序でのことなれば、玆に附記し置く。

（佐伯良謙）

唯識觀用意 ❶(日)Yui-shiki-kwan-yō-i. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第三三法相宗章疏第二信願上人小章集之內、觀念發心肝要集第一之內 ❹良遍（建久五—建長四 A.D. 1194—1252）述 ❺建長元（A.D. 1249）十二月

❺本書は、良遍僧都が唯識觀に就ての用意、卽ち唯識修行者が全體的基礎的に領解し置くべき要旨を敎示されたものである。著者良遍師が、末法濁世の中に在つて、獨り孤燈として眞に唯識といふことを、敎學的方面と共に、更に進んで求道的宗敎的に、その生命を把握せしむべく提示されしことは、獨り本編のみならず、上人小章集の各編が皆同であつて、實に千歲の下讃仰措く能はぬものがある。

本書內容は、一、自身を修むべきの道理。二、此の觀決定して罪を滅すべきこと。三、依詮最要のこと。以上の三章より成つてゐるのであるが、一は全體的の意旨、二は特殊的功能、三は唯識家よりする特長である。何れも皆重要ではあるが、特にその第一章が適切最要なることを感ぜしめられるのである。云くそれは元來唯識で、ふことは、萬法唯識の敎旨であつて、その根本理由とする所は、一、諸法識體轉變の理由。二、萬法相耶種子所生の理由。この二大理由が、此宗所談の根本生命であつて、又恐らくはこれ佛敎々學の最高のものであらうことを信ずる。而し敎理が吾人の思想となり精神となり信仰となり宗敎となり、乃至運動行爲となるまでには、そこに相當の距離がある。つまり學問と思想とが一致しない憾がある。これ著者の慨いて居らるゝ所であつて、つまりそれでは學問は畢竟一の遊戲である。そこで學問の一方に觀心の修得を企てられたのが、當時師の一大功績であつたのである。そこでこの第一章の記示は、普通の敎理そのまゝの說示ではなく、敎理が消化して自己の思想そのものとなれる所謂偈らざる領解の提示である。その意味は、云く。諸法唯識とは、非情法として外の山川草木等のそれには、惡道に墮し善趣に生れ佛道を修すると云つたやうなことはない。これは只有情法に於てのみあるのである。卽ち善惡迷悟等の差別は、たゞ心に依つてのみあるのである。卽ち唯識所變であると云ふ提示である。誠に簡單半頁の內に善く深理を洞破してある。よし識體轉變の道理や種子所生の原理を知らなくとも、これで充分に心の重大性を味得し得られる。卽ち唯識修行の根據を把握し得られる。いくら學的領解が出來ても、學問と思想とが一致しないでは、それは畢竟遊戲であつて、所等の責任も自覺もない。若し人眞に責任のある唯識を知らんとならば、本書並に其他多くの同師の遺書に觸れんことを慫慂する。これ本書生命の存する所でなければならぬ。

本書は奧批に「建長元年十二月日記之良遍」とあれば、同師五十四歲の著である。同師略傳に就ては、佛書研究第四號因明大疏抄九帖良遍の條を參照せられ度い。

（佐伯良謙）

唯識觀要心集 ❶(日) Yui-shiki-kwan-yō-jin-shū. ❷一卷 ❸存 ❹貞慶（久壽二—建保元 A.D. 1154—1213）述（久壽二—建保元 A.D. 1154—1213）

❺本書一卷中に集められたる各小篇は觀念發心肝要集と略々同じ、同項の下を見よ。 ❾明治四二寫 ❾（谷大、餘大・一九八五）

唯識訓論記 ❶(日) Yui-shiki-kun-ron-ki. 唯識論聞書、成唯識論訓讀聞書、成唯識論訓讀聞書、成唯識論光胤記 ❷二十七卷或二十八卷 ❸存、大正六六・五九七 No. 2294 ❹光胤（應永三—應仁二 A.D. 1396—1468）記 ❺永享九（A.D. 1437） ❻唯識論聞書の下を見よ。 ❼（參考） 諸宗章疏錄第二

唯識訓論日記 ❶(日)Yui-shiki-kun-ron-nik-ki. 成唯識論訓論日記 ❷一卷 ❸存、大正六六・九一六、No. 2295 ❹光胤（應永三—應仁二 A.D. 1396—1468）草

❺本書は、二十七帖の訓論記に同じく、光胤の訓論筆記であるが、僅かに論第一卷數論段、勝論段、同第四卷四食證、減定證、染淨

證段。同第八卷輯生分別以下の筆記を合冊せるものである。之を彼の二十七帖の記に對せば、本より一小片篇ではあるが、同じく光胤師の記錄だけに、唯識研究者に在つては、本より崑崙の片玉として、貴重すべきものである。

本書と二十七帖訓論記とは、啻に容積の不同のみならず、左の相異點のあることを發見する。一、彼は多人數の會合であり、此は少人數の集會のようである。それは本文の記事に自ら現はれて居る。二、彼は始めから全部の訓論の計劃であり、此は一段二段の部分的訓論であつたようである。そこで人數も少勢であつたかと思はれる。三、二書の製作は彼は前、此は後かと思はれる。それは彼の時の讃師は專慶であつて、此の時の讃師は永秀律師である。永秀律師は彼の時には、彼の第二十七帖の記事に准ずるに、論第十卷の初分を講讃せられし人ではあるが讃師專慶ではない。安居屋夏中過去帳に准ずるに、讃師專慶は、すでに遷化して居られるから、この專慶遷化の後、永秀律師が讃師職と成られ、この訓論が行はれたと想像し得るからである。

著者光胤のことは、彼の二十七帖訓論記の條、並に本解説第八卷三四頁「中道空觀光胤」の條を參照せられ度い。

唯識解節 ❶(日)Yui-shiki-kai-setsu. (支)Wei-shih-chieh-chieh. 唯識論解節 ❷三卷 ❸宗屋述 ❹(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識解節記 ❶(日)Yui-shiki-kai-setsu-ki. 唯識了義燈解節記、義燈解節記 ❷三卷 ❸護命(天平勝寶二—永和元 A. D. 749—755)述 ❹(參考) 東域傳燈目錄卷下

唯識決 ❶(日)Yui-shiki-ketsu. (支)Wei-shih-chieh. 成唯識論決、成唯識決 ❷三卷 ❸缺 ❹唐勝莊(—長安三—先天二 A. D. 703—713—)述 ❺(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識決擇 ❶(日)Yui-shiki-ketsu-chaku. (支)Wei-shih-chueh-chai. 成唯識論決擇 ❷一卷 ❸缺 ❹新羅太賢(—景德王一二 A. D. 742—)述 ❺(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識決擇談 ❶(日) Yui-shiki-ketsu-chaku-dan. (支)Wei-shih-chueh-chai-tan. 成唯識論決擇談 ❷一卷 ❸存 ❹陰陽竟無述 ❺民國一一刊 ❻(龍大、二六二九・二八)×谷大、餘大・三八〇一)

唯識研精錄 ❶(日) Yui-shiki-ken-kyo-roku. ❷一卷 ❸存 ❹星嚴 ❺天保一四自筆本 ❻(谷大、餘大・一九一九)

唯識貪記 ❶(日)Yui-shiki-ken-ki. 成唯識論貪記、成唯識貪記 ❷三十卷 ❸行賀(天平元—延曆二二 A. D. 729—803)述 ❹(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識玄塵章 ❶(日) Yui-shiki-gen-jin-sho. 成唯識論玄塵章、成唯識論玄塵鈔、玄塵章 ❷十四卷 ❸存 ❹護命(仁治元—元亨元 A. D. 1240—1321)述 ❺成唯識論玄塵章の下を見よ。 ❻(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識古迹 ❶(日) Yui-shiki-ko-seki. (支)Wei-shih-ku-chi. 成唯識論學記、成唯識論古迹記、唯識論古迹記 ❷五卷或十卷八卷 ❸存、卍續一・八〇・一 ❹新羅太賢(—景德王一二 A. D. 742—)述 ❺成唯識論學記の下を見よ。 ❻(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識五重問答鈔 ❶(日) Yui-shiki-go-jū-mon-dō-shō. 五重略問答、唯識五重口決、五重唯識略問答鈔 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第三三法相宗章疏第二 ❹辨範述 ❺永仁五(A. D. 1297)十月 ❻本書は、五重唯識とて、世親菩薩が唯識を標榜せられし以來、法相宗教理の中樞思想となりし諸法唯識說に對し、宗風意思が之を風遂するに當り、古來經論中に現れたる唯識思想に於て、種々に其の考察點を異にせるものあるを看取し、玆に之を麁細漸略の五重として組織統一せるもの。是れ即ち五重唯識觀にして、義林章中唯識章の一科に於て、之を闡明せられたるにて有名である。

この五重唯識の名稱並に組織は、無論これは慈恩の唯識章に始まつたのであるが、その意味內容たる、經論中の唯識に於て、それ〳〵觀點を異にせるものありといふことは、已に護法の成唯識論中に暗示せる所にして、而かもその五種ながらを具足して（隱密に）暗示されて居るのである。之に就て奉御寺の基辨は、その著大乘法相玄論に、唯識論一部の所明は、畢竟この五重唯識を說示するものなりとまで强調して居られる。無論この基辨の說は、聊か强調に過ぎたる嫌ひあるも、兎に角唯識論中に於て、已に古來の經論所說の唯識が一樣ではなく、その觀點に依り各種の唯識のあることを暗示し、今慈恩が五重唯識を組織するの母胎をなせることは事實である。そこで慈恩も五重を明せる一々の條下に於て、その出據を求めて、大體は唯識論の文又は唯識論所引の經論の文を引證し、たゞ二三の引文を增引して居られるのみである。

以上は五重唯識に就ての概念であるが、兎に角慈恩の唯識章以來五重唯識でふことは、法相宗に於ては特に之を尊重研讀し、兒島貫興僧都は唯識章私記六卷を製して、大いに之を釋せられ、又古來慈恩會堅義の論題には、多くはこの五重唯識を課して盛業せしめることになつて居る次第である。

然り而して本書五重問答抄は、五重の各主題に付て之を問答決擇せるものにして、造虛存實に三ケ條、捨濫留純に二ケ條、續末歸本に三ケ條、陞劣顯勝に二ケ條、造相證性に三ケ條、計十三ケ條の論義を收めてある小冊子ではあるが、文章流暢にして義く要領を盡し、又微に入り妙を穿ち、誠に法門の幽邃を開明ならしめて遺憾がない。實に論義書の上乘である。そこで古來、五重因的とて、本書五重に因明の論議を取り合せて、格別の論議法要の際に用ゆることになつて居る。蓋し本書改重の度を加ふべき

である。又古來各宗間に於て、南都に從ばずんば唯識の奧義が分らないとせられたのも少なくとも、本書の如きは其の一分の地位を占めて居ることゝ思ふのである。

本書はその奧批に準ずるに、永仁五年十月一日大法師辨範の著にして、三會定一記に依るに、辨範は永仁二年九月十日維摩寺の研學堅義を勤めて居られる。そこで若し本書の奧批に應仁五年となつて居る本があるならば、それは永仁五年の寫誤である。その上應仁は二年までであつて、五年と云ふ年はないのであるから、愈々以てその寫誤なることが分かる。

本書は興福寺に古寫本が二本あつて、一本には永仁五年の著者の奧批と並に正安元年轉寫の奧書があり、一本には何れの奧書もない。

❹寫本(興福寺) (佐伯良謙)

唯識光鈔 ❶(日) Yui-shiki-kō-shō. 成唯識論光鈔、成唯識光抄 ❷八卷 ❸參考) 諸宗章疏錄第二

唯識綱要 ❶(日) Yui-shiki-kō-yō. ❷一卷 ❸存 ❹眞宗中學編 ❺大正二及九刊 ❻京都法藏館

唯識綱要 ❶(日)Yui-shiki-kō-yō. ❷十二卷 ❸諸宗章疏錄第二に云く「神護寺」。 ❹(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識講義 ❶(日) Yui-shiki-kō-gi. (支)Wei-shih-chiang-i. ❷一卷 ❸存 ❹歐陽竟無述 ❺民國一二刊 ❻(谷大、餘大・三八〇〇)

唯識今釋 ❶(日)Yui-shiki-kon-shaku. (支)Wei-shih-chin-shih. ❷一卷 ❸存 ❹豐風林 ❺民國一一刊 ❻(龍大、研佛)

唯識錯綜楷定記附因明雜記 ❶(日)Yui-shiki-saku-so-kai-jō-ki-tsuke-tari-in-myō-zak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘小・一六六)

唯識雜記 ❶(日)Yui-shiki-zak-ki. ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・四一六九)

唯識雜誌 ❶(日) Yui-shiki-zas-shi. ❷一卷 ❸存 ❹大空 ❺(谷大)

唯識雜集錄 ❶(日) Yui-shiki-zōsshū-roku. ❷一卷 ❸存 ❹星嚴 ❺天保一四自筆本 ❻(谷大、餘大・一九一八)

唯識雜鈔 ❶(日)Yui-shiki-zas-shō. (支)Wei-shih-tsa-chao. 唯識別鈔 ❷五卷 ❸道忠述 ❹(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識三箇疏隨雜分科圖 ❶(日) Yui-shiki-san-ga-no-sho-zui-zō-bun-ka-zu. ❷一卷 ❸存 ❹佐伯旭雅(文政一一—明治二四 A. D. 1828—1891) ❺明治一六寫 ❻(谷大、餘大・一五〇四)

唯識三箇疏分科 ❶(日)Yui-shiki-san-ga-no-sho-bun-kwa. ❷一冊 ❸存 ❹佐伯旭雅(文政一一—明治二四 A. D. 1828—1891) ❺明治一七寫(高大、寄・一・一三) 明治一八寫(谷大、餘大・七九二)

唯識三十頌 ❶(日) Yui-shiki-san-jū-ju. (支)Wei-shih-san-shih-sung. 唯識三十論頌、唯識三十論、唯識三十論頌、三十唯識論 ❷一卷 ❸存、大正三一・六〇 No. 1586、簡來九、卍二二・二、北五二七悲、南五二八悲、元五二四悲、明北一五九六浦、清一五九六浦、慶六一六力、大正三一、相五六力、法五六力、宇一二五丙、明南一二三自、世親菩薩造、唐玄奘(仁壽二—顯慶元 A. D. 602—656)譯 ❹唯識三十論頌の下を見よ。 ❺寫本(高大、寄・一・一三) 刊本(高大、寄・一・一三)

唯識三十頌 ❶(日)Yui-shiki-sanjū-ju. 科本唯識三十頌 ❷一卷 ❸存 ❹刊本(谷大、餘大・三八五六)

唯識三十頌惟中策 ❶(日) Yui-shiki-san-jū-ju-i-chū-saku. ❷一卷 ❸存 ❹大圓(文化六—明治一三 A. D. 1809—1880)述 ❺安政三刊(谷大、餘大・四九×龍大、二四三四・一三九)明治二〇刊(帝國、二・一〇一)

唯識三十頌聞書 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-kiki-mon. ❷二卷 ❸存 ❹學心述 ❺安政六寫(龍大、二四三四・一四〇) 寫本(龍大、二四三四・一四一)

唯識三十頌聞書 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-kiki-mon. ❷一卷 ❸存 ❹義存述 ❺文久元(A. D. 1861) ❻寫本(谷大、餘大・三〇四九)

唯識三十頌聞書 ❶(日) Yui-shiki-san-jū-ju-kiki-mon. ❷一卷 ❸存 ❹萬治元寫 ❺(谷大、餘大・一九六四)

唯識三十頌錦花 ❶(日) Yui-shiki-san-jū-ju-kin-ka. ❷一卷 ❸存 ❹眞敬親王(慶安二—寶永三 A. D. 1649—1706) ❺明治二六刊 ❻(龍大、二四三四・一四二) (晉、く・六・右・一〇)×谷大、餘大・二一四一)

唯識三十頌科 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-ka. ❷一卷 ❸存、不知菴亭叢書之內 ❹寫本(谷大、內餘大・二〇七一)

唯識三十頌科本 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-ka-hon. ❷一卷 ❸存 ❹廣瀨守一編 ❺刊本(谷七、餘大・四一五三)

唯識三十頌科文 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-kwa-bun. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一一九二・二二)

唯識三十頌管解 ❶(日) Yui-shiki-san-jū-ju-kwan-kai. ❷二卷 ❸存 ❹觀信述 ❺寫本(谷大、餘大・四一三六)

唯識三十頌講義 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-kō-gi. ❷二卷 ❸存 ❹天保三寫 ❺(龍大、二四三四・一四六)

唯識三十頌講義 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹賢雄述 ❺弘化三寫 ❻(谷大、餘大・四三〇八)

唯識三十頌講義 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹堀江慶了(—明治二九 A. D. 1896)述 ❺明治九寫 ❻(谷大、餘大・四三〇七)

唯識三十頌講義 ❶(日) Yui-shiki-san-jū-ju-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹本田長英述 ❺寫本(谷大、餘大・四四八六)

唯識三十頌講義 ❶(日)Yui-shiki-san-jū-ju-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹佐伯良謙著 ❺大正一三刊 ❻(龍大、研佛)

唯識三十頌講述 ❶(日) Yui-shiki-san-jū-ju-kō-jutsu. 唯識三十論講義 ❷一卷 ❸存 ❹井上玄眞述 ❺寫本(正大、一一九二・二八)

唯識三十頌撮註 ❶(日) Yui-shiki-

-san-jo-ju-zec-cho. ❷一卷 ❸存 ❺寶永七刊 ❻(龍大、二四三四・一四七)

唯識三十頌私記 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-shi-ki. ❷二卷 ❸存 ❹寶雲(寶政三—弘化四A.D.1721—1847)述 ❻寫本(谷大、餘大・二五四五)

唯識三十頌直解 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-jiki-ge. (支) Wei-shih-san-shih-sung-chih-chieh. 唯識三十論直解 ❷一卷 ❸存、卍續二・三・四 相宗八要直解第三 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九A.D.1599—1655)述 ❺唯識三十論直解の下を見よ。

唯識三十頌直解扶講記 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-jiki-ge-fu-ko-ki. ❷一卷 ❸存 ❹妙立慈山(寶永二四—元祿三A.D.1687—1690)述 ❻寫本(谷大、餘大・二一六四)

唯識三十頌釋論 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-shaku-ron. ❷一卷 ❸存 ❹高楠順次郎著 ❺昭和七刊 ❻東京大學圖

唯識三十頌述記科 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-jut-ki kwa. ❷二卷 ❸存 ❹法寶 ❺刊本(谷大、餘大・四一五五)

唯識三十頌述記玄譚 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-jut-ki-gen-dan. 唯識三十論述記玄譚 ❷二卷 ❸存 ❹快麟(一文政七A.D.1824) ❻寫本(龍大、二四三四・一四八)

唯識三十頌詮句 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-sen-ku. (支)Wei-shih-san-shih-sung-ch'uan-chü. ❷一卷 ❸存 ❹清淨遙 ❺民國一四刊 ❻(龍大、二四三四・一四九)(谷大、餘大・四〇二五)(正大、一一九二・二四六)(高大、一・一三)

唯識三十頌草錄 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-so-roku. ❷一卷 ❸存 ❹惠洞—天保元A.D.1830)述 ❺文化一二寫 ❻(谷大、餘大・四五二〇)

唯識三十頌通解 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-tsu-ge. ❷一卷 ❸存 ❹堀江慶了—明治二九A.D.1896)述 ❺明治二四刊 ❻(龍大、二四三四・一五〇)(京專)

唯識三十頌約意 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-yaku-i. (支)Wei-shih-san-shih-sung-yo-i. 唯識三十論約意、三十唯識約意 ❷一卷 ❸存、卍續一・八三・二、相宗八要解卷上 ❹明明昱(—萬曆三〇A.D.1602—)述 ❺唯識三十論約意の下を見よ。

唯識三十頌要解 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-yo-kai. 東洋心理學指針 ❷二卷 ❸存 ❹寶雲(寶政三—弘化四A.D.1791—1847)述、小山憲榮(—明治三六A.D.1903)編 ❺明治二二刊 ❻(龍大、二四三四・一五〇)(正大、一一九二・二五—二六、二六・二)(京專)(帝國、一一・一六三)

唯識三十頌略記 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-ryak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹良遍(建久五—建長四A.D.1194—1252) ❼(參考) 大日本佛教全書檢刊豫定書目

唯識三十頌略解 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-ryaku-ge. ❷一卷 ❸存 ❺寶永二刊 ❻(龍大)

唯識三十頌略解講錄 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-ryaku-ge-kō-roku. ❷三卷 ❸存 ❹鶴龍遙 ❺文化六寫 ❻(谷大、餘大・三六六二)

唯識三十頌略釋 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-ryaku-shaku. ❷四卷 ❸存 ❹圓明述 ❺元祿四刊 ❻(谷大、餘大・二四三八)

唯識三十頌略釋 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ju-ryaku-shaku. ❷一卷 ❸存 ❺享保二二刊 ❻(高大、寄・一・一三、一・一三)(正大、一一九二・二二)(龍大、二四三四・一五三)

唯識三十本論梵本 ❶(B) Yui-shiki-san-jō-hon-ron-bonpon. (支)Wei-shih-san-shih-pen-lun-fan-pen. ❷一卷 ❼(參考)惠運將來教法目錄

唯識三十論 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ron. (支)Wei-shih-san-shih-lun. 唯識三十論頌、三十論、三十唯識論 ❷一卷 ❸存、大正三一・六〇No.1586、續來九、卍二二・二、北6126忠、南522忠、元624忠、明北1293浦、清1295浦、護616力、天614忠、指576力、法625力、至1288丙、明南1361自、世親論集之內、Nj.1215 ❹世親造 玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❻唐貞觀二二(A.D.648)或二三(A.D.649)

唯識三十論講錄 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ron-kō-roku. ❷七冊 ❸存 ❹寫本(正大、一一九二・二四)

唯識三十論直解 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ron-jiki-ge. (支) Wei-shih-san-shih-lun-chih-chieh. 唯識三十頌直解 ❷一卷 ❸存、卍續一・八三・二、二・三・四、相宗八要直解第三 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九A.D.1599—1655)述

❶本書は佛滅九百年世親菩薩が編粉菩薩所說の瑜伽師地論百卷の綱領を敍りて唯識三十頌を製し、爾來十師各釋して三十頌を注解して百卷の疏を製したるも、後唐玄奘三藏百本を合糅して成唯識論十卷としたるをも、その三十頌を主として要約注釋せるものである。內容は初めに緣由を明し、次に三十頌を分類し、初め二十四頌は唯識相を明し、次の一頌は唯識性を明し、後の五頌は唯識行位を明すとし、更に初の二十四頌中、初の一頌半は略して唯識の相を辯じ、後の二十一頌半は廣く唯識の相を辯ずとし、相性行の三位を別し、次に相能變三能

寫 ❹(正大、一一九二・二六〇)

唯識三十論講義 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ron-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹倉島唯信著 ❺明治二八刊及三八、大正三刊 ❻京都佛法館

唯識三十論講義 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ron-kō-gi. 唯識三十頌講述 ❷一冊 ❸存、哲學館講義之內 ❹井上玄眞述 ❺刊本(正大、一一九二・二七、三八四)(帝國、一四・二二四)(谷大、餘洋・七〇)

唯識三十論講錄 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ron-kō-roku. ❷七冊 ❸存 ❹寫本(正大、一一九二・二四)

唯識三十論直解 ❶(B) Yui-shiki-san-jo-ron-jiki-ge. (支) Wei-shih-san-shih-lun-chih-chieh. 唯識三十頌直解 ❷一卷 ❸存、卍續一・八三・二、二・三・四、相宗八要直解第三 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九A.D.1599—1655)述

❶本書は佛滅九百年世親菩薩が編粉菩薩所說の瑜伽師地論百卷の綱領を敍りて唯識三十頌を製し、爾來十師各釋して三十頌を注解して百卷の疏を製したるも、後唐玄奘三藏百本を合糅して成唯識論十卷としたるをも、その三十頌を主として要約注釋せるものである。內容は初めに緣由を明し、次に三十頌を分類し、初め二十四頌は唯識相を明し、次の一頌は唯識性を明し、後の五頌は唯識行位を明すとし、更に初の二十四頌中、初の一頌半は略して唯識の相を辯じ、後の二十一頌半は廣く唯識の相を辯ずとし、相性行の三位を別し、次に相能變三能

變三位變三性三無性行位五重唯識等と次第要約して解說せるものである。斯くして支那明朝にも唯識學が或る程度まで研究されしものなることを知り得るのである。

❺延寶九刊 ❻(正大、一一九二・二三)(京大、藏・一三ュ・三) (橋本凝胤)

唯識三十論頌 ❶(B)Yui-shiki-jo-ron-ju. (支) Wei-shih-san-shih-lun-sung. (梵)Trimśikā-vijñapti-kārikā (Pub. par Sylvain Levi. paris. 1925) (藏) sum-cu-pai tsig lehur byas-pa. 三十論、唯識三十論、三十唯識論 ❷一卷 ❸存、大正三一・六〇No.1586、續來九、卍二二・二、北6126忠、南522忠、元624忠、明北1293浦、清1295浦、護616力、天614忠、指576力、法625力、至1288丙、明南1361自、世親論集之內、Nj.1215 ❹世親造 玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❻唐貞觀二二(A.D.648)或二三(A.D.649)

❶(題號) 此書は三十唯識論とも稱へられ法相宗正所依の根本聖典である。先づその題號を解說すれば、唯識とは心外の諸法を排び捨てゝ唯だ內心のみを留め取るの義で、萬有萬物を攝して識心の一法に歸むるを云ふ語である。「樞要」卷上本に成唯識論の題號を解釋するに唯識と云ふ語を、思若底(識)摩呾剌多(唯)としてゐる。是はVijñapti mātrati の音表で直譯すれば識唯の意となる。それを漢譯にして唯識としたのである。三十頌とは五字一句の四句一頌が三十頌あるからである。頌の原語はgāthaで新譯では音表して伽陀と云ひ、舊譯では偈と云ふ。その伽陀には通別の二種あるが、今は別の部で四句を具せる韻文である。

〔分科〕 此の三十頌は普通他の論典に用ひらるゝ序正流通の三分はないので、唯だ正宗分のみである。安慧等の釋論師が解釋するに方り、前後に一頌づゝ附け加へ序分と流通分とにしたので三分あることになつて居る。それを加へれば三十二頌となる。その正宗分なる三十頌を「唯識論述記」卷一本には三種の三科としてゐる。一には相性位の三段、二には初中後の三段、三には境行果の三段である。初の相性位の三段では、前の二十四頌は唯識の相即ち依他起の八識を明し、次の第二十五頌の一頌は唯識の性即ち圓成實性を明し、後の五頌は即ち唯識の位即ち唯識の理に悟入する階及位を明すとする。次に初中後の三科では初の一頌半は初分にして識に離れて別の我法なきことを示し、次の二十三頌半は中分として廣く唯識の相と性とを明し、後の五頌は後分として唯識の所位を明すものとする。次に境行果の三科では初の二十五頌は唯識の境を明し、次の四頌は唯識の行を明し、後の一頌は唯識の性を明すと爲す。以上の三種の三科を表示すれば

○相性位

相—(前二十四頌)—(初一頌半)
　　(次二十二頌半)
性—(第二十五頌)
位—(後五頌)

○初中後　○境行果

三十頌—
　初分
　中分—境(初二十五頌)
　　行(次四頌)
　後分—果(後一頌)

又「樞要」上本には此の外に八種の分科を擧げてあるが、要は此の三種で盡きてゐる。中にも第一の相性位が尤も能く分節として明瞭である。

〔要旨〕 以上の分科に依て此の三十頌は何を說き明すものなるかは、概見し得らるゝが、その語句係に三十頌六百字に過ぎないが、謂ゆる圓玄精緻、世親大士が一生を通じて究めたる精粹を收め、唯識教學の蘊奧を總括したる一大論藏であるから、その要旨を提示することは容易のことではない。今は只だその綱領のみを概說することゝする。抑も此の論の主旨とする所は、三界唯一心、萬法唯識の理を說き、偏有個聖の邪執を斥け、非有非空の中道妙義を顯揚し、之に依て眞實修行、大乘者をして翻迷得果せしめんとするのである。三界唯心の理は何れの大乘教でも之を說かないものはないが、其の心の意氣が異る。彼の舊譯の大乘起信論等に在ては、之を眞如と說いて萬法即眞如と觀るのであるが、此の論に於ては眞如は常住無爲の理體で現象即ち有爲とはならない、故にその心と云ふは非心即ち有爲の八識と爲して、一切法唯識と說くので、謂ゆる阿賴耶緣起說であつて眞如緣起を否認するのである。阿賴耶緣起と云ふは阿賴耶識を緣起の根本と爲し八識皆な能變となつて色心諸法を變現すると爲すのである。阿賴耶は梵語ālaya で此に藏と翻す第八識の名である。その藏と云ふは能藏(色心諸法の種子即ち原子を自識內に於へ藏むる)、所藏(第八識が前七識の爲に種子を熏じつけられ藏めらるゝ)、執藏(第八識が常に相續存在することが實我になりと愛執さるゝ)の三義あるより藏識と呼ぶ。此の藏識が各人個々の總報であるから果報識とも云はれる。此の果報識に對し所緣(相分即ち客觀)と能緣(見分即ち主觀)の働きを起して實我を誤り執著を爲す心あり、之を第七識思慮 mana (末那)と爲す。此の能緣所緣の相ある所が此の識の能變作用で、第八識に次での識として第二能變と之を呼ぶ。此の識の外に色心の諸法は勿論廣く有法無法すべてを所緣として緣慮作用を働かす心之を第六意識と名け、色聲香味觸の五境を各別に緣慮する心之を五識と爲す。此の意識及び五識の六個各々能緣(見分)所緣(相分)を變現するから、之を第三能變の識と名ける。是の如く八識すべてが見相二分を變現するより色心諸法は八識所變と云ふのである。併しその八識自體は勿論各個の見相二分すべてが第八識所具の種子から生ずるので阿賴耶識の所變となる、そこで之を阿賴耶緣起と云ふ。

而してその阿賴耶識より現れたる前七識は現行法と云ふのであるが、此の現行法はその各自の種子を第八識に熏じつける、之を現行熏種子と云ふ。その兩者の關係は左の如くである。

第八圖

斯くの如き八識轉變の現象、因果關係をば依他起性と名ける。他なる因緣に依て起るものとの意味である。因緣所生であるから自性なく假に現れたる現象なるを以て自性非有で有に假たるところから、非有假有の法と名く。此の非有假有の法を認て實有

實法と執して實我實法の妄情を起す之を遍計所執と名け、情有理無と云ふ。その妄情で認識する實我實法は眞實に無いもので空である。その我法二空の眞理に顯されたるもの、謂ゆる眞空妙有之を圓成實性と名ける。即ち眞如である。斯樣に有爲無爲一切法を三種に別ち其の三者關係に於て自ら空有の二義不離の道理が顯はる。是に於て三性中道が說かれることゝなる。

此は三性對望して非有非無の中道であるが、三性各々に空有の道理があるから一法ごとにも中道が說かれるのである。而して此の三性の各々に空の理があるところから更に三種の無性（相無性、無自然生性、勝義無性）が說かれる。此の三性三無性の空有法門が此の唯識論に於ける最勝第一義なのである。吾等衆生は無明倒想の爲に遍計所執以て實我實法と妄執し、之れが爲に煩惱所知の二障を起し、二障あるより業を造りて生死に流轉する。若し一たび萬法唯識の義に證ひ諸法の眞相、三性空有中道の妙理を悟り得ば我法二空の眞諦に了達するを得、二空の眞諦に了達せば二障自ら除かれ、菩提涅槃の妙果を獲得するのである。此れが唯識義の所說である。三十頌は則ち之を宣顯するにあり。此れが此の論の要旨とする所である。

〔釋論〕「唯識論述記」卷一本には此論は世親臨末の著述で彼は未だその長行釋を作らずに殁したと云ふので、著者世親の釋論は無いが、印度では此論非常に尊重流布されて世親在世當時より研究組述する者が多く出た樣である。惟白の「大藏經綱目指要錄」卷五下に「天親菩薩將入滅時、作三十頌、後二十八家解之其義、又復十六家骨不能盡其微意、護法菩薩安慧等十師解成百卷」と云つてゐる。成んなものであつた。その所謂十師とは世親同時代に親勝、火辯、次いで德慧、その弟子に安慧、安慧と同時代に難陀、淨月、護法あり、護法の弟子に勝友、最勝子、智月あり、何れも三十頌の釋論を造つたと云ふ。此の十師の釋論百卷を玄奘は顯慶四年（A. D. 659）に翻譯するに方り慈恩の請を容れて、諸說を精定合糅して十卷と爲す、現行の「成唯識論」はそれである。その合糅が玄奘自家の傳承即ち護法論師の說に偏重するの跡ありとて古來批議する者がある。

〔原文〕 此頌の原文は從來知られて居なかつたが、先年佛蘭西のシルヴン・レヴイ博士が尼波羅にて、安慧造の三十頌釋論を發見し一九二五年パリで刊行されたので、其中に頌文がある所より原文が知らるゝことゝなつた。

〔異譯〕 是れ亦從來云はれなかつたが、近頃梵眞諦譯の「轉識論」が三十頌に關する釋論の一種であらうと云ふ說が出でたので、其中の文章で頌文に該當すると認むべき所は異譯と云ふべきであろう。宇井伯壽氏「印度哲學」第六、深田正文氏「唯識論解說」上及び林彥明著「轉識論之研究」に說明を爲す。但し此の「轉識論」を以て三十頌の異譯と看做すとせば、上に述べたる唯識無境の唯心說をば最上眞理とは認め無いので、心境俱無即ち阿摩羅識（第九無垢識）を建つるを窮極の唯心觀とするのである。此れは愼重なる比較研究を要する問題であつて、今の所要でないから此には略するであろう。又、河口慧海氏の「西藏傳唯識三十頌」、寺本婉雅氏譯「西藏安慧造唯識三十論疏」中に在る本頌は異本異譯と謂ふべきか。又、荻原雲來氏の尼波羅梵本の「安慧釋」の翻譯に在る頌文は異譯に數ふべきである。

❷(注釋)成唯識論十卷（大正三一、No. 1585）護法等。安慧造三十唯識の釋論一卷荻原雲來譯。西藏安慧造唯識三十論疏一卷寺本婉雅譯。略釋一卷寶基、約意一卷（卍續一・八三・二）明昱。直解一卷（卍續一・八三・二）智旭。錦花一卷貫敬、略釋四卷圓明。要解二卷寶雲。唯識論講話井上玄眞。三十論講義齋藤唯信。世親の宗教佐伯良謙。唯識論講義二卷花田凌雲。唯識論解說二卷深浦正文。三十頌詮句一卷民國吉藏。註一卷（佛全第七八）眞慶。惟中策一卷大圓。纂註一卷。要釋一卷（大正八五、No. 2824）。（以上刊本）閑書一卷義存。閑耳二卷學心。私記二卷寶雲。直解扶講記一卷慈山。略解講錄三卷勵眞。直解集。玄譯一卷。（以上寫本）

〔參考〕 內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第八、貞元錄第一一（林彥明）

唯識三十論述記玄談 ❶(B) Yui-shiki-san-jū-ron-jut-ki-gen-dan. ❷一卷 ❸存、私淑鶴第四之內 ❹寫本（谷大、餘大・一九四七）

唯識三十論述記玄譯 ❶(B) Yui-shiki-san-jū-ron-jut-ki-gen-dan. 唯識三十頌述記玄譯 ❷一卷 ❸存、法相諸部玄談之內 ❹恢麟（一文政七 A. D. 1824）述 ❺文政五寫 ❻(谷大、餘大・四三二五)

唯識三十論述記條箇 ❶(B) Yui-shiki-san-jū-ron-jut-ki-jō-ka. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（龍大、研佛）

唯識三十論約意 ❶(B) Yui-shiki-san-jū-ron-yaku-i. (支) Wei-shih-san-shih-lun yu-i. 唯識三十頌約意、三十唯識約意

❷一卷 ❸存、卍續一・八三・二、和宗八要所第二 ❹明明昱（一萬曆三〇 A. D. 1602—）述

❺本書は世親菩薩の唯識三十頌を十師に依りて注釋して百卷とせしを、唐玄奘三藏翻譯合糅して成唯識論十卷としたるを、更に要約して解釋し給へるものである。內容は初めに三十頌及び成唯識論の緣由を明し、次ぎに三十頌の分別をなし、次に由假說我法以下三十頌の文を隨文解釋して本論の繁を避けて要約其意を得たるものと云ふ可く、明頃に唯識研究の盛んに行はれたるを知るべきものなり。 ❹刊本（谷大、餘大・一三一七）（橋本凝胤）

唯識三十論要釋 ❶(B) Yui-shiki-san-jū-ron-yō-shaku. (支) Wei-shih-san-shih-lun-yao-shih. ❷一卷 ❸存、大正八五・九六三 No. 2804

❺本書は世親菩薩造唯識三十頌を注疏せる十大論師の百本疏を唐玄奘三藏が翻譯合糅したる成唯識論十卷を要約し、新に三十頌を中心に注解せるものである。內容は初めに所宗を明し、次に所宗を言ひ、次に所歸を明し、次に所立を釋し、次に論文に入りて三十頌及び論の要文を拾ひ要約注解したるものにして、壞煙出土大英博物館所藏本にして、早くも唐朝翻譯の三十頌の注解が、中央亞細亞方面に流傳研究されしものの如く、此の意味に於て頗る貴重なるものである。

❹壞煙本（大英博物館 S. 2295）（橋本凝胤）

唯識三類境 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹天保一三寫（谷大、餘大・四一八六）

唯識三類境 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō. 科本唯識三類境 ❷一卷 ❸存 ❹安藤順謙編 ❺明治一五刊 ❻(谷大、餘大・五〇)

唯識三類境溫知錄 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-on-chi-roku. ❷三卷 ❸存 ❹大圓（文化六—明治一三 A. D. 1809—1880）述 ❻安政五自筆本（谷大、餘丙・一一四）寫本（谷大、餘大・三三四）

唯識三類境記 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-ki. ❷二卷 ❸存 ❹大圓（文化六—明治一三 A. D. 1809—1880）述 ❻寫本（谷大・餘大・八八）

唯識三類境義本質私記 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-gi-hon-shi-ki. ❷一冊 ❸存 ❹佐伯定胤著 ❺昭和三刊 ❻奈良縣法隆寺勸學院同窓會

唯識三類境玄談 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-gen-dan. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（谷大、長保・二四九）

唯識三類境庚辰記 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-kō-shin-ki. ❷一卷 ❸存 ❹默惠述 ❻寫本（谷大・餘大・三二九九）

唯識三類境講義 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹小島惠見著 ❻刊本（谷大、宗洋・三八五）

唯識三類境選要 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō. ❷一卷 ❸存 ❹風潭智海（永應三—元文三 A. D. 1654—1738）述 ❻享保二刊（正大、一一九二・二九〇）享保一八刊（高大、寄・一・一三×正大・一一九二・一六九、二九〇、二九三×谷大、餘大・一五〇八×龍大、二六二五・八五×京導）

唯識三類境選要 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō. 冠導唯識三類境選要 ❷一冊 ❸存 ❹町元存煙註 ❺明治二三刊 ❻(帝國、一六・一二〇)（高大、一・一三）（正大、一一九二・一六八×龍大、二六二五・八九×貴、く・七・中・一三）

唯識三類境選要記 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寶雲（寶政三—弘化四 A. D. 1791—1847）述 ❻大谷大學に二本を藏し二者の內容稍々異る。 ❻寫本（谷大、餘大・二五三八、二五四九）

唯識三類境選要講義 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹秀存（天明八—萬延元 A. D. 1788—1860）述 ❺明治二六刊 ❻(谷大・餘小・八)×龍大、二六二五・九一×正大、一一九二・一一七〇）

唯識三類境選要講義 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō-kō-gi. ❷二卷 ❸存 ❹惠月（一文久三 A. D. 1863）述 ❺弘化三（A. D. 1846）? ❻寫本（谷大、餘大・二三二二）

唯識三類境選要講錄 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō-kō-roku. ❷二卷 ❸存 ❹海音（文化一二—明治一五 A. D. 1815—1882）述 ❻寫本（谷大、餘大・二〇八×龍大、研佛）

唯識三類境選要帳 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō-chō. ❷一卷 ❸存 ❹光隨述 ❻寫本（正大、一一九二・二九六）

唯識三類境選要聽記 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō-chō-ki. ❷三卷 或一卷 ❸存 ❹寶雲（寶政三—弘化四 A. D. 1791—1847）述 ❻寫本（龍大、二六二五・九二×谷大、餘大・四一四三）

唯識三類境選要分科 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-sen-yō-bun-kwa. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（正大、一一九二・二九七）（貴、く・八・中・六）

唯識三類境聽記 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-chō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹百賴（天明七—明治四 A. D. 1787—1871） ❻寫本（龍大、二六二五・九三）

唯識三類境聽記 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-chō-ki. ❷二冊 ❸存 ❹武田行忠（文化一四—明治二三 A. D. 1817—1890）述 ❺嘉永六寫 ❻(谷大、餘大・四一一五)

唯識三類境筆錄 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-hitsu-roku. ❷一卷 ❸存 ❹天野若空 ❻寫本（龍大、二六二五・九四）

唯識三類境要義辨 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-yō-gi-ben. ❷一卷 ❸存 ❹說念 ❻寫本（谷大、餘大・二九〇九）（正大、一一九二・一七一）

唯識三類境略答草稿 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-ryaku-tō-sō-kō. ❹存 ❻寫本（龍大）

唯識三類境錄 ❶(B) Yui-shiki-san-rui-kyō-roku. ❷四卷 ❸存 ❹恢麟（一

文政七A. D. 1824)逐 ⑨寫本(谷大、餘大・二六五)

唯識私記 ❶(B) Yui-shiki-shi-ki. (支)Wei-shih-sze-chi. ❷一卷 ❸玄壺集 ❹東域傳燈目錄卷下に云く「基本壺末合ノ上下、成ノ一卷」云々。 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

唯識私記 ❶(B) Yui-shiki-shi-ki. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(智、く・七・左・五)

唯識遮境事 ❶(B) Yui-shiki-sharyō-no-koto. ❷一冊 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三A. D. 1345—1416)口 ❺應永五寫 ❻(寶壽院)

唯識集成實錄 ❶(B) Yui-shiki-jippō-kwan-roku. ❷九卷 ❸存 ❹寫本(正大、一一九二・六七)

唯識集成編 ❶(B) Yui-shiki-jippō-hen. 成唯識論逐記集成編、逐記集成編、唯識逐記集成編 ❷四十五卷 ❸存、大正六七・一No. 4266 ❹馮慧(延寶五—寶延元A. D. 1677—1745)逐 ❺成唯識論逐記集成編の下を見よ。 ❻寫本(谷大、餘大・四八三六)

唯識宗大意 ❶(B) Yui-shū-shū-tai-i. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、二六二五・一一)

唯識集 ❶(B) Yui-shi-i-shū. (支) Wei-shih-chi. 成唯識要集、唯識要集 ❷十四卷 ❹唐道證逐 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄6265

唯識述記 ❶(B) Yui-shiki-jut-ki. (支)Wei-shih-shu-chi. 成唯識論逐記、逐記、唯識逐記、唯識論疏 ❷二十卷 ❸存、大正四三・二二九No. 1830、卍續一・七七・一—五 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A. D. 622—682)逐 ❺成唯識論逐記の下を見よ。

唯識述記引據丁附 ❶(B) Yui-shiki-jut-ki-in-kō-chō-zake. ❷三冊 ❸存 ❹寫本(智、さ・四・右・二五)

唯識述記引蒙 ❶(B) Yui-shiki-jut-ki-in-mō. 成唯識論逐記引蒙 ❷一卷 ❸存 ❹寫本(智、さ・四・中・四、さ・二・右・一)

唯識述記溫古編 ❶(B) Yui-shiki-jut-ki-on-ko-hen. ❷十九卷 ❸存 ❺天明四寫 ❻(正大、一一九二・六四)

唯識述記科 ❶(B) Yui-shiki-jut-kwa. ❷二卷 ❸存 ❺天保七寫 ❻(正大、一一九二・五一)

唯識述記集成編 ❶(B) Yui-shiki-jut-ki-ji-jō-hen. 成唯識論逐記集成編、逐記集成編、集成編、唯識集成編、唯識論逐記集成編 ❷四十五卷 ❸存、大正六七・一No. 4266 ❹馮慧(延寶五—寶延元A. D. 1677—1745)逐 ❺成唯識論逐記集成編の下を見よ。

唯識述記序釋 ❶(B) Yui-shiki-jut-ki-jo-shaku. 成唯識論逐記序釋、逐記序釋、序釋 ❷一卷 ❸存、大正六五・三一八No. 1830、日本大藏經第二九唯識論章疏第二、大日本佛教全書第八〇 ❹霊珠(紳龜元—延曆一六A. D. 724—797)逐 ❺成唯識論逐記序釋の下を見よ。

唯識述記條箇 ❶(B) Yui-shiki-jut-ki-jō-kō. ❷一冊 ❸存 ❹寛政九寫(高大、寄・一・一三) 寫本(智、さ・四・左・四、さ・四・中・一八)

唯識述記分科 ❶(B) Yui-shiki-jut-ki-bun-kwa. ❷一卷 ❸存 ❹惠觀(—天保元A. D. 1830) ❹寫本(谷大、餘大・四五一八)

唯識述義 ❶(B) Yui-shiki-jutsugi. (支)Wei-shih-shu-i. ❷二卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄6262

唯識順釋論 ❶(B) Yui-shiki-jun-shaku-ron. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(智、く・六・右・九)

唯識疏 ❶(B) Yui-shiki-sho. (支) Wei-shih-su. 成唯識論疏、唯識論疏 ❷四卷 ❹慧觀逐 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識疏 ❶(B) Yui-shiki-sho. (支) Wei-shih-su. 成唯識論疏、唯識論疏 ❷十卷減二十卷 ❸缺 ❹唐圓測(大業九—萬歲通天元A. D. 612—696)逐 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識疏 ❶(B) Yui-shiki-sho. (支) Wei-shih-su. 成唯識論疏 ❷二十卷 ❸缺 ❹唐玄範逐 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、奈良朝現在一切經疏目錄6260

唯識疏 ❶(B) Yui-shiki-sho. (支) Wei-shih-su. ❷十七卷 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識疏記 ❶(B) Yui-shiki-sho-ki. (支)Wei-shih-su-chi. 成唯識論疏記 ❷五卷 ❹智法師逐 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識疏序釋 ❶(B) Yui-shiki-sho-jo-shaku. ❷一卷 ❹護命(天平勝寶二—承和元A. D. 750—834)逐 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識疏鈔 ❶(B) Yui-shiki-sho-chō. (支)Wei-shih-su-ch'ao. ❷六卷 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識諸部玄談 ❶(B) Yui-shiki-shobu-gen-dan. ❷一卷 ❸存 ❹恢麟(—文政七A. D. 1824)逐、法寶編 ❹寫本(谷大、餘大・一八七五)

唯識抄 ❶(B) Yui-shiki-shō. (支) Wei-shih-chao. 成唯識論別抄、唯識別抄 ❷五卷(現存第一(卷首卷末缺)第五完) ❸存、卍續一・七七・五 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A. D. 622—683)逐 ❺成唯識論別抄の下を見よ。 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄6257

唯識章科文 ❶(B) Yui-shiki-shō-kwa-mon. ❷一冊 ❸存 ❹凱璋(寶祿二—嘉元二A. D. 1229—1304)逐 ❹寫本(高大、寄・一・一三)

唯識章私記 ❶(B) Yui-shiki-shō-shi-ki. 唯識義私記、唯識義林章私記、唯識義章、見烏私記、六卷私記、唯識義 ❷六卷或十二卷 ❸存、大正七一・二九八No. 4215、日本大藏經第三二法相宗章疏第二、大日本佛教全書第八一 ❹貞興(永平四—寛弘元A. D. 994—1004)逐 ❺唯識義私記の下を見よ。

唯識章集記 ❶(B) Yui-shiki-shō-

jun-ki. ❷一卷 ❹眞雄逐 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

唯識樞要 ❶(B) Yui-shiki-su-yō. (支) Wei-shih-shu-yao. 成唯識論掌中樞要、成唯識論樞要、唯識論樞要、樞要、唯識論掌中樞要 ❷二卷或四卷 ❸存、大正四三・六〇七No. 1851、卍續一・七八・一 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A. D. 622—682)逐 ❺成唯識論掌中樞要の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄6258 ❹刊本(智、く・二・右・三)

唯識樞要記 ❶(B) Yui-shiki-su-yō-ki. (支)Wei-shih-shu-yao-chi. 樞要記 ❷二卷 ❹義斌逐 ❼(參考) 注進法相宗章疏

唯識樞要義 ❶(B) Yui-shiki-su-yō-gi. 樞要義 ❷一卷 ❹行賀(天平元—延曆二二A. D. 729—803)逐 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏

唯識樞要解節記 ❶(B) Yui-shiki-su-yō-gesetsu-ki. 唯識解節記 ❷十七卷或十卷 ❹護命(天平勝寶二—承和元A. D. 750—834)逐 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

唯識樞要三類境講義 ❶(B) Yui-shiki-su-yō-san-rui-kyō-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹默惠逐 ❺弘化元寫 ❹(谷大、餘大・四三二七)

唯識樞要私記 ❶(B) Yui-shiki-su-yō-shi-ki. (支) Wei-shih-shu-yao-sze-chi. 樞要私記 ❷一卷 ❹庶玄壺逐 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏、奈良朝現在一切經疏目錄6259

唯識樞要抄記 ❶(B) Yui-shiki-su-yō-shō-ki. (支)Wei-shih-shu-yao-ch'ao-chi. 樞要鈔記 ❷二卷或四卷 ❹觀證逐 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏

唯識樞要要決 ❶(B) Yui-shiki-su-yō-yō-ketsu. 樞要要決 ❷八卷 ❹常騰(天平一二—弘仁六A. D. 740—815)逐 ❼(參考) 注進法相宗章疏

唯識樞要要節 ❶(B) Yui-shiki-su-yō-yō-setsu. ❷二卷 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏

唯識精要 ❶(B) Yui-shiki-sei-yō. ❷二卷 ❸存 ❹井上玄眞逐 ❹寫本(龍大)

唯識俗詮 ❶(B) Yui-shiki-zokusen. (支)Wei-shih-su-ch'uan. 成唯識論俗詮、唯識論俗詮 ❷十卷序目及科一卷 ❸存、卍續一・八二・一—二 ❹明昱逐 ❺明萬曆三四(A. D. 1606) ❻成唯識論俗詮の下を見よ。 ❺天和二刊 ❹(高大、寄・一・一三)

唯識大意 ❶(B) Yui-shiki-tai-i. 二卷鈔、法相二卷鈔、法相大乘鈔、法相大意鈔、孝道國宇鈔 ❷二卷 ❸存、大正七一・一〇九No. 4314、日本大藏經第三三法相宗章疏第二、大日本佛教全書第八〇 ❹良遍(建久五—建長四A. D. 1194—1252)逐 ❺二卷鈔の下を見よ。 ❹元治元刊(正大、一一九二・三三八) 刊本(高大、寄・一・一三)(京專)(智、く・七・左・二二)寫本(龍大・二六二五・一二)

唯識大意 ❶(B) Yui-shiki-tai-i. ❷一卷 ❸存 ❹具遍(建久五—建長四A. D. 1194—1252)逐、楠正命補 ❺天保年間刊 ❹(谷大、餘大・二九三八)

唯識大意 ❶(B) Yui-shiki-tai-i. 校補唯識大意 ❷二卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)校 ❺明治一八刊 ❹(京大、一・二四ニ・一)(帝國、一三四・二四〇)(谷大、餘大・九二三)

唯識大意發揮 ❶(B) Yui-shiki-tai-i-hok-ki. ❷二卷 ❸存 ❹小山雲榮(—明治三六A. D. 1903)逐 ❺明治一九刊 ❹(正大、一一九二・二五六)(龍大、二六二五・一三)(谷大、餘大・九二)(高大、寄・一・一三)(帝國、六・一〇四)(智、く・八・中・二二)(京專)

唯識太鈔 ❶(B) Yui-shiki-tai-shō. (支)Wei-shih-t'ai-ch'ao. 成唯識論疏抄、成唯識論疏泰抄、成唯識論太抄、泰抄 ❷二十四卷或十八卷 ❸存、卍續一・八〇・二—五 ❹唐代窺泰逐 ❺成唯識論疏抄の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識談微鈔 ❶(B) Yui-shiki-dan-mi-shō. (支)Wei-shih-t'an-wei-ch'ao. 成唯識論談微抄 ❷二十卷 ❹唐代如理逐 ❺諸宗章疏錄第一に云く「一本云二卷」東域・傳錄著六五卷?十宇恐誤」云云。

唯識通論講述 ❶(B) Yui-shiki-tsūron kō-jutsu. 成唯識通論講述 ❷一卷 ❸存 ❹廣陵了榮(文政二—明治三三A. D. 1819—1900)逐 ❺明治一五寫 ❹(谷大、餘大・四三二一)

唯識傳系 ❶(B) Yui-shiki-den-kei. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・三七三〇)

唯識東鈔 ❶(B) Yui-shiki-tō-shō. (支) Wei-shih-tung-ch'ao. 成唯識論東京鈔、東抄 ❷三卷或二卷 ❹成唯識論東京鈔の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識同異義 ❶(B) Yui-shiki-dō-i-gi. (支) Wei-shih-t'ung-i-i. 成唯識論同異義 ❷一卷 ❹唐代利涉逐 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識同學鈔 ❶(B) Yui-shiki-dō-gaku-shō. 成唯識論同學鈔、同學鈔、唯識論同學鈔 ❷六十二卷或六十六卷、四十八卷、六十七卷 ❸存、大正六六・一No. 1827、大日本佛教全書第七六—七七 ❹藏俊(長治元—治承四A. D. 1104—1180)、覺憲(天承元—建曆二A. D. 1131—1212)、眞慶(久壽二—建保元A. D. 1165—1213)、良算(—建仁二A. D. 1202—)等 ❺成唯識論同學鈔の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識導指要 ❶(B) Yui-shiki-dō-shi-yō. (支)Wei-shih-tao-chih-yao. 成唯識論導指要 ❷三卷 ❹林泰逐 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識二十論 ❶(B) Yui-shiki-ni-jū-ron. (支)Wei-shih-erh-shih-lun. (梵) Viṃśikā-vijñapti-mātra-siddhi(Pub. par Sylvain Lévi, paris, 1925)(漢)(玄奘)Jui-ca-pahi tshig-leḥur-byas-pa(釋)ñi-ma-pahi

hgrel-pa 二十唯識論 ❷一巻 ❸仏 ❹大正二一・七四 No. 1590 新纂大卍二一・四七616当 昭630当 安622当 明寺1234 諸1234 諸615力 大617当 寺575力 法601力 東1338内 明寺1366 諸 東寺(仁寺)一 諸 東寺(仁寺)一 諸 東寺(仁寺)一

十巻仲麻呂撰、今云a一巻,可e考)云云。

唯識比量鈔 ❶(日)Yui-shiki-hi-ryō-shō. 唯識比量問答、唯識比量菩提院抄 ❷二巻 ❸存 ❹藏俊(長治元—治承四 A. D. 1104—1180)述 ❺本書は有名なる玄奘三藏が印度に於て成立せられたる唯識比量を、慈恩がその著、唯識論述記及び因明大疏に論述せられたるに就ての末註書なり。

本書製作の動機等に付いては、巻末の識語に、長者長大臣閣下願長の敕命に依り、六月十日より同二十七日に至り、唯識比量の要義二十條を兩巻に之を記す。草案已に成り淸書未だ乾らざるに、承相桑去賢豐に備へず遺恨無極云云。于時保元年丙子秋八月十四日記之。興福寺五師大法師藏俊云云とある。彼の唯量鈔に唯識比量を敎めてないのは、別に本書の著述があった爲ではあるまいか。

❹文化四寫(谷大、餘大・二一七九)文政元寫(正大、一一九四・五一)寫本(龍大、二六二五・二九) (佐伯良謙)

唯識分量決 ❶(日) Yui-shiki-bun-ryō-ketsu. 成唯識論分量決、分量決 ❷一巻 ❸存、大正七一・四四〇 No. 1821、日本大藏經第二九唯識論章疏第二、大日本佛敎全書第八〇 ❹善珠(神龜元—延暦一六 A. D. 724—797)述 ❺本書は唯識敎學の認識過程を考究するに四分の學說あり、此の四分に關して唯識學には四分三類唯識半學と稱する黃色の辨の問題として古來研究された異說を揭げて決擇し、次に掌珍論の量及び玄奘三藏の唯識比量を明せるものである。內容は三段に分ち、第一唯識分量決、第二掌珍論爲量顯過決、第三玄奘三藏唯識比量淨過決とす。此中第一唯識分量決には十五門を以て分別し、第一釋名決定門、第二立分不同門、第三行相異說門、第四大小二乘行相不同門、第五能所量果門、第六內外別分門、第七能緣所緣門、第八三量分別門、第九四緣分別門、第十同種別種門、第十一同合不同門、第十二唯識解釋門、第十三一用多用門、第十四四分相緣門、第十五諸門分別門として、相分・見分・自證分・證自證分の四分を決擇し、第二掌珍論爲量顯過決段は五段とし、第一爲性有法決、第二三支顯過決、第三對敵顯過決、第四餘量同異決、第五文外顯疑決と分別して掌珍量を明し、第三玄奘三藏唯識比量淨過決段は六段とし、第一眞故決、第二極成色決、第三自許決、第四初三攝決、第五眼所不攝決、第六因顯過決と分別して唯識比量の義を釋し、善珠學頑の快刀亂麻を截つ性相決判の明瞭なるは前後に比類なく、仲章も四分義私記に之を引用し細釋せるありて、古來有名なりしも、中頃散佚して傳らず、近年醍醐寺書庫より發見せしものである。

❹寫本(谷大、餘大・二五五二) (橋本凝胤)

唯識別鈔 ❶(日)Yui-shiki-bes-shō. (支)Wei-shih-pieh-ch'ao. 成唯識論別抄、唯識抄 ❷五巻(現存第一、第五) ❸存、卍續一・七七・五 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—680)述 ❺成唯識論別抄の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識貶量 ❶(日)Yui-shiki-hen-ryō. (支)Wei-shih pien-liang. 成唯識論貶量 ❷二十卷或二十五卷、三十卷 ❹新羅慈藏(—開耀元 A. D. 681—)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識貶量鈔 ❶(日) Yui-shiki-hen-ryō-shō. 成唯識論貶量抄 ❷七卷 ❹林泰(泰一作太)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識北鈔 ❶(日) Yui-shiki-hoku-shō. (支) Wei-shih-pei-ch'ao. 成唯識論北京抄、北抄 ❷三卷 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識本頌略解 ❶(日)Yui-shiki-hon-ju-ryaku-ge. 成唯識論本頌略解 ❷一巻 ❸存 ❹良光(開寶—寶永一二—元祿元 A. D. 1625—1689)述 ❺延寶二刊 ❻(正大、一一九二・三〇〇×京專×貞、く・三・左・一二) (正大、一一九二・二六一×高大、寄・一・一三)

唯識本文抄 ❶(日)Yui-shiki-hon-mon-shō. 成唯識論本文抄、唯識論本文抄、本文抄 ❷四十五巻 ❸存、大正六五・四〇三 No. 1828 ❹成唯識論本文抄の下を見よ。 ❻寫本(正大、一一九二・二五八、三七二)

唯識未詳決 ❶(日) Yui-shiki-mi-shō-ketsu. (支)Wei-shih-wei-hsiang-chüeh. 成唯識論未詳決 ❷二巻或三巻 ❹義寂述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識無境界論 ❶(日)Yui-shiki-mu-kyō-gai-ron. (支) Wei-shih-wu-ching-lun. 唯識論、大乘掌珍論、唯識無境界論 ❷一巻 ❸存、大正三一・六三 No. 1589、續藏九、卍二二・四、北614忠、南628忠、元629忠、明北1323靜、清1323靜、麗617力、天616忠、指577力、法625場、至1328丙、明南1365都、N. 1238 ❹天親菩薩造、後魏菩提流支譯 ❻唯識論の下を見よ。

唯識名所雜記 ❶(日) Yui-shiki-mei-sho-zak-ki. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・一三)

唯識問答 ❶(日)Yui-shiki-mon-dō. 伽唯識論、破色心論、唯識無境論 ❷一巻 ❸存、大正三一・六三 No. 1589、續藏九、卍二二・四、北614忠、南628忠、元629忠、明北1323靜、清1323靜、麗620力、天617忠、指577力、法625場、至1328丙、明南1365都、N. 1238 ❹天親菩薩造、羅漢較若流支譯 ❻唯識論の下を見よ。

成不成唯識問答 ❷四巻 ❹藤原宗成撰、善修答 ❻東城傳燈日錄巻下に云く「內題云a成不成唯識問答?分a下巻,成a上下二軸?大菩師藤原宗成問。興福寺善修善薩答」云々。

唯識要義 ❶(日)Yui-shiki-yō-gi. ❷一巻 ❸存 ❹花田凌雲著 ❺大正一三刊 ❻京都興敎書院

唯識要義鈔 ❶(日) Yui-shiki-yō-gi-shō. ❷一巻 ❸存 ❹澄英撰 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

唯識要集 ❶(日) Yui-shiki-yō-shō. (支)Wei-shih-yao-chi. 成唯識論要集、成唯識論文義記 ❷十三巻 ❺唐神昉述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識要集 ❶(日)Yui-shiki-yō-shū. (支)Wei-shih-yao-chi. 成唯識要集、唯識集、唯識論疏、唯識論集 ❷十四巻或十巻 ❹唐道證述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識略釋 ❶(日) Yui-shiki-ryaku-shaku. ❷一巻 ❹護命(天平勝寶二—承和元 A. D. 750—834)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識了義燈 ❶(日) Yui-shiki-ryō-gi-tō. (支)Wei-shih-liao-i-teng. 成唯識論了義燈、成唯識了義燈、成唯識義燈、了義燈、義燈、唯識論了義燈 ❷十三巻或七巻 ❸存、大正四三・六五九 No. 1829、卍續一・七八・一—二 ❹唐慧沼(一開元二 A. D. 714)述 ❻成唯識論了義燈の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄 No. 556 ❾刊本(官、く・二・右・二一)

唯識了義燈記 ❶(日)Yui-shiki-ryō-gi-tō-ki. (支) Wei-shih-liao-i-deng-chi. 成唯識論了義燈記 ❸二巻之內巻下現存、卍續一・七八・三 ❹唐智周(儀鳳三—開元二一 A. D. 678—733)述 ❻成唯識論了義燈記の下を見よ。 ❼(參考) 東城傳燈目錄巻下、注進法相宗章疏

唯識了義燈解節記 ❶(日) Yui-shiki-ryō-gi-tō-ge-setsu-ki. 義燈解節記、唯識燈解節記 ❷三巻或二巻 ❹護命(天平勝寶二—承和元 A. D. 750—834)述 ❼(參考) 注進法相宗章疏

唯識了義燈抄 ❶(日)Yui-shiki-ryō-gi-tō-shō. 成唯識論了義燈抄、義燈抄、成唯識論燈抄、了義燈抄 ❸四巻之內巻三、四現存、日本大藏經第二九唯識論章疏第二 ❹信寂(—寶龜四 A. D. 773—)述 ❻成唯識論了義燈抄の下を見よ。 ❼(參考) 注進法相宗章疏

唯識了義燈抄 ❶(日)Yui-shiki-ryō-gi-tō-shō. 成唯識論了義燈抄 ❸七巻之內第三巻現存、日本大藏經第二九唯識論章疏第二 ❹常騰(天平二二—弘仁六 A. D. 750—815)述 ❻成唯識論了義燈抄の下を見よ。 ❼(參考) 東城傳燈目錄巻下、注進法相宗章疏

唯識了義燈增明記 ❶(日) Yui-shiki-ryō-gi-tō-zō-mei-ki. 成唯識論了義燈增明記、成唯識增明記、唯識義燈增明記、義燈增明記、了義燈增明記 ❷四巻 ❸存、大正六五・三二七 No. 1831、日本大藏經第二九唯識論章疏第二 ❹善珠(神龜元—延暦一六 A. D. 724—797)述 ❻成唯識論了義燈增明記の下を見よ。 ❼(參考) 東城傳燈目錄巻下、注進法相宗章疏

唯識了義聞記 ❶(日)Yui-shiki-ryō-gi-tō-mon-ki. 成唯識論了義燈聞記 ❷七巻 ❸存 ❹大圓(文化六—明治一三 A. D. 1809—1880)述 ❺寫本(谷大、餘大・五〇五八)

唯識料簡 ❶(日)Yui-shiki-ryō-ken. (支)Wei-shih-liao-chien. 成唯識論料簡 ❷一巻 ❸缺 ❹唐順憬述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

唯識類聚 ❶(日)Yui-shiki-rui-jū. ❷一巻 ❸存 ❹佐伯旭雅(文政一一—明治二四 A. D. 1828—1891)等編 ❺明治一七—一八刊 ❾(正大、一一九二・一六一)

唯識論 ❶(日)Yui-shiki-ron. (支) Wei-shih-lun. 成唯識論 ❷十巻 ❸存、大正三一・一 No. 1585、續往一〇、卍二一・一〇、北612則、南622則、元625則、明北1323義、清1328義、麗621忠、天616則、指576忠、法627忠、至1341舍、明南1364歷、N. 1197 ❹護法等菩薩造、唐玄奘(仁壽二—麟德元 A. D. 602—664)譯 ❻解說は成唯識論の下を見よ。

❼(注釋) 述記二十巻(大正四三 No. 1830)窺基。掌中樞要四巻(大正四三 No. 1831)窺基。了義燈十三巻(大正四三 No. 1832)惠沼。演祕十四巻(大正四三 No. 1833)智周。別抄十巻(卍續一・七七・五)窺基。掌中樞要記二巻(卍續一・七八・一)智周。了義燈記二巻(卍續一・七八・三)智周。義蘊五巻(卍續一・七八・五)道邕。義演二十六巻(卍續一・七九・一)如理。演祕釋五巻(卍續一・七九・五)如理。注巻第十七(卍續一・七九・五)。學記八巻(卍續一・八〇・一)太賢。疏抄十八巻(卍續一・八〇・二)靈泰。骨說十巻(卍續一・八一・一)太賢。疏抄十八巻(卍續一・八一・二)通潤。證義十巻(卍續一・八二・五)廣承。合釋十巻(卍續一・八二・五)大眞。自攷十巻(卍續一・八二・一)大惠。觀心法要十巻(卍續一・八二・三)智旭。音釋補遺科二巻(卍續一・八二・四)智素。音釋補遺十巻(卍續一・八二・五)智素。義鏡鈔十二巻清素。義鑑鈔二十巻清凝。科五巻從式。疏序鈔一巻從式。詳鑑鈔微鈔鈔十七巻詮明。應新鈔科文四巻大科一巻詮明。雜玄鈔二十巻義陶。科七巻義陶。義蘊章十巻覺相。疏二十巻(十巻)弘測。綱要十三巻道證。要集決明章四巻神雄。疏二十巻玄範。記鈔二十五巻慧興。古迹記十巻(寫)太賢。開發章四巻窺基。義津鈔六巻藏用。集解三巻惠業。義苑鈔三巻悟眞。廣述六巻神雄。宗要一巻元曉。別章三巻圓測。要決二巻道倫。決擇一巻太賢。開發一巻玄應。料簡一巻順憬。應抄五巻。光抄八巻。導指要三巻神太。疏四巻惠觀。要集十巻神昉。肥量抄七巻神太。廣釋本母頌三巻太賢。解節三巻宗睿。未詳決三巻義寂。雜抄五巻道憲。同異義一巻利渤。北京抄三巻。東京抄二巻。讀證抄五巻如理。疏抄六巻。疏記五巻哲法師。義翼七巻崇俊。獨法清釋。記十巻清素。決三巻無莊。樞要方略二巻智周。記二巻慧興。記二巻印師。私記一巻玄一。

記二卷道憲。記二卷義斌。抉擇談一卷飽陽竟無。研究次第一卷。述記序釋一卷（佛全第八〇）善珠。唯識鈔二卷（佛全第八〇）藏俊。同學鈔四十八卷（佛全第七六）良算。泉鈔三十卷（佛全第七八）善念。懸談一卷（佛全第七九）聞證。疏肝心記八卷（日藏第三九）善珠。疏淫文抄十卷（日藏第三九）善珠。了義燈增明記四卷（日藏第三九）善珠。了義燈抄七卷（日藏第二九）常騰。了義燈抄四卷（日藏第二九）信寂。義結一卷行賀。會記三十卷行賀。羽足四卷平備。記國卷信寂。同異補闕章二卷恵一。序釋一卷護命。義陳一卷行賀。註福要二卷勝均。福要義一卷行賀。解節記十七卷護命。要決八卷常騰。解節記三卷護命。科二卷（寫）貞鬥。科二卷（寫）勝如。本文抄四十五卷（寫）藏俊。琢思抄十六卷（寫）貞慶。玄應章十四卷（寫）凝然。略要論四卷（寫）良遍。調論聞書二十七卷（寫）光胤。略解十卷（寫）聞證。調證記五十卷（寫）高範。略考十卷（寫）高範。口傳抄九卷（寫）高範。增解二卷（寫）高範。述記集成編四十五卷（寫）漢慧。述記纂解十四卷（寫）善寂。述記引據二卷（寫）風潭。述記證錄二十卷（寫）風潭。述記東海集編傳十卷（寫）曇洲。述記文集十三卷（寫）實雲。述記條箇一卷（寫）述記讚微錄四卷（寫）旭雅。述記聞藻抄二卷（寫）了榮。述記本末圓解十卷秀翁。述記懸談（寫）龍潤。略疏六卷（寫）善寂。義策五十卷（寫）周海。裁錦五卷（寫）鏡出錄圓一卷（寫）恵成。私鈔十卷（寫）隨聞記七卷（寫）壁石殿。詮量二卷（寫）聞隨。聽記三卷（寫）壁鑑。筆錄十一卷（寫）鳴雲。記九卷（寫）大圓。隨聞記十卷（寫）大圓。講說五卷（寫）義誠。了義燈聞記十卷（寫）大圓。冠註傳註十卷（刊）旭雅。名所錄記三卷旭雅。聞記十卷（寫）觀信。聞記六卷恵龍。講錄四卷（寫）亮順。聞記六卷（寫）恒惠。編正錄十二卷教山。聞記六卷（寫）恒順。講錄七卷（寫）宗興。講義一卷玄貫。討要記三卷（寫）珂然。隨聞記九卷澄玄。筆二卷（寫）丙午錄二卷（寫）大圓。

唯識論 ❶(B)Yui-shikiron. (支) Wei-shih-lun. (梵)成唯識二十論參照、大乘唯識論、唯識論、唯識無境論、唯識無境界論、破色心論、唯識無境論、唯識無境界論、大乘唯識論 ❷一卷 ❸存、大正三一・六三No.1586、館来九、卍二二・四、北815忠、南529忠、元621忠、明北1123帥、清1123帥、麗5525力、天6158忠、指3711力、法680鴻、至1393丙、明南1393都、Nj.1127 ❹天親菩薩造、般若流支譯 ❺後魏元象元—興和四(A.D.538—542)

❻本論は三界唯識心外無境の義を說いたものであつて、世親が特に外道の義を破斥せんが爲めに製作した論典である。瑜伽十支論の隨一で、摧破邪出論とは其の内容から名けられた呼稱である。本書は文簡にして而も義豐である爲に西域に於ける註釋數十餘家を數へ、世親の弟子眞諦波論師早く既に疏を製し護法亦た實生論なる註疏を撰述されて居る。

陳眞諦三藏譯唯識論一卷、唐玄奘譯唯識二十論一卷は本論と同本異譯であつて、本譯は其の第一課に位するものである。惑恩大師は此の三譯に關して、般若流支譯は文多頌少、眞諦譯は文少頌多、玄奘譯は文頌析中と言つて居る。第一譯は二十三頌より成り、第二譯は二十四頌、第三譯は二十一頌から成つて居る、第一譯即ち本書の第二十一の引經の頌は他の二譯に存在せざるものであり、眞諦譯の初頭の歸敬の二頌は自餘の二本に無きものであるから譯者の敬禮頌であることが知られる。而して本書冒頭の立宗の一頌は眞諦譯にも存在するけれども、玄奘譯には存せざるものである。抑も本論は二十頌によつて宗義を闡明し末後の一頌は結歎歸依の頌であつて唯識の義を顯はし暢べたものではない。梵本の原名が唯識二十論と言ふが故に右の立宗の一頌は原典には無かつたものである。内容科判等は唯識二十論述記に就て研究せよ。唯識二十論の項參照。

❼(參考) 三寶紀第九、内典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九 (林信雲)

唯識論 ❶(B)Yui-shiki-ron. (支) Wei-shih-lun. 大乘唯識論、唯識無境界論 ❷一卷 ❸存、大正三一・七〇No.1590、館来九、卍二二・四、北815忠、南529忠、元621忠、明北1123帥、清1123帥、麗617力、天616忠、指3708力、法680鴻、至1393丙、明南1393都、Nj.1128 ❹天親菩薩造、陳眞諦(永元元—太建元A.D.499—569)譯 ❺大乘唯識論の下を見よ。 ❻寛政八刊 ❼(龍大、二三四・一〇—一一)

唯識論 ❶(B)Yui-shiki-ron. 西藏文世親造唯識論 ❷一册 ❸存 ❹寺本婀雄校並譯 ❺大正一二刊 ❻京都内外出版株式會社

唯識論 ❶(B)Yui-shiki-ron. 國譯唯識論 ❸存、國譯大藏經論部第一〇 ❹鳥地大等(明治八—昭和二A.D.1875—1927)譯

唯識論 ❶(B)Yui-shiki-ron. ❷一册 ❸存 ❹廣瀨文豪著 ❺昭和五刊 ❻(高大、一・一三)(谷大)(龍大)

唯識論泉鈔 ❶(B)Yui-shiki-ron-izumi-shō. 成唯識論泉抄、泉抄、論泉抄 ❷三十卷 ❸存、日本大藏經第二八—二九 唯識論章疏第一—第二、大日本佛教全書第七八—七九 ❹善念述 ❺成唯識論泉抄の下を見よ。 ❻古寫本(增上寺)寛文七刊(高大、一・一三)(智、く・三・中・二一、左・一)

唯識論乙丑講錄 ❶(B)Yui-shiki-ron-ri-chō Ki-roku. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(京大、一・二四ュ・八)

唯識論演祕 ❶(B)Yui-shiki-ron-en-pi. (支)Wei-shih-lun-yen-pi. 成唯識論演祕、唯識演祕、演祕 ❷七卷或十四卷 ❸存、大正四三・八一一No.1597、卍續一・七八・三—四 ❹唐智周(僧風三—開元二一A.D.678—733)述 ❺成唯識論演祕の下を見よ。 ❻寛文一一刊 ❼(高大、寄・一・一三)(京大、一・二四ュ・三)

唯識論學記 ❶(B)Yui-shiki-ron-gak-ki. (支) Wei-shih-lun-hsüeh-chi. 成唯識論學記、成唯識論古迹、成唯識論古迹記、唯識古迹 ❷十卷 ❸存、卍續一・八〇・一、菩薩藏阿毘達磨古迹記之內 ❹新羅太賢(—登德王一二A.D.732—)述 ❺成唯識論學記の下を見よ。

唯識論義纘 ❶(B)Yui-shiki-ron-gi-san. (支)Wei-shih-lun-i-yün. 成唯識論義蘊、成唯識論蘊、成唯識論述記義蘊、成唯識論疏義蘊、唯識義蘊、唯識論疏、唯識論疏義蘊 ❷五卷 ❸存、卍續一・七八・五 ❹唐道邑述 ❺成唯識論義蘊の下を見よ。 ❻文化七寅(高大、寄・一・一三)寫本(京大、一・二四ュ・九)

唯識論聞書 ❶(B)Yui-shiki-ron-kiki-gaki. 光胤記、成唯識論聞證記聞書、成唯識論聞證聞書、成唯識論光胤記、唯識聞論記 ❷二十七卷或二十八卷 ❸存、大正六六・五九七No.1924 ❹光胤(恵永三—恵仁二A.D.1324—1459)記 ❺永享九(A.D.1437)

❻本書は、世に光胤記と稱するものにして、永享九年三月二日より、約百二十條席に亘り、興福寺東北院に於て、證師事慶を首座に、當時一山の學僧が相會して、聞論として成唯識論の聞證即ち會證的講讃が行はれた。それを光胤師が(時に年四十二か)日次順に筆記せられしものにして、その書き方は、最初の日が三月二日であるから二日と書いてあるが、次の日からは第二日第三日等と書いてあるだけで、何月何日とは書いてない。そして第百二十一日まで數へて論第九卷の三十二枚裏まで至り、殘り三枚半程の分は缺けて居る。次に論第十卷の分は、初分後分がなく、中分だけであつて、これには第何日と云ふ日次が無い。そこでつまり最終の月日は分らないけれども、何づれ永享九年中のことに違ひはない。それは三月二日に始まりて百二十五六席の聞論であり論第九卷の終の記にも表紙に永享九年と記してあるからである。

本書は筆者自ら外題して、論第何卷聞書と命名し置かれたのを、後ち天文二年胤縁書寫(胤縁は光胤自筆本を寫されし冒三之一の重書に見ゆ)の時か、若くは天文五年葵乗書寫の時位に、第一卷裏紙見返に「永享九年三月二日ヨリ於東北院聞論在之」と自書し置かれし詞を假り來りて、新に「聞論第何卷抄光胤」と云ふ表紙を添へられた。それより之を光胤の聞論記と稱へて貴重するようになつたのである。これは古寫本を見ればすぐ分ることである。

本書の内容は、成唯識論を逐次に、會中の諸師がそれ〴〵不審なり領解なりを、互に問答往復せられし樣を、極めて圓熟せる平易淫當なる假名漢文並用の口語體文語體兩樣の文章を以て記述し、そして其中に深き含蓄性を有つて居る。換言すれば、古來研讃の相傳の便義が、如何にも善く消化して織り込まれて居るのである。これ實に本書の一大特長であつて、恐くは唯識學界に於ける同學抄以後の一大唯編であり、又南都相傳學風の壓卷の大作と云ふべきものである。這中當時南都の學風窺へたりと雖も、猶ほ恵仁氣以前までは、所謂相傳の學風なるものが、偏然として保維されて居つた事實が反映されて居るのである。

本書中、當時集會の人々に就ては、證師專慶及び筆者光胤がその立役者であり、良明房五師、冨帳房の二師之に次ぎ、院主東北院今主俊圓法印並に長春房等の名が稀に散見し、又第十卷の記に、初三分一は永秀律師、後三分一は定清五師談之云云等が見へてある。この永秀律師は、別に一卷光胤記の證師である。それは彼記の解說の下に也所じて說く。

本書二十七帖は、本より成唯識論一部十卷に亘りての記述なるが、而し論第一卷分の記は、著者も表紙に註し置かれし如く、卷始より故同異性唯假施設(論第十三十左)までに留まり、論の又彼所執和合句義以下卷末までの記は不足して居る。即ち本書の表紙にも、依論割不記之と斷つてある。又第十卷分の記も中三分一のみである。初三分一は永秀律師、後三分一ハ定清五師談之、四智ト究竟ノ二段光胤沙汰了とある。即ちこの光胤沙汰分の記のみである。閏つてこの第十卷分は、前九卷分の如き會證的ではなく、初分は永秀、中分は光胤、後分は定清が、それ〴〵一人で沙汰せられたのである。恐くは何かの都合で時日を急がれたからであらう。

本書は、元と寫傳本で珍書であつた。昔通は僅かに泉鈔に引用されて居るから、泉鈔を透して知つて居つた位であつたが、幸に藥師寺に古寫本が二部あり、一部は天文五年より九年に至り藥師寺英乗の寫本。一部は表紙に藥師寺證師衆とある本である。證師衆の本は高範が寫し置かれたのであらう。それが元文二年に基範に依つて修復をされて居る。予はその英乗の本を寫したのであるが、それが、大正藏刊行の底本となつたのである。

著者光胤の事蹟に就ては、本解說第八卷三四頁「中道密觀光胤」の條を參照せられ度い。

❼天文年間寫(藥師寺) 元和三寫(京大、一・二三・貴)

唯識論解節 ❶(B) Yui-shiki-ron-ge-setsu. (支)Wei-shih-lun-chieh-chieh. 唯識解節 ❷三卷 ❸宗睿述 ❹(參考)奈良朝現在一切經疏目錄皆空

唯識論懸譚 ❶(B) Yui-shiki-ron-ken-dan. 成唯識論懸譚 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第七九 ❹開證(寛永二二—元祿元A.D.1625—1688)述 ❺成唯識論懸譚の下を見よ。 ❻元祿七刊 ❼(正大、一一九二・一〇〇、二八九)(智、く・六・右・四、く・六・左・一四)(智、寄・一・一三)

唯識論古迹記 ❶(B)Yui-shiki-ron-ko-seki-ki. (支) Wei-shih-lun-ku-chi-chi. 成唯識論學記、成唯識論古迹、成唯識論古迹記、唯識古迹 ❷五卷或十卷、八卷 ❸存、卍續一・八〇・一 ❹新羅太賢(—登德王一二A.D.732—)述 ❺成唯識論學記の下を見よ。 ❻寫本(高大、寄・一・一三)

唯識論綱要 ❶(B) Yui-shiki-ron-kō-yō. ❷三卷 ❸存 ❹義讃(寛政八—安政五A.D.1796—1858)述 ❺天保一三(A.D.1842) ❻天保一三寫 ❼(谷大、餘大・三九七八)

數字略號 ❶題名(書名) ❷數 ❸存缺 ❹著 ❺著者 ❻代年作譯 ❼內容解說 ❽書誌(註釋書參考書) ❾月の年の刊寫 ❿現所藏者(書庫名) ⓫出版所

唯識論講述 ❶(B) Yui-shiki-ron-kō-jutsu. 成唯識論講述 ❷1卷 ❸存 ❹惠成述 ❺天保一一(A.D.1840) ❻大保一一寫 ❼(谷大、餘大・四〇二七)

唯識論講話 ❶(B) Yui-shiki-ron-kō-wa. ❷1冊 ❸存 ❹井上玄眞著 ❺昭和二刊 ❻東京丙午出版社

唯識論雜記 ❶(B) Yui-shiki-ron-zak-ki. 三十述記見聞思錄 ❷1卷 ❸存 ❹親信 ❺寫本(谷大、餘大・四一六二)

唯識論三十頌略釋 ❶(B) Yui-shiki-ron-san-jū-ju-ryaku-shaku. ❷四卷 ❸存 ❹圓明 ❺元祿四刊 ❻(高大、寄・一・一三)

唯識論私記 ❶(B) Yui-shiki-ron-shi-ki. (支)Wei-shih-lun-sze-chi. ❷二卷 ❷(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§264

唯識論私抄 ❶(B) Yui-shiki-ron-shi-shō. ❷1冊 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶龜院)

唯識論集 ❶(B)Yui-shiki-ron-shū. (支)Wei-shih-lun-chi. 成唯識要集、唯識集、唯識要集、唯識論疏、唯識論要集 ❷十卷或十四卷 ❸缺 ❹唐道證述 ❷(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§265

唯識論述記 ❶(B) Yui-shiki-ron-jut-ki. (支)Wei-shih-lun-shu-chi 成唯識論述記、唯識述記、述記、唯識論疏 ❷二十卷 ❸存、大正四三・二二九No.1830、卍續一・七七・一—五 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A.D.627—682)述 ❺成唯識論述記の下を見よ。 ❻明曆元刊 ❼(正大、一一九二・二八八)

唯識論述記閱書 ❶(B)Yui-shiki-ron-jut-ki-etsu-gaki. ❷七卷 ❸存 ❹徹照述、了觀記 ❺天保三寫 ❻(京大、一・二四ュ・一〇)

唯識論述記愚案 ❶(B)Yui-shiki-ron-jut-ki-gu-an. ❷1卷 ❸東榮泰殿(正徳元—寶曆一三A.D.1711—1763)述 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

唯識論述記集成編 ❶(B)Yui-shiki-ron-jut-ki-ju-jō-hen. 成唯識論述記集成編、唯識論述記集成編、述記集成編、唯識集成編、集成編 ❷四十五卷 ❸存、大正六七・一No.2266 ❹淇慧(延寶五—寛延元A.D.1677—1748)述 ❺成唯識論述記集成編の下を見よ。 ❻寫本(正大、一一九二・三八二)

唯識論述記序解 ❶(B)Yui-shiki-ron-jut-ki-jo-ge. 成唯識論述記序解、唯識論序解 ❷1卷 ❸存 ❹實奬(—元祿六A.D.1693—)述 ❺元祿九刊 ❻(正大、一一九二・三八二)

唯識論述記序釋 ❶(B)Yui-shiki-ron-jut-ki-jo-shaku. 成唯識論述記序釋、唯識論序釋、成唯識論述記序 ❷1卷 ❸存、大正六七・一No.2266 ❹佐伯旭雅(文政一一—明治二四A.D.1828—1891)述 ❺明治二二寫(高大、寄・一・一三)寫本(京大、一・二四ュ・一一)

唯識論述記義纘記 ❶(B) Yui-shiki-ron-jut-ki-gi-sen-ki. 成唯識論述記義蘊記 ❷二冊 ❸存 ❹唐道邑述、三輪泰然校訂 ❺成唯識論義蘊の下參照。 ❻明治一八刊 ❼(高大、一・一三×帝國、一五二・五六×內閣×貴、く・六・右・一四)

唯識論述記別錄 ❶(B) Yui-shiki-ron-jut-ki-betsu-roku. 成唯識論述記別錄 ❷二卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・四四八五)

唯識論述記論題 ❶(B)Yui-shiki-ron-jut-ki-ron-dai. ❷1卷 ❸存 ❹吉谷覺壽(天保一三—大正三A.D.1842—1914)述 ❺明治二四寫 ❻(谷大、餘大・四二〇二)

唯識論述議 ❶(B) Yui-shiki-ron-jutsu-gi.(支)Wei-shih-lun-shu-i ❷十四卷 ❷(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§261

唯識論疏 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho. (支)Wei-shih-lun-su. 成唯識論述記、唯識論述記、述記 ❷十卷或二十卷 ❸存、大正四三・二二九No.1830、卍續一・七七・一—五 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A.D.627—682)述 ❺成唯識論述記の下を見よ。 ❻明治二二寫(高大、寄・一・一三)寫本(京大、一・二四ュ・一一)

唯識論疏 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho. (支)Wei-shih-lun-shu-chi 成唯識論疏、成唯識論疏義蘊、成唯識論疏義蘊、成唯識論述記義蘊、唯識論疏義蘊、唯識論義蘊 ❷二十卷或五卷 ❸存 ❹唐道邑述 ❺成唯識論義蘊の下を見よ。 ❻東城傳燈目錄卷下に云く「西明疏云二卷、眞諦三藏撰、案西明云、瑞波論師義疏二卷、眞諦譯○可入論部、但未度歟」云云。

唯識論疏 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho. (支)Wei-shih-lun-su. 成唯識論疏、唯識疏 ❷二十卷或十卷 ❸缺 ❹唐圓測(大業九—萬歲通天元A.D.613—695)述 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§272

唯識論疏 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho. (支)Wei-shih-lun-su. 成唯識論疏、唯識疏 ❷四卷 ❹慧觀述 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§250

唯識論疏 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho. (支) Wei-shih-lun-su. 成唯識要集、唯識論集、唯識論集、唯識論要集、唯識論要集 ❷十卷或十四卷 ❸缺 ❹唐道證述 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§258

唯識論疏序釋 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho-jo-shaku. 成唯識論述記序釋、成唯識論序釋、成唯識論述記序 ❷1卷 ❸存、日本大藏經第二九唯識論章疏第二、大日本佛教全書第八〇法相小部集之內 ❹美珠(神龜元—延曆一六A.D.724—797)集 ❺成唯識論述記序釋の下を見よ。 ❻元祿九刊 ❼(高大、寄・一・一三)

唯識論序解 ❶(B) Yui-shiki-ron-jo-ge. 成唯識論述記序解、唯識論述記序解 ❷1卷 ❸存 ❹實奬(—元祿六A.D.1693—)述 ❺元祿九刊 ❻(正大、一一九二・五九)

唯識論抄拔書 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho-bat-sho. ❷1卷 ❸存 ❹寫本

(正大、一一九二・二八八)

唯識論尋思鈔 ❶(B)Yui-shiki-ron-jin-shi-shō. 成唯識論尋思鈔 ❷九卷 ❸存 ❹貞慶(久壽二—建保元A.D.1154—1215)述 ❺建仁元(A.D.1201) ❻成唯識論尋思鈔の下を見よ。 ❼文化一〇寫(谷大、餘大・四〇五〇)寫本(高大、寄・一・一三)

唯識論圖解 ❶(B) Yui-shiki-ron-zu-ge. ❷十冊 ❸存 ❹(貞、く・七・左・四)

唯識論樞要 ❶(B) Yui-shiki-ron-su-yō. (支)Wei-shih-lun-shu-yao. 成唯識論掌中樞要、成唯識論樞要、唯識論掌中樞要、唯識樞要、樞要 ❷二卷或四卷 ❸存、大正四三・六〇七No.1821、卍續一・七八・一、佛教大系第八—一一 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A.D.632—682)述 ❺成唯識論掌中樞要の下を見よ。 ❻刊本(京大、一・二四ュ・四、一二〇×高大、寄・一・一三×京專)

唯識論俗詮 ❶(B) Yui-shiki-ron-zoku-sen.(支)Wei-shih-lun-su-chüan. 成唯識論俗詮、唯識論俗詮 ❷十卷序目及紛一卷 ❸存、卍續一・八一・一—二 ❹明景述 ❺明萬曆三四(A.D.1606) ❻成唯識論俗詮の下を見よ。 ❼天和二刊 ❽(京大、一・二四ュ・一三)

唯識論大綱 ❶(B) Yui-shiki-ron-tai-kō. ❷1冊 ❸存 ❹梶川榮堂著 ❺大正九刊 ❻東京鴻盟社

唯識論單科 ❶(B) Yui-shiki-ron-tan-kwa. ❸存 ❹高麗大覺撰 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

唯識論同異補闕章 ❶(B) Yui-shiki-ron-dō-i-fu-ketsu-shō. 成唯識論同異補闕章 ❷二卷 ❹慈一(—天長元A.D.824—)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

唯識論同學鈔 ❶(B)Yui-shiki-ron-dō-gaku-shō. 成唯識論同學鈔、同學鈔、唯識同學鈔 ❷六十八卷或六十六卷、四十八卷、六十七卷 ❸存、大正六六・一No.1835、大日本佛教全書第七六—七七 ❹藏俊(長治元—治承四A.D.1104—1180)、榮惠(久承元—建曆二A.D.1133—1212)、貞慶(久壽二—建保元A.D.1155—1215)、良算(—建仁二A.D.1202—)等 ❺成唯識論同學鈔の下を見よ。 ❻元亨四寫(東師寺)延寶七刊(高大、寄・一・一三) 明和七刊(高大、寄・一・一三×京專)(正大、一一九二・九三)

唯識論八識三身圖 ❶(B) Yui-shiki-ron-has shiki-san-shin-zu.(支)Wei-shih-lun-pa-shih-san-shên-t'u. ❷1卷 ❼(參考) 智證大師請來目錄

唯識論本末圖解 ❶(B)Yui-shiki-ron-hom-matsu-zu-ge. 成唯識論本末圖解 ❷十卷 ❸存 ❹秀雲(寛永三—元祿一二A.D.1626—1699)編 ❺延寶六刊 ❻(高大、寄・一・一三×正大、一一九二・一〇九)

唯識論本文抄 ❶(B)Yui-shiki-ron-hom-mon-shō. 成唯識論本文抄、唯識本文抄、本文抄 ❷四十五卷 ❸存、大正六五・四〇三No.2262 ❹成唯識論本文抄の下を見よ。

唯識論名所雜記 ❶(B)Yui-shiki-ron-mei-sho-zak-ki. 成唯識論名所雜記 ❷1卷 ❸存 ❹佐伯旭雅(文政一一—明治二四A.D.1828—1891)述 ❻明治二二寫(高大、寄・一・一三)寫本(京大、一・二四ュ・一一)

唯識論述記別錄 ❶(B)Yui-shiki-ron-jut-ki-betsu-roku. 成唯識論述記別錄 ❷二卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・四四八五)

唯識論述記論題 ❶(B)Yui-shiki-ron-jut-ki-ron-dai. ❷1卷 ❸存 ❹吉谷覺壽(天保一三—大正三A.D.1842—1914)述 ❺明治二四寫 ❻(谷大、餘大・四二〇二)

唯識論述議 ❶(B) Yui-shiki-ron-jutsu-gi.(支)Wei-shih-lun-shu-i ❷十四卷 ❷(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§261

唯識論疏 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho. (支)Wei-shih-lun-su. 成唯識論述記、唯識論述記、述記 ❷十卷或二十卷 ❸存、大正四三・二二九No.1830、卍續一・七七・一—五 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A.D.627—682)述 ❺成唯識論述記の下を見よ。 ❻明治二二寫(高大、寄・一・一三)寫本(京大、一・二四ュ・一一)

唯識論疏 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho. (支)Wei-shih-lun-su. 成唯識論疏義蘊、成唯識論疏義蘊、成唯識論述記義蘊、唯識論疏義蘊、唯識論義蘊 ❷十卷或五卷 ❸存 ❹唐道邑述 ❺成唯識論義蘊の下を見よ。 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄§261

唯識論疏 ❶(B)Yui-shiki-ron-sho. (支)Wei-shih-lun-su. ❷1卷

唯識論了義燈 ❶(B)Yui-shiki-ron-ryō-gi-tō.(支) Wei-shih-lun-liao-i-têng. 成唯識論了義燈、唯識了義燈、了義燈、義燈、成唯識義燈、成唯識了義燈 ❷十三卷或七卷 ❸存、大正四三・六五九No.1828、卍續一・七八・一—二 ❹唐窺基(—開元二A.D.714)述 ❺成唯識論了義燈の下を見よ。 ❻寛文七刊 ❼(高大、寄・一・一三×京專)

唯識論料簡 ❶(B) Yui-shiki-ron-ryō-ken.(支)Wei-shih-lun-liao-i-chien. 成唯識論料簡、成唯識論開發料簡、唯識開發、開發、開發章、成唯識論開發章、唯識料簡 ❷二卷 ❸存、卍續一・七六・五 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A.D.627—682)述 ❺成唯識論料簡の下を見よ。 ❼寫本(京大、藏・一三ュ・四)

唯識論料簡 ❶(B) Yui-shiki-ron-ryō-ken. ❷十四卷 ❹領瑜(嘉祿二—嘉元二A.D.1229—1304) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

唯授 ❶(B)Yui-ju. 唯授祕訣アヤリ大事 ❷1軸 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶龜院)

唯授一人 ❶(B)Yui-ju-ichi-nin. ❷1軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

唯授一人口傳 ❶(B) Yui-ju-ichi-nin-ku-den. ❷二軸 ❸存 ❹足利時代寫(寶龜院)寫本(金剛三昧院)

唯授一人大事 ❶(B) Yui-ju-ichi-nin-dai-ji. ❷1帖 ❸存 ❺足利時代及德川時代寫 ❻(寶龜院)

唯授一人大事口決 ❶(日) Yui-ju-ichi-dai-ji-ku-ketsu. ❷一軸 ❸存 正長二寫 ❹(高大、菅・一・六四)

唯授一人大事口傳 ❶(日) Yui-ju-ichi-dai-ji-ku-den. ❷一軸 ❸存 ❹金賀記 ❺寫本 金剛三昧院)

唯除義 ❶(日) Yui-jo-gi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、一五〇二・二一二)

唯稱安心鏡 ❶(日) Yui-shō-an-jin-kagami. ❷一卷 ❸存、近世佛教集說之內 ❹大我(寶永六—天明二 A.D.1709—1782)述 ❺元文五刊(正大、一五五五・一八×龍大、二六八四・一五六×帝國、二一八九)安永七刊(正大、一五五五・一九)

唯稱上人念死念佛集 ❶(日) Yui-shō-shō-nin-nen-shi-nen-butsu-shū. ❸存 ❹唯稱述 ❺明治二二刊 ❻(龍大、研鑽)

唯稱辟魔訣 ❶(日) Yui-shō-hyaku-ma-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹大我(寶永六—天明二 A.D.1709—1782)述 ❺延享元刊 ❻(谷大、宗大・二九四五×京大、一・二六ュ・二〇×立大、A四〇・一六×龍大、研史)

唯稱問津訣 ❶(日) Yui-shō-mon-shin-ketsu. ❷二卷 ❸存 ❹大我(寶永六—天明二 A.D.1709—1782)述 ❺寛保元刊(龍大、二六八四・一五七)刊本(谷大、宗大・二〇七×正大、一五五四・一七九×哲、こ・三・右・二八×京大、一・二六ュ・三)

唯心一貫論 ❶(日) Yui-shin-ichi-kwan-ron. ❷一冊 ❸存 ❹倉藤唯信著 ❺明治二八刊 ❻(帝國、七二・二六二)

唯心觀 ❶(日) Yui-shin-kan. (支) Wei-hsin-kuan. 唯住心觀、住心觀 ❷一卷 ❸存 ❹菩提達磨(—永安元 A.D.528)撰 ❺明治三五刊 ❻(高大、菅・一・六四) ❼(參考) 入唐西求聖教目錄東域傳燈目錄卷下

唯心觀行式 ❶(日) Yui-shin-kwan-gyō-shiki. 華嚴唯心觀行式 ❷一卷 ❸存 ❹高神(承安三—貞永元 A.D.1173—1232)撰 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二 ❽(高山寺)

唯心訣 ❶(日) Yui-shin-ketsu. (支) Wei-hsin-chueh. 永明智覺禪師唯心訣 ❷一卷 ❸存、大正四・八・九三Nº.2012、續藏四、卍續二・一五・五、明北藏藏、清藏林、御選語錄第七、Nº.1562 ❹宋仲玄延壽(天祐元—開寶八 A.D.904—975)撰 ❺永明智覺禪師唯心訣の下を見よ。 ❻貞享五刊(駒大)文化一一刊(正大、一七五・一三—一五×哲、ふ・二・左・一三)

唯心集 ❶(日) Yui-shin-shū. (支) Wei-hsin-chi. ❷一卷 ❸存、卍續二・一五・四 ❹清乘戒述 ❺修行の捷徑は念佛に如くは莫く、念佛の要は必ず先づ心を觀ずるにありとして、唯心念佛を說ける詩を集めたものである。又末尾には「孝思篇」と題するものを加へ、幼少にして出家し、早く父を失ひたる著者が、齡將に耳順に近付かんとして遠遠の心已む能はず、作詩以て自ら警する所のものを收めてある。 ❻刊本(龍大、二〇五一・一七×京大、藏・二四ュ・一—三)

(三好鹿雄)

唯心禪話 ❶(日) Yui-shin-zen-wa. ❷一卷 ❸存 ❹原僧座語、齋藤道痴編 ❺明治三五刊 ❻(帝國、三一八・五〇×駒大)

唯心念佛 ❶(日) Yui-shin-nen-butsu. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第三三法相宗章疏第二、大日本佛教全書第八〇、解脫上人小章集之內、觀念發心肝要集之內 ❹貞慶(久壽二—建保元 A.D.1155—1213)述 ❺本書は唯心念佛の義を三對門を以て之を說いて居る。第一能化所化對、第二因位果位對、第三佛語眞語對、として三界唯一心、心外無別法、心佛及衆生、是三無差別の義を詮明し、來迎化佛何の所現ぞ、淨土莊嚴何の所變ぞ、誠諦生美何の所作ぞ、生佛一如因果の唯識理智の唯心を知るは之れ諸佛にて三界唯一心なりと說く。

(橋本凝胤)

唯心房集 ❶(日) Yui-shin-bō-shū. ❷一卷 ❸存、國文東方佛教叢書第一輯第八 ❹寂然 ❺寂然法師の歌集であるが唯心房はその號名である。梵網經・瓔珞經に出づる十重禁戒、法華經等に出づる十法界、十如是の一々を題材として詠める短歌及び世間の無常を歎じたる今樣四十九篇を收む、當代の歌壇として頗る珍重すべきものである。

著者は別に寂然法師集一卷あり、傳については法門百首の下に見ゆるが故に此に省略する。

❻原本(宮內省圖書寮)

唯心論私鈔 ❶(日) Yui-shin-ron-shi-shō. ❷一帖 ❸存 ❹是到時代寫 ❺(寶龜院)

唯信乘成義 ❶(日) Yui-shin-jō-jō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹舜論述 ❺明和七寫(谷大、宗大・三九〇八)

唯信鈔 ❶(日) Yui-shin-shō. ❷一卷 ❸存、大正八三・九一〇Nº.2575、續淨土宗全書第四、眞宗法要第三一、眞宗聖典宗祖傳寫篇、眞宗聖典全書和文之部、眞宗假名聖教第一三、假名聖教(惠空筆寫)八十八部之內、國文東方佛教叢書第一法語部 ❹聖覺(仁安二—嘉禎元 A.D.1167—1235)作 ❺本書は安居院聖覺法印の眞撰にして、選擇集の意に依り、法然聖人より相承せる念佛往生の要義を明せるもの、即ち初に先づ教相章と二行章との意を取りて、聖道を捨てゝ淨土に歸し、雜行を抛ちて偏に念佛を修すべきことを勸め、次に本願章と三心章との意を取りて、愚に念佛行者必可具三心の趣旨を明にし以て大願業力の不思議を願はし、最後に世人の念佛に對する疑難數條を釋し之を永解せしめた。故に一部の大意要するに他力專修の念佛を明して、本願眞實の信心を勸むるに外ならず。卷尾に草本曰承久三歲仲秋中旬第四日安居院法印聖覺草とあれば、本書は承久三年八月の撰にして、法然入滅後十年に當り、聖覺五十五歲の時である。惟ふに元祖滅後久からずして、淨土の信仰に對する邪義發ひ起り、選擇本願の眞旨隱れたるのみならず、一念多念の諍論都鄙に旺なりしかば、恐らく鈔主も此に憤然として本書を著作し、以て一念多念の諍を誡め、選擇所明の念佛は、

聖稱無信の稱名にあらず、必具三心の念佛なることを闡明せられたのであらう。されば本書の造意は一念多念の諍を誡めんがためであり、且つ諸の異義に簡んで、選擇所明の念佛の本義を顯さんが爲であつて、念佛鈔と題せず唯信鈔と題せる所以も此にありといつてよい。されば親鸞聖人は之を同信の書として屢々書寫して門徒に授け、後世物語等と共にこれが拜讀を推奬せられしこと、御消息集(初有、同(六有)同(二三有)末燈鈔(四三有)等に出で、現に其眞蹟本又古寫本として傳へられるものの中、本願寺派本願寺所藏本及び前橋市妙安寺所藏本には、寛喜二歲仲夏下旬第五日以彼眞筆草本愚禿親鸞書寫の奥書あつて、聖人五十八歲國府津留留錫の頃に當り、眞宗法要本これに依る。又高田本山所藏の手假名眞蹟本唯信鈔の奥には文曆二歲乙未六月十九日愚禿親鸞書之とあつて、聖人六十三歲。又惠空所寫本の奥には仁治二歲初冬中旬第九日以彼眞筆草本書寫之忝求淨土愚禿釋親鸞とあり、聖人六十九歲歸落後である。大谷派本願寺亦眞蹟本殘缺を藏せるも卷の首尾を缺く。又高田本山には別に寛元四年三月十四日親鸞書寫の奥ある一本を藏せりといふ。斯く親鸞は聖覺を淨教の先達として崇敬せられ、本書を寫傳し推奬せしのみか、自ら唯信鈔文意を著作せられた。而して聖覺の著述として世に傳へらるゝもの鈔からざれど、其傳持の明確なるは本書の外に存せず、されば聖覺の教義研究として本書は特に尊重せらるべきである。

❼(參考) 淨土眞宗聖教目錄、淨土眞宗教典志第一、眞宗假名聖教目錄 ❽永龍二刊(谷大、宗大・三〇〇二)正德三刊(谷大、宗丙・一〇一)天和一三刊(正大、一六五・一七)(龍大、研鑽)文化八刊(谷大、宗小・八二)天保一三華頂宮版(正大、一五五四・五二×龍大、研鑽)寫本(龍大、二六八六・一—三、別置、研史)惠空寫御本(谷大、宗丙・四八)(龍大、研鑽)明治一六刊(帝國、一八三・二〇七)

(大須賀秀道)

唯信鈔記 ❶(日) Yui-shin-shō-ki. 唯信鈔聞記 ❷三卷 ❸存 ❹了祥(天明八—天保一三 A.D.1788—1842) ❼(參考) 眞宗大系刊行豫定書目

唯信鈔議 ❶(日) Yui-shin-shō-gi. ❷一卷 ❸存、異義集第五、異義集第一〇(了祥筆)正德五年刊四部聖教の內、眞宗法語帖外聖教、十種聖教之內 ❹厚、如信(延應元—正安二 A.D.1239—1300) ❺念佛稱名の區別、和讚念佛の要領、三心等の附說に就き三首の問答をなし、善導和尚法然聖人殊に親鸞聖人等の文を傳錄せる引文を揭げた小冊子にて、過去久遠の海德佛以來の佛恵に美如識は皆阿彌陀佛で、經說の不生不滅不去不來の御意これ念佛なり、稱名は行にて念佛は御智慧、されば「選擇集」題下の十四字の如きは深理の念佛を聞持し稱名を勵むこと、たゞ念稱一致と心得るは知識に酒はざる爲めで自力の思であり衆生をまどらすものである。念佛者と名のるは和讚を知らぬ人、此人にたやすく沙汰すべからず常に教讚を加へよ。親令ひ國師と云はるとも名のるべからず、尚も此人を深く敬ふべきである。三心に限らず一切の事相靈し、末世に我流となのるも正意をたもつ者稀であるとて、念佛を心のあるじとし世路を客人とせざれば道を得るも却つて失ふと「往生禮讚」前序の「千中無一」等の釋に萩當し、眞實心正直心は疑蓋無雜なれば信樂一心眞實信心なりと法然聖人の持言?を舉げ、是れ實は「教行信證信卷」三信結釋の文を採つたので、次で大心海の十四非のうち、後の十非を以て所謂念佛とし、「末燈鈔」第一通初の部を出すに、淨の一念といふは法身なり、つぎに願の一念といふは稱名のひとこえなり、はじめに淨の一念といふはまた眞實信心をえたる人なりと、されば念佛に隱顯を分くる珍說を挿入し、往生は佛の御ちからにてせしめたまふものを、わがこゝろにとかくせんと思は自力なりとして、更に「華嚴經」「大經」の文を擧げ意述したものである。

本文は甚だ突飛に問答を起すところから察せば、元來何か前方に文面のあつたものか、さなくば一往談義の後に與ふべき書なるか明かならず。これを唯信鈔議と題するも聖覺の「唯信鈔」に何等關係なし。前記の如く稱名を輕蔑し法身念佛知識歸命を說く邪を總標したものであらう。

正德五年刊本(四部聖教叢書に帖外聖教の內)の卷首に如信上人作と說き、明治十九年刊本(十種聖教上の內)の卷尾に如信書之御判とある。本文の終に、これは如信がもらのとき聖人よりうけたまはるところをかきつけたり、これ偏見のためにあらず、たゞ如信一人がためなり等とあり。寔も如信上人が親鸞聖人より傳承する如くに撰せども、決して信用すべきでは無い。惠空の「假名聖教目錄」には不審雜信部に置く、僧錄の「眞宗法彙左卷」附錄、慧琳の「淨土眞宗書目」之に從ふ。了祥の「異義集」には知識歸命計の書となし、僧樓の「書寫錄」にはこれ一如祕事の邪書とみゆ、其證は二右經に說き給ふ所の不生不滅不去不來の御意これ念佛なり、よのつねの人(々)口にまかせて稱名をとなふれどもこの念佛をばしらず、又七左云一念につきて隱顯あり隱の一念と云は法身なり顯の一念は稱名と云云、具に辨ずるにをよばず、大邪書なること可見と評してゐる。思ふに本書は契作の粉んど皆無と云ふてよい如信上人に假托せるところかも、古來その內容を知るも知らぬも、帖外若くば藏外の聖教かのやうに見做しつゝ、數度の刊行を見たゐは遺憾である。僧樓了祥の諸師が評せし如く知識歸命の大邪書、頗らく焚書に附すべき無用の典籍である。

❼(參考) 淨土眞宗聖教目錄 ❽正德五寫(龍大、一一三・六一、六九)寫本(谷大、宗甲・一七、宗大・三〇五二×龍大、研鑽)

(山上正尊)

唯信鈔議私釋 ❶(日) Yui-shin-shō-gi-shi-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹大正六寫 ❺(谷大、宗大・二八二六)

唯信鈔鼓吹 ❶(日) Yui-shin-shō-ko-sui. 唯心鈔文意鼓吹、唯信鈔註解 ❷

六巻 ❸存 ❹無名子 ❺唯信鈔文意鈔欄の下を見よ。 ❻延享元刊 ❼(龍大、一二二九・二〇)(谷大、宗大・一七一)(京大、一・二六ュ・四)

唯信鈔講義 ❶(日)Yui-shin-shō-kōgi ❷一巻 ❸存、眞宗大系第三〇 ❹圓旺(安永四—嘉永四 A.D.1775—1851)述 ❺天保一〇(A.D.1839) ❻眞宗大谷派講師開悟院靈班師が、天保十年秋、江州八幡御坊に於て、唯信鈔を講説せる聞記である。秋八月三日開講、同十二日撤講、席數十會、大系所收本は安司曉恰の筆記を底本とせり。本書序説に「唯信文意は先輩より數度講説もあることなれども、唯信鈔の講説は未だ聞かず、此度開講の運に依つて、未だ講説を聞きたることもなく、亦先輩述作の疏もなく、聞書等も見たることなけれども、是まで七祖聖教吾師撰述、別して假名聖教を彼此拜見に及びたる力を以て講説せんと欲す」とあり、以て師が獨創の力作たるを見るべし。講説の内容は一乗意二大意三題號四本文の四門を分ち、就中乗意に通別あり、此の鈔に局れる別の乗意として、一「爲」顯出離只在ら念佛」義と故、二「爲破邪顯正」故といへる二項を解ぜり。大意については、一部に過ぎる聖義の大意は、題の處にて解ずべしとて、廣く一部の文段について之を解ぜり。

唯信鈔講義 ❶(日)Yui-shin-shō-kōgi ❷一巻 ❸存 ❹德龍(安永元—安政五 A.D.1772—1858)述 ❺天保一〇(A.D.1839) ❻寫本(谷大、宗大・四四三三)

唯信鈔講義 ❶(日)Yui-shin-shō-kōgi ❷一巻 ❸存 ❹德龍(安永元—安政五 A.D.1772—1858)述 ❺天保一二(A.D.1841) ❻寫本(谷大、宗大・二〇九四)

唯信鈔講説 ❶(日)Yui-shin-shō-kōsetsu. 唯信鈔聞記 ❷二巻 ❸存、眞宗全書第四五 ❹義門(天明六—天保一四 A.D.1786—1843)述 ❺文政五(A.D.1822) ❻本書は眞宗大谷派の東條義門師が、聖覺法印の著作唯信鈔を講説したものにて、眞宗全書所收は師の住せる若州妙玄寺所藏の本に依る。義門師は諱を靈傳と言ひ、若狭小濱の人、幼より俊邁、長じて京都高倉に學び、靈雲慧海師より宗學を承けしが、當時眞宗假名聖典の訓詁に就いて、學者の解説一ならず、疑ね臆測を逞うして、一も國學上より説明するものなきを慨し、奮つて國語學の研鑽に身を委ね、專ら國語音韻の學を攻究し、斯學に貢獻せること多大なり。しかば、近く附位の恩典に浴せり、されば其の著述宗典に關するもの亦一に和語説の見地よりし、古調の南旨を發揮せり。本講説は文政五年壬午九月十三日丹波敎誓寺に開講せるものにて、上下二巻、前後十五席を以て同月晦日に講了せり。其後文政七年江戸にて再講せられしも、再度の講錄何れも嘉永己丑の火災に罹り、寺所藏本は令嗣法傳師が敎誓寺就海師筆受の本を寫したものなること、巻尾に識されたり。而して敎誓寺にて本鈔の講説せられしは、同寺に宗祖眞寫本唯信鈔の傳はれるに據る。本講説の内容、文前に(一)明ニ製作來由ト(二)述ニ一部大意ト(三)辨ニ三師似ト異ノ三科を立て、辯ず。就中第三の三師似ト異とは、法然聖覺親鸞の三師にして、其の相異に似たる點については、先づ法然聖覺師資相異點として四種を數へ、更に聖覺親鸞相異點として十種を數へてゐる。何れも鈔の現文について、相異に似たる點を對照せるは、大に勉めたりと謂ふべし。更に本文解釋に入つて、敎義上より檢討せるもの鮮からざるも、特に鈔及び親鸞作唯信鈔文意の用語につき、師が得意の和語の知識から、精細な解説を與へたるところに、本書の特色の存することは勿論である。

❼寫本(谷大、宗大・八八八) (大須賀秀道)

唯信鈔大意 ❶(日)Yui-shin-shō-dai-i ❷一巻 ❸存 ❹圓旺(安永四—嘉永四 A.D.1775—1851)述 ❺(參考)眞宗大系刊行豫定書目

唯信鈔託宣記 ❶(日)Yui-shin-shō-takuse-ki. ❷一巻 ❸存 ❹唯信鈔託宣文の下參照。 ❺寫本(龍大)

唯信鈔託宣文 ❶(日)Yui-shin-shō-takuse-bun. ❷一巻 ❸存、異義集(眞宗大系本)第二

❹聖覺法印の著作「唯信鈔」は眞宗の細師親鸞聖人に依つて流布されたのであるが、なほ其他の人に依つても傳持されたと云ふ記事である。これに伊勢專修寺藏の正慶元年戊子六月晦日書寫之了釋慶空と奥記せる一巻と、異義集(眞宗大系本)第二所收の手時元和九歳癸亥林鐘九日長命寺了願(七十四歳書之)惡筆ナレドモ末代ノタメニカキオクモノナリと奥記せる一巻との二種がある。對比するに類似の別本と云ふべく、「記」は短く「文」は長く、「記」は「文」の前半に該當し、而も語句簡に過ぎ往々意味の會得し難き嫌なきに非ざるも、「文」はやゝ詳しきのみならず誤もあり、且つ巻首に山王十禪師ノ託宣ノ喜悦記錄最初「本記ハ洛陽ノ中ニアリ」或は文のなかに「流布スルトコロノ記文ハタハシカラザルコトナリ」等とその原本たる「記」を指してゐるから、愈よ「記」に依つて布演改作したものかと想察する。「記」の全遺並に解説は昭和八年五月發行の高田學報第四輯を見るべきである。

いま「文」に云ふ所を提要せば、天福二年三月頃後堀川院女房別當佐殿即も持名院中納言家行の女御產の時、院宣に依り綾小路堂性法親王が七佛藥師の修法を冷泉宮小路の仙洞で行つたところ、七日滿願の前日比叡山延暦寺の僧に成を認る十禪師が童子一王丸に乘り移り、我は内心に念佛を宗とし叡山傳敎以來五百年間無緣の衆生に結緣し念佛に歸命しめたが、今大なる悅あり一巻の書即ち聖覺法印の著唯信鈔にて生死を離れ得る、此事少智の人々に託宣せば疑ふ者多かもんゆへ此童子につきて衆を驚顯すると言上した。其時法親王は日頃不審の法門を質問するに諸大乘顯密小乘の法門まで一々明確に說き誦し、剩へ諸宗本寺本山長者の不法の振舞をも敎き語り、更に今年八月十日に後堀川院別御あるべく、七月五日法勝寺の法華八講に御幸、其說幸途中御發病

たれば、云何に修法を行ふも死は定業なれば全快は出來ぬ、是を實驗せば先の託宣の說ないことを信ぜられよとて一王丸はたへいつた。果してその如く同年七月五日後堀川院は法勝寺八講の還御車中より御惱みあり、同法親王に御修法を御下さるも薨退さる。依て女院御親弟仁和寺道深親王は孔雀王法を、請山の大德は五壇法、七佛藥師法、三十禮愛染王法を修し、また典藥院陽師等雲霞の如く參集するも効驗なく八月十日に崩御されたので、尊性法親王は託宣の實なるに驚き信心を增し、天王寺別當等の要職を讓り悉世朝暮念佛の外餘事なく、種々の瑞相を示し目出度く往生を遂げらる。以上過不及或は小異の違はあるも「記」と大同である。就中「文」には尊性法親王不審聽決し「コレニヨリテコノ唯信鈔ヲタヅネイダシテ親王御拜見アリテ後御秘藏の間世間ニイダサレズ」とあり、法親王御往生後「コレニヨリテ有驗高僧ミナキヽスガヒテ唯信鈔ヲ一巻ブヽ書寫シテ末代ノヒトノタメトテ京都ニコレヲヒロム」等とあるは敢て疑端を提示したものゝ如くである。

更に「文」には「唯信鈔」製作の因緣を語るに、嘗て持明院の女院が女人成佛の義を希ひ法然聖人とその隨行の聖覺法印を招請、談義說法を聽聞し爾後毎月に及ぶ。斯くて聖人の入滅を歎き法印を召し孝養說法せしめらるゝの砌、ネガハクハ法印女人ノコヽロエヤスクサトリヤスキヤウニ淨土ノメデタク信心トリヤスキ抄物ヲツクリテアダヘタマヘ。聖人ノカタミトシ。又經論トモ信ズベシと、一コノ書命ニヨリテ聖覺法印ノ證拠スルトコロノ唯信鈔ナリ。シカレドモコノ唯信ノ御抄露アルコトナシ」等とし。其後に前陣の本地釋迦たる十禪師が一王丸にわたり託宣があつたのだと云ふ。次で聖覺の俗姓を述べ、また唱導に就て釋迦と富樓那、源空と聖覺の關係。加ふるに彌陀勢至舍利弗善導源空の本地化身の關係を認め、最後に親鸞ハ善導法然ノヲカイトシテ濁世末代ノ衆生ニ一向專修ヲオシヘシメタマフ、コノ三人ノ師匠ハ阿彌陀ノ三尊ノ三人ノ大聖ト誕生シ」等と云ふのである。就中唱導關係の下聖覺の源空讃論の文(終)を加味し、本化關係の下「唯信證」終證明偈を背景として書いたものゝ如くである。

要するに「唯信鈔」製作の動機並に流布の因緣が此「文」に云ふが如くであるか如何は更に研究を要すべきであらうが、斯かる緣文から見れば奥記に示す了願なる改作者は恐らく眞宗の徒であつたであらう。兎も角此「文」より三百三十五年以前に書寫された而も異本もあつたらしき「記」の現存する以上は、此「文」が改作なるは言を俟たぬけれども一概に棄つべきではなく、「記」と校讀すべく「唯信鈔」流傳史上に看過し難い典籍である。

因みに「異義集」(眞宗大系本)第二卷名不同計のなかに敎むるも敢て此名を詳すべきでは無い。而も集者は「唯信鈔文意鈔印訣」に眞宗高田派の學匠慧海の云爲せるものを指摘すれど、それは專修寺に藏せる圓修ようなれど、それは專修寺に藏せる圓修よりの「記」にて今の「文」にては非ざるべきか。然し史料も乏しく研鑽も未だ幼稚な百年以前に、此處まで着目した了願の卓眼に敬服せざるを得ぬ。

❽寫本(谷大、宗甲・一七) (山上正慈)

唯信鈔託解附唯信鈔文意增注解 ❶(日)Yui-shin-shō-taku-kai-tsuke-tsui-yui-shin-shō-mon-i-zō-chū-kai. 唯信鈔文意鈔欄、唯心鈔鈔欄 ❷六巻 ❸存 ❹野釋無名子 ❺正德六刊 ❻(谷大、宗大・二二九一)

唯信鈔答問 ❶(日)Yui-shin-shō-tōmon. ❷一巻 ❸存 ❹隆圓(—天保五 A.D.1834) ❺天保一三刊 ❻(正大、一五五四・五一)

唯信鈔文意 ❶(日)Yui-shin-shō-mon-i. ❷一巻 ❸存、大正八三・六九九 No.2618、眞宗聖典全書和文之部、眞宗假名聖教第一、假名聖教八十八部、新撰眞宗聖典、眞宗法要第二、眞宗聖教大全巻上之内、眞宗和語寶典第二 ❹親鸞(永安三—弘長二 A.D.1173—1263)撰 ❺正嘉元(A.D.1257) ❻本書は親鸞聖人が常に尊信せる聖覺法印の著唯信鈔を解釋したものである。但し唯信鈔の文々句々を全部に渉つて詳釋したのではなくて、先づ鈔の題號及び鈔の中に引用せられた證文の中で、人々の解了に困難を感ずるものを懇ろに解釋して其意味を知らしめた。それゆゑ文意と名けられたのであるが、それと同時に法然上人から傳へた念佛往生の奥旨は唯信心一つにきはまることを叙べて眞宗の正意を闡明せられた所に文意の眞髓がある。蓋、親鸞歸洛の後、關東の門弟に對し、常に消息を下し一念多念等の邪執を誡め念佛往生の正意を顯はし給ふに、「そのやうは唯信鈔にくわしく候よく〳〵御覽候べし」(「御消息集」六右)と宣ひ、恒に鈔を推奬して信仰の標準とせられた。然るに鈔には經釋の要文を引證すれど更に之を釋せず、されば親鸞は老眼を拭ひ〳〵「ゐなかの人々の文字のこゝろもしらず、あさましき愚癡きはまりなきゆへに、やすく心得せんとておなじことを度々とりかへし〳〵かきつくし」と懇ろに解釋せられたのである。其内容之を東ねれば五段となり。(一)如來尊號甚分明等は法無釋師の偈にて第十七願の意。(二)彼佛因中立弘誓等は慈悲三藏の偈にて第十八願の意。(三)極樂無爲涅槃界等は善導の偈にて專雜の得失を明し專ら一行一心なるべきを勸むれば是亦第十八願の意。(四)具三心者等の文は觀經上々品にて往生の正因信心にあることを示す。(五)乃至十念等の文は眞實信心必具名號の意を示す。されば五段の大要は、念佛往生と深く信じて而も名號を稱ふるより外なしと、信心を以て念佛の要義とすることを知らしめたのである。本書の奥には正嘉元歳丁巳八月十九日愚禿親鸞八十五歳書之とあれば著作年時を知るべく、但しこれは前橋市妙安寺に藏する成然書寫本の原本たりしもの、及び高田本山に藏せる粘葉綴古寫本と同系の本である。別に高田本山所藏(大正十五年琉璃版複製刊行)の眞蹟本には、康元二歳正月二十七日愚禿親鸞

八十五歳書写之の奥あり、又盛岡市本誓寺所蔵傳宗祖眞筆本には、建長二歳(庚戌)十月十六日愚禿親鸞七十八歳書之の奥があり て、年時は更に繰上げられる。

⑦(参考) 浄土眞宗聖教目録、浄土眞宗教典志第一、眞宗仮名聖教目録 ⑧永應二刊(谷大、宗大・三〇〇三)(龍大、一一一・五〇)明和二刊(龍大、一〇三・三八)文化二刊(谷大、宗小・八二)寫本(谷大、宗丙・二九)重空寫傳本(谷大、宗丙・四八)発揚校寫本(龍大、研史) (大須賀秀道)

唯信鈔文意 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-roku. ❷一卷異本 ❸存、大正八三・七〇五No. 2679 ❹親鸞(承安三—弘長二A. D. 1173—1263)撰 ❺群馬縣前橋市妙安寺に藏する傳成然筆寫の本にして、唯信鈔文意の眞筆及古寫本に數種ある中、正嘉元年八月十九日親鸞八十五歳執筆の古寫本と見られるものである。 ⑥正嘉二寫(妙安寺)古寫本(龍大)(谷大、宗丙一〇七) (大須賀秀道)

唯信鈔文意己丑錄 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-ki-chō-roku. ❷四卷 ❸存 ❹良導(安永七—天保一〇 A. D. 1778—1839)述 ❺(参考) 眞宗大系刊行豫定書目

唯信鈔文意記 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-ki. 唯信鈔文意辛巳錄 ❷三卷或四卷 ❸存、眞宗大系第二二 ❹法海(明和五—天保五A. D. 1768—1834)述 ❺文政四(A. D. 1821) ⑥唯信鈔文意辛巳錄の下を見よ。 ⑦寫本(谷大、宗大・四五二九)

唯信鈔文意義概 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-gi-gai. ❷一卷 ❸存、眞宗全書第四七 ❹履善(寶暦四—文政二A. D. 1754—1819)述 ❺履善の著「眞宗法要義概」中より一篇を抜きて一本としたものである。今この底本となる唯信鈔文意は眞宗法要に收むるものではあるが、本書は之を高田本と對照しつゝ簡文解釋してその要義を詮闡してある。 ⑦寫本(龍大、一二三八・二八) (木下靖夫)

唯信鈔文意鼓吹 ❶(日) Yui-shin-shō-m m-i-ko-gui. 唯信鈔鼓吹、唯信鈔註解 ❷六卷 ❸存 ❹無名子作 ❺浄土眞宗教典志第二に云く「初三卷直釋唯信鈔、後三卷釋三文意」云々。

唯信鈔文意講義 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-gi. 唯信文意講義 ❷一卷或三卷 ❸存 ❹宣明(寛延二—文政四A. D. 1748—1821)述 ❺寫本(谷大、宗大・四五〇七)

唯信鈔文意講義 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-gi. 唯信文意講義 ❷一卷或二卷 ❸存 ❹賀景(延享三—文政一一 A. D. 1746—1829)述 ❺文化六(A. D. 1809) ⑥寫本(谷大、宗大・二一〇三—四四二一)

唯信鈔文意講義 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-gi. ❷四卷 ❸存 ❹法海(明和五—天保五A. D. 1768—1834)述 ❺(明和五—天保五A. D. 1768—1834)述 ❻寫本(谷大、宗大・四五二九)

唯信鈔文意講義 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹宣明(寛延二—文政四A. D. 1748—1821)述 ❺寫本(谷大、宗大・四五〇七)

唯信鈔文意講義 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-gi. ❷一卷或二卷 ❸存 ❹賀景(延享三—文政一一 A. D. 1746—1829)述 ❺文化六(A. D. 1809) ❻寫本(谷大、宗大・二一〇三—四四二一)

唯信鈔文意講義 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-gi. ❷四卷 ❸存 ❹法海(明和五—天保五A. D. 1768—1834)述 ❺(明和五—天保五A. D. 1768—1834)述 ❻寫本(谷大、宗大・四五二九)

唯信鈔文意講義 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-gi. ❷六卷 ❸存 ❹法海(明和五—天保五A. D. 1768—1834)述 ❺(明治三二寫 ❻(谷大、宗大・四四二三)

唯信鈔文意講讃 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-san. ❷一卷 ❸存 ❹法海(明和五—天保五A. D. 1768—1834)述 ❺文政三寫 ❻(谷大、宗大・三四七五)

唯信鈔文意講述 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-jutsu. ❷一卷 ❸存 ❹昇道(—明治二A. D. 1869)述 ❺寫本(谷大、宗大・二一四六)

唯信鈔文意講錄 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-roku. ❷二卷 ❸存 ❹一說明和八、年六五寫)述 ❺享保二〇(A. D. 1735) ❻(参考) 浄土眞宗教典志第二 ❼享保二〇刊 ❽(龍大、一二三八・三〇)(谷大、宗大・五七七)(京大、一・二六ュ・五)

唯信鈔文意廣見 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-kō-ken. ❷二卷 ❸存 ❹義堂述 ❺(参考) 浄土眞宗教典志第二 ❻寶暦一一刊 ❼(龍大、一二三八・三一)(谷大、宗大・二三〇六)

唯信鈔文意聞記 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-mon-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寛明(寛延二—文政四 A. D. 1749—1821)述 ❺寫本(谷大、宗大・一五九)

唯信鈔文意略述 ❶(日) Yui-shin-shō-m m-i-ryaku-jutsu. ❷一册 ❸存 ❹吉谷譽壽(天保一三—大正三 A. D. 1842—1914)述 ❺明治三六刊 ❻(龍大、一二三八・三二)(谷大、宗小・一一四)

唯信鈔文意錄 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-roku. ❷三卷 ❸存、眞宗全書第四二 ❹深勵(寛延二—文化一四A. D. 1749—1817)述 ❺本書は香月院深勵講師が親鸞聖人の著唯信鈔文意を講ぜし時の聞記である。文化九年、師年六十一、越前(金津の自坊に於て講ぜし所、第一卷は二月二十三日より六會、第二、三卷は六月四日より二十一會を以て、同月晦日講徹せられてゐる。文前に來意大意題號の三門を闡上、本文に入りては

例の如く聖覺精紙の所說を則(てゐる。 (大須賀秀道)

唯信鈔文意錄 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-i-roku. ❷一卷 ❸存 ❹賀景(延享三—文政一一 A. D. 1746—1829)述 ❺寫本(谷大、宗大・八九一)

唯信鈔聞記 ❶(日) Yui-shin-shō-mon-ki. ❷三卷 ❸存 ❹了鮮(天明八—天保一三 A. D. 1788—1842) ❺明治四四寫 ❻(谷大、宗大・一四二九)

唯信文意 ❶(日) Yui-shim-mon-i. ❷存、異義集(眞宗大系本)第一 ❸唯信鈔文意の十六紙右以下十九紙右まで、即ち「法事讃」下十二紙右の四句の文を解さるゝうち、極樂無爲涅槃界の一句の釋を別出したものに外ならぬ。されば此文は親鸞聖人の眞撰なること疑を挿む餘地は無いが、了鮮が之を異義集(眞宗大系本)第一の撰名不同計の部に抄出(恐らく了鮮の抄出と思ふ)する所以は、忽に此の文を一計と思惟したのでは無い。異義集のうち他の例に徴するに、此の抄出文に重背する異計が他にあり、それを舉げんと試みたので、云はゞ此の跟文の爲に當然箇ばるべき異計が撰名不同計であることを研覈せんとし、未だ揭げざる道途に終つたのであつたらうと想像する。

因みに唯信文意とは唯信鈔文意の略題にて、末學の便宜の稱呼である。内容其の他の解說は唯信鈔文意を見るべし。 (山上正啓)

唯信文意庚辰錄 ❶(日) Yui-shim-mon-i-kō-shin-roku. ❷一卷 ❸付劉(明和六—嘉永四A. D. 1769—1851)述

唯信文意錄 ❶(日) Yui-shim-mon-i-roku. 唯信鈔文意錄 ❷一卷 ❸存 ❹興隆(寶暦九—天保一三 A. D. 1759—1842) ❺(参考) 眞宗全書刊行豫定書目

唯泉寺嗣講御法話 ❶(日) Yui-sen-ji-shi-kō-go-hō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、一〇五一・五)

唯泉寺法話 ❶(日) Yui-sen-ji-hō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、一〇五一・五)

唯嫡傳 ❶(日) Yui-chaku-den. ❷一帖 ❸存 ❹興雅記 ❺德川中期寫(金剛三昧院)

唯嫡傳口訣最極 ❶(日) Yui-chaku-den-ku-kuetsu-sai-goku. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(資藏院)

唯獨愚聞見記 ❶(日) Yui-doku-gu-mon-kem-ki. ❷一卷 ❸存 ❹康玄記 ❺寫本(愛珠院)

唯獨白明了 ❶(日) Yui-d-ku-byaku-myō-ryō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(資藏院)

唯物史觀と佛教 ❶(日) Yui-butsu-shi-kwan-to-buk-kyō. ❷一册 ❸存、大雄叢書之內 ❹淺野研眞著 ❺昭和七刊 ❻東京大雄閣

唯密聲明諸家口傳、聲明集私按記 ❶(日) Yui-mitsu-shō-myō-sho-ka-ku-den,shō-myō-shū-an-ki. ❷一册 ❸存 ❹寫本(京專)

唯密聲明諸家口傳事 ❶(日) Yui-mitsu-shō-myō-sho-ka-ku-den-n-koto. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(帝國・二〇九・七〇八)

唯密佛身建立抄 ❶(日) Yui-mitsu-bus-shin-kon-ryū-shō. ❷一册 ❸存 ❹印融(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519)記 ❺寫本(高大、寄・一・四八)

唯量抄 ❶(日) Yui-ryō-shō. 成唯識論唯量抄、因明本作法唯量抄、因明本作法鈔唯量抄、唯識論唯量鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三三法相宗章疏第二、大日本佛教全書第七八八〇 ❹藏俊(長治元—治承四A. D. 1104—1180)述 ❺成唯識論唯量抄の下を見よ。 ❻文政二寫(正大、一一九四・五二)寫本(谷大、餘大・四〇七九)

惟樓方便經 ❶(日) Yui-rō-hō-ben-gyō. (支)Wei-ch'lan-fang-pien-ching. 順樓方便經、韓女身菩薩經、順樓女經、推樓方便經、隱樓女經、韓女菩薩經、韓女身經、順樓方便品經 ❷二卷 ❸存、大正一四・九二一No. 365、無字一〇、卍一〇・五、北365袋、南218袋、元213袋、明北210讃、清210讃、歷365袋、天324袋、指191袋、法159袋、至924知、明南925讃、Nj. 214 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A. D. 265—313) ⑥順樓方便經の下を見よ。

惟肖和尚語錄 ❶(日) Yui-shō-o-shō-gō-roku. 惟肖和尚錄、惟肖錄 ❷二卷 ❸惟肖得嚴(延文五—永享六以後A. D. 1356—1434—)語 ❹惟肖得嚴(延文五—永享六以後 A. D. 1356—1434—)語 ❺(参考) 日本禪林撰述書目

惟肖嚴禪師疏 ❶(日) Yui-shō-gan-zen-ji-sho. ❷一卷 ❸存 ❹惟肖得嚴(延文五—永享六以後 A. D. 1356—1434—)語 ❻(参考) 禪籍目錄

惟肖錄 ❶(日) Yui-shō-roku. 惟肖和尚語錄、惟肖和尚錄 ❷二卷 ❸惟肖得嚴(延文五—永享六以後 A. D. 1356—1434—)語 ❹(参考) 日本禪林撰述書目

惟靜和尚遺語 ❶(日) Yui-jō-o-shō-yui-go. (支) Wei-ching-ho-shang-i-yü. ❷一卷 ❸存 ❹清如壽錄 ❺寫本(京大、藏・一七イ・一)

惟建菩薩經 ❶(日) Yui-ken-bo-satsu-kyō. (支) Wei-lü-p'u-sa-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉帛法祖譯 ❺(参考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二、開元錄第一四、貞元錄第二四

惟忠和尚語錄 ❶(日) Yui-chū-o-shō-go-roku. ❷三卷 ❸存 ❹惟忠通恕(貞和五—永享元A. D. 1349—1429)語 ❺(参考) 大日本佛教全書敎刊豫定書目

惟日三昧經 ❶(日) Yui-nichi-sam-mai-kyō. (支) Wei-jih-san-mei-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺(参考) 出三藏記第四、開元錄第五、第一五、貞元錄第三、第二五

惟日雜難經 ❶(日) Yui-nichi-zō-nan-gyō. (支) Wei-jih-tsa-nan-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❺(参考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、三寶紀第四、內典錄第一、武周錄第一

惟日雜難經 ❶(日) Yui-nichi-zō-nan-gyō. (支) Wei-jih-tsa-nan-ching. ❷一

巻 ❸存、大正一七・六〇五No. 760、鎌倉五、卍二六・五、北985飛、南1000飛、元1007飛、明北1281明、清1281明、麗952飛、天1005飛、相956飛、法954飛、至1445曲、明南1082終、Mp. 1228 ❹支謙譯 ❺呉黄武二―建興二(A. D. 223―253)

❻經名に就て内典錄二に惟越雜難經とあるのが正しいやうである。そして惟日と書き習はしてゐるのは日の誤用であらう。出三藏記には本經の名を見ず、開元錄には見長房錄、上見存已下闕とあるが、本經の體裁から見ると或ひは殘卷であるかも知れないと云つた形がある。然し譯が古いことゝ思想のまとまつて居る點から見れば、早計に殘卷とも斷じ得ない樣である。

形式は經文としては異色のものである。躬禮に初受道邁利と論都の項目のやうに出して菩薩の行道修行(道利)は寔種は阿惟越致に至ることを目的とすると結論を出して、次下に菩薩の修すべき道品が說かれてゐる。そして阿惟越致の譯語として不退轉の語もまだ出来ないので、不復轉心となつてゐる位であるから、菩薩道を說いた經としては古い譯出であることは一見首肯せられるものである。重に釋尊の生涯と本生話とが中心になつて四門出遊捨家、苦行、それに須大拏太子の說話等が織りなされた中に、六度、七覺支四諦等の道品が簡單に說かれ、維摩か月上女を豫想するやうな維摩羅連逸女と文殊舍利弗の問答が出で、想須蜜菩薩曇摩阿偈菩薩の名を出し、十八不共法を列擧して終つてゐる。この十八不共法も大論に云ふものとは一寸樣子が異つてゐて、無有失、無有漏、寂不忘寂、不離定寂不轉等の目になつて大論等の不共法と一寸違を異にしてゐる。菩薩が親を辭する時、我れ愛あるの故に父母愛あり、我れ道を得て愛たければ父母また愛なしとか、文殊との論議の時如是因緣亦不來亦不去云々の如きあたりが思想としては重要な部分になつてゐるやうである。然し本經は理論よりは實際の修行が重く見られて居り、その實行の困難を征伏することを敎へたものであることは經題の示す如くである。

❼(參考) 譯經圖紀第一、開元錄第二、貞元錄第三 (和田徹城)

惟明二十偈 ❶(日) Yui-myō-ni-jū-ge. (支)Wei-ming-èrh-shih-chieh. ❷1巻 ❸缺 ❹西晉竺法護(―泰始二―建興元 A. D. 265―313―)譯 ❺第三譯。 ❻(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一四、貞元錄第二四

惟明二十偈經 ❶(日) Yui-myō-ni-jū-ge-kyō. (支)Wei-ming-èrh-shih-chieh-ching. ❷1巻 ❸缺 ❹吳支謙(―黄武二―建興二 A. D. 223―253―)譯 ❺第一譯。 ❻(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

惟務三昧經 ❶(日) Yui-mu-san-mai-kyō. (支)Wei-wu-san-mei-ching. ❷1巻 ❸缺 ❹(參考) 出三藏記第五、法經錄第二、仁壽錄第四、内典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

惟流王經 ❶(日)Yui-ru-ō-kyō. (支)Wei-liu-wang-ching. 惟留王經 ❷1巻 ❸失譯 ❹(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一、開元錄第二、貞元錄第四

惟留經 ❶(日)Yui-ru-kyō. (支)Wei-liu-ching. ❷1巻 ❸缺 ❹(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

惟婁王師子瀧譬喩經 ❶(日)Yui-ru-ō-shi-shi-ri-hi-yu-kyō. (支)Wei-lou-wang-shih-tzu-lung-pi-yu-ching. ❷1巻 ❸失譯 ❹(參考) 出三藏記第四、法經錄第三、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一二、開元錄第一五、貞元錄第二五

維摩 ❶(日) Yui-ma. 創作維摩 ❷1冊 ❸存 ❹山中峯太郎著 ❺大正一一刊 ❻(龍大、二〇五六・二四)

維摩會會始之記 ❶(日) Yui-ma-e-hajime-no-ki. ❷1巻 ❸存、大日本佛敎全書第一二四、興福寺叢書第二 ❹英算記 ❺正德四(A. D. 1714)九月

❻本書は、維摩會々始職の所作等を記せるものにして、會始職とは、抑も維摩會は、南都に於ける最も歷史的權威的の大儀式なれば、その職務に於ても各種の貴家相分れ、その所作故實に於ても千有餘年の順敎先例等、非常に八釜敷く、爲めに興福寺に關する記錄文書の大部分は、之に關するもの過半以上を占むるにても知られる。而して今會始職と云ふは彼の探題精義講師と共に、四要職ともいふべき重職にして、その職掌は、一七ケ日夜の大會の儀式を監督するの意味を以て會中の每事即ち一七ケ日夜の大會は勿論、第六日勅使勘番論議、第六夜金堂試經等に出仕し、一山の老宿中に於て、之を勤むることになつて居る。而して其の所作は、每行事の出仕だけのようであるが、それは監督と云ふ重要の役目に於てあるだけ、出仕外の種々の故實が臨分八釜敷い。本書はその故實を記してあるのであつて、法會を實際に勤行する上に於て、一の重要なる記錄である。

本書は、正德四年九月二十二日始行の維摩會に際し、成身院英算が會始職を勤められし時の日記であるが、この會始職は、何時頃から出來たものかと思つて、一二書類を見たけれども、その歷史は分らない。たゞ三會定一記には、應永二十二年の處あたりから會參の處に會始といふことが註せられて居るようである。無論起源はもつと古いことゝ思はれる。何れ後日の考證を俟つことゝする。

❹寫本(興福寺) (佐伯良謙)

維摩會記事 ❶(日)Yui-ma-e-ki-ji. ❷1巻 ❸存 ❹壽永二寫 ❺(谷大、餘大・一六三七)

維摩會竪義日記 ❶(日) Yui-ma-e-jū-ni-nik-ki. ❷1巻 ❸存、大日本佛敎全書第一二四興福寺叢書第二 ❹天正一七(A. D. 1589)

❻維摩會は、云ふまでもなく、南都の僧綱が保有せし唯一權威の大儀式であつた。而し時運には敵し難く、戰國時代には屢々中絶のことがあつた。そして本書にはその

繁國末の事を記して、大乘院尋憲御逆讓以後、久敷退轉云云とある。即ち天正五年に大乘院尋憲が逆讓せられし以來、本書の記錄せる天正十七年まで十一年間、これ亦た中絶の止むなき事情に在つたのである。丁度この時分は戰國の餘弊未だ盡へず、その天正二年には織田信長が、天下統一の大業を半成したけれども、信長は天下經綸の方針として、佛寺排斥の方策を取りたれば、さしも南都の豪華そのものゝ如くなりし興福寺も、重々の打擊を被むり、處々の莊園は武家の爲に押敢せられ、莊園守護の衆徒は敵々の痛手を負ひ、法會の設錢徴集不能に陷り、こゝに歷史ある維摩會の如きも、かくは幾年かの中止となつたのであらう。然るにこゝに天正十三年豐臣氏天下統一の機運に際會し、一乘院尋勢と大閤との奇しき因緣に依り、尋政の堅義逆業の爲めと講師逆請の爲との、二度の維摩會が、五月と八月とに專行さるゝことになつた。即ち本書はその事情を傳ふべき無二の文獻であり、又彼の維摩會の最大記錄たる三會定一記が、永祿七年講師筆深の時の記事を以て擱筆したれば、その後の缺を補ふべき有力なる史料であり、並に本書記事が當時執行の事實を記したれば、これ維摩會なるものゝ貴重なる故實書と云ふべきである。

本書は前述の如き天正十七年兩度の維摩會に際し、初度即ち五月十六日より維摩會の時には、特に成業の請を得て聽衆の列に入り、第二度即ち八月十日より執行の時には、加仟第三夜顯堅義を逆業せし恢算僧敎房の日記にして、本書の記事に依り、當時大閤保護の爲めに、幸に維摩會が命脈を繼ぎたる事情と、並に豐臣時代より德川初期にかけての南都の傳傳准三后尋勢の事跡を、幾分にても明了ならしめしは、大に本書に感謝すべきことゝ思ふのである。

尙ほ本書の記事に依り、思ひ合はすことは、本書には、尋勢が維摩會逆業逆請の爲めに、大閤より米五百石を代金にて合力せられたければも、五百石にては初度分だけの費用しかないので、餘程難儀の樣であつたが、大和大納言や大藏卿法印小堀新介、井上源五などの兩三人と談合の結果、諸布施半減、僧侶以下の下行は無足、諸式節略といふことで執行することになつたとある。これに就て思ひ合はすことゝ云ふのは、故川谷川忠起男爵が御存命中に話されたことである。それは維摩會逆請の時には、幕府より別に米千石を出世料として交附せられた云々の話である。これは恐らくこの大閤啓附の五百石が先例となり、德川時代に各般の用度を參酌して、千石の出世料と云ふことになつたのであらうと思ふ。このことは水谷川忠起男の履歷書に千石出世料頂戴と書いてある外には、一向人の知らないことであるから、こゝに附記し證く次第である。

❹寫本(興福寺) (佐伯良謙)

維摩會日記 ❶(日) Yui-ma-e-nik-ki. (支)Wei-mo-e-chi. 維摩會問答 ❷1巻 ❸自珍(弘仁五―寛平三 A. D. 814―891) ❹(參考) 諸宗章疏錄第二

維摩會方例考 ❶(日)Yui-ma-e-hō-rei-kō. ❷1巻 ❸存、大日本佛敎全書第一二四興福寺叢書第二

❹本書は、その書名に依つて知らるゝ如く、維摩會に就て各種の先例を考證せるものにして、維摩會は世人も知れるが如く、平安朝初期以來、天下敎界の一大登龍門的晴儀として執行せられ、その末期以後德川時代を通じて、爾南都諸大寺僧綱の唯一出世の行事として修行されたれば、その關係が諸寺諸山に及ぼせることゝて、之が人選配役並に附帶事件等、每に困難なる事情に遭遇せしことは想像に難くない譯である。一例を示さば、古くは天長九年延曆寺義眞が、天台宗として始めて維摩會講師を逆請せし如き、開祖傳敎以來の南都との確執を緩和せしめんが爲の方策なることを知るべく、乃至後代にしては天明三年東大寺龍華光院公祥が、權僧正奏請に際し、興福寺より維摩會竪義未逆業の故を以て異議を申立て、終に之を不能に終らしめたるが如き、又天明九年藥師寺より維摩會竪義逆業並に長者宣下附方を申出でしに際し、興福寺は竪義逆業のみを許與して、長者宣の下附方を阻止せしが如き、何れも皆祖當に複雜なる交涉を重ねたること、當時の記錄に詳記せらるゝ處にして、事態已に斯くの如くなれば、當事者としては、豫め同會に關する諸例を考證し置くの必要は充分に有之し譯にして、本書亦た其一端を敎すべき必要文獻である。

本書は、長者始專寺一藏屬ニ講師並堅義請ニ例以下、平安朝錄會時代に成れる二十二例を敎め、その中に維摩會聽衆が、三十聽衆より四十聽衆になりし初例等をも考へてある。即ち維摩會の一史料として尊重すべきものである。但し本書はその編次されたる年次等は分らない。

❹寫本(興福寺) (佐伯良謙)

維摩會問答 ❶(日) Yui-ma-e-mon-tō. 維摩會日記 ❷1巻 ❸圓珍(弘仁五―寛平三 A. D. 814―891) ❹本朝台嶽撰述密部書目に云く「合。或云維摩會日記。釋同之」 ❺(參考) 山家祖德撰述篇目集巻上

維摩開發 ❶(日)Yui-ma-kai-hotsu. ❷1巻 ❸寂證、神護景雲元―弘仁一三 A. D. 767―822) ❹(參考) 本朝台嶽撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集巻上

維摩義記 ❶(日)Yui-ma-gi-ki. (支)Wei-mo-i-chi. 維摩經義記、維摩詰所說經注、維摩義疏 ❷八巻 ❸存、大正三八・四二一 No. 1775、卍撰一・二七・四 ❹隋慧遠(吾道四―開皇一二 A. D. 583―595)述

❺淨影慧遠が、維摩詰所說經を釋したものである。最初に敎之分齊を明し、佛敎を聲聞藏(聲聞聲聞)、緣覺聲聞)と菩薩藏の二とし、菩薩藏に漸入、頓恰の二を分ちて、維摩經は正しく菩薩藏中頓敎法輪なりと決し、續いて「維摩詰所說經一名不可思議解脫經者蓋乃樹經部別名也」とし、今此經者人法爲名、維摩所說是其人名、不可思議解脫是其法名」とて經名を釋し、引續いて四

門分別を以て分科す。(一)況處分別。(二)
辨會分別。(三)宗義分別。(四)試文分別。
一に就ては菩薩讃岡。維摩詰會の二處。二
に就ては菩薩會(佛國品)・維摩室(方便品以
下)・東會菩薩(菩薩行品以下)の三會。三に
就ては此の經宗歸不思議解脱之義とし、四
に就ては八分とし、三會に各々序正を分ち
て六分、經初之如是我聞之言は一部の證信
通序、見阿閦品の終りの佛告舍利弗見妙喜
無量佛以下を流通とし合して八分とし、
の流通を更に二分し、法供養品經冠を前學
流通、囑累品を付囑流通として、華嚴の分科
と大況相似としてゐる。然してその註釋内
容を檢するに、溫室經・涅槃經・寶雲經・寶
藏經・十地經・摩伽經・仁王經・大品經・瓔珞
經・法華經・阿那律經・楞嚴經・悲華經・賢劫
經・如來藏經・地持經・智度論・釋心論・成實
論・地論・法華論・金剛較若論等を援引し、付
公・生公・肇公等の名も見へる所から見れば
注維摩詰經をも參照してゐるは明かである
が、とに角その註釋は非常に詳細を極
め、且つ慧遠は南道地論派の惠光の弟子
法上の門下であるから、地論教義が各所に
記述されてゐる。然して又各所に「義如別
章」とその詳釋を別章に讓てあるが、この
別章とは大乘義章を指示してゐるものであ
つて、この義章と併讀する事に依つて、一
曾詳細に維摩經の深意を知悉する事が出來
る譯である。

❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一、東域傳
燈目錄卷上 ❽正德三刊 ❾(正大、一一七
〇・五)

(辻善要旨)

維摩義記 ❶(日)Yui-ma-gi-ki. (支)
Wei-mo-i-chi. ❷一卷 ❸存、大正八五・
三二九No.1765

❹大英博物館所藏スタイン氏蒐集燉煌本に
して奥題に維摩義記とある。後記に「景明
原年二月二十二日比丘曇興於定州開樂寺寫
訖」とあれば、維摩の疏としては「注維摩」
に次ぐものゝ如くである。内容は經什譯維
摩詰所說經の弟子品の一部より最後の囑累
品迄の釋にして、譯中唯十二門、中觀を一
回援引するのみにて他の諸師の說を援引せ
ず、又その釋し殆りも非常に簡素である。
然して科を分ちて序說・正說・流通說とし、
序を說教序・說法序とし、正說を略開經宗・
廣演其義とし、流通を法供養・囑累の二と
してゐるが、この大科を巻頭の後に記して
ゐるは、他の章疏とその型を異にしてゐ
る。鳴沙餘韻所說第一部二八頁參照せよ。
❺燉煌本(大英博物館ナ.8126)(辻善要旨)

維摩義疏 ❶(日) Yui-ma-gi-sho.
(支)Wei-mo-i-shu. 維摩義記、維摩經義記、
維摩詰所說經注、淨名經義疏、淨名義疏
❷四卷或八卷 ❸存、大正三八・四二一No.
1775、卍續一・二七・四 ❹隋惠遠(普通四
—開皇一二 A.D.523—592)述 ❺維摩義
記の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第
二

維摩詰經 ❶(日)Yui-ma-kitsu-kyō.
(支)Wei-mo-chi-ching. (梵藏)維摩詰所
說經參照。維摩詰所說不思議法門經、晉人
譯門經、佛法普入道門經、晉人
譯三
一四・五一九No.474、舊黃七、卍九・五、北
123百、南123百、元117樹、明北143方、淸
145方、麗151樹、天123百、指113樹、法119
在、至1393蓋、明南130方、No.147 ❹支
謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A.D.223—
252) ❻維摩詰所說經の下參照。 ❼(參
考) 出三藏記第二、三寶紀第五、内典錄
第二、譯經圖紀第一、開元錄第二、貞元錄
第三

維摩詰經 ❶(日)Yui-ma-kitsu-kyō.
(支)Wei-mo-chi-ching. 維摩詰所說經、不
可思議解脫經、維摩經 ❷三卷 ❸存、大
正一四・五三七No.475、舊黃七、卍九・五、
北121樹、南121樹、元117百、明北125方、
淸145方、麗125百、天121樹、指111在、法
117在、至1125蓋、明南123方、No.146 ❹
姚秦鳩摩羅什(建元二—義熙九 A.D.344—
413)說義熙年中寫)譯 ❺維摩詰所說經の
下を見よ。 ❻明版(帝室)

維摩詰經 ❶(日)Yui-ma-kitsu-kyō.
(支)Wei-mo-chi-ching. ❷一卷 ❸缺
❼(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五

維摩詰經 ❶(日)Yui-ma-kitsu-kyō.
(支)Wei-mo-chi-ching. ❷四卷 ❸缺
❹東晉瞿多蜜譯 ❺第五譯。 ❼(參考)
武周錄第一二、開元錄第一四、貞元錄第二
四

維摩詰經演正疏 ❶(日) Yui-ma-
kitsu-kyō-en-shō-sho. (支)Wei-mo-chi-
chi-yen-cheng-su. 淨名經演正疏 ❷五
卷 ❼(參考) 智證大師請來目錄

維摩詰經演正疏鈔 ❶(日)Yui-ma-
-kitsu-kyō-en-shō-sho-shō. (支)Wei-mo-
chi-ching-yen-cheng-su-chao. 淨名經演
正疏抄 ❷三卷或五卷 ❼(參考) 智證大
師請來目錄

維摩詰經義疏 ❶(日)Yui-ma-kitsu-
-kyō-gi-sho. 維摩經義疏、維摩經疏、維摩
上宮疏 ❷五卷 ❸存、大正五六・二〇Z.
121丟、日本大藏經第七方等部章疏第五、大
日本佛教全書第五、世界聖典全集前編第四
❹聖德太子(敏達帝二—推古帝二九 A.D.
572—621) ❺維摩經義疏の下を見よ。 ❻
明治一三刊 ❼(京大、一・二三ュ・二〇Z正
大、一一七〇・三五)

維摩詰經玄疏纂錄 ❶(日)Yui-ma-
-kitsu-kyō-gen-shō-sen-roku. 維摩經玄疏
纂錄 ❷三卷或六卷 ❸存 ❹守篤本純
(—明和六 A.D.1769) ❼(參考) 山家經
述撰述篇目集卷下 ❽刊本(正大、一一七
〇・二四Z叡山、叡眼)

維摩詰經廣疏 ❶(日)Yui-ma-kitsu-
-kyō-kō-sho. (支) Wei-mo-chi-ching-
kuang-su. 維摩經文疏、維摩經大疏、維摩
經廣疏、維摩經疏、維摩羅詰經文疏 ❷十
四卷或二十八卷 ❸存、卍續一・二七・五
—二八・二 ❹隋智顗(大同四—開皇一七
A.D.582—597)撰、後三卷灌頂(天嘉二
—貞觀六 A.D.561—632)續補 ❺維摩經
文疏の下を見よ。 ❻天寶一三刊 ❼叡山、
禪林(立天、A.一一・二五八)

維摩詰經三觀玄義 ❶(日)Yui-ma
-kitsu-kyō-san-kwan-gen-gi. (支)Wei-mo
-chi-ching-san-kuan-hsüan-i. 維摩經三

觀玄義、淨名經三觀玄義 ❷二卷 ❸存
❹隋智顗(大同四—開皇一七 A.D.582—
597)述 ❺維摩經三觀玄義の下を見よ。
❻天明八刊 ❼(正大、一一七〇・九・二九—
三〇)×立天、A一一・二六六(叡山、昆門)

維摩詰經三觀玄義鈔錄 ❶(日)
Yui-ma-kitsu-kyō-san-kwan-gen-gi-sō-
roku. 維摩經三觀玄義鈔錄 ❷二卷 ❸存
❹守篤本純(—明和六 A.D.1769) ❺天明
二刊 ❼(正大、一一七〇・二三)叡山、昆
門)

維摩詰經三觀玄義鈔錄雜猥記
❶(日) Yui-ma-kitsu-kyō-san-kwan-gen-
gi-sō-roku-zō-wai-ki. 淨名經三觀玄義鈔
錄雜猥記 ❷二卷 ❸存 ❹江戸三 ❺天
明三寫 ❼(叡山、吉祥)

維摩詰經三註別考 ❶(日)Yui-ma
-kitsu-kyō-san-chū-beb-kō. ❷三卷 ❸存
❺元祿一五寫 ❼谷大、俊大・二二七五)

維摩詰經四教玄義鈔錄 ❶(日)
Yui-ma-kitsu-kyō-shi-kyō-gen-gi-sō-roku.
❷四卷 ❸存 ❹守篤本純(—明和六
A.D.1769)記 ❼寫本(明治院)

維摩詰經私記 ❶(日)Yui-ma-kitsu
-kyō-shi-ki. 維摩詰經私記 ❷十六卷
❸存 ❹慶滋(延寶二—寶保二 A.D.1674
—1742)記 ❺元文四自筆本 ❼(谷大、俊
甲・一八)

維摩詰經疏鈔錄 ❶(日) Yui-ma-
kitsu-kyō-sho-sō-roku. 維摩經疏鈔錄、
維摩經略疏鈔錄 ❷十卷 ❸存 ❹守篤本
純(—明和六 A.D.1769) ❼(參考) 山家
經撰述篇目集卷上 ❽刊本(高大、菩・一・
二三)

維摩詰經注 ❶(日) Yui-ma-kitsu-
kyō-chū. (支)Wei-mo-chi-ching-chu. 注
維摩詰經、注維摩、注維摩經、淨名集解、
維摩詰所說經注 ❷八卷或十卷 ❸存、大
正三八・三二七No.1776、續貞二、卍續一・
二七・三、明北125孫、淸146蒙、至1377
新、No.1622 ❹後秦僧肇(太元九—義熙一
〇 A.D.384—414)述 ❺注維摩詰經の下
を見よ。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第
一、東域傳燈目錄卷上

維摩詰經無我疏 ❶(日) Yui-ma-
kitsu-kyō-mu-wa-so. (支) Wei-mo-chi-
ching-wu-wo-su. 維摩經無我疏、維摩詰所
說經無我疏 ❷十二卷 ❸存、卍續一・三
〇・一—二 ❹傳燈述 ❺明天啓五(A.D.
1625) ❻維摩經無我疏の下を見よ。 ❼水
藏二刊 ❼(叡山、藥眼)

維摩詰經遊意 ❶(日)Yui-ma-kitsu
-kyō-yu-i. (支)Wei-mo-chi-ching-yu-i.
維摩經遊意、淨名經遊意、淨名遊意 ❷一
卷 ❸存、卍續一・二九・一 ❹隋吉藏(太
詰三、武德六 A.D.583—623)述 ❺維摩
經說意の下を見よ。 ❼寫本(京大、叡・五
ュ・一)

維摩詰經要略 ❶(日)Yui-ma-ka ka
-kyō-yō-ryaku. (支) Wei-mo-chi-ching-
yao-lüe. 淨名經要略疏 ❷二卷 ❸智證
大師請來目錄に云く「牛頭」。牛頭とは、江
寧牛頭山惠威のことか。

維摩詰經略贊 ❶(日)Yui-ma-kitsu
-kyō-ryaku-san (支) Wei-mo-chi-ching-
lüe-tsan. ❷七卷 ❼(參考) 注進法相宗
章疏錄

維摩詰子所問經 ❶(日) Yui-ma-
kitsu-shi-sho-mon-kyō (支) Wei-mo-
chi-tzü-so-wen-ching. 大方等頂王經、維
摩詰子問經、美思童子經、頂王經 ❷二卷
❸存、大正一四・五八八No.477、舊黃八、
卍九・五、北124百、南125百、元122百、明
北141萬、淸141萬、麗125樹、天125百、指114
樹、法121樹、至521蓋、明南122萬、
No.145 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興
元(A.D.265—313) ❻大方等頂王經の下
を見よ。

維摩詰子問經 ❶(日)Yui-ma-kitsu
-shi-mon-kyō. (支)Wei-mo-chi-tzü-wen-
ching. 大方等頂王經、維摩詰子所問經、美
思童子經、頂王經 ❷一卷 ❸存、大正一
四・五八八No.477、舊黃八、卍九・五、北
124百、南125百、天122百、明北141萬、淸
141萬、麗125樹、天125百、指114樹、法121
樹、至521蓋、明南122萬、No.145 ❹竺法
護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A.D.265—
313) ❻大方等頂王經の下を見よ。

維摩詰所說經 ❶(日)Yui-ma-kitsu
-sho-setsu-kyō. (支)Wei-mo-chi-so-shuo-
ching. (梵)Vimalakīrti-nirdeśa(引用)(藏)
Dpahgs-pa dri-ma med-par grags-pas bstan
-pa ahes-byaḥ-ba theg-pa chen-poḥi
mdo. 維摩詰經、不可思議解脫經、維摩經
❷三卷 ❸存、大正一四・五三七No.475、
舊黃七、卍九・五、北121樹、南121樹、元
116百、明北142方、淸142方、麗125在、天
121樹、指111在、法117在、至1295蓋、明南
129方、No.146 ❹鳩摩羅什(建元二—義
熙九 A.D.344—413)說義熙年中寫)
❻(名義) 本經は、その梵名を=Āryavimalakīrtinirdeśa nāma mahāyāna sūtra(「聖
維摩詰所說と名づくる大乘經」)といふ。維
摩詰は梵語「Vimalakīrti」の音表で、譯して
「淨名」又は「無垢稱」といひ、即ち本經の說
主であつて、本文中に說かれてゐる如く、
毘耶離(Vaiśālī)國の離車(Licchavi)族の首都毘
耶離(Vaiśālī)城に住んでゐたといふ大富
豪の名である。佛說大方等頂王經」には彼
の子に美思といふがあつたといひ、又「佛
說月上女經」卷上には、彼の妻を無垢といひ、
その女を月上といつたことが記されて
ゐる。しかしながらこれらの諸人物が、佛
陀時代實際に生存してゐた人物であるかど
うかは甚だ疑はしい所であつて、恐らくは、
それぞれの經典作者が、且く經典中の主人
公として借り來つた理想的人物に外ならな
いと思はれる。維摩詰に就ては、本經「方
便品」に說く所によれば、在家の所謂居士
でありながら、よく佛教の眞義に達し、三
界に著せず、妻子あるを示しながら両も常
に梵行を修し、貧者を見てはこれに惠み、
亂行者を見てはこれを教へ、酒肆に入つて
は酒肆を化し、宮中に入つては宮人を化す
るといふ有樣で、その到る所彼を尊ばざる
はなく、偏く常に妙法の宣布に努力したと
いはれてゐる。東晉の僧肇は、彼を讃じて

「法身の大士、其れ權道無方にして慈願逸を殊にす」(「注維摩詰經」卷一)といひ、我が聖德太子は「已登正覺の大聖」(「維摩經義疏」卷上)と曠じたまうた。本經は、かくの如き偉大なる在家の居士維摩詰を中心人物となし、彼の所說に托して、優婆羅妙なる筆致のもと、幽玄深奧なる大乘佛教の眞理を叙述せる經典であるから、名づけて「維摩詰所說經」といふのである。

本經を一名「不可思議解脫」(Acintyavimokṣa)と名づけてゐるのは、直接には、本經「囑累品」に於て、佛が阿難に對して本經を「不可思議解脫法門」と名づくべきを命ぜられたのに基くことはいふまでもないが、このことはまた、本經の內容が、常識的、若くは理論的立場を超えた不可思議な宗教的體驗の心境を叙述せるものなることを示すものに外ならないのである。たゞに本經「不思議品」に於て、維摩詰が舍利弗に向つて說いた說法を「不可思議解脫法門」と名づけてゐるのみならず、僧肇が「此の經淨土より始つて法供養に終る、其の中明す所殊なりと雖も、然も其の不可思議解脫たるは一なり、故に總じて以て名と爲す」(「注維摩詰經」卷一)と言つてゐるやうに、本經の全體に亘つて、到る所に甚深不可思議の事實が叙べられてゐるから、かく名づけたものと見られるのである。

尙、本經は一名「佛法善入道門三昧經」等とも呼ばれてゐたことが現存の支謙譯の表題等にて知られることを附言して置く。

〔原本〕 本經の原本は、現今散佚して傳はつてゐないが、原本に於て既に數種の異本があつたことは、現存の漢譯の三種及び西藏譯を照合して、容易に想像される所である。而して、それら原本の異本中、最古の原本が、何時、如何なる場所に於て、如何なる人によつて記されたかに就ては、他の多くの經典の場合と同樣に、明確にこれを確むることは、目下のところ、殆んど不可能の狀態にあるといはねばならない。しかし、さきにも一言した如く、本經が理想的人格たる維摩詰を中心人物とする一の創作的作品であるとみる限り、一應の順序として、本經成立の事情を考究して置かねばならぬと思ふから、以下この點に關する大要を略述しよう。

罰譚の「部執異論疏」に、佛滅二百年の頃、中印度王舍城の北、央崛多羅國に度つた大衆部の中に、「華嚴」、「涅槃」、「寶篋」、「金光明」、「般若」等の諸經と共に、「維摩經」を信ずるものゝゐたことが記されてあつたとのことである。勿論、これによつて、現存の如き內容の「華嚴」乃至「維摩」等の經典があつたとみることは、到底出來ないのであるが、さりとて、この傳說には、必ずしも何等歷史的意味のなきものとも思はれ難い點がある。何故なれば、この傳說は、見方によつては、當時それら諸大乘經典の一部分、またはそれらに類似した思想があつたことを示すものともみられるし、またさうでないまでも、かの大衆部の進步的思想と大乘經典に盛られた幽玄なる思想との歷史的關係を暗示するものとも見られるからである。本經の說主維摩詰が、佛滅一百年上座・大衆兩部分裂の際、自由思想派の大衆部の徒が多くゐたといふ毘耶離の町の居士であるとされてゐることを併せ考ふるならば、或はこの地若くは大衆部系の徒と本經との間に、何等かの歷史的關係のあつたことを彷彿せしむるものがあると思はれないではない。學者の考定する所によれば、本經中には、小乘に對する貶斥の意が明に窺はれ、寧ろ本經製作の動機が一にかゝつてその點にあつたのではないかとさへ思はしむる程であるが爲に、本經を以て、大乘佛教の興起時代に、大乘の教徒が、特に小乘佛教の盛な地方に於て、かの教徒に對する反抗的態度を以てもしたものではなからうかといはれてゐる。大乘佛教の興起卽ち所謂大乘運動が、いつ頃のことであつたかは、いま辛かに定め難い所であるが、諸種の事情より推して考ふるに、略々西曆紀元の前後を以てこれに擬していゝかと思はれる。而して大乘經典中でも、殊を說いた般若部の或るものがその初期の作品と思はれ、この「維摩經」が、明かに彼の思想の上に立つてゐて、般若部の經典以後の作品であることを示してゐる點から考へて、本經の成立を略々紀元後一世紀頃と見ることが出來るやうである。かの「大毘婆沙論」卷七九に引かれてゐる「佛は一音を以て法を演說したまふに、衆生は類に隨つて各々解を得、皆謂へらく世尊其の語を同じうして、獨り我が爲に種々の義を說きたまふ」といふ偈は、同所の後の方で「三藏(の說)に非ず」と記されてはゐるが、もしもこれがまさしく本經「佛國品」の偈中に出づる古來有名なるかの一偈を引用したものであるとするならば、本經は「大毘婆沙論」の編纂された時代、卽ち紀元後百五十年前後には既に成立してゐたものといはねばならない。また、「婆沙論」中の右の偈が、本經からの直接の引用でないとしても、「婆沙論」編纂當時、本經と同じやうな佛身觀若くは思想が行はれてゐたことを示す一證左とみることは許されるであらうし、支那譯經の目錄に、後漢靈帝の中平五年(A.D. 188)に般佛調が「古維摩詰經」二卷を譯したことが記されてゐる(「歷代三寶紀」卷四、「開元釋敎錄」卷一)等や、それより僅か三十年の後、吳の時代(A.D. 222—252)支謙によつて「維摩詰經」二卷が譯されてゐること等より考ふるも、本經の成立を紀元一世紀頃と見ることは、さまで見當違ひの說ではなからうと思はれるのである。

〔流傳〕 本經一度び世に出づるや、その深奧なる思想と壮大なる構想とは、遍く教界の人々に迎へられしものゝ如く、爲に本經が敎學宣揚の上に與へた影響も亦甚大であつたやうである。

さきに述べた「大毘婆沙論」卷七九のかの偈が、本經「佛國品」よりの引用とすれば、當時すでに或る一部では本經が文證として引用されるやうな傾向さへあつたやうであり、また、唐の玄奘の譯した「大阿羅漢難提密多羅所說法住記」には、紀元第三世紀の終頃在位したといはるゝ執師子國卽ち錫

爾の王ヶハーセーナ(Mahāsena,勝軍)の代に、難提蜜多羅(Gandimitra)といふた阿羅漢が入滅に際して敎示したといふ多くの大乘經典の中に本經の名が出されてゐる。もしこの傳說が事實のまゝを傳ふるものとすれば、紀元第三世紀の頃にはすでに本經が遠く錫蘭の地にまで流布してゐたことが知られる。既に本經の流傳かくの如くであつたから、從つて後代に成立したと思はれる經典の中に、本經の影響を傳ふるものまた實に夥しいのである。なほ、かの紀元第七世紀の中頃印度に旅行せる玄奘が、その旅行記「西域記」卷七に於て、吠舍釐に維摩說法や寶積獻蓋等の遺跡のあつたことを傳へてゐる一事の如きも、また以て彼土における本經の盛行の一端を察するに足りるのである。

〔傳譯〕 本經は、すでにその成立が早いのみならず、內容亦實に餘德の諸經に秀でゝゐるが故に、多くの人々によつて誦持傳寫されたやうで、ために、その傳譯に於ても、夙にそれが企てられたものゝやうである。

まづ、漢譯の中、最古のものは、後漢靈帝の中平五年臨淮郡の人嚴佛調の譯したといふ(一)「古維摩詰經」二卷であるが、これは早くより散佚して傳はつてゐない。次に、吳の孫權の時代に大月氏國の優婆塞支謙の譯した(二)「維摩詰經」二卷や、或はまた「佛法善入道門三昧經」等ともいふ。現存する漢譯の最古譯である。次に晉の惠帝の元康元年(一說元康六年)に河南の竺叔蘭が譯したといふ(三)「異維摩詰經」三卷で、また「異出維摩詰經」ともいはれてゐる。三卷或は二卷であつたといひ、現在傳つてゐない。次に晉の惠帝の大安二年に燉煌の人竺法護の譯した(四)「維摩詰所說法門經」一卷で、或は單に「維摩詰經」(一卷)といひ、或はまた「維摩詰說不思議法門(釋)經」(三卷)といつた。これ亦現存してゐない。次に東晉の代に西域の人鳩摩羅什の譯した(六)「維摩詰經」四卷があつたやうであるが、これ亦夙に佚して傳つてゐない。その後、姚秦の弘始八年龜茲國の人鳩摩羅什の譯した(六)「維摩詰所說經」三卷が出で、一名「不可思議解脫經」と呼ばれ現存してゐる。最後に、唐の高宗の永徽元年(一說貞觀二年)玄奘が(七)「說無垢稱經」六卷と題して譯出したものであつて、これも現存してゐる。尙これらの外に、現存してはゐないが、竺法護が自らの所譯を刪略して逸偈のみを出せるものと考へられた「刪維摩詰經」一卷があり、また晉の惠帝の時、支敏度が支謙・竺法護・竺叔蘭の三譯に就て、支謙譯を底本として合糅し一部五卷となせる「合維摩詰經」なるものがあつたと傳へてゐるが、これらは既往の譯本に就て爲された增刪であるから、梵本よりの別譯といふのではないわけである。

本經の西藏譯は、西藏大藏經佛說部(Sḳyah-bṛgyud)の經集(mdo)の中に收められ、"sphags-pa dri-ma med-par grags-pa bstan-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo" と題され、大校正翻譯官Dharmatāla (Chos-kyi Tshul Khrims)が直接梵本より翻譯して校正し決定したものであるといふ。西藏譯はこの藏譯を底本としたものといはれてゐる。

最近、中央亞細亞の研究旺んとなるや、各國人士うてかの地に探檢を企て、その結果としてかの地に行はれたる佛教經典の發見されしもの極めて多く、就中、英國のスタイン(Stein)氏が于闐(Khotan)の故址に於て蒐集したるものゝ中に、康居(Kirgis)國語の「維摩經」佛國品寶積獻蓋の條に當る斷片二葉が發見せられ(Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft vol. XXXXII, 1908. Stein, "Serindia, II. P. 924)これによつて本經が西域胡語にも翻譯されてゐたことが知らるゝやうになつた。

さて、上述の本經の漢譯七種中、現存するものは支謙・羅什及び玄奘の三譯本であるが、いまこれら三本及び西藏譯を對校するに、その配文大體は異ならず、また譯文に於ても、羅什譯は文理の許す限り多く支謙譯に則り、玄奘の譯亦屢々羅什の舊譯文を參酌してその全文を踏襲してゐる。さりながら、その細處に至つては必ずしも全同とはいへないのであつて、これ恐らくは、主としてその所依の梵本に於ける相違に歸すべきであらうかと思はれる。

〔什譯〕 本經の現存漢譯三本中、古くより最も多く誦讀されたものは、羅什譯である。彼の「維摩經」の翻譯に就いて、僧肇の「注維摩詰經序」(「出三藏記集」卷八「注維摩詰經」序)には、弘始八年「大將軍常山公左將軍安城侯に命じ、義學沙門千二百人と常安の大寺に於て羅什法師に請ひ、重ねて正本を譯す、什高世の量を以て心を眞境に冥し、既に環中を盡して又方言を美くす、時に手に胡本を執り、口に自ら宣譯す、道俗度一言三復して、陶冶精求、務めて聖意を存す、其の文約にして而も詣り、其の旨婉にして而も彰かなり、微遠の言玆に於て昭然たり」と述べてゐる。以て本經の翻譯がいかに愼重なる用意の下にとり行はれたるかを察すべきである。沟に本經の傳譯こそは、羅什の數多き秀作中の尤なるものであつて、古來佛典文學中の隨一として推稱され、その玩讀の旺んなること新古の兩譯に比すべくもなく、「維摩經」といへば、直ちに羅什譯のそれを指すといふ有さで、研鑽誦學いまはその跡を絕たないのも、一に譯者羅什の文學的英才による所亦多しといふべきであらう。驚嘆にその譯文の流麗なるのみならず、更にその內容に於ても、大いに優秀なる點あるは、他の諸譯と對照して、明かに認めらるゝところである。

〔內容〕 本經は、すでに一名を「不可思議解脫」と呼ばれてゐる如く、不可思議なる解脫の心境を叙するを以てその趣旨とする。さりながら、餘德多くの經典の所說としても、一として不可思議解脫の心境に結歸せざるものはないわけであるが、特に本經に對してこの名稱が與へられてゐる所以を思ふに、こは恐らく、本經が解脫の境涯の不可思議なる點を特に高調せむとするが故ではなからうか。所謂不可思議とは、宗敎的體驗の境涯が、常識的、若くは理論的立

場を超越せるをいふものであらう。古来本經一部の眼目といはるゝ「入不二法門」の一品を色塗するだけを以てしても、本經の主旨の、偏に不可思議を闡ほさむとするにあることを掬取することが出来よう。洵に、足指を地に按じて淨土現ほれ、方丈の室室に法界無盡の大佛事を行じ、高座を須彌燈王佛に借り、香飯を衆香國に請うて、一切衆生をして殘らず座・食に就かしめ、或は「須彌山を芥子粒の中に内れ」、「四大海水を以て一毛孔中に入る」と說く等、品々の所說、比々皆不可思議の法門ならざるものとてはない。啓いてこれを說けば無量の法門となり、摺んでこれを觀ずれば一宇不說の奥理に盡きる。三國に亘つて諸宗諸派の大論師が、各々その獨特の見識を以て本經を重んじ來れる所以のもの、亦實にこゝに存するのである。

次に本經の特色として擧げべきは、所說の内容の極めて實相肯定的の傾向を有してゐるといふことである。「佛道品」に見ゆる「高原の陸地には蓮華を生ぜず、卑濕の潛泥に乃ち此の華を生ずるが如し」といふ有名な句を始めとして、「觀衆生品」に於て、「婬・怒・癡の性卽ち是れ解脫なり」と說き、乃至は「菩薩行品」に於て、「出世間に於て之を求めて厭くこと無く、而も世間法を捨てず、威儀の法を壞せず、而も能く俗に隨ふ」といへるが如き、何れも皆煩惱卽菩提、生死卽涅槃の妙理を高調せるものであつて、かくの如き類の句は、本經中到る處に充ち滿ちてゐる。元よりこのやうな傾向は大乘經典一般に於て見らるゝことであつて、獨り本經にのみ限つたことではなからうけれど、而も亦本經の如く强くこの點を主張してゐる經典は、他に多くないといつてよいであらう。

形式上から本經の特色を見るならば、まづその說述が攝取包容の形式ではなくして彈呵裁斥の形式なることである。この點他の經典にも見られないではないが、その痛烈辛辣なること、本經ほど花しいものはないであらう。天台の智顗がかの有名なる五時の教判に於て、本經を方等時卽ち彈呵時を代表する經典として筆頭に揭げたのも、洵に尤もの次第といふべきである。次に、本經が優れたる藝術的創作であつて、而もその成立の最初より首尾一貫して整備せる一個の作品であることも、亦見逃すことの出來ない本經の特徴といはねばならぬ。藝術的創作といふ點よりみて優れたるものは、本經以外に、たゞ「華嚴經」・「法華經」・「譬喩經」等多々あるが、これらは何れも一應獨立して成立してゐた經典若くは說話を合集して成つたものであつて、本經の如く初めより一の纒つた構想を以て爲されたものとはいへないのである。また、初めより纒つたものとしては「勝鬘經」・「金光明經」等があるが、これらは文學的作品としての藝術的價値に於て、本經に及ばざること遙かに遠しといはねばならぬ。かくて、この二點を完全に具有するものとして求むれば、多くの經典の中、やはり本經を以て第一位に推すべきであると思ふ。

以上は本經の特色中主要なるもの二三を揭げたのであつて、これらの外、尙その特色を求めるならば種々見出されるでもあらうが、こゝではまづこの點に關してはこれだけに止めて置く。

さて、本經一部の結構は、大乘の居士維摩が、偏狹なる小乘的思想に謁跡せる佛弟子達を啓發して、落に菩薩無礙なる大乘的意識に目醒めしめむが爲に、所謂美巧方便の假病を使つて佛弟子達を誘き寄せ、以てそれらに思ふさま深遠なる大乘の眞理を高調指示せるもので、通篇菴羅樹園・方丈及びまた菴羅樹園でふ三會より成り、それによつて興趣津々たる戲曲的展開がなされてゐる。以下品目の次第を追うて各品の概要を敍述しよう。

佛國品第一　先づ最初菴羅樹園の場に於て、開卷早々寶積長者の青年が、五百の長者の青年達と共に現はれ、敬虔なる儘度を以て、各自の有せる七寶の纓蓋を佛陀に獻供せることを敍べ、如何にも雄大なる戲曲の大序にふさはしき緊張せる場面を現じてゐる。こは卽ち、彼等青年達が、各々自己の抱懷せる問題を佛陀に提出してその敎示を仰いだことを表はしたものと見られる。而してその纓蓋を受けられた佛陀は、見る見るそれらの全部を合集して一大纓蓋となし、それを以て萬有の諸象を悉く載ひ盡された。こは卽ち各自の抱懷せる問題は、因より眞々一樣ではなけれど、それが解決の根據は何人に於ても唯一つ、卽ち自己の何たるかを正しく知るにあるでふことを示された佛意を表徵するものである。げに眞般の極致こそ大乘思想の眞髓なるもので、本經は正しくそれが理論と方法とを高調せるものに外ならない。かくて佛はかの一大寶蓋の中に佛國土淨淨の相を現じたまへば、長者子寶積は卽ち偈を頌して佛德を讚嘆し、佛國土の淨淨なる所以を聽問した。則ち佛は「其の心の淨きに隨ひて卽ち佛土淨し」と說きたまふに、舍利弗は、何が故に此の土に荊棘泥土あつて醜穢なること斯くの如きかを怪めば、佛はその意を知ろしめて盲者の譬喩を說きたまひ、終に足指を以て地を按じ、此の土の本來淨淨なることを示し給ふ。

方便品第二　維摩居士の德を說き、居士が美巧方便を用ひて疾を現じ、來訪者に對して、世の無常にしてたのむべからざるを說くことを敍べてゐる。

弟子品第三　佛陀は、維摩が病床にありと聞かれ、弟子を遣はしてこれを慰問せしめむとし、まづ智慧第一の舍利弗に命じたまふた。しかるに舍利弗は、かつて居士の爲にいたく難詰せられたことを申べて、病を問ふことを辭退する。かくて目連に命じたまうたが、彼亦同樣の理由で以て辭退する。かくの如くにして迦葉・須菩提等の十大弟子悉く維摩を恐れて問ふ事を欲しない。

菩薩品第四　佛は更に彌勒・光嚴等の菩薩に命じたまうたが、これ亦前品に於けると同樣に、いづれも維摩に訶責されたことを述べて辭するのである。

問疾品第五　かくて終に、文殊菩薩が起

教字略號 ❶題名(書名) ❷著者 ❸刊年 ❹巻数 ❺存缺 ❻著者 ❼著作年代 ❽内容説明 ❾本書(註釋書参考書) ❿底本(本書の底本) ⓫現存諸本 ⓬刊行年月 ⓭発行所

つて維摩を訪ふことゝなつた。場面は第二方丈會に移る。この二大聖者の問答のいかに莊嚴を呈するかと、弟子菩薩は悉く文殊に從つて維摩の居を訪うた。維摩はその方丈の室を空にし、應接一番、不來不去の大問題を提起しつゝ、捨ろに病惱の原因と除滅のことを說き、菩薩の病は大慈悲によつて起り、衆生病むが故に菩薩の病むこと等を述べる。

不思議品第六　本經の本旨不可思議解脫の境涯を說く、まづ、舍利弗が方丈の空室にして菩薩摩閣の床座すらなきを怪しみ、これを問はむとすれば、維摩早くもこれを察して、法のために來るや床座のために來るやと詰り、痛棒一喝、心肝を寒からしめ、やがて、須彌燈王佛より高さ八萬四千由旬の寶座三萬二千を借りてこの方丈の室に入るゝに、小室毫も隙間することがない。これ正しく不可思議解脫の實現であつて、居士は更に須彌の大山を芥子の中に入れ、大海の水を一毛孔の中に入るゝと說く等、希有奇妙不可思議の有樣を詳說して、大乘の妙理活殺自在なることを示す。

觀衆生品第七　菩薩の衆生を觀ずること幻人をみるが如しと說き、衆生の實體に執ずることを摧ひ、至誠の理路窮まる所、忽ちにして窮寇たる一天女を現じ來り、天華を雨らすに、この華菩薩の身には著せずして、卽つてこれを不如法と執ずる聲聞の衣土に著く。舍利弗が衣に著したる天華を强ひて棒ひ去らむとすれば、天女は、分別差別の結習これ不如法なりと喝破し、趙州の

教字略號 ❶題名(書名) ❷著者 ❸刊年 ❹巻数 ❺存缺 ❻著者 ❼著作年代 ❽内容説明 ❾本書(註釋書参考書) ❿底本(本書の底本) ⓫現存諸本 ⓬刊行年月 ⓭発行所

舌を借りて一切諸法は直ちに是れ無說の相にして、大乘の妙理男女を分たざるを極言し、その實證を示す。

佛道品第八　菩提に行きて而も佛道を失はざることを說き、維摩の眷屬は卽ち般若・方便等に外ならないことを敍べる。

入不二法門品第九　諸の菩薩何れも維摩に向つて不二卽ち絕對の境地のいかなるものなるかを說くに、たゞ文殊のみ「無言・無說・無示・無識」と述べて言語の到底及ぶ所にあらざるをいふ。最後に維摩は、たゞ默然として言なし、この一默聲雷の如しといはれ、不二の妙境こゝに全現して餘蘊がない。正しく本經の最高調である。

香積品第十　香積佛の衆香國より香飯を受けてこれを會衆に與へ、妙香充滿化の不可思議なることを觀ぜしめる。

菩薩行品第十一　場面は再び元の菴羅樹園に復へる。維摩・文殊相携へて佛所に詣れば、阿難が衆香國菩薩の身香に感じて問を發するより、乃ち佛陀の說法となり、一切諸佛の法門と盡・無盡無礙の法門に就きて廣く菩薩の因行を明す。

見阿閦佛品第十二　佛陀と維摩との間に佛身に就ての問答がなされ、如來の身は一切超越の眞身なることを敍べる。後、舍利弗の問によつて、維摩の本地を現じ、彼は卽ち阿閦佛の淨土妙喜國より來りてこの地に來れしものなることを明す。

法供養品第十三　天帝釋に對し、本經受持讀誦供養の大利を擧げ、臺王如來と月蓋王の舊緣を說いて深經の了解は最上の法供養なることを勸說する。

囑累品第十四　佛陀彌勒に告げて本經の流布を付囑し、更に阿難に命じてその受持流傳に當らしむることを敍べて、本經の一部を結ぶ。

最後に本經の科段に就ては、古來諸家によつて種々にその見を異にしてゐるやうである。まづ梁の開善寺の智藏は、初の四品を序分、その後の六品を正宗分「菩薩行」・「阿閦」の二品を證誠分、「法供養」・「囑累」の二品を流通分とみたやうであり、莊嚴寺の僧旻と光宅寺の法雲とは、略々智藏と同樣であるが、たゞ後の四品を合して流通分とした點に小異がある。北地の諸師は初一品は序、中の十一品は正宗、後の二品を流通としたといふ。智顗は、初品の寶積讚佛偈の終までを序分、寶積發問以下「見阿閦佛品」までを正宗分、「法供養」・「囑累」の二品を流通分とした。應恩大師基は新經に就いて「說經因緣分」・「正陳本宗分」・「讚授流通分」としたが、經の分け方は北地の諸師と同じである。かくの如く諸師の間に異同多き中、これらの諸師の見解に更に一歩を進めたものとして古來若く推稱されてゐる我が聖德太子の「維摩經義疏」の所說を最後に左に圖示して、本經の解題の末尾を莊嚴することゝしよう。

❷(參考)三寶紀第八、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六　❸唐正二三刊　❹(鳩摩羅什)姚秦弘始四刊(各大、高大、寄一・二三)　(深讃正文)

維摩詰所說經　❶(日)Yui-ma-kitsu-sho-setsu-kyō.　維摩經評註、評註維摩經　❷十四卷　❸存、卍續一・三〇・一　❹鳩摩羅什(建元二—義熙九 A.D.344—413)說　義熙年中寫(譯)譯、揚起元評註　❺維摩經評註の下を見よ。　❻寶八刊　❼(正大、一一七〇・一)

維摩詰所說經　❶(日)Yui-ma-kitsu

sho-setsu-kyō. 国譯維摩詰所說經 ❷三卷 ❸存、国譯一切經經集部第六 ❹澤田正文譯

維摩詰所說經 ❶(B)Yui-ma-kitsu-sho-setsu-kyō. 国譯維摩詰所說經 ❸存、国譯大藏經經部第一〇 ❹渡邊海旭(明治五—昭和八A.D.1872-1933)譯

維摩詰所說經 ❶(B)Yui-ma-kitsu-sho-setsu-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹霊玉仙譯 ❺(帝國、一〇八・二二)

維摩詰所說經 ❶(B)Yui-ma-kitsu-sho-setsu-kyō. 科本維摩詰所說經 ❷一卷 ❸存 ❹本津無寿科註 ❺明治三四刊 ❻(帝国、八・一・五五五)

維摩詰所說經 ❶(B)Yui-ma-kitsu-sho-setsu-kyō. 新譯維摩詰所說經 ❷一冊 ❸存 ❹岩野眞雄譯 ❺昭和三刊 ❻東京甲子社書房

維摩詰所說經疏 ❶(B) Yui-ma-kitsu-sho-setsu-kyō-sho. (支)Wei-mo-chi-ro-shuo-ching-su. 維摩經略疏、淨名經略疏、不可思議解脫經疏、維摩經嘉祥疏 ❷五卷 ❸存、卍續一・二九・二 ❹隋吉藏(太清三—武德六A.D.549-623)述 ❺維摩經略疏の下を見よ。 ❻元祿一一刊 ❼(京大、藏・五ュ・三)

維摩詰所說經註 ❶(B) Yui-ma-kitsu-sho-setsu-kyō-chū. (支)Wei-mo-chi-ao-shuo-ching-chu. 注維摩詰經、注維摩、注維摩經、維摩詰經注、淨名集解 ❷八卷或十卷 ❸存、大正三八・三二七No.1775、續諸二・卍續一・二七・三、明北1696藤、清1601書、至1577館、Nj.1602 ❹後秦僧肇(太元九—義熙一〇A.D.384-414)述 ❺注維摩詰經の下を見よ。 ❻刊本(京大、藏・一一ュ・七、尤續一三刊(京大、藏・五ュ・二)) ❼尤續一三刊(京大、藏・五ュ・二)

維摩詰所說經無我疏 ❶(B)Yui-ma-kitsu-sho-setsu-kyō-mu-ga-sho. (支)Wei-mo-chi-ao-shuo-ching-wu-wo-su. 維摩經無我疏、維摩詰經無我疏 ❷十二卷 ❸存、卍續一・三〇・一—二 ❹明傳燈述 ❺維摩經無我疏の下を見よ。 ❻承應二刊 ❼(京大、藏・五ュ・四×正大、一一七〇・四〇)

維摩詰所說不思議法門經 ❶(B)Yui-ma-hitsu-sho-setsu-fu-shi-gi-hō-mon-gyō. (支) Wei-mo-chi-so-shuo-pa-ssu-i-fa-mên-ching. 維摩詰經、普入道門經、佛法普入道門三昧經、佛法普入道門經 ❷二卷 ❸存、大正一四・五一九No.474、鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344-413 一說義熙年中寂)譯 ❹姚秦鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344-413 一說義熙年中寂)譯、隋吉藏(太清三—武德六A.D.549-623)撰 ❺維摩詰所說經の下を見よ。 ❻明治三五刊 ❼(帝國、一〇八・二二)

維摩詰所說法門經 ❶(B)Yui-ma-hitsu-sho-setsu-hō-mon-gyō. (支)Wei-mo-chi-shuo-fa-mên-ching. 維摩詰經、普入道門經、佛法普入道門三昧經 ❷一卷 ❸缺 ❹第四譯 ❺(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

維摩詰說不思議法門經 ❶(B) Yui-ma-hitsu-setsu-fu-shi-gi-hō-mon-gyō. (支)Wei-mo-chi-shuo-pa-ssu-i-fa-mên-ching. ❷三卷 ❸缺 ❹西晉竺法護(一泰始二—建興元A.D.265-313—)譯 ❺(參考) 武周錄第一二

維摩詰 ❶(B)Yui-mu-kyō. (支)Wei-mo-ching. ❷一卷 ❸疑僞經。 ❹(參考) 出三藏記第五、法經錄第二、仁壽錄第四、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. (支)Wei-mo-ching. 維摩詰經、維摩詰所說不思議法門經、普入道門經、佛法普入道門經、佛法普入道門三昧經 ❷二卷 ❸存、大正一四・五一九No.474、鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344-413 一說義熙年中寂)譯、隋吉藏(太清三—武德六A.D.549-623)撰 ❹維摩詰所說經の下参照。

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. (支)Wei-mo-ching. 維摩詰所說經、維摩詰經、不可思議解脫經 ❷三卷 ❸存、大正一四・五三七No.475、鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344-413 一說義熙年中寂)譯 ❹吳黃武二—建興二(A.D.223—253) ❺維摩詰所說經の下参照。

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. (支)Wei-mo-ching. 維摩詰經、維摩詰經、不可思議解脫經 ❷三卷 ❸存、大正一四・五三七No.475、鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344-413 一說義熙年中寂)譯 ❹吳黃武二—建興二(A.D.223—253) ❺維摩詰所說經の下参照。

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. (支)Wei-mo-ching. 維摩詰經、淨名經略疏、不可思議解脫經疏、維摩經嘉祥疏 ❷五卷 ❸存、卍續一・二九・二 ❹隋吉藏(太清三—武德六A.D.549-623)述 ❺維摩經略疏の下を見よ。 ❻元祿一一刊 ❼(高大、寄・一・二三)

維摩經記 ❶(B) Yui-ma-kyō-ki. (支)Wei-mo-ching-chi. 維摩經疏記、維摩疏記、維摩經廣疏記 ❷二卷或三卷 ❸存、卍續一・二八・四—五 ❹唐湛然(景雲二—建中三A.D.711—782)述 ❺維摩經疏記の下を見よ。 ❻元祿一五刊 ❼(京大、藏・五ュ・二二)

維摩經記 ❶(B) Yui-ma-kyō-ki. (支) Wei-mo-ching-chi. 淨名經記 ❷二卷或一卷 ❸晉證大師請來目錄に云く「牛頭」。牛頭とは江東牛頭山惠風のことか。 ❼(參考) 惠運禪師將來教法目錄

維摩經記 ❶(B)Yui-ma-kyō-ki. ❷二卷 ❸存 ❹大安 ❺寫本(龍大、二四一七・一〇七)

維摩經義記 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-ki. (支)Wei-mo-ching-i-chi. 維摩義記、維摩詰所說經注、注維摩經、維摩經疏 ❷八卷 ❸存、大正三八・四二一No.1776、卍續一・二七・四 ❹隋慧遠(普通四—開皇一二A.D.523—592)述 ❺維摩義記の下を見よ。 ❻(參考)新編諸宗教藏總錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄1561 ❼正德三刊 ❽(谷大、餘大・一六三五(龍大、二四一七・一〇八、研傳(高大、寄・一・二三×哲、う・七・右・一三×病大)

維摩經義記 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-ki. (支)Wei-mo-ching-i-chi. 維摩義記、維摩詰所說經注、注維摩經、維摩經疏 ❷八卷 ❸存、大正三八・四二一No.1776、卍續一・二七・四 ❹隋慧遠(普通四—開皇一二A.D.523—592)述 ❺維摩義記の下を見よ。 ❻(參考)新編諸宗教藏總錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄1561 ❼正德三刊 ❽(谷大、餘大・一六三五(龍大、二四一七・一〇八、研傳(高大、寄・一・二三×哲、う・七・右・一三×病大)

維摩經義記卷第四 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-ki-kwan-dai-shi. (支) Wei-mo-ching-i-chi-chuan-ti-ssu. ❷一卷 ❸存、大正八五・三三九No.2769 ❹大英博物館所藏スタイン氏蒐集燉煌本にして卷首を闕く。後記に「維摩經義記卷第四、龍華二僧共校定也、更比宇一校也、大統五年四月十二日比丘惠龍寫記流通。保定二年歲次壬午於麗錦公齋玄檢樹下大聽僧疏講維摩經一過私記」とあつて、景明原年筆寫の維摩義記(大正八五No.2768)と倶に六朝の古逸疏として珍重すべきである。内容は經什譯維摩詰所說經の佛道品の一部より最後の囑累品迄の釋にて、義記よりは分科も釋も詳細である。然して釋中「又解」として異說を掲げてゐるが、明かに人師の名前を出さず、又經文等の引用もない。鳴沙餘韻解說第一部三一頁參照。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

維摩經義疏 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-sho. (支)Wei-mo-ching-i-su. 維摩經疏、淨名經廣疏、維摩廣疏 ❷六卷 ❸存、大正三八・九〇八No.1777、卍續一・二九・一 ❹隋吉藏(太清三—武德六A.D.549-623)述

❺本書は前後六卷から成る維摩經の註釋である。維摩經の講義をなすこと數十回と稱せらるる嘉祥大師吉藏には維摩經論としての淨名玄論と維摩經遊意とがあり、註釋としては本書と維摩經略疏五卷とがある。五卷本の略疏に對して六卷本である本書は古來三論宗章疏や東域傳燈目錄等には維摩經廣疏として載せられてゐる。

本書は序論としての玄義と維摩經十四品の文句の逐次的解釋とから成つてゐる。即ち(卷一)玄義、佛國品第一。(卷二)佛國品末、方便品第二。(卷三)弟子品第三。(卷四)菩薩品第四、文殊師利問疾品第五、不思議品第六。(卷五)觀衆生品第七、佛道品第八、入不二法門品第九。(卷六)香積品第十、菩薩行品第十一、見阿閦佛品第十二。法供養品第十三、囑累品第十四、となり、この中最初の玄義は別出して維摩經遊意一卷とも稱せられる。故にこの内容等に關しては維摩經遊意參照のこと。この玄義は獨立しても維摩經概論と見做され得るが、本書の立場から見れば本書には序論としてのこの玄義を加へなければ註釋書として完全しない。故に玄義は元來本書の序としてのものである。佛國品以下本書の註釋の體裁は先づ各品の初めにその品名を釋し、その品に就ての概說をなし、以下一句二句づつの經文を逐次的に註解して居り、その註釋には時に羅什・僧肇・興皇等の說をも引用してゐる。尙ほ維摩經略疏參照。

❼平安朝末期寫(寶壽院)寫本(龍大、二四一七・一一二)、京大・藏・五ュ・五—六・一五)(水野弘元)

維摩經義疏 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-sho. ❷五卷 ❸存、大正五六・二〇No.2125、日本大藏經第七方等部章疏第五、大日本佛教全書第五、世界聖典全集第四 ❹聖德太子(敏達帝二—推古帝二九A.D.572—621)撰 ❺推古帝二一(A.D.613)正月八日始製「依扶桑略記」

❻太子御製疏三經疏の隨一。此疏が太子の親撰であることは、既に「法王帝說」にも見え、天平十九年の法隆寺資財帳にも明に三經疏の一々の名を出し、毫も疑ひの餘地なし。加之、現流本が大體に於いて、御製疏の原本と同一の内容を持てることも、近代の書史學的研究によつて確められるゝに到つた。即ち奈良朝に於いて、元興寺智光の撰述にかゝる淨名玄論略述に引用せられてある維摩經義疏の十六文を現流本に對照するに、多少の出沒はあるも、大同小異である。然れば現流本の此疏は他の二疏と共に太子の佛教思想を知る太子研究の根本資料である。此疏本經の各品を逐ひ忠實に經意を闡すことに努めたるもの。此疏撰述に際し重要の參考とせられたものに僧肇編纂の註維摩經があつた事は、疏中數〻肇法師云若くは肇法師解言といつて擧げたるものは、殆んど註維摩のそれと符合せるをもつて窺知し得る。尤も僧肇の說そのまゝ轉に採用されてあるも、多くは、これを咒意の解釋に非ずとして、太子自らの說を述べ、又は不須也と全くこれを批判排破し、別に私撰者云として著者獨自の見解を以て本經の註解を施してある。此書一部始終、太子獨特の識見を述べたもので、法華義疏の卷頭題號の下に案ずるに、非ゝ海發本、の語義を歟かずの感を深うする。僧肇の外引用されたるもの(考) 仁壽錄第四

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. 漢藏對照 国譯維摩經 ❷一卷 ❸存 ❹河口慧海著 ❺昭和三刊

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. 三本合訂現代意譯維摩經 ❷一冊 ❸存 ❹手島文倉編 ❺大正一一刊 ❻(京大、一・二三ュ・五/(龍大、二四一七・一〇六)×駒大) ❼東京三松堂

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. 口語全譯維摩經 ❷一卷 ❸存 ❹山本泰一譯 ❺大正一四刊 ❻(龍大、二四一七・一〇五)

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. 現代意譯維摩經 ❸存、現代意譯佛教經典叢書第七 ❹岩野眞雄譯

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. ❷一冊 ❸存、佛教通俗講義之内 ❹烏地默雷(天保九—明治四四A.D.1838—1911)述 ❺明治三五刊 ❻東京光融館

維摩經 ❶(B)Yui-ma-kyō. 和譯維摩經 ❷一冊 ❸存 ❹岡田龍雲譯註 ❺大正二刊 ❻東京玄黃社

維摩經嘉祥疏 ❶(B)Yui-ma-kyō-ka-jō-sho. (支)Wei-mo-ching-chia-hsiang-su. 維摩經略疏、維摩詰所說經疏、淨名經略疏、不可思議解脫經疏 ❷五卷 ❸存、卍續一・二九・二 ❹姚秦鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344-413 一說義熙年中寂)譯、隋吉藏(太清三—武德六A.D.549-623)撰 ❺維摩經略疏の下を見よ。 ❻明治三八刊寫 ❼(高大、寄・一・二三)

維摩經嘉祥疏會本 ❶(B)Yui-ma

kyō-ka-jō-sho-chū-hsiang-su-hui-yen. ❷五卷 ❸存 ❹元祿一一刊 ❺(高大、寄・一・二三)

維摩經記 ❶(B) Yui-ma-kyō-ki. (支)Wei-mo-ching-chi. 維摩經疏記、維摩疏記、維摩經廣疏記 ❷二卷或三卷 ❸存、卍續一・二八・四—五 ❹唐湛然(景雲二—建中三A.D.711—782)述 ❺維摩經疏記の下を見よ。 ❻元祿一五刊 ❼(京大、藏・五ュ・二二)

維摩經記 ❶(B) Yui-ma-kyō-ki. (支) Wei-mo-ching-chi. 淨名經記 ❷二卷或一卷 ❸晉證大師請來目錄に云く「牛頭」。牛頭とは江東牛頭山惠風のことか。 ❼(參考) 惠運禪師將來教法目錄

維摩經記 ❶(B)Yui-ma-kyō-ki. ❷二卷 ❸存 ❹大安 ❺寫本(龍大、二四一七・一〇七)

維摩經義記 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-ki. (支)Wei-mo-ching-i-chi. 維摩義記、維摩詰所說經注、注維摩經、維摩經疏 ❷八卷 ❸存、大正三八・四二一No.1776、卍續一・二七・四 ❹隋慧遠(普通四—開皇一二A.D.523—592)述 ❺維摩義記の下を見よ。 ❻(參考)新編諸宗教藏總錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄1561 ❼正德三刊 ❽(谷大、餘大・一六三五(龍大、二四一七・一〇八、研傳(高大、寄・一・二三×哲、う・七・右・一三×病大)

維摩經義記 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-ki. (支)Wei-mo-ching-i-chi. 維摩義記、維摩詰所說經注、注維摩經、維摩經疏 ❷八卷 ❸存、大正三八・四二一No.1776、卍續一・二七・四 ❹隋慧遠(普通四—開皇一二A.D.523—592)述 ❺維摩義記の下を見よ。 ❻(參考)新編諸宗教藏總錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄1561 ❼正德三刊 ❽(谷大、餘大・一六三五(龍大、二四一七・一〇八、研傳(高大、寄・一・二三×哲、う・七・右・一三×病大)

維摩經義記卷第四 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-ki-kwan-dai-shi. (支) Wei-mo-ching-i-chi-chuan-ti-ssu. ❷一卷 ❸存、大正八五・三三九No.2769 ❹大英博物館所藏スタイン氏蒐集燉煌本にして卷首を闕く。後記に「維摩經義記卷第四、龍華二僧共校定也、更比宇一校也、大統五年四月十二日比丘惠龍寫記流通。保定二年歲次壬午於麗錦公齋玄檢樹下大聽僧疏講維摩經一過私記」とあつて、景明原年筆寫の維摩義記(大正八五No.2768)と倶に六朝の古逸疏として珍重すべきである。内容は經什譯維摩詰所說經の佛道品の一部より最後の囑累品迄の釋にて、義記よりは分科も釋も詳細である。然して釋中「又解」として異說を掲げてゐるが、明かに人師の名前を出さず、又經文等の引用もない。鳴沙餘韻解說第一部三一頁參照。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

維摩經義疏 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-sho. (支)Wei-mo-ching-i-su. 維摩經疏、淨名經廣疏、維摩廣疏 ❷六卷 ❸存、大正三八・九〇八No.1777、卍續一・二九・一 ❹隋吉藏(太清三—武德六A.D.549-623)述

❺本書は前後六卷から成る維摩經の註釋である。維摩經の講義をなすこと數十回と稱せらるる嘉祥大師吉藏には維摩經論としての淨名玄論と維摩經遊意とがあり、註釋としては本書と維摩經略疏五卷とがある。五卷本の略疏に對して六卷本である本書は古來三論宗章疏や東域傳燈目錄等には維摩經廣疏として載せられてゐる。

本書は序論としての玄義と維摩經十四品の文句の逐次的解釋とから成つてゐる。即ち(卷一)玄義、佛國品第一。(卷二)佛國品末、方便品第二。(卷三)弟子品第三。(卷四)菩薩品第四、文殊師利問疾品第五、不思議品第六。(卷五)觀衆生品第七、佛道品第八、入不二法門品第九。(卷六)香積品第十、菩薩行品第十一、見阿閦佛品第十二。法供養品第十三、囑累品第十四、となり、この中最初の玄義は別出して維摩經遊意一卷とも稱せられる。故にこの内容等に關しては維摩經遊意參照のこと。この玄義は獨立しても維摩經概論と見做され得るが、本書の立場から見れば本書には序論としてのこの玄義を加へなければ註釋書として完全しない。故に玄義は元來本書の序としてのものである。佛國品以下本書の註釋の體裁は先づ各品の初めにその品名を釋し、その品に就ての概說をなし、以下一句二句づつの經文を逐次的に註解して居り、その註釋には時に羅什・僧肇・興皇等の說をも引用してゐる。尙ほ維摩經略疏參照。

❼平安朝末期寫(寶壽院)寫本(龍大、二四一七・一一二)、京大・藏・五ュ・五—六・一五)(水野弘元)

維摩經義疏 ❶(B)Yui-ma-kyō-gi-sho. ❷五卷 ❸存、大正五六・二〇No.2125、日本大藏經第七方等部章疏第五、大日本佛教全書第五、世界聖典全集第四 ❹聖德太子(敏達帝二—推古帝二九A.D.572—621)撰 ❺推古帝二一(A.D.613)正月八日始製「依扶桑略記」

❻太子御製疏三經疏の隨一。此疏が太子の親撰であることは、既に「法王帝說」にも見え、天平十九年の法隆寺資財帳にも明に三經疏の一々の名を出し、毫も疑ひの餘地なし。加之、現流本が大體に於いて、御製疏の原本と同一の内容を持てることも、近代の書史學的研究によつて確められるゝに到つた。即ち奈良朝に於いて、元興寺智光の撰述にかゝる淨名玄論略述に引用せられてある維摩經義疏の十六文を現流本に對照するに、多少の出沒はあるも、大同小異である。然れば現流本の此疏は他の二疏と共に太子の佛教思想を知る太子研究の根本資料である。此疏本經の各品を逐ひ忠實に經意を闡すことに努めたるもの。此疏撰述に際し重要の參考とせられたものに僧肇編纂の註維摩經があつた事は、疏中數〻肇法師云若くは肇法師解言といつて擧げたるものは、殆んど註維摩のそれと符合せるをもつて窺知し得る。尤も僧肇の說そのまゝ轉に採用されてあるも、多くは、これを咒意の解釋に非ずとして、太子自らの說を述べ、又は不須也と全くこれを批判排破し、別に私撰者云として著者獨自の見解を以て本經の註解を施してある。此書一部始終、太子獨特の識見を述べたもので、法華義疏の卷頭題號の下に案ずるに、非ゝ海發本、の語義を歟かずの感を深うする。僧肇の外引用されたるもの

に中公解言、法空法師解釋と名を出すものと舊義、新義、有一云、難者曰、或云、又一解言等と、多くの人師の說を敍見する。これによつて、太子の該博なる佛教知識を抱かれてあつたを驚歎させられる。尤も慧遠等の外國僧が背後にあつて、註疏に關する多くの材料を指示提供したであらうことも想像するに難からざるものがある。

❼(注釋) 菴羅記四十卷(現存三十五卷)凝然註 ❶嘉元二寫(谷大、餘甲・六五)明曆三刊(龍大、研佛)安永七刊(龍大、二四一七・一二二)明治一三刊(谷大、餘大・二二七七)(高大、寄・一・二三)(京專)明治二五刊(龍大、二四一七・一一一) (稻葉圓成)

維摩經義疏會本 ❶(日)Yui-ma-kyō-gi-sho-e-hon. ❷三卷 ❸存 ❹明治三〇刊 ❺(谷大、餘大・一〇四九)(駒大)

維摩經義疏菴羅記 ❶(日)Yui-ma-kyō-gi-sho-an-ra-ki. 維摩經疏菴羅記 ❷四十卷(內十卷缺) ❸存、大日本佛教全書第五 ❹凝然(仁治元—元亨元A. D. 1240—1321)述 ❺維摩經疏菴羅記の下を見よ。 ❻寫本(龍大、研佛)(谷大、餘大・一六三三、餘大・二三六九)

維摩經關中集解 ❶(日)Yui-ma-kyō-kan-chū-shū-ge. (支)Wei-mo-ching-kuan-chung-chi-chieh. 淨名經集解關中疏 ❷四卷或二卷 ❸存、大正八五・四四〇No. 2777 ❹唐道液述 ❺淨名經集解關中疏の下を見よ。 ❻(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經關中疏記 ❶(日)Yui-ma-kyō-kan-chū-sho-ki. (支)Wei-mo-ching-kuan-chung-su-chi. 淨名經關中疏記、淨名經記 ❷五卷 ❸文榮述 ❹(參考) 常曉和尙請來目錄

維摩經關中疏科文 ❶(日)Yui-ma-kyō-kan-chū-sho-kwa-mon. (支)Wei-mo-ching-kuan-chung-su-ko-wen. 淨名經關中疏科文 ❷一卷 ❸唐道液述 ❹(參考) 常曉和尙請來目錄

維摩經關中疏集義鈔 ❶(日)Yui-ma-kyō-kwan-chū-sho-shū-gi-shō. (支)Wei-mo-ching-kuan-chung-su-chi-i-ch'ao ❷六卷 ❸合安述 ❹(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經解 ❶(日)Yui-ma-kyō-gi. 維摩經切脈 ❷十卷 ❸存 ❹無著道忠(永享二—延享元A. D. 1429—1744) ❺(參考) 禪籍目錄

維摩經玄義 ❶(日)Yui-ma-kyō-gen-gi. (支)Wei-mo-ching-hsüan-i. 維摩經玄疏、淨名玄義、淨名玄疏、維摩經略玄 ❷六卷 ❸存、大正三八・五一九No. 1777、卍續一・二七・五 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A. D. 584—597)述 ❺維摩經玄疏の下を見よ。 ❻(參考) 新編諸宗教藏總錄第一 ❼元文五刊 ❽(正大、一一七〇・二七)

維摩經玄旨 ❶(日)Yui-ma-kyō-gen-shi. (支)Wei-mo-ching-hsüan-chih. 淨名經玄旨 ❷一卷 ❸湛通(一作湛通或湛通)法師述 ❹(參考) 常曉和尙請來目錄

維摩經玄疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-gen-sho. (支)Wei-mo-ching-hsüan-su. 維摩經略玄、維摩經玄義、淨名玄疏、維摩經玄義、淨名玄疏 ❷六卷 ❸存、大正三八・五一九No. 1777、卍續一・二七・五 ❹隋智顗(大同—開皇一七A. D. 525—597)撰

❶羅什譯維摩經の玄旨を天台釋經の定規たる五重玄義を以て釋顯せる淨名經概論で、別項維摩經文疏と對をなし、彼の經文釋に對しては此は其の總題釋である。

本書は五重玄義に通(略)別(廣)二釋を開き、通釋に六義を以て一經の五章を略釋すること同人別著法華玄義と類る似てゐる。

通釋の初に一經五章の名を標じ、不思議の人法を能詮の名とし、不思議眞性解脫を所詮の體とし、佛國因果を經の宗旨とし、權實析伏攝受を經の力用とし、帶偏圓調を經の教相とすと定め、第二に五章の次第を定め、第三に五義の文證を引き、第四に五義總別の意を明し、第五に觀心に五章心具を觀ぜしめ、第六に四悉檀に對して居るが此の節頗る細密で先づ四悉を以て五章に對し、次に四悉の翻譯、同異、釋成等より、進むで、三觀、四教、一切の經論、此の經室外入室出室の教說皆此の四悉より起ることを說明して略釋竟る。(以上一卷)

次の別釋は通釋の初に標出せる五章の一々を個別に廣釋する。其の中維摩詰所說經なる名目を釋する第一釋名の章が最も詳しい。先づ經題を維摩詰所說の別名と經といふ通名とに分ち、更に別名を維摩詰と所說と分ちて釋してゐるが、維摩詰の三字を釋するに四段として說く。一に翻名釋義で羅什曾爺鼎等三種の翻名を掲げ、曾爺の淨名を眞應二身に、眞諦の淨無垢稱を法報應の三身に約して義を釋す。二に三觀解釋、此は前の三身の果に達する能成の因を說けるもので、此の一段を(一)分別境智、(二)釋三觀名、(三)辨三觀相、(四)對智眼、(五)成諸乘義、(六)約藕結、釋淨名義、(七)三觀通此經文、の七科として詳說してゐる。(以上二卷)(三)は四教分別で、天台の藏通別圓四教を用ゐて淨無垢稱の義を分別し、特に圓教に依て解釋してゐるが此れ亦、(一)釋四教名。(二)辨所說四。(三)約位分別淨名位。(以上三卷)(四)明權實。(五)對觀心。(六)通諸經論。(七)銷此經文、の七科として解說されてゐる。第四辨本迹義、此は淨名の本地と乘迹、內體と外用とを顯すのであるが、同じく、(一)釋名。(二)明本迹。(三)辨本迹高下。(四)約教分別本迹。(五)正明維摩本迹。(六)約觀心、明本迹。(七)銷此經文、の七節に說かれてゐる。(以上四卷)

以上で維摩詰の三字釋終り次に所說の二字釋に入るべきだが、如何なる理由か現行の本では經即ち修多羅の通名が先に釋されてゐる。此の釋(一)に無翻の五義を、(二)に有翻の五義を列れ、(三)有翻無翻を通和し、(四)六種經體を說き法に歷て解釋し、(五)觀心に約して釋する等他經の釋と大同である。

次に別名の所說二字であるが、此の經に於ける淨名所說の法は不思議解脫(實相の理)であるとし、不思議解脫に就て一名を釋し、(二)二相を開き、(三)別して義を明し、(四)無過三法を明し、(五)四教に約して思議不思議を簡び、(六)觀心に約して此れを說き、七人法を用ひて經を過ずの七科に依て細說せられる。(以上五卷)

以上釋名終つて第二に所體の章、此は一經の實體は不思議眞性解脫一實相印なることを顯はすのであるが、此を說くに(一)正辨體。(二)簡ゝ偽顯ゝ眞。(三)入ゝ實相門。(四)一法異名。(五)寫ゝ衆經體。(六)約ゝ觀心。(七)過ゝ釋此經。の七科とし。第三明宗の章は一經の宗要は佛國の因果にあるを說くに(一)分ゝ別宗體不同。(二)正明ゝ因果。辨ゝ宗義。(三)明ゝ因果。成ゝ佛國義。(四)約ゝ觀心。(五)通ゝ此經文、の五科とし、第四論用の章は經の力用功能は不思議權實二智の析伏攝受にあることを明すに(一)簡ゝ權實用。(二)明ゝ諸經權實不同。(三)釋ゝ權實義。(四)析伏攝受。(五)觀心の五科とし。第五判教相の章は(一)明ゝ教相大意。(二)出ゝ諸師判教不同。(三)辨詳去取。(四)正判ゝ經教相、の四科として前三偏權を帶びたる圓教を教相とする旨を說いてゐる。(以上六卷)

本書は著者天台が晩年兩夏に涉り階の煬帝の懇請に應じ、別項維摩經文疏と共に自ら腹案を立て門人に筆記せしめたものと傳へられてゐる。天台には前に十卷の淨名玄義がありて已に煬帝に送つてあつたが、本書を煬帝に送るに當りて前本は宜しく廢棄すべしと(國清百錄三ノ八、三ノ十二)言ふてゐる程自信を持つた製作である。六朝講然は現行天台の諸著、四教義六卷、三觀玄義二卷は前著十卷の玄義を四教三觀四悉檀の三部に分離した中の二部だと言ふてゐるが(法華文句記一ノ四三)本書に於ても其の三部門を說くこと深細である。天台の淨名經觀を知るに必要なるのみならず、天台の教相門研究の上に可なり貴重の地位を持つものである。

❼(參考) 諸宗章疏錄第一、傳教大師請來台州錄 ❽正保五刊(京大、藏・五ュ・八)(正大、一一七〇・二六)(龍大、二四一七・一一三)貞享三刊(龍大、二四一七・二四)(立大、A一一一、二五五)(京大、藏・五ュ・七)文化五刊(高大、寄・一・二三) (中里貞隆)

維摩經玄疏纂錄 ❶(日)Yui-ma-kyō-gen-sho-san-roku. 維摩詰經玄疏纂錄 ❷六卷 ❸存 ❹守篤本純(—明和六A. D. 1769) ❺刊本(谷大、餘大・二二七六)(晉、う・六・左・八)

維摩經玄略鈔 ❶(日)Yui-ma-kyō-gen-ryaku-shō. 維摩玄略鈔 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第七方等部章疏第五 ❹證眞(—文治頃A. D. 1225—1235)述 ❺天台大師智顗の維摩經玄疏を註記せるもの。

即ち玄疏中の重要なる文義乃至討究すべき點ある文等を抄記して註記を加ふ。主として道邊の玄疏記の釋文を引き或は是に對して自らの見解を示す。本書には識語無しと雖も維摩經疏私記と寔を同じうするものにして恐らくは同時(安元三年)の作か。 ❹延寶七刊 ❺(正大、一一七〇・二七〇)(龍大、二九・一 ❻隋吉藏(大業三—武德六A. D. 607—623)述 ❼維摩經義疏の下を見よ。

維摩經廣疏記 ❶(日)Yui-ma-kyō-ko-sho-ki. (支)Wei-mo-ching-kuang-su-chi. 維摩經疏記 ❷六卷或三卷 ❸存、卍續一・二八・四—五 ❹湛然(景雲二—天中三A. D. 711—782)述 ❺維摩經疏記の下を見よ。 ❻(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經講義 ❶(日)Yui-ma-kyō-ko-gi. ❷一卷 ❸存 ❹藏界 ❺寫本(谷大、餘大・二四七五)

維摩經講義 ❶(日)Yui-ma-kyō-ko-gi. ❷一卷 ❸存 ❹烏地默雷(大保九—明治四四A. D. 1838—1911) ❺明治三〇刊(谷大、餘洋・一一六)(駒大)大正一二刊(龍大、二四一七・一一七) ❻東京光融館

維摩經講義 ❶(日)Yui-ma-kyō-ko-gi. ❷一卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)述 ❺(參考) 禪籍目錄

維摩經講墓 ❶(日)Yui-ma-kyō-ko-mu. ❷一冊 ❸存 ❹木津無庵編 ❺大正一四刊 ❻名古屋佛陀會

維摩經講說 ❶(日)Yui-ma-kyō-ko-setsu. 和譯維摩經講說 ❷一卷 ❸存 ❹曾山賜珠 ❺大正一二刊 ❻京都龍谷大學出版部

維摩經講話 ❶(日)Yui-ma-kyō-ko-wa. ❷二冊 ❸存 ❹加藤唱堂著 ❺明治四五及大正一三刊 ❻東京森江書店

維摩經三觀玄義 ❶(日)Yui-ma-

kyō-kan-chū-shō-ri. (支)Wei-mo-ching-kuan-chung-su-chi. 淨名經關中疏記、淨名經記 ❷五卷 ❸文榮述 ❹(參考) 常曉和尙請來目錄

維摩經關中疏科文 ❶(日)Yui-ma-kyō-kwan-chū-sho-kwa-mon. (支)Wei-mo-ching-kuan-chung-su-ko-wen. 淨名經關中疏科文 ❷一卷 ❸唐道液述 ❹(參考) 常曉和尙請來目錄

維摩經關中疏集義鈔 ❶(日)Yui-ma-kyō-kwan-chū-sho-shū-gi-shō. (支)Wei-mo-ching-kuan-chung-su-chi-i-ch'ao ❷六卷 ❸合安述 ❹(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經解 ❶(日)Yui-ma-kyō-gi. 維摩經切脈 ❷十卷 ❸存 ❹無著道忠(永享二—延享元A. D. 1429—1744) ❺(參考) 禪籍目錄

維摩經玄義 ❶(日)Yui-ma-kyō-gen-gi. (支)Wei-mo-ching-hsüan-i. 維摩經玄疏、淨名玄義、淨名玄疏、維摩經略玄 ❷六卷 ❸存、大正三八・五一九No. 1777、卍續一・二七・五 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A. D. 584—597)述 ❺維摩經玄疏の下を見よ。 ❻(參考) 新編諸宗教藏總錄第一 ❼元文五刊 ❽(正大、一一七〇・二七)

維摩經玄旨 ❶(日)Yui-ma-kyō-gen-shi. (支)Wei-mo-ching-hsüan-chih. 淨名經玄旨 ❷一卷 ❸湛通(一作湛通或湛通)法師述 ❹(參考) 常曉和尙請來目錄

維摩經玄疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-gen-sho. (支)Wei-mo-ching-hsüan-su. 維摩經略玄、維摩經玄義、淨名玄疏、維摩經玄義、淨名玄疏 ❷七卷或六卷 ❸存、大正三八・五一九No. 1777、卍續一・二七・五 ❹隋智顗(大同—開皇一七A. D. 584—597)述

❶羅什譯維摩經の玄旨を天台釋經の定規たる五重玄義を以て釋顯せる淨名經概論で、別項維摩經文疏と對をなし、彼の經文釋に對しては此は其の總題釋である。

本書は五重玄義に通(略)別(廣)二釋を開き、通釋に六義を以て一經の五章を略釋すること同人別著法華玄義と類る似てゐる。

通釋の初に一經五章の名を標じ、不思議の人法を能詮の名とし、不思議眞性解脫を所詮の體とし、佛國因果を經の宗旨とし、權實析伏攝受を經の力用とし、帶偏圓調を經の教相とすと定め、第二に五章の次第を定め、第三に五義の文證を引き、第四に五義總別の意を明し、第五に觀心に五章心具を觀ぜしめ、第六に四悉檀に對して居るが此の節頗る細密で先づ四悉を以て五章に對し、次に四悉の翻譯、同異、釋成等より、進むで、三觀、四教、一切の經論、此の經室外入室出室の教說皆此の四悉より起ることを說明して略釋竟る。(以上一卷)

次の別釋は通釋の初に標出せる五章の一々を個別に廣釋する。其の中維摩詰所說經なる名目を釋する第一釋名の章が最も詳しい。先づ經題を維摩詰所說の別名と經といふ通名とに分ち、更に別名を維摩詰と所說と分ちて釋してゐるが、維摩詰の三字を釋するに四段として說く。一に翻名釋義で羅什曾爺鼎等三種の翻名を掲げ、曾爺の淨名を眞應二身に、眞諦の淨無垢稱を法報應の三身に約して義を釋す。二に三觀解釋、此は前の三身の果に達する能成の因を說けるもので、此の一段を(一)分別境智、(二)釋三觀名、(三)辨三觀相、(四)對智眼、(五)成諸乘義、(六)約藕結、釋淨名義、(七)三觀通此經文、の七科として詳說してゐる。(以上二卷)(三)は四教分別で、天台の藏通別圓四教を用ゐて淨無垢稱の義を分別し、特に圓教に依て解釋してゐるが此れ亦、(一)釋四教名。(二)辨所說四。(三)約位分別淨名位。(以上三卷)(四)明權實。(五)對觀心。(六)通諸經論。(七)銷此經文、の七科として解說されてゐる。第四辨本迹義、此は淨名の本地と乘迹、內體と外用とを顯すのであるが、同じく、(一)釋名。(二)明本迹。(三)辨本迹高下。(四)約教分別本迹。(五)正明維摩本迹。(六)約觀心、明本迹。(七)銷此經文、の七節に說かれてゐる。(以上四卷)

以上で維摩詰の三字釋終り次に所說の二字釋に入るべきだが、如何なる理由か現行の本では經即ち修多羅の通名が先に釋されてゐる。此の釋(一)に無翻の五義を、(二)に有翻の五義を列れ、(三)有翻無翻を通和し、(四)六種經體を說き法に歷て解釋し、(五)觀心に約して釋する等他經の釋と大同である。

次に別名の所說二字であるが、此の經に於ける淨名所說の法は不思議解脫(實相の理)であるとし、不思議解脫に就て一名を釋

kyō-sanzu-hwan-gyō-ki. (支)Wei-mo-ching-i-sanzu-hwan-hwei-ki. 淨名經三觀玄義、維摩詰經三觀玄義 ❷二卷 ❸存 ❹隋智顗、大同四—開皇一七(A.D. 582—587)

❺別項同人著維摩經玄疏の別釋五章中、第一釋名の章の維摩詰なる別名を四段として釋する中の第二「三觀所釋」と今同である。湛然の法華文句記(曾本一ノ四三)に、淨名の前の玄懸て十卷あり、普王(煬帝)の爲に淨名疏を著はし、別して略玄を製するに因て、乃ち前の玄を離して分けて三部となし、別に題目を立つ、四教六卷、四悉兩卷、三觀兩卷を謂ふとあるが恐らく今の二卷の三觀玄義であらう。著者には前に十卷の維摩經玄義があり、一部分の文疏もあつて俱に煬帝に送つてあつたが、晩年に至つて更に煬帝の懇請に依つて維摩の釋を作り、新に玄疏六卷(即ち略玄)を製し、文疏二十五卷(二十八卷中最後の三卷は灌頂の補遂)と共に煬帝に送つた。其送本等に付した著者の手簡(煬帝に對する天台の謙詞)(國清百錄三ノ八)に、前に送る所の玄義及び入文の者を簡むで弟子に付して之を焚け」とあるから、前著は淨名玄義として何等か意に滿たぬ所があつたと思はれる。勿論湛然の說の如く十卷の玄義が、四教、三觀、四悉攝の五章で盡きてゐたものとすれば、現存六卷の玄疏と比較して可なり不備なる點がある。五重玄義中惟に釋名の章の一部分で、他の四章は全然闕けてゐるからである。かくて舊玄義は淨名玄としては不備であるが、その論述には何等の誤謬缺點があるのでなく、天台所立の四教の要旨や、三觀の義旨を知る上に他に見られざる特長を有して居る。爲に滅後の門人等が此を熟業するに堪えないで、三部に分離し、夫々別號を付して後世に傳へたものであらふと思ふ。

本書は何人に依て分離せられたか、湛然時代には三部共存した如きであるが、趙宋遂式時代には惟に四教義のみ存して他の二部は別行しないと云ふてゐる。日本の傳來は慈覺大師圓仁で、傳教大師將來錄には名目ありと雖も未だ得ずとしてある。

❼(注釋) 三觀玄義鈔二卷本純 ❽天明九刊 ❾(谷大、餘大・八六三×駒大)(中里貞隆)

維摩經三觀玄義鈔錄 ❶(日)Yui-ma-kyō-san-kwan-gen-gi-shō-roku. 維摩詰經三觀玄義鈔錄 ❷二卷 ❸存 ❹本純(—明和六A.D.1769) ❺天明二刊 ❻(谷大、餘大・七〇八×龍大、二四一・七・一二一)

維摩經參考 ❶(日)Yui-ma-kyō-sanko. ❷十卷 ❸存 ❹寫本(京大、一・二三ム・三)

維摩經資聖疏法相圖 ❶(日)Yui-ma-kyō-shi-shō-hō-sō-zu. (支)Wei-mo-ching-tzu-shêng-su-fa-hsiang-t'u. ❷一卷 ❸道興(或作道由) ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經事略 ❶(日)Yui-ma-kyō-jiryaku. ❷六卷 ❸存 ❹本吟龍潤 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

維摩經釋題文 ❶(日)Yui-ma-kyō-shaku-dai-mon. ❷一卷 ❹僧藤和尚(天應元—天長一〇A.D.787—833) ❼(參考) 常曉和尚請來目錄

維摩經釋批 ❶(日) Yui-ma-kyō-shaku-hi. (支)Wei-mo-ching-shih-p'i. 淨名經關中釋抄、淨名經關中疏釋批 ❷三卷或二卷 ❸存、大正八五・五〇一No.2778 ❹唐道液(—上元元A.D.760—)述 ❺淨名經關中釋抄の下を見よ。 ❼(參考) 常曉和尚請來目錄

維摩經宗要 ❶(日)Yui-ma-kyō-shū-yō. (支)Wei-mo-ching-tsung-yao. 淨名經宗要、維摩宗要 ❷一卷 ❸新羅元曉(貞平王三九A.D.617—)述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. ❷一卷 ❸存、大正八五・三六四No.2771 ❺什譯の維摩經の註釋である。問疾品の初部からその品の中邊までは殘存してゐるが、品の中邊以後から不思議品の初にかけて脫落して終つてゐる。隱所に疏に廣說するが如しとあるが、吉藏の疏を指してゐるやうである。編論も援用せられてはゐるが、釋の立脚點は三論系の思想であることは一見して看取せられるものである。(和田徹城)

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. ❷一卷 ❸存、大正八五・四三三No.2774 ❺什譯維摩經の註釋。方便品の始辯才無礙より獲益衆生に至る維摩の日常生活を述べたあたりの部分のみの殘卷である。釋の風格はたゞ報切に宗派學派の色彩を帶びず、語句を追うて說明してある。本篇は出土の地は正確には不明ではあるが、書體が非常に特異で、所謂草草と呼ばれる體のものである。中村氏は後觀のものであると斷定して居られるが、書中に見るも使用の語句が可なり古いやうであり、學派的色彩の無かつた點からしても、所藏者の推定は正確であると思はれる。してみると現在維摩註としては、註維摩に次ぐ古いものかも知れない。

❹燉煌本(中村不折) (和田徹城)

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. 維摩經義記、維摩詰所說經注、維摩義記、注維摩經 ❷四卷 ❸存、卍續一・二七・四 ❹隋慧遠(普通四—開皇一二A.D.591—592)述 ❺維摩經義記の下を見よ。 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1562

維摩經疏 ❶(日) Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. 維摩經文疏、維摩經廣疏、維摩詰經廣疏、維摩經疏、維摩經詰經文疏 ❷二十八卷 ❸存、卍續一・二七・五—二八・二 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A.D.583—587)述、後三卷灌頂(天嘉二—貞觀六A.D.561—632)補 ❺維摩經文疏の下を見よ。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經疏 ❶(日) Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. 維摩經略疏 ❷十卷 ❸存、卍續一・二八・三—四 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A.D.583—587)述、當

然(景雲二—延中三A.D.711—723)述略 ❺維摩經略疏の下を見よ。 ❽享保一三刊 ❾(正大、一一七〇・二八・三二)

維摩經疏 ❶(日) Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. 維摩經義疏、維摩經廣疏、淨名經廣疏 ❷十二卷或六卷 ❸存、大正三八・九〇八No.1781、卍續一・二九・一 ❹隋吉藏(太清三—武德六A.D.549—623) ❻維摩經義疏の下を見よ。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. 維摩經略疏、維摩詰所說經疏、不可思議解脫經疏、淨名經略疏 ❷五卷 ❸存、卍續一・二九・二 ❹隋吉藏(太清三—武德六A.D.549—623)述 ❺維摩經略疏の下を見よ。 ❾元祿一一刊(駒大)寫本(谷大、餘大・八二五)

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. 維摩經義疏、維摩詰經義疏、維摩玄宮疏 ❷五卷 ❸存、大正五六・二〇No.2126、日本大藏經第七方等部章疏第五、大日本佛教全書第五、世界聖典全集前編第四 ❹聖德太子(敏達帝二—推古帝二九A.D.572—621) ❻維摩經義疏の下を見よ。 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1572

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. 說無垢稱經疏、說無垢稱經讚、說無垢稱經贊疏、無垢稱經贊 ❷六卷或十二卷 ❸存、大正三八・九九三No.1728、卍續一・二九・三 ❹窺基(貞觀六—永淳元A.D.632—682)述 ❻唐成亨三—五(A.D.672—674) ❻說無垢稱經疏の下を見よ。 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1573

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. ❷二卷 ❹林法師 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1571

維摩經疏 ❶(日) Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. ❷四卷 ❼(參考) 常曉和尚請來目錄

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. ❷三卷 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄1573

維摩經疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho. (支)Wei-mo-ching-su. ❷五卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1572

維摩經疏 ❶(日) Yui-ma-kyō-sho. 淨名經翻補、維摩經翻補 ❷一卷 ❹神英 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷上、奈良朝現在一切經疏目錄1572

維摩經疏菴羅記 ❶(日) Yui-ma-kyō-sho-an-ra-ki. 維摩經義疏菴羅記 ❷四十卷(內十卷紙) ❸存、大日本佛教全書第五 ❹凝然(仁治元—元亨元A.D.1240—1321)述

❺本書は佛說維摩詰所說經三卷羅什三藏譯を我國に於て聖德太子が註疏を製して維摩經義疏三卷を製し給へるを、更に鎌倉時代に至り聖德太子の御精神を以て佛教の復興を企てらるゝに至り、太子信仰の勃興に作ひ、又義疏を更に詳釋し四十卷とせるものにして、太子信仰勃興と太子教學の研究は、國民精神の指導原理を究むるものとして盛に考究されたのである。內容は第一卷初に維摩諸經所說の緣由を說き、次に請先世說經を揭げ、翻譯の次第を諸經錄の記載より新舊兩譯を明にし、更に羅什三藏譯維摩詰經の翻譯を說き、最後に日本國聖德太子註疏を明し、太子の御偉德を讚し、次に入文判釋し、第一卷より第十卷に至る義疏上卷の佛國品を解し、第十一・十二卷に義疏下卷の方便品を釋し、第十三卷より二十一卷に至る義疏中卷弟子品を釋し、第二十二卷より第二十五卷に至る義疏中卷菩薩品を釋し、第二十六卷より第三十卷に至る義疏下卷の文殊問疾品を釋し、第三十一卷より第四十卷に至る十卷は散佚して傳らず遺憾となす。(橋本凝胤)

維摩經疏會本 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-e-hon. (支) Wei-mo-ching-su-hui-pen. 維摩詰經略疏會本 ❷十卷 ❸存 ❹智顗疏の會本 ❺享保一三刊 ❾(龍大、二四一七・一二五×正大、一一七〇・三一)(高大、寄・一・二三×哲、う・七・中・一九、う・六・右・一)×谷大、餘大・一六三二×叡山、淨土)

維摩經疏會本 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-e-hon. (支) Wei-mo-ching-su-hui-pen. 維摩經略疏會本 ❷五卷 ❸存 ❹吉藏疏の會本 ❺元祿一一刊 ❾(谷大、餘大・一六三一×龍大、研佛)

維摩經疏記 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-ki. (支)Wei-mo-ching-su-chi 維摩經疏記、維摩經廣疏記、維摩疏記、維摩疏記 ❷三卷或六卷 ❸存、卍續一・二八・四—五 ❹唐湛然(登雲二—建中三A.D.711—782)述 ❺天台の維摩經文疏二十八卷の註釋であ

る。一部三卷、上卷は疏の九卷迦を、中卷は同十六卷迦、下卷は闡餘の十二卷を釋してゐる。同人の別著法華三大部の釋の如く、廣疏の文を迦ふて順次難解不明の文義を註解し、風意文旨を明徹せしめん爲の述作であるが、天台の教觀二門の要義を資賦する所鮮くない。三大部の註の頗る廣汎深細なるに比して本書の釋の極めて略少なる所以は、章安所錄の三大部は原典其物が攝略されてゐるから廣釋を必要とし、天台私案の淨名廣疏は文義廣く備つてゐるから略釋で足りるといふ亮潤の說も一理であると思ふ。

本書製作の時代は不明だが、日本には早く最澄に依て同人別著淨名略疏と共に將來せられた。支那に於ては既に唐末に散逸し終つたが、日本に於ても其の後叡山に傳を失ひ、元祿の頃橫川の慈現その全卷を興福寺の古藏より搜出し、元文年中此を板行してから世に行はるゝに至つた。天台の淨名疏の註として權威あるものである。

❼(注釋) 維摩經疏記鈔(卍續一・九二・一)二卷道邃 〔參考〕 傳教大師將來台州錄 ❾元祿一五刊(叡山、壽量) 元文四刊(正大、一一七〇・一四、三三×龍大、二四一七・一二三×哲、う・七・右・三二×立大、A一一・二五七×京大、藏・五ュ・九×駒大)

(中里貞隆)

維摩經疏記指事錄 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-ki-shi-ji-roku. ❷二卷 ❸存 ❹守篤本純(一明和六、A. D. 1769) ❾寫本正大、一一七〇・三四)

維摩經疏記鈔 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-ki-shō. (支) Wei-mo-ching-su-chi-chao. ❷卷四、五不完本 ❸存、卍續一・九二・一 ❹唐道邃 ❺唐の湛然の維摩經略疏及び同人の維摩疏記を釋せる註釋書の殘闕本である。本書の所釋に就て寶地坊證眞は淨名略疏なりとなし、卍續編纂者は維摩疏記であると云ふてゐるが何れも全體を得てゐない。本書中「記云」と標じたる部分は全く疏記の文であるが、其下に揭げられたる幾多所釋の章句文言は多くは略疏の夫れである。恐く著者は疏記の難文を拾ふて此が解釋を施すと共に、夫れに圓證を保つ略疏中の文義を釋出闡明して著者湛然の主張を明了ならしめむと企圖したものであらう。現行二卷の本書は疏記中卷の初の三分の一を除ける部分と下卷初の約三分の一程、略疏四卷の約中程より同六卷の殆ど終り迄を釋したもので、內題の「維摩經疏第四」や、「中卷」の如きも本書の內題で、略傳の卷數や疏記の卷數を揭げたものではなからう。隨つて本書は眞の玄目錄に、維摩疏私記、三、道邃述」とある中の中卷丈が殘つたものであらうと思ふ。記述の內容は前記兩書に出る難解不明の語句に簡短なる釋を加へたもので別に新らしい意見もない。傳統的な調詰的註釋である。

著者道邃は紀傳不明で確實ではないが、同溪湛然の門下といふ說が多分眞實であらう。而して本書の記述樣式が同人の著と稱せらるゝ法華文句補正記や、涅槃疏私記と同一類型なるより見て、道邃の親作と思はれる。同溪門下には學者輩出して可なり型破りの學者もあるが、道邃は明曦行滿等と同型で至極眞面目な師說繼承者である。從令新鮮味が缺けてゐても唐朝天台の維摩研究に寄與する所あつたであらうが、惜に殘缺として遺つたことは惜むべきである。

(中里貞隆)

維摩經疏科 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-kwa. (支)Wei-mo-ching-su-ke. ❷一卷 ❸存、卍續一・九二・一 ❹著者年次共に未詳、題に維摩經疏科とあれども寧ろ疏の科文でなくて經そのものゝ科目表である。一々の科目の下に經の文を指示した懇切な書である。所宗の特徵は見られないやうである。

❾寫本(京大、藏・五ュ・一四) (和田徹城)

維摩經疏卷第三、第六 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-kwan-dai-san, dai-roku. (支)Wei-mo-ching-su-chuan-di-san, di-liu. ❷二卷 ❸存、大正八五・三七五No. 1772 ❹什譯の維摩經の註釋。第三卷は弟子品一品の釋に費し、第六卷は弟子品以下囑累品に終つてゐる。廣く經論を援用し、彙れて慧遠の義記並に僧肇の注維摩を引用した所があるが、注維摩の引用中特に僧肇の釋のみを採つて羅什の釋が殆んど引用せられてゐないで、肇云とあるあたりには併せて莊云の引用もある樣である。本書の特徵としては別に掲げるべきものは無いが、大體無爲眞如等に就ては唯識說の說を採用してゐて、釋の道程にも時に玄奘譯が參照せられてゐる。大體平明と公正とを主とした注釋と云つていゝと思はれる。

❾慶燈本(佛蘭西國民圖書館) (和田徹城)

維摩經疏私記 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-shi-ki. (支) Wei-mo-ching-su-shi-chi. 維摩疏私記 ❷三卷 ❸存、日本大藏經第七方等部章疏第五 ❹證眞述 ❺安元三(A. D. 1177) ❻天台大師智顗の維摩經疏を註記せるもの。即ち天台大師には維摩經文疏二十八卷の撰あり、同經玄疏六卷と共に最も晚年の撰述に係り數相研究上極めて重要の書たり。但し大師の遷化により終を畢さず最後の三卷は章安大師の補綴に係ると傳へる。後六祖荊溪大師これを割略して十卷となす。是れ淨名疏に廣疏及び略疏ある所以にして後世多く十卷の略疏を用ふることゝなつたが、而も六祖の疏記は廣疏を用ひ、道邃等の記鈔等は略疏に從ふ。故に學者は是を對見せざるを得ざるの煩あり。仍つて本書は略疏中の須要なる文乃至更に討究の要ある文章を抄出し、或は廣疏の文を是に對し、或は其の下に六祖道邃等の釋文を列記し、或は其の間に於て獨自の見解を示し、或は諸大部の文を引いて決する等、專ら其の精細なる學風を以て後學を益せんと企てたるものゝ如く、安元三年奉筆記せるもの

たり。但し現存の二卷は經の弟子品の阿那律の問疾即ち略疏第五卷の半に至つて終てゐる。因みに文中「小卷第〇〇」とあるは略疏に對する廣疏の卷數を示せるものである。

❾刊本(龍大、二四一七・一二六—一二八) 久安六寫(寶壽院) (圓口慈光)

維摩經疏垂裕記 ❶(日) Yui-ma-kyō-sho-sui-yō-ki. (支) Wei-mo-ching-su-chui-yu-chi. 維摩經疏垂裕記、維摩經乘裕記 ❷十卷 ❸存、大正三八・七一一No. 1779、卍續一・二九・四—五 ❹宋智圓(太平興國元—乾興元 A. D. 976—1023)述 ❺維摩經略疏乘裕記の下を見よ。 ❻延寶三刊 ❾(立大、A一一・二六九)

維摩經疏垂裕記指點 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-sui-yō-ki-shi-ten. ❷二卷 ❸存 ❹守篤本純(一明和六、A. D. 1769)記 ❾寫本(蓮花院)

維摩經疏鈔錄 ❶(日)Yui-ma-kyō-sho-shō-roku. 維摩詰經疏鈔錄、維摩經略疏鈔錄 ❷十卷 ❸存 ❹守篤本純(一明和六、A. D. 1769) ❺天明八刊 ❾(龍大、二四一七・一二九)

維摩經抄 ❶(日)Yui-ma-kyō-shō. (支)Wei-mo-ching-ch'ao. ❷一卷 ❸存、大正八五・四二三No. 2773 ❺佛蘭西國圖書館所藏のペリオ氏蒐集燉煌本にして首題を缺く。內容は羅什譯維摩詰所說經の佛國品第一より見阿閦佛品第十二迄の抄釋で、最初に佛數を大小二乘に分ち、大乘を法相宗、破相宗、法性宗の三とし、維摩經は正に第三法性宗の所攝であるとしてゐる。然して人師の說として羅什、僧肇、道生を擧げてゐるが、更に、古德安法師、古德諸法師の名が見へる。安法師といふは、義天錄に「關中疏集義鈔六卷、今安述」とある今安の樣に思はれるが諸法師は不明である。

❾燉煌本(佛蘭西國民圖書館 P. 1576) (辻森要修)

維摩經垂裕記 ❶(日) Yui-ma-kyō-sui-yō-ki. (支) Wei-mo-ching-chui-yu-chi. 維摩經略疏乘裕記、維摩經疏乘裕記 ❷十卷科六卷 ❸存、大正三八・七一一No. 1779、卍續一・二九・四—五 ❹宋智圓(太平興國元—乾興元 A. D. 976—1023)述 ❺維摩經略疏乘裕記の下を見よ。 ❻延寶三刊 ❾(立大、A一一・二六九)

維摩經隨疏義記 ❶(日) Yui-ma-kyō-zui-sho-gi-ki. ❷五卷 ❸智測(一文化三 A. D. 1806)述 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

維摩經隨崇福疏授微鈔 ❶(日) Yui-ma-kyō-zui-kō-fuku-sho-ki-shō. (支) Wei-mo-ching-sui-ch'ung-fu-su-shou-wei-ch'ao. ❷十卷科二卷 ❹慧沙述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經切脈 ❶(日)Yui-ma-kyō-setsu-myaku. 維摩經解 ❷十卷 ❸存 ❹道忠無著(承應二—延享元 A. D. 1653—1744) ❼(參考) 譯籍目錄

維摩經大意 ❶(日) Yui-ma-kyō-dai-i. ❷一卷 ❸存 ❹原口針水(文化五—明治二六 A. D. 1808—1893) ❾寫本(龍大、二四一七・一三〇)

維摩經斷筋 ❶(日)Yui-ma-kyō-dan-kin. ❷一册 ❸存 ❾寫本(高大、寄・一・二三)

維摩經注 ❶(日)Yui ma-kyō-chū. (支)Wei-mo-ching-chu. ❷五卷 ❹禮氏述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經注 ❶(日)Yui-ma-kyō-chū. (支)Wei-mo-ching-chu. 注維摩詰經、維摩經註、注維摩、注維摩經、淨名集解 ❷十卷 ❸存、大正三八・三二七No. 1775、續藏二、卍續一・二七・三、明北169號、淸1461書、至1577經、No. 1692 ❹僧肇僧肇(—義熙一〇 A. D. 414)註 ❺注維摩詰經の下を見よ。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

維摩經註義心錄 ❶(日) Yui-ma-kyō-chū-gi-shin-roku ❷二卷 ❸存 ❹寶晨興隆(元祿四—明和六 A. D. 1691—1769) ❼(參考) 譯籍目錄

維摩經註釋 ❶(日)Yui-ma-kyō-chū-shaku. 淨名經註釋 ❷十二卷 ❹勢範律師述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一、東城傳燈目錄卷上

維摩經饒舌 ❶(日)Yui-ma-kyō-nyō-zetsu. (支)Wei-mo-ching-jao-she. 維摩饒舌 ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・二、閱經十二種之內 ❹淸淨擬著 ❺閱經十二種の下を見よ。

維摩經の心髓 ❶(日)Yui-ma-kyō-no-shin-zui. ❷一册 ❸存 ❹青木晉淨著 ❺大正七刊 ❾東京中央出版社

維摩經の文學 ❶(日) Yui-ma-kyō-no-bun-gaku. ❷一卷 ❸存 ❹加藤咄堂著 ❺昭和七刊 ❾東京大東出版社

維摩經評註 ❶(日)Yui-ma-kyō-hyō-chū. (支)Wei-mo-ching-p'ing-chu. 維摩詰所說經、評註維摩經 ❷十四卷 ❸存、卍續一・三〇・一 ❹明楊起元評註 ❺今日の常識を以て名づけたならば疏注維摩經とも云ふべきものである。經(什譯)の本文の上に隨處に評言或は注疏を出し、經の一品を一卷にまとめてゐる。所宗の特徵は多く見られないものである。(和田徹城)

維摩經評註 ❶(日)Yui-ma-kyō-hyō-chū. 和譯維摩經評註 ❷一册 ❸存 ❹加藤咄堂 ❾東京西午出版社

維摩經法數 ❶(日)Yui-ma-kyō-hō-su. ❷一册 ❸存 ❹佛心會編 ❺大正九刊 ❾(谷大、餘祥・五〇一)

維摩經發題並會表白結願文 ❶(日)Yui-ma-kyō-hotsu-dai-narabini-e-hyō-byaku-ketsu-gwan-mon. ❷一卷 ❹修禪和尙(天應元—天長一〇 A. D. 781—823) ❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目

維摩經品釋 ❶(日)Yui-ma-kyō-bon-shaku. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(京大、藏・五ュ・一七)

維摩經品釋 ❶(日)Yui-ma-kyō-bon-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹亮惠 ❺文祿四刊 ❾(眞如藏)

維摩經無我疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-mu-ga-sho. (支) Wei-mo-ching-wu-wo-su. 維摩詰經無我疏、維摩詰所說經無我疏

❷十二卷 ❸存、卍續一・三〇・一―二 ❹傳燈逃 ❺明天啓五(A.D.1625)

❻天台の宗意より維摩經を注せしもの。元來維摩は智顗の教判には方等の部に混入せられ居るために天台には以て所依の典とするを得ず、何とかして其所に會通を見なければならないものである。故に本疏の作者は經の無我無造無受者の偈より圓に專にして偏れて華嚴法華般若涅槃に過ずるものが維摩經であるとし、經を大乘圓頓通方の妙典なりと看てゐるのである。以て疏の意のある所を窺知すべきである。書中に羅什の註維摩の所說を援用し、偏れて自己の見を最も首肯せられる平明さで述べてある。維摩經の注書としては重用なるものゝ一である。

❼承應二刊 ❽(龍大、二四一七・一三三(各大、餘大・一一〇五×哲、み・八・左・一六×高大、寄・一・二三×駒大) (和田徹城)

維摩經物語 ❶(日) Yui-ma-kyō-mono-gatari. ❷一册 ❸存 ❹柏原祐義著 ❺昭和二刊 ❻東京甲子社書房

維摩經物語 ❶(日)Yui-ma-kyō mono-gatari. ❷一册 ❸存 ❹角弦月峰 ❼〔參考〕禪籍目錄

維摩經文疏 ❶(日) Yui-ma-kyō-mon-sho.(支)Wei-mo-ching-wen-shu 淨名玄疏、維摩經大疏、維摩詰經玄疏、維摩經疏、維摩經玄疏、維摩疏、維摩經詰經文疏 ❷二十八卷 ❸存、卍續一・二七・五―一・二八・二 ❹智顗(大同四―開皇一七 A.D. 537―597)述、後三卷灌頂(天嘉二―貞觀六 A.D. 561―629)續補

❺羅什譯維摩詰所說經三卷十四品の經文解釋である。別項同著維摩經玄疏と對をなし、玄疏は總題文疏は別文二書相俟つて天台の維摩觀を構成する。花々二十八卷の大著容易に其の內容を說盡し難いが、今は一部大小の分文、品々の來意等を迎りて大體の釋相を瞥見する。

入文前先づ四意を前置して釋に入る。(一)本經渡來盡さず。(二)一經分文、此は先に付拳靈味開善光宅北地師等古師の分文を揭げ、次に自說を述べて、佛國品初半を序分、其の後半より阿閦品に至る十一品半を正說分、後の二品を流通分と定めて前記古師の分科を批評す。(三)佛國の義を辨ず、八科を開いて具に佛國の意義、因果、種類、往生等の諸義を細說す。四品の宇義を釋す。

次で佛國品の文に入り如是我聞等の六義は經の通序にして、次に佛寶積所獻の七寶諸蓋を合して佛國を示し、寶積三十六行の偈を以て佛德を歎ずる迄を別序とし以上佛國品初半を以て經の序分となす。

佛國後半已下十一品半の正說文に三段に分たる。初に佛國半品は佛自ら機に對し一經の正宗佛國因果を說き、方便品より香積品に至る九品は、淨名佛を助けて不思議解脫佛國因果を說き、第三菩薩行阿閦二品は淨名衆を挽して菴羅園に還り、佛更に正宗佛國因果を說くとなす。即ち佛國品に前記寶積說偈の後佛に對して菩薩淨土の行を問へ。佛之に答ふるに先づ解に約して圓に直心深心菩提心の三心を具する中道正觀は莊嚴佛土の正因なるを說き、次に行に約して六度、四無量心、四攝法等十三番に資成佛國の因を明し。次に以上を結攝して、菩薩淨土を得むと欲せば當に其の心を淨むべし、心淨ければ佛土淨しと說き、更に舍利弗の疑を解く爲に足指地を按して淨土を現出して是を證明す。されば此の品は佛自ら佛國因果の正宗を說破せしものとなす。

方便品已下は正說第二に維摩の補佛行化を說けるものなれども其の中方便品の初半は維摩の十德を歎ずる形容方便にして、現身有疾以下を正しく摩益方便とす。此の疾に托して敎を興す維摩の摩益八品半を大に二分す。一は室外說法彈呵折伏の化、二は室內說法引接攝受の化。前者は方便品の後半と弟子菩薩の二品にして、後者は問疾品以下の六品とす。前の室外折伏の化を更に三分して初の方便後半は昇內有爲緣集を折伏し、次の弟子品は二乘の無爲緣集を折伏し、菩薩品は菩薩の自體緣集を折伏す。即ち方便品の後半は、方便して示せし維摩の疾を問ふて集まりし國王大臣等を初め雜多有爲世間の衆生に對し、大士室外に在つて身命の無力を力說し、早く常恒不滅の佛身を求むべきを說ける昇內衆生折伏の化となす。

次の弟子品は佛先に小果を證せし舍利弗目連等の十大弟子に命じて大士の疾を問はしむ。諸弟皆往日大士より受けたる彈呵の章を述べて此を辭す。その彈呵の說法は則ち二乘の無爲緣集を折伏せるものにして、今の佛說を顯成し、初心の大衆に大心を起さしむると共に證小の二乘をして聚小慕大に導きしものと見る。

菩薩品第四は佛更に彌勒持世等の四大菩薩に命じて大士の疾を問はしめ、諸菩薩辭するに昔昔の彈呵の說を以てす。此の呵說は即ち前三敎方便の敎行に住著する菩薩の自體緣集を折伏し、不思議解脫法身を顯成して淨佛國土の敎を成ぜしめしものとなす。

以上は大士室外に四敎を用ひて凡夫二乘偏行の菩薩を呵せし折伏の化なれども問疾品以下の六品は室內に於て圓敎三脫の果を歎じ、三觀の因を行じて不思議解脫に入らしむる引接攝受の法門とす。其の中の文殊問疾品は、文殊師利命を奉じて淨名の室に入り、菩薩の疾を問ふ。維摩略して菩薩の權(菩薩法身實に疾なくして化の爲に疾を現ず)六(八萬四千煩惱の因疾、四百四病生老病死の果疾等色心を障害するもの)二疾、及び三觀調心の方法を說き、先に調伏されたる三乘の人を攝受して、その修入の方軌を示し、彼て入位の二乘に慕大の念を啓進せしむ。不思議品第六は維摩大士須彌燈王佛の大座を挽して方丈の室內に納め、小室大座を容れて妨礙するなき不思議の神用を示し、以て果上の用なる菩薩の權疾の變用自在なることを顯說せしものとし、次の觀衆品以下の四品は、三敎を以て引接慰喩し、三觀を以て菩薩の實疾を調伏することを說けるものとし、其の中觀衆生品は通敎從假入空觀の調伏法を說き、次の佛道品

は菩提を行じて佛道に達する別敎從空入假觀の調伏を說き、次の入不二法門香積の二品は共に中道正觀の調伏なれども、前者は雙亡二邊正入中道の義を說き、後者は雙照二諦道觀雙流の義を說けるものとす。

以上は維摩補佛の敎化なれども次の菩薩行阿閦の二品は、正說分第三に維摩の敎を受けたる諸衆が再び菴羅樹園の佛所に還歸し、佛更に正宗に復して佛國因果を說き、維摩の所說を印成して經を成ぜしものとし、中に於て菩薩行品は如來佛國土塡淨の行を示し、菩薩之に依つて行ずることを說きて佛國の因を示し、阿閦品は維摩所住の妙寂世界を現起し、以て佛國の果を示せるものとす。

以上三段を以て經の正說分竟り、法供養囑累の二品は流通分に屬す。即ち法供養品十三は帝釋天先づ大法護持を誓ひ、佛更に月蓋王子法供養の故事を說きて弘經の無深重なるを示し、最後囑累品十四は佛大法を彌勒阿難に付囑し、此れを弘通せしむることを說て經終るとす。

本書は以上の見解の下に一經の始終を解說すること深細を究め、品々の初めに先づ敎條の來意を明し各品の連絡關係を明にし。次に品題に對して詳細の解說を加へ、次に品文を大小適度に分科しつゝ縱橫無礙の釋を下す。所論讀博にして所立適切、全く自家の識見に基いて巧に淨佛國土の眞義を拔くこと眞に古今獨步の觀がある。

本書は別項維摩玄疏と共に隋煬帝の請に應じ、自己の腹案を門下に口授筆錄せしめたものだが、二十七卷佛道品に至つて板の爲に筆を絕ち、玄疏六卷迄に造書造物と共に開皇十七年の十一月に煬帝に送つた。(國清百錄三ノ八、同十二)餘の六品三卷は弟子の灌頂が補作完結せしめたものであるが、(天宮寺義威文疏後記)滿然略疏序)煬帝は著者滅後慧日道場の道莊法論二師をして本疏に依つて維摩經を講ぜしめ、自ら臨んで聽講したと云はれてゐる。後に滿然本書を刪略して別項維摩經略疏を作り、廣略二本並び行はれたが唐末五代頃より次第に數を減じ、宋の遵式が天台典籍を多數入藏せしめた時にも其の撰に洩れ、元明に至つては殆ど澌滅の狀態に歸した。日本に於ては早く鑑眞和尙に依つて將來せられ、最澄之を寫得して叡山の經藏に收めたが、時代と共に隱逸して管見に見る能はざりしが、叡山の慈濟が奈良古藏より其の完本を發見し、寶曆年中に至り覺常慧順諸師の努力に依つて板行を見、再び世に行はるゝに至つた。

❷(注釋) 維摩經疏記三卷滿然 ❺大保一三刊 ❻(龍大、研佛) (中里貞隆)

維摩經遊意 ❶(日) Yui-ma-kyō-yu-i. (支) Wei-mo-ching-yu-i 維摩詰經遊意、淨名經遊意、淨名遊意 ❷一卷 ❸存、卍續一・二九・一 ❹隋吉藏(太清三―武德六 A.D. 549―623)述

❺本書は短い一卷の論で維摩經の文句の註釋では無く、維摩經を種々の方面から考察したもので維摩經論とも言ふべきものである。嘉祥大師吉藏としてはこの種の維摩經論は既に淨名玄論八卷として詳細を極めたが、二十七卷佛道品に至つて板の爲に筆を絕ち、玄疏六卷迄に造書造物と共に開皇十七年の十一月に煬帝に送つた。(國清百錄三ノ八、同十二)餘の六品三卷は弟子の灌頂が補作完結せしめたものであるが、(天宮寺義威文疏後記)滿然略疏序)煬帝は著者滅後慧日道場の道莊法論二師をして本疏に依つて維摩經を講ぜしめ、自ら臨んで聽講したと云はれてゐる。後に滿然本書を刪略して別項維摩經略疏を作り、廣略二本並び行はれたが唐末五代頃より次第に數を減じ、宋の遵式が天台典籍を多數入藏せしめた時にも其の撰に洩れ、元明に至つては殆ど澌滅の狀態に歸した。日本に於ては早く鑑眞和尙に依つて將來せられ、最澄之を寫得して叡山の經藏に收めたが、時代と共に隱逸して管見に見る能はざりしが、叡山の慈濟が奈良古藏より其の完本を發見し、寶曆年中に至り覺常慧順諸師の努力に依つて板行を見、再び世に行はるゝに至つた。

❷(注釋) 維摩經疏記三卷滿然 ❺大保一三刊 ❻(龍大、研佛) (中里貞隆)

維摩經遊意 ❶(日) Yui-ma-kyō-yu-i. (支) Wei-mo-ching-yu-i 維摩詰經遊意、淨名經遊意、淨名遊意 ❷一卷 ❸存、卍續一・二九・一 ❹隋吉藏(太清三―武德六 A.D. 549―623)述

❺本書は短い一卷の論で維摩經の文句の註釋では無く、維摩經を種々の方面から考察したもので維摩經論とも言ふべきものである。嘉祥大師吉藏としてはこの種の維摩經論は既に淨名玄論八卷として詳細を極めた著述が存するが、今この遊意は淨名玄論を簡略にしたものであり、本書の第一項を除く以下三項は大體淨名玄論に依つて述べられてゐる。本論が淨名玄論より後の作であることは本書の序とも見るべき部分に、「余以二開皇之末一(開皇二十年 A.D. 600)因二於身疾一自著玄章、仁壽之終乘一命撰一於文疏一」とあるによつて知られる。本書の內容は次の四項から成つてゐる。一、淺深を定む。二、名題を釋す。三、宗旨を辨ず。四、會處を論ず。以下各項を略述すれば左の如くである。

一、淺深。維摩經は衆聖の宮府、方等の中心、究竟の玄宗、無餘の極說である。成實論師たる開善智藏の五時敎中の第三時抑揚敎に、又招提慧琰の四時敎中の第二時三乘通敎に維摩經を位置せしむるは誤りであり、本經が一極の玄宗たることを本經の文句によつて種々例證してゐる。最後に佛敎全體に對する吉藏自身の敎相判釋を二重の四門によつて揭げ、本經は般若等と共に第三門に屬するとしてゐる。

二、名題。これを「名本を明す」、「本名を解す」の二門とし、更に前者を六門、後者を二門となしてゐる。先づ名本とは經名の根本を言ひ玆では不二の法門を指してゐる。この不二を六門によつて分別する。(一)不二を衆人・文殊・維摩の三者によつて下中上に分す。(二)右の三種不二は語と默によつて、名と體によつて、名と相によつて二種とすることが出來る。(三)語默等の二は唯一の不二である。(四)有無・一二の相對によつて不二があり對を絕するとき不二は無し。(五)不二によつて諸經論の大小を判斷し、殊に成實論が不二を說かず小乘に屬することを論述す。(六)不二に對する四宗論師(成實・智度・十地・攝)の解釋の相違を擧げ、次いで十門を開いて內外一切の諸派講說に亙つて不二の有無優劣を論ずる。

「本名を解す」とは經名に關する種々の解釋で第一に一般論、次に維摩經に關して述べる。一般論では經名の有無、佛の自らの命名、質問による命名、經中に於ける命名の先後、經名の一多。諸佛時に於ける經名の變不變、印度では經の題名を後に置くのに支那では何故に最初に置くや。經名の具義の多少。經名は經中の四種の人に關係し、又說かるゝ法に關係し、この兩者に關係するや等を論じ、その中維摩經は何れに屬するかを述ぶ。次に維摩經自身に關して經名と人と法との關係を詳說。即ち何故に淨名(人)と題し不思議(法)と稱するやを區別し、維摩の語を梵漢によつて說き、淨名の名の來由、彼の修行階位、經の義、不思議解脫に關する詳述をなしてゐる。

三、宗旨。維摩經の宗致に關する四說の不同があり、その中吉藏は權實の二智を以て本經の宗としてゐる。かくて成實論師の二智に關する五時說を排し、大品・維摩・法華・涅槃の諸經は皆同一趣の五種の二智を具してゐることを論ずる。

四、會處。本經に對する成實論師の室の內外による序・正宗・流通の三分、及び十地論師の菴園初會・方丈次會・菴園重集の三會

説を排して、嵩祥大師は二處四會となしてゐる。二處とは菴園處と方丈處であり、四會とは菴園會・方丈會・重集方丈・再會菴園である。而して二處四會は三分・三時・三章・三門等にも區分せられ得る。三分とは、(一)序分、寶積の偈まで。これに證信序・發起序の二がある。(二)正宗分、偈後の長行より阿問佛品まで。これを明二法門(佛道品まで)・明不二法門(不二法門品)・明二法門(香積品より阿問佛品まで)の三とする。(三)流通分、法供養品以下。これに證歎流通・付囑流通の二がある。三時とは貴前說法・食時演教・食後教經の區分である。三章とは室外說法・室內教釋・室外說法の三である。修行次第の三門とは、(一)破病門、これに破凡夫病(初二品)・破二乘病(弟子品)・破菩薩病(菩薩品)の三がある。(二)明修行門、これに正明菩薩實慧方便二行(問疾品—佛道品)・明二慧由不二理成(不二法門品)・辨說不二起於二用(香積品)の三がある。(三)辨行成悉立門、これに明佛事不同(菩薩行品の初)・明善巧行立(不盡不住より)・明本迹二身(阿問佛品)の三がある。

以上で本書の略述は終つたが、本書は單獨にせらるゝことは少く、維摩經義疏の序たる玄義として說かれたものであらう。故に本書はこの義疏の一部分であり、義疏はこの玄義を附して始めて維摩經の註として全一のものとなるのである。

❹明和五刊(龍大、二四一七・一三五)×谷大、餘大・八七二)寫本(高大、寄・一・二三)

(水野弘元)

維摩經略玄 ❶(日)Yui-ma-kyō-ryaku-gen. 維摩經玄疏、維摩經玄義、淨名玄義、淨名玄疏 ❷存、大正三八・五一九)(大同四—開皇一七A.D.587—597)、卍續一・二七・五 ❸隋智顗(大同四—開皇一七A.D.587—597) ❹維摩經玄疏の下を見よ。

維摩經略疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-ryaku-sho. (支)Wei-mo-chieng-lüe-su. 維摩略疏 ❷十卷 ❸存、大正三八・五六二)(Z.9.1175)、卍續一・二八・三—四 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A.D.587—597)(曾雲二—建中三A.D.782—783)說、唐湛然(曾雲二—建中三A.D.782—783)略

❺題號に表示さるゝ如く天台の維摩經文疏二十八卷を刪略して十卷に壓縮したもので、本書の作意、作者の態度、一部の內容等は、本書卷頭に揭げた著者の自序に盡されてゐる。

「今茲の疏文(天台の文疏)は卽ち隋の煬帝天台大師に請ふて之を出し、用ひて心要となす。文具に國清百錄にあり。因て侍者をして隨錄奉聞せしむ。但だ佛道品に至り、後分は章安私述撰成せり。初文既に華侍人にあり、繁廣なきに非ず。編素諸課く見る者ある毎に、或く之を欣慕するも但だ其の文多きに煩しむといふ。故に祇ち其の錄に於て之を去取し、義を帶ぶれば必ず存し、言繁ければ則ち剪り、舊態をして完然たらしむ。先師の本を易へざるが故なり」。とある如く、天台の原型を一分も崩さずに、冗長の字句を切り詰めたもので、而も作者は此の企圖が完規を失ひ、大道を壞る惧れなきやを愛ひ、天台の壇堂に祇雲し其の微を求めたといふ學的良心を頗偶したる極めて眞摯の勞作である。

本書の作製は唐の代宗の寶德二年前であつたことは門下呈藏の序文に依つて知らるゝが、本書一度成るや學者誇者競ふて之を採用し、天台の廣疏は略んど世に忘れらるゝ狀態であつたと言はれる。趙宋時代慈雲遵式に依つて入藏せられ、孤山智圓に依つて乘補記十卷の釋が著はされた。本朝には早く博敎大師に將來せられ、單に台學の淨名釋義としてのみならず、其本天台の主要敎學の淵府として永く學者に重用せられてゐる。

❼(注釋) 維摩經疏記鈔二卷道邃、維摩經略疏乘裕記十卷智圓 〔參考〕 傳敎大師將來台州錄、新編諸宗敎藏總錄第一 ❽元和二刊(谷大、餘丙・五×內閣)承應元刊(立大、A一一・二六四)寬文九刊(立大、A一一・二六一)×谷大、餘大・一六)×龍大、二四一七・一三六)×正大、一一七〇・七)(京大、藏・五ュ・一〇)享保一三刊(立大、A一一・二六〇)

(中里貞隆)

維摩經略疏 ❶(日)Yui-ma-kyō-ryaku-sho (支)Wei-mo-chieng-lüe-su. 維摩詰所說經疏、不可思議解脫經疏、淨名經略疏、維摩經疏 ❷五卷 ❸存、卍續一・二九・二 ❹隋吉藏(大業三—武德六A.D.607—623)

❺本書は元來維摩詰所說經疏或は維摩經疏と名づけらるることは本書の卷首卷末の題名によつて明らかであるが、嵩祥大師の他の六卷本の維摩經義疏に對して五卷本である所から義疏を廣疏と呼び本書を略疏と稱するに至つたものであらう。義疏と本書とは共に維摩經の註書であるがその註解は決して同一經のものでなく、義疏が經文の語句の逐次的解釋をなすに反して本書は總意的註釋をなすものである。この意味に於てこの兩者を廣略を以つて呼ぶのは當を得たものでない。殊に義疏は序論たる玄義を除いて經文の註釋の部分のみを取れば、本書の註釋部分よりも寧ろ紙數が少い。故にこの點から見るも廣略を言ふは當を失してゐる。故に廣略は單に便宜上卷數によつて名づけたものと思はれるが、この廣疏略疏の名は極めて古い時代から用ゐられたものらしく、嵩祥大師(A.D.549—623)から約三百年後の安流の三論宗章疏(A.D.914)には是等の名によつて載せられてゐる。本書の目次を卷別によつて示せば次の如くである。

(卷一)佛國品第一。(卷二)方便品第二。弟子品第三。(卷三)菩薩品第四。文殊問疾品第五。(卷四)不思議品第六。觀衆生品第七。佛道品第八。(卷五)入不二法門品第九。香積品第十。菩薩行品第十一。見阿閦佛品第十二。法供養品第十三。囑累品第十四。

この中佛國品の最初は維摩經全體に關する簡單な序說であり、維摩經義疏の玄義を極めて簡略したものに當る。次に各品の初めにはその品に關する槪說があり、槪說の後に一二句乃至一二段の經文を擧げて是等を釋してゐる。その解釋は既述の如く、義疏に於けるそうに詮句の逐次的說明ではなく、經說の內面的意義を闡明する總意的註釋或は義疏で註し漏らしたものを釋するといふ風であり、義疏と本書との兩者で相補つて維摩經の完全なる註を成すと見られる。本書が義疏よりも後の作であることは、本書卷一の初頃に「如是者卽是第一通序、此中卽六事已如餘處廣釋」とあり、この六事に關しては義疏卷一で如是を釋する場合に詳細に論ぜられてゐるから、餘處廣釋とは恐らく義疏のこの部分を指してゐると思はれる。故に本書は義疏よりも後であり、淨名玄論は更に義疏以前の開皇の終頃(開皇二十年A.D.600)の作である。

❹寫本(谷大、餘大・八二五) (水野弘元)

維摩經略疏會本 ❶(日)Yui-ma-kyō-ryaku-sho-e-hon. ❷十卷錄偈一卷 ❸存 ❹(淨山、禪林)×谷大、餘大・四九六〇)

維摩經略疏垂裕記 ❶(日)Yui-ma-kyō-ryaku-sho-sui-yū-ki. (支)Wei-mo-chieng-lüe-su-ch'ui-yü-chi. 維摩經垂裕記、維摩經疏垂裕記 ❷十卷 ❸存、大正三八・七一一)No.1779、卍續一・二九・四—五 ❹智圓(太平興國元—乾興元A.D.976—1028)述 ❺宋太中祥符八(A.D.1015)

❻唐の湛然が智顗の維摩經の疏卽ち文疏或は廣疏と呼ばるゝものを要略して略疏十卷を作りたるを、更に智圓がこれに注疏を加へて天台の意を宣揚したものである。序文のうちに當時の五習見を擧げて、それの一々に就て箇所に天台の立脚點からこれが是正に勉めてゐる。先づ一經の主眼が十一品盡く皆佛國の因果を說くにありと斷じ、佛土佛身の論より依正不二と斷じ、身を離れて土なし、智境及び身土自ら殊なると雖も體はもと二なしと結論して無情無成佛の義の破斥を試みたり、行事鈔に敎ふるに三種廣中の心念法等は律の本義に反する等の說に對して羯磨は形式にのみ終始するものにあらず、玆に自ら戒乘の輕急の別を生じ、宗に一念三千と立てる以上僧衆の具不を問ふべきでない等の意味を述べてゐる。然し元來が嶽頭徹尾智顗の本意を遵奉してゐるのであるから、周の世佛の降誕の奇瑞として星隕雨の如きがあつたとある智顗の說に對して、世間の學者がこれを支那の世相の反映の如く解することに憤慨して、佛の出世の年代を論定してゐるあたり、當非は兎も角として實に眞摯な態度に打たれるものがある。現存の略疏と智圓の依用した略疏とは多少文字の出入があつて、智圓が斯くあるべしと指示した點が現流本のまゝである文句が二三あることは喜ばしき限である。

❼延寶三刊 ❽(立大、A一一・二七〇)×哲、う・六・中・一三)×高大、寄・一・二三)×京大、藏・五ュ・一一)×正大、一一七〇・一五—一六)×龍大、二四一七・一三八)×谷大、餘大・五七二)×觀山、弘賢) (和田徹城)

維摩經略疏鈔錄 ❶(日)Yui-ma-kyō-ryaku-sho-sen-roku. 維摩經疏鈔錄、維摩詰經疏鈔錄 ❷十卷 ❸存 ❹寧筭本撰(—明和六A.D.1768) ❺天明八刊 ❻(谷大、餘大・四八三、二二七八)

維摩經略例 ❶(日)Yui-ma-kyō-ryaku-rei. (支)Wei-mo-chieng-lüe-li. 淨名經略例 ❷二卷 ❸智淵(深一作保)述 ❼〔參考〕 常曉和尙請來目錄

維摩經科簡 ❶(日)Yui-ma-kyō-ryō-ken. (支)Wei-mo-chieng-lüe-chien. ❷一卷 ❹唐道倫述 ❼〔參考〕 新編諸宗敎藏總錄第一

維摩經科簡 ❶(支)Yui-ma-kyō-ryō-ken. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、二四一七・一四〇)

維摩科目 ❶(日)Yui-ma-kwa-mok. (支)Wei-mo-k'e-mu. ❷一卷 ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第一

維摩玄疏記 ❶(日)Yui-ma-gen-sho-ki. (支)Wei-mo-hsüan-su-chi. ❷一卷 ❹唐道邃述 ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第一

維摩玄略鈔 ❶(日)Yui-ma-gen-ryaku-shō. 維摩經玄略疏 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第七方等部章疏第五 ❹慶滋(—文治頃A.D.1185—1189—) ❺維摩經玄略疏の下を見よ。❻延寶七刊 ❼(觀山、慈眼)×正大・一一七〇・二〇)×龍大、研佛)

維摩廣疏 ❶(日)Yui-ma-kō-sho. (支)Wei-mo-kuang su. 維摩經義疏、維摩經廣疏、淨名經廣疏、維摩經疏 ❷六卷 ❸存、大正三八・九〇八)No.1781、卍續一・二九・一 ❹隋吉藏(大業三—武德六A.D.607—623)述 ❺維摩經義疏の下を見よ。

維摩四論義 ❶(日)Yui-ma-shi-ron-gi. ❷一卷 ❸存 ❹實俊撰 ❺寬文一二官 ❼(註釋)

維摩宗要 ❶(日)Yui-ma-shū-yō. (支)Wei-mo-tsung-yao. 維摩經宗要、淨名經宗要 ❷二卷 ❹新羅元曉(眞平王三九A.D.617—)述 ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第二、奈良朝現在一切經疏目錄1968

維摩所說經直疏 ❶(日)Yui-ma-sho-setsu-kyō-jiki-sho. (支)Wei-mo-so-shuo-ching-chih-su. ❷三卷 ❸存 ❹明通潤(—天啓頃A.D.1621—1627—) ❺成豐四刊 ❼(谷大、餘大・四二二)

維摩疏 ❶(日)Yui-ma-sho. (支)Wei-mo-su. 維摩經文疏、維摩經大疏、維摩經疏、維摩詰經廣疏、維摩經廣疏、維摩羅詰經文疏 ❷二十八卷 ❸存、卍續一・二七・五—二八・二 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A.D.587—597)、我三卷湛頂(天寶二—貞觀六A.D.743—627)補 ❺維摩經文疏の下を見よ。 ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第一

維摩疏 ❶(日)Yui-ma-sho. (支)Wei-mo-su. 維摩經疏、淨名經疏 ❷六卷 ❹法眞述 ❼〔參考〕 諸宗章疏錄第一

維摩疏記 ❶(日) Yui-ma-sho-ki. (支)Wei-mo-su-chi. 維摩經疏記、維摩經疏記、維摩經廣疏記 ❷三卷或六卷 ❸存、卍續一・二八・四—五 ❹唐湛然(曾雲二—建中三A.D.711—782)述 ❺諸宗章疏錄第一に云く「按。玆觀。隋禪。統紀並云廣疏記」云々。維摩經疏記の下を見よ。 ❼元祿一五刊(正大、一一七〇・一三) 寶永四刊(正大、一一七〇・一二)

維摩疏見聞 ❶(日)Yui-ma-sho-ken

573—621) ⑥維摩經義疏の下を見よ。

維摩大意 ❶(日)Yui-ma-tai-i. (支)Wei-mo-ta-i. ❷一卷 ❸法鈍述 ❹(参考) 諸宗章疏錄第二

維摩註經釋要鈔 ❶(日)Yui-ma-chū-kyō-shaku-yō-shō. ❷三册 ❸存 ❹寫本(哲う・四・左・一八)

維摩註經無盡燈 ❶(日)Yui-ma-chū-kyō-mu-jin-tō. ❷一卷 ❸存 ❹敬雄(正德三—天明二A. D. 1713—1782) ❺寫本(龍大・二四一七・一三九)

維摩堂日記 ❶(日)Yui-ma-dō-nik-ki. ❷一卷 ❸圓珍(弘仁五—寛平三A. D. 814—891) ❹(参考) 本朝台祖撰述著部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

維摩堂日記 ❶(日)Yui-ma-dō-nik-ki. ❷義貞(天應元—天長一〇A. D. 781—833)撰 ❹(参考) 本朝台祖撰述著部書目、山家祖德撰述篇目集卷下

維摩堂日記 ❶(日)Yui-ma-dō-nik-ki. ❷圓珍(寶龜二—承和三A. D. 771—836)撰 ❹(参考) 山家祖德撰述篇目集卷下

維摩兒經 ❶(日)Yui-ma-ni-kyō. (支)Wei-mo-erh-ching. 大乘頂王經、頂王經 ❷一卷 ❸存、大正一四・五九七No. 475、銘黃八、卍九・五、北123百、南124百、元121百、明北142萬、清140萬、麗124樹、天124百、指114樹、法123樹、至126蓋、明南123萬、Nj. 144 ❹月婆首那譯 ❺梁大同年間(A. D. 535—545) ❻大乘頂王經の下を見よ。

維摩の人格 ❶(日)Yui-ma-no-jin-kaku. ❷一册 ❸存 ❹不津無庵著 ❺大正一三刊 ❻名古屋破應閣書房

維摩羅詰經文疏 ❶(日)Yui-ma-ra-kitsu-kyō-mon-sho. (支)Wei-mo-lo-chi-ching-wen-shu. 維摩經文疏、維摩詰經廣疏、維摩經疏、維摩詰經疏、維摩經大疏、維摩疏 ❷二十八卷 ❸存、卍續一・二七・五—二八・二 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A. D. 538—597)撰、唐灌頂(天嘉二—貞觀六A. D. 561—632)補 ❺維摩經文疏の下を見よ。 ❻刊本(京大、疏・五ュ・一三)(帝國、一八九・八七)(正大、一一七○・一七)

維摩略贊 ❶(日) Yui-ma-ryaku-san. (支)Wei-mo-lüe-tsan. ❷七卷 ❸唐寛基(貞觀六—永淳元A. D. 632—682)述 ❹諸宗章疏錄第二に云く「按、出俊錄、然一本俊錄云元曉、待勘」云云。

維摩略疏 ❶(日)Yui-mi-ryaku-sho. (支)Wei-mo-lüe-su. 維摩經略疏 ❷十卷 ❸存、大正三八・五六二No. 1775、卍續1・二八・三—四 ❹隋智顗(大同四—開皇一七A. D. 538—597)述、唐湛然(登雲二—建中三A. D. 711—782)述 ❺維摩經略疏の下を見よ。 ❻(参考) 諸宗章疏錄第一 ❼承應元刊 ❽(立大、A一一・二六五)

維摩略疏 ❶(日)Yui-ma-ryaku-sho. (支)Wei-mo-lüe-su. 維摩經略疏、不可思議解脫經疏、維摩詰所說經疏、淨名經略疏、維摩經疏 ❷五卷 ❸存、卍續1・二九・二 ❹隋吉藏(太清三—武德六A. D. 549—623) ❺維摩經略疏の下を見よ。 ❻

〔参考〕 諸宗章疏錄第一

維藍經 ❶(日)Yui-ran-kyō. (支)Wei-lan-ching. 維藍本經 ❷一卷 ❸失譯 ❹六度集經第三卷。 ❺(参考)仁壽錄第三、武周錄第一一、開元錄第一六、貞元錄第二六

遺誡 ❶(日) Yui-kai. ❷存、弘法大師令集第七遺誡部、弘法大師法錄錄 ❸空海(寶龜五—承和二A. D. 774—835) ❹弘法大師空海が諸弟子に教誡を示せる文。遺誡文に多種ある中、遺誡と題せるものに、弘仁四年仲夏晦日の眞言家末葉等の文。承和元年五月二十八日の諸諸金剛等の文。凡眞言行人等の文の三編がある。その中前二編は共に大師の眞作。弘仁本は出家修道は本佛果を期す、輪王梵釋の家を要めず、況んや人間少々の果報を求むるに非ず。願密二戒を堅固に護持して佛道を修行すべしと誡め、承和本は諸弟子一味和合を旨とし、上下諍論なく、長幼次第を辨へ、乳水の如くして、佛法を護持すべしと說く。此二編共に弘法大師全集第七に收む。第三の凡眞言行人等の本は義意は佳なるも文辭拙劣にして大師の眞作と判じ難し。全集には第十四眞偽未決部に收む。 ❼(参考) 弘法大師年譜第六、同第一一、諸宗章疏錄第三、本朝台祖撰述著部書目

(小田慈舟)

遺誡 ❶(日)Yui-kai. 御遺誡 ❷二卷 ❸存、弘法大師全集第一四雜部、弘法大師法錄錄 ❹空海(寶龜五—承和二A. D. 774—835) ❺御遺誡の下を見よ。

遺教經 ❶(日)Yui-kyō-kyō. (支)I-chiao-ching. 佛乘般涅槃略說教誡經、佛遺教經、佛乘涅槃教誡經、佛臨般涅槃略說教誡經、佛臨般涅槃經、佛臨涅槃略誡經、佛乘涅槃略誡經 ❷三卷 ❸存、大正一二・一一一〇No. 389、餘辰一〇、卍八・一〇、北470羊、南424羊、元473羊、明北112食、餘112食、麗469蓋、天476羊、指416讖、法425讖、明南477行、Nj. 123 ❹後秦鳩摩羅什(建元二—義熙九A. D. 344—413)說義熙年中寫)譯 ❺佛乘般涅槃略說教誡經の下を見よ。 ❻德川時代寫 ❼(寶龜院)

遺教經 ❶(日) Yui-kyō-kyō. 國譯遺教經、國譯佛乘般涅槃略說教誡經 ❷存、國譯大藏經部第一一 ❸山上曹源譯

遺教經 ❶(日)Yui-kyō-kyō. 現代意譯遺教經 ❷存、現代意譯佛教經典叢書第三

遺教經解 ❶(日) Yui-kyō-kyō-ge. (支)I-chiao-chieh. 佛遺教經解、遺教解 ❷一卷 ❸存、卍續1・五九・一 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九A. D. 1599—1655) ❺崇禎一七(A. D. 1644)

❻本書著作の因由に云ふ、蕅益(智旭の諱)がまだ出家しなかつた時この遺教經を讀んで字々皆血淚の潤出してゐる想を生じたのであつたが、既に出家して二十年、自ら顧みるに僧として述得する所なく、僧としても獨立し得ない有樣に常に心を抱して自ら愧ぢ餒に對して慚を起してゐた。然るに會まある居士から本經の講義を請はれたのである。自己の任で無いことは十二分に知悉しては居るが、敢て趙侯頌鳳が鹿苑如來の法音を宣流することに習つて作つたものであると云ふのである。蕅益大師の生涯から想起して如何に本疏が眞摯敬虔の念に滿ちて教導せられてゐるかを知ることが出來よう。隨時項目を設けて道僧の生活指針を與へ、懇切を極めたものである。

(和田徹城)

遺教經解講翼 ❶(日) Yui-kyō-kyō-kō-kō. ❷一册 ❸存 ❹祖關可透集 ❺寫本(龍大・二四一六・二一)(京大、日大未・一二八)(無動寺)

遺教經解俗談 ❶(日) Yui-kyō-kyō-zoku-zetsu-dan. ❷一卷 ❸存 ❹雲空光謙(承應元—元文四A. D. 1652—1739)述 ❺元文三刊 ❻(龍大、二四一六・一七)(高大、寄・一・二三)(哲う・六・左・五)(駒大)

遺教經講義 ❶(日)Yui-kyō-gyō-ko-zō. ❷一册 ❸存 ❹大内青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)述 ❺明治二九刊 ❻(京大、一・二三ュ・一)

遺教經講義 ❶(日)Yui-kyō-gyō-ko-zō. ❷一卷 ❸存 ❹關田宗寒(文久三—大正一一 A. D. 1863—1922)著 ❺大正六刊 ❻(龍大、二四一六・一九)

遺教經講義 ❶(日)Yui-kyō-gyō-ko-zō. 佛遺教經講義 ❷一卷 ❸存 ❹山田孝道(文久三—昭和三A. D. 1863—1928)著 ❺大正一四刊 ❻東京光融館

遺教經講述 ❶(日)Yui-kyō-gyō-ko-jutsu. ❷一卷 ❸存 ❹守脫大實(文化元—明治一七A. D. 1804—1884)述 ❼(参考) 大日本佛教全書撰刊預定書目

遺教經講錄 ❶(日)Yui-kyō-gyō-ko-roku. ❸存 ❹雲空光謙(承應元—元文四A. D. 1652—1739) ❺享保一四刊 ❻(龍大、二四二九・二)

遺教經講話 ❶(日)Yui-kyō-gyō-ko-wa. ❷一卷 ❸存 ❹高島米峰著 ❺大正一〇刊 ❻東京丙午出版社

遺教經私考 ❶(日)Yui-kyō-gyō-shi-kō. ❷一册 ❸存 ❹寫本(哲う・六・右・五)

遺教經私鈔 ❶(日)Yui-kyō-gyō-shi-shō. 和解遺教經私鈔 ❷二册 ❸存 ❺寫文八刊 ❻(高大、寄・一・二三)

遺教經疏 ❶(日)Yui-kyō-gyō-sho. (支)I-chiao-chi-shu. 佛遺教經疏 ❷二卷 ❹宋智圓(太平興國元—乾興元A. D. 976—1028)述 ❼(参考) 東域傳燈目錄卷上、諸宗章疏錄第二

遺教經疏 ❶(日)Yui-kyō-gyō-sho. (支)I-chiao-ching-shu. ❷四卷 ❸(参考) 奈良朝現在一切經疏目錄2197

遺教經節要 ❶(日) Yui-kyō-gyō-setsu-yō. (支)I-chiao-chieh-yao. 佛遺教經論疏節要、遺教經經註、遺教經論疏節要 ❷一卷 ❸存、大正四〇・八四四No. 1820、縮調九、卍三四・一〇、明北1526師、清1602野、明南1575升、Nj. 1507 ❹宋淨源(大中祥符四—元祐三A. D. 1011—1088)

❺もと守遂が四十二章經と共に註を作りしものを、了童が重ねて補註せしもの。禪僧の日常教條として最もふさはしき經なる故、宗の立脚點より註を施したものである。印行せしは崇禎年間のことである。

(和田徹城)

遺教經註 ❶(日) Yui-kyō-gyō-cho. (支)I-chiao-ching-chu. ❷一卷 ❼(参考) 東域傳燈目錄卷上

遺教經補註 ❶(日)Yui-kyō-gyō-ho-cho. (支)I-chiao-ching-pu-chu. ❷一卷 ❸存、卍續1・五九・一 ❹宋守遂註、明了童補註 ❺萬曆一四(A. D. 1586)

遺教經補註私考 ❶(日) Yui-kyō-gyō-ho-cho-shi-kō. 遺教經論疏節要補註私考 ❷一卷 ❸存 ❹知空(寛永一一—享保三A. D. 1634—1718) ❺寫本(龍大・二四一六・二四)

遺教經物語 ❶(日) Yui-kyō-gyō-mono-gatari. ❷一卷 ❸存 ❹佐和田眞著 ❺大正五刊 ❻東京丙午出版社

遺教經略疏 ❶(日) Yui-kyō-gyō-ryaku-sho. 遺教經論略疏 ❷一卷 ❸存 ❹普濟(寶永四—天明元A. D. 1707—1781)述 ❺刊本(龍大、研佛)(哲う・六・中・一九)

遺教經論 ❶(日)Yui-kyō-gyō-ron. (支)I-chiao-ching-lun. 遺教論 ❷一卷 ❸存、大正二六・二八三No. 1629、縮往六、卍二二・一、北571衆、南583衆、元576衆、明北1292頗、清1502頗、麗571虛、天574衆、

指(565)虞、法(564)虞、至(1252)色、明南(1283)離、N.(1300) ❹天親造、眞諦(永元元—太建元 A.D. 499—569)譯 ❺陳永定二—太建元(A.D. 558—569)

❶この論は「遺教經」(正しくは佛垂般涅槃略說教誡經といふ)を釋論せるものであるから、かく名くる。よつていふところの論とは、經中の宗要を採集せる宗教論ではなくて、一經の文義を解釋せる釋經論なるものである。その撰者については、古來異說あり、低に大藏中にては、「叢本」を初め「宋」・「元」・「明」の諸本に收錄されて、恰も印度撰述なるかの如く思はれるやうであるが、必ずしも然うと斷言することは出來ないのである。就中印度撰述—世親の所造とするものが最も多い。先づ宋の王古の「大藏聖教法寶標目」卷五に記せるものを初めとし、「聚本」以下現流の諸藏何れもこれに從うてゐる。明の智旭またその「佛遺教經解」および「閱藏知津」卷三十四・卷三十六等にこの說を承けてゐる。また宋の淨源の「佛遺教經論疏節要」卷上を初め、同じく元照の「遺教經論住法記」卷上、同じく觀復の「遺教經論記」卷上、明の道霈の「佛祖三經指南」卷中(佛遺教經の部)や、またわが國にては、菁寂の「遺教經論略疏」等には、何れもこれを以て馬鳴の所造としてゐる。然るに「衆經目錄」(仁壽錄)卷四には、この論を以て「名雖レ似レ正、義涉二人造一」ふ疑惑の部に入れ、まさしく梵藏の對譯もなさずして支那撰述の見解に出でた。笈時にあつては、筏達海慶氏が「新佛教」(第十卷第六號)誌上にて、「遺教經」の作者問題を論ずる際、この論の作者に觸れて、これ恐らく眞諦が學徒の請に應じて、羅什譯「遺教經」について疏を作つたものであらうと提案した。これまたまさしく支那撰述說を支持するものである。けだし經錄を檢するに、かの「法寶標目」以前のものにあつては、何れもこの論の撰者について記すところがない。よつて惟ふに、或はこれ支那撰述にして(但しその撰者はもとより未詳である)梵土の所出でないのではなからうか。總じて支那南北朝時代にあつては、遺教經の講讃甚だ旺んにして、これが造疏また頻出されしことが文藝によつて窺はれる。而もそれらの諸疏は、何れも散逸して來むるに由なき有樣であるが、今この論も、或はそれらの中の一に屬せるものではなからうかと思はれる。かくしてこの論がもし支那撰述なりとせば、それの譯者を穿鑿することは、もとより意義なきわけである。但し現流の諸藏が、何れもその譯者を眞諦としてゐるから、先に撰者を云爲せる筆格に從ひ、譯者についてまた一言を所加することも、必ずしも無用の沙法ではなからう。まづ「衆經目錄」(法經錄)卷五には、これを以て衆論疑惑部に入れ、「遺教論一卷(人云眞諦譯)」(初出眞諦錄)無此論)故入レ疑」)といつて、眞諦譯の傳說を疑ひ、「仁壽錄」卷四には、更に梵莫の對譯たるを疑へること上述の如くである。然るに、これを明かに眞諦譯と決定せるは、費長房の「歷代三寶紀」卷九である。由來「長房錄」は、「法經錄」がなほ十分實物に當つて調査を遂げなかつたことを藉じ、自己の編錄に對して提分自負せる如き口吻を洩してゐるが、この論の譯者を眞諦と定むることについては、少しもその論據を擧げてゐないのである。これ恐らく、かの「法經錄」にも「人云眞諦譯」と記せる如く、當時一般にこの論を眞諦譯とする傳說が行はれてゐたので、それに隨つて眞諦譯と決定したのであらう。かくて一度眞諦譯と決定さるゝや、よし「長房錄」を信頼せぬ者も、またこの論の譯者について疑評を懷ける者も、何等積極的にそれを否定すべき論據を見出し得ざるまゝ、これを默認して、終に眞諦譯が著く認容さるゝに至つたことと思はれる。道宣の「大唐內典錄」の如きは、その卷五には明かに眞諦譯の部に入れて置きながら、卷十には疑僞錄の中に入れてゐるといふやうな曖昧な態度に陷つてゐるのであるが、けだしかくの如きは、「長房錄」を半信半疑せる態度の現はれと見るべきではなからうか。かくして智昇の「開元釋教錄」(卷七・卷十二)にては明かに眞諦譯と決定され、圓測の「眞元釋教錄」以下の諸錄、諸藏、かつまた宋・元・明各時代の釋家においても、いよいよ動かすべからざる定說たるかの如く思惟さるゝに至つたのである。かくの如くこの論が支那撰述となれば、開つてまたこれが譯出年代など云爲さるべきわけではないが、たとひ支那撰述にもせよ、その撰出年代を坐駕する雲に充つべく、文獻の上にその譯出年代の記錄を追らば、「長房錄」卷九に、この論その他の眞諦譯を列擧して、陳の永定年丙子より太建初己丑に至る凡そ十四年間にそれを譯出したといつてゐる。然るに、永定元年の干支は丁丑で、丙子はその前年太平元年に當つてゐる。再して太建の初己丑まで十四年云々とあれば、丙子の年號たる太平元年より太建元年己丑まで、すなはち紀元五五六—五六九年の間に譯出されたといふのである。以てほゞその年代の目標を定められよう。

さてこの論は、大體、一標・題號・二申・歸敬「三釋」正文」の三大部門に分科することが出來る。即ち、初に「遺教經論一卷、天親菩薩造、眞諦三藏譯」との題號並に撰者・譯者の名を標し、次に頂禮三世尊、無上功德海、真如度衆生、是故我歸命」等の四偈を列記して、初二偈において造論の所由を顯はす。後に正文を釋する段にては、まづ「遺教經」を解釋するに當つての宗たる科判を標し、以下その科判に應じて、羅什譯「遺教經」と全然同一なる本文を逐次に揭載し、その各部門の深義を懇切に解說してゐる。この解說は、實に古來「遺教經」を講ずるものの究竟の指南となつたものである。但し、この本文が、かく羅什譯「遺教經」そのまゝであるから、もしこの論が眞諦譯であるとすれば、眞諦が羅什譯をそのまゝ踏襲するが如きことのあり得べき筈はない。そこで宇井博士の如きは、かうした立場から、極力眞諦譯を否定してゐられるのである。(「印度哲學研究」一卷六、「眞諦三藏傳の研

究」参照)—但し同氏は、現流の「遺教經論」とは別に眞諦譯「遺教論」なるものが存在してゐたてふことを提案してゐられる。)今そのを本文解釋の科判を表示すれば、次のそうである。

遺教經論
- 一、序分(成就最竟功德六種)
- 二、修習世間功德分
  - 一、修習對治邪業功德
    - 一、根本清淨戒
    - 二、方便遠離清淨戒
    - 三、二戒能生功德
    - 四、勸修利益
  - 二、修習對治止苦功德
    - 一、根欲放逸苦對治
    - 二、多食苦對治
    - 三、懶怠睡眠苦對治
  - 三、修習對治滅煩惱功德
    - 一、眼耳鼻舌煩惱障對治道
    - 二、寶高煩惱障對治道
    - 三、諸曲煩惱障對治道
- 三、成就出世間大人功德
  - 一、少欲
  - 二、知足
  - 三、遠離
  - 四、精進
  - 五、不忘念
  - 六、禪定
  - 七、智慧
  - 八、不戲論
- 四、顯示界竟甚深功德分
- 五、顯示入證決定分
- 六、分別未入上上證決疑分
- 七、離種種自性清淨無我分

終りにこの論の流傳について一言を加へておかう。抑々この論の釋する「遺教經」の攝屬については、佛に華嚴疏主のみこれを大乘經典として取扱つたが、一般の大勢は小乘經典として見做された。その間この論は、大乘の立場にあつて經意を釋し、常に疏釋の指南として珍重され來つたため、わが東域並に海東には、間分と早くよりして流傳せるもののやうである。即ち「正倉院聖語藏一切經目錄」卷下(昭和法寶總目錄)卷一)にはこの論の名を列ね、また「日本奈良時代古寫經目錄」(同上)にもその名を列ね、而して「養老二年寫?」と註記してある。養老二年(A.D.718)といへば唐の玄宗の開元六年に當り、わが奈良時代の元正の朝である。また寛治八年(A.D.1094)興福寺永超の撰にかゝる「東域傳燈目錄」(大正五五)に「遺教經疏(十九紙)同註經(一卷)」とあるが、これも或はこの論に關するものではなからうかと思はれる。また高麗の義天の「新編諸宗教藏總錄」卷三(大正五五)の海東有本見行錄上には、「遺教經論」の條下に「住法記(一卷)、科(一卷)、以上元照述」と記し、同卷二の「佛遺教經」の條下に「論疏節要(一卷)、節要科(一卷)、廣宣鈔(一卷)、已上淨源述」と記すから、この論はそれが多くの註疏と共に、宋の哲宗の元祐元年(A.D.1086)に來朝し、親しく淨源・元照に師事して、三年の求法を終へて、夥多の釋典及び經書を携へ歸東せる義天によつて海東に流傳せるものと思はれる。

❷(參考) 三寶紀第九、內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇 ❸萬治二刊(高大、寄・一・二三) 寛保三刊(正大、一一七六・二〇)(高大、寄・一・二四)(哲、ら・六・左・一一)(寶龜院) (深浦正文)

遺教經論記

❶(日) Yui-kyō-ron-ki. (支) I-chiao-ching-lun-chi. 遺教論疏 ❷三卷 ❸存、卍續一・八六・三 ❹觀復述 ❺宋紹興一四(A.D.1144)

❻本書は、宋の觀復が高宗の紹興十四年(A.D.1144)に撰述せるもので、わが國に於ては後堀河天皇の時代、即ち本書の撰述以後およそ八十年にして渡來されたものである。卷首に撰者の自序を置いてあるが、それによれば、まづ所釋の「遺教經論」について次の如く述べてゐる。いはく、かの論は、眞諦によつて南越にて譯出され、陳より唐の開元以前までは、たゞ論名のみ傳つて論本を缺いてゐたが、智昇の「開元錄」の撰出に方つて論本を獲て、これを大乘藏中に編入した。但し、久しく論本を缺いてゐたため、古德をしてかの論の所釋たる「遺教經」をば小乘經典と認めしめたのであると歎定してゐる。更に今本書述作に當つての抱負を披瀝して、本書は大體「節要」の論調に從ひ「住法」「宣演」二記を味讀し、異解を辨じ、學說の是非を揚榷し、以て經論の正意を釋通せるものであるといふてゐる。その叙述の體裁は、まづ所釋の論文の全部を一々幾細に分科し、然る後に論文を解釋してゐる。この點「住法記」の體裁に則つて居れど、かれが論文を一字一句漏さず揭げて解釋せるに對し、これは論文にあつては、たゞその所在箇所を示すに止めて全文を揭げず、且その解釋も、說明の不要を認めらるゝところはこれを省略し、たゞその緊要なるもの、並に餘他の註家と意見を異にせるもの等には、詳細なる叙說を加へてゐる。なほ幾多の經論章疏を引用してその所據を明かにせる點は、「節要」の體裁に倣へる如く、また各節の要所々々に數番の問答を設けて質疑應答せる點は、餘他の類書に不共なる特徵といふべきである。通篇、その所論大に公正を持ち、內容頗る充實し、觀復以前の「遺教經論」に關する註書のあらゆる美點を採取して大成せるものといふも、敢て過言ではない。

❼寫本(龍大、二四三一、三七) (深浦正文)

遺教經論科

❶(日) Yui-kyō-ron-ka. 遺教經論大科 ❷一卷 ❸存 ❹宋元照(慶曆八—政和六、A.D.1048—1116)述 ❺(參考)

遺教經論住法記 ❶(日)Yui-kyō-ryū-jū-ron-jū-hō-ki. (支)I-chiao-ching-lun-chu-fa-chi. ❷一卷 ❸存、卍續一・八六・三 ❹宋元照(慶曆八—政和六A. D. 1048—1110)述

❺本書は、宋の元照の撰述かゝるものであるが、高麗の義天の「新編諸宗教藏總錄」卷三、海東有本見行錄下に「住法記(一卷)、科(一卷)已上元照述」とあるよりすれば、義天によつて海東に流傳されたことが窺はれる。而して義天は、哲宗の元祐元年(A. D. 1086)に入宋し、三年を經て歸朝したのであるから、本書は、彼が入宋當時に元照によつて述作されてゐたと見るは、當然の次第である。彼が入宋の元祐元年は、元照が年三十九の時に當るから、そこで本書は、元照の壯年時代の述作たることが知もるる。その撰述の動機については、本書の標示題目之段にも詳記せる如く、古來「遺教經」の釋家は非常に夥多しく、殊に宋代に至つては、註釋は更に註釋を生み、屋上屋を重ねるといふ有樣であつたから、それらの諸註の末節に捉はるゝことなく、徒らに辭句の穿鑿に走らず、論議の證據に徹せず、專ら論意に依つて佛言を敷暢し、疏釋の實義を詳ねて行證に資するために、乃ち本書が述作されたといふ。その叙述の體裁は、まづ「遺教經論」の全文を極めて微細に分科して、その科文を記し、その次に論文を擧げ、以てそれが解說を試みてゐる。その解說には、屢々舊來の諸見に疏序を下して、堂々自說を主張するの論陣を張つてゐる。殊に卷初に「自ゝ古解釋乃有ゝ多家、隋朝靈範法師、天唐懷素律師、並有ゝ義疏、皇朝景德中、金陵覺慧大師亦有ゝ疏一卷、今亦不ゝ行、但據ゝ章記所ゝ引耳、孤山法師有ゝ疏二卷、雪竇法師撰ゝ記釋ゝ之、眞怡律師採ゝ論註ゝ經、自撰ゝ鈔釋、行ゝ於世」の一文の如きは、「遺教經」に關する古來の諸註を一目瞭然たらしむるものであり、また「然馬鳴論中多從ゝ大乘ゝ釋ゝ義、致ゝ令ゝ判釋互有ゝ不同、今總ゝ括之、不ゝ出ゝ三見……」の文等の如きは、「遺教經」の大乘・小乘の橋屬に就ての古來の問題をば、極めて明快に解說せるものである。更にまた造譯人號を叙せる條下に、「遺教經論」の作者を馬鳴とせず、その馬鳴の出世に關して諸經に散說せる六說を擧ぐるが如きは、かの論の註疏として特に見るべき多面を含めるものといふべきである。因みに、親復の「遺教經論記」の中には、よく本書を批判せるところがある。

❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三 ❽天和三刊 ❾(正大、一一七六・三〇)×谷大、餘大・二〇七×龍大、二四三・一・三八×京大、藏・一四イ・一×哲、ら・六・左・一五×高大、寄・一・二三×京專)

(深浦正文)

遺教經論疏節要 ❶(日)Yui-kyō-ryō-ron-jū-sho-setsu-yō. (支)I-chiao-ching-lun-shi-chieh-yao. 佛遺教經論疏節要、遺教經節要、遺教經標註 ❷一卷 ❸存、大正四〇・八四四No. 1697、縮訓九、卍三四・一〇、明北1599跡、清1603野、明南1575丹、Nj. 1337 ❹宋淨源(大中祥符四—元祐三A. D. 1011—1063)節要、明株宏(嘉靖二一—萬曆四〇A. D. 1522—1612)說萬曆四三、年八一寂)補註 ❺佛遺教經論疏節要補註の下を見よ。❻延寶六刊(谷大、餘大・五二六)光緒二三刊(龍大、二〇四二・四)

遺教經論疏節要 ❶(日)Yui-kyō-ryō-ron-sho-setsu-yō. 冠註遺教經論疏節要 ❷一卷 ❸存 ❹永應三刊(龍大、二四三一・三四)文久二刊(龍大、二四三一・三四五)文久二刊(龍大、二四三一・三五)

遺教經論疏節要補註 ❶(日)Yui-kyō-ryō-ron-sho-setsu-yō-hō-chū. (支)I-chiao-ching-lun-su-chieh-yao-pu-chu. 佛遺教經論疏節要補註 ❷二卷 ❸存、大正四〇・八四四No. 1698、卍三四・一〇、明北1599跡、清1603野、明南1575丹、Nj. 1337 ❹宋淨源(大中祥符四—元祐三A. D. 1011—1063)節要、明株宏(嘉靖二一—萬曆四〇A. D. 1522—1612)說萬曆四三、年八一寂)補註 ❺佛遺教經論疏節要補註の下を見よ。❻延寶六刊(正大、一一七六・二八)×龍大、研佛)

遺教經論疏節要補註私考 ❶(日)Yui-kyō-ryō-ron-sho-setsu-yō-hō-chū-shi-kō. 遺教經補註私考 ❷二卷 ❸存 ❹知空(寛永二一—享保三A. D. 1624—1718) ❺寛文八(A. D. 1668) ❻(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❼寫本(正大、一一七六・二九)

遺教經論節要補註鈔 ❶(日)Yui-kyō-ryō-ron-setsu-yō-hō-chū-shō. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(龍大、二四三一・三六)

遺教經論大科 ❶(日)Yui-kyō-ryō-ron-dai-ka. 遺教經論科 ❷一帖 ❸存 ❹宋元照(慶曆八—政和六A. D. 1048—1116)錄 ❺刊本(寶龜院)

遺教經論略疏 ❶(日)Yui-kyō-ryō-ron-ryaku-sho. 遺教經略疏 ❷一卷 ❸存 ❹善寂(慈恵門)寶永四—天明元A. D. 1707—1781)述 ❺寛政三刊(正大、一一七六・三三、五二)×谷大、餘大・三四六七×京大、日大未・一二九)×高大、寄・一・二三)×龍大、二四三一・三九)寫本(谷大、餘大・三七七三)

遺教解 ❶(日)Yui-kyō-ge. (支)I-chiao-chieh. 遺教經解、佛遺教經解 ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・一 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九A. D. 1599—1655)述 ❺遺教經解の下を見よ。❻(參考) 諸宗章疏錄第二

遺教三昧經 ❶(日)Yui-kyō-sammai-kyō. (支)I-chiao-san-mei-ching. 遺教三昧法律經 ❷二卷 ❸失譯 ❹(參考) 出三藏記第四、三寶紀第七、內典錄第三、武周錄第一一

遺教子住經 ❶(日)Yui-kyō-shi-jū-kyō. (支)I-chiao-tzū-chu-ching. ❷一卷 ❸疑僞經。❹(參考) 仁壽錄第四

遺教法律 ❶(日)Yui-kyō-hō-ritsu. (支)I-chiao-fa-lü. ❷一卷 ❸(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2636

遺教法律經 ❶(日)Yui-kyō-hō-ritsu-kyō. (支)I-chiao-fa-lü-ching. ❷三卷 ❸缺 ❹西晉法炬譯 ❺(參考) 武周錄第一二、開元錄第一五、貞元錄第二五

遺教法律三昧經 ❶(日)Yui-kyō-

hō-ritsu-san-mai-kyō. (支)I-chiao-fa-lü-san-mei-ching. ❷二卷 ❸疑僞經。❺(參考) 法經錄第五、仁壽錄第四、開元錄第一八、貞元錄第二八

遺教論 ❶(日)Yui-kyō-ron. (支)I-chiao-lun. 遺教經論 ❷一卷 ❸存、大正二六・二八三No. 1529、縮往六・卍三二・一、北571衆、南525愛、元576衆、明北1529願、清1593願、麗571虛、天574衆、指555虛、法556虛、至1529邑、明南1557離、Nj. 1290 ❹菩提流支(永元元—太建元A. D. 499—569)譯 ❺陳永定二—太建元(A. D. 558—569) ❻遺教經論の下を見よ。

遺教論 ❶(日)Yui-kyō-ron. (支)I-chiao-lun. ❷一卷

❸疑僞論。法經錄第五(本正五五・一四三C)に、本論名を揭げ、細註して曰く、「人云菩薩譯、勘菩薩錄無此論故故人疑」云云。

❼(參考) 仁壽錄第四、內典錄第一〇

遺教論科文 ❶(日)Yui-kyō-ron-kwa-mon. (支)I-chiao-lun-k'o-wen. ❷〔參考〕花嚴宗經論章疏目錄

遺教論疏 ❶(日)Yui-kyō-ron-sho. (支)I-chiao-lun-su. 遺教經論記 ❷三卷 ❸存、卍續一・八六・三 ❹親復述 ❺宋和興一四(A. D. 1144) ❻遺教經論記の下を見よ。❼(參考) 諸宗章疏錄第二、花嚴宗經論章疏目錄

遺訓 ❶(日)Yui-kun. 延命院元昊僧都遺告 ❷一帖 ❸存 ❹元星(延喜一四—長德元A. D. 914—995)記 ❺元德三寫 ❻(高大、寄・一・六四)

遺告 ❶(日)Yui-gō. 御遺告、遺告群書 ❷一卷 ❸存、大正七七・四〇八Nj. 2431、弘法大師全集第七遺訓部 ❹空海(寶龜五—承和二A. D. 774—835) ❺承和二(A. D. 835) ❻御遺告の下を見よ。❼(參考) 諸宗章疏錄第三、本朝台組撰述密部書目 ❽寶曆一三寫(谷大、餘卷・一四)寫本(谷大、餘小・一二八)

遺告勸註 ❶(日) Yui-gō-kan-chū. ❷二冊 ❸存 ❹安永八寫 ❺(高大、寄・一・五三)

遺告勸註鈔 ❶(日)Yui-gō-kan-chū-shō. ❷道範(元曆元—建長四A. D. 1124—1252) ❸(參考) 諸宗章疏錄第三

遺告記 ❶(日)Yui-gō-ki. 御遺告口訣類集 ❷三卷 ❸存 ❹祐寛(天文五—慶長一七A. D. 1536—1612) ❺(參考) 諸宗章疏錄第三

遺告釋疑鈔 ❶(日) Yui-gō-shaku-gi-shō. 御遺告釋疑鈔 ❷三卷 ❸存 ❹頼瑜(嘉祿二—嘉元二A. D. 1226—1304)述 ❺御遺告釋疑鈔の下を見よ。❻(參考) 諸宗章疏錄第三

遺告諸弟子等 ❶(日) Yui-gō-shodo-shi-tō. ❷一軸 ❸存 ❹寛延四寫(寶菩提院)南北朝時代寫(寶龜院)

遺告諸弟子筆勸註 ❶(日)Yui-gō-sho-de-shi-hissu-kan-chū. 御遺告勸註 ❷二卷 ❸存 ❹景晨記 ❺御遺告勸註の下を見よ。❻寫本(京專)

遺告眞然大德等文 ❶(日)Yui-gō-shin-zen-dai-toku-tō-mon. 御遺告、遺告眞然大德等文 ❷一卷 ❸存、大正七七・四〇八Nj. 2431、弘法大師全集第七遺訓部 ❹空海(寶龜五—承和二A. D. 774—835) ❺承和二(A. D. 835) ❻御遺告の下を見よ。❼(參考) 諸宗章疏錄第三、仁壽錄第四、開元錄第一八、貞元錄第二八

遺告法 ❶(日)Yui-gō-hō. ❷一帖 ❸存 ❹應永二九寫(金剛三昧院)

遺告文字讀 ❶(日)Yui-gō-mon-ji-yomi. ❷一帖 ❸存 ❹文明三寫 ❺(金剛三昧院)

遺日王三昧寶積經 ❶(日)Yui-nichi-ō-san-mai-hō-shaku-kyō. (支)I-jih-wang-san-mei-pao-chi-ching. 寶積三昧文殊師利菩薩問法身經、寶積三昧文殊問法身經、遺日寶積三昧文殊師利問法身經、遺日寶積三昧文殊師利菩薩問法身經、法身經、寶積三昧法身經 ❷一卷 ❸存、大正一二・二三七No. 355、縮地一二、卍一〇・六、北246衆、南248衆、元252衆、明北247才、清247才、麗241愛、天252衆、指252愛、法250愛、至317改、明南249男、Nj. 251 ❹安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A. D. 148—170) ❻寶積三昧文殊師利菩薩問法身經の下を見よ。

遺日說般若經 ❶(日)Yui-nichi-setsu-han-nya-kyō. (支)I-jih-shuo-pan-jo-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹後漢支婁迦讖譯 ❺(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五

遺日寶積三昧文殊師利菩薩問法身經 ❶(日) Yui-nichi-hō-shaku-san-mai-mon-ju-shi-ri-bo-satsu-mon-hos-shin-gyō. (支)I-jih-pao-chi-san-mei-wen-shu-shih-li-p'u-sa-wen-fa-shen-ching. 寶積三昧文殊師利菩薩問法身經、寶積三昧文殊問法身經、遺日寶積三昧文殊師利問法身經、遺日王三昧寶積經、法身經、寶積三昧法身經 ❷一卷 ❸存、大正一二・二三七No. 355、縮地一二、卍一〇・六、北246衆、南248衆、元252衆、明北247才、清247才、麗241愛、天252衆、指252愛、法250愛、至317改、明南249男、Nj. 251 ❹安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A. D. 148—170) ❻寶積三昧文殊師利菩薩問法身經の下を見よ。

遺日寶積三昧文殊師利問法身經 ❶(日)Yui-nichi-hō-shaku-san-mai-mon-ju-shi-ri-mon-hos-shin-gyō. (支)I-jih-pao-chi-san-mei-wen-shu-shih-li-wen-fa-shen-ching. 寶積三昧文殊師利菩薩問法身經、寶積三昧文殊問法身經、遺日

三三昧耶経、法華三昧経、法華三昧経、法華三昧

遊四教語 ❶(日) Yū-shi-gu-kyō. (支)Yu-ssū-ch'ū-ching. 仏教用語。❷四教語。❸仏。❹天台宗の教義。

遊玄語 ❶(日)Yū-shi-dan. ❷一巻 ❸存 ❹大安(貞享)末天一天和(A. D. 1708—1782) ❺安永七刊 ❻(延天)(天六四・五九)

遊心安楽道 ❶(日) Yū-shin-an-raku-dō. (支)Yu-hsin-an-lo-tao. ❷一巻 ❸存 ❹天平四七・一一〇No. 1965 卍続二・一一・四 ❺浄土宗の教義。❻天平宝字元(A. D. 617—)頃 ❼浄土教 ❽不詳 ❾浄土教の教義を説いている。

遊心安楽道 ❶(日) Yū-shin-an-raku-dō. (支)Yu-hsin-an-lo-tao. ❷一巻 ❸存 ❹天平四七・一一〇No. 1965 卍続二・一一・四 ❺浄土宗の教義。❻天平宝字元(A. D. 617—)頃 ❼浄土教 ❽不詳 ❾浄土教の教義を説いている。

遊心安楽道 ❶(日) Yū-shin-an-raku-dō. (支)Yu-hsin-an-lo-tao. ❷一巻 ❸存 ❹天平四七・一一〇No. 1965 卍続二・一一・四 ❺浄土宗の教義。❻天平宝字元(A. D. 617—)頃 ❼浄土教 ❽不詳 ❾浄土教の教義を説いている。

遊心安楽道私記 ❶(日) Yū-shin-an-raku-dō-shi-ki. ❷一巻 ❸存 ❹浄土教

遊四教語 ❶(日) Yū-shi-gu-kyō. (支)Yu-ssū-ch'ū-ching. 仏教用語。❷四教語。❸仏。❹天台宗の教義。

遊玄語 ❶(日)Yū-shi-dan. ❷一巻 ❸存 ❹大安(貞享)末天一天和(A. D. 1708—1782) ❺安永七刊 ❻(延天)(天六四・五九)

遊心安楽道 ❶(日) Yū-shin-an-raku-dō. (支)Yu-hsin-an-lo-tao. ❷一巻 ❸存 ❹天平四七・一一〇No. 1965 卍続二・一一・四 ❺浄土宗の教義。❻天平宝字元(A. D. 617—)頃 ❼浄土教 ❽不詳 ❾浄土教の教義を説いている。

遊心安楽道 ❶(日) Yū-shin-an-raku-dō. (支)Yu-hsin-an-lo-tao. ❷一巻 ❸存 ❹天平四七・一一〇No. 1965 卍続二・一一・四 ❺浄土宗の教義。❻天平宝字元(A. D. 617—)頃 ❼浄土教 ❽不詳 ❾浄土教の教義を説いている。

遊心安楽道私記 ❶(日) Yū-shin-an-raku-dō-shi-ki. ❷一巻 ❸存 ❹浄土教

本具天台之格、妄體本眞今家之格學者不可混淆也。（坂本幸男）

遊心法界記講錄 ❶(B) Yū-shin-hō-kai-ki-kō-roku. 華嚴遊心法界記講錄 ❷二卷 ❸存 ❹熱田靈知逸 ❺明治三四—三五刊 ❻(京大、一・二四ュ・一四)

遊身靈場錄 ❶(B) Yū-shin-rei-jō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹慈運等記 ❺寫本（帝國、二〇九・七〇五）

遊頭流錄 ❶(B) Yū-zu-ryū-roku. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮金宗直 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

遊方記抄 ❶(B) Yū-hō-ki-shō. ❸存、大正五一・九七五Zo. 2569 ❺一、往五天竺國傳。二、慧空入竺記。三、續業西域行程。四、梵僧指空禪師傳考。五、西域僧銷噉結傳。六、南天竺婆羅門僧正碑。七、唐大和上東征傳。八、唐玄奘中天竺行記逸文並唐百官攜西域志逸文。九、唐當悲歷遊天竺記逸文を輯む。各項の下を見よ。

遊方止佛二書辨疑 ❶(B) Yū-hō-si-butsu-ni-sho-ben-gi. ❷一卷 ❸存 ❺貞享四刊 ❻(高大、寄・一・五五)

結城弘經寺志 ❶(B) Yū-kō-gi-ji-shi. 禮林結城弘經寺志 ❸存、淨土宗全書第二〇 ❹攝門（天明二—天保一〇A. D. 1782—1839）

❺本書は、淨土宗十八禮林の隨一たる茨城縣結城郡豊岡村飯沼弘經寺の寺志にして、その體裁は他の禮林志と略ど同樣の趣あり、從てその價値も大體同時項と思はる。本書の目次は、當山起原、堂宇鑑橫、什器傳來、寺錄前後、累代列名、多賀谷系、結城家系、在席傳燈、末流遠近の分科を舉げ、御朱印五十石下總國結城郡結城壽龜山禪旣院弘經寺の記あり、中に就て、當山起原には飯沼第九世存把上人在山の碑、小田原城主北條氏は下妻城主多賀谷氏と合戰してその兵火に焚燒され、師及び開山衆は下妻郷に遁去り一宇（今の圓福寺、金輪寺）を建立して彼の飯沼弘經寺に擬し法門論議等の事あり、藤原又その會下に集る、時に藤原寛名氏鬼科の事あり、德重救念の上人深く憐み諫願に力めたるも契はず、師大に歎息し三寶に怖る地として潛に遁れ中烏村に草庵を結び淨業を專修せり。偶々結城々主晴朝師の德長殷重に歸依し、文祿四年香火の地に擬し一宇を造立し飯沼の舊寺號を用ひ動願所の移立と成せり、飯沼の開山曉蓮社良象上人を開山とし自ら中興と稱せらる。此れより次第に學徒來集し法輪を振ひ念佛の法音に浴せしめらるに至る顚末を誌せり。堂閣鑑橫には實譽上人の再建にかゝる本堂の由來、大方丈、庫下の大さ、方丈佛の雷論、玄圖、寶藏、藥藏、東裡、衆寮、金大佛、鐘守、三門、鐘樓堂、學寮等の建物を舉示し、什器傳來には、涅槃像（絲山業譽寄附）、十六羅漢、挾箱、長持、名號（紀伊中納言綱教筆）、釋迦誕生繪、唐織の卷物、觀音龍虎、阿彌陀佛、釋迦文殊普賢、骨肉抄等の什器、飯沼本山什物たる路聖教の由來、本寺の形狀等を記し、寺錄の前後には、文祿五年の五十石寺領證、御朱印の記錄抄、寛永十三年、寛文五年の寺領朱印を記し、累代列名には當所開山たる九世宣運社禮譽九五存把上人より四十五世妙蓮社察譽觀阿無智林岡上人に至る歷代を列名し、中に於て、九世、十世、十二世、十三世等の法系には略傳を舉示せり。多賀谷氏、結城家の兩家系は略せり。在席傳燈には、性譽存寂、寶秀存、國譽蓮窓、星譽祖道、法譽專慈、人譽等の略歷を記し、末流遠近には、栃本天光院近龍寺、城內村恒蓮院照光寺、中里松雲院龍門寺、立伏村橋取院光明寺、氏家地藏院西蓮寺、今里村長壽院鶴壽寺、田間村慶光院鶴揚寺、下館孤峯院專稱寺、大野村等持院正定寺、關戸村瑞泉院了覺寺、大工町了正寺、上平村實相院大乘寺、東澤吉祥院不退寺、駒羽根淨林院、篠生村龍角庵、北目町の稱名寺、山形の弘願院、土塔の福田院無量壽寺、鹽沼往生院雲龍寺、大槻無量院大善寺等の本文支配の諸寺の記事を載せてゐる。

要之本書は、弘經寺志たるも絲山志外の諸禮林志と同じく、資料の蒐集に終り未だ完稿せざる未定稿たるは遺憾なるも、能く要を得たる手近な寺史の案內書として可成敬重すべきものなり。（森本貞順）

結城代々系圖 ❶(B) Yū-ki-dai-dai-kei-zu. ❷二葉 ❸存 ❹寫本（龍大、研史）

猶如昨夢集 ❶(B) Yū-nyo-saku-mu-shū. ❷三卷 ❸彭叔守仙（延德二—弘治元A. D. 1489—1520） ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

誘俗佛道大意 ❶(B) Yū-zoku-butsu-dō-dai-i. ❷一卷 ❸存 ❹無所得 ❺明治二刊 ❻(正大、一〇七・七二、七五〇、哲、ュ・八・右・一)

融貫鈔 ❶(B) Yū-kan-shō. 因明大疏融貫鈔、因明入正理論疏智解融貫鈔 ❷九卷 ❸存、大正六九・一 No. 1272 ❹基辨（享保三—寛政三A. D. 1718—1791）述 ❺因明大疏融貫鈔の下を見よ。

融通圓極四重譚 ❶(B) Yū-zū-en-gyoku-shi-jū-dan. ❷一卷 ❸存 ❹親山（享保七—天明七A. D. 1722—1787）撰 ❼(參考) 大日本佛教全書綴刊豫定書目

融通圓門章 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō. ❷一卷 ❸存、大正八四・一 No. 2280、縮霜一〇、大日本佛教全書第六四 ❹大通融觀撰 ❺元祿一六（A. D. 1703）

❻本書は融通念佛宗の宗乘書中最高權威の根本證典にして、一、教興本旨、二、多聞勸喩、三、略釋ュ宗名、四、法門分齊、五、所被通局、六、通修要方、七、內乘規則、八、辨ュ國土、九、明ュ佛身、十、解ュ文義の十條より一部を構成し、一宗の教義を確立して信解行證の洪規を樹立す。

一、教興の本旨とは、宗祖良忍上人の降誕、出家、學道乃至大原山に證得して二十餘年間苦修練行に依り遂に西方阿彌陀如來の示現直授の法門即ち融通念佛を以て開宗の根本と爲す旨を述ぶ。

二、多聞の勸喩とは、般舟寺の多聞天王、良忍上人の靈室に來現して上人を勸の喚し

て融通念佛を一天四海に弘通せしむる者僕を明かす。

三、略釋宗名とは、融通大念佛宗の六字の名義を總略して解釋し依つて以て口稱の一念に法界を包攝相攝して重々無盡億百萬遍の大功德を成就するが故に宗名と爲すの義旨を示す。

四、法門の分齊とは、釋迦牟尼如來の一代遺教中に於て融通念佛宗の管領する境域即ち位置を判ず。是に於て一代佛教を人天教、小乘教、漸教、頓教、圓教の五教に分類し、而して融通念佛は口稱の一念に前後一切の法門、功德を總攝して直ちに佛果に昇入するが故に第五の圓教に位する義旨を顯はす。

五、所被の通局とは、教法は機に由て起る。機には上中下の三根同じからず、されば融通念佛は三根の中何れの機類に被るべきやを分別して、融通念佛は口稱の一法を以て普ねく三根に蒙むる義意を辨ず。

六、修行の要方とは、融通念佛の行人として日課念佛を修する以外に餘份を論ぜず、每朝盥漱し終つて直ちに西方に向かひ彌陀所傳融通念佛億百萬遍決定往生と唱稱し、字々分明に十聲の念佛を唱え此の一生を盡して相續せしむ。此の方法は最も簡易にして而かも極樂に往生する修行の綱骨なる所以を說く。

七、內衆の規則とは、宗徒の準繩として圓頓菩薩の大戒即ち梵網經所說の十重四十八輕戒を護持すべき義を高唱す。

八、國土を辨ずとは、念佛の行人、修行成就して往生する所の淨土を分別するに當り先づ凡聖同居土、方便有餘土、實報無障礙土、常寂光土の四種の淨土を擧げ、更らに西方淨土を標指するは機信を成就せしむる方便なる旨を述べ、遂んで眞實の淨土は一佛土即ち一切佛土一多相即相入重々無盡不可說圓融の淨土なることを成立す。

九、佛身を明すとは、淨土に居住する佛身、即ち行者、淨土に往生して成得する佛身を辨ずるにあたり、應化身、他受用身、自受用身、自性身の四身を擧げ四身の融即無礙を論じ終つて四身の融即は唯だ果上に於ける一端を論じて佛身の全體を盡さずと爲す。然れば則はち究竟眞實の佛身は諸法等量の身にして因果の諸法を該攝し、三世間を融する重々無盡の大佛身なり。之を稱して十身具足の一大法身と云ふ。宗祖良忍上人感得の一佛中立十聚圓機の本意は實に此の表示なる旨を顯はす。

十、文義を解すとは、阿彌陀如來直傳の「一人一切人一切人一人一行一切行一切行一行是名他力往生十界一念、融通念佛、億百萬遍、功德圓滿」の文と開祖良忍上人の領解を述べられたる「諸法實相無二能念、無二所念、如々融通是名ュ他力往生之願、一生涅槃然如々融通是名ュ他力往生之行、億百萬遍非多非少是名ュ事理不二不可思議功德往生日課、一念稱意寶池蓮華億百萬遍功德相減一念稱意寶池蓮華億百萬遍功德成就」の文を解釋して其義旨を闡彰す。

❼(注釋) 融通圓門章私記三卷良山、同集註八卷準海、同私信記三卷觀山、同和解觀山五卷、同逆重四卷觀山、論語四卷觀山、同眼記五卷觀山、其他數部有り ❺元祿一六刊 ❻(京大、日大來・六五二〇、哲、ュ・四・有・二八〇、高大、寄・一・一八〇、谷大、宗大・二二六八)(龍大、二六八一・二〇五)(正大、一五六・三八) (山上或全)

融通圓門章科文 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō-kwa-mon. ❷一卷 ❸存 ❹觀山（享保七—天明七A. D. 1722—1787）撰 ❼(參考) 大日本佛教全書綴刊豫定書目

融通圓門章解 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō-ge. ❷五卷 ❸存 ❹東溫撰 ❼(參考) 大日本佛教全書綴刊豫定書目

融通圓門章私記 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō-shi-ki. ❷三卷 ❸存、大日本佛教全書第六四 ❹行觀良山 ❺享保一七（A. D. 1732）

❻本書は大通上人撰述の圓門章を文々句々に經て解釋を施す。其辭簡勁にして能く義旨を顯はす。而して解釋の根底は華嚴の教理に惜くものゝ如し。

❺寶曆一〇刊 ❼(大念佛寺) (山上或全)

融通圓門章私信記 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō-shi-shin-ki. ❷三卷 ❸存、大日本佛教全書第六五 ❹觀山即道（至圭）（享保七—天明七A. D. 1722—1787）

❻本書も亦た圓門章の文々句々を解釋す。著者は眞言僧にして歷山に修學中此の記を草す此の故に一部の中、眞言の疏釋を引援し宗義に附會する所頗る多し。

❼(大念佛寺) (大阪市大念佛寺 (山上或全)

融通圓門章集註 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō-shū-chū. ❷八卷 ❸存、大日本佛教全書第六四 ❹準海

❻本書亦た大通上人撰述の圓門章を文々句々具きに註釋を施す而かも力を諸疏の對校に注ぐ、集註と名くるは良に所由有りと云ふべし、但し釋義の由來する所は法華の教理に在るが如し。

❺明和四刊 ❼(谷大、宗大・二二六九)(龍大、二六八一・二〇六)(京大、日大來・六五三〇大念佛寺) (山上或全)

融通圓門章辨述 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō-ben-jutsu. ❷七卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書綴刊豫定書目

融通圓門章明眼記 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō-mei-gan-ki. ❷五卷 ❸存、大日本佛教全書第六五 ❹觀山（享保七—天明七A. D. 1722—1787） ❺明和六（A. D. 1769）三月

❻本書亦た圓門章を註釋す、著者先きに眞言宗に在つて私信記を撰し更らに和解五卷を著はして後ち本宗に歸投し遂意四卷論講四卷を草し又た本記を草す。然れば則ち解釋も洗練し逆境の跡見るべきもの有り但し釋義の根紙は私信記に同じ。

❺明和六刊 ❼(大念佛寺) (山上或全)

融通圓門章幽玄記 ❶(B) Yū-zū-en-mon-shō-yū-gen-ki. ❷十九卷未完了 ❸存、大日本佛教全書第六四—六五 ❹龍潭 ❻本書亦た圓門章を註解したるもの。

❼(大念佛寺)

融通圓門章遊意 ❶(B) Yū-zū-en

御風会本業 ㊀(固)Va-za-mon-sho-i. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-emon-sho-ron ko. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞景 ㊀(固)Va-za-emon-sho-wa-ge. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-emon-sho-ko-chaku-ben. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-sho-gi-kei-chaku-ben. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-emon-sho-ka. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-sho-ho-gyo. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-sho-ho-myo-sho-ula-den. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-sho-ho-go. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-so-hon-zan-dai-nem-butsu-ji-shi. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-dai-nem-butsu-shu-en-gi. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-dai-nem-butsu-shu-ryaku-shi. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-dai-nem-butsu-shu-sa-ryaku-den. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-nem-butsu-shu-en-gi-jo-ko-gi. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-nem-butsu-sai-ko-bo-cu-sho. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-nem-butsu-en-gi-e. ㊁名 ㊂中 ㊃(歴)十一代目の大日本相撲協会理事長。A. D. 1732—1787)没 ㊄(歴史)

御風国風貞盛 ㊀(固)Va-za-nem-butsu-en-gi

ヨ

よがしんこう ❶(日)Yo-ga-shin-kō. ❷1巻 ❸外 ❹安政(文久)1〜0一明治四四 A. D. 1827—1909) ❺明治三十四(帝国"三1四・三四) 明治四〇四(文大"1・1二ヨ・四)

よがしんしゅうのくにはくしょ ❶(日) Yo-ga-shin-shū-ō-tani-ha-no-sō-seki-o-das-si-ru-no-koku-haku-sho. ❷1巻 ❸外 ❹社寺考証(安永四一明治四A. D. 1851—1929) ❺明治三四四 ❻(帝国"九1二・1二七)(文大"安・六1二1二)

よけんしょう ❶(日)Yo-ken-shō. ❷11十七巻 ❸外 ❹西三条実治 ❺(東寺百合文書)

よのほか ❶Yo-no-hoka. ❷1巻 ❸外" 歌舞伎脚本 ❹1 ❺藤谷虎(一文政五年A. D. 1919) ❻文政五刊 ❼歌舞伎脚本

よよのおもい ❶(日) Yo-yo-no-o-a-to. ❷1巻 ❸外 ❹尾崎紅葉 ❺明治三(文"英・1三四)

よよのしおり ❶(日)Yo-yo-no-shiori. 不11巻 ❸外 ❹1巻 ❺外 ❻新潮社編 ❼明治三〇刊 ❽(文大"1・1二ヨ・1)

よりかしらおおもとにおけるゆいしょおよびはい ❶(日) Yo-ga-shū-kyō-gaku-ni-ō-ke-ru-jō-do-kyō-no-chi-i. ❷1巻 ❸外 ❹新井白石 ❺宝永1刊 ❻(帝大"1・1三ヨ・三)

よあけすだれ ❶(日)Yo-ake-sudare. ❷1巻 ❸外 ❹石川雅望 ❺寛政元刊 ❻大正四刊 ❼東京博文館

よがたり ❶(日)Yo-bune-mono-gatari. ❷外" 日本文学研究資料叢書 ❸森銑三 ❹1巻 ❺(一文化四A. D. 1804—1817—)頃

❻本書は文化年中に江戸の伝聞をもって都市に比して、幾分の見聞を加味し、その人情を比較したるもの。

作者は作者自身の考に、この書は「人情」を主という。

❼刊本(帝国"1・1二・11三四)

よがたりならびにさがみやげ ❶(日) Yo-bune-mono-gatari-narabini-sa-ga-mi-yage. ❷1巻 ❸外 ❹定信 ❺(帝大"安大・四111二)

ようしゅうじゅうにしょうきょう ❶(日) Yo-shū-jū-ō-shō-shichi-kyō. (支)Yū-hsiu-shih-wang-shêng-ch'i-ching. 国書刊行会本 ❷1巻 ❸外" 大正四書林社 ❹1巻 ❺外" 大正四書林社 ❻卍庵 ❼1三・11三・四 ❽(帝国"三巻

❾四巻に釈尊の弟子を記せられたる四巻の本に於ては、その句の意を記す。薩三巻は釈尊の出生より説法の始末に至るまでの事を述べ、その本には説法の始末に関する問答を挿入し、その本には説法の始末に関する問答を挿入し、その本には説法の始末に関する問答を挿入し

讃）

横川堂舎舊跡 ❶(日)Yo-kawa-dō-sha-kyū-seki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(觀山、吉祥)

横川堂舎住持記 ❶(日)Yo-kawa-dō-sha-jū-ji-ki. ❷一卷 ❸存 ❹智滿 ❼(參考) 天台宗稀覯刊行豫定書目

横川堂舎並各坊世譜 ❶(日)Yo-kawa-dō-sha-narabini-kaku-bō-se-fu. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 天台宗全書刊行豫定書目

横川分堂舎舊跡 ❶(日)Yo-kawa-bun-dō-sha-kyū-seki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(觀山、止觀院藏)

横川法語 ❶(日)Yo-kawa-hō-go. 法語、念佛法語 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三一、眞宗假名法典卷中之內、眞宗法要拾遺第一、眞宗聖教大全附錄、眞宗聖典全集之內、華園文庫之內 ❹源信(天慶五—寛仁元A.D.942—1017) ❺本書は假名文で横川法語又は念佛法語として著名なるものである。往生要集を披覽するに堪えざる者のために要集の肝要を解り易く書かれてあり、熟覽翫味すれば要集の意趣を得たるに異ならず且つ往生行者の安心起行を悉盡して居り、文は頗る簡約短篇である。前段には三惡道を逃がれ人間に生れ、而して彌陀の本願にあふたる歡喜を述べ、後段には凡夫妄念の念佛も來迎疑なく往生を得ると明し、凡夫往生の眞證を悉く吐露した念佛思想を具してして居る。曰く妄念のうちより申しいだしたる念佛は、濁にしまぬ蓮のごとくにして、決定往生うたがひ有るべかるず」と云ふ如し。然し往生要集の思想よりは可成り進展のあとを迫り得る如く思はれる。 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二、第二(渡邊寂晨)

横川法語聞書 ❶(日)Yo-kawa-hō-go-kiki-gaki. 眞宗法要横川法語聞書 ❷一卷 ❸存 ❹鷲谷寂潭 ❺明治一三刊 ❹(谷大、宗大・三〇九五)

横川法語講義 ❶(日) Yo-kawa-hō-gō-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹雲越(一—文化頃A.D.1804—1817—)述 ❺文化九刊 ❹(龍大、一二二七・一九)

横川法語講義 ❶(日)Yo-kawa-hō-gō-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹圓龍(一—弘化二A.D.1845)述 ❹寫本(谷大、宗大・二六八八)

横川法語講義 ❶(日)Yo-kawa-hō-gō-kō-gi. ❷二卷 ❸存 ❹宜成(安永六—文久元A.D.1777—1861)述 ❹刊本(谷大、宗小・二〇九)(龍大、研究) 明治二六寫(谷大、宗大・三七七四)

横川法語講話 ❶(日)Yo-kawa-hō-gō-kō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹魂鳥敏著 ❺昭和七刊 ❹石川香草舍

横川法語述贊 ❶(日)Yo-kawa-hō-go-jut-san. ❷一卷 ❹玄智登蓮(享保一九—寛政六A.D.1734—1794)撰 ❺天明元開に依つて詳細に記したものである。尙當時宮中に於て盛んに行はれし念佛講經等のことが見えてゐる。

横川法語筆記 ❶(日)Yo-kawa-hō-gō-hik-ki. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(谷大、宗大・三七七三)

横川法話講錄 ❶(日)Yo-kawa-hō-wa-kō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大)

豫州安西往生記 ❶(日)Yo-shū-an-sai-ō-jō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寛光 ❺天保一一刊 ❹(正大、一〇三六・八四)

讀んで面白く修養になる禪僧問答集 ❶(日) Yo-m-de-omo-shro-ku-shu-yō-ni-nar-ru-zen-sō-mon-dō-shū. ❷一冊 ❸存 ❹土屋春堂著 ❺大正一五刊 ❹東京中央出版社

ヨキ哲學 ❶(日) Yo-ki-tetsu-gaku. ❷一冊 ❸存 ❹白石喜之助著 ❺昭和二刊 ❹東京新生社

よろこびのあと ❶(日)Yo-ro-ko-bi-no-a-to. ❷一冊 ❸存 ❹菅瀨忠子 ❺大正六刊 ❹(龍大、一〇五四・二二)

よろづの御のり ❶(日)Yo-ro-zu-no-mi-no-ri. ❷一卷 ❸存、群書類從第一八、新校群書類從第一八、新校群書類從第一五、新校群書類從第一八釋家部 ❺本書は後花園天皇の十三回聖忌法會の和文體記錄である。天皇は文明二年十二月廿七日に扇御あらせられ、當文明十四年十二月は寛もその十三回聖忌に當つてゐるので同月五日から三日間、清涼殿に於て法華懺法を厳修されたのである。法會に於ける道場の莊嚴、參仕の道俗、式次等を實際の見聞に依つて詳細に記したものである。尙當時宮中に於て盛んに行はれし念佛講經等のことが見えてゐる。 (不破伊彦)

用意鈔 ❶(日)Yō-i-shō. ❹道範(元勝元—建長四A.D.1124—1252) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

用意問答 ❶(日)Yō-i-mon-tō. 淨土宗行者用意問答 ❷一卷 ❸存、淨土宗全書第一〇 ❹具忠(正治元—弘安一〇A.D.1123—1287)述 ❺淨土宗行者用意問答の下を見よ。 ❼(參考) 淨土正依經論書籍目錄 ❹刊本(智・て・八・右・一七)

用意問答輯要 ❶(日)Yō-i-mon-tō-shū-yō. 淨土宗行者用意問答輯要 ❷三卷 ❸存 ❹妙尊輯 ❺寛政三刊 ❹(京大、一・二六ヨ・二)(正大、一五五四・二五四)(智、こ・一・右・二六)

用玄義抄 ❶(日)Yō-gen-gi-shō. ❷一卷 ❸存 ❺大正四青寫舊版 ❹(立大、DO・一六四)

用甲壽草 ❶(日)Yō-kō-ju-sō. ❷一卷 ❸存 ❹鎭中道讃 ❼(參考) 禪籍目錄

用心 ❶(日)Yō-jin. 十八道用心 ❼(參考) 本朝古眼撰述書部書目

用心鈔 ❶(日)Yō-jin-shō. ❷一帖 ❹覺濟(安貞元—嘉元元A.D.1227—1303) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

用心鈔 ❶(日)Yō-jin-shō. ❷一卷 ❸存 ❹日順撰 ❼(參考) 大正新修大藏經刊行豫定書目

用心草 ❶(日)Yō-jin-sō. ❷一卷 ❸存 ❹長寛(長和五—永保元A.D.1016—1081)記 ❹寫本(如來藏)

用心草 ❶(日)Yō-jin-sō. ❷十卷 ❸

延慶撰 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝古眼撰述書部書目、害乘撰述目錄、山家眼德撰述篇目集卷下

用心問答 ❶(日)Yō-jin-mon-tō. ❹永心 ❼(參考) 本朝古眼撰述書部書目

永嘉覺禪師語錄 ❶(日)Yō-ka-kaku-zen-ji-go-roku. (支)Yung-chia-chüeh-shih-yü-lu. ❷二卷 ❸存、御撰語錄第一 ❹唐玄覺(麟德二—先天二A.D.665—713)語 ❺本書は、六祖大鑑慧能禪師の法嗣にして一相見一宿にして大悟し其の法統を嗣いだのを以て一宿覺と稱せられ、また浙江溫州府永嘉縣に住して四衆を接化されたので永嘉大師と世稱される無相大師明道玄覺禪師の永嘉集並に證道歌を、清の世宗帝（和碩雍親王、號圓明居士）御選語錄十九卷中の卷二に收められたもので、清光緒四年二月(A.D.1878)金陵刺經處刊行本には永嘉集の中の第十發願文を缺いて居る。卽ち內容は永嘉集及び證道歌として別出してあるので撰藏所收の御選語錄には其の序分のみを收めたものである。從つて其の解說も永嘉集(又は註)及び證道歌を參照すべきである。 ❹光緒四刊 ❹(駒大) (大久保堅瑞)

永嘉覺大師集 ❶(日) Yō-ka-kaku-dai-shi-shū. (支)Yung-chia-chüeh-ta-shih-chi. ❷一卷 ❼(參考) 智證大師請來目錄

永嘉集 ❶(日)Yō-ka-shū. (支)Yung-chia-chi. 禪宗永嘉集、永嘉禪宗集 ❷一卷 ❸存、大正四八・三九七No.2014、續藏四、卍三三・七、明北1576起、清1644後、明南1656起、No.1585 ❹唐玄覺(麟德二—先天二A.D.665—713)撰 ❺禪宗永嘉集の下を見よ。 ❼(參考) 禪籍志卷上

永嘉集 ❶(日)Yō-ka-shū. 國譯永嘉集 ❷二卷 ❸存、國譯禪宗叢書第二輯第四

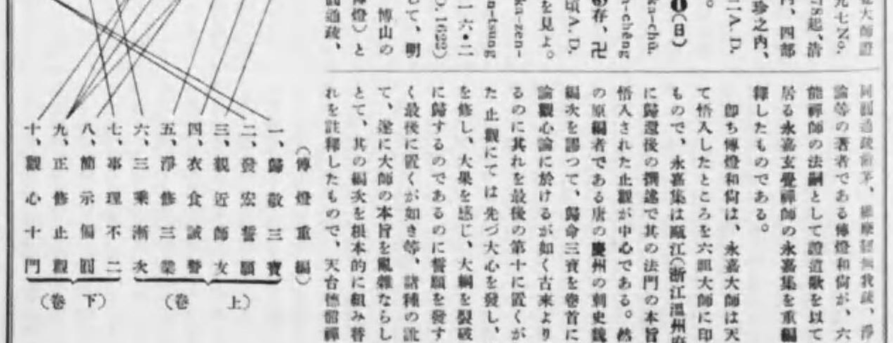
永嘉集諺解 ❶(日)Yō-ka-shū-gen-ge-ge. 禪宗永嘉集諺解 ❷二卷 ❸存 ❹朝鮮得通己和（洪武九—宣德八A.D.1376—1433） ❼(參考) 禪籍目錄、朝鮮佛教總書刊行豫定書目

永嘉集註 ❶(日) Yō-ka-shū-chū. (支)Yung-chia-chi-chu. 禪宗永嘉集註 ❷二卷 ❸存、卍三三・七 ❹唐玄覺(麟德二—先天二A.D.665—713)撰、宋行靖註 ❺禪宗永嘉集註の下を見よ。 ❼刊本(駒大)

永嘉證道歌 ❶(日) Yō-ka-shō-dō-ka. (支)Yung-chia-cheng-tao-ko. 證道歌、永嘉眞覺大師證道歌、永嘉眞覺禪師御證道歌 ❷一卷 ❸存、大正四八・三九七No.2014、續藏四、卍三三・七、明北1576起、清1644後、明南1656起、禪學資典之內、四部錄五味禪之內、十部錄之內、禪海十珍之內、四部錄五味禪之內、十部錄之內、禪學資典之內、四部錄五味禪之內、十部錄之內、禪海十珍之內、No.1585 ❹唐玄覺(麟德二—先天二A.D.665—713)撰 ❺證道歌の下を見よ。

永嘉眞覺大師證道歌註 ❶(日) Yō-ka-shin-kaku-dai-shi-shō-dō-ka-chū. (支)Yung-chia-hsin-chüeh-ta-shih-cheng-tao-ko-chu. 證道歌註 ❷一卷 ❸存、卍續二・一六・三 ❹宋孟珙(一—元豐頃A.D.1078—1085—)註 ❺證道歌註の下を見よ。

永嘉禪宗集注 ❶(日) Yō-ka-zen-shū-shū-chū. (支)Yung-chia-chi-tsung-chi-chu. ❷二卷 ❸存、卍續二・一六・二 ❹傳燈重編並注 ❺明天啓二(A.D.1622) ❺本書は妙峯百松眞和尙の法嗣にして、明代に於ける三無（黃檗の無念深有、博山の無異元來、天台雨溪高明寺の無盡傳燈）と世稱崇敬された首烈獻經玄義、同觀通疏、



同觀通疏、永嘉禪宗集注、維摩經無我疏、淨土生無生論等の著者である傳燈和尙が、六祖大鑑慧能禪師の法嗣として證道歌を以て知られて居る永嘉玄覺禪師の永嘉集を重編し且つ註釋したものである。

卽ち傳燈和尙は、永嘉大師は天宮に從つて悟入したところを六祖大師に印可されたもので、永嘉集は瓶江（浙江溫州府永嘉縣）に歸還後の撰述で其の法門の本旨は大師が悟入された止觀が中心である。然るに本書の原編者である唐の慶州の刺史戴簡は其の編次を謬つて、歸命三寶を卷首に置くは智論觀心論に於けるが如く古來よりの例であるのに其れを最後の第十に置くが如き、また止觀にては先づ大心を發し、次で大行を修し、大果を感じ、大綱を裂破し、大處に歸するのであるのに誓願を發するを同じく最後に置くが如き等、諸種の誤謬を犯して、遂に大師の本旨を亂雜ならしめて居るとて、其の編次を根本的に組み替へ更に是れを註釋したもので、天台德韶禪師の法嗣

である浙江杭州府錢塘縣石屋寺の宋の行靖和尚が曾つて本書の註釋をした其の註をも加入して居る。

即ち傳燈和尚は、止觀觀心こそが大師の本旨であるとして機緣の編次を内容によつて組織化して重編註釋したもので、明天啓二年七月(A.D.1622)其の旨趣を自序して流通せしめたものである。其の編述の出典並に題名は前頁の如くである。

(大久保堅璃)

永嘉大師證道歌 ❶(B)Yō-ka dai-shi-shō-dō-ka. 龍頭永嘉大師證道歌 ❷一帖 ❸存 ❹等編道註 ❺明治一一刊 ❻(帝國、一四三・一二八)

永覺和尚寵言 ❶(B) Yō-kaku-o-shō-gei-gen. (支) Yung-chiao-ho-shang-chieh-yen. 永覺寵言 ❷一卷 ❸存、永覺元賢禪師廣錄第二九(卍續二・三〇・四)之內 ❹明永覺元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657) ❼(參考) 禪籍目錄 ❺寶文一三刊 ❻(內閣)

永覺和尚寵言質實 ❶(B)Yō-kaku-o-shō-gei-gen-shitsu-jitsu. ❷一卷 ❸存 ❹達山交易(寶永一二—元祿七A.D.1635—1694) ❺延寶六刊 ❻(谷大、餘大・二七七五)

永覺和尚廣錄 ❶(B) Yō-kaku-o-shō-kō-roku. (支)Yung-chiao-ho-shang-kuang-lu. 永覺元賢禪師廣錄 ❷三十卷 ❸存、卍續二・三〇・三—四 ❹明元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657)述、鳥霖道澤(—康熙二〇A.D.1681—)編 ❺永覺元賢禪師廣錄の下を見よ。 ❻刊本(駒大)

永覺和尚最後語鈔 ❶(B)Yō-kaku-o-shō-sai-go-go-shō. 鼓山永覺和尚最後語鈔 ❷二卷 ❸存 ❻刊本(駒大)

永覺和尚禪餘外集 ❶(B)Yō-kaku-o-shō-zen-yo-ge-sho. (支)Yang-chiao-ho-shang-shan-yü-wai-chi. 禪餘外集 ❷八卷 ❸存、永覺元賢禪師廣錄第三〇(卍續二・三〇・四)之內 ❹明元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657)述、道順大冲編 ❺延寶五刊 ❻(谷大、餘大・六七二)(京專)

永覺和尚續寵言 ❶(B) Yō-kaku-o-shō-zoku-gei-gen. (支)Yung-chiao-ho-shang-hsu-chieh-yen. 永覺續寵言 ❷一卷 ❸存、永覺元賢禪師廣錄第三〇(卍續二・三〇・四)之內 ❹明元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657)述、道澤(—康熙二〇A.D.1681—)重編 ❻刊本(京大、藏・一七ヌ・一)

永覺和尚洞上古轍 ❶(B)Yō-kaku-o-shō-tō-jō-ko-tetsu. (支) Yung-chiao-ho-shang-tung-shang-ku-che. 洞上古轍 ❷二卷 ❸存、永覺元賢禪師廣錄第三〇(卍續二・三〇・四)之內 ❹元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657)述、鳥霖道澤(—康熙二〇A.D.1681—)編 ❺明元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657)述、道順大冲編 ❻禪餘內集の下を見よ。 ❼(谷大、A五〇・一〇一)(哲、ケ・一・右・一八)

永覺和尚禪餘內集 ❶(B)Yō-kaku-o-shō-zen-yo-nai-shū. (支)Yung-chiao-ho-shang-chan-yü-nei-chi. ❷六卷或八卷 ❸存、永覺元賢禪師廣錄第三〇(卍續二・三〇・四)之內 ❹明元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657)述、道順大冲編 ❻禪餘外集の下を見よ。 ❼延寶五刊 ❽(谷大、A五〇・一〇一)(哲、ケ・一・右・一八)

永覺元賢禪師廣錄 ❶(B)Yō-kaku-gen-ken-zen-ji-kō-roku. (支) Yung-chia-yüan-hsien-chan-shih-kuang-lu. 永覺和尚廣錄 ❷三十卷 ❸存、卍續二・三〇・三—四 ❹明元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657)述、鳥霖道澤編 ❺永曆一四(A.D.1660)

❻江西建昌府壽昌寺無明慧經禪師の法嗣、青原下三十五世永覺元賢禪師五會の語錄並に禪餘內外集、鼓山晚錄、最後語、洞上古轍、寵言等の語要を編纂して三十卷と爲し廣錄と題したもので、禪師が明永曆十一年十月七日(A.D.1657)壽八十歲示寂のときより後三年にして法嗣鳥霖道澤禪師が重編されたものである。

廣錄三十卷中には既に禪師の生前拜行されたものをも會入して居るので、其の序文を廣錄の卷首に收めて居る。即ち元賢の法眷である博山の無異元來禪師に對する無異大師贊(杭州淨寂の開谷寶印禪師撰)瓶瑞の撰に成る永嘉大師贊、參學の弟子である浙江道監察御史林之蕃(字孔碩號涵齋)の廣錄に關する鼓山を叙した序文等の外に、禪師六十三歲の明崇禎十三年八月陳瑶の禪餘外集の序、同十六年四月曹谷の禪餘內集の序、禪師七十五歲の明永曆六年の鼓山晚錄の自序、並に禪師示寂の翌十一月鳥霖道澤の最後語の序などである。禪餘外集八卷には慶安元年の刊本、延寶五年達山交易和尚の首書本があり、外集編長と題する享保五年の寫本も傳はつて居る。禪餘內集八卷には延寶五年達山和尚の首書本の外に私記と題する寫本があり、鼓山晚錄六卷には天和二年達山和尚の首書本がある。また最後語二卷には寛文十一年の刊本の外に、最後語抄二卷の刊本がある。尚ほ別に刊行された洞上古轍は本書の卷二十七、八の兩卷に收められて居るが、延寶元年並に同三年の無註本。同八年の梅峯竺信禪師の龍頭本、元祿五年の書籍目錄にも記されて居るもので享保九年に改板した西柏和尚の首書本、享保二年(黙徒和尚寫)の集註、一絲萬回和尚講述、春耕筆錄の微塵聞解、享保十一年の別揮などの末書がある。また寵言は本書の卷二十九に收められて居るが(按寵言は卷三十に收む)我國にては寛文十二年本、延寶三年本があり、寵言質實と題する達山交易禪師の首書本などの末書がある。

今鈔藏本に依つて其の篇次を示すに、既述の諸序を卷首に收め、卷一に國州鼓山湧泉禪寺語錄及び泉州開元禪寺語錄。卷二に杭州淨寂禪院語錄及び福州雲美庵語錄。卷三に再住した鼓山語錄。卷四に小參。卷五に普說。卷六に著說、茶話。卷七に拈古、頌古。卷八に佛事、問答。卷九至十に法語。卷十一に書問。卷十二に書問、啓。卷十三に序。卷十四に序、題跋。卷十五に記。卷十六に文、考。卷十七に疏。卷十八に銘。卷十九に偈贊。卷二十に諸圖道影贊。卷二十一に諸贊。卷二十二至二十三に偈頌。卷二十四至二十六に詩。卷二十七至二十八に洞上古轍。卷二十九至三十に庭言となつて居る。卷末には本書序文の撰者林之蕃の撰に成る福州鼓山白雲峯湧泉禪寺永覺賢公大和尚行業曲記及び弟子道靖和尚の撰に成る鼓山永覺老人傳が收められ何れも禪師の一生の德行を贊述して居る。著作二十種八十餘卷、問法受戒の者數萬人であつたと云ふ。其の法化の盛んなるを知るべきである。

(大久保堅璃)

永覺玄要集 ❶(B)Yō-kaku-gen-yō-shū. (支)Yung-chiao-hsüan-yao-chi. 鼓山神晏禪師語錄、興聖國師玄要廣集 ❸存、卍續二・三三・四古尊宿語錄第三七 ❹唐鼓山神晏語 ❻鼓山神晏禪師語錄の下を見よ。

永覺禪師晚錄 ❶(B)Yō-kaku-zen-ji-ban-roku. (支)Yung-chiao-chan-shih-wan-lu. ❷六卷 ❸存、卍續二・三〇・四、禪學大系圓錄部第二 ❹明永覺元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1579—1657)、道順大冲編 ❻鼓山晚錄の下を見よ。

永覺禪師晚錄首書 ❶(B)Yō-kaku-zen-ji-ban-roku-shu-sho. (支)Yung-chiao-chan-shih-wan-lu. ❷六卷 ❸存、卍續二・三〇・四、禪學大系圓錄部第二 ❹明永覺元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1579—1657)、道順大冲編 ❻鼓山晚錄の下を見よ。

永覺禪師晚錄首書 ❶(B)Yō-kaku-zen-ji-ban-roku-shu-sho. 永覺鼓山晚錄首書、鼓山晚錄首書 ❷二卷 ❸存 ❹鬼菱玄光(寶永七—元祿一一A.D.1690—1695)撰

永覺續寵言 ❶(B) Yō-kaku-zoku-gei-gen. (支)Yung-chiao-hsü-chieh-yen. 永覺和尚續寵言 ❸存、永覺元賢禪師廣錄第三〇(卍續二・三〇・四)之內 ❹明永覺元賢(萬曆六—永曆一一A.D.1578—1657)述、鳥霖道澤(康熙二〇A.D.1681—)重編

永覺錄首書 ❶(B) Yō-kaku-roku-shu-sho. ❷十六冊 ❸存 ❹達山交易(寶永一二—元祿七A.D.1635—1694) ❼(參考) 禪籍目錄

永覺錄管見錄 ❶(B) Yō-kaku-roku-kan-ken-roku. ❷二十冊 ❸存 ❹達山交易(寶永一二—元祿七 A.D.1635—1694) ❼(參考) 禪籍目錄

永觀律師往生講式 ❶(B) Yō-kan-ritsu-shi-ō-jō-kō-shiki. 往生講式 ❷一卷 ❸存、大正八四・八八〇No.2535 ❹永觀(長元六—天永二 A.D.1033—1111)說天平二、年八〇寂) ❻往生講式の下を見よ。 ❼寫本(高大・寄・一・四九)

永光寺舊記 ❶(B) Yō-kō-ji-kū-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

永光寺誌 ❶(B)Yō-kō-ji-shi. 洞谷山永光寺誌 ❷一卷 ❸存 ❹圓谷公平編 ❺大正一三刊 ❻東京鴻盟社

永光白巖禪師遺錄 ❶(B)Yō-kō-haku-gan-zen-ji-i-roku. ❷一卷 ❸存 ❹狐峰智璋編 ❺大正二刊 ❻石川縣青林寺

永谷圓通寺列祖傳 ❶(B)Yō-kō-ku-en-tsū-ji-res-so-den. ❸存、形山老師誘筆錄第三之附錄 ❼寫本(駒大)

永嚴抄 ❶(B)Yō-gō-shō. ❹仁和寺僧都 ❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目

永明獲衣頌集 ❶(B)Yō-mei-ryaku-e-ju-shū. ❼(參考) 日本禪林撰述書目

永明山得度 ❶(B)Yō-mei-zan-tokudo. ❷一卷 ❸存 ❹梅嶺 ❼(參考) 禪籍目錄

永明壽禪師山居詩並和韻 ❶(B) Yō-mei-ju-zen-ji-san-go-shi-narabini-wa-in. (支) Yung-ming-shou-ch'an-shih-shan-chü-shih & ho-yün. ❷二卷 ❸存 ❹仲玄延壽(天祐元—開寶八A.D.904—975)、天聚編 ❺元祿一三刊 ❻(駒大)

永明壽禪師垂誡註解 ❶(B) Yō-mei-ju-zen-ji-sui-kai-chū-gi. 智覺禪師垂誡註解、永明智覺壽禪師垂誡註解 ❷一卷 ❸存 ❹一絲文守(慶長一三—正保三A.D.1608—1646) ❺文政二刊 ❻(駒大)

永明壽禪師物外山居詩 ❶(B) Yō-mei-ju-zen-ji-mokua-wai-san-go-shi. (支)Yung-ming-shou-ch'an-shih-wu-wai-shan-chü-shih. ❷一卷 ❸存 ❹宋仲玄延壽(天祐元—開寶八A.D.904—975) ❺康熙五二刊 ❻(駒大)

永明禪師垂誡註解鈔 ❶(B) Yō-mei-zen-ji-sui-kai-chū-gi-shō. 永明智覺禪師垂誡註解鈔 ❷二卷 ❸存 ❹道雲述 ❺寶永二刊 ❻(駒大)

永明禪師念佛訣 ❶(B) Yō-mei-zen-ji-nen-butsu-ketsu. (支)Yung-ming-ch'an-shih-nien-fo-chüeh. 念佛訣 ❷一冊 ❸存 ❺光緒一〇刊 ❻(谷大)

永明智覺壽禪師垂戒註解 ❶(B) Yō-mei-chi-kaku-ju-zen-ji-sui-kai-chū-gi. 智覺禪師垂戒註解、智覺壽禪師垂戒註解、永明壽禪師垂戒註解 ❷一卷 ❸存 ❹一絲文守(慶長一三—正保三A.D.1608—1646)述 ❺正保二刊 ❻(龍大、二六七四)

永明智覺禪師垂誡註解鈔 ❶(B)Yō-mei-chi-kaku-zen-ji-sui-kai-chū-gi-shō. 永明禪師垂戒註解鈔 ❷二卷 ❸存 ❹道雲述 ❺寶永二刊 ❻(龍大、二六七四)

永明智覺禪師唯心訣 ❶(B)Yō-mei-chi-kaku-zen-ji-yui-shin-ketsu. (支) Yung-ming-chih-chüeh-ch'an-shih-wei-hsin-chüeh. 唯心訣 ❷一卷 ❸存、大正四八・九九三 No.2015、續藏四、卍續二・一五・五、明北1646案、N.1652 ❹宋延壽(天祐元—開寶八A.D.904—975)述 ❻天台德韶禪師の法嗣、大鐵下十二世。法眼宗第三世の杭州淨慈永明寺智覺禪師仲玄延壽和尚が千差異說の諸法も畢竟して一法に歸し、萬法も唯一心に歸する旨を力說して是の唯一心の觀心の緊要なる眞訣を示されたものである。即ち般若に無二と言ひ、法華に唯だ一乘を說き、思益に平等如如、華嚴に純淨法界、圓覺に一切を建立、楞嚴

に十方を今案、大乗に依拠の説、小乗に依拠の説、世間に依拠の説、仏教に依拠の説を安じ、諸名に法号に法名に、法の言葉をも各下に来れば、無量の妙義を説く。故に法の一法と雖も、法の千名万名に

面・定慧・如意輪・不空羂索・千手・馬頭・十一面・准胝・聖観音・大自在天・毘沙門天・吉祥天・弁才天・金剛夜叉・愛染明王・大威徳・金剛童子・不動明王・降三世明王・軍荼利明王・大元帥明王・孔雀明王・地蔵菩薩（以上巻上）。十二天・天・地・日・月・火・水・木・金・土・羅睺・計都・歳星・荒惑・太白・辰星・歳・月・日・時・五行・五星・二十八宿・十二宮・三台・九曜・七政・四季・八節・二十四気・七十二候・八卦・九宮・十干・十二支・干支・五音・六律・六呂・五色・五味・五方・五帯・五常・五穀・五畜・五臓・五官・五神・五星・五行・五位・五性・五情・五徳・五倫・五事・五明・五戒・五悪・五逆・五欲・五蓋・五障・五陰・五苦・五悪・五時・五部・五相・五智・五仏・五大・五輪・五部・五眼・五鈷・五股・五瓶・五鬼・五天・五帝・五神・五獣・五鳥・五虫・五魚・五穀・五菜・五味・五色・五音・五方

葉不事 ❶(B)Yō-fu-ji. ❷1帖 ❸存 ❹写本(金剛三昧院)

葉不同事 ❶(B)Yō-fu-dō-no koto. ❷1帖 ❸存 ❺慶長1〇写 ❻(高大・寄・一・六四)

葉喩多少經 ❶(B) Yō-yu-ta-shō-kyō.(支)Yeh-yü-to-shao-ching. ❷1卷 ❹釋阿含經第十四卷の抄出。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐會和尚語錄 ❶(B)Yō-gi-e-wa-shō-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho-shang-yü-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐錄、楊岐會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四、卍續二・二三・三、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

楊岐方會和尚語錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-o shō-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho shang-yü-lu. 楊岐錄、楊岐會和尚語錄、楊岐會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四、卍續二・三三・三、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

楊岐方會禪師語要 ❶(B) Yō-gi-zen-ji-go-yō.(支) Yang-chi'i-hui-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二三・五續古尊宿語要第三 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

楊岐方會禪師後錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-zen-ji-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho-ch'an-shih-hou-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐錄、楊岐會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四、卍續二・二三・三、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

楊岐會禪師語錄 ❶(B) Yō-gi-e-zen-ji-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ch'an-shih-yü-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐錄、楊岐會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四、卍續二・二三・三、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

楊岐方會禪師語要 ❶(B) Yō-gi-zen-ji-go-yō.(支) Yang-chi'i-hui-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二三・五續古尊宿語要第三 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

楊岐方會和尚語錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-o shō-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho shang-yü-lu. 楊岐錄、楊岐會和尚語錄、楊岐會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四、卍續二・二三・三古尊宿語錄第一九、明北1653寂至士、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、守端等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐方會和尚後錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-o-ri-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho-shang-hou-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐方會禪師後錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994B、卍續二・二五・二 ❹楊岐宋方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐會和尚語錄 ❶(B)Yō-gi-e-wa-shō-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho-shang-yü-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐錄、楊岐會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四、卍續二・二三・三、明北1653寂至士、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

楊岐方會禪師後錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-zen-ji-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho-ch'an-shih-hou-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐方會禪師後錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994B、卍續二・二五・二 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

楊岐錄 ❶(B)Yō-gi-roku.(支)Yang-chi'i-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐方會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四—六、卍續二・二三・三、明北1653寂至士、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

❻本書は黄龍派祖の黄龍慧南禪師と共に石霜山崇勝寺慈明楚圓禪師會下の二大甘露門と尊崇された楊岐派祖の江西袁州府楊岐山方會禪師、江西袁州府楊岐山普通禪院語錄(保寧仁勇編)。湖南長沙縣潭州雲蓋山海會寺語錄(白雲守端編)並に潭州道吾眞禪師語錄、偈頌等の語錄を編纂したもので、古尊宿語錄卷十九に收めたものは卷末に、宋仁宗帝皇祐二年仲春(A.D.1050)文政和尚の雲蓋山語錄序並に宋哲宗帝元祐三年立春(A.D.1088)楊傑(無爲子)居士の題語を收めて居る。大正藏並に禪學大系所收のものは是れに同じであるが、單行本には、文政の序、雲蓋山語錄、楊岐語錄、楊傑の題語及び續錄の編次で收めて居る。後錄は續藏本にも別に收めて居るが內容は續古尊宿語錄所收の楊岐語錄に同じきものである。禪學大系本は楊岐雲蓋語錄に補遺として禪宗正脈、大光明藏よりの抜抄語錄を收めたものである。

楊岐方會禪師は江西袁州宜春の冷氏に生れ、湖南長沙縣潭州道吾山に於て落髮し、石霜山慈明楚圓に嗣ぎ、楊岐に住し雲蓋山に閑居して宋仁宗皇祐元年(A.D.1049)壽五十四で示寂された。楊岐乍住屋壁藏。鏘庄黃布雪眞珠。鎔却項暗硬吁。輒恨古人擬下居」の結淡なる道業に依つて其の眞實な家風を窺ふことが出來る。 (大久保堅瑞)

楊岐方會和尚後錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-o-ri-go.(支)Yang-chi'i-hui-ho-shang-hou-lu. 楊岐方會禪師後錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994B、卍續二・二五・二 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。

❻本書は別項語錄に未收の上堂示衆の語要及び自贊を收めたもので、續古尊宿語要所收の語要と同內容のものである。語に云ふ「心體萬境轉。轉處皆能圓。隨流認傳性。無實亦無愛。」と故に楊岐の佛法は「一切法是佛法。佛殿對三門。僧堂對厨庫。若也會得。擔取鉢盂拄杖。一任橫行天下。若也不會。更且面壁。」となるのである。眞に道業峻嚴なる楊岐家常を道破したものと云ふ可きであろう。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐會禪師後錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-zen-ji-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ch'an-shih-hou-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐錄、楊岐會禪師後錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四—六、卍續二・二三・三、明北1653寂至士、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐方會禪師語錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-zen-ji-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ch'an-shih-yü-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐方會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四—六、卍續二・二三・三、明北1653寂至士、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐方會禪師後錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-zen-ji-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ch'an-shih-hou-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐方會禪師後錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994B、卍續二・二五・二 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐會和尚語錄 ❶(B)Yō-gi-e-wa-shō-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho-shang-yü-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐錄、楊岐會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四—六、卍續二・二三・三、明北1653寂至士、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐方會和尚後錄 ❶(B) Yō-gi-hō-e-o-ri-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ho-shang-hou-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐方會禪師後錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994B、卍續二・二五・二 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊岐會禪師語錄 ❶(B)Yō-gi-e-zen-ji-go-roku.(支)Yang-chi'i-hui-ch'an-shih-yü-lu. 楊岐方會和尚語錄、楊岐方會禪師語錄 ❷1卷 ❸存、大正四七・六四〇No.1994A、續藏四—六、卍續二・二三・三、明北1653寂至士、禪學大系叢書部第一 ❹宋楊岐方會(至道二—皇祐元A.D.995—1049)語、仁勇等編 ❻楊岐方會和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考)法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

楊居士塔銘 ❶(B)Yō-ko-ji-tō-bai.(支)Yang-chü-shih-t'a-ming. ❸存、楊仁山居士遺著第一 ❺民國八刊 ❾(龍大、研史)

楊谷寺誌 ❶(B)Yō-koku-ji-shi. ❷1卷 ❸存 ❹松本俊誠編 ❺大正四刊 ❾(龍大、研眞)(谷大・宗大・三二六五)

楊氏分家筆據 ❶(B) Yō-shi-bun-ke-hik-ko. (支) Yang-shih-fen-chia-pi-chü. ❸存、楊仁山居士遺著第一

楊州東大雲寺濱和上碑並序 ❶(B) Yō-shū-tō-dai-un-ji-en-wa-jō-hi-narabini-jo. (支)Yang-chou-tung-ta-yün-sza-yen-ho-shang-pei & hsü. ❷1卷 ❹李邕撰 ❼(參考) 日本國承和五年入唐求法目錄、慈覺大師在唐巡禮錄、入唐新求聖教目錄

楊州泰先寺踏路 ❶(B)Yō-shū-tai-sen-ji-tō-ro. ❸存 ❺朝鮮佛教總書刊行豫定書目

楊仁山居士遺著 ❶(B) Yō-nin-zan-ko-ji-i-cho. (支)Yang-jen-shan-chü-shih-i-cho. ❷十卷 ❸存 ❹楊文會 ❻(第一)楊居山塔銘・楊仁山居士事略・楊氏

【ヨ】 楊・楊・楊・

現在一切經疏目錄1246

瓔珞隨筆 ❶(日)Yō-raku-zui-hitsu.
❷一冊 ❸存 ❹寫本(晋・て・五・右・一・六)

瓔珞本業經 ❶(日)Yō-raku-hon-gō-kyō.(支)Ying-lo-pen-yeh-ching. 菩薩瓔珞本業經、菩薩瓔珞經、瓔珞經、本業經 ❷二卷 ❸存、大正二四・一〇二〇No.1485、諸列一・北一七・二・北253念、南246念、光241念、明北1087篤、清1087篤、麗237克、天241念、指300克、法492克、至1185母、明南1295驟、Zy.1081 ❹竺佛念譯 ❺姚秦建元一二—一四(A.D.376—378) ❻菩薩瓔珞本業經の下を見よ。 ❹刊本(龍大、二二九・四・(晋・む・右・一)×高大、寄・一・二三)(京導)

瓔珞本業經 ❶(日) Yō-raku-hon-gō-kyō.(支) Ying-lo-pen yeh-ching. 菩薩瓔珞經 ❷二卷 ❸缺 ❹宋智嚴譯 ❺第三譯。 ❻(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

瓔珞本業經疏 ❶(日)Yō-raku-hon-gō-kyō-sho.(支)Ying-lo-pen-yeh-ching-su. 瓔珞經疏 ❷三卷或二卷(上卷缺) ❸存、卍續一・六一・三 ❹新羅元曉(眞平王三九A.D.617—)述 ❺本疏は菩薩瓔珞本業經の唯一の注釋書にして、新編諸宗教藏總錄第二の海東有本見行錄には瓔珞本業經疏三卷とあり、元三卷ありしものと推定されるが、現在は卍續一・六一・三に上卷缺とし、下卷のみを收めて居る。而してこれは賢聖學觀品の第九觀心から經末までの釋である。 ❻(參考) 新編諸宗教藏總錄第二 ❼寫本(晋、ゐ・一・左・二六)

瓔珞品 ❶(日) Yō-raku-hon.(支) Ying-lo-p'in.(藏)大寶經の下參照 ❷一卷 ❸存、大方等大集經第一(大正一三・一No.397,1) ❹曇無讖譯 ❺北凉玄始三(元)—一五(一三)(A.D.414—426) ❻本經は次品の陀羅尼自在王品と合せて竺法護譯の大寶經八卷の異譯に相當するが、後出なるに鑑らず內容は却つて簡單である。大寶經は本品に相當する部分を二十五品に分設し、次品に相當する部分を二十五品に分けてゐる。西藏譯(Gzi-rdzin-dra-bo-dhi, Ye-śes-śes-pa)は本經に近く分品も二品とする點同樣で、兩も大集經中の分品なることを品名の下に記してゐる。(內容) (一)佛一時耆闍崛山(靈鷲山)にあり成道十六年にして菩薩所行の法(菩薩生誕菩薩法門)を說かんとして先づ佛境神通實見衆生三昧に入り、欲色二界の中間に大坊庭を現じ、四天下より四掃階を架す。(2)佛、三昧より出で大衆と共に陞に登り大坊庭に至るに諸天鬼神四天王乃至他化自在天等次第して迎へ讚佛偈を奉る。(3)佛、大坊庭に至り無尋毛孔放光して十方佛土を照したまふ。(4)光に應じて十方佛土より諸菩薩來會し各讚佛偈を捧ぐ。次で佛、三昧より出でて警欵したまふに、座に應じて十方佛土の四衆人非人及び梵天以下の諸天來會す。(5)佛、眉間より示菩薩力と名くる光明を放ちたまふや、十方佛土より來れる上首の菩薩、各三昧に入りて或は寶座、或は妙花、或は妙香等を以て佛を供養し奉り、又は大衆に種々の利益を得しむ。その名を諸法自在功德花子(東方、菩薩首藏華諸法自在)・寶秋(南方、寶幢)・稱力王(西方、名聞力)・大海慧智(北方、三昧時海覺)・寶網(東南方、明網)・大悲心(西南方、大寶念)・無邊淨宣(西北方、離垢察無底)・莊嚴樂說(東北方、歡嚴)・一切法神足王(下方變諸法王)・勇健(上方、心勇)といふ。(6)時に破魔菩薩(降諸魔)佛の神力を受けて三千大千世界の一億の魔王を召すに、魔王等、破魔菩薩の神力により一切の魔業を棄つと告白す。(7)法自在王菩薩(法勢王)、佛に菩薩の行無尋の法門を說きたまはんことを請ふ。

(批判) 以上、欲色中間の寶坊集會の結構は、直接には次の陀羅尼自在王菩薩品に對して序分の形をなすも、間接には大集經全體に對して序分の位置を取るものので、この點、大集經編纂の主意上頗る重大な意味を持つてゐるといはねばならぬ。而して本品に關する限り、思想的には華嚴系の流を思はしむるも、未だ本經の特色たる密教的色彩の現れてゐぬのは、その成立が比較的古いことを示すものであらう。而してその厳密な聖典史學的批判の如きは大寶經に就て研究さるべきである。 (美濃見順)

瓔珞和上說戒隨聞記 ❶(日)Yō-raku-wa-jō-setsu-kai-zui-mon-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寶暦三寫(正大、一一八八・九)寫本(正大、一一八八・六—七)

廔峯和尚年譜 ❶(日)Yō-ho-n-pō-nen-pu. ❷(參考) 出三藏記集四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六 ❸存、卍山廣錄之內 ❹三州白龍(寛文八—寶暦一〇A.D.1668—1760)編 ❺曹洞宗統の復古者である京都鷹ケ峯源光庵開山卍山道白禪師の一代の年譜を其の法嗣である三州白龍和尚が編述したものである。

卍山、諱は道白、字卍山、自ら復古道人、隱時子と號したもので、備後國河北の藤井玄秋の子、正保二年拾歲にして一瀉道播和尚に受業し、寛文三年二十八歲の時、宗眼永平道元禪師の正法眼藏を閱して嗣書、面授の卷に至るや、當時の法統紊亂せるを慨し、宗統復古の大志を決意したものである。寛文九年三十四歲にして黃檗宗眼隱元禪師並に木庵性瑫和尚等に相見し、延寶六年四十三歲にして加賀の大乘寺二十六世月舟宗胡禪師に嗣法し、同八年大乘寺に進住してより一住十二年、次で攝津の興禪寺、山城の禪定寺を重し、源光、東林、興宗、東福、壽福、梅岳、清水、文殊の八ケ寺を開創し、正德四年八月十九日(A.D.1714)壽八十にして源光庵に示寂された。宇治興聖寺八世梅峯竺信禪師等と型約した畢世の大業である宗統復古は、東叡山寛永寺公辨法親王等の援護を得て、元祿十六年卍山禪師六十八歲の時に幕府より勅許命令されたもので、實に四十年に涉る護法扶宗の苦闘の賜で、是の一事のみにても能く禪師の風格を偲ぶことが出來る。著書に廣錄四十九卷があり、法嗣に明州珠心、曹源滴水、隱之道顯、三州白龍等の俊英三十餘員があり、會津侯、加賀安房守、立花實山等士等の大

居士をも打出し、君に曹洞宗衆の復古者である。

編者白龍和尚は武州の村山氏、壽沼の觀音寺卍山道白禪師に受業し、大乘寺、源光庵等を董し、寶暦十年四月八日(A.D.1760)壽九十三を以て示寂された。白龍和尚の編述にかかる是の年譜は元文五年本(A.D.1740)本の卍山廣錄に附錄されて居るものである。

❺元文五刊 ❻(駒大) (大久保堅瑞)

廔峯群譚 ❶(日)Yō-ho-gun-dan. ❷五卷 ❸存 ❹日達(延寶二—延享四A.D.1674—1747)述 ❺享保八刊(龍大、研佛)(立大、A〇四・一一八—一一九)享保一八刊(正大、一八四・七八—七九)(立大、A〇四・一二三—一二四)(晋、て・三・左・一〇)(谷大、餘大・二七九四)

廔峯卍山和尚廣錄 ❶(日) Yō-ho-man-zan-o-shō-kō-roku. 卍山和尚廣錄 ❷四十九卷 ❸存、禪學大系叢錄部第五 ❹道白卍山(寛永一二—正德四A.D.1635—1714)語、白龍(寛文八—寶暦一〇A.D.1668—1760)編 ❺卍山和尚廣錄の下を見よ。 ❻刊本(京大、ト・二五ヨ・一)×(駒大)

廔峯聯芳系譜 ❶(日) Yō-ho-ren-pō-kei-fu. ❷二卷 ❸存 ❹卍海宗珊 ❺寶暦一三刊 ❻(駒大)

廔鈴獵經 ❶(日) Yō-yō-kechi-kyō.(支)Ying-yao-hsieh-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹脣一阿含經第二十三卷の抄出。 ❺(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

浴僧功德經 ❶(日)Yoku-sō-ku-dokku-kyō.(支)Yu-seng-kung-te-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一四、貞元錄第一四

浴像功德經 ❶(日)Yoku-zō-ku-dokku-kyō.(支)Yu-hsiang-kung-te-ching. ❷一卷 ❸存、大正二一・四八八No.1222、舊餘一・卍續二・九・四、疑密儀軌集第一四、❹唐慧琳述 ❺新集浴像儀軌の下を見よ。 ❻寫本(京大、蔵・一六タ・一四)

浴像經開題 ❶(日) Yoku-zō-kyō-kai-dai. ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一一 ❹佛說浴像經の開題。作者は眞僞未決。 ❺(參考) 諸宗章疏錄第三 (小田慈舟)

浴像經開題 ❶(日) Yoku-zō-kyō-kai-dai. 浴像開題 ❷一卷 ❸道慈述 ❹(參考) 東域傳燈目錄卷上

浴像功德經 ❶(日)Yoku-zō-ku-dokku-kyō.(支)Yu-hsiang-kung-te-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一四、貞元錄第八

浴像功德經 ❶(日)Yoku-zō-ku-dokku-kyō.(支)Yu-hsiang-kung te-ching. ❷一卷 ❸存、大正一六・七九八No.697、續宙八、卍一〇・七、北923女、南925女、元921女、指925位、法925位、至925母、明南925才、Zy.925 ❹實思惟譯 ❺唐神龍元(A.D.705)❻開元錄卷の九を見ると實思惟譯經目の中に「浴像功德經一卷、神龍元年正月二十三日東都大福先寺に於て譯す、婆羅門季無諸譯語、初出なり、後に義淨の出すものと同本」とある。又義淨のところにも同經一卷あり、「景龍四年四月十五日大薦福寺の翻經院に於て譯す。」としてある。 つまり(A.D.705)と(A.D.710)の二回、僅か五年を距て、一經二譯が出て居る。但し此の經は實は實思惟譯が初出ではなくて、出三藏記集の卷四失譯及闕經目の中にも已に「浴像功德經一卷、浴僧功德經一卷」等が載つてゐるから、更に古く、少くとも(A.D.515)以前に於て、此の經が支那に譯されて居た樣である。故に此の經は三譯二存と稱すべきであらう。今、其の實思惟譯と義淨譯の二本を比較して見ると、大體同じもので、後者は可成り多く前者の譯語をも踏襲して居るが、後者の方が文辭は少しく美い。

譯者の實思惟は、梵名阿彌陀那の唐譯である。北印度迦濕彌羅國の刺帝利の出で、天后の長壽二年に洛陽に來り、本經初め不空羂索陀羅尼經七部十卷を譯し、開元九年(A.D.721)壽一百餘歲を以て世を終つて居る。

本經の內容は、勿論佛の像を洗浴する方法及び功德を說いたものであるが、其の內容を大分して見ると、初めに淸淨瑟菩薩の質問を以て序由とし、次に佛の答ふる中、先づ佛の淸淨身を得たる因緣、及び佛を供養する者の功德は在世も滅後も平等なることを說き、自づと其の中に於て浴像の說の緒を示し置くと共に、先に其の功德を十五種に說明し、終りに浴像の方法を說いて居る。傳に依ると實思惟は此の經を譯した翌年からは更らに蜜經を爲さず、昏朝香を磨つて水を作り、佛像を塗浴してから朝食を構り、唯、精勤禮誦して諸の福業を修すことゝなり、其の結果一百餘歲の長壽を得たと云ふことになつて居るのであるから、本經とは切り離せぬ尋い一つの話題であらうと思ふ。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一三 (清水谷恭順)

浴像功德經 ❶(日)Yoku-zō-ku-dokku-kyō. 國譯浴像功德經 ❷一卷 ❸存、國譯一切經經集部第一四 ❹清水谷恭順譯

浴像作法 ❶(日)Yoku-zō-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶菩提院)

浴像作法 ❶(日)Yoku-zō-sa-hō. ❷二帖 ❸存 ❹性義(延寶四—寶暦一三A.D.1676—1763)記 ❺德川時代寫 ❻(寶菩提院)

浴塔供養作法 ❶(日) Yoku-tō-kuyō-sa-hō. 浴塔供養作法勸流 ❷一帖 ❸存 ❹久安四寫 ❺(金剛三昧院)

浴塔法 ❶(日)Yoku-tō-hō. 浴塔法勸流 ❷一帖 ❸存 ❹寫本(金剛三昧院)

浴佛功德經 ❶(日)Yoku-butsu-kudoku-kyō.(支) Yu-fo-kung-te-ching. 浴像功德經 ❷一卷 ❸存、大正一九・七九六No.695、續宙八、卍一〇・七、北924女、南

満天上人 ❶(固)Yoshi-miza-sho-nin-e-den. ❷川崎市高津区にある。

満天上人歌 ❶(固)Yoshi-miza-sho-nin-e-den. ❷満天上人の和讃。

満天上人像 ❶(固)Yoshi-miza-sho-nin-e-den. ❷満天上人の像。

満天上人伝 ❶(固)Yoshi-miza-sho-nin-e-den. ❷満天上人の伝記。

満天上人堂 ❶(固)Yoshi-miza-sho-nin-e-den. ❷満天上人を祭った堂

三段結とし、第一遺誓をまた五段に区分してゐる。

第一段、安心起行の非濫を擧示、もろこし我朝の段。第二段、願行相資の正義を示す、唯往生極樂の段。第三段、疑を通じ好を妨ぐ、但三心四修の段。第四段、誓を起て、證を請ふ、此の外に重深の段。第五段、結勸なり、念佛を信ぜん人の段。此の五段の内、第一段は序分、第二第三第四の三段は正宗分、第五段は流通分としてゐる。而して此段全體を重ねて四重に分け、(一)一編五段の大意の略釋、(二)五段の文句の詳釋、(三)他宗の異義に對しての通釋、(四)背宗の邪義に對しての別釋、としてゐる。

一枚起請文全體の主意は願行相資の一義に在りとし、之に對する他宗背宗、殊に背宗の徒の邪義を論難し、法本房成覺房の義、及び無願有行、一念義等の說を排し、本宗正意佩西流の宗旨本意なる所以を力說し、先づ以て一枚起請文の佩西聖光上人に下されたるものなるを主張してゐる。そして結論として奥書を左の如く註してゐる。

「淨土宗の安心起行は(曾て聖光に付屬せる)此の一紙(の法語)に至極せり、源空が所存此(願行相資の稱名の)外に全く(觀念學解等の)別義を存せず、滅後の(他人背徒の僞濫の)邪義を防がんが爲に(聖光に授る法語に更に起請文を加へて僞なき)所存を記し(滅後宋代淨土宗の龜鑑に備)畢」。

❺寶永三刊 ❻(谷大、宗大・一二七一)(龍大、二六八二・八〇、八三) (平松大眞)

吉水遺誓誡論付錄正流辨

❶(日)Yoshi-mizu-yui-zai-ken-ron-fu-ryu-ben. 吉水正流辨 ❷一卷 ❸存、淨土宗全書第九 ❹忍澂(正保二—正德元A. D. 1645—1711)

❺本書は忍澂の草案なりしを洛東小松谷甘露苑の沙門慈光淨業問尋の附錄に載せしが、同書烏有に歸せしを以て、專念寺順阿隆圓再校上本し、之に卷首卷尾に附言をなしたものである。慈光は寶曆癸酉三月春識し、隆圓は文政四年辛巳九月二十五日識してゐる。

著者の略傳は、前項解題參照。

內容を見るに、遺誓誡論に忍澂は「此一編の本文は、もと佩西の聖光上人に付屬し玉へる平生の御法語なり。その法語の中に更に起請の一段を書加へ玉ふのみが、正しく遺誡の御本意なれば古より世人相傳へて、一枚起請文とは名けらるなり」と云ひ、又「佩西相承の寶券」或は「淨土宗の安心起行は曾て聖光に付屬せる此一紙の法語に至極せり」と云ふて、一枚起請文は先づ佩西の相承なる事を主張し、之に佩西相承、源智相承の別ありとして、此の正流辨に於て兩相承を細說してゐる。而して建曆二年正月二十三日勢觀房源智に賜りたる所謂一枚起請文は、流紫物語に載れる佩西聖光に賜りたる御法語に起請ならびに奥書を加へて、末後遺誓となし給へるものである所以を說いてゐる。次で二祖と源智と信仰內容同一なるのみならず、源智は二祖の正信を隱寗讃嘆し佩西の義を以て我が義としたる事をも附加して說いてゐる。

隆圓は此に附記して、直綱の「法道芝草」の附錄に云ふ、佩西は夢觀に謁りたるものを傳へ聞いたのであらうとの意味の文を批判して、佩西相承を主張し、併せて一休禪師の法然上人を讃ずる偈に付て數言を費してゐる。

要するに吉水遺誓誡論及び此の正流辨に依て、遺誓に對する佩西相承、源智相承の問題が起つたわけで、忍澂は佩西相承を以て正流としたのである。 (平松大眞)

吉水和歌 ❶(日)Yoshi-mizu-wa-ka. ❷散首

❸淨土眞宗教典志第一に云く「極樂寺日近詠覽書。在二本山寶庫一其餘出二古德傳・和語燈錄・十卷傳・桑昌傳・者凡二十首。於レ中入二玉葉集・續千載集・又續後拾遺集・新千載集・新後拾遺集・夫木抄等選一者數首」云々。

ラ

刺摩溯源 ❶(日)Ra-ma-sak-gen. (支)La-mo-so-yuan. 西藏刺麻關源、測查西藏刺麻來源 ❷一卷 ❸存、卍續二乙・二三、三 ❹清守一編 ❺西藏刺麻關源の下を見よ。 ❻光緒一六刊 ❼(京大、藏・二四フ・九)

保形梵志經 ❶(日)Ra-gyō-bon-ji-kyō. (支)Lo-hsing-fan-chih-ching. (巴)D. ⊗ Kassapa-sihanada S. ❸存、長阿含經第一六(大正一・一〇二N. 1, 25)

保形梵志經 ❶(日)Ra-gyō-bon-ji-kyō. 現代意譯保形梵志經 ❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第一長阿含經抄 ❹馬溪了證、林五邦共譯

喇嘛教阿彌陀三尊 ❶(日)Ra-ma-kyō-a-mi-da-san-zon. ❷一葉 ❸存 ❹(龍大、別置)

喇嘛教沿革 ❶(日)Ra-ma-kyō-en-kaku. ❷三卷 ❸存 ❹小柴柄香頂(天保元—明治三八A. D. 1830—1905)著 ❺明治一〇刊(谷大、外大・一一〇八)

喇嘛教極樂曼荼羅 ❶(日)Ra-ma-kyō-goku-raku-man-da-ra. ❷一葉 ❸存 ❹(龍大、別置)

喇嘛教史 ❶(日)Ra-ma-kyō-shi. 和譯西藏文喇嘛教史 ❷一卷 ❸存 ❹守本鯛雅譯 ❺刊本(谷大、餘大・三八六六)

喇嘛教曼荼羅 ❶(日)Ra-ma-kyō-man-da-ra. ❷一軸 ❸存 ❹(龍大、別置)

喇嘛像 ❶(日)Ra-ma-zō. ❷一葉 ❸存 ❹(龍大、別置)

裸堂國師遺稿 ❶(日)Ra-dō-koku-shi-i-kō. ❷一卷 ❸存 ❹裸堂國師遺稿編纂事務所編 ❺明治四一刊 ❻(谷大、餘洋・二三六)(正大、一三九・四四)(叡山、延曆)

螺溪振祖集 ❶(日)Ra-kei-shin-so-shū. (支)Lo-chi-chen-tsu-chi. ❸存、卍續二・五・五 ❹宋元悟編

❺本書は天台山螺溪淨光法師義寂(傳記は本書の錢鑑撰建傳教院碑銘。錢易撰淨光大師行業碑。宋高僧傳七。寶雲振祖集の台州螺溪淨光法師傳。佛祖統紀八。釋門正統二等に出づ)に關する側。寺額。碑銘。塔記。塔銘。讚等を法孫である天台傳教院(義寂が開創の寺)住持元悟(傳記未詳)が編輯したもの。思ふに遺式の遺文集たる「金園集」が作られたのに刺戟され、知禮の遺文集「四明教行錄」が發表されるや、續いて其師たる寶雲義通の遺文集「寶雲振祖集」が編まれた。この教行錄と寶雲振祖集は共に宗曉の編に係る。これによつて義通の師であり且つ道宋天台復興の第一人者たる義寂の遺文集が作られねばならぬ情勢となつた。恐らく此の情況に刺戟されて元悟が本書を編輯したと推定されるのである。其理由は元悟は本書を編しながら跋語も序も附して置かない。これは編者として極めて不注意な點であるが、宋代天台宗中興第一祖の遺文が最後に作られたことを示すものではなからうか。本書は四明教行錄第八に收められ、同第九には寶雲振祖集が收められてゐる。此三書合本して流布本は四明教行錄といつてゐる。本書には吳越錢忠懿王賜淨光法師到三逸。本朝(宋)寺額。建傳教院碑銘。淨光法師行業碑。傳教院建育王石塔記。淨光法師塔銘。丞相李公讚。知府鄭公讚。通慧僧統詩。光仁交德大師詩。食菴(有脫)法師讚。柏庭(義月)法師讚。淨光法師移塔記已上十五種の詩文を收めてある。但し義寂の撰に係るものは一も收めてない。これ恐らく既に散逸して得られなかつた結果であつたらう。

❼刊本(京大、藏・二四レ・一二)(田島德音)

螺蛤老人落草談 ❶(日)Ra-kō-rō-min-raku-sō-dan. ❷一卷 ❸存 ❹天桂傳尊(慶安元—享保二〇A. D. 1648—1735)讀、龍屋編 ❺(參考) 禪籍目錄

螺蛤老人落草談童行訓 ❶(日)Ra-kō-rō-min-raku-sō-dō-zun-nan-kun. ❷一卷 ❸存 ❹指月慧印(元祿二—明和元A. D. 1688—1764) ❺(參考) 禪籍目錄

螺睡錄 ❶(日)Ra-sui-roku. ❸存 ❹臥雲蒙龍 ❺(參考) 禪籍目錄

羅云經 ❶(日)Ra-un-gyō. (支)Lo-yun-ching. (巴) M. 61 Ambalaṭṭhika-Rāhulovāda S. ❸存、中阿含經第三(大正一・四三六A. D. 25, 14)

羅云忍辱經 ❶(日)Ra-un-nin-niku-kyō. (支)Lo-yun-jen-ju-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹(參考) 出三藏記第三、法經錄第三

羅云忍辱經 ❶(日)Ra-un-nin-niku-kyō. (支)Lo-yun-jen-ju-ching. 忍辱經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七六九No. 505、鎌宿七、卍一五・一、北282寬、南249寬、元242寬、明北742當、清742當、麗257無、天282寬、指516無、法523無、至1070上、明南712孝、N. 247 ❹法宝譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 290—306)

❻本經は極めて短い經典で忍辱第一の羅云、舍利弗と共に乞食して、輕薄者に打せられたる事より世尊忍辱の道を說き給へるものである。忍ばざる者は生々殃あり、轉々として輪廻し常に三途に在り、忍ぶ者は所生常に安く、福を受くる事無量である。忍のみ怙むべく忍は安宅にして災怪無く、又神鎧となり衆兵加はらず。忍は大舟となり難を度すべく、忍は良藥となり衆命を濟ふ。世尊の得佛も又忍の致す所、行者忘る事勿れと敎へ給ふ。

❼(參考) 三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第四 (山本快龍)

羅云毋經 ❶(日)Ra-un-mo-kyō. (支)Lo-yun-mu-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第三

羅越城人民請佛經 ❶(日) Ra-etsu-jō-nin-min-shō-butsu-kyō. (支) Lo-yue-ch'eng jen-min ch'ing fo-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹增一阿含經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽

羅漢之記 ❶(日) Ra-kan-no-ki. ❷1巻 ❸仏 ❹羅漢信者の伝記 ❺(支)(書名)

羅漢善子經 ❶(日)Ra-kam-bo-shi-kyō. (支)Lo-han-p'u-tzū-ching. ❷1巻 ❸梵 ❹宋訳 ❺(参考) 田三郎記巻四〔〕〔〕〔〕

明南宋末頃、N.J. 2262 ❹宋法賢（一—成平四A. D. 1001）譯
❺羅睺拏（Rāhula）鬼王が、世間の小兒が生れてから十二歲に至るまでの間に種々の疾病に罹るを哀んで、その疾病を癒す方法を說いたのが、即ち此の經である。小兒に種々の疾病の起るのは、十二曜鬼母が世間に遊行し、晝夜分に於て、常に其の便を伺ひ、小兒の睡眠時に、或は行住坐臥に於て種々の相を現はし、小兒を驚かせ、常惡を失はしめ、斯くして疾病を起さすのである。小兒の發病の時日に依つて、十二曜鬼母の中で、何れの鬼母が病に罹らせて居るのかが解る。その鬼母に應じて、それ相應の呪法を行ずれば小兒の疾病は悉に癒ゆと說かれてある。（神林隆淨）

蘿蔔集 ❶(B) Ra-tuku-shū. ❷一卷 ❸存、續群書類從第一二文筆部
❹文明六年から十四年迄に詠作された聯又は七言絕句等の詩を收錄したもので著者は不明である。一說に著者を瑞溪周鳳としたものもあるが周鳳は文明五年五月八日に壽八十三で入寂してゐるから之れは疑はしい。尙續群書類從所收のものは末尾が缺失してゐる。（高倉永輝）

らいさん ❶(B) Rai-i-san. ❷一冊 ❸存 ❹小谷恭水編 ❺昭和二刊 ❻らいさん刊行會

ラゴラの出家 ❶(B) Ra-go-ra-no-shuk-ke. ❷一冊 ❸存 ❹道鼎泰誠著 ❺大正一四刊 ❻東京修醒社

さ行

さ行行法 ❶(B) Ra-ga-gyō-hō. ❷二冊（內六七現存） ❸存 ❺德川時代寫 ❻（寶龜院）

さ行ゲヨ ❶(B) Ra-ga-gyō-mu. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❻（寶龜院）

さ行ゲヨ私記 ❶(B) Ra-ga-gyō-mu-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❹淨某記 ❺德川末期寫 ❻（金剛三昧院）

來迎院舊事拾遺 ❶(B) Rai-gō-in-kū-ji-shū-i. ❷一卷 ❸存 ❹秀雄記 ❺文政一二寫 ❻（寶光院）

來迎院如法懺法行儀 ❶(B) Rai-gō-in-nyo-hō-sen-pō-gyō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹滿智記 ❺建保三寫 ❻（無動寺）

來迎院略緣起記 ❶(B) Rai-gō-in-ryaku-en-gi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹良秀記 ❺文明一四寫 ❻（如來藏）

來迎讃 ❶(B) Rai-gō-san. 來迎和讃 ❷一卷 ❸存、惠心僧都全集第一 ❹源信（天慶五—寬仁元A. D. 942—1017） ❺來迎和讃の下を見よ。 ❼（參考）淨土依憑經論章疏目錄、淨土眞宗教典志第一

來迎讃註 ❶(B) Rai-gō-san-chū. ❷一卷 ❸存 ❹慧中註 ❺元祿一一寫 ❻（龍大、研眞）

來迎寺再興勸進帳 ❶(B) Rai-gō-ji-sai-kō-kwan-jin-chō. ❷一卷 ❼（參考）天台宗全書刊行豫定書目

來迎寺聚芳 ❶(B) Rai-gō-ji-ju-hō. ❷一冊 ❸存、藝苑叢書第一之內 ❹中野獨吉編 ❺大正一三刊 ❻（龍大、別置）

來迎寺文書附元應寺列祖次第 ❶(B) Rai-gō-ji-mon-jo-hakutai-zen-o-ji-ten-zo-sen-dai. ❸存 ❻寫本（正大、一〇三二・五一）

來迎二十五菩薩像大觀 ❶(B) Rai-gō-ni-jū-go-ro-satsu-zō-tai-kan. ❷一葉 ❸存 ❹日本美術研究會編 ❺大正一三刊 ❻（龍大、別置）

來迎不來迎 ❶(B) Rai-gō-fu-rai-gō. ❸存、雜藝小部集第五之內 ❻寫本（龍大、研眞）

來迎佛 ❶(B) Rai-gō-butsu. ❷一軸 ❸存 ❻刊本（龍大、研史）

來迎和讃 ❶(B) Rai-gō-wa-san. 來迎讃 ❷一卷 ❸存、惠心僧都全集第一之內、國文東方佛教叢書第一輯第八 ❹源信（天慶五—寬仁元A. D. 942—1017） ❺寬和二(A. D. 986)
❻念佛行者を引接せんと阿彌陀佛及び諸聖衆が命終時の行者現前に示現し給ふて、極樂國に往生せしむる狀況を頌る述懷典雅の調律を以て詠出せるものである。
❼（參考）淨土依憑經論章疏目錄、類門類聚籍錄、淨土眞宗教典志第一 ❻寫本（龍大、一一三・六二、二〇五三・一六）（正大、一五五五・五二）

來迎和讃章句義目 ❶(B) Rai-gō-wa-san-shō-ku-gi-moku. ❷一卷 ❸存 ❺天保頃寫 ❻十妙院

來迎和讃略解 ❶(B) Rai-gō-wa-san-ryaku-kai ❸存、十一部雜纂之內 ❹僧鈴（享保八—天明三A. D. 1723—1783）述 ❻寫本（龍大）

來世の有無 ❶(B) Rai-se-no-u-mu. ❷二卷 ❸存、大正文庫第三 ❹高鳥大圓著 ❺大正二刊 ❻東京丙午出版社

來不來辨 ❶(B) Rai-fu-rai-ben. ❸存、機法一體辨義附錄 ❹行照（一—文久二A. D. 1862）述 ❻寫本（龍大、一五〇二・一二六）

來々禪子紀年序 ❶(B) Rai-rai-zen-shi-ki-nen-jo-jo. ❸存、大日本佛教全書第九六梵竺僧禪師語錄之內 ❹竺仙梵僊（正應五—貞和四A. D. 1292—1346）
❺本書は、南岳下二十一世古林清茂禪師の法嗣で、石室祖玖、月林道皎禪師と法眷である元の明州象山縣（浙江寧波府）徐氏に生れた竺仙梵僊禪師の來々禪子の號に就て其の緣由を自叙したのである。禪師は元德元年六月(A. D. 1329) 三十八歲のとき明極楚俊禪師に從つて東渡し、北條高時、足利尊氏、直義等に崇敬せられ鎌倉の建長、淨智、京都の南禪寺等に遷住し、貞和四年七月十六日(A. D. 1348) 壽五十七、臘三十九にして示寂されたのである。即ちこの禪師出生の明州は、定應大師布袋和尙の出られた處で、布袋和尙が街頭に立つて者儒の都人(貴賤の道人)を求め來也來也の問話をされた因緣より來也に關する古林清茂との數番の問答並に古人の問話を擧げ、禪師の述作の沿々來々不盡なりとて其の集に題して來々禪子とし、元泰定四年七月即ち東渡の二年前、三十六歲のとき、古林清茂禪師は

來々禪子歌を試して與へたもので、梵僊これより自ら來々禪子と號した（從つて其の述作にも來々禪子集と名付けた）緣由を述べたものである。（大久保堅瑞）

來々禪子集 ❶(B) Rai-rai-zen-shū. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九六梵竺僧禪師語錄之內 ❹竺仙梵僊（正應五—貞和四A. D. 1292—1346）
❺本書は竺仙梵僊禪師（號來々禪子）の東渡前の詩文集で、卷末には梵僊禪師の雲顯文を收め、渡來三周年の元弘元年十月十五日(A. D. 1331) 四十歲の時、本書が會下の森翹、貴英等によつて編纂上梓されるに至つた緣由を自說して居る。
集には幻々歌、默庵歌及び夢堂曼荼、古鼎銘の序說を附した懷友詩、慈偈、字說等を收めて居り、卷尾に古鼎銘、定山智一、南楚師悅、竺田悟心、思菴紹碧等の題語を附したものである。
❼（參考） 日本禪林撰述書目 ❻元弘元刊（駒大）寫本（京大、藏・二四ラ・二）（大久保堅瑞）

來々禪子尙時集 ❶(B) Rai-rai-zen-shi-shō-ji-shū. 尙時集 ❸存、大日本佛教全書第九六梵竺僧禪師語錄之內 ❹竺仙梵僊（正應五—貞和四A. D. 1292—1346）
❺來々禪子東渡集の下參照。

來々禪子東渡集 ❶(B) Rai-rai-zen-shi-to-to-shū. 東渡集 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九六梵竺僧禪師語錄之內 ❹竺仙梵僊（正應五—貞和四A. D. 1292—1346）
❻來々禪子尙時集の下參照。

來々禪子紀年序 ❶(B) Rai-rai-zen-shi-ki-nen-jo-jo. ❸存、大日本佛教全書第九六梵竺僧禪師語錄之內 ❹竺仙梵僊（正應五—貞和四A. D. 1292—1346）
❻來々禪子尙時集の下參照。

來々禪子歌集 ❶(B) Rai-rai-zen-shi-ka-shū. ❸存、大日本佛教全書第九六梵竺僧禪師語錄之內 ❹竺仙梵僊（正應五—貞和四A. D. 1292—1346）
❻來々禪子竺仙梵僊禪師の東渡以後の詩文を會下の森翹、貴英等が編纂したもので、雪村友梅、中巖圓月、天岸慧廣、清拙正澄等との贈答の詩偈及び山門疏、江湖疏、道友疏等の疏並に祭文等を收めたものである。
梵僊には別に來々禪子東渡語がある。東渡語には、同じく來朝後の述作を耕めたもので、參學門人に與へた法語、書、錄會建長寺に於ける結制垂語及び法語を收めたもので、示衆語要である。また更に來々禪子尙時集といふものもあるが、尙時集は參學者に與へた字說を收めたものである。何れも來々禪子云々と題して居る。來々禪子は梵僊の號で、其の緣由は來々禪子紀に述べられて居る。
❺應永一八寫 ❼（駒大） （大久保堅瑞）

雷山詩集 ❶(B) Rai-zan-shi-shū. ❷七卷 ❸存 ❹大濤慈潮（一—文政九A. D. 1826） ❻寫本（龍大、二〇五二・四七）

雷洲惟然禪師語錄 ❶(B) Rai-shū-i-nen-zen-ji-go-roku. ❷三卷 ❸存 ❹雷洲惟然語、帷眉等編 ❼（參考） 禪籍目錄

雷斧叩耳 ❶(B) Rai-fu-kō-ji. ❷一卷 ❸存 ❹北島道龍（文政五—明治四〇A. D. 1822—1907） ❺明治二七刊 ❻（龍大、研眞）

雷斧叢書 ❶(B) Rai-fu-sō-sho. ❷一冊 ❸存 ❹樋田雷斧（弘化三—昭和九A. D. 1846—1934）著 ❺明治四五刊 ❻東京加持世界社

雷斧卷語 ❶(B) Rai-fu-doku-go. ❷一冊 ❸存 ❹樋田雷斧（弘化三—昭和九A. D. 1846—1934）著 ❺大正六刊 ❻東京良書刊行會

雷斧辨訛 ❶(B) Rai-fu-ben-kwa. ❷一卷 ❸存 ❹性均（延寶七—寶曆七A. D. 1679—1757）述 ❻享保一七(A. D. 1732) 宗全書刊行豫定書目 ❼（參考） 淨土眞宗教典志第二、眞宗全書刊行豫定書目

頼印大僧正行狀繪詞 ❶(B) Rai-in-dai-sō-jō-gyō-jō-e-kotoba. ❷一卷 ❸存、續群書類從第九
❻藤名山座主頼印の元亨三年四月十四日の生誕以後一生の事蹟を繪說したものである。續群所收のものは繪を脫してゐる。

頼我私 ❶(B) Rai-ga-shi. ❷百九十八帖 ❹頼我（嘉元二—康曆元A. D. 1304—1379）

頼慶問答抄 ❶(B) Rai-kei-mon-dō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹頼慶（永祿五—慶長一五A. D. 1562—1610） ❼（參考） 眞言宗全書刊行豫定書目

頼賢實融相承 ❶(B) Rai-ken-jitsu-yū-sō-jō. ❷三通 ❸存 ❹頼賢（建久七—文永一〇A. D. 1196—1273）、實融（寶治元—弘應二A. D. 1247—1329） ❻寫本（高大、寄・一・七〇）

頼吒和羅經 ❶(B) Rai-ta-wa-ra-kyō. (文)Lai-to-i-lo-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹後漢支曜譯 ❼（參考） 開元錄第一五、貞元錄第二四

頼吒和羅經 ❶(B) Rai-ta-wa-ra-kyō. (文)Lai-to-ho-lo-ching. (巴)M. N. 98 Raṭṭhapāla S. 羅漢頼吒和羅經 ❷一卷 ❸存、大正一・八六八 No. 99、續梵八、卍一四・二、北699若、南712若、元705若、明北599寒、清599菁、麗757止、天699若、指661止、法658止、至658仕、明南598闕、N.J. 1594 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253)
❻本經は一に羅漢頼吒和羅經ともいひ、長者子頼吒和羅經の出家物語を說いたものである。
本經は世尊が拘留國から難羅歐吒に遊化せられたとき、長者の子頼吒和羅が世尊の說法に隨喜して、出家を志したが、父母が容易に許さないので、食を絕つて同意せしめ、出家して精進して羅漢となり、十年を經て、歸國して食を乞ふて父母の家の軒に立ち、下婢がこれを知つて主人に報らすや父母は驚いて招じ入れて、山海の珍味に、黃金を山と盛り、もとの妻を呼んで、出家生活をやめさせようとするが、これを斥け、更に拘薩羅王に此の世は老・病・孤獨・貧窮に充つることを說くのである。
本經は法賢譯の護國經とともに、中阿含第一三二經頼吒惒羅經の別譯であつて、巴利文中部八二經 Raṭṭhapāla S. に該當するもの、これらを對照する時は、中阿含のそれと、護國經とは巴利文に該當し、中阿含のそれは巴利文を更に詳述せしもの、然して本經には、他の諸經に見る偈頌を全く缺き長行のみである。
本經のこれに該當する諸經は、いづれも極めて優雅な戲曲的なものであつて、後に

印度學佛教學研究 一の文學者であるか、或は作品として、それを作品として、自分もその一員の中に入つて、其を打ち、學者に和しして、各人の文學者の作品に、多くの人々を出いたく詩人のなかに、彼等を紹介したことを言ひ使くられたるまでに、人口に膾炙せられたるものである。

❻(參考) 田山花袋記卷二一、内藤湖卷二一、藤岡國雄記卷一一、西尾慶卷卷二一、山尾慶卷三

(林太郎氏)

賴吒和羅經 ❶(日) Rai-ta-wa-ra-kyō. (梵)Lai-t'o-ho-lo-ching. 賴吒和羅尼經、賴吒和羅所問寶光天子經、賴吒和羅寶光天子經、寶思惟天子經 ❷一卷 ❸作、大正三・四一一No. 170、開元釋教錄卷六、卍一一・六、宋482頁、明496頁、元490頁、明宋514頁、宮514頁、國486頁、天491頁、和449頁、法470頁、新433頁、明和489頁、Nj. 518 ❹寶思惟譯 ❺西晉天竺沙門(A. D. 270) ❻西晉天竺國の下を見よ。

賴吒和羅所問寶光天子經 ❶(日) Rai-ta-wa-ra-sho-mon-tok-kō-tai-shi-kyō. (梵) Lai-t'o-ho-lo-so-wēn-tē-kuang-tai-tzū-ching. 賴吒和羅所問寶光天子經、賴吒和羅經、寶思惟天子經 ❷一卷 ❸作、大正三・四一一No. 170、開元釋教錄卷六、卍一一・六、宋482頁、明496頁、元490頁、明宋514頁、宮514頁、國486頁、天491頁、和449頁、法470頁、新433頁、明和489頁、Nj. 518 ❹寶思惟譯 ❺西晉天竺沙門(A. D. 270) ❻西晉天竺國の下を見よ。

賴吒和羅經 ❶(日) Rai-ta-wa-ra-kyō. (梵)Lai-t'o-ho-lo-ching. 賴吒和羅經、賴吒和羅尼經、賴吒和羅所問寶光天子經、寶思惟天子經 ❷一卷 ❸作、大正三・四一一No. 170、開元釋教錄卷六、卍一一・六、宋482頁、明496頁、元490頁、明宋514頁、宮514頁、國486頁、天491頁、和449頁、法470頁、新433頁、明和489頁、Nj. 518 ❹寶思惟譯 ❺西晉天竺沙門(A. D. 270) ❻西晉天竺國の下を見よ。

賴吒和羅經 ❶(日) Rai-ta-wa-ra-kyō. (梵)Lai-t'o-ho-lo-ching. (巴)M. N. 82 Raṭhapāla S. ❹作、中阿含經卷四一(大正一・六一四No. 26,132)

賴吒和羅經 ❶(日) Rai-ta-wa-ra-kyō. 現代意譯賴吒和羅經 ❹作、現代意譯賴吒和羅經卷一一中阿含經卷 ❺李世傑、林太郎共譯

賴吒詩羅經 ❶(日) Rai-ta-wa-ra-kyō. (梵)Lai-t'o-yū-lo-ching. ❷一卷 ❸作 ❹宋譯 ❺(參考) 田山花袋記卷四、西尾慶卷二一、卷一六、貞元釋卷四、卷二四

賴尊摩大臣施設會經 ❶(日) Rai-un-sei-tai-shi-tō-ge. (梵)Li-yūn-ch'i-ta-shih-ta-chieh. 賴尊施會經 ❹作、賴尊施會經卷四

賴尊三寶諸天說 ❶(日) Rai-kyō-sam-bō-sho-ten-setsu. 賴尊天心(同書三一卷第十四 A. D. 1657—1716—) ❷貞享三年 ❸(宋天、宋・二〇三八)

賴教諸宿經 ❶(日) Rai-kyō-sho-tō-kyō. (梵)Li-ching-chu-t'a-ching. ❷一卷 ❸宋譯 ❹(參考) 田山花袋記卷四、貞元釋卷一一、西尾慶卷五、貞元釋卷八、卷二四

賴樂記科註 ❶(日) Rai-san-gyō-kwa-chū. ❷三卷 ❸宋光(宋和尚一)譯 (宋A. D. 1622—1680) ❹(參考) 佐佐木道雄卷卷三

賴樂法行記 ❶(日) Rai-san-saku-gyō-ki. ❷四卷 ❸宋光(宋和尚一)譯 (宋A. D. 1240—1321)譯 ❹(參考) 佐佐木道雄卷卷二

賴樂三昧作法 ❶(日) Rai-san-sam-mai-sa-hō. ❷一卷 ❸作 ❹佐佐木道雄卷代卷 ❺(參考)

賴樂文 ❶(日) Rai-sam-mon. (梵) Li-ch'an-wēn. 賴樂文一卷 ❷一卷 ❸作、大正八五・一三〇三No. 2854

❹本卷は賴樂田土右衛門本卷にしてマキ和不折氏の會藏たり。此記に「賴樂三昧作法第乙卷」とあるに、それは賴樂三昧作法の第乙卷の意味にて、此の文は中國の禪宗の宗祖の禪師たる人々の言行を記したる語錄の一種なるべし。

礼部

礼部

礼部

麗北兩藏相違補闕錄 ❶(日)Rai-hoku-ryō-zō-sō-i-ho-ketsu-roku. ❷一卷 ❸存、高麗藏本書寫目錄＝合綴 ❹寶治重校 ❺享保一五(A. D. 1730)

❻本書は思濟門下の寶治が重校せる目錄で、思濟が黃檗藏を建仁寺の高麗藏に對校せる時、檗藏に無くまた經文の甚しく異あるものを錄出せるものなり。その凡例に一、建仁寺大藏高麗經本、鼎黃檗北藏經本、對檢之時、麗藏有經本、北藏無之者、以爲闕本、應知。一、雖兩藏共有經本、而經文共有異異、不能對校者、以名相違應知。とあり、その終に闕本七十六部合五百二拾六卷、相違二十過合二十三卷、總計九十六部五百四十九卷と記し、享保十五年庚戌晩秋日の年紀あり。

❼寫本(京大、藏・二一ｎ・二) (藤愛補範)

洛越關譯旁觀記 ❶(日)Raku-etsu-ka-ku-bu-kwan-ki. ❷一卷 ❸存 ❹頓成(一嘉永二A. D. 1849—) ❺明治四一寫

❻(谷大、宗大・一一八一)

洛山寺觀音落菩薩驗記 ❶(日)Raku-san-ji-kwan-on-raku-b-r-satsu-ken-ki. ❷一卷 ❸存 ❹(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

洛山寺事蹟 ❶(日)Raku-san-ji-ji-seki. ❷一卷 ❸存 ❹(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

洛又經 ❶(日)Raku-sha-kyō (支)Luo-ch'a-ch'ing. 洛叉陀羅尼經 ❷一卷 ❸存、大正二一・九〇七No. 1340、貞觀八、卍一五・五、北1354葉、南1254葉、元1248葉、明北259臨、清259臨、龍1242高、天1234葉、法1356輪、至749薄、明南912夙、Nj. 894 ❹宋法賢(一成平四A. D. 1001)譯

洛又陀羅尼經 ❶(日)Raku-sha-da-ra-ni-kyō. (支)Luo-ch'a-t'o-lo-ni-ching. 洛叉經 ❷一卷 ❸存、大正二一・九〇七No. 1340、貞觀八、卍一五・五、北1354葉、南1254葉、元1248葉、明北259臨、清259臨、龍1242高、天1234葉、法1356輪、至749薄、明南912夙、Nj. 894 ❹宋法賢(一成平四A. D. 1001)譯

❺世尊が阿難に授けられた陀羅尼である。この陀羅尼を得て、能く護持するものは、その功德廣大にして、洛叉(laksa十萬)の佛陀の心眞言を護持する功德に等しく、大福德聚を得、その人の無量の重罪を滅することを得と經には明してある。

(神林隆淨)

洛城東山建仁禪師始祖明庵西公禪師塔銘 ❶(日)Raku-jō-higashi-yama-ken-nin-zen-ji-shi-so-mei-an-sai-kō-zen-ji-ki-mei. 明庵西公禪師塔銘 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹如圓撰 ❺明庵西公禪師塔銘の下を見よ。

洛西圓宗寺記 ❶(日) Raku-sai-en-shū-ji-ki. ❷一卷 ❸存 ❹眞題記 ❺寬政一一刊 ❻(無動寺)

洛西長時院大心律師傳 ❶(日) Raku-sai-chō-ji-in-dai-shin-ri-shi-den. ❷一卷 ❸存 ❹思譽晉濱(寶曆七—天保四A. D. 1757—1833)撰 ❺刊本(正大、一五一六・二四六)

洛東華頂義山和尙行狀記並要解 ❶(日) Raku-tō-kwa-chō-ri-sa-n-wa-jō-gyō-jō-ki-narabi-yō-ge. 義山和尙行狀記並要解 ❷一卷 ❸存、淨土宗全書第一八 ❹河燕(寬文九—延享二A. D. 1669—1745)撰 ❺義山和尙行狀記並要解の下を見よ。 ❻寬保元刊 ❼谷大・宗大・四八五×正大、一五一六、二一四)

洛東山觀勝寺中興大圓阿闍梨事故 ❶(日) Raku-tō-san-kwan-shō-ji-chū-kō-dai-en-a-jya-ri-ji-ko. ❷一卷 ❸存 ❹師璧(寬永三—寶永七 A. D. 1626—1710) ❺寫本(京大、藏・二四ヲ・二)

洛東禪林變相辨疑 ❶(日)Raku-tō-zen-rin-hen-sō-ben-gi. ❷一卷 ❸存 ❹復風遙 ❺天保一五寫 ❻(谷大、宗大・二八〇二)

洛東多聞院本尊出現記 ❶(日) Raku-tō-ta-mon-in-hon-son-shutsu-gen-ki. ❷一軸 ❸存 ❹天文二寫 ❺(寶菩提院)

洛東大佛殿鐘銘 ❶(日) Raku-tō-dai-butsu-den-shō-mei. ❷一卷 ❸存、中古叢書第一三一册之四 ❹刊本(帝國、ゆ・三)

洛東八宗法事記 ❶(日) Raku-tō-hat-shū-hō-ji-ki. 洛東登國八宗法事記 ❷一卷 ❸存 ❹祐俊(慶長六—天和二A. D. 1601—1682) ❺(參考) 眞宗全書刊行豫定書目

洛東法勝寺中興慈威和尙傳 ❶(日) Raku-tō-hos-sō-ji-chū-kō-ji-i-sho-den. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、二九六六・八)

洛東豐國八宗法事記 ❶(日) Raku-tō-hō-koku-hat-shū-hō-ji-ki. 洛東八宗法事記 ❷一卷 ❸存 ❹祐俊(慶長六—天和二A. D. 1601—1682) ❺寫文一〇(A. D. 1670)六月 ❻(參考) 淨土眞宗教典志第二

洛北等持院圖 ❶(日) Raku-hoku-tō-ji-in-zu. ❷一枚 ❸存 ❹(帝國、亥・一四五)

洛陽伽藍記 ❶(日)Raku-yō-ga-ran-ki. (支) Lo-yang-ch'ieh-lan-chi. ❷五卷 ❸存、大正五一・九九九No. 2092、虞魏叢書六・一六—一七 ❹楊街之 ❺元魏武定五(A. D. 547)

❻後魏は武帝に依て江北を統一したが、帝は所謂三武一宗の法難の武帝の間一人で、道教を信じ、佛教を迫害し、その性質狂暴にして多殺を好んだから、遂に区下の爲に弑せられるに至つた。その孫文成帝位に即くに及び、廢佛を息め再び佛教の興隆を計り、專ら民力の休養に努めたから、民心は次第に安定し、次の獻文帝に至るに及び、政治上の諸般の改革を行ひ、太和十七年(A. D. 493)に都を洛陽に遷し、國號を元と改め、文物百般漢族の文化を摸倣し、佛教の興隆を計つたから、この時代が魏代を通じての黃金時代を呈して居つた。

茲に、この時に遷都された洛陽は佛教の最も古くから弘まつた所であつて、東來西

城沙門の如きも多くはこの地に足場を求めて譯經や布教に從事したから、常に佛教の中心地として佛教寺院の如きも、晉の永嘉年中に於て既に四十二僧寺を算して居つた。其後、後魏武帝の廢佛の爲一時衰退せざるを得なかつたが、文成帝以來、再び佛教を信ずることが篤かつたから、洛陽の寺院は年々增加する一方であつた。茲に、元魏の高祖(孝文帝のこと)が洛陽に遷都した後に於ては、光宅寺の僧伽羅、白塔寺の菩法師の如き高僧が出でて王室重臣の信仰を博したから、王侯貴族は競ふてその邸宅や財物を寄捨し、寺塔を修造して、洛陽城の內外は一時に塔廟櫛比して、大小の寺院を合して一千三百餘箇寺を數へるに至つたと言はれる。

然るに、孝文帝の死後宣武帝その後を繼いだが、政治漸く亂れ、次で孝明帝が立ち、胡太后政を攝したが素行修まらず、紀綱又紊れ、殊に佛教に溺信して寺塔の建立に國帑を消費し過ぎたから、財政不足して文武官の給養意の如くならず、地方の鎭兵悉く叛き內亂內訌を搖け、斯くして遂に孝武帝の永熙三年(A. D. 534)冬十月、朝方の鎭將高歡が浩河王の童子儁見を推して天子となして、舊帝孝武帝を洛陽から退放したから、帝は關西の大都督であつた宇文泰を賴つて長安に據ることとなり、爰に東魏と西魏が對立するに至つた。乍併、東魏の孝靜帝も長く洛陽に留ることが出來ないで、都を鄴に遷さざるを得なかつた。

如斯、東魏が洛陽を捨てて鄴に都を遷した時には、洛陽の佛寺の僧尼にして孝靜帝に隨つて鄴に遷つたものも尠くなかつた上に、洛陽に殘つて居つたものも、其等の寺院を護持して居つた禮越が既に洛陽に居らなくなつた結果として、直ちに乾廢に歸して終つた。本記の著者楊衒之は東魏の撫軍府司馬の職にあり(法苑珠林は鄴都城郭守となし、廣弘明集は祕書監となして居る)。職務を以て武定五年(武定は孝靜帝の第三の改元、A. D. 547)に洛陽を巡閱した時に、當時未だ都を鄴に遷してから僅かに十二三年にしかならないに拘らず、城郭は崩壞し、宮室は傾覆し、寺觀は灰燼し、昔日の壯觀全くその影を失ひ、京城の表裏一千餘の寺院も邈邈として鞏塵を聞くことさへ稀であつたのを見て慨歎に堪えず、之をこの傳に捨て置かんには幾多の由緒ある寺院や、其等の魏代に於ける壯觀も後世何人にも知られなくなるだらうことを虞れ、その舊觀が全然失はれない前に當時の威容を後世に傳へんとして筆を執つたものが即ち本記である。

尤も、本記はその當時一千三百餘箇寺を算した洛陽寺院の全般に亘つて記載したものではなく、特にその中の著名なもののみを紹介したものに過ぎないけれども、本記の記載の仕方は、一箇の寺院を說明する場合に於ても、その設立者の明かなるものは必ずその名を擧げ、又其人に關する傳記や、其の寺院に起つた出來事、或はその寺院の住僧と朝野の名士との間に存した交涉を記載し、或は其等の寺院に存した碑傳說、或はその當時民間に傳はつた怪奇、西域諸國の風土記等迄も紹介し、又其等の寺院の所在地を說明する場合に於ても、その當時有名であつた邸宅、苑囿、橋梁、城門等を標準にその位置を示して居るから、其等を通じてこの時代の佛教文化の狀態、或は當時の政治民情と佛教との關係とが窺ひ知られるのみならず、更に廣く正史に書洩らされた種々な事件の背景をなした出來事や、又その時代の洛陽の地志の知きもの迄明かにせられ、歷史研究上實に得難い資料となるものである。特に第五卷の凝圓寺の中に記載せる宋雲の西域歷遊記傳の如きは極めて貴重な材料である。

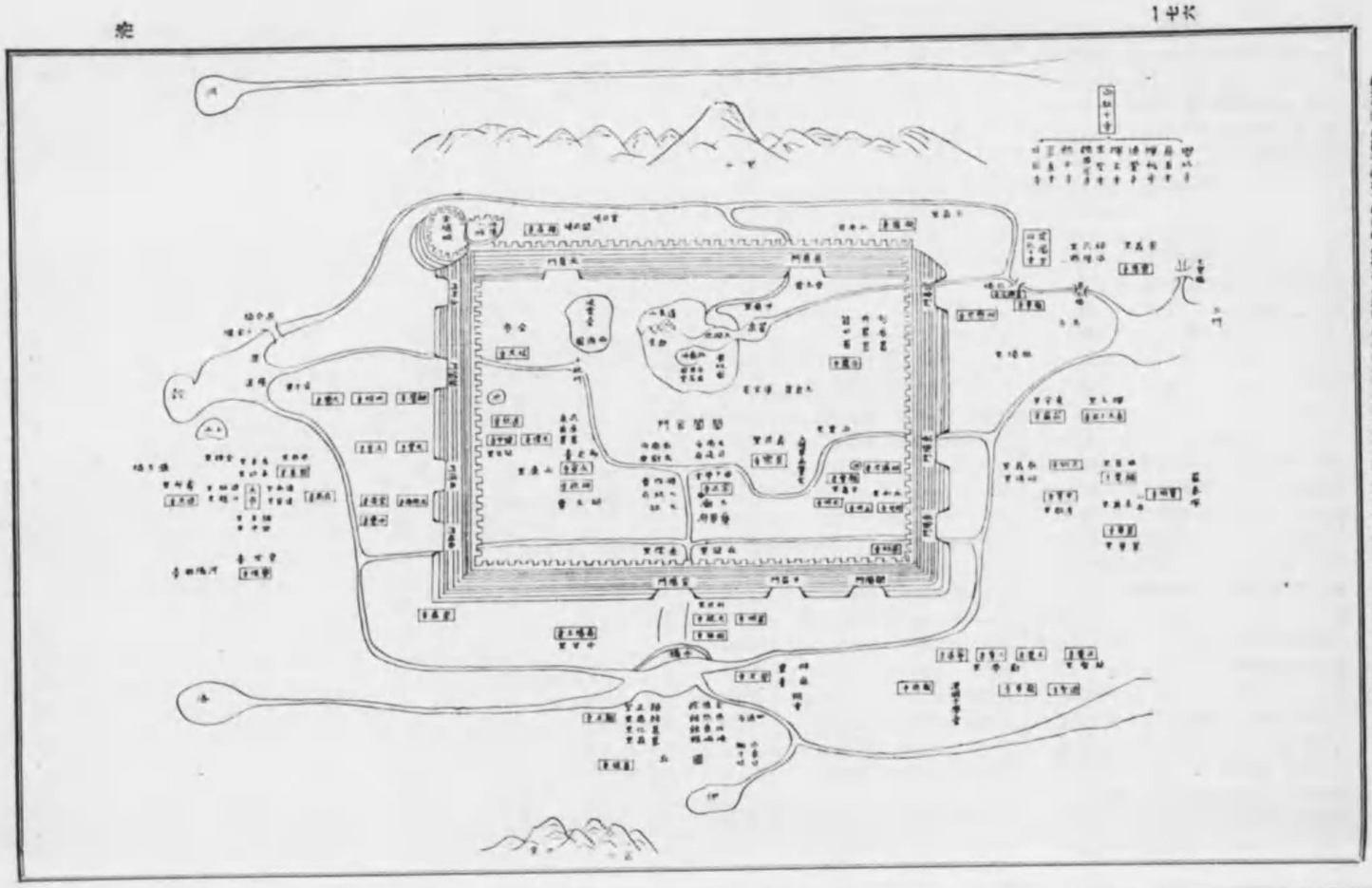
本記は全五卷より成り、開卷先づその序に於て、魏國の推移並にその時代の佛教の情勢を述べ、以て本記著作の動機因緣を記し、續いて洛陽城を圍む東西南北の門名を擧げて、其等の諸門の造立の因緣を記し、これを標準にして、第一卷は城內寺院を、第二卷は城東寺院を、第三卷は城南寺院を、第四卷は城西寺院を、及び第五卷は城北寺院を夫々紹介記述して居る。勿論、こゝに錄されて居るものは、當時の洛陽に存した寺院中でも特に有名なるものばかりを大小とりまぜて凡そ五十八箇寺を擧げて居るものでは、今、左に其等の寺院名、並に簡單な地圖を揭げて置かう。

(一)城內 1、永寧寺、熙平元年靈太后胡氏所立也、外國所獻經像皆在此寺。2、宗正寺。3、建中寺、菩泰元年尙書令樂平王爾朱世隆所立也。4、太倉寺。5、長秋寺、劉騰所立也。6、瑤光寺、世宗宣武帝所立也。7、景樂寺、太傅清河文獻王懌所立也(懌是孝文皇帝之子、宣武皇帝之弟)。8、昭儀尼寺、閹官等所立也。9、願會寺、中書令人王明拾宅所立也。10、光明寺。11、胡統寺、太后從姑所立也。12、修梵寺。13、嵩明寺。14、景林寺。15、司農寺。

(二)城東 1、明慧尼寺、彭城武宣王勰所立也。2、龍華寺、宿衛羽林虎賁等所立也。3、瓊塔寺。4、宗聖寺。5、崇眞寺。6、魏昌尼寺、閹官瀛州刺史李次寧所立也。7、景興尼寺、閹官等所共立也。8、太康寺、龍驤將軍王溶、平吳之後始立。9、莊嚴寺。10、秦太上君寺、胡太后所立也。11、正始寺、百官等所立也。12、平等寺、廣平武穆王懷捨宅所立也。13、景寧寺、太保司徒公楊椿所立也。14、寶明寺。15、歸覺寺

(三)城南 1、景明寺、宣武皇帝所立也。2、大統寺。3、招提寺。4、雙女寺、(東寺、秦皇統所建—西寺、秦太后所立)。5、報恩寺、高祖孝文皇帝所立也。6、文覺寺。7、三寶寺。8、寧遠寺。9、正覺寺、尙書令王肅所立也。10、龍華寺、廣陵王所立也、11、追聖寺、北海王所立也。12、歸正寺、蕭衍子西豐侯蕭正德捨宅所立也。13、菩提寺、西域胡人所立也。14、高陽王寺、高陽王雍之宅也。15、崇虛寺、漢之蹄龍園也。

(四)城西 1、冲覺寺、太傅清河王懌捨宅所立也。2、宣忠寺、侍中司州牧城陽王所立也。3、王典御寺、閹官楊王秩海所立也。4、白馬寺、漢明帝所立也。佛入中國之始寺。5、光寶寺、菩朝石塔寺今爲光寶寺也。6、



【ラ】

洛陽伽藍記 ㊐(日) Raku-yō-ga-ran-ki. (支) Lo-yang-ch'ieh-lan-chi. ㊐1巻 ㊐作 ㊐(正大)1〇四・二十七)

洛陽伽藍記新校釈 ㊐(日) Raku-yō-ga-ran-ki-tsuketari-shū-shō. (支) Lo-yang-yang-ch'ieh-lan-chi & chi-chêng. ㊐二巻 ㊐作 ㊐(正大)1〇四・二十七)

洛陽観音霊験感応分 ㊐(日) Raku-yō-kwann-on-rei-gen-shin-shō. ㊐1巻 ㊐作 ㊐高麗 ㊐(大正大蔵経・二一一九)

洛陽王山記 ㊐(日)Raku-yō-go-san-ki. ㊐1巻 ㊐作 ㊐(参考) 大日本史史料 全巻収録刊行中

洛陽普願寺雅記 ㊐(日) Raku-yō-sei-gwan-ji-en-gi. ㊐1巻 ㊐作 大日本史史料 全巻収録 1 1 十七 詳細不明

㊐(参考) 日本紀略 ㊐ 平安初期の成立か 現在は失われた 洛陽の寺院 寺院伽藍の変遷 平安時代の日本の仏教 ㊐ 平安時代の成立か 現在は失われた 洛陽の寺院 寺院伽藍の変遷 平安時代の日本の仏教

洛陽法華験記 ㊐(日) Raku-yō-hok-ke-gak-kō-reki-dai-tō. ㊐1巻 ㊐作 ㊐(正大)1〇四 ㊐(正大)1・八・八)

洛陽龍門志 ㊐(日) Raku-yō-ryū-mon-shi. (支)Lo-yang-lung-mên-chih. ㊐1巻 ㊐作 ㊐宋代(正大)

[illegible]

洛陽名園記 ㊐(日) Raku-yō-ha-ku-ba-ji-ki. (支)Lo-yang-pai-ma-ssū-chi. ㊐1巻 ㊐作 ㊐宋代(正大)1〇四・二十七)

洛陽伽藍記・法華験記・三宝感通録 ㊐(日) Raku-yō-hak-ken-gi-shō-shi-san-tai-sek-kyō-taku-hen. ㊐四巻 ㊐作 ㊐(正大)四四)

洛陽観音感応三世因果経 ㊐(日) Raku-yō-han-ju-sam-mai-in-en-gi. ㊐1巻 ㊐作 ㊐(参考) 天台宗全書 所収 観音 三昧

洛陽観音三昧感応記 ㊐(日) Raku-yō-han-ju-sam-mai-in-ki. 観音三昧感応記 ㊐1巻 ㊐作 前巻同様 巻末に「天暦元年」「応和元年」「天禄元年」「天延元年」「天元元年」「天元二年」「天元三年」「天元四年」「天元五年」「天元六年」「天元七年」「天元八年」「天元九年」「天元十」「天元十一」「天元十二」「天元十三」「天元十四」「天元十五」「天元十六」「天元十七」「天元十八」「天元十九」「天元二十」「天元二十一」「天元二十二」「天元二十三」「天元二十四」「天元二十五」「天元二十六」「天元二十七」「天元二十八」「天元二十九」「天元三十」「天元三十一」「天元三十二」「天元三十三」「天元三十四」「天元三十五」「天元三十六」「天元三十七」「天元三十八」「天元三十九」「天元四十」「天元四十一」「天元四十二」「天元四十三」「天元四十四」「天元四十五」「天元四十六」「天元四十七」「天元四十八」「天元四十九」「天元五十」「天元五十一」「天元五十二」「天元五十三」「天元五十四」「天元五十五」「天元五十六」「天元五十七」「天元五十八」「天元五十九」「天元六十」「天元六十一」「天元六十二」「天元六十三」「天元六十四」「天元六十五」「天元六十六」「天元六十七」「天元六十八」「天元六十九」「天元七十」「天元七十一」「天元七十二」「天元七十三」「天元七十四」「天元七十五」「天元七十六」「天元七十七」「天元七十八」「天元七十九」「天元八十」「天元八十一」「天元八十二」「天元八十三」「天元八十四」「天元八十五」「天元八十六」「天元八十七」「天元八十八」「天元八十九」「天元九十」「天元九十一」「天元九十二」「天元九十三」「天元九十四」「天元九十五」「天元九十六」「天元九十七」「天元九十八」「天元九十九」「天元百」「天元百一」「天元百二」「天元百三」「天元百四」「天元百五」「天元百六」「天元百七」「天元百八」「天元百九」「天元二百」「天元二百一」「天元二百二」「天元二百三」「天元二百四」「天元二百五」「天元二百六」「天元二百七」「天元二百八」「天元二百九」「天元三百」「天元三百一」「天元三百二」「天元三百三」「天元三百四」「天元三百五」「天元三百六」「天元三百七」「天元三百八」「天元三百九」「天元四百」「天元四百一」「天元四百二」「天元四百三」「天元四百四」「天元四百五」「天元四百六」「天元四百七」「天元四百八」「天元四百九」「天元五百」「天元五百一」「天元五百二」「天元五百三」「天元五百四」「天元五百五」「天元五百六」「天元五百七」「天元五百八」「天元五百九」「天元六百」「天元六百一」「天元六百二」「天元六百三」「天元六百四」「天元六百五」「天元六百六」「天元六百七」「天元六百八」「天元六百九」「天元七百」「天元七百一」「天元七百二」「天元七百三」「天元七百四」「天元七百五」「天元七百六」「天元七百七」「天元七百八」「天元七百九」「天元八百」「天元八百一」「天元八百二」「天元八百三」「天元八百四」「天元八百五」「天元八百六」「天元八百七」「天元八百八」「天元八百九」「天元九百」「天元九百一」「天元九百二」「天元九百三」「天元九百四」「天元九百五」「天元九百六」「天元九百七」「天元九百八」「天元九百九」「天元千」「天元千一」「天元千二」「天元千三」「天元千四」「天元千五」「天元千六」「天元千七」「天元千八」「天元千九」「天元二千」「天元二千一」「天元二千二」「天元二千三」「天元二千四」「天元二千五」「天元二千六」「天元二千七」「天元二千八」「天元二千九」「天元三千」「天元三千一」「天元三千二」「天元三千三」「天元三千四」「天元三千五」「天元三千六」「天元三千七」「天元三千八」「天元三千九」「天元四千」「天元四千一」「天元四千二」「天元四千三」「天元四千四」「天元四千五」「天元四千六」「天元四千七」「天元四千八」「天元四千九」「天元五千」「天元五千一」「天元五千二」「天元五千三」「天元五千四」「天元五千五」「天元五千六」「天元五千七」「天元五千八」「天元五千九」「天元六千」「天元六千一」「天元六千二」「天元六千三」「天元六千四」「天元六千五」「天元六千六」「天元六千七」「天元六千八」「天元六千九」「天元七千」「天元七千一」「天元七千二」「天元七千三」「天元七千四」「天元七千五」「天元七千六」「天元七千七」「天元七千八」「天元七千九」「天元八千」「天元八千一」「天元八千二」「天元八千三」「天元八千四」「天元八千五」「天元八千六」「天元八千七」「天元八千八」「天元八千九」「天元九千」「天元九千一」「天元九千二」「天元九千三」「天元九千四」「天元九千五」「天元九千六」「天元九千七」「天元九千八」「天元九千九」「天元百千」「天元百千一」「天元百千二」「天元百千三」「天元百千四」「天元百千五」「天元百千六」「天元百千七」「天元百千八」「天元百千九」「天元二百千」「天元二百千一」「天元二百千二」「天元二百千三」「天元二百千四」「天元二百千五」「天元二百千六」「天元二百千七」「天元二百千八」「天元二百千九」「天元三百千」「天元三百千一」「天元三百千二」「天元三百千三」「天元三百千四」「天元三百千五」「天元三百千六」「天元三百千七」「天元三百千八」「天元三百千九」「天元四百千」「天元四百千一」「天元四百千二」「天元四百千三」「天元四百千四」「天元四百千五」「天元四百千六」「天元四百千七」「天元四百千八」「天元四百千九」「天元五百千」「天元五百千一」「天元五百千二」「天元五百千三」「天元五百千四」「天元五百千五」「天元五百千六」「天元五百千七」「天元五百千八」「天元五百千九」「天元六百千」「天元六百千一」「天元六百千二」「天元六百千三」「天元六百千四」「天元六百千五」「天元六百千六」「天元六百千七」「天元六百千八」「天元六百千九」「天元七百千」「天元七百千一」「天元七百千二」「天元七百千三」「天元七百千四」「天元七百千五」「天元七百千六」「天元七百千七」「天元七百千八」「天元七百千九」「天元八百千」「天元八百千一」「天元八百千二」「天元八百千三」「天元八百千四」「天元八百千五」「天元八百千六」「天元八百千七」「天元八百千八」「天元八百千九」「天元九百千」「天元九百千一」「天元九百千二」「天元九百千三」「天元九百千四」「天元九百千五」「天元九百千六」「天元九百千七」「天元九百千八」「天元九百千九」「天元千千」「天元千千一」「天元千千二」「天元千千三」「天元千千四」「天元千千五」「天元千千六」「天元千千七」「天元千千八」「天元千千九」「天元二千千」「天元二千千一」「天元二千千二」「天元二千千三」「天元二千千四」「天元二千千五」「天元二千千六」「天元二千千七」「天元二千千八」「天元二千千九」「天元三千千」「天元三千千一」「天元三千千二」「天元三千千三」「天元三千千四」「天元三千千五」「天元三千千六」「天元三千千七」「天元三千千八」「天元三千千九」「天元四千千」「天元四千千一」「天元四千千二」「天元四千千三」「天元四千千四」「天元四千千五」「天元四千千六」「天元四千千七」「天元四千千八」「天元四千千九」「天元五千千」「天元五千千一」「天元五千千二」「天元五千千三」「天元五千千四」「天元五千千五」「天元五千千六」「天元五千千七」「天元五千千八」「天元五千千九」「天元六千千」「天元六千千一」「天元六千千二」「天元六千千三」「天元六千千四」「天元六千千五」「天元六千千六」「天元六千千七」「天元六千千八」「天元六千千九」「天元七千千」「天元七千千一」「天元七千千二」「天元七千千三」「天元七千千四」「天元七千千五」「天元七千千六」「天元七千千七」「天元七千千八」「天元七千千九」「天元八千千」「天元八千千一」「天元八千千二」「天元八千千三」「天元八千千四」「天元八千千五」「天元八千千六」「天元八千千七」「天元八千千八」「天元八千千九」「天元九千千」「天元九千千一」「天元九千千二」「天元九千千三」「天元九千千四」「天元九千千五」「天元九千千六」「天元九千千七」「天元九千千八」「天元九千千九」「天元百千千」「天元百千千一」「天元百千千二」「天元百千千三」「天元百千千四」「天元百千千五」「天元百千千六」「天元百千千七」「天元百千千八」「天元百千千九」「天元二百千千」「天元二百千千一」「天元二百千千二」「天元二百千千三」「天元二百千千四」「天元二百千千五」「天元二百千千六」「天元二百千千七」「天元二百千千八」「天元二百千千九」「天元三百千千」「天元三百千千一」「天元三百千千二」「天元三百千千三」「天元三百千千四」「天元三百千千五」「天元三百千千六」「天元三百千千七」「天元三百千千八」「天元三百千千九」「天元四百千千」「天元四百千千一」「天元四百千千二」「天元四百千千三」「天元四百千千四」「天元四百千千五」「天元四百千千六」「天元四百千千七」「天元四百千千八」「天元四百千千九」「天元五百千千」「天元五百千千一」「天元五百千千二」「天元五百千千三」「天元五百千千四」「天元五百千千五」「天元五百千千六」「天元五百千千七」「天元五百千千八」「天元五百千千九」「天元六百千千」「天元六百千千一」「天元六百千千二」「天元六百千千三」「天元六百千千四」「天元六百千千五」「天元六百千千六」「天元六百千千七」「天元六百千千八」「天元六百千千九」「天元七百千千」「天元七百千千一」「天元七百千千二」「天元七百千千三」「天元七百千千四」「天元七百千千五」「天元七百千千六」「天元七百千千七」「天元七百千千八」「天元七百千千九」「天元八百千千」「天元八百千千一」「天元八百千千二」「天元八百千千三」「天元八百千千四」「天元八百千千五」「天元八百千千六」「天元八百千千七」「天元八百千千八」「天元八百千千九」「天元九百千千」「天元九百千千一」「天元九百千千二」「天元九百千千三」「天元九百千千四」「天元九百千千五」「天元九百千千六」「天元九百千千七」「天元九百千千八」「天元九百千千九」「天元千千千」「天元千千千一」「天元千千千二」「天元千千千三」「天元千千千四」「天元千千千五」「天元千千千六」「天元千千千七」「天元千千千八」「天元千千千九」「天元二千千千」「天元二千千千一」「天元二千千千二」「天元二千千千三」「天元二千千千四」「天元二千千千五」「天元二千千千六」「天元二千千千七」「天元二千千千八」「天元二千千千九」「天元三千千千」「天元三千千千一」「天元三千千千二」「天元三千千千三」「天元三千千千四」「天元三千千千五」「天元三千千千六」「天元三千千千七」「天元三千千千八」「天元三千千千九」「天元四千千千」「天元四千千千一」「天元四千千千二」「天元四千千千三」「天元四千千千四」「天元四千千千五」「天元四千千千六」「天元四千千千七」「天元四千千千八」「天元四千千千九」「天元五千千千」「天元五千千千一」「天元五千千千二」「天元五千千千三」「天元五千千千四」「天元五千千千五」「天元五千千千六」「天元五千千千七」「天元五千千千八」「天元五千千千九」「天元六千千千」「天元六千千千一」「天元六千千千二」「天元六千千千三」「天元六千千千四」「天元六千千千五」「天元六千千千六」「天元六千千千七」「天元六千千千八」「天元六千千千九」「天元七千千千」「天元七千千千一」「天元七千千千二」「天元七千千千三」「天元七千千千四」「天元七千千千五」「天元七千千千六」「天元七千千千七」「天元七千千千八」「天元七千千千九」「天元八千千千」「天元八千千千一」「天元八千千千二」「天元八千千千三」「天元八千千千四」「天元八千千千五」「天元八千千千六」「天元八千千千七」「天元八千千千八」「天元八千千千九」「天元九千千千」「天元九千千千一」「天元九千千千二」「天元九千千千三」「天元九千千千四」「天元九千千千五」「天元九千千千六」「天元九千千千七」「天元九千千千八」「天元九千千千九」「天元百千千千」「天元百千千千一」「天元百千千千二」「天元百千千千三」「天元百千千千四」「天元百千千千五」「天元百千千千六」「天元百千千千七」「天元百千千千八」「天元百千千千九」「天元二百千千千」「天元二百千千千一」「天元二百千千千二」「天元二百千千千三」「天元二百千千千四」「天元二百千千千五」「天元二百千千千六」「天元二百千千千七」「天元二百千千千八」「天元二百千千千九」「天元三百千千千」「天元三百千千千一」「天元三百千千千二」「天元三百千千千三」「天元三百千千千四」「天元三百千千千五」「天元三百千千千六」「天元三百千千千七」「天元三百千千千八」「天元三百千千千九」「天元四百千千千」「天元四百千千千一」「天元四百千千千二」「天元四百千千千三」「天元四百千千千四」「天元四百千千千五」「天元四百千千千六」「天元四百千千千七」「天元四百千千千八」「天元四百千千千九」「天元五百千千千」「天元五百千千千一」「天元五百千千千二」「天元五百千千千三」「天元五百千千千四」「天元五百千千千五」「天元五百千千千六」「天元五百千千千七」「天元五百千千千八」「天元五百千千千九」「天元六百千千千」「天元六百千千千一」「天元六百千千千二」「天元六百千千千三」「天元六百千千千四」「天元六百千千千五」「天元六百千千千六」「天元六百千千千七」「天元六百千千千八」「天元六百千千千九」「天元七百千千千」「天元七百千千千一」「天元七百千千千二」「天元七百千千千三」「天元七百千千千四」「天元七百千千千五」「天元七百千千千六」「天元七百千千千七」「天元七百千千千八」「天元七百千千千九」「天元八百千千千」「天元八百千千千一」「天元八百千千千二」「天元八百千千千三」「天元八百千千千四」「天元八百千千千五」「天元八百千千千六」「天元八百千千千七」「天元八百千千千八」「天元八百千千千九」「天元九百千千千」「天元九百千千千一」「天元九百千千千二」「天元九百千千千三」「天元九百千千千四」「天元九百千千千五」「天元九百千千千六」「天元九百千千千七」「天元九百千千千八」「天元九百千千千九」「天元千千千千」「天元千千千千一」「天元千千千千二」「天元千千千千三」「天元千千千千四」「天元千千千千五」「天元千千千千六」「天元千千千千七」「天元千千千千八」「天元千千千千九」「天元二千千千千」「天元二千千千千一」「天元二千千千千二」「天元二千千千千三」「天元二千千千千四」「天元二千千千千五」「天元二千千千千六」「天元二千千千千七」「天元二千千千千八」「天元二千千千千九」「天元三千千千千」「天元三千千千千一」「天元三千千千千二」「天元三千千千千三」「天元三千千千千四」「天元三千千千千五」「天元三千千千千六」「天元三千千千千七」「天元三千千千千八」「天元三千千千千九」「天元四千千千千」「天元四千千千千一」「天元四千千千千二」「天元四千千千千三」「天元四千千千千四」「天元四千千千千五」「天元四千千千千六」「天元四千千千千七」「天元四千千千千八」「天元四千千千千九」「天元五千千千千」「天元五千千千千一」「天元五千千千千二」「天元五千千千千三」「天元五千千千千四」「天元五千千千千五」「天元五千千千千六」「天元五千千千千七」「天元五千千千千八」「天元五千千千千九」「天元六千千千千」「天元六千千千千一」「天元六千千千千二」「天元六千千千千三」「天元六千千千千四」「天元六千千千千五」「天元六千千千千六」「天元六千千千千七」「天元六千千千千八」「天元六千千千千九」「天元七千千千千」「天元七千千千千一」「天元七千千千千二」「天元七千千千千三」「天元七千千千千四」「天元七千千千千五」「天元七千千千千六」「天元七千千千千七」「天元七千千千千八」「天元七千千千千九」「天元八千千千千」「天元八千千千千一」「天元八千千千千二」「天元八千千千千三」「天元八千千千千四」「天元八千千千千五」「天元八千千千千六」「天元八千千千千七」「天元八千千千千八」「天元八千千千千九」「天元九千千千千」「天元九千千千千一」「天元九千千千千二」「天元九千千千千三」「天元九千千千千四」「天元九千千千千五」「天元九千千千千六」「天元九千千千千七」「天元九千千千千八」「天元九千千千千九」「天元百千千千千」「天元百千千千千一」「天元百千千千千二」「天元百千千千千三」「天元百千千千千四」「天元百千千千千五」「天元百千千千千六」「天元百千千千千七」「天元百千千千千八」「天元百千千千千九」「天元二百千千千千」「天元二百千千千千一」「天元二百千千千千二」「天元二百千千千千三」「天元二百千千千千四」「天元二百千千千千五」「天元二百千千千千六」「天元二百千千千千七」「天元二百千千千千八」「天元二百千千千千九」「天元三百千千千千」「天元三百千千千千一」「天元三百千千千千二」「天元三百千千千千三」「天元三百千千千千四」「天元三百千千千千五」「天元三百千千千千六」「天元三百千千千千七」「天元三百千千千千八」「天元三百千千千千九」「天元四百千千千千」「天元四百千千千千一」「天元四百千千千千二」「天元四百千千千千三」「天元四百千千千千四」「天元四百千千千千五」「天元四百千千千千六」「天元四百千千千千七」「天元四百千千千千八」「天元四百千千千千九」「天元五百千千千千」「天元五百千千千千一」「天元五百千千千千二」「天元五百千千千千三」「天元五百千千千千四」「天元五百千千千千五」「天元五百千千千千六」「天元五百千千千千七」「天元五百千千千千八」「天元五百千千千千九」「天元六百千千千千」「天元六百千千千千一」「天元六百千千千千二」「天元六百千千千千三」「天元六百千千千千四」「天元六百千千千千五」「天元六百千千千千六」「天元六百千千千千七」「天元六百千千千千八」「天元六百千千千千九」「天元七百千千千千」「天元七百千千千千一」「天元七百千千千千二」「天元七百千千千千三」「天元七百千千千千四」「天元七百千千千千五」「天元七百千千千千六」「天元七百千千千千七」「天元七百千千千千八」「天元七百千千千千九」「天元八百千千千千」「天元八百千千千千一」「天元八百千千千千二」「天元八百千千千千三」「天元八百千千千千四」「天元八百千千千千五」「天元八百千千千千六」「天元八百千千千千七」「天元八百千千千千八」「天元八百千千千千九」「天元九百千千千千」「天元九百千千千千一」「天元九百千千千千二」「天元九百千千千千三」「天元九百千千千千四」「天元九百千千千千五」「天元九百千千千千六」「天元九百千千千千七」「天元九百千千千千八」「天元九百千千千千九」「天元千千千千千」「天元千千千千千一」「天元千千千千千二」「天元千千千千千三」「天元千千千千千四」「天元千千千千千五」「天元千千千千千六」「天元千千千千千七」「天元千千千千千八」「天元千千千千千九」「天元二千千千千千」「天元二千千千千千一」「天元二千千千千千二」「天元二千千千千千三」「天元二千千千千千四」「天元二千千千千千五」「天元二千千千千千六」「天元二千千千千千七」「天元二千千千千千八」「天元二千千千千千九」「天元三千千千千千」「天元三千千千千千一」「天元三千千千千千二」「天元三千千千千千三」「天元三千千千千千四」「天元三千千千千千五」「天元三千千千千千六」「天元三千千千千千七」「天元三千千千千千八」「天元三千千千千千九」「天元四千千千千千」「天元四千千千千千一」「天元四千千千千千二」「天元四千千千千千三」「天元四千千千千千四」「天元四千千千千千五」「天元四千千千千千六」「天元四千千千千千七」「天元四千千千千千八」「天元四千千千千千九」「天元五千千千千千」「天元五千千千千千一」「天元五千千千千千二」「天元五千千千千千三」「天元五千千千千千四」「天元五千千千千千五」「天元五千千千千千六」「天元五千千千千千七」「天元五千千千千千八」「天元五千千千千千九」「天元六千千千千千」「天元六千千千千千一」「天元六千千千千千二」「天元六千千千千千三」「天元六千千千千千四」「天元六千千千千千五」「天元六千千千千千六」「天元六千千千千千七」「天元六千千千千千八」「天元六千千千千千九」「天元七千千千千千」「天元七千千千千千一」「天元七千千千千千二」「天元七千千千千千三」「天元七千千千千千四」「天元七千千千千千五」「天元七千千千千千六」「天元七千千千千千七」「天元七千千千千千八」「天元七千千千千千九」「天元八千千千千千」「天元八千千千千千一」「天元八千千千千千二」「天元八千千千千千三」「天元八千千千千千四」「天元八千千千千千五」「天元八千千千千千六」「天元八千千千千千七」「天元八千千千千千八」「天元八千千千千千九」「天元九千千千千千」「天元九千千千千千一」「天元九千千千千千二」「天元九千千千千千三」「天元九千千千千千四」「天元九千千千千千五」「天元九千千千千千六」「天元九千千千千千七」「天元九千千千千千八」「天元九千千千千千九」「天元百千千千千千」「天元百千千千千千一」「天元百千千千千千二」「天元百千千千千千三」「天元百千千千千千四」「天元百千千千千千五」「天元百千千千千千六」「天元百千千千千千七」「天元百千千千千千八」「天元百千千千千千九」「天元二百千千千千千」「天元二百千千千千千一」「天元二百千千千千千二」「天元二百千千千千千三」「天元二百千千千千千四」「天元二百千千千千千五」「天元二百千千千千千六」「天元二百千千千千千七」「天元二百千千千千千八」「天元二百千千千千千九」「天元三百千千千千千」「天元三百千千千千千一」「天元三百千千千千千二」「天元三百千千千千千三」「天元三百千千千千千四」「天元三百千千千千千五」「天元三百千千千千千六」「天元三百千千千千千七」「天元三百千千千千千八」「天元三百千千千千千九」「天元四百千千千千千」「天元四百千千千千千一」「天元四百千千千千千二」「天元四百千千千千千三」「天元四百千千千千千四」「天元四百千千千千千五」「天元四百千千千千千六」「天元四百千千千千千七」「天元四百千千千千千八」「天元四百千千千千千九」「天元五百千千千千千」「天元五百千千千千千一」「天元五百千千千千千二」「天元五百千千千千千三」「天元五百千千千千千四」「天元五百千千千千千五」「天元五百千千千千千六」「天元五百千千千千千七」「天元五百千千千千千八」「天元五百千千千千千九」「天元六百千千千千千」「天元六百千千千千千一」「天元六百千千千千千二」「天元六百千千千千千三」「天元六百千千千千千四」「天元六百千千千千千五」「天元六百千千千千千六」「天元六百千千千千千七」「天元六百千千千千千八」「天元六百千千千千千九」「天元七百千千千千千」「天元七百千千千千千一」「天元七百千千千千千二」「天元七百千千千千千三」「天元七百千千千千千四」「天元七百千千千千千五」「天元七百千千千千千六」「天元七百千千千千千七」「天元七百千千千千千八」「天元七百千千千千千九」「天元八百千千千千千」「天元八百千千千千千一」「天元八百千千千千千二」「天元八百千千千千千三」「天元八百千千千千千四」「天元八百千千千千千五」「天元八百千千千千千六」「天元八百千千千千千七」「天元八百千千千千千八」「天元八百千千千千千九」「天元九百千千千千千」「天元九百千千千千千一」「天元九百千千千千千二」「天元九百千千千千千三」「天元九百千千千千千四」「天元九百千千千千千五」「天元九百千千千千千六」「天元九百千千千千千七」「天元九百千千千千千八」「天元九百千千千千千九」「天元千千千千千千」「天元千千千千千千一」「天元千千千千千千二」「天元千千千千千千三」「天元千千千千千千四」「天元千千千千千千五」「天元千千千千千千六」「天元千千千千千千七」「天元千千千千千千八」「天元千千千千千千九」「天元二千千千千千千」「天元二千千千千千千一」「天元二千千千千千千二」「天元二千千千千千千三」「天元二千千千千千千四」「天元二千千千千千千五」「天元二千千千千千千六」「天元二千千千千千千七」「天元二千千千千千千八」「天元二千千千千千千九」「天元三千千千千千千」「天元三千千千千千千一」「天元三千千千千千千二」「天元三千千千千千千三」「天元三千千千千千千四」「天元三千千千千千千五」「天元三千千千千千千六」「天元三千千千千千千七」「天元三千千千千千千八」「天元三千千千千千千九」「天元四千千千千千千」「天元四千千千千千千一」「天元四千千千千千千二」「天元四千千千千千千三」「天元四千千千千千千四」「天元四千千千千千千五」「天元四千千千千千千六」「天元四千千千千千千七」「天元四千千千千千千八」「天元四千千千千千千九」「天元五千千千千千千」「天元五千千千千千千一」「天元五千千千千千千二」「天元五千千千千千千三」「天元五千千千千千千四」「天元五千千千千千千五」「天元五千千千千千千六」「天元五千千千千千千七」「天元五千千千千千千八」「天元五千千千千千千九」「天元六千千千千千千」「天元六千千千千千千一」「天元六千千千千千千二」「天元六千千千千千千三」「天元六千千千千千千四」「天元六千千千千千千五」「天元六千千千千千千六」「天元六千千千千千千七」「天元六千千千千千千八」「天元六千千千千千千九」「天元七千千千千千千」「天元七千千千千千千一」「天元七千千千千千千二」「天元七千千千千千千三」「天元七千千千千千千四」「天元七千千千千千千五」「天元七千千千千千千六」「天元七千千千千千千七」「天元七千千千千千千八」「天元七千千千千千千九」「天元八千千千千千千」「天元八千千千千千千一」「天元八千千千千千千二」「天元八千千千千千千三」「天元八千千千千千千四」「天元八千千千千千千五」「天元八千千千千千千六」「天元八千千千千千千七」「天元八千千千千千千八」「天元八千千千千千千九」「天元九千千千千千千」「天元九千千千千千千一」「天元九千千千千千千二」「天元九千千千千千千三」「天元九千千千千千千四」「天元九千千千千千千五」「天元九千千千千千千六」「天元九千千千千千千七」「天元九千千千千千千八」「天元九千千千千千千九」「天元百千千千千千千」「天元百千千千千千千一」「天元百千千千千千千二」「天元百千千千千千千三」「天元百千千千千千千四」「天元百千千千千千千五」「天元百千千千千千千六」「天元百千千千千千千七」「天元百千千千千千千八」「天元百千千千千千千九」「天元二百千千千千千千」「天元二百千千千千千千一」「天元二百千千千千千千二」「天元二百千千千千千千三」「天元二百千千千千千千四」「天元二百千千千千千千五」「天元二百千千千千千千六」「天元二百千千千千千千七」「天元二百千千千千千千八」「天元二百千千千千千千九」「天元三百千千千千千千」「天元三百千千千千千千一」「天元三百千千千千千千二」「天元三百千千千千千千三」「天元三百千千千千千千四」「天元三百千千千千千千五」「天元三百千千千千千千六」「天元三百千千千千千千七」「天元三百千千千千千千八」「天元三百千千千千千千九」「天元四百千千千千千千」「天元四百千千千千千千一」「天元四百千千千千千千二」「天元四百千千千千千千三」「天元四百千千千千千千四」「天元四百千千千千千千五」「天元四百千千千千千千六」「天元四百千千千千千千七」「天元四百千千千千千千八」「天元四百千千千千千千九」「天元五百千千千千千千」「天元五百千千千千千千一」「天元五百千千千千千千二」「天元五百千千千千千千三」「天元五百千千千千千千四」「天元五百千千千千千千五」「天元五百千千千千千千六」「天元五百千千千千千千七」「天元五百千千千千千千八」「天元五百千千千千千千九」「天元六百千千千千千千」「天元六百千千千千千千一」「天元六百千千千千千千二」「天元六百千千千千千千三」「天元六百千千千千千千四」「天元六百千千千千千千五」「天元六百千千千千千千六」「天元六百千千千千千千七」「天元六百千千千千千千八」「天元六百千千千千千千九」「天元七百千千千千千千」「天元七百千千千千千千一」「天元七百千千千千千千二」「天元七百千千千千千千三」「天元七百千千千千千千四」「天元七百千千千千千千五」「天元七百千千千千千千六」「天元七百千千千千千千七」「天元七百千千千千千千八」「天元七百千千千千千千九」「天元八百千千千千千千」「天元八百千千千千千千一」「天元八百千千千千千千二」「天元八百千千千千千千三」「天元八百千千千千千千四」「天元八百千千千千千千五」「天元八百千千千千千千六」「天元八百千千千千千千七」「天元八百千千千千千千八」「天元八百千千千千千千九」「天元九百千千千千千千」「天元九百千千千千千千一」「天元九百千千千千千千二」「天元九百千千千千千千三」「天元九百千千千千千千四」「天元九百千千千千千千五」「天元九百千千千千千千六」「天元九百千千千千千千七」「天元九百千千千千千千八」「天元九百千千千千千千九」「天元千千千千千千千」「天元千千千千千千千一」「天元千千千千千千千二」「天元千千千千千千千三」「天元千千千千千千千四」「天元千千千千千千千五」「天元千千千千千千千六」「天元千千千千千千千七」「天元千千千千千千千八」「天元千千千千千千千九」「天元二千千千千千千千」「天元二千千千千千千千一」「天元二千千千千千千千二」「天元二千千千千千千千三」「天元二千千千千千千千四」「天元二千千千千千千千五」「天元二千千千千千千千六」「天元二千千千千千千千七」「天元二千千千千千千千八」「天元二千千千千千千千九」「天元三千千千千千千千」「天元三千千千千千千千一」「天元三千千千千千千千二」「天元三千千千千千千千三」「天元三千千千千千千千四」「天元三千千千千千千千五」「天元三千千千千千千千六」「天元三千千千千千千千七」「天元三千千千千千千千八」「天元三千千千千千千千九」「天元四千千千千千千千」「天元四千千千千千千千一」「天元四千千千千千千千二」「天元四千千千千千千千三」「天元四千千千千千千千四」「天元四千千千千千千千五」「天元四千千千千千千千六」「天元四千千千千千千千七」「天元四千千千千千千千八」「天元四千千千千千千千九」「天元五千千千千千千千」「天元五千千千千千千千一」「天元五千千千千千千千二」「天元五千千千千千千千三」「天元五千千千千千千千四」「天元五千千千千千千千五」「天元五千千千千千千千六」「天元五千千千千千千千七」「天元五千千千千千千千八」「天元五千千千千千千千九」「天元六千千千千千千千」「天元六千千千千千千千一」「天元六千千千千千千千二」「天元六千千千千千千千三」「天元六千千千千千千千四」「天元六千千千千千千千五」「天元六千千千千千千千六」「天元六千千千千千千千七」「天元六千千千千千千千八」「天元六千千千千千千千九」「天元七千千千千千千千」「天元七千千千千千千千一」「天元七千千千千千千千二」「天元七千千千千千千千三」「天元七千千千千千千千四」「天元七千千千千千千千五」「天元七千千千千千千千六」「天元七千千千千千千千七」「天元七千千千千千千千八」「天元七千千千千千千千九」「天元八千千千千千千千」「天元八千千千千千千千一」「天元八千千千千千千千二」「天元八千千千千千千千三」「天元八千千千千千千千四」「天元八千千千千千千千五」「天元八千千千千千千千六」「天元八千千千千千千千七」「天元八千千千千千千千八」「天元八千千千千千千千九」「天元九千千千千千千千」「天元九千千千千千千千一」「天元九千千千千千千千二」「天元九千千千千千千千三」「天元九千千千千千千千四」「天元九千千千千千千千五」「天元九千千千千千千千六」「天元九千千千千千千千七」「天元九千千千千千千千八」「天元九千千千千千千千九」「天元百千千千千千千千」「天元百千千千千千千千一」「天元百千千千千千千千二」「天元百千千千千千千千三」「天元百千千千千千千千四」「天元百千千千千千千千五」「天元百千千千千千千千六」「天元百千千千千千千千七」「天元百千千千千千千千八」「天元百千千千千千千千九」「天元二百千千千千千千千」「天元二百千千千千千千千一」「天元二百千千千千千千千二」「天元二百千千千千千千千三」「天元二百千千千千千千千四」「天元二百千千千千千千千五」「天元二百千千千千千千千六」「天元二百千千千千千千千七」「天元二百千千千千千千千八」「天元二百千千千千千千千九」「天元三百千千千千千千千」「天元三百千千千千千千千一」「天元三百千千千千千千千二」「天元三百千千千千千千千三」「天元三百千千千千千千千四」「天元三百千千千千千千千五」「天元三百千千千千千千千六」「天元三百千千千千千千千七」「天元三百千千千千千千千八」「天元三百千千千千千千千九」「天元四百千千千千千千千」「天元四百千千千千千千千一」「天元四百千千千千千千千二」「天元四百千千千千千千千三」「天元四百千千千千千千千四」「天元四百千千千千千千千五」「天元四百千千千千千千千六」「天元四百千千千千千千千七」「天元四百千千千千千千千八」「天元四百千千千千千千千九」「天元五百千千千千千千千」「天元五百千千千千千千千一」「天元五百千千千千千千千二」「天元五百千千千千千千千三」「天元五百千千千千千千千四」「天元五百千千千千千千千五」「天元五百千千千千千千千六」「天元五百千千千千千千千七」「天元五百千千千千千千千八」「天元五百千千千千千千千九」「天元六百千千千千千千千」「天元六百千千千千千千千一」「天元六百千千千千千千千二」「天元六百千千千千千千千三」「天元六百千千千千千千千四」「天元六百千千千千千千千五」「天元六百千千千千千千千六」「天元六百千千千千千千千七」「天元六百千千千千千千千八」「天元六百千千千千千千千九」「天元七百千千千千千千千」「天元七百千千千千千千千一」「天元七百千千千千千千千二」「天元七百千千千千千千千三」「天元七百千千千千千千千四」「天元七百千千千千千千千五」「天元七百千千千千千千千六」「天元七百千千千千千千千七」「天元七百千千千千千千千八」「天元七百千千千千千千千九」「天元八百千千千千千千千」「天元八百千千千千千千千一」「天元八百千千千千千千千二」「天元八百千千千千千千千三」「天元八百千千千千千千千四」「天元八百千千千千千千千五」「天元八百千千千千千千千六」「天元八百千千千千千千千七」「天元八百千千千千千千千八」「天元八百千千千千千千千九」「天元九百千千千千千千千」「天元九百千千千千千千千一」「天元九百千千千千千千千二」「天元九百千千千千千千千三」「天元九百千千千千千千千四」「天元九百千千千千千千千五」「天元九百千千千千千千千六」「天元九百千千千千千千千七」「天元九百千千千千千千千八」「天元九百千千千千千千千九」「天元千千千千千千千千」「天元千千千千千千千千一」「天元千千千千千千千千二」「天元千千千千千千千千三」「天元千千千千千千千千四」「天元千千千千千千千千五」「天元千千千千千千千千六」「天元千千千千千千千千七」「天元千千千千千千千千八」「天元千千千千千千千千九」「天元二千千千千千千千千」「天元二千千千千千千千千一」「天元二千千千千千千千千二」「天元二千千千千千千千千三」「天元二千千千千千千千千四」「天元二千千千千千千千千五」「天元二千千千千千千千千六」「天元二千千千千千千千千七」「天元二千千千千千千千千八」「天元二千千千千千千千千九」「天元三千千千千千千千千」「天元三千千千千千千千千一」「天元三千千千千千千千千二」「天元三千千千千千千千千三」「天元三千千千千千千千千四」「天元三千千千千千千千千五」「天元三千千千千千千千千六」「天元三千千千千千千千千七」「天元三千千千千千千千千八」「天元三千千千千千千千千九」「天元四千千千千千千千千」「天元四千千千千千千千千一」「天元四千千千千千千千千二」「天元四千千千千千千千千三」「天元四千千千千千千千千四」「天元四千千千千千千千千五」「天元四千千千千千千千千六」「天元四千千千千千千千千七」「天元四千千千千千千千千八」「天元四千千千千千千千千九」「天元五千千千千千千千

と云へり、而してその述作年代は序に甲子春且とあるを以て推すに、南宗寒宗の嘉泰四年である。

上巻に、淨飯王與七萬尺種皆生淨土、十二光如來尊號、彌陀佛國說三乘法、淨土水鳥樹林說法、僧問講彌陀經座主法師說唯心淨土以下の五十六文、下巻に釋不可以少善根得生彼國、海慧禪師示心淨土淨、大智律師示事理不二、女子蚤込骨生蓮華、圓辨法師說唯心淨土以下の六十一文を引示してゐる。此等は多くは、經論、疏釋、及び諸家の說を拔萃せるものであるが、又往々自說をも附加せるものゝ如くである。

❺元祿一七刊 ❾(谷大、宗大・四八四×龍大、二六八一・一三六×正大、一五三二・六二×立大、A三〇・一四九×智、こ・三・中・二六×京大、藏・一二ラ・一×高大、寄・一・一八) (森本貞順)

樂邦定課 ❶(日)Raku-hō-jō-ka. (支)Lo-pang-ting-k'o. ❷一巻 ❸存 ❹光緒一八刊 ❾(京大、藏・一二ラ・二一三)

樂邦早課 ❶(日)Raku-hō-sō-kwa. (支)Lo-pang-tsao-k'o. ❷一巻 ❸存 ❹觀如 ❺光緒一八刊 ❾(龍大、研眞)

樂邦文類 ❶(日)Raku-hō-mon-rui. (支)Lo-pang-wen-lei. ❷五巻 ❸存、大正四七・一四八No.1969A、卍續二・一二・五、淨土宗全書第六 ❹宗曉編 ❺宋慶元六(A.D.1200)

❻本書の述作由來を繕ふに、序文に宋乾道年中に高宗陳壯の二字を書して、防禦使浙西路總管張掞に賜ふ。本書第三巻所收の高宗御書の運社記に見れば、張掞は年久しく、淨敎に歸し、稱名積善し、特に廬山の遺風を追慕して廬東に淨を驚り運を培ひ、日々同行を集めて念佛の行苑を張り、信者四方より雲集するに至れるを喜賞せるに依る。爾々古來より帝王の釋敎を興隆するに、或は塔廟を建立するあり、或は經論を翻譯するあり、或は廣く僧尼を度するものあるも、皆て麻を染めて淨邦を皆邦し、衆生をして往生を願はしめられるが如きは曠古の事に屬す。廬山結社創始後八百年に及ぶも、遺風遺烈凛然として念佛の靡群々たるを見聞し、作者感激思念して、僧論に在る身を蚤覺せしめ、廣く諸經論の要文を初めとし、諸宗祖師高僧及び士女夫等の著述、記傳、詩頌、小篇、序跋等、苟も淨土敎に關係あるものは悉く蒐錄し、伏して之を讀み、意に良尋を希圖し、研磨年久しくして以て西方の指南とせり。然れども徒に概括に終れるは衆に於て無益なるを遺憾とし、假日を以て類別編纂して經呪に初まり、詩詞に終る五巻に編成せり。その體裁は儒家芝宗直の西漢文に倣ふと云へり。思ふに本書は、編者の樂邦を願樂する思念深き餘りの述作にして、類纂式の體あるも、能く敎多の繁簡の散逸を防ぎ斯道に志すものに取りて稗益する所甚大なる敬重すべき文集なり。述作年代不明なるも、樂邦遺稿の寒宗嘉泰四年なるに徴して、それ以前なること明かなり。

本書の內容を見るに。一部に二百二十餘篇を收め、類別して十四門となる、卽ち第一巻に、經、呪、論、第二巻に序跋、文、讚(合讚)、第三巻に、記碑、傳、第四巻に雜文第五巻に、賦、頌、偈、頌、詩、詞等を集載してゐる、今更に本書所載を細示すれば第一巻經部に、大藏專說淨土經論目錄を擧示して、法華經以下四十處を擧げ、呪に無量壽修觀行供養儀軌以下九處、論に、無量壽經論以下六處を擧げ、更に便覽の爲め、經函記號を示して檢閱を容易ならしめてゐる。第二巻に、慧遠の念佛三昧詩序以下三十二家の序跋を集載し、第三巻に子厚の龍興寺修淨土院記以下十九首の記碑、天竺五過善陳請佛傳以下十四家の略傳を揭げ、第四巻に智者の維摩疏、四種佛國以下の雜文三十三首を擧げ第五巻に、延壽の神棲安養賦以下の二賦頌、彌軻の雲阿彌陀佛像偈以下の五偈、遲式の十六觀頌以下二十家の頌、雲遲の淨土詠以下二十二家の詩、楓の和淵明歸去來兮以下の六詞を擧げて終に相庭の後序を揭げてゐる。

❼(參考) 淨土依憑經論章疏目錄、淨土眞宗敎典志第一、第三 ❺寶永七刊 ❾(龍大、二六八一・一三七、研眞)(谷大、宗大・七六一)(京大、藏・一二ラ・四×晉、こ・三・中・七)(正大、一五三二・五九—六〇) 寫本(內閣) (森本貞順)

樂邦文類遺藁 ❶(日)Raku-hō-mon-rui-i-kō. (支)Lo-pang-wen-lei-i-kao. 樂邦遺稿 ❷一巻或二巻 ❸存、大正四七・二三一No.1969B、卍續二・一二・五、淨土宗全書第六 ❹宗曉編 ❺宋嘉泰四(A.D.1204) ❻樂邦遺稿の下を見よ。 ❼(參考)

樂瓔珞莊嚴方便經 ❶(日)Raku-yō-raku-shō-gon-hō-ben-gyō. (支)Lo-ying-lo-chuang-yen-fang-pien-ching. 韓女身菩薩經、樂瓔珞莊嚴女經 ❷一巻 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第四、開元錄第一五、貞元錄第二四

樂瓔珞莊嚴方便經 ❶(日)Raku-yō-raku-shō-gon-hō-ben-gyō. (支)Lo-ying-lo-chuang-yen-fang-pien-ching. ❷一巻 ❹宋法海譯 ❼(參考) 靜泰錄第三

樂瓔珞莊嚴方便品經 ❶(日)Raku-yō-raku-shō-gon-hō-bem-bon-gyō. (支)Lo-ying-lo-chuang-yen-fang-pien-p'in-ching. (梵)Satyavarta-vyākharaṇa-sūtra (藏傳×)(漢)hphaga-pa bud-med ḥgyur-ba luḥ-bstan-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poi mdo. 樂瓔珞方便經、韓女身菩薩問答經、樂瓔珞莊嚴方便經、樂瓔珞莊嚴經 ❷一巻 ❸存、大正一四・九三〇No.566、續字一〇・卍一〇・五、北2306袋、南217袋、元212袋、明北211潚、清211潚、麗236袋、天212袋、指190袋、法199袋、至1252知、明南216潚、N.215 ❹曇摩耶舍譯 ❺姚秦弘始九—一七(A.D.407—415)

❻本經は婦女身菩薩、須菩提に對して解聞乘の劣法に對して、大乘の微妙法を說いたるものである。その內容を明せば、解聖第一の須菩提、世尊より今日未曾の法を聞くやしと歎ぜられ、乞食して一女人に遭ふ。

乞食の想を問はれ、自ら無諍第一と言ふも之は言說の故であり、しかも之假名に過ぎず所詮離欲する事能はざるを知る。女人由つて沙門の法を說き、文字ある事無く分別無く、一切諸法空、無有汚染、之沙門法と敎へ、諸天子を得道せしめ、又佛も衆生も如に於ては一なりと說く。更に大乘の相貌を說き、佛大乘之大智、天龍、夜叉、乾闥婆、智慧大丈夫の恭敬する所なり云々と言ふ。又佛の乞食し給ふは、色身を現じて衆生に無上正眞道心を發さしめん爲なり等の二十の方便を羅說す。之より後半に入り女人樂莊嚴方便を說く。衆生に諸苦を解さしめ諸惡法を滅せしめんとして、衆生樂欲あれば、之を施して無上正眞道心を發さしむと積極的大乘主義を强調、五欲も聖道を障礙せず、聲聞乘は貧人が苦しみて服藥して、病毒を除するが如く、菩薩乘は良醫の王者の病を樂しみて療せしむるに等し。樂莊嚴方便もて道心を得しむ。毒を以て毒を滅するが如し。次で女人を化するの道如何と問はれ、女身を轉じて美男子の相を現じ應供の眞義を說きて天女を得道せしむ。やがて須菩提佛所に詣り女人の實は轉女身菩薩なるを聞く。女人も佛所に到り舍利弗に聖法非聖法を說く。後菩薩、佛に請ひて功德光王如來の記別を與へられ通躍して去る所で本經は終つてゐる。

本典は聲聞乘を貶し大乘の積極的深義を明し、爲に智慧第一の舍利弗も解聖第一の須菩提も極めて低い地位に置かれてゐる。小乘にて貶けられた狀をその眞義にては肯定すると言ふ大乘の立場が現されてゐる。

❼(參考) 開元錄第四、貞元錄第六 (山本快龍)

樂瓔珞方便經 ❶(日)Raku-yō-raku-hō-ben-gyō. (支)Lo-ying-lo-fang-pien-ching. 樂瓔珞莊嚴方便品經、韓女身菩薩問答經 ❷一巻 ❸存、大正一四・九三〇No.566、續字一〇、卍一〇・五、北2306袋、南217袋、元212袋、明北211潚、清211潚、麗236袋、天212袋、指190袋、法199袋、至1252知、明南216潚、N.215 ❹曇摩耶舍譯 ❺姚秦弘始九—一七(A.D.407—415)

樂瓔珞方便經 ❶(日)Raku-yō-raku-hō-ben-gyō. (支)Lo-ying-lo-fang-pien-ching. 樂瓔珞莊嚴方便品經、韓女身菩薩問答經 ❷一巻 ❸存、大正一四・九三〇No.566、續字一〇、卍一〇・五、北2306袋、南217袋、元212袋、明北211潚、清211潚、麗236袋、天212袋、指190袋、法199袋、至1252知、明南216潚、N.215 ❹曇摩耶舍譯 ❺姚秦弘始九—一七(A.D.407—415)

樂山集 ❶(日)Raku-san-shū. ❷一巻 ❸存 ❹朝鮮禮山著 ❼(參考) 朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

亂脫本 ❶(日)Ran-datsu-bon. 四十帖決、四十帖口決、帖決、天台宗敎傳四十帖決 ❷十五巻 ❸存、大正七五・八二五No.2408 ❹長寬(長和五—永保元A.D.1016—1081)記 ❺四十帖決の下を見よ。

懶翁和尙行狀 ❶(日)Ran-ō-ō-shō-gyō-jō. ❹朝鮮登宏編 ❸本文は朝鮮佛敎史中編の內にあり。 ❺大正七刊 ❾(駒大) ❿京城新文館

懶翁和尙語錄 ❶(日)Ran-ō-ō-shō-go-roku. ❷三冊 ❸存 ❹朝鮮慧勤編 ❺本文は朝鮮佛敎史中編の內にあり。 ❼(參考) 禪籍目錄

懶翁自責歌 ❶(日)Ran-ō-ji-seki-ka. ❷一巻 ❸存 ❹朝鮮慧勤(頤翁) ❼(參考) 禪籍目錄

懶翁土窟歌 ❶(日)Ran-ō-do-kutsu-ka. ❷一巻 ❸存 ❹朝鮮(頤翁)慧勤 ❼(參考) 禪籍目錄、朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

懶翁白衲歌 ❶(日)Ran-ō-hakū-no-ka. ❷一巻 ❸存 ❹朝鮮(頤翁)慧勤 ❼(參考) 禪籍目錄、朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

懶翁法話 ❶(日)Ran-ō-hō-gwa. ❷一巻 ❸存 ❹高麗江月 ❼(參考) 朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

懶翁法話 ❶(日)Ran-ō-hō-wa. ❷一巻 ❸存 ❹朝鮮(頤翁)慧勤 ❼(參考) 禪籍目錄

懶放禪師語錄 ❶(日)Ran-hō-zen-shi-go-roku. ❷四巻 ❸存 ❹頤放 ❼(參考) 禪籍目錄

懶眠餘稿 ❶(日)Ran-min-yo-kō. ❸存 ❹爽宗裕屋(文化二—明治一二A.D.1805—1879)金山貫前編 ❼(參考) 禪籍目錄

嬾齊別集 ❶(日)Ran-sai-bet-shū. (支)Lan-chi-pieh-chi. ❸存 ❹清放雲通門 ❼(參考) 禪籍目錄

藍達王經 ❶(日)Ran-dat-ō-gyō. (支)Lan-ta-wang-ching. 日達因緣功德經 ❷一巻 ❸缺 ❹吳支謙(—黃武二—建興二A.D.222—253—)譯 ❼(參考) 出三藏記第三、開元錄第一五、貞元錄第二五

爛葛藤 ❶(日)Ran-kat-tō. ❸存、悟山禪師廣錄第五之內 ❹森田悟由(大休) ❺大正一〇刊 ❾東京三合庵

爛枯柴附滄海宜運和尙行狀 ❶(日)Ran-ko-shi-takui-i-ai-rai-tō-un-o-shō-gyō-jō. ❷二巻 ❸存 ❹宜運滄海原敎編 ❺寶政六刊 ❾(駒大)

爛脫辨 ❶(日)Ran-datsu-ben. ❷一巻 ❸存 ❹亮元 ❺寶永三寫 ❾(龍大、研佛)德川時代寫(寶龜院)

蘭苑草稿 ❶(日)Ran-en-sō-kō. ❷一巻 ❸存 ❹孝賢 ❾寫本(觀山、密嚴)

蘭契遺音集 ❶(日)Ran-kei-i-on-shū. ❷一巻 ❸存、弘法大師全集第一五 ❹長谷寶秀編 ❺明治四三(A.D.1910) ❻弘法大師空海と道交あり、嵯峨天皇・仲雄王・傳敎・朱千乘等本朝并に唐朝の貴人名僧神士より大師に贈れる詩文五十一首を編輯せるもの。その大部分は南山遺響及び弘法大師年譜に載せたるを底本とし、新に校訂を加ふ。 (小田慈舟)

蘭桂和尙略傳 ❶(日)Ran-kei-ō-shō-ryaku-den. ❷一巻 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

蘭溪和尙行實 ❶(日)Ran-kei-ō-shō-gyō-jitsu. 蘭溪道隆和尙行實 ❷一巻 ❸存、續群書類從第九輯傳部 ❹虎關師錄(弘安元—貞和二A.D.1278—1346) ❻南岳十九世、楊岐九世の宋の無明慧性禪師の法統を嗣いだ、鎌倉五山建長寺開山大覺禪師蘭溪道隆禪師の傳記を、元亨釋書の著者である虎關師錄和尙が、蘭溪の法嗣佛燈圓師約翁德俊禪師の依頼に依て編述し

たものである。

蘭溪禪師は、宋の四川涪江(一作内江、内水)の冉氏に生れ、十三歳にして四川成都の大慈寺に投じ、無準師範、癡絕道冲、北磵居簡に歴參し、阿山の無明慧性に嗣ぎ、南宋理宗寶祐六年(後嵯峨天皇寛元四年)三十三のとき來朝し、筑前の圓覺寺に寓し、京都泉涌寺來迎院に擯り、院主智鏡の指示に依つて鎌倉淨福寺大歇了心に相見、北條時賴は當樂寺に請して問法し、建長四年三十九歳の冬、請せられて巨福山建長禪寺を開山した。後嵯峨上皇その道譽を聞き人内せしめて請問し給ふた。後、門人の事に依て甲州に流謫せられ、次で時賴に請せられて壽福寺に住し、弘安元年五月建長寺に歸住し、同年七月二十四日(A. D. 1278)壽六十六、臘五十にして示寂せられた。諡號を大覺禪師と賜つた。是れは本朝に於ける禪師賜號の嚆矢と稱せられて居る。嗣法二十四人、門葉盛にして語錄三卷が行はれて居る。

❾(谷大、外洋・九〇五)(帝國・八〇・二二一)(大久保堅瑞)

蘭溪和尚語錄 ❶(日) Ran-kei-o-shō-wa-go-roku. 大覺禪師語錄、日本國和泉州常樂禪寺蘭溪和尚語錄、蘭溪禪師語錄、建長開山蘭溪和尚語錄 ❷三卷 ❸存、大正八〇・四六No. 2547、大日本佛教全書第九五、禪學大系祖錄部第五 ❹蘭溪道隆(建保元—弘安元A. D. 1213—1278)語、圓爾、智光共編 ❺大覺禪師語錄の下を見よ。 ❻文化一〇刊 ❾(龍大・二六七四・三〇)(享二刊(駒大)

蘭溪和尚草庵稿 ❶(日) Ran-kei-o-sō-an-kō. ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

蘭溪禪師語錄 ❶(日) Ran-kei-zen-ji-go-roku. 大覺禪師語錄、蘭溪和尚語錄、日本國和泉州常樂禪寺蘭溪和尚語錄、建長開山蘭溪和尚語錄、蘭溪和尚語錄 ❷三卷 ❸存、大正八〇・四六No. 2547、大日本佛教全書第九五、禪學大系祖錄部第五 ❹蘭溪道隆(建保元—弘安元A. D. 1213—1278)語 ❺蘭溪和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考) 禪籍目錄

蘭溪門和尚頌古 ❶(日) Ran-kei-mon-o-shō-ko-ju. 蘭溪門和尚頌古 ❷一卷 ❸存 ❹圓成編 ❺安永七刊 ❾(駒大)

蘭室集 ❶(日) Ran-shitsu-shū. 蘭室集 ❸存 ❹仲芳圓伊(文和三—應永二〇A. D. 1354—1413) ❼(參考) 禪籍目錄

蘭州和尚語錄 ❶(日) Ran-shū-o-shō-go-roku. 弘宗定智禪師蘭州語錄、弘宗定智禪師語錄、蘭州語錄、蘭州芳禪師語錄 ❷一卷 ❸存 ❹蘭州良芳(嘉元三—至德元A. D. 1305—1384)語 ❼(參考) 扶桑禪林僧寶傳、大日本佛教全書續刊換定書目

蘭州芳禪師語錄 ❶(日) Ran-shū-hō-zen-ji-go-roku. 弘宗定智禪師蘭州語錄、弘宗定智禪師語錄、蘭洲錄、蘭州和尚語錄 ❷一卷 ❸存 ❹蘭州良芳(嘉元三—至德元A. D. 1305—1384)語、淮洞(—永享三A. D. 1436—)明叟等編 ❼(參考) 禪籍目錄

蘭洲錄 ❶(日) Ran-shū-roku. 蘭洲芳禪師語錄、弘宗定智禪師語錄、弘宗定智禪師蘭洲語錄、蘭州和尚語錄 ❷一卷 ❸存 ❹蘭州良芳(嘉元三—至德元A. D. 1305—1384)語 ❼(參考) 日本禪林僧寶傳、大日本佛教全書續刊換定書目、禪籍目錄

蘭坡和尚語錄 ❶Ran-ba-o-shō-go-roku. ❷四卷 ❸存 ❹蘭坡景蘭(—文龜元A. D. 1501)語 ❼(參考) 禪籍目錄

蘭坡四六 ❶(日) Ran-ba-shi-roku. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

蘭盆經疏會古通今記 ❶(日) Ran-bon-kyō-sho-kai-ko-tsū-kon-ki. (支) Lan-pen-ching-su-hui-ku-tung-chin-chi. 盂蘭盆經疏會古通今記 ❷二卷 ❸存、卍續一・三五・二 ❹宋普觀述 ❺雲蘭盆經疏會古通今記の下を見よ。 ❻萬治三刊 ❾(京大、藏・一四ラ・一)(竹、ゐ・三・中・一三)

蘭盆獻供儀 ❶(日) Ran-bon-ken-ku-gi. (支) Lan-p'en-hien-kung-i. 盂蘭盆獻供儀 ❷一卷 ❸存、卍續二〇・三・一 ❹宋元照(慶曆八—政和六A. D. 1048—1116)重集

❺この書は極く短編で、藏に於ては祇數一枚半である。初めに元照の序が載せられて居るが、今この序によつて見ると、この書は元照が初めて著したものではなくして、孤山法師即ち智圓が嘗て蘭盆經讃文なる書を作つたものであるが、後世悔律師が手を加へ、更に元照に至つて、これに少しく文字を加へ方式を改めたもので、所謂元照の重集である。

即ちこれは、盂蘭盆會に於ける法式を述べたもので、十方三世諸佛の奉請より、百味五果香油燈燭を供して、現在及び七世の父母尊屬の難苦を救ふ法式である。而して釋迦佛を初め、菩薩、緣覺、聲聞、目蓮に對する讃文を出して居る。

❺谷大藏刊本は合冊にして、刊記に「紹興甲子季夏比丘宗炬重寫募緣刊板流通名爲生身父母歴劫親緣僧俗法界等共成佛道」とあり ❾刊本(京大、藏・一八シ・四×谷大、餘大・二三三)(流燈良秀)

蘭盆疏鈔餘義 ❶(日) Ran-bon-sho-shō-yō-gi. (支) Lan-p'en-shu-ch'a-yü-i. 盂蘭盆經疏鈔餘義 ❷一卷 ❸存、卍續一・九四・四 ❹日新錄 ❺宋熙寧元(A. D. 1068) ❻盂蘭盆經疏鈔餘義の下を見よ。 ❾寫本(京大、藏・一四ラ・二)

蘭盆補註 ❶(日) Ran-bon-ho-chū. ❷一卷 ❸竹菴可觀(元祐七—淳熙九A. D. 1092—1182) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

蘭陵禪師草庵稿 ❶(日) Ran-ryō-zen-ji-sō-an-kō. ❷二卷 ❸存 ❹圓陵祝宗諸、養隆編 ❺明和六刊 ❾(駒大)

蘭霖仍苑往復書 ❶(日) Ran-rin-jō-on-ō-fū-kō-sho. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、研眞)

嬾室集 ❶(日) Ran-shitsu-shū. 嬾室集 ❸存 ❹仲芳圓伊(文和三—應永二〇A. D. 1354—1413) ❼(參考) 日本禪林僧寶傳目

攬牧照心啓蒙 ❶(日) Ran-bō-shō-shin-kei-mō. (支) Lan-chüan-chao-hsin-ch'i-meng. ❷一卷 ❸存 ❹明三慧 ❺明治三六刊 ❾(谷大、宗大・三四九)

覽上人御法語 ❶(日) Ran-jō-nin-go-hō-go. ❺淨土眞宗聖教目錄に云く、「標云教名所記。悉後人所ゝ錄爲ゝ手」云云。

覽聖人御歸洛宣旨 ❶(日) Ran-shō-nin-go-ki-raku-sen-shi. ❸存、華園文庫之內

覽聖人奉讃 ❶(日) Ran-shō-nin-hō-san. ❷一卷 ❸存、華園文庫之內 ❹真觀

覽徒顯僞辨附一念邪義辨 ❶(日) Ran-to-ken-gi-ben-tsuketa-ichi-nen-ja-gi-ben. ❷一卷 ❸存 ❹單覽 ❾寫本(谷大、宗大・九九八)

李白 ❶(固)Ri-hak-u. (李)Li-pai.

李白一斗百篇 ❶(成)Ri-hak-u-ichi-to-hyak-pen. ❷李白が一斗の酒を飲めば百篇の詩を作る。李白は酒を飲むと詩作の才が発揮されるという。

李白斗酒詩百篇 ❶(成)Ri-hak-u-to-shi-hyak-pen. ❷李白が一斗の酒を飲めば百篇の詩を作る。李白は酒を飲むと詩作の才が発揮されるという。

李白桃 ❶(名)Ri-hak-to-mo. ❷李白の桃。

李白桃の花 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana. ❷李白の桃の花。

李白桃の花の咲く頃 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro. ❷李白の桃の花の咲く頃。

李白桃の花の咲く頃の三月 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月。

李白桃の花の咲く頃の三月の末 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさ ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさ。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中。

李白桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさ ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさ ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中 ❶(名)Ri-hak-to-mo-no-hana-no-sak-u-koro-no-san-gat-su-no-mat-su-no-hi-no-yu-gat-a-no-tsuki-no-hik-ari-no-shit-a-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o-no-utsukushi-sa-no-naka-no-hit-o-no-kokor-o-no-naka-no-omo-ide-no-hit-o-no-kaw-o. ❷李白の桃の花の咲く頃の三月の末の日の夕方の月の光の下の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさの中の人の心の中の思い出の人の顔の美しさ

理源大師請式 ❶(日) Ri-gen-dai-shi-kō-shiki. ❷1巻 ❸存。日本天慶頃成立か。❹参議藤原中納言の請願により、東寺に大師の遺骨を奉安する式文である。和文に漢文を交じえている。第1に天台宗の教理を説き、第2に天台宗の沿革を述べ、第3に大師の遺骨を奉安する式文を記す。

理源大師伝 ❶(日) Ri-gen-dai-shi-jiki-roku. ❸存 ❹聞書 ❺刊本(谷大〈慶長・1・元・三〉)

理源大師実録記 ❶(日) Ri-gen-dai-shi-jitsu-den-ki. ❷1巻 ❸存 ❹実録風説書 ❺明治四1刊 ❻(谷大〈慶長・1・五・1〉)

理源大師像 ❶(日)Ri-gen-dai-shi-den. ❷1巻 ❸存 ❹(参考) 大日本史後敬全事蹟刊行会日

理源大師和讃 ❶(日) Ri-gen-dai-shi-wa-san. ❷1巻 ❸存。日本天慶頃成立か。❹西院大師供養式の下を参照。

理趣経口決 ❶(日) Ri-go-ma-ku-ketsu. ❷1巻 ❸存 ❹記録 ❺安元三(A. D 1177) ❻(結論)

理趣経大法私記 ❶(日) Ri-go-ma-shi-dai-shi-ki. ❷1帖 ❸存 ❹法儀(定海一建保頃A. D. 1184→1252) ❻(参考)(金剛三昧院)

理趣経開蒙 ❶(日)Ri-kō-zui-hitsu. ❷1巻 ❸存 ❹講義(宥範五一寛政元A. D. 1715—1789) ❺明和七頃 ❻(谷大〈宗・三六三九〉)

理趣経曼荼羅図 ❶(日) Ri-shu-e-i-hon-zu. ❷1帖 ❸存 ❺足利文書(川崎代頃 ❻(宗教図録)

理趣会軌 ❶(日)Ri-shu-e-ki. (支) Li-ch'ü-hui-kuei. 金剛頂瑜伽理趣般若経釈、理趣会釈義軌、理趣会釋義軌、理趣会釋義会理趣経、理趣会釋義会理趣経 ❷1巻 ❸存〈大正二〇・五二三No. 1122〉〈龍谷九〉卍二六・一〇〉明北1383経〈南1383経〉宋814三〈明南1189等〉三十帖策子字号一九〉Nj. 1390 ❹法天等(唐開元一大曹九A. D. 705—774)訳

❻金剛頂瑜伽理趣経釈の下を見よ。

理趣会釈義理経 ❶(日) Ri-shu-e-fu-gen-gi-ki. (支)Li-ch'ü-hui-p'u-hsien-i-kuei. 金剛頂瑜伽理趣経釈、理趣会釈義理経、理趣会釈義理経、理趣会釈義理経 ❷1巻 ❸存〈大正二〇・五二三No. 1123〉〈龍谷九〉卍二六・一〇〉明北1383経〈南1383経〉宋814三〈明南1189等〉三十帖策子字号一九〉Nj. 1390 ❹法天等(唐開元一大曹九A. D. 705—774)訳

❻金剛頂瑜伽理趣経釈の下を見よ。

理趣会釈義理経 ❶(日)Ri-shu-e-man-da-ra. ❷1帖 ❸存 ❺安元三年(A. D. 1177) ❻(宗教図録)

理趣会釈義理経 ❶(日)Ri-shu-e-man-da-ra-utsushi. ❷1面 ❸存 ❺明治 ❻(谷大〈宗・一三七〉)

理趣経開蒙 ❶(日)Ri-shu-kai-zō-ketsu. ❹(参考) 各説書

理趣経 ❶(日)Ri-shu-kyō. (支) Li-ch'ü-ching. 大乗金剛頂経理趣般若経、金剛頂経理趣般若経、大乗金剛頂経理趣般若経、大乗金剛頂経理趣般若経、大乗